

2024年度 政治経済学部 シラバス 2

School of Political Science and Economics

授業概要



明治大学

科目ナンバー：(PE) PHL111J	
哲学概論	2 単位
	1・2 年次
教授 柴 崎 文 一	
授業の概要・到達目標 ソクラテス以前の古代ギリシア哲学から説き起こし、ヘラクレイトスを経てアリストテレスへと受け継がれて行く「ロゴスの探求」を、今日の学問体系との関連性を視野に入れた概説することがこの授業における一つの目的です。伝統的な哲学では、「相対と絶対」「内在と超越」「主観と客観」「意識と存在」等の概念が、極めて厳格な規定の下に使用されます。しかし私たちの日常的言語使用において、これらの概念は必ずしも明確な規定の下に使用されているとは言えません。言い換えれば、これらの概念を明確に理解した上で使用している人は、それほど多くはないのです。一般に、哲学的文献が難しいとされることの原因は、哲学的議論において極めて重要な役割をはたしているこれらの概念に対する理解が不十分なことにいる場合が多いと言えます。この授業では、哲学を理解する上で欠くことのできないこれらの概念に関し、上述の内容に則しつつ解説して行くことにより、哲学ばかりでなく、政治学や経済学の古典を読解するための基礎知識の形成にも資するものとしたいと考えています。 また、古代ギリシアに始まる世界の原理としてのロゴスの探求は、19世紀ドイツの哲学者ヘーゲルによって一つの完成形が示されることとなります。ヘーゲル以降、現代へとつながる哲学的探求の潮流は、ヘーゲル的な思弁の哲学を踏襲するにしても、またはヘーゲル的な観念論を否定するにしても、ヘーゲル哲学を強く意識した上に展開されています。この意味で、ヘーゲル哲学の理解は、西洋哲学の本質的特徴を理解する上で、欠くことのできない課題だと言えます。このような意味から、この授業では、ヘーゲル哲学の解説も重要なテーマの一つとしています。	
授業内容 下記の各テーマに則して、哲学的概念の概説を行います。 第1回 イントロダクション：古代ギリシアの文明と哲学 第2回 「万物の原理」をめぐる思索 第3回 クレスと自然の原理 第4回 アナクシマン드로スと「無限」 第5回 アナクシメネスと霊性的原理 第6回 ロゴスの哲学：ヘラクレイトスとアリストテレス 第7回 「見る」こと：自然科学の本質 第8回 倫理と宗教の本質的差異 第9回 マイケル・サンデルのコミュニタリアニズム 第10回 自己意識と精神：ヘーゲル哲学 1 第11回 精神の概念：ヘーゲル哲学 2 第12回 精神における否定：ヘーゲル哲学 3 第13回 存在と無：バルメニデス 第14回 現存在と実存：ハイデガー (講義内容は、授業の進行状況等により変更する場合があります。)	
履修の注意点	
準備学習の内容 哲学的な概念は、日常的な意味とは必ずしも一致しないものが多いため、毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。	
教科書 『哲学・倫理学資料集 第4版』柴崎文一編著（デザインエッグ社）	
参考書 『アメリカ自然思想の源流』柴崎文一著（明治大学出版会）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回授業中に、Google フォームを利用したリアクションペーパーの提出が課されます。リアクションペーパーの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポートが60%の評価となっており、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションペーパー及び期末レポートの提出に1度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。	
その他 【欠席届について】 病気、事故などにより授業を欠席した場合は、「欠席届」をPDFファイルで作成し、学期末の指定期間内に一括して提出してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。 【在宅受講特別配慮によるオンライン受講について】 在宅受講特別配慮者の受講状態は教室から確認できないため、該当者には、毎回当日中に授業の概要をまとめた小レポート（700字以上800字以内）を提出してもらいます。小レポートの評価は、対面授業出席者のリアクションペーパーと同様です。なお、レポートに剽窃等の不正が認められた場合は、当該科目の評価を「不可F」とします。	

科目ナンバー：(PE) PHL111J	
哲学概論	2 単位
	1・2 年次
兼任講師(営) 宇田川 尚 人	
授業の概要・到達目標 <授業の概要> 「私」「他者」「心」「現実」。多くの場合、日常生活を支えているこれら最も重要な概念は、その意味の妥当性・正当性・根拠等が曖昧で問われることはない。だが、哲学という学問は、この通常「当たり前」と思っている事柄、「当然のこと」としてあまり深く考えずにすましている事柄に対して、徹底的に「なぜ」と問いかけ、それらの問いや自分自身についての理解を深めてゆく学問である。「常識」の中で手垢つき鮮度が失われた「日常性」を越えて、「思考」を研ぎ澄まし「論理」を積み上げてゆくことで開かれてくる哲学の世界を示したい。 (到達目標) 最終目標は、1) 受講者一人一人が、氾濫する情報と多様化する価値観の中で、(単なるトレンドに終わることのない) 真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解く能力を獲得すること、および2) いかなる状況においても、自己と世界との関係を冷静に分析する論理能力を習得することにある。ただし、半期という時間の制約があるので、実質的な目標は、講義で紹介される思想の論理構造の解明やその有効射程距離の検証を各自が追体験・追思考すること、またそうした思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係論理的に分析し考察する、いわば思索の(コツ)を身につけることとしたい。	
授業内容 第1回目 哲学とは何か? --- 現代思想の問題提起 Heideggerの自我論 第2回目 交換可能な私? (私なんて、いてもいなくても世界は変わらない?) 第3回目 私 --- その非本来的自己と本来的自己--- 第4回目 私の「唯一性」を保障するのは時間性か? Binswangerと精神分析 第5回目 時間性と心の病 (うつ病の時間性と双極性障害の時間性) 第6回目 「自明性」の喪失 (当たり前ってどういうこと、なぜ当たり前なの?) Levinasの他者論 第7回目 「同一」の暴力 (皆と同じ、皆に合わせなくちゃ! って、息ができない!) 第8回目 感情移入と同型性に基づく他者理解の限界 第9回目 自-他者の「非対称性」と真の他者への責任 Lacanの欲望論 第10回目 欲望とは他者の欲望である? (私はみんなが欲しいものが欲しい!) 第11回目 言葉は「もの」の殺害者である。「もの」の喪失と欲望における「対象a」の発生 第12回目 心の在処を求めて… (すべてが脳から始まるが、心は脳に還元できない?) 第13回目 無意識の欲望、欲望の「プロトタイプ」と文化 (まだ足りない、もっと、もっと、もっと!) まとめ 第14回目 それでも「私」と「世界」は・・・	
履修の注意点 毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるため、その旨注意すること。 (特にLacanは超難解) その他の注意点は初回に述べる。	
準備学習の内容 配布資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、 3) 配布資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。	
教科書 教科書は使用しない。 プリントを必要に応じて、Web (Oh-oi Meiji) 上にUPする。 紙媒体で授業中に配布する場合もある。	
参考書 千葉雅也 著「現代思想入門」講談社現代新書 竹田青嗣 著「ハイデガー入門」講談社選書メチエ 熊野純彦 著「レヴィナス入門」ちくま新書 片岡一竹 著「疾風怒濤 精神分析入門」誠信書房 斎藤 環 著「生き延びるためのラカン」ちくま文庫 新宮一成 著「ラカンの精神分析」講談社現代新書 その他の参考文献は授業の中で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回のMS Formsでの課題 (またはリアクションペーパー) (30%) と学期末のレポートか試験 (70%) で成績を評価する。 試験かレポートかは学生の希望を重視するが、受講者人数が100人以上になった場合は試験とする可能性が高い。 3分の2以上の授業への参加と課題の提出を学期末レポート提出または期末試験受験の最低条件とする。 * MS Formsでの課題 (またはリアクションペーパー) は単なる出席表ではないので、書かれた内容の理解度、適切な質問等の度合いに応じて、-2~+2点の間で平常点として加点してゆく。 * レポートまたは試験いずれでも50点以下は不可とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) PHL111J	
哲学史	2 単位
	1・2 年次
教授 柴 崎 文 一	
授業の概要・到達目標 古代ギリシアから現代に至る哲学の歴史を概観します。とりわけ中世以降の西洋哲学における精神的基盤としてのキリスト教について詳解します。中世以後の西洋哲学を理解する上で、キリスト教の理解は不可欠です。しかしキリスト教文化圏ではない日本において、キリスト教の内容を正確に理解している人は多くはありません。この授業では、特に『聖書』の内容を詳しく検討することによって、キリスト教の理解を深めることを重要な目的としています。 加えて、中世から近・現代に至る哲学の歴史を概観します。17世紀のデカルトから始まる近代合理主義の哲学は、「我思う、故に我あり」という立言によって、神の実在によらない近代的自我の確立を高らかに宣言しました。しかし、デカルトに始まる近代的自我の探究は、その後、カントの認識論やフィヒテの自我論を経て、ヘーゲルによる自己意識の展開へと受け継がれ、その本質を絶対精神（絶対者）として捉える、言わば「近代化したキリスト教神学」の様相を呈するものになって行きました。これに真っ向から異を唱えたのが、ニーチェのニヒリズムに他なりません。 この授業では、こうした哲学の歴史を概観するとともに、その現代的意義についても言及したいと考えています。また抽象的な解説に終始することなく、哲学や宗教に関連する様々な芸術や映画なども紹介し、文化論的な要素を多く取り入れた講義にしていくつもりです。	
授業内容 以下の各テーマに則して、西洋哲学における思索の歴史を概説します。 第1回 イントロダクション：「哲学」のルーツ 第2回 ソクラテス以前の哲学 第3回 ギリシア盛期の哲学 第4回 『旧約聖書』の世界I：言葉と創造 第5回 『旧約聖書』の世界II：宗教と倫理 第6回 『旧約聖書』の世界III：インマヌエル預言 第7回 『新約聖書』の世界I：受胎告知 第8回 『新約聖書』の世界II：洗礼者ヨハネとイエス 第9回 『新約聖書』の世界III：ロゴスの邂逅 第10回 ヘレニズム思想と新プラトン主義 第11回 キリスト教神学と中世哲学 第12回 近代理性の哲学 第13回 観念論の系譜 第14回 ニーチェとニヒリズム (講義内容は、授業の進行状況等により変更する場合があります。)	
履修の注意点 毎回出席し、集中して聴いていないとつゆけなくなる可能性があるため、その旨注意すること。 (特にKantとドイツ観念論は超難解!) その他の注意点は初回に述べる。	
準備学習の内容 哲学的な概念は、日常的な意味とは必ずしも一致しないものが多いため、毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。	
教科書 『哲学・倫理学資料集 第4版』柴崎文一編著 (デザインエック社)	
参考書 授業中に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回授業中に、Googleフォームを利用したリアクションペーパーの提出が課されます。リアクションペーパーの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポートが60%の評価となっており、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションペーパー及び期末レポートの提出に1度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。	
その他 【欠席について】 病気、事故などにより授業を欠席した場合は、「欠席届」をPDFファイルで作成し、学期末の指定期間内に一括して提出してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。 【在宅受講特別配慮によるオンライン受講について】 在宅受講特別配慮者の受講状態は教室から確認できないため、該当者には、毎回当日中に授業の概要をまとめた小レポート(700字以上800字以内)を提出してもらいます。小レポートの評価は、対面授業出席者のリアクションペーパーと同様です。なお、レポートに剽窃等の不正が認められた場合は、当該科目の評価を「不可F」とします。	

科目ナンバー：(PE) PHL111J	
哲学史	2 単位
	1・2 年次
兼任講師(営) 宇田川 尚 人	
授業の概要・到達目標 <授業の概要> 現代社会において思想史を学ぶことは、多様化する情報と価値の海のただ中で、自らの来し方・行く先を指し示す(羅針盤)のひとつを手に入れることを意味する。テクノロジーのフラット化や世界のグローバリズム志向、それらに対置され孤立化する個人のアイデンティティクライシス、リアリティなき自分探しゲーム等。現代日本および世界が抱える様々な社会現象の光と影、それらすべてを貫いて、あらゆる時代から、哲学は常に「人間とは何か」という問いを発し続ける。 <到達目標> 最終目標は、1)受講者一人一人が、氾濫する情報と多様化する価値観の中で、(単なるトレンドに終わることのない)真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解く能力を獲得すること、および2)いかなる状況においても、自己と世界との関係を冷静に分析する論理能力を習得することにある。ただし、半期という時間の制約があるので、実質的な目標は、講義で紹介される思想の論理構造の解明やその有効射程距離の検証を各自が追思考すること、またそうした思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を論理的に分析し考察する、いわば思索の(コツ)を身につけることとしたい。	
授業内容 以下の内容は暫定案の為変更することもあり得る。詳細は講義初回に説明する。 第1回目 古代 アイデア論 原理への問い (Platon~Aristoteles) 第2回目 中世 真・善・美 超越への問い (Augustinus~Occam) 第3回目 近代 人間による自己と世界の基礎づけ 第4回目 自己意識の確立と懐疑への問い (Descartes) 第5回目 心身二元論と人間機械論 (Descartes) 第6回目 大陸合理論の思想 (Spinoza~Leibniz) 第7回目 イギリス経験論の思想 (Locke~Hume) 第8回目 (まとめ) 合理論 vs 経験論 心はどこに存在するのか? 悪とは何か? 自由意志は幻想か? 第9回目 Kantの超越論哲学 (Kant) 『純粹理性批判』 第10回目 自己意識と世界の基礎づけ (Kant) 『純粹理性批判』(難解) 第11回目 根源悪と人格形成論のゆくえ (Kant) 『実践理性批判』 第12回目 ドイツ観念論 知の深淵への問い (Fichte ~ Shelling) (難解) 第13回目 ドイツ観念論 交差する個と普遍 (Hegel) 第14回目 ニヒリズム 絶対的な価値の崩壊 (Nietzsche) * 毎回の課題に対するFeedbackに時間を要する場合や学生の理解度が不足していると思われる場合は、Kantまでの解説を増やし、ドイツ観念論以降の解説を減らす可能性がある。 * 現代哲学に関しては、政経学部 拙講「哲学概論」の方で集約的に解説する。	
履修の注意点 毎回出席し、集中して聴いていないとつゆけなくなる可能性があるため、その旨注意すること。 (特にKantとドイツ観念論は超難解!) その他の注意点は初回に述べる。	
準備学習の内容 配布資料はざっと読んでいただけはわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、 3) 配布資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。	
教科書 教科書は使用しない。 プリントを必要に応じて、Web (Oh-ol Meiji) 上にUPする。 紙媒体で授業中に配布する場合もある。	
参考書 参考文献は授業の中で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回のMS Formsでの課題(またはリアクションペーパー)(30%)と学期末のレポートか試験(70%)で成績を評価する。 試験かレポートかは学生の希望を重視するが、受講者人数が100人以上になった場合は試験とする可能性が高い。またonline授業になった場合は自動的にレポートとする。 3分の2以上の授業への参加と課題の提出をレポート提出および期末試験受験の 最低条件 とする。 * MS Formsでの課題(またはリアクションペーパー)は単なる出席表ではない。 書かれた内容の理解度、適切な質問等の度合いに応じて、-2~+2点の間で平常点として加点または減点してゆく。 * レポートまたは試験いずれでも50点以下は不可とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) PHL191J	
基礎論理学	2単位
	1・2年次
教授 柴 崎 文 一	
授業の概要・到達目標 今、ポケットの中に十円玉が五枚あって、そこから一枚を取り出せば、それは十円玉に決まっています。このようにあらかじめ定められた前提から、矛盾なく結論を導き出す考え方を演繹法と言います。この一見、極めて単純な演繹法の論理こそ、あらゆる学問的な営みの基盤なのです。ここには間違いや例外の余地がありません。つまりこの論理には一貫性と必然性が保障されているのです。 いかなる学問においても、「説明」や「論証」という要素を含まないものは存在しません。そして、ある事柄についての「説明」の中で、ある時の説明と別の時の説明が異なっていたら、それは妥当な説明とはみなされません。また、ある「論証」の中で、ある前提から、その度ごとに異なった結論を出していたら、それも妥当な論証とはみなされません。このように、学問的な説明や論証には、つねに一貫性や必然性という論理的な性質が要求されるのですが、このような性質をもった典型的な論理形式こそが、演繹法というものに他ならないのです。この授業では、以下のようなスケジュールで、演繹法の様々な性質について解説を行い、学生諸君の基礎的な論理能力の向上に資したいと考えています。	
授業内容 第1回 インTRODクッション：演繹法と帰納法 第2回 論証と推論 第3回 妥当性 第4回 条件的立言と条件的論証 第5回 背理法 第6回 ジレンマ 第7回 真理値表と妥当性 第8回 論理的等値 第9回 トートロジー 第10回 パラドックス 第11回 定言的三段論法 第12回 ヴェンの図式とクラス論理学 第13回 関係の論理学 第14回 限量記号 (講義内容は、授業の進行状況等に応じて変更する場合があります。)	
履修の注意点	
準備学習の内容 論理学は、特殊な用語によって多くの規則が規定されているため、独習が難しい分野です。毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。	
教科書 『演繹法の論理ノート～サモン論理学準拠～ 第3版』柴崎文一著（デザインエッグ社）	
参考書 『論理学』W.C.サモン著（培風館）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回授業中に、Googleフォームを利用したリアクションペーパーの提出が課されます。リアクションペーパーの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポートが60%の評価となっており、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションペーパー及び期末レポートの提出に1度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。	
その他 【欠席届について】 病気、事故などにより授業を欠席した場合は、「欠席届」をPDFファイルで作成し、学期末の指定期間内に一括して提出してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。 【在宅受講特別配慮によるオンライン受講について】 在宅受講特別配慮者の受講状態は教室から確認できないため、該当者には、毎回当日中に授業の概要をまとめた小レポート（700字以上800字以内）を提出してもらいます。小レポートの評価は、対面授業出席者のリアクションペーパーと同様です。なお、レポートに剽窃等の不正が認められた場合は、当該科目の評価を「不可F」とします。	

科目ナンバー：(PE) PHL191J	
基礎論理学	2単位
	1・2年次
兼任講師(商) 金子裕介	
授業の概要・到達目標 現代における演繹の形式化である記号論理学を、基本からゆっくり学んでいきます。ゲンツェンという数学者の考えた自然演繹を習得します。これは優れた（唯一無二の）論理学の体系で、これを学ぶことが論理学を学ぶことだと受け止めてくれて構いません。記号を煩雑に感じるかもしれませんが、知識ゼロからでもわかるようにお伝えするので安心してください。 今年は、とにかく演習、演習・・・とエキサイティングなサイズをたくさんやって、問題が解けるようになってもらいたいです。 些末な（高度な）論理学の話題は脇に置きたいと思います。 数学が苦手でも問題ないので、どんなレベルの質問でも、自由を持って来てください。	
授業内容 第1回：講義の進め方。教科書の使い方。命題論理の記号を学ぶ。 第2回：命題論理の文法：記号の読み方、使い方。 第3回：命題論理の証明：連言 第4回：命題論理の証明：選言 第5回：命題論理の証明：条件法 第6回：命題論理の証明：否定 第7回：述語論理の文法：一項述語と量詞 第8回：述語論理の文法：二項述語と多重量詞 第9回：述語論理の証明：全称例化 第10回：述語論理の証明：存在汎化 第11回：述語論理の証明：全称汎化 第12回：述語論理の証明：存在例化 第13回：述語論理の証明：総合問題 第14回：述語論理の証明：総合問題 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 教科書を2冊使います。 「冊」といってもアプリを使って読む電子的なもので、スマートフォンにインストールしていただければ結構です（タブレットやPCでも可）。詳しくは講義1回目に説明します。	
準備学習の内容 教科書の「どこに」何が書いてあるのかを把握してください。 テストは持ち込み可にしますので、知識の引き出しにアクセスできるようにしておくことが、そのまま論理学の習得につながります。	
教科書 以下2つの教科書を使います。 『記号論理入門【命題論理】編』（仮題：3月ごろ出版予定）1,250円Kindle 『記号論理入門【述語論理】編』（仮題：3月ごろ出版予定）1,250円Kindle 出版後などの連絡の詳細はOh-oMeijiを通じて連絡させていただきます（早めに「質問コーナー」もOh-oMeiji内に立ち上げます）。 共に電子的なものです。AmazonのKindleアプリをスマートフォン等にインストールして、そこと購読をお願いします。 講義中も、それを使って参照します。 出版後、受講者の方にOh-oMeijiを使って連絡させていただきます。 クレジットカードをお持ちでない（などの理由でAmazonを利用できない）方はAmazonギフトカードを最寄りのコンビニで購入し、ご利用ください。このやり方がわからない人の相談も講義開始前に受け付けます（Oh-oMeijiに年度初めに質問コーナーを作ります）。	
参考書 以下2冊①②が問題集になります（教科書ではありませんので購入必須ではありません）。 ①記号論理精選問題集【命題論理】編 Kindle, 1250円 https://www.amazon.co.jp/dp/B0C9N347CV ②記号論理精選問題集【述語論理】編 Kindle, 1250円 https://www.amazon.co.jp/dp/B0CBSC72X8 下記③は教科書の元になった「紙書籍」です。 ③文系のための記号論理入門—命題論理から不完全性定理まで、朝倉書店、3,520円 ISBN-10：4254500343 ISBN-13：978-4254500349	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-oMeijiに質問コーナーを立ち上げますので、そこに自由に質問を書き込んでください。 講義前後の質問でもOKです。	
成績評価の方法 期末試験で評価決定します。 テストは、教科書は必須、その他全部持ち込み可にしますので、知識の引き出しにアクセスできるようにしておいてください。 テスト内容は「腕試し、チャレンジ」という趣旨のものですが、決して高いハードルを設けるものではありません。 出席は取りません。 しかし、もちろん「来なくてよい」「勉強しないでよい」という意味ではありません。	
その他 耳学問でもよいので、毎回自分で講義に出て話を聞いておくことが、最終的には近道になります。	

科目ナンバー：(PE) PHL191J	
応用論理学概論【2022年度以降入学者】	2単位
論理学概論【2021年度以前入学者】	1・2年次
教授 柴 崎 文 一	
授業の概要・到達目標 この授業の目的は、政治学や経済学などの社会科学を含めた、全ての科学的な学問の営みにおいて、論理的な思考がどのように応用されているのかを解説することです。論理的問題の高度な応用領域を扱うものではありません。与えられた前提から、一歩も外に踏み出すことなく結論を出す論理形式を演繹法と言います。演繹法は、説明や論証の論理形式としては重要ですが、このような考え方から科学は生まれません。科学は、実験や観察といった人間の不完全な経験の上に成立しています。有限で不完全な経験から、一般的な原理や法則性を導き出す考え方を帰納法と言います。だから帰納法はいつでも間違える可能性をもっているのです。しかし、間違える可能性があるからこそ、科学の世界には、新しい発見や進歩の可能性があると云えます。逆に、間違いない世界は、完成した世界であって、そこにはさらに進歩する余地など残されてはいないのです。ここに言う科学は、自然科学のことばかりではありません。社会科学も、社会的現象についての科学研究の営みであって、学問としての基本的形式は、自然科学と同じです。それゆえ帰納法は、経済学や政治学といった社会科学においても、根本的な論理形式に他ならないのです。この授業では、以下のようなスケジュールで帰納法の様々な性質について解説し、社会科学を研究する学生諸君に、各自の研究領域に関する根本的な認識を深めてもらうことを目指しています。	
授業内容 第1回 イントロダクション：科学の論理 第2回 演繹と帰納 第3回 数学による帰納と不十分な統計 第4回 少数例の問題：脳死と臓器移植 第5回 かたよった統計 第6回 権威に基づく論証と人身攻撃に基づく論証 第7回 類推 第8回 因果関係に基づく論証 第9回 ミルの方法 第10回 因果関係に関する虚偽 第11回 仮説 第12回 帰納法の根本問題 第13回 科学的説明の論理 第14回 科学的実在論と反実在論 (講義内容は、授業の進行状況等に応じて変更することがあります。)	
履修の注意点	
準備学習の内容 論理学は、特殊な用語によって多くの規則が規定されているため、独習が難しい分野です。毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。	
教科書 『帰納法と科学の論理ノート ～サモン論理学準拠～ 第2版』柴崎文一著 (デザインエッグ社)	
参考書 『論理学』W. C.サモン著 (培風館) 『科学哲学の冒険』戸田山和久著 (NHK ブックス)	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回授業中に、Googleフォームを利用したリアクションペーパーの提出が課されます。リアクションペーパーの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポートが60%の評価となり、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションペーパー及び期末レポートの提出に1度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。	
その他 【欠席について】 病気、事故などにより授業を欠席した場合は、「欠席届」をPDFファイルで作成し、学期末の指定期間内に一括して提出してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。 【在宅受講特別配慮によるオンライン受講について】 在宅受講特別配慮者の受講状態は教室から確認できないため、該当者には、毎回当日中に授業の概要をまとめた小レポート (700字以上800字以内) を提出してもらいます。小レポートの評価は、対面授業出席者のリアクションペーパーと同様です。なお、レポートに剽窃等の不正が認められた場合は、当該科目の評価を「不可F」とします。	

科目ナンバー：(PE) HIS171J	
応用論理学概論【2022年度以降入学者】	2単位
論理学概論【2021年度以前入学者】	1・2年次
兼任講師(商) 金子裕介	
授業の概要・到達目標 確率の話をするとなんさんの興味が集まる「条件付き確率」から説き起こして、確率の論理的な解明をしてゆきます。学術的にはルドルフカルナップという哲学者の考えた「論理説」という確率の立場の展開になります (もちろん、この背景を知っておく必要はありません)。高校では集合を使って確率を習ったと思いますが、記号論理を使うことによって、より明晰に確率の問題を解くことができます。それを習得してもらいます。春学期で習った記号論理の知識は使いますが、1回目の講義で復習しますので、秋学期から参加の人でも大丈夫です。扱う確率の問題は、高校数学中～上級になります。問題も、一度は見えないようなものです。高校の時、集合の考え方でイマイチしっくり来なかったところに、論理の力でメスを入れてゆきます。	
授業内容 第1回：講義の進め方、教科書の使い方。事態の表記法。 第2回：事態の表記法につき 第3回：樹形図の描き方 第4回：樹形図を使って問題を解く 第5回：条件付き確率 第6回：条件付き確率の問題を解く 第7回：なぜ「玉に直接名前を付ける樹形図」ではないのか？根元事象とは何か。 第8回：根元事象に関する考察につき 第9回：非復元抽出の穴へ。(反復試行、復元抽出)。統計の視点が生まれる時。 第10回：偽装した条件付き確率 第11回：独立事象 第12回：矢印付き樹形図 第13回：ベイズの定理 第14回：総合問題 ※講義内容は流れによって前後することがありますが上記内容をカバーするものとなります。	
履修の注意点 数学的な図や式を多用するので、手書きの板書ではフォローし切れないところがあります。正書されたものとして教科書は必須になります。必ず参照しながら受講してください。問題は、当然解説しますが、なによりも自分の力で解くことが重要だと思ってください。確率についての新たな見方が獲得できると思ってください。	
準備学習の内容 教科書を必ず読んでください。教科書=問題集でもありますので、そこにある問題を必ず解けるようになってもらいます。	
教科書 下記の2つを教科書として使用します。 確率問題集Ⅰ：基礎編『確率の哲学』補填 Kindle, 1250円 https://www.amazon.co.jp/dp/BOCNYQC3QH 確率問題集Ⅱ：応用編『確率の哲学』補填 Kindle版, 1250円 https://www.amazon.co.jp/dp/BOCR2WZDMD 共に電子的なものです。AmazonのKindleアプリをスマートフォン等にインストールして、そこでご購入をお願いします。講義中も、それを使って参照します。 出版後、受講者の方にOh-oMeijiを使って連絡させていただきます。 クレジットカードをお持ちでない (などの理由でAmazonを利用できない) 方はAmazonギフトカードを最寄りのコンビニで購入し、ご利用ください。このやり方がわからない人の相談も講義開始前に受け付けます (Oh-oMeijiに年度初めに質問コーナーを作ります)。	
参考書 もし講義を聞き逃した方にはフォローとして下記拙著①②③を読み話の内容を理解してもらいたいともいいます。 ①条件付き確率とはなにか『確率の哲学』補填 Kindle, 420円 https://www.amazon.co.jp/dp/BOCHS8Q4CB ②樹形図の描き方・考え方『確率の哲学』補填 Kindle, 420円 https://www.amazon.co.jp/dp/BOCJRGXWVP ③独立事象と帰納法『確率の哲学』補填 Kindle, 420円 https://www.amazon.co.jp/dp/BOCMP9QMLD 教科書も参考書も『確率の哲学』補填と名づけられていますが、それにあたる紙書籍が以下になります。 ④確率の哲学-因果論思考から帰納論へ、森北出版, 3850円 https://www.amazon.co.jp/dp/B000000000	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-oMeijiに「質問コーナー」を立ち上げますので、そこに質問を書いてくれればいいですし、講義前後に質問してくれても結構です。	
成績評価の方法 学期末のテストで成績を決定します。 試験内容は「面試し、チャレンジ」を趣旨とするものですが、決して「落とす」ためのものではありません。しっかり準備して、がんばってくれば大乗です (お情けをかける、という意味とは少し違いますので誤解しないで下さい)。教科書必須、ほか全部持ち込み可です。出席は取りません。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HIS171J	
歴史学	4単位
	1・2年次
兼任講師 山崎 信一	
授業の概要・到達目標 ヨーロッパにおける「辺境」と位置付けられ、また20世紀末に紛争に見舞われたバルカン地域の諸事例を中心に取り上げる。紛争の背景、紛争後の社会の再構築の試みなどを材料に、比較の視点を交えながら、ヨーロッパの現代史を多様な視角から分析することを試みる。また、音楽、映画、スポーツなどの大衆文化を題材にしなが、バルカン地域はじめヨーロッパに暮らす人々の生活や意識がどのように変容してきたのかにも焦点を当てる。 現代における国民国家の変容と動揺と、我々の生きる現代世界の成り立ちの一端を理解することを到達目標とする。	
授業内容 第1回 イントロダクション：講義の全体像の提示 第2回 西ヨーロッパと東ヨーロッパ 第3回 バルカンとはいかなる地域か 第4回 多民族社会の典型としてのボスニア 第5回 バルカン地域とそこに暮らす人々（1） 第6回 バルカン地域とそこに暮らす人々（2） 第7回 バルカン地域とそこに暮らす人々（3） 第8回 バルカン地域とそこに暮らす人々（4） 第9回 ユーゴスラヴィア紛争とその背景 第10回 ユーゴスラヴィア紛争の過程（1） 第11回 ユーゴスラヴィア紛争の過程（2） 第12回 「民族浄化」をめぐる 第13回 紛争の責任追及とその限界（1） 第14回 紛争の責任追及とその限界（2） 第15回 紛争後社会の再構築に向けて 第16回 バルカン諸国の歴史教育と「国民史」（1） 第17回 バルカン諸国の歴史教育と「国民史」（2） 第18回 「国民史」を超える歴史教育の試み（1） 第19回 「国民史」を超える歴史教育の試み（2） 第20回 現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（1） 第21回 現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（2） 第22回 現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（3） 第23回 現代社会と大衆音楽:ユーゴスラヴィアの事例から（4） 第24回 「紛争」とその表象:映画とユーゴスラヴィア紛争（1） 第25回 「紛争」とその表象:映画とユーゴスラヴィア紛争（2） 第26回 スポーツとナショナリズム 第27回 近現代バルカンにおける人の移動 第28回 講義のまとめ	
履修の注意点 講義で取り上げる事例が、現代に生きる我々と繋っているという意識を持ち、日々のニュースなどにも関心を払うことが望ましい。	
準備学習の内容 各回の授業内容を振り返り、関心を持ったテーマに関しては参考文献などにあたること。また、次回の授業内容について簡単に調べておくことが望ましい。	
教科書 指定しない。	
参考書 柴宜弘編『バルカン史』（山川出版社、1998年） 佐原徹哉『ボスニア内戦』（有志舎、2008年） 柴宜弘他編『東欧地域研究の現在』（山川出版社、2012年） 小澤卓也他編著『教養のための現代史入門』（ミネルヴァ書房、2015年） その他、必要に応じて適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 課題提出の次の授業の冒頭で説明、質問への回答を行う。	
成績評価の方法 毎授業時のコメントシートを中心とする授業への参加度50%、学期末の定期試験50%。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) HIS171J	
歴史学	4単位
	1・2年次
教授 佐原 徹 哉	
授業の概要・到達目標 本講義は近代以降の侵略・植民地主義・強制移住・強制同化・ジェノサイドなどの大規模かつ極端な暴力の諸形態を分析することで、モダニティと暴力の内在的関係を解明することを中心的なテーマとしている。講義は、15世紀末以降のヨーロッパの対外進出を契機とする先住民虐殺に始まって、植民地主義、帝国主義、民族主義の形態をとった組織化された暴力の一般的諸類型、更に、ナチズム、スターリニズム、毛沢東主義といった特殊な政治形態に付随する暴力の特質を分析した後、ルワンダ・ジェノサイド事件などのポスト・モダニズム型暴力を検討する。これによって、近代的暴力についての基本的知識を身につけることを目標とする。	
授業内容 第1回目 モダニティの矛盾に関する数量的分析 第2回目 現代的紛争の傾向と特質 第3回目 植民地主義と先住民虐殺 第4回目 南米における先住民虐殺 第5回目 北米における先住民虐殺 第6回目 アフリカ分割とジェノサイド 第7回目 前近代の反ユダヤ主義 第8回目 ドレフュス事件 第9回目 帝政ロシアのボグロム 第10回目 ボグロムと資本主義 第11回目 人種主義 第12回目 ナチズムと人種主義 第13回目 ナチスと上からの反ユダヤ主義 第14回目 ホロコースト 第15回目 十月革命 第16回目 ポリシェヴィキと権力装置 第17回目 スターリン時代 第18回目 大テロル 第19回目 中国革命と毛沢東 第20回目 文化大革命 第21回目 アメリカ合衆国と新植民地主義 第22回目 ベトナム戦争 第23回目 ポスト・コロニアル国家と政治的暴力 第24回目 ルワンダ・ジェノサイド 第25回目 反植民地主義とイスラム復興 第26回目 サラフィ・ジハード主義 第27回目 新しい戦争の諸類型 第28回目 総括	
履修の注意点 授業はパワーポイントを用いて行うため、通常の講義よりも情報量が多くなる。講義の概要はクラス・ウェブ上の「歴史学」の「資料」にワード・ファイルの形式でアップされるので、授業前にハード・コピーを作成しておくことよい。また、授業ではスライド・映像等を用いた説明を加えるが、講義のテーマの性格上、残虐と感ぜられるものも含まれるので、あらかじめ心の準備をしておくこと。なお、映像資料は、海外のドキュメンタリーをもとにしているため、日本語字幕はない。	
準備学習の内容 授業で指示する	
教科書 なし	
参考書 参考文献を授業中に指示する	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 定期試験の結果で成績評価を行う	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4 単位
	1～4 年次
教授 植 田 麦	
授業の概要・到達目標 この授業では、「読むこと」「書くこと」を実習し、より充実した言語生活を送るための学習を行う。具体的には、語から文、そして文章のレベルでの能力向上をはかる。その上で、文章の読解と要約、資料の読み方・扱い方、論の構成の方法を学ぶ。 授業終了時には、大学生として必要とされる、適切な文章読解・論理構成・文章表現が可能となることを目指す。	
授業内容 第01回 インTRODクシヨN 第02回 表現のための準備運動 ——メールの書き方について—— 第03回 資料の扱い(1) ——引用と剽窃—— 第04回 実践・文章作成(1) ——自分の実力を確認する—— 第05回 言葉の研究(1) ——日常語とアカデミックワード(基礎編)—— 第06回 言葉の研究(2) ——日常語とアカデミックワード(応用編)—— 第07回 「悪文」の研究(1) ——ねじれた文を正しく直す—— 第08回 「悪文」の研究(2) ——長すぎる文に注意する—— 第09回 「悪文」の研究(3) ——多義文を知っていますか?—— 第10回 資料の扱い(2) ——インターネット・図書館を活用する—— 第11回 効果的な説明(1) ——「意見」と「事実」を混同しない—— 第12回 効果的な説明(2) ——全体→部分の順番で説明しよう—— 第13回 データを読む(1) ——データの「嘘」を見抜く—— 第14回 データを読む(2) ——データに基づいたレポート作成—— 第15回 データを読む(3) ——データからみる日本(貯蓄編)—— 第16回 データを読む(4) ——データからみる日本(収入編)—— 第17回 データを読む(5) ——調査型レポートの作成—— 第18回 研究発表 ——チームで発表をする—— 第19回 論理の構造(1) ——問題点をはっきりさせよう—— 第20回 論理の構造(2) ——論理をチャートで整理しよう—— 第21回 論理の構造(3) ——論理を文章化しよう—— 第22回 実践・文章作成(1) ——アブストラクトを書いてみよう—— 第23回 実践・文章作成(2) ——公務員試験を受けてみよう—— 第24回 「悪文」の研究(5) ——論理構成を念頭においた、悪文の校正(基礎編)—— 第25回 「悪文」の研究(6) ——論理構成を念頭においた、悪文の校正(応用編)—— 第26回 実践・文章作成(2) ——続・公務員試験を受けてみよう—— 第27回 実践・文章作成(3) ——あなたが試験官?試験をチェックしてみよう—— 第28回 実践・文章作成(4) ——続々・公務員試験を受けてみよう——	
履修の注意点 ・授業における実習に加え、課題を出すことがある。毎回の授業終了時に、次回の予習内容を指示する。 ・就職活動に関する欠席を公欠として扱うことはない。 ・チームでの発表を含めたグループワークを行う。	
準備学習の内容 ・予習内容：授業内で指示する。 ・復習内容：原則として、授業で出す課題等によって行うこと。	
教科書 ・毎回の授業で資料を配付する。配布資料は各自で整理し、毎回の授業時に持参すること。 ・初回から履修者数が確定するまでは、本システム(Oh-ol Meiji)のクラスウェブ機能を使用して、pdf形式で資料を配付する予定である。指示があるまでは、pdfをプリントアウトして持参すること。詳細は初回授業で説明する。	
参考書 ・『論文の教室—レポートから卒論まで』、戸田山和久、(NHKブックス) ・その他、授業中に紹介することがある。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 ・ミニレポート等による平常点と学期末レポートで評価する。 ・学期末レポート……100% ・ミニレポート未提出の場合は減点とする。 ・当然ではあるが、一定回数以上の欠席(課題未提出)は単位認定の対象としない。	
その他 ・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。 ・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4単位
	1～4年次
教授 池田 功	
授業の概要・到達目標 普段何気なく使っている日本語であるが、実は奥が深くて難しい。例えば、「とんでもございません」という言い方は間違いであるのに多くの人が使っているし、「気の置けない友人」と言われたら喜ぶべきなのに怒ってしまう人がいる等々である。こんな誤りやすい日本語の正しい使い方を学ぶと共に、日本語の歴史を学んだり、小論文の添削指導を通して日本語の豊かな表現者になることを目標とする。	
授業内容 次の3つの点から授業を進める。1、語彙力をつけるためのプリント学習。2、表現の哲学や、日本語の歴史等を学ぶ講義。3、小論文や条件作文等の添削指導。これらを具体的に示すと以下のようになる。 <ol style="list-style-type: none"> 1、プリント学習。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の誤用（流れに棹さすとは、時流に抵抗することではない等々）。 2. 特別な日本語の読み方（「七五三縄」「万年青」「言質をとる」等々）。 3. 敬語、悪文の訂正。 4. ことわざ、慣用表現。 5. 外来語の漢字表現。（「手風琴」「木乃伊」「混擬土」等々）。 6. 外国の漢字表現（「剣橋」「越南」「倫敦」等々）。 7. 十二支や年齢に関する常識問題（「還暦」「古稀」「米寿」等々）。 8. 漢字検定模擬試験。 9. 就職試験や公務員試験に出された問題等々である。 2、講義 <ol style="list-style-type: none"> 1. 霞ヶ関ことば、政治家の話術（言語明瞭意味不明の日本語）。 2. 世界の中の日本語（日本語の特徴とは）。 3. 日本語の歴史（五十音図等）。 4. 表現の哲学（説得力ある表現の原則とは）。 5. 国語国字問題史（ローマ字国字論、日本語廃止論等）。 6. 方言地理学（西日本と東日本の相違）。 7. 方言と共通語。 8. 手紙の書き方等々である。 3、実践的演習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 短文を書く。 2. 条件作文を書く。 3. 要約・要旨をまとめる。 4. 手紙文を書く。 5. 文章を読んで感想を書く。 6. 小論文を書く。 	
履修の注意点 6～7回ほどの作文（添削指導）があるので、安易な気持ちで履修しないほしい。毎回出席をとる。	
準備学習の内容 自分から進んで、日本語の新聞を読み、また日本語の書物を読むこと。その時、分からない言葉やことわざ、慣用句、四字熟語が出てきたら必ず辞書でひいて確認すること。さらにできれば音読をし、その要旨をまとめることが望ましい。 復習に関しては、毎回行う語彙等のプリントの確認をすることである。間違っただけをきちんと覚えることが必要である。また、添削指導された作文を自ら読み返し、どこを直したらもっと良くなるかの見直しをすること。	
教科書 特に使用しない。	
参考書 『岩波 日本語使い方考え方辞典』（岩波書店）、町田健『まちがいだらけの日本語文法』（講談社現代新書）、金谷武洋『日本語に主語はいらない』（講談社選書メチエ）、中村明『悪文一裏返し文章読本』（ちくま新書）、『日本人の知らない日本語』（株式会社メディアファクトリー）等多数ある。授業の度に紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回の授業への参加度、また6～7回ほどの提出物の評価、そして学期末の試験によって評価をする。 具体的には、授業への参加点10%、提出物40%、学期末の試験50%である。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4 単位
	1～4 年次
兼任講師 瀧 口 翠	
授業の概要・到達目標 大学で学ぶ上で必要な国語表現力として、論理的な文章表現の力をつけるための学習を行う。まずその土台として、正しく伝わる文を書くために注意すべきことを押さえ、また、言葉を正確に使う力を鍛える。その上で論説文の基本構造を学び、主張の論理性・妥当性を吟味する力を養う。 自己の考えを論理的に構築する技法を習得することを目標とする。	
授業内容 第1回目 インTRODakション 第2回目 身近な「おかしな文章」 第3回目 分かりやすい文を書く 第4回目 簡潔に書く 第5回目 正しく書く（1）文のねじれ 第6回目 正しく書く（2）間違えやすい言葉 第7回目 明確に書く（1）語順・構成 第8回目 明確に書く（2）多義文に注意 第9回目 様々な表現 第10回目 違和感を覚える表現 第11回目 悪文校正 第12回目 正しく伝わる文を書く 第13回目 アカデミックワードと日常語 基礎編 第14回目 アカデミックワードと日常語 応用編 第15回目 小論文の実際 第16回目 小論文を書く 第17回目 小論文講評 第18回目 論文・レポートの構成 第19回目 引用の方法 第20回目 要約の方法 第21回目 事実と意見 第22回目 調査型レポート（1）調査型論文を読む 第23回目 調査型レポート（2）データを集める 第24回目 調査型レポート（3）データを分析する 第25回目 調査型レポート（4）データ分析の結果を示す 第26回目 推敲する 第27回目 レポート講評 第28回目 正しく伝わる文章を書くために	
履修の注意点 9回（授業回数の1/3）以上欠席した者は単位を認めない。毎回の小課題の提出をもって出席とする。	
準備学習の内容 配布資料を読み、問題点を考える。 復習課題に取り組む。	
教科書 使用しない	
参考書 使用しない	
課題に対するフィードバックの方法 特に良いもの、共有すべき問題のあるものを授業内で紹介する。	
成績評価の方法 課題などによる平常点50% 期末レポート50%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4単位
	1～4年次
兼任講師 仲 瀬 志保美	
授業の概要・到達目標 大学生にもとめられるレポートとはどのようなものか。ことばの選び方、構成の仕方、テーマの絞り方、資料の扱い方など文章表現の基本的な知識を身につけ、自分の考えがより正確に相手に届く文章を書くことを意識していく。最終的には授業の内容を踏まえたレポートを作成することを目標とする。また、そのほか、基礎的な言語知識や手紙・メールの書き方についても基礎を学ぶ。	
授業内容 第1・2回 インTRODクシヨン・レポートとは何か 第3・4回 論点を決める 第5・6回 資料の選び方・図書館利用 第7・8回 パラグラフライティング・説明文を書く 第9・10回 構成を考える・アウトライン作成 第11・12回 書誌情報の示し方・アウトラインピア 第13・14回 引用のルール（社会科学編）・下書き（1回目）を書く 第15・16回 論証と反論・意見文を書く・下書き（1回目）ピア 第17・18回 引用のルール（人文科学編・Web情報）・文体を学ぶ 第19・20回 悪文・下書き（2回目）を書く 第21・22回 接続詞・下書き（2回目）ピア 第23・24回 要約・敬語基礎編 第25・26回 敬語応用編・メール 第27・28回 手紙・レポート相互評価 ＊履修人数そのほかの状況によりシラバスを変更する場合がある	
履修の注意点 ・2コマ連続の授業なので、最初から出席をすること。 ・課題の締め切りは守ること。 ・授業で説明したことをもとに課題を作成する。したがって受け身の姿勢ではなく、積極的に授業に取り組むことが求められる。 ・それぞれの授業内容を個別の知識としてとらえるのではなく、相互に関係させ、積み上げていくことが必要である。当然、課題もそれまでの学習を踏まえたものであること。 ・グループに分かれて課題に取り組む場合や、ペアになってお互いの課題を検討する ・Oh-o! Meijiを通じて授業に関する連絡をすることもあるので、確認する習慣をつけておくこと。	
準備学習の内容 ・配布プリント及び、返却課題を見直し、次回の課題に生かせるようにすること。 ・レポート作成に向けて、テーマに沿った論文を各読んでおくこと。	
教科書 プリン配布配布	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 提出課題は授業内に解説、あるいはコメントをつけて返却する	
成績評価の方法 課題60% レポート30% 平常点10% ＊課題の提出状況が悪い場合または完成レポート未提出の場合は不合格とする。	
その他	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4 単位
	1～4 年次
兼任講師 田 中 絵美利	
授業の概要・到達目標 レポートや論文など、大学内で書くことが求められる文章には、独特の学術的なルールがある。特に入学したての1年生は論文など読み慣れていないだろう。本授業は、レポートや論文とは何を書くべきものなのか、書くために何をどのように調査し、どのようなフォーマットに基づいて書けばよいのかを学ぶ実践的な授業である。 半期を通してレポートを1本仕上げることを目標とする。	
授業内容 授業は2コマ連続で行われるが、2コマ通して行う回（もちろん休憩は取ります）と、1コマずつ内容を変える回とがある。 詳細は初回のガイダンスで説明する。 第1回 イントロダクション 第2回 正しい文章の書き方（1）悪文を改める 第3回 正しい文章の書き方（2）パラグラフ・ライティングの基本 第4回 説明文を書く（1）原稿用紙の使い方・情報の取捨選択 適切な構成 第5回 説明文を書く（2）実践トレーニング 第6回 説明文を書く（3）説明文のまとめ 第7回 レポートの書き方（1）レポートの基本構成・レポートと論文の違い・テーマの設定 第8回 レポートの書き方（2）資料の集め方・参考文献一覧 第9回 レポートの書き方（3）引用の仕方 第10回 レポートの書き方（4）パラグラフライティングで文章を書き直す 第11回 レポートの書き方（5）全体の構成 第12回 レポートの作成（1）初稿の提出 第13回 レポートの作成（2）校正 第14回 総括・推敲	
履修の注意点 パソコンを持参して受講した方が効率よく作業を進められる。 履修人数によっては、端末室に教室変更が可能かもしれないが確約はできないので、自分のパソコンを持参するか、あるいは大学の貸与パソコンを持ち込むつもりでいてほしい。 もちろん、パソコンがなくても履修は可能だが、情報の収集のためなどに、せめてスマホは持参した方がよい。 詳細はガイダンスで説明する。 パソコンの使い方も一緒に学べる授業だと思ってほしい。 講義形式の授業ではなく、実技形式の授業である。授業中に課題を作成し、提出することが求められる。 独自のメソッドを用いての講義となるので、受講していなければ課題の作成は難しい。 授業中に発言を求められることもあるので、覚悟の上履修する必要がある。 本授業は「コミュニケーション」を学ぶ授業であるため、教員とも積極的にコミュニケーションを取ることが求められる。 積極的に参加しなければ意味のない授業なので、遅刻や欠席は大きく減点される点を覚悟の上履修して欲しい。 Oh-ol Meijiを通じて授業に関する連絡をすることもあるので、確認する習慣をつけておくこと。 卒論の作成や大学院への進学を考えている学生は、特に受講して欲しい。役に立つことだろう。	
準備学習の内容 特に予習は必要ないが、返却された課題をよく復習する必要がある。 また、基本的なパソコンの使い方は自分で学んでおく必要がある。パソコン操作上のミスで課題が提出できなくても一切考慮はしないので、Word,Excelの基本的な使い方は学内の講座などを利用してマスターするように。学期末レポートは手書きでは認めない。	
教科書 特に定めない。	
参考書 その都度紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 ほぼ毎回授業内で課題を作成し提出することが求められる。提出した課題は基本的に翌週返却する。	
成績評価の方法 課題・授業態度・テストを総合的に判断する。評価方法は受講人数によって決まるので、詳細はガイダンスで説明する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4 単位
	1～4 年次
兼任講師 今 野 哲	
授業の概要・到達目標 2 回分でひとまとまりとする授業であり、講義（1 時限目）と文章作成（2 時限目）の組み合わせが基本的な構成である。1 時限目に文章を作成し、2 時限目に講義を行う授業回もある。国語表現の実践的な技能に関する授業であり、表記・語彙の学習から、課題発見や表現史の検討まで、内容は多岐にわたる。 書く力・読む力の基礎技術習得を主眼に、聞く力・話す力の涵養も含めて、総合的な国語運用能力の強化と思考力の深化に資することを目指している。書くことに関する具体的な指標は、50～80分ほどの時間内で800～1200字程度の論理的で明快な文章を作成する技能の獲得である。また、レポート・論文作成の基礎的な知識・技能の体得も目標とする。 課題の提出は、PCを使って作成しO-oh!Meijiシステム経由で提出するケースと、教室で手書きで作成し授業時間内に提出するケースとがある。	
授業内容 第1回目 文章作成の前提 — わたしたちの言語生活を省みる — 第2回目 文章作成（第1回） — 800字の文章作成 — 第3回目 文章作成の手順 — 文章作成の段取りについて復習する — 第4回目 文章作成（第2回） — 800～1000字程度の文章作成 — 第5回目 段落の視認性 — 段落の意義について確認する — 第6回目 文章作成（第3回） — 段落を意識した文章作成 — 第7回目 段落の設定 — 段落操作の技能を向上させる — 第8回目 文章作成（第4回） — 段落を意識した文章作成 — 第9回目 文章構成の「型」 — 文章構成の「型」（および「型」一般）についての認識を深める — 第10回目 文章作成（第5回） — 「型」を意識した文章作成 — 第11回目 構想メモの利用 — 構想メモの作成方法を習得する — 第12回目 文章作成（第6回） — 構想メモに基づく文章作成 — 第13回目 要約の技術 — 要約の方法について学ぶ — 第14回目 文章作成（第7回） — 文章の要約の練習 — 第15回目 引用の方法 — 引用のやり方について理解する — 第16回目 文章作成（第8回） — 引用を含む文章作成 — 第17回目 レポートの構成 — 標準的なレポートの組み立て方を理解する — 第18回目 文章作成（第9回） — 「序論」執筆の模擬練習 — 第19回目 読むことをめぐって — 読書の意義や技術について考える — 第20回目 文章作成（第10回） — 「読む」ことをテーマとした文章作成 — 第21回目 発想・着想の技術 — 発想・着想を拡大させる — 第22回目 文章作成（第11回） — 論の切り口を意識した文章作成 — 第23回目 聞くことをめぐって — 聞く技術について考える — 第24回目 文章作成（第12回） — 聞き取った内容を要約する練習 — 第25回目 語彙に関する考究 — 特に接続語句の操作について考える — 第26回目 文章作成（第13回） — 論理的で明快な意見文の作成 — 第27回目 日本語の表現史 — 国語問題、および日本語の未来について考える — 第28回目 a：講義全体のまとめ	
履修の注意点 文章作成が眼目となるので、主体的・積極的な授業参加が求められる。授業で作成した課題は、提出期間内に提出すること。授業概要欄にも記した通り、本授業は講義（1 時限目）と文章作成（2 時限目）の2 コマ連続の組み合わせでひとまとまりとなっている。その趣旨に留意し、2 時限目のみの受講にならないように極力努めること。	
準備学習の内容 Oh-oh! Meijiシステムで配信する授業テキストを事前に読んで、予習しておくこと。授業範囲に関連する参考文献等を調べておくと、さらに望ましい。授業時の課題以外に予習課題が指示される場合がある。その際は必ず作成の上で授業に臨むこと。また、返却された課題を各自で再検討し、文章作成技能の確実な定着に努めること。	
教科書 既成の教科書は使わない。毎回、Oh-oh! Meijiシステムを通して授業テキストを配信する。担当者が作成した印刷教材を授業時に配付することもある。	
参考書 特に定めないが、参考文献等を授業時に随時紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業時に講評する。また、Oh-oh! Meijiシステム経由での提出の場合は、極力コメント欄にコメントを付す。手書き原稿での提出の場合も、極力コメントを付して返却する。	
成績評価の方法 平常点（提出課題の評価を中心に、授業への貢献度を加味する）60%・学期末試験40%。以上の配分によって総合的に評価する。	
その他 読書は、文章作成の技能涵養に大いに資する。計画的な読書を勧めたい。	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4単位
	1～4年次
教授 嶋田直哉	
授業の概要・到達目標 文章作成の基礎を学ぶ。 「事実」と「意見」の区別、アウトラインの活用、文献の引用方法、文章の要約、メールや手紙作成上のマナーなどを学び、授業時間内で課題（600～800字）を作成し、提出する。 最終的には論理的に構成された課題レポート（3,000字程度）の完成を到達目標とする。	
授業内容 第1回 国語表現とは 第2回 「事実」と「意見」を区別する（1） 第3回 「事実」と「意見」を区別する（2） 第4回 アウトラインを利用した文章作成 第5回 意見文を書く（1） 第6回 意見文を書く（2） 第7回 文献の引用について 第8回 文章の要約方法 第9回 データを読みとる 第10回 文章を整える（1） 第11回 文章を整える（2） 第12回 敬語をマスターする（1） 第13回 敬語をマスターする（2） 第14回 メール作成方法 第15回 正しい言葉遣いを目指す（1） 第16回 正しい言葉遣いを目指す（2） 第17回 手紙の書き方（1） 第18回 手紙の書き方（2） 第19回 レポートの作成方法 第20回 レポート作成上の注意点 第21回 レポートにおけるわかりやすい表現 第22回 論理的な文章を書く（1） 第23回 論理的な文章を書く（2） 第24回 実践演習（1） 第25回 実践演習（2） 第26回 実践演習（3） 第27回 総まとめ ※講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 第1回の授業にて授業内容と評価方法について説明をする。 履修変更期間中の欠席については一切配慮しない。 授業時間内に指定された文章課題を完成させ提出すること。 授業の性格上、出席と授業時の課題の取り組みを重視する。 いかなる理由があろうとも私語は絶対にしてはならない。 私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。 授業内容は履修者の状況のみで変更することがある。 ★学習意欲が全くない者は履修してはならない。	
準備学習の内容 レポート作成において必要な文献の検索を図書館で行うこと。 課題文作成に備え、日頃から新聞などを読み社会的関心を高めること。	
教科書 使用しない。 授業で使用する資料は、Oh-olMeijiにて事前に配布する。	
参考書 授業中に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度と授業時提出の課題文（50%）、期末レポート（50%）	
その他 出席確認、授業時提出の課題文などにおいて不正を行った者については厳しく対処する。 就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4 単位
	1～4 年次
兼任講師 千 田 実	
授業の概要・到達目標 「政治経済学部から国語を読んで書く」というテーマのもと、坪内逍遙と言文一致運動について考えていく。文学史にその名を残す坪内逍遙は、東京大学文学部政治学及理財学科を卒業している。この文学部で政治経済を学んだと考えられる文学者（文学士）が言文一致運動において「国語」にどう関わっていったのかを見ていくことで、私たちが日常的に使っている「国語」とは何か、そしてそれを「表現」とはどのようなことなのかを「政治学及理財学科」出身者の視点から学んでいきたい。 講義内容の要約の作成、レポートの作成を通して、国語に関する知識や論理的でわかりやすい文章を書く能力を習得することを目標とする。	
授業内容 第1回目 インTRODクダクシヨウ 第2回目 国語と国家——国家が必要とした国語—— 第3回目 国語と大学——研究と教育と学校—— 第4回目 要約の作成と課題1 第5回目 国語と科学——有用な学問としての科学—— 第6回目 要約の作成と課題2 第7回目 国語と軍隊——軍隊という学校—— 第8回目 要約の作成と課題3 第9回目 国語と芸術——有用な芸術と芸術家—— 第10回目 要約の作成と課題4 第11回目 国語と言文一致運動1——「現代文」の作成—— 第12回目 要約の作成と課題5 第13回目 国語と言文一致運動2——「現代文」の教育—— 第14回目 要約の作成と課題6 第15回目 レポート作成について 第16回目 坪内逍遙と国家——国家有用の人材であるということ—— 第17回目 坪内逍遙と大学——文学と政治経済—— 第18回目 要約の作成と課題7 第19回目 坪内逍遙と政治——自由民権運動と文学—— 第20回目 要約の作成と課題8 第21回目 坪内逍遙と経済——卒業と就職と文学—— 第22回目 要約の作成と課題9 第23回目 坪内逍遙と教育——教育者と教育勸語—— 第24回目 要約の作成と課題10 第25回目 坪内逍遙と国語1——文学者の国語改革—— 第26回目 要約の作成と課題11 第27回目 坪内逍遙と国語2——文学士の国語改革—— 第28回目 まとめ	
履修の注意点 授業では講義と要約作成(課題プリント)が主となる。課題プリントは授業時間内に完成させる。積極的に授業に参加してほしい。	
準備学習の内容 授業では毎回いくつかの参考文献を紹介していきたいと思っている。そのほとんどは図書館で閲覧できるものなので、興味をもったものに関しては、実際に図書館で手に取ってみるという習慣をつけてもらいたい(成績評価に関わることではないので、読めとはいわない)。	
教科書 毎回プリントを配布する。	
参考書 配布プリントで紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点(70%)、レポート(30%)	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4単位
	1～4年次
教授 富澤成實	
授業の概要・到達目標 国語およびことばそれ自体に関する基本的な知識と、論理的で明快な文章表現の技術を獲得することを目的とする。 授業において我々は、ことばや表現と向き合うことになるが、それは単に「技術」的な訓練ということにのみとどまらない。ことばは、コミュニケーションのための道具であるばかりか、まさに認識すること・思考することそのものだからである。この授業が、よりよく考えるための場となることを願う。 「常用漢字表」に基づく漢字の読み書きができるようになることをはじめとして、国語および言葉それ自体に関する基本的な知識を深め、さらに基本的な小論文やレポートを書くことができるようになることを到達目標とする。	
授業内容 1 インTRODクシヨN 2 「言葉の乱れ」についての意識 3 世界に言語はいくつあるか 4 日本語という言語——文末決定性をめぐる問題 5 日本語という言語——方言の多様性 6 言文一致運動の歴史<1> 7 言文一致運動の歴史<2> 8 言文一致運動の歴史<3> 9 現代の敬語<1> 10 現代の敬語<2> 11 文章表現の手順 12 テーマの設定 13 文章構成の型<1> 14 文章構成の型<2> 15 論証・推論 16 主語と述語の照応 17 修飾語と被修飾語の関係 18 タイトル、書き出しと結び 19 句読点 20 原稿用紙の使い方 21 推敲 22 ことばとはなにか 23 言語学者・ソシュール 24 ことばともの<1> 25 ことばともの<2> 26 ことばと記号<1> 27 ことばと記号<2> 28 ことばと文化 また、ほぼ毎回授業のはじめに、漢字の練習問題に取り組んでもらう。	
履修の注意点 学生諸君の授業への取り組みの姿勢を、成績評価を行なう際の重要な判断材料とするので、授業への出席は重要である。	
準備学習の内容 授業で扱う内容はもとより、日ごろから、国語常識を養うためのさらなる努力を継続し、読書などを通じて文章の要点を正確に読み取る訓練とまた自ら文章を書く訓練を積極的に行ってほしい。また授業時に配布した漢字プリントや練習問題のプリントなどを見直し、復習してほしい。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 授業時に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業時に学生の書いた小レポートを紹介し、課題に関するポイントや添削例、模範的な解答を示す。	
成績評価の方法 平常点（授業への参加度・小レポート・小テスト）約70%、学期末レポート約30%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現	4 単位
	1～4 年次
兼任講師 唐 澤 聖 月	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 文章を読むこと・書くことを通して、日本語の表現の多様性や問題点を考え、基礎的な国語力を養う。そのためのトレーニングを行う実践的な授業である。学生生活を送るうえではもちろん、社会に出てからも、さまざまな場において、自分の選択した言葉で表現することが求められる。授業では、現代において、読むため・書くための基礎となる基本事項の説明から始める。読むこと・書くことを中心とした授業実践は、話すことや聞くこととも無関係ではない。言葉によるコミュニケーションの可能性や、書くという行為そのものについても広く考えていきたい。 【到達目標】 自分の意見等を場面に応じて適切に表現し、伝える能力を向上させることが目標である。	
授業内容 第1回：イントロダクション、文章のジャンル、文章の内容と形式 第2回：原稿用紙の使い方、課題にこたえる 第3回：文章のタイトル、話し言葉と書き言葉、文体 第4回：説明文を読む、説明文を書く 第5回：事実と意見 第6回：意見文を書く 第7回：段落とパラグラフ 第8回：反論を予想して意見文を書く 第9回：文章の要約 第10回：要約文を書く 第11回：引用と注 第12回：出典の表示 第13回：引用にあたっての注意点 第14回：文献を引用して文章を書く 第15回：わかりやすい表現を考える 第16回：表現を工夫する 第17回：大学におけるレポート 第18回：レポートのテーマ・問いを設定する 第19回：情報を検索する、資料を収集する 第20回：文献リストを作成する 第21回：レポートの構成を考える 第22回：レポートのアウトラインを作成する 第23回：レポートの序論・本論・結論 第24回：レポートの執筆 第25回：書評を読む、ビブリオバトル 第26回：書評を書く 第27回：メール・手紙の文例 第28回：総まとめ * 講義内容は必要に応じて変更することがある。	
履修の注意点 (1) 受講予定の学生は、必ず初回の授業に出席し、履修上の注意事項を聞くこと。 (2) 講義形式の授業だが、授業中にコメントを求めることがある。そのときには自分なりの回答をすること。 (3) 課題として執筆してもらった文章のいくつかは、良い例として履修者に公表することがある。その際、全体に向けた講評の時間を設け、補足説明をする。 (4) 授業中の説明や執筆の課題等に関して不明な点があれば、質問や相談をすること。ただし、最終的には、自分の責任において、自力で課題を完成させなければならない。 (5) 授業中、2～4人程度で課題に取り組んでもらうことがある。 (6) 2コマ連続の授業であり、途中から出席した場合には減点の対象となる。出席登録の不正を行った場合、大幅な減点とする。 (7) Oh-o! Meiji システムの「授業お知らせ」で授業の連絡をすることがある。	
準備学習の内容 授業中に配布する資料を読むこと。課題を仕上げるために必要な調査や準備は各自で行うこと。	
教科書 特に指定しない。必要に応じて資料等を配布する（再配布はしない）。	
参考書 授業中に紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題のうち、特に優れたものを授業中に紹介する。高く評価できるポイントについて、授業内容を復習しながら説明する。	
成績評価の方法 授業への参加度・授業各回における課題 50%、各自の自由なテーマによる期末レポート 50%によって総合的に評価する。	
その他 授業には積極的に参加し、課題に取り組んでほしい。	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現【和泉開講】	4単位
	1～4年次
兼任講師 西連寺 成子	
授業の概要・到達目標 授業は、主に〔1〕文章読解〔2〕文章作成〔3〕歴史についての講義の3つの内容に分け進める予定である。〔1〕・〔2〕については、様々な文章を読むことを通して読解力を鍛え、その力を書く作業に生かすことが主となる。時間内に課題を仕上げて提出するので、受講生の積極的な取り組みを期待する。〔3〕については、「国語」の歴史として近現代を中心に講義を行う。「国語」の歴史に深く関わる近代文学や学校教育についても言及する予定である。歴史を知ることを通して日本語に対しての知識を持ち、読み書きを通して実践的な力を磨くことで、豊かな表現者となることを目標とした授業である。	
授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：文章作成のための基礎事項 第3回：敬語の基礎事項（1） 第4回：自己PR文の作成 第5回：敬語の基礎事項（2） 第6回：手紙とメールの基礎事項 第7回：レポート作成の基礎事項 第8回：作文の作成（1） 第9回：パラグラフライティング 第10回：作文の作成（2） 第11回：縮約文 第12回：作文の作成（3） 第13回：論理的文章の読解 基礎事項 第14回：論理的文章の読解（1） 第15回：論理的文章の読解（2） 第16回：要約文 第17回：論理的文章の読解（3） 第18回：論証・要約文 第19回：日本語の歴史（1）文字 第20回：作文講評 第21回：日本語の歴史（2）文体 第22回：小論文の作成（1） 第23回：日本語の歴史（3）「国語国字問題」その1 第24回：小論文の作成（2） 第25回：日本語の歴史（4）「国語国字問題」その2 第26回：小論文の作成（3） 第27回：日本語の歴史（5）番外編・革新的な表現の試み 第28回：補足説明とまとめ 受講人数や進行状況などの都合により、講義の順番や内容を多少変更する場合がある。また、2コマ分の講義時間を3分割して行うこともある。	
履修の注意点 <ul style="list-style-type: none"> ・提出物については授業終了時に出すことが原則である。オンライン上での提出を認める場合でも、授業時間内で取り組み教室内で送信を終えること。特別な事情がある場合を除き、提出課題の持ち帰りや教室不在での提出は認めない。 ・授業では課題作成の時間が多くなるので、私語を慎み他の受講生の邪魔にならないよう心がけること。目に余る状態の場合は成績評価から減点する。 ・受講生の提出物（主に作文）を他年度の授業に利用することがあるため、丁寧な表記を心がけてもらいたい（良い例としてのみ使用し、氏名は公表しない）。 ・作文講評に使用するため、授業内課題以外に、作品（授業で取り組んだ作文を改善し清書したもの）の提出を課す。 	
準備学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を整理したノートを作成しておくこと。特に「日本語の歴史」の講義では肝要である。 ・授業で取り組んだ練習問題や課題をふりかえり、理解不十分だった点を確認し、次回以降の演習の際に生かすこと。 	
教科書 特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。プリントは授業時間内における配布を主とし、必要に応じてオンライン上の配布を併用する。	
参考書 文章読解、文章作成の授業内容では特に定めない。 歴史の授業内容では『日本語の歴史』 山口仲美著（岩波新書）2006年	
課題に対するフィードバックの方法 提出課題は採点または添削の上、各自に返却する。作文・小論文の添削に関しては、各受講生にそれぞれ1回ずつ詳細な添削を施す（その他の回については採点のみを原則とする）。また、必要に応じて授業内で課題の振り返りや解説を行う。	
成績評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で取り組んだ提出物60%、期末試験30%、授業への貢献度10%の総合評価。ただし授業態度の悪い者は総合評価から減点される。 ・提出物はその仕上がり具合によって評価が異なるので、提出回数を重ねるだけでは成績評価点が伸びない場合もあり得る。内容はもちろん誤字などの表記上のミスにも気をつけること。 	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) LIN191J	
国語表現【駿河台開講】	4単位
	1～4年次
兼任講師 西連寺 成子	
授業の概要・到達目標 授業は、主に〔1〕文章読解〔2〕文章作成〔3〕歴史についての講義の3つの内容に分け進める予定である。〔1〕・〔2〕については、様々な文章を読むことを通して読解力を鍛え、その力を書く作業に生かすことが主となる。時間内に課題を仕上げて提出するので、受講生の積極的な取り組みを期待する。〔3〕については、「国語」の歴史として近現代を中心に講義を行う。「国語」の歴史に深く関わる近代文学や学校教育についても言及する予定である。 歴史を知ることを通して日本語に対しての知識を持ち、読み書きを通して実践的な力を磨くことで豊かな表現者となることを目標とした授業である。	
授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：文章作成のための基礎事項 第3回：敬語の基礎事項（1） 第4回：自己PR文の作成（1） 第5回：敬語の基礎事項（2） 第6回：自己PR文の作成（2） 第7回：手紙・メールの基礎事項 第8回：作文の作成（1） 第9回：パラグラフライティング 第10回：作文の作成（2） 第11回：縮約文 第12回：作文の作成（3） 第13回：論理的な文章の基礎事項 第14回：論理的な文章の読解（1） 第15回：論理的な文章の読解（2） 第16回：要約文 第17回：論理的な文章の読解（3） 第18回：要約文・論証 第19回：日本語の歴史（1）文字 第20回：小論文の作成（1） 第21回：日本語の歴史（2）文体 第22回：小論文の作成（2） 第23回：日本語の歴史（3）「国語国字問題」その1 第24回：小論文の作成（3） 第25回：日本語の歴史（4）「国語国字問題」その2 第26回：小論文の作成（4） 第27回：日本語の歴史（5）番外編・革新的な表現の試み 第28回：補足説明とまとめ 受講人数や進行状況などの都合により、講義の順番や内容を多少変更する場合がある。また、授業内容によって、2コマ分の授業時間を3分割する場合もある。	
履修の注意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎回、授業内容に基づいた文章作成や練習問題などの提出物を予定している。授業で取り組む提出物については授業終了時に出すこと。例外を除き、提出課題の持ち帰りや教室不在での提出、後日の提出は認めない。 ・受講生の提出物を他年度の授業に利用することがあるため、丁寧な表記を心がけてもらいたい（良い例としてのみ使用し、氏名は公表しない）。 ・受講生には発言を求めることが多くなるので、講義に積極的に参加することを期待する。 	
準備学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り組んだ練習問題や課題をふりかえり、理解不十分だった点を確認し、次回以降の演習の際に生かすこと。 	
教科書 特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。プリントは授業時間での配布を主とし、場合によってオンライン上の配布を行う。	
参考書 文章読解、文章作成の授業内容では特に定めない。 歴史の授業内容では、『日本語の歴史』 山口仲美著（岩波新書）2006年	
課題に対するフィードバックの方法 提出課題は採点または添削の上、各自に返却する。また、必要に応じて授業内で課題の振り返りや解説を行う。	
成績評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で取り組んだ提出物70%、レポート20%、授業への貢献度10%の総合評価。ただし授業態度の悪い者は総合評価から減点する。 ・提出物はその仕上がり具合によって評価が異なるので、提出回数を重ねるだけでは成績評価点が伸びない場合もあり得る。内容はもちろん誤字などの表記上のミスにも気をつけること。 	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) LIT111J	
日本文学	4単位
	1・2年次
教授 嶋田直哉	
授業の概要・到達目標 日本近代文学史を概観し、時代別に文芸思潮を学ぶ。さらにその時代の代表的な作者について学び、授業時間内で実際に作品を読む。明治・大正期の作家と作品を中心に学習する。 日本近代文学の基礎知識の習得を到達目標とする。	
授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 物語とは何か 第3回 日本近代文学史概論 第4回 二葉亭四迷・尾崎紅葉 第5回 泉鏡花 第6回 樋口一葉（1）人と作品 第7回 樋口一葉（2）「たけくらべ」を読む 第8回 自然主義（1）島崎藤村 第9回 自然主義（2）島崎藤村「夜明け前」を読む 第10回 自然主義（3）田山花袋「少女病」を読む 第11回 森鷗外（1）人と作品 第12回 森鷗外（2）「最後の一句」を読む 第13回 森鷗外（3）「高瀬舟」を読む 第14回 夏目漱石（1）人と作品 第15回 夏目漱石（2）「夢十夜」を読む 第16回 夏目漱石（3）「坊っちゃん」を読む 第17回 大正時代の文学 第18回 芥川龍之介（1）人と作品 第19回 芥川龍之介（2）「藪の中」を読む 第20回 永井荷風（1）人と作品 第21回 永井荷風（2）「遷東綺譚」を読む 第22回 谷崎潤一郎（1）人と作品 第23回 谷崎潤一郎（2）「刺青」を読む 第24回 志賀直哉（1）人と作品 第25回 志賀直哉（2）「小僧の神様」を読む 第26回 白樺派の作家たち 第27回 総まとめ ※講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 第1回で授業の進め方、成績評価方法などの説明をする。 履修変更期間中の欠席については配慮しない。 私語はいかなる理由があろうとも絶対にしてはならない。 私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。 授業内容は履修者の学習状況を見て変更することがある。 ★学習意欲が全くない者は履修してはならない。	
準備学習の内容 日頃より読書に親しみ、授業で紹介された作品を積極的に読むこと。	
教科書 使用しない。授業で使用する資料については事前にOh-ofMeijiで配布する。各自のデバイスで閲覧できるようにすること。	
参考書 授業中に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度（50%）、期末レポート（50%）	
その他 就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。 出席確認時に不正を行った者については厳しく対処する。	

科目ナンバー：(PE) LIT111J	
日本文学	4単位
	1・2年次
教授 富澤成實	
授業の概要・到達目標 近代日本の恋愛小説を、おもにとりあげる。 恋愛をテーマにした物語はこれまでも数多く作られ、そしていまなお大量に生産されている。だが、今日の我々にとって普遍的で自明な出来事のように見える「恋愛」は、実は明治期になって出現した新しい概念だったといつてよい。 この授業では、近代日本の恋愛小説をそれぞれ鑑賞すると同時に、「恋愛」の発生を、我々の認識と行動のありようを規定する歴史的な事件として捉え、具体的にその成立と展開の諸相を近代の文学作品を通じて検討することをも目的としている。 また近代の日本文学に関する基礎的知識のひとつとして、この時代の代表的な作家や文学思潮について概説する。 「恋愛」概念の成立と展開の諸相はもとより、近代日本を代表する作家それぞれの人と文学や近代日本の文学思潮、日本社会の近代化についての理解を深めることを到達目標とする。	
授業内容 1 インTRODクシヨN 2 北村透谷「厭世詩家と女性」＜1＞ 3 北村透谷「厭世詩家と女性」＜2＞ 4 北村透谷「厭世詩家と女性」＜3＞ 5 森鷗外「舞姫」＜1＞ 6 森鷗外「舞姫」＜2＞ 7 森鷗外「舞姫」＜3＞ 8 森鷗外「舞姫」＜4＞ 9 樋口一葉「たけくらべ」＜1＞ 10 樋口一葉「たけくらべ」＜2＞ 11 樋口一葉「たけくらべ」＜3＞ 12 樋口一葉「たけくらべ」＜4＞ 13 尾崎紅葉「金色夜叉」＜1＞ 14 尾崎紅葉「金色夜叉」＜2＞ 15 尾崎紅葉「金色夜叉」＜3＞ 16 田山花袋「蒲団」＜1＞ 17 田山花袋「蒲団」＜2＞ 18 田山花袋「蒲団」＜3＞ 19 志賀直哉「赤西蠣太」＜1＞ 20 志賀直哉「赤西蠣太」＜2＞ 21 志賀直哉「赤西蠣太」＜3＞ 22 志賀直哉「赤西蠣太」＜4＞ 23 武者小路実篤「友情」＜1＞ 24 武者小路実篤「友情」＜2＞ 25 武者小路実篤「友情」＜3＞ 26 谷崎潤一郎「痴人の愛」＜1＞ 27 谷崎潤一郎「痴人の愛」＜2＞ 28 谷崎潤一郎「痴人の愛」＜3＞ また「舞姫」をはじめ、映画化された作品についてはビデオやDVDなどを通じての鑑賞の機会もとりいれる計画である。	
履修の注意点 学生諸君の授業への取り組みの姿勢を、成績評価を行なう際の重要な判断材料とするので、授業への出席は重要である。	
準備学習の内容 資料などで扱うのは作品の一部分なので、各自で文庫本等を通じて作品全編を読んでおくのが望ましい。また日ごろから読書を通じて、教養の一環として日本文学についての基本的な知識を身につけてほしい。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 授業時に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業時に学生の書いた小レポートを紹介し、課題に関するポイントや模範的な解答を示す。	
成績評価の方法 定期テスト約80%、授業への参加度約20%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) LIT111J	
日本文学	4 単位
	1・2 年次
教授 植 田 麦	
授業の概要・到達目標 本授業の名称は「日本」文学である。その「日本」という号自体が初めて文献に現れるのは、およそ西暦700年のことである。その約10年後に『古事記』が成る。つまり、国号「日本」の成立直後に『古事記』も成るのであるが、その『古事記』に「日本」の表記は皆無である。なぜだろうか？ このように、本授業では、文学と社会との関わりを学び、また古典文学に関する受講者の固定観念を打ち払うことを目的とする。	
授業内容 1 ガイダンス 2 「日本」について 3 「古典文学」について 4 「古事記」 5 神話と歴史 6 創られる神話 7 紫式部と『源氏物語』 8 遁世者の文学としての『徒然草』 9 仇討ちと忠臣蔵	
履修の注意点 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業終了時に、次回の予習内容を指示する。 ・就職活動に関する欠席を公欠として扱うことはない。 ・履修にあたっては、高等学校で学習する程度の日本史の知識を有していること。 	
準備学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・予習内容：授業内で指示する。 ・復習内容：原則として、授業で出す課題等によって行うこと。 	
教科書 教科書は指定しない。	
参考書 授業内で紹介することがある。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニレポート等による平常点と学期末レポートで評価する。 ・ミニレポート……20% ・学期末レポート……80% ・ミニレポート未提出の場合は減点とする。 ・当然ではあるが、一定回数以上の欠席（ミニレポート未提出）は単位認定の対象としない。 	
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。 ・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。 	

科目ナンバー：(PE) LIT111J	
日本文学	4 単位
	1・2 年次
教授 池田 功	
授業の概要・到達目標 前半の三分の二は「こころの病の文化史」をテーマとする。 気分がすぐれないとか、うつ状態であるということはよくあることである。それは脳内の神経伝達物質のセロトニンやドーパミンの出が悪いために起こっており、抗鬱剤を飲めば改善するという。しかし、そのためには処方箋が必要であり、また薬には必ず副作用がある。ボーダー内にあり、それでもなおかつ気分が悪いときは「言葉」の力に頼るのが一番良いのではないか。つまり、心の病を描いた文学作品に接することである。本講義では、文学作品の講読そして解説により、治療ではなく言葉による治癒を目指す。 後半の三分の一は、まず身体の病と文学との関わりをテーマとする。さらに日本の明治期から現代までの著名な文学者とその作品を対象にし、その生涯や代表作品を具体的に読みながらポイントを解説する。	
授業内容 第1回：〈摂食障害〉松本侑子「巨食症の明けない夜明け」。この作品を通して摂食障害とは何か、またその原因や対策などを考える。 第2回：〈引きこもり〉田口ランディ「コンセント」を通して引きこもりの現状と対策などを考えたい。 第3回：〈ED（インポテンツ）〉新井満「尋ね人の時間」を通して、男性のEDを解説する。 第4回：〈不感症（冷感症）〉女性の性機能障害である不感症は、村上春樹「ノルウェイの森」に描かれている。 第5回：〈ヒステリーの世界〉宇野浩二「苦の世界」における、激しい女性のヒステリーを通して、その原因などを分析する。 第6回：〈夫婦の闇としてヒステリー〉島尾敏雄「死の棘」を分析する。 第7回：〈映画鑑賞〉小栗康平監督、松坂慶子、岸辺一徳出演による映画「死の棘」を鑑賞する。 第8回：〈神経を病む若い女性〉川端康成「たんぽぽ」、古井由吉「杏子」には、神経症を病む女子大生が描かれている。 第9回：〈強迫神経症の世界〉手を一日何百回も洗わなければいけないような強迫神経症の問題を、車谷長吉「颯風」により考える。 第10回：〈幻視、幻聴の世界〉芥川龍之介「歯車」には、芥川が自殺する直前の、幻視・幻聴の重い精神障害の状態が描かれている。 第11回：〈精神病院に入院すること〉色川武大「狂人日記」には、精神病院での一年間と、退院してからの社会復帰の困難さが描かれている。 第12回：〈精神病院前史・座敷牢の世界〉島崎藤村「夜明け前」、そして、映画「夜明け前」のラストシーンにその座敷牢が具体的に描かれている。 第13回：〈母と娘との葛藤〉同性である母と娘との関係は難しいことが多い。笙野頼子「母の発達」をテキストにその問題を考える。 第14回：〈アルコール依存症文学の考察〉若山牧水の短歌、及び中島らも「今夜、すべてのバーで」などをテキストにしながらかアルコール依存症の問題、とりわけそこからの回復の問題を考えてみたい。 第15回：〈山の自然による癒し〉志賀直哉「暗夜行路」、南木佳士「阿弥陀堂だより」には、大自然に身も心も癒されてゆく主人公の精神状態が克明に描かれている。ヒーリングとは何かを考えたい。 第16回：〈映画鑑賞〉小泉堯史監督、寺尾聰、樋口可南子出演による「阿弥陀堂だより」の映画を鑑賞することにより、自然による癒しの問題を考える。 第17回：〈海の自然による癒し〉石川啄木「一握の砂」、南木佳士「海へ」には、海により心が癒されて復活する主人公が描かれている。 第18回：〈治療文化〉目取真俊「魂込め」をテキストに、一見非合理的にも思えるシャーマニズムによる癒しの問題を考える。 第19回：前半の「こころの病の文化史」のまとめ 第20回：〈日本文学史〉「万葉集」を古代朝鮮語で読み解くとどうなるか。「とはずがたり」における性の遍歴とは。松尾芭蕉「奥の細道」の虚構性とは。 第21回：〈主義と思潮の日本文学史〉浪漫主義、自然主義、反自然主義などをつながりとして考えるとどうなるか。 第22回：〈森鷗外「舞姫」〉鷗外の4年間のドイツ体験とは。「舞姫」におけるベルリンや実際のエリスとの関係を考える。「舞姫」のテーマとは。 第23回：〈映画鑑賞〉篠田正浩監督・郷ひろみ主演の映画『舞姫』の鑑賞。 第24回：〈遠野物語〉柳田国男「遠野物語」の民俗学の世界を、現代の科学的な視点から読み解くとどうなるか。 第25回：〈樋口一葉「たけくらべ」〉24年間の薄幸の人生とは。日記に秘められた妻子ある男性との恋とは。吉原遊郭を舞台にした淡い恋物語の分析。 第26回：〈徳富蘆花「不如帰」〉小説「不如帰」は日本近代の最大級のベストセラーになった。ここには韓流ドラマにみられるようなテーマがあった。しかし、それは戦後ほとんど読まれなくなるのはどうしてか。 第27回：〈安部公房「砂の女」〉伝統的価値観を否定的にとらえて、国際的な作家になった安部公房。その代表作の「砂の女」を解説する。 第28回：〈映画鑑賞〉勅使河原宏監督、岸田今日子、岡田英次出演の映画「砂の女」を鑑賞する。	
履修の注意点 心の病や身体の病などとあまり深刻に考えないで、もっと気楽に日本の近代、現代文学作品を、少しでも心や身体の病という視点を導入しながら読み解くという気持ちで履修してほしい。	
準備学習の内容 テキストを使用するので、テーマの部分の前もって読んでおくことが望ましい。もし不明な部分等があれば授業中に質問すること。また、次回の内容についてレジュメや参考書に目を通しておくことが望ましい。	
教科書 購入する必要はないが、『新版 こころの病の文化史』池田 功著（おうふう）を使用する。	
参考書 『神経症と文学—自分という不自由』大本泉他編（鼎書房） 『日本文学史序説上下』加藤周一（ちくま学芸文庫）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 学期末に行う試験を中心に評価する。授業への参加度10%、学期末の試験90%である。	
その他 半期集中の授業であるが、この授業の進め方についてガイダンス時に詳しく説明する。	

科目ナンバー：(PE) LIT111J	
日本文学	4 単位
	1・2 年次
兼任講師 田 中 絵美利	
授業の概要・到達目標 数年前から〈ジェンダー〉をテーマに日本の近代小説を読むことをテーマとして授業を行っている。 〈ジェンダー〉について学ぶことは必然的に差別意識を学ぶことに繋がるが、〈ジェンダー〉という語そのものが本来的に差別的な意味合いを持っているわけではない。差別はその言葉や現象にどのようなイメージを与えるかによって生まれる。 今年度はより〈差別〉に対してストレートに取り組むことを目指し、〈ジェンダー〉だけではなく、より広い意味でのマイノリティに対する差別を取り上げる。具体的に言うと、障害者や貧困層に分類される人々である。差別はいけないことだと多くの人が分かっている。が、差別はなくならないし、無自覚に差別意識を持ってしまうものである。なぜ人は差別をするのか、自分の中に差別意識があるのかどうかを知るために、日本の近代小説の中で差別がどう描かれてきたのか読み解いていく。 文学を読むことは自分自身を知り、社会を知ることにつながる。少しでも興味があれば履修してほしい。	
授業内容 第1回 ガイダンス・履修上の注意 第2回 明治期のベストセラー本(1) 西国立志編 第3回 明治期のベストセラー本(2) 学問のすゝめ 第4回 明治期の学校教育制度の確立(1) 学制の公務と義務教育制度 第5回 明治期の学校教育制度の確立(2) 教育における男女格差 第6回 ジェンダーとは何か・なぜジェンダーは差別と接続するのか 第7回 ジェンダーとフェミニズム フェミニズムは何を問題とする思想か 第8回 森鷗外「舞姫」(1) 森鷗外基礎知識・問題点の整理 第9回 森鷗外「舞姫」(2) 浪漫主義と恋愛 第10回 森鷗外「舞姫」(3) 浪漫的恋愛の背後にある差別感情 第11回 森鷗外「舞姫」(4) 恣意的な語り 第12回 深刻・悲惨小説と貧民窟ルポルタージュ 第13回 自然主義の隆盛・ゾライズム 第14回 田山花袋「重右衛門の最後」(1) 問題点の整理 第15回 田山花袋「重右衛門の最後」(2) 物語に描かれる障害者 第16回 田山花袋「重右衛門の最後」(3) 都市と地方との格差 第17回 日本における自然主義の展開 第18回 日露戦争後の文学 第19回 夏目漱石「三四郎」(1) 夏目漱石基礎知識・問題点の整理 第20回 夏目漱石「三四郎」(2) 明治40年代の帝大生 第21回 夏目漱石「三四郎」(3) 謎の女、新しい女 第22回 夏目漱石「三四郎」(4) 美禰子の結婚 第23回 夏目漱石「三四郎」(5) 美禰子の罪 第24回 夏目漱石「三四郎」(6) 広田先生の夢 第25回 夏目漱石「三四郎」(7) stray sheep 第26回 夏目漱石「三四郎」(8) 「それから」へ 第27回 改めて“差別”について考える 第28回 総括	
履修の注意点 資料は基本的にOh-Oh! Meijiを通してデータで配布する。 プリントアウトしてもデータで持ち込んでも構わない。 授業中にパソコンを使用することも許可する。 が、スマホの小さい画面で資料を見るのは禁止する。 詳細はガイダンスで説明する。	
準備学習の内容 授業内で扱う小説を事前に読んだ上で受講すること。	
教科書 夏目漱石『三四郎』(新潮文庫) 教科書については、改めて説明します。	
参考書 授業内で適宜紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点60% 期末試験40%とする。 期末試験の受験は必須とする。	
その他	

科目ナンバー：(PE) LIT111J	
日本文学	4単位
	1・2年次
兼任講師 瀧 口 翠	
授業の概要・到達目標 <p>和歌において女性の歌は、長い伝統をもって歌い継がれてきた。その「女歌」を時代を追って読み、特質を確かめることは、日本文学史の一面を明らかにすることになるだろう。はじめに、現代の女性歌人が自身の歌をどのように捉えているかをみた後、歌壇に遡る日本のうたの起源を考える。そして、萬葉集の女性歌人や、平安時代の女房文学者などが、自己の人生といかに切り結びながら歌を詠んでいたかをみてゆく。</p> <p>各作品の芸術的特質や文学的意義をその背景となる歴史や文化との関連において理解すること、歌人と作品の距離を確かめてゆくことを通じて、学生自身が文学との関わりを主体的に考えることを目標とする。</p>	
授業内容 第1回目 イン트로ダクション 第2回目 現代の女性歌人 第3回目 折口信夫の女歌論（1）与謝野晶子・山川登美子 第4回目 折口信夫の女歌論（2）「ほうず」「くちからでまかせ」 第5回目 歌壇 第6回目 中国少数民族の歌壇 第7回目 萬葉集の相聞歌 第8回目 額田王（1）紫草の贈答歌 第9回目 額田王（2）熟田津の歌 近江へ下る歌 春秋競憐歌 第10回目 額田王（3）山科御陵退散歌 弓削皇子との贈答 第11回目 大伴坂上郎女（1）相聞歌 第12回目 大伴坂上郎女（2）家刀自として 第13回目 萬葉集の女性歌人たち 第14回目 萬葉集と古今和歌集 第15回目 小野小町（1）小町集 第16回目 小野小町（2）小町伝説 第17回目 小野小町（3）無名草子の評 第18回目 清少納言（1）無名草子の評 第19回目 清少納言（2）清原元輔の子として 第20回目 紫式部日記 第21回目 小式部内侍（1）無名草子の評 第22回目 小式部内侍（2）小式部内侍の歌 第23回目 和泉式部（1）無名草子の評 第24回目 和泉式部（2）和泉式部集 第25回目 和泉式部（3）日記と和歌 第26回目 和泉式部（4）和泉式部日記 第27回目 女性と漢文 第28回目 歌にみる女性	
履修の注意点 9回（授業回数の1/3）以上欠席した者は単位を認めない。毎回の小課題の提出をもって出席とする。	
準備学習の内容 予告する歌や配布資料記載の文献について、注釈書などで学習する。 取り上げる歌人の歌集を読む。	
教科書 使用しない。	
参考書 使用しない	
課題に対するフィードバックの方法 特に良いもの、共有すべき問題のあるものを授業内で紹介する。	
成績評価の方法 小レポートなどによる平常点30% 定期試験70%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LIT151J	
外国文学	2 単位
	3・4 年次
准教授 内 田 兆 史	
授業の概要・到達目標 <授業の到達目標及びテーマ> イスパノアメリカと呼ばれる地域、そして広くラテンアメリカが生み出した文学作品を、そこに暮らす人びとの歴史と、その中で生まれた暮らしやメンタリテイ、政治との関わりとともに考察する。 いわゆる「ラテンアメリカ」地域を、それ以外のアメリカやヨーロッパとの比較し、またそれぞれの関係をとらえられるようになり、そのうえでイスパノアメリカの代表的作家たちの意識や作品に対する理解を深める。 <授業の概要> イスパノアメリカについて、まずはその成り立ちや、歴史に基づいたモザイク模様を織りなす文化を概観し、20世紀から今世紀にかけてのこの地域の代表的作家とその作品を取り上げ、それぞれの作家、作品を、地域や時代の特徴をとらえる。また、そうした文学作品をきっかけに制作された映画についても考察する。	
授業内容 第1回：オリエンテーション 授業の目的と概要について説明し、中南米、ラテンアメリカおよびイスパノアメリカという語のとらえ方、それぞれが覆う範疇を定義する。 第2回：アメリカが誕生するまで ラテンアメリカの古代史を概観する。 第3回：アメリカの誕生 ラテンアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、征服・植民地時代までを概観する。 第4回：アメリカの独立 ラテンアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、各国独立以降の歴史を概観する。 第5回：アメリカの現代 ラテンアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、現代史を概観する。 第6回：ラテンアメリカの文学とは 第7回：ラテンアメリカの短篇作品 カルロス・フエンテス「チャック・モール」 第8回：ラテンアメリカの短篇作品 イサベル・アジェンデ「ワリマイ」 第9回：ラテンアメリカの短篇作品 ミゲル・アンヘル・アストゥリアス「大帽子男の伝説」 第10回：ラテンアメリカの短篇作品 エレーナ・ガーロ「トラスカラ人の罪」 第11回：ラテンアメリカの短篇作品 アウグスト・モンテローソ「日蝕」 第12回：ラテンアメリカの短篇作品 オラシオ・キログ「流れのままに」 第13回：ラテンアメリカの短篇作品 マリオ・バルガス＝リョサ「決闘」 第14回：ラテンアメリカの短篇作品 ガブリエル・ガルシア＝マルケス「フォルベス先生の幸福な夏」 上記の授業計画は目安であり、じっさいの授業回数や進行にいくぶんの誤差は生じる。	
履修の注意点 早めにテキストを入手しておくこと。	
準備学習の内容 授業前には作品を読み、感想をまとめる。 授業後には授業で学んだ背景を意識しつつ作品を読み直し、ラテンアメリカ文学のなかでの位置づけをする。	
教科書 野谷文昭編訳『20世紀ラテンアメリカ短篇選』（岩波文庫）1020円 そのほか、授業内でプリントを配布する。	
参考書 授業中にブックリストを配布する。	
課題に対するフィードバックの方法 提出されたリアクションペーパーおよび短篇に関する小レポートは次回授業時に紹介し、その質問に答えたり、考察したりする。	
成績評価の方法 リアクションペーパー（毎回、30%）、短篇の感想を主とした小レポート（計10回、40%）およびレポート（30%）	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) LIT191J	
言語と文化	2 単位
	3・4 年次
教授 虎 岩 直 子	
授業の概要・到達目標 詩、この授業では英語の詩、を読解し味わうことが第一の目的であるが、それぞれの作品が成立した政治社会的背景を理解することによって、いかに読解が深まっていくかを体験してほしい。本年度は「環境」と「詩」というテーマで詩を読んでいく。言語芸術に馴染みがない人々にも、これを機会に様々な表象の質の違いを味わいつつ、「詩」に接近する機会を持つことを期待する。	
授業内容 1 回目 イントロダクション 2 回目 環境と文学 3 回目から13回目 具体的な作品を読解していく。ルネサンス期から現代までの英米の詩人が中心になる。 14回目 復習	
履修の注意点 授業中に対象資料を紹介していくので、きちんと出席してほしい。	
準備学習の内容 日常的に意識してさまざまな文化表象を分析的に見ていく訓練をすることを求める。	
教科書 特に指定しない。授業中にテキストを配布する。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 出席して積極的に授業に関わる姿勢（20パーセント）。期末試験（80パーセント）。	
その他	

科目ナンバー：(PE) GDR111J/PEIND111J	
ジェンダー論Ⅰ【2022年度以降入学者】	2単位
教養基礎講座【2021年度以前入学者】	1・2年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 ジェンダーとは、まずは「文化的・社会的・心理的な性の有り様」と説明できます。私たちは女として、男として、あるいはそのどちらでもない立場として例外なくジェンダーをまといながら生きており、また現代社会が抱える多くの問題の背景には、このジェンダーが潜んでいると考えられます。 この授業では、まずジェンダー論の基本的知識を習得し、さらにそれをツールとして他の社会現象や社会問題を分析する視点を獲得することを到達目標とします。 そうした分析視点が、3～4年生における政治学、経済学、行政学各分野の専門的な学びにおいて、問題解決の新たな方策をもたらすことを期待しています。	
授業内容 第1講 ジェンダーへの気づき 第2講 ジェンダーへの社会化 第3講 性差について考える 第4講 家族とジェンダー、性別役割分業 第5講 教育とジェンダー 第6講 労働とジェンダー（1） 第7講 労働とジェンダー（2） 第8講 ジェンダー理論史 第9講 性愛とジェンダー 第10講 セクシュアリティ～異性愛/同性愛主義 第11講 男性学・男性性について 第12講 性の商品化、性差別問題 第13講 暴力とジェンダー～セクシュアル・ハラスメント、DV、レイプ 第14講 ジェンダーと政治学/まとめ	
履修の注意点 a) スライドとレジュメ 講義は原則として、スライドによるプレゼンテーションによって進めます。講義前にスライドのファイルをOh-ol Meijiのクラスウェブ内（資料）にアップしますので、必要に応じて各自で印刷して下さい。 b) リアクションペーパー 原則として毎回、受講内容に対するコメントを書いてもらいます。この内容をもって出席とします。ときどき、遅刻のチェックをします。 c) ディスカッション できるだけ講義の中で受講生同士の意見交換をする時間を取りたいと思います。そうした時間には積極的に発言し、同時に他の受講者の意見にも耳を傾け受け入れることを心がけてください。	
準備学習の内容 毎週、指定するテキストの章や文献、論文などの資料を熟読していただくこと。授業開始時にクイズを出します。	
教科書 『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村・伊田・熊安編著（ミネルヴァ書房）2013年	
参考書 指示はしませんが必要に応じて紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法 次回講義の冒頭に行います。	
成績評価の方法 原則として毎回出席を確認し、リアクションペーパーを書いてもらいます。 期末にはレポート課題を出します。 全授業回数の3分の2以上の出席を期末レポート提出の条件とします。 1) 授業の理解度（リアクションペーパーの評価） 50% 2) 期末レポート 50%	
その他 身の回りにあたり前のようにある男と女という存在、そして男女の関係をあえて問い直していきます。そこには新たな発見があると思いますので、ぜひそれを受け入れる柔軟さを持ち合わせていてください。またできるだけ授業内でディスカッションやグループワークを取り入れますので、積極的に関わることを期待します。	

科目ナンバー：(PE) GDR111J/PEIND111J	
ジェンダー論Ⅱ【2022年度以降入学者】	2単位
教養基礎講座【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 兼子 歩	
授業の概要・到達目標 この授業は、和泉キャンパスで開講されている1～2年生を対象とした「ジェンダー論Ⅰ」の応用編・中級編という位置付けの授業です。ジェンダーというアプローチ法を用いた政治・経済・社会・歴史などのさまざまな分野での議論の例を紹介することで、ジェンダー研究の世界の広がりを理解してもらおうことが、この授業の目的となっています。	
授業内容 この授業は、講義形式で行われます。毎回、授業の後にコメントを記入することが義務づけられます。次の回では、そうしたコメントのうち、重要なものをいくつかピックアップして回答する時間を設けることを通じて、講義ではありますが一方的ではない授業をおこないます。以下は各回の授業の予定です（変更があります）。 1 イントロダクション 2 フェミニズムの歴史の基礎知識 3 ジェンダーという概念はどのように生まれたのか？ 4 男女の賃金格差が埋まらない理由（1） 5 男女の賃金格差が埋まらない理由（2） 6 女性の政治進出を阻んでいるものは？ 7 クォータとパリテ：女性の政治参加を促進する制度 8 外交とジェンダー（1） 9 外交とジェンダー（2） 10 生殖をめぐる問い（1） 11 生殖をめぐる問い（2） 12 LGBTQの歴史と現在（1） 13 LGBTQの歴史と現在（2） 14 ジェンダーとインターセクショナルリティ：現代社会運動の争点	
履修の注意点 毎回、授業内容に関連したコメントを提出する必要がある。	
準備学習の内容 授業で配布された資料などを読み返して、次回授業に備えておくこと。	
教科書 この授業では教科書は使用しない。	
参考書 参考書については、授業中に随時紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 コメントのうち主要なものについては、授業内で言及し返答する。	
成績評価の方法 授業後に提出されるコメントの内容と、期末テストによって評価する。 ・60% 授業後のコメント ・40% 期末テスト	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAW111J	
法学	4 単位
	1・2 年次
兼任講師 (法) 森 本 陽 美	
授業の概要・到達目標 <p>私たちが無条件に「法」として思い浮かべているのは、実は西欧法のことである。何故、当然のようにそう思うのか。そもそも、西欧法を受け入れることになった理由は何か。</p> <p>それは江戸時代末期に遡る。日本は、江戸時代末期に開国を強いられ、西欧諸国との間に不平等条約を結ばされた。それを改正するためには、西欧と同じ制度の「法」を持つことが国是であったからである。それから150年ほどが過ぎ、日本独特の法文化も形成されている。</p> <p>この授業では、西欧法継受の歴史的背景、そもそも西欧由来の「法」とは何か、その理念としての目的である正義とは何か、東西文化が「法」に及ぼす影響、理想としての法と法の担い手などを中心に学習する。</p> <p>また、法の機能的側面としての目的、即ち、国民相互の関係や国家もしくは地方公共団体と国民との関係等において、法が実際的にどのように働いているのかを具体的に学習する。</p> <p>さらに、第二次世界大戦から現代に至るまで、「法」がどのように私たちの社会生活に影響を及ぼしているのかについて、東京裁判、裁判員制度、自衛隊にまつわる憲法問題、憲法解釈変更の閣議決定、憲法改正草案、安保法制などについても検討する。その他、時事問題についても取り上げる。</p> <p>この授業を通して、法や社会問題に関心を持ち、社会の動きに敏感であることを望む。</p>	
授業内容 【春学期】 第1回：「法学」学習の注意点 第2回：「人間の」規範としての法 第3回：文化的現象としての法 第4回： 第5回：日本と西欧法の出会（総論） 第6回： 第7回：日本と西欧法の出会（各論） フランス 第8回： 第9回： 第10回：法の担い手とその養成 第11回： 第12回：近代法の系譜および形態 第13回：近代法の諸様相 第14回： 第15回：日本法の今後の課題 第16回：裁判員制度（講義） 第17回： 第18回：裁判傍聴 第19回：東京裁判（講義） 第20回： 第21回：平和主義 第22回：憲法9条の解釈と裁判 第23回：時事問題（1） 森友学園・赤木ファイル 第24回：共謀罪 第25回：安保法制 第26回：時事問題（2） 統一教会問題 第27回：憲法改正 第28回：話し合い	
履修の注意点 <p>初回に自己紹介を兼ねた課題がひとつあり、学期の最終月に教科書の内容を発展させたレポートが一つあります。これらの提出が試験の受験条件となります。</p> <p>学期の前半は、テキストを中心に授業が行われます。</p> <p>学期の後半は、戦後の日本がどのように法を運用しているのかを実際の例から学んでいきます。</p> <p>裁判傍聴はとても興味深い体験となりますので、事情が許せば積極的に参加してください。</p> <p>授業は、出来る限り双方向授業にして皆と一緒に授業を作り上げるつもりです。</p> <p>その時々時事問題を一緒に考える時間も設けますので、世の中の動きに是非とも関心を払って下さい</p>	
準備学習の内容 <p>まずは教科書・新聞を読み、現在の政治の動きを常に把握することが重要です。</p> <p>西欧法について、または法の支配に関する本がたくさん出版されていますので、それらを読んでおくことで授業が分かりやすくなります。</p>	
教科書 『法学入門』三ヶ月章著（弘文堂）	
参考書 『長沼事件 平賀書簡—35年目の証言 自衛隊違憲判決と司法の危機』福島 重雄・水島 朝穂・大出 良知 共著 『弁護の技術と倫理 弁護の道の七燈』Edward Abbott Parry著、日弁連法務研究財団訳	
課題に対するフィードバックの方法 <p>次回授業の冒頭で主だった回答を紹介したり、教官と真剣に話し合いたい学生には、議論も行います。</p> <p>最終回の授業時に、半期を通じたフィードバックを行います。</p>	
成績評価の方法 <p>定期試験（70%）、レポート（20%）、授業への貢献度（10%）で評価します。</p>	
その他 <p>2コマ連続授業は心身共にきつい時もありますが、一緒に頑張ってもらいましょう。</p>	

科目ナンバー：(PE) GEO191J	
地理学	4 単位
	1・2 年次
兼任講師 (文) 谷川尚哉	
授業の概要・到達目標 地理学は、自然科学と人文科学あるいは社会科学にまたがる、いわゆる学際的な学問である。また、地理学は、つねに「場所・地域・空間」にこだわる学問である。リージョナルサイエンスの代表とも言える。地理学の有効性・おもしろさ・可能性を探っていききたい。 今年度は、第1次産業の地理学として、農業の一部門である「酪農業」の地理に特化したい。関連して「畜産業」にも触れる。第1次産業の重要性を理解することを到達目標としたい。	
授業内容 第1回 地理学とは何か (1) 地理学史から考える 第2回 地理学とは何か (2) 地理学の構成から考える 第3回 第1次産業の地理学 農業 (酪農業) と漁業 (水産業) と捕鯨 第4回 日本各地を、酪農業 (乳牛) と畜産業 (肉牛) から学んでいく (1) 第5回 日本各地を、酪農業 (乳牛) と畜産業 (肉牛) から学んでいく (2) 第6回 日本各地を、酪農業 (乳牛) と畜産業 (肉牛) から学んでいく (3) 第7回 日本各地を、酪農業 (乳牛) と畜産業 (肉牛) から学んでいく (4) 第8回 日本各地を、酪農業 (乳牛) と畜産業 (肉牛) から学んでいく (5) 第9回 美味しい牛乳が飲みたいー北海道 第10回 美味しい牛乳が飲みたいー群馬県と山形県 第11回 日本酪農の発祥の地は千葉県? 多古町の鈴木牧場 第12回 秋田県の二つの牧場。放牧と舎飼い、そして飼料 第13回 北海道十勝地方のロボット酪農と子牛の保育園 第14回 北海道根室地方・中標津町の三友牧場のマイベース酪農 第15回 北海道網走地方・興部町の大黒牧場の6次産業化酪農 第16回 岩手県の山地酪農・岩泉町の中洞牧場 第17回 日本の酪農業の諸問題 第18回 捕鯨の歴史の変遷 (1) ジョン万次郎と「白鯨」そしてペリー来航 第19回 捕鯨の歴史の変遷 (2) 1606年紀州・太地での鯨組の結成・古式捕鯨 第20回 捕鯨の歴史の変遷 (3) 近代捕鯨の始まり・ノルウェー式捕鯨の導入・鮎川 第21回 捕鯨の歴史の変遷 (4) 南氷洋 (南極海) 捕鯨・母船式捕鯨の開始 第22回 捕鯨の歴史の変遷 (5) 国際捕鯨取締条約 (ICRW) と国際捕鯨委員会 (IWC) 第23回 捕鯨問題の歴史の変遷 (1) 1972年・国連人間環境会議とニクソン政権 第24回 捕鯨問題の歴史の変遷 (2) 商業捕鯨モラトリアムと調査捕鯨、そして反捕鯨 第25回 捕鯨問題の歴史の変遷 (3) シーシェパードは環境テロリスト? 第26回 捕鯨問題の歴史の変遷 (4) THE COVEとBehind The Cove、そして太地 第27回 捕鯨問題の歴史の変遷 (5) 国際司法裁判所 (ICJ) の判決 第28回 沿岸小型捕鯨 和歌山太地のゴンドウ鯨漁と千葉県和田のツチ鯨漁 * 講義内容は必要に応じて変更することがある。	
履修の注意点 映像資料を活用するので、欠席すると学習が困難になる。	
準備学習の内容 高校程度の地図帳があると良い。また、常に、第1次産業に関する報道 (ニュース) に気をつけて、チェックすること。	
教科書 基本的には、視聴覚教材をテキスト代わりに活用する。必然的に、欠席回数が多いと、講義の内容について来れなくなるので注意のこと。	
参考書 随時、紹介したい。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 期末に試験をする。100点満点。持ち込み不可。レポート等での代替はない。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ANT111J	
文化人類学 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
文化人類学 【2021年度以前入学者※A・Bセット】	1・2 年次
教授 山内健治	
授業の概要・到達目標 文化人類学は、民族や様々な国の人々の生活文化を比較考察する学問です。方法は歴史学・考古学とも異なり、常に現代文化の理解を前提としています。本授業では、19世紀に確立した文化人類学の理論を現代まで紹介しながら、現代文化の理解の方法について考えます。講義では、私たちの身近な事例、例えば、家族・婚姻・共同体・社会構造とは何か、グローバル化の中で民族的アイデンティティとは何か、なぜ地域ナショナリズムは発生するのか？そもそも「民族」何か、現代「文化」を観察・記述して比較する主体と客体は誰か？等、フィールドワークから蓄積してきた文化人類学方みた現代社会の課題と解釈の方法を紹介するとともに我々の文化を位置付ける方法を学びます。そのために、講義では、文化人類学の基礎理論である、進化論・伝播論・機能主義・構造主義の理論史を紹介。同時に文化人類学者のフィールドワークで得られたいわゆる無文字社・常民・非西欧の人々の生活を資料・図・映像で可能な限り講義に提供しながら「野生の思考」様式と現代社会との比較観察を講義内で行います。 本講義の到達目標は「異なる文化」と「自己の文化」論理（エミック）を相対化・客体化し国家・民族・文化的葛藤の課題と共生の姿を創造し客観的に解釈しうる知識と方法論を身につけることである。 可能ならば文化人類学A/Bを履修していただきたい。	
授業内容 第1回目：ガイダンス 文化人類学の位置づけと考え方 第2回目：「文化人類学」？（考古学・歴史学・社会学・思想史との差異） 第3回目：「文化」概念とは何か？「異なる文化の論理」と人類 第4回目：フィールドワークスピリッツ：参与観察と「文化」を書く方法 現代人類学の課題（1） 開発と植民地・少数民族とは何か 第5回目：現代人類学の課題（1）少数民族とは何か、エスニックアイデンティティの創造性 第6回目：現代人類学の課題（2）グローバリゼーションと文化ナショナリズム 第7回目：文化人類学の基礎理論（1）進化論の時代から見た植民地主義 第8回目：現代人類学の課題（3）ポスト植民地主義と現代社会の開発支援の諸問題 第9回目：文化人類学の基礎理論（2）伝播論－ウイーン学派から見た東はアジアの文化複合（人・モノ・食の移動） 第10回目：文化人類学から見た「日本の地域性」、われわれはどこから来たのか？（親族・社会構造を中心に） 第11回目：「家族」概念の再考－身近な「家族」という用語について親族と共に研究史をふまえて、その過去・現在・未来像 と「家族の危機」同時に性・婚姻・ジェンダー等をつかう。 第12回目：現代人類学の課題（3）機能主義理論から構造主義まで－「文化の機能」とは何か？ 構造主義（レヴィ＝ストロースとエンドマンド・リーチー「文化の構造」とは何か？そしてこれからの人類学 第14回目：「異なる文化の論理」の相対化・客体化と創造性について「人類の思考様式と文化人類学」を考える	
履修の注意点 「文化人類学A」（山内健治）の履修者は、原則「文化人類学B」（山内健治）も履修してください。理由は、前期集中講義なので「文化人類学A」（山内健治）の講義内容は「文化人類学B」に連続する内容だからです。 講義中のプリント・パワーポイントを中心に説明します。必ず、目を通すこと。自分の身の回りの事象（政治・経済・社会・思想）と関連づけながら考察・聴講してほしい。文化人類学に関わる文献を紹介しますが、各自検索し、必ず一文献は読むこと。前期終了前の試験に代わるレポートには必要です。	
準備学習の内容 講義中の配布プリント、提示パワーポイントを可能な限り事前にクラスWEB（講義資料）に入れておきます。事前に閲覧すると進捗と共に講義内容を理解しやすい。	
教科書 特に指定しないが必要に応じて提示しますので参考になる。	
参考書 江上波夫編『日本民族の源流』講談社学術文庫（No1162） 山内健治著『基地と聖地の沖縄史』吉川弘文館 綾部恒雄編『文化人類学15の理論』中公新書 明治大学島しょ文化研究編『国際社会の中の沖縄・奄美』風土社 山田朗・諸井勇一編『平和創造学への道案内』法律文化社	
課題に対するフィードバックの方法 講義内のリマインドペーパーの質問への応答によりフィードバックします。	
成績評価の方法 前期最後のレポート試験（70%）、講義で出す小レポート（30%）・授業への参加度ほか総合的に判断する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ANT111J	
文化人類学 B 【2022年度以降入学者】	2 単位
文化人類学 【2021年度以前入学者※A・Bセット】	1・2 年次
教授 山内健治	
授業の概要・到達目標 文化人類学は、民族や様々な国の人々の生活文化を比較考察する学問です。方法は歴史学・考古学とも異なり、常に現代文化の理解を前提としています。本授業では、19世紀に確立した文化人類学の理論を現代まで紹介しながら、現代文化の理解の方法について考えます。講義では、私たちの身近な事例、例えば、家族・婚姻・共同体・社会構造とは何か、グローバル化の中で民族的アイデンティティとは何か、なぜ地域ナショナリズムは発生するのか？そもそも「民族」何か、現代「文化」を観察・記述して比較する主体と客体は誰か？等、フィールドワークから蓄積してきた文化人類学方みた現代社会の課題と解釈の方法を紹介するとともに我々の文化を位置付ける方法を学びます。そのために、講義では、文化人類学の基礎理論である、進化論・伝播論・機能主義・構造主義の理論史を紹介。同時に文化人類学者のフィールドワークで得られたいわゆる無文字社・常民・非西欧の人々の生活を資料・図・映像で可能な限り講義に提供しながら「野生の思考」様式と現代社会との比較観察を講義内で行います。 本講義の到達目標は「異なる文化」と「自己の文化」論理（エミック）を相対化・客体化し国家・民族・文化的葛藤の課題と共生の姿を創造し客観的に解釈しうる知識と方法論を身につけることである。 可能ならば文化人類学A/Bを履修していただきたい。	
授業内容 第1回目：ガイダンス 文化人類学の位置づけと考え方 第2回目：「文化人類学」？（考古学・歴史学・社会学・思想史との差異） 第3回目：「文化」概念とは何か？「異なる文化の論理」と人類 第4回目：フィールドワークスピリッツ：参与観察と「文化」を書く方法 現代人類学の課題（1） 開発と植民地・少数民族とは何か 第5回目：現代人類学の課題（1）少数民族とは何か、エスニックアイデンティティの創造性 第6回目：現代人類学の課題（2）グローバリゼーションと文化ナショナリズム 第7回目：文化人類学の基礎理論（1）進化論の時代から見た植民地主義 第8回目：現代人類学の課題（3）ポスト植民地主義と現代社会の開発支援の諸問題 第9回目：文化人類学の基礎理論（2）伝播論－ウイーン学派から見た東はアジアの文化複合（人・モノ・食の移動） 第10回目：文化人類学から見た「日本の地域性」、われわれはどこから来たのか？（親族・社会構造を中心に） 第11回目：「家族」概念の再考－身近な「家族」という用語について親族と共に研究史をふまえて、その過去・現在・未来像 と「家族の危機」同時に性・婚姻・ジェンダー等をつかう。 第12回目：現代人類学の課題（3）機能主義理論から構造主義まで－「文化の機能」とは何か？ 構造主義（レヴィ＝ストロースとエンドマンド・リーチー「文化の構造」とは何か？そしてこれからの人類学 第14回目：「異なる文化の論理」と映像人類学の可能性（文化の記録と解釈）	
履修の注意点 「文化人類学B」（山内健治）の履修者は原則「文化人類学A」（山内健治）も履修してください。理由はこの科目のA/Bは、前期集中で開講するため1限・2限と連続した内容を含むからです。	
準備学習の内容 講義中の配布プリント、提示パワーポイントを可能な限り事前にクラスWEB（講義資料）に入れておきます。事前に閲覧すると進捗と共に講義内容を理解しやすい。	
教科書 得に指定しない	
参考書 江上波夫編『日本民族の源流』講談社学術文庫（No1162） 山内健治著『基地と聖地の沖縄史』吉川弘文館 綾部恒雄編『文化人類学15の理論』中公新書 明治大学島しょ文化研究編『国際社会の中の沖縄・奄美』風土社 山田朗・諸井勇一編『平和創造学への道案内』法律文化社	
課題に対するフィードバックの方法 講義後に配布するリマインドペーパーへの質問に応答します。	
成績評価の方法 前期最後のレポート試験（70%）、講義で出す小レポート（30%）・授業への参加度ほか総合的に判断する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ANT111J	
文化人類学 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
文化人類学 【2021年度以前入学者】	1・2 年次
兼任講師 岡庭義行	
授業の概要・到達目標 本講は、文化人類学の歴史と理論に関する体系的理解を深めるとともに、事例の分析や解釈を通して、人類学的思考を身につけることを目的としています。 <到達目標> 事例分析に基づき文化人類学の歴史と理論について説明することができる。	
授業内容 第1回 インTRODクダクシヨン：文化とはなにか 第2回 文化人類学の考え方 第3回 フィールドワークの課題と展望 第4回 進化主義の功罪 第5回 理論と方法（1）機能主義 第6回 理論と方法（2）文化相対主義 第7回 理論と方法（3）構造主義 第8回 ポスト構造主義の諸相 第9回 事例研究（1）儀礼・象徴・権力 第10回 事例研究（2）信仰と世界観 第11回 事例研究（3）来訪神と両義性 第12回 事例研究（4）多様化する性と家族 第13回 事例研究（5）魂のゆくえ（Dualism） 第14回 まとめと総括：省察する人類学	
履修の注意点 関連する講義を併行して履修することが望ましい。講義課題と資料はOh-ol Meijiで配布する。	
準備学習の内容 講義中に指示する次回の論点整理と準備学習、及び振り返りと課題省察を行う（各30分程度）。	
教科書 特に使用しない。適宜、講義資料を配布する。	
参考書 『文化人類学の思考法』松村圭一郎他(世界思想社) 『文化人類学(第4版)』波平恵美子(医学書院) ※その他、各講義テーマに基づき適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 提出課題については、適宜、Oh-ol Meijiにより、関連資料を付して全体講評を行います。	
成績評価の方法 レポート課題（60%）、リアクションペーパー（30%）、授業への参加状況（10%）	
その他 2021年度以前入学者については、文化人類学Bも合わせて履修すること。両科目修得をもって、4単位を付与する。	

科目ナンバー：(PE) ANT111J	
文化人類学B 【2022年度以降入学者】	2 単位
文化人類学 【2021年度以前入学者】	1・2 年次
兼任講師 岡庭義行	
授業の概要・到達目標 本講は、文化人類学の理論と方法論を学び、個別の民族誌を分析し解釈するとともに、その成果と展望について構造的理解を深めることを目的としています。 <到達目標> 文化人類学の理論と方法を用いて、さまざまな事例を解釈し説明することができる。	
授業内容 第1回 インTRODクダクシヨン：人間とはなにか 第2回 人類学的思考 第3回 人間の営為と暗黙知の次元 第4回 参与観察と「主観」の問題 第5回 民族の視座：ディアスポラとリゾーム 第6回 状況学習理論と文化の身体化 第7回 ツーリズムと文化の真正性 第8回 近代世界システムと脱社会科学 第9回 事例研究（1）境界理論とタブーの原理 第10回 事例研究（2）神話とトリックスター 第11回 事例研究（3）仮面とアレゴリー 第12回 事例研究（4）文化帝国主義 第13回 事例研究（5）エスノセントリズム 第14回 まとめと総括：公共の人類学	
履修の注意点 関連する講義を併行して履修することが望ましい。講義課題と資料はOh-ol Meijiで配布する。	
準備学習の内容 講義中に指示する次回の論点整理と準備学習、及び振り返りと課題省察を行う（各30分程度）。	
教科書 特に使用しない。適宜、講義資料を配布する。	
参考書 『詳論文化人類学』桑山敬巳他（ミネルヴァ書房） 『共感へのアプローチ』渥美一弥（春風社） ※その他、各講義テーマに基づき適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 提出課題については、適宜、Oh-ol Meijiにより、関連資料を付して、全体講評を行います。	
成績評価の方法 レポート課題（60%）、リアクションペーパー（30%）、授業への参加状況（10%）	
その他 2021年度以前入学者については、文化人類学Aも合わせて履修すること。両科目修得をもって、4単位を付与する。	

科目ナンバー：(PE) PSY191J	
現代心理学	2 単位
	1・2 年次
准教授 荒木 淳子	
授業の概要・到達目標 心理学は、私たちの心のはたらきや行動の仕組みを明らかにしようとするものであり、性格や対人関係、集団行動、学習や仕事に対する意欲など、私たちの日常生活や行動に密接にかかわる学問です。授業では心理学の基礎的な理論・考え方を紹介しながら、私たちの生活と関わりが深い事象について考えていきます。 到達目標は (1) 心理学の諸概念を理解し自分の言葉で説明できること、(2) 心理学の諸概念を用いてこれからの自分の生活や社会について考え、展望できるようになることです。	
授業内容 第1回目 aのみ：イントロダクション 第2回目 性格と何か 第3回目 発達心理学 (1) 発達とは何か 第4回目 発達心理学 (2) 乳幼児期・児童期 第5回目 発達心理学 (3) 青年期以降 第6回目 学習の心理学 (1) 学習スタイル 第7回目 学習の心理学 (2) 感情と動機づけ 第8回目 学習の心理学 (3) 非認知的スキル 第9回目 対人の心理学 (1) コミュニケーション 第10回目 対人の心理学 (2) 対人スキル 第11回目 集団の心理学 (1) 群集心理 第12回目 集団の心理学 (2) リーダーシップ 第13回目 職場の心理学 (1) キャリア形成 第14回目 職場の心理学 (2) 生き活きと働くために	
履修の注意点 私語は固く禁じます。授業への積極的な参加を期待します。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて前後することもあります。毎回授業後に小テストとリアクションペーパーを提出して頂きます。小テスト・リアクションペーパーはOh-ol Meijiを通じて期日までに提出して下さい。	
準備学習の内容 授業後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読してください。	
教科書 使用しない	
参考書 『改訂版心理学・入門』サトウタツヤ、渡邊芳之(有斐閣)2019年 『新版心理学』無藤隆ほか(有斐閣)2004年	
課題に対するフィードバックの方法 小テストは毎回正解を伝えて自己採点できるようにする。 リアクションペーパーは優れたものを授業で紹介しクラスで共有する。	
成績評価の方法 授業への参加度 (10%)、小テスト (40%)、期末試験 (50%)	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) PSY191J	
現代心理学	2 単位
	1・2 年次
兼任講師 羽岡 邦男	
授業の概要・到達目標 (授業の概要) 心理学は「行動の科学」とも呼ばれています。私たちの日常行動の全てが、心理学の研究対象といっても過言ではないでしょう。本講義では多岐にわたる人間行動の中から、私たちに特に関わりが深い項目、すなわち「性格の形成や変容」、「対人関係の構築」、そして「集団行動」を柱に、それぞれに対する基本的な理論や考え方を解説します。また、抽象的な説明に終始するのではなく、より具体的な説明(事例)を織り交ぜながら、それぞれの特徴、問題点、今後の課題などを考えていきます。 (授業の到達目標) 下記の授業スケジュールに沿って、現代社会を生きる私たちが日常経験し、また将来経験・遭遇するであろう様々な「行動」や「現象」に関して、その具体的な仕組みを理解することを到達目標の1つとします。 もう1つの到達目標は、本講義を通じて「自分自身の成長を促すこと」です。すなわち、学生から社会人に向けて歩みを進めている皆さんにとって、「性格」、「発達・キャリア」、「対人」といったテーマから自分の人生を振り返ること、自分自身を知ること、自分の世界・活動範囲を広げること、自分の生き方に対して何らかの方向性を定めること…等は、自分自身の成長を促す上で重要な課題といえます。このような「課題」に対して、本講義は様々なヒントを与えるものと考えています。 以上の2点を到達目標とします。	
授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション(人生と心理学、日々の暮らしと心理学) 第2回 性格(1)：性格に関する俗説と誤解(あなたは、いわゆる「性格診断」を信じますか?) 第3回 性格(2)：性格はどのようにして形成されるのか?(性格形成の基本的なメカニズム) 第4回 性格(3)：性格は変えられるか? 多面性格と多重人格(違いを正しく説明出来ますか?) 第5回 発達：発達段階と発達課題、青年後期の発達課題とは? 第6回 キャリア：キャリアとは何か? いつから取り組むのか? 第7回 ストレスとメンタルヘルス：ストレスの概念、「思考のクセ」とメンタルヘルスの関係とは? 第8回 対人(1)：私たちは相手の何を知らうとしているのか?(社会的欲求、社会的認知、原因帰属) 第9回 対人(2)：態度とは? 説得とは? 説得の手法 第10回 対人(3)：対人魅力とは何か? 第11回 対人(4)：対人コミュニケーションの基本(相手に何を伝えようとしているのか?) 第12回 集団(1)：集団の概念、集団規範、同調と服従 第13回 集団(2)：リーダーとリーダーシップ 第14回 集合現象：群衆と群集、群集心理とは? 流言とデマ、パニック、情報パニック、正常性バイアスとは? ※講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 まず、このシラバスの内容をよく読んで、履修するか否かを考えてください。その上で履修・受講される皆さんには、講義に対して積極的に「参加」する姿勢を求めます。この「参加」とは上記の各テーマに対して、「自分の場合はどうだろうか?」あるいは「この場合、自分などどのように対処するだろうか?」といった「問題意識」を常に持ちながら受講することを指します。この「問題意識」が無いと、抽象的な概念だけをただ詰め込むような「ワクワクしない」「つまらない」受講になってしまう、冒頭で述べた「自分自身の成長」が期待できないからです。 従って、シラバスを熟読し、「この講義は自分にとって、どのような意味を持つのか?」を一人ひとりがしっかりと考えた上で、履修についての判断をしてください。	
準備学習の内容 毎回、講義の終わりに簡単なアンケート調査を実施します。これは次回の講義内容に関するものであり、調査結果を次回の講義に反映させますので必ず回答してください。この際に次回講義に関する「要点」を示しますので、参考書や文献、最近の報道(ニュース)などを用いて準備学習を確実に行ってください。 あわせて、毎回の講義内容については、レジュメを用いて復習を怠らないようにしてください。これは例えば「性格」で紹介した内容や理論が、後の「対人」や「集団」で再び登場することがあるからです。そのため、復習が十分でない、関係性がわからない(曖昧な)まま受講し続けるという不具合が生じてしまいます。また、理解を確実にするためにも、不明な箇所は遠慮なく質問してください。 さらに、履修・受講を希望する人は、1970年以降の日本の文化や流行(の変遷)、事件・出来事や世相などを大まかに把握しておいてください。講義で説明する諸理論の「事例」や「背景」を紹介する際に、理解の助けとなるはずですが。	
教科書 特に定めません。毎回、講義の要旨(レジュメ)を配布します。なお、配布されたレジュメは当該講義以外の回(章)でも使うことがありますので、毎回持参するようにしてください。	
参考書 『心理学・入門—心理学はこんなに面白い 改訂版』 サトウタツヤ、渡邊芳之(有斐閣)2019年 『人間とコミュニケーション』原岡一馬編著(ナカニシヤ出版)1990年 『対人関係の社会心理学』長田雅喜編著(福村出版)1996年 『承認欲求』の呪縛 太田肇(新潮社)2019年	
課題に対するフィードバックの方法 レポート課題については、講義時間内で「全体講評」を紹介すると共に、詳細をクラスウェブにて解説します。	
成績評価の方法 授業への参加度(アンケートへの回答を含む)20%、レポート課題30%、期末試験50%で評価します。	
その他 講義の進み具合によっては、簡単な個人実習(性格検査等)を行う予定です。 連絡事項、補足説明、質問への回答などでクラスウェブを使用します。こまめに確認してください。	

科目ナンバー：(PE) PSY191J	
心理学概論	2単位
	1・2年次
講師 樋口 収	
授業の概要・到達目標 人の心は、他者や周囲の環境にうまく対応するための重要な働きを担っている。本講義ではそうした人の心の働きについて解説する。 到達目標は（１）心理学の専門用語を理解すること、（２）心理学の研究データを理解できるようになること、（３）その用語を用いて人の心の働きについて説明できるようになること、である。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨN 第2回目 心の進化 第3回目 対人関係①: 短期配偶 第4回目 対人関係②: 長期配偶 第5回目 子育て 第6回目 心理学実験の体験① 第7回目 所属欲求 第8回目 同調と服従 第9回目 利他行動 第10回目 心理学実験の体験② 第11回目 心理学研究の最前線: 身体性認知 第12回目 文化① 第13回目 文化② 第14回目 まとめ	
履修の注意点 講義中の私語は厳禁である。また初回の講義に課外学習などについても説明をするので「必ず」参加すること。どうしても出席できない場合には「事前」に樋口まで「理由を含めて」連絡をすること (email: ohgc29[at]meiji.ac.jp: [at]は@にする)。授業の順番は、受講生の理解度に応じて前後することもある。 なお、春学期は2年生、秋学期は1年生が対象となっているので、履修をする際には注意すること。	
準備学習の内容 各回の最後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読すること。	
教科書 使用しない。	
参考書 『心理学』無藤隆他（有斐閣）2004年 『心理学ビジュアル百科』越智啓太編2016年	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-oi Meiji のシステムを通じておこなう。	
成績評価の方法 授業への参加度（25%）、期末試験（75%）	
その他 この講義では、講義内あるいは講義外で心理学の実験を実施する予定である。参加は任意であるが、良い経験になるので、興味をもって参加して欲しい。	

科目ナンバー：(PE) ARS191J	
文化論概論	4 単位
	1・2 年次
教授 山 岸 智 子	
授業の概要・到達目標 <p>「私たち」という枠組みは、世代間の価値観の違い、異なる民族への違和感、衣食住や家族の在り方にかかわる日常生活で“当然”視されること、などを通して意識される。そしてその枠組みの指標となるものは、しばしば「文化」とよばれる。文化は人々の生活様式や価値体系を作り、規定し、再生産することで、人々にきずなや社会性を持つことを可能にする、と考えられる。そのため、人々のきずなや社会性なしには成立しない政治・経済を考えるに際しても、文化を無視することはできない、といえるだろう。</p> <p>昨今のアメリカやイギリスでは、かつてのようなイデオロギー対立や階級間闘争ではなく、「文化戦争Culture War」が亀裂を表す用語となっていることもしばしばである。そのような状況を意識しつつ、この授業の前半部では、文化研究（カルチュラル・スタディーズ）で分析概念として使われるターム（用語）や概念を整理しつつ紹介する。後半では、文化論として社会科学に関連する論考をとりあげて説明し、授業の前半部で紹介したタームがどのように分析概念として使われているかを例示し、自分たちの「近代」的な世界観や生活様式の存立構造を考察する。</p> <p>抽象的な概念と具体的な事柄を自分の頭のなかで結びつけるレッスンをすること、そして、「自分」のアイデンティティがどのような文化装置によって成立しているのか、そしてそれがどのような社会を構築することが期待されているのかを考える力を養うことが、この授業の目標である。</p>	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 アイデンティティ、ヘゲモニー(覇権) 第3回 民族（エスニシティとネーション） 第4回 人種 第5回 文化資本 第6回 オリエンタリズム 第7回 構築主義と本質主義 第8回 ジェンダー 第9回 グローバル化 第10回 ポップカルチャー 第11回 多文化主義 第12回 ナラティブ 第13回 前半の復習 第14回 『想像の共同体』から 近代以前の政治社会構造と世界観について 第15回 『想像の共同体』から メディアと資本、南北アメリカにおけるネーション出現 第16回 『想像の共同体』から 民族固有の言語と文化、という考え方、18～19世紀ヨーロッパ 第17回 『想像の共同体』から 公定ナショナリズム 第18回 『想像の共同体』から 新興国家のナショナリズム 第19回 『想像の共同体』から 人種主義と愛国、記憶の問題、全体のまとめ 第20回 『創られた伝統』（序章）定義と概観 第21回 『創られた伝統』（最終章）ヨーロッパ19世紀末から20世紀の伝統の大量生産 第22回 『創られた伝統』から スポーツと「伝統」 第23回 オリエンタリズムの日本的再生産 第24回 日本人と多文化主義 第25回 日本の移民政策 第26回 消費文化 第27回 グローバル化と文化 第28回 全体のまとめ	
履修の注意点 この授業は週に2回授業を行い、一学期で4単位の科目なので、時間割によく注意すること。 わかりやすく説明するためにできるだけ努力するが、抽象的な概念や理屈が授業の主たる内容となっているため、履修者が授業内容を自分のものにする努力に期待するところが大きい。 高校の世界史の内容が頭に入っている方がのぞましい。	
準備学習の内容 予習よりも、Oh-ol Meijiにアップロードする授業内容の概要や、リアクションペーパーを通して各自で復習し得た知識を整理することが重要である。	
教科書 特になし	
参考書 アンダーソン『想像の共同体』 ホブズボーム編『創られた伝統』 テッサ・モーリス＝スズキ『日本人とマルチカルチュラルイズム』 姜尚中『オリエンタリズムの彼方へ』 ほか	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーの内容について、授業中にコメントや応答を行う	
成績評価の方法 期末の試験(場合によってはレポート) %、授業50への積極的な参加とリアクション50%に	
その他	

科目ナンバー：(PE) EDU131J	
異文化理解とコミュニケーション	2 単位
	1・2 年次
教授 海野素央	
授業の概要・到達目標 異文化間コミュニケーションにおいて、スムーズな関係を構築し、維持するためには、文化的背景の異なる相手の価値観、信念、思考様式を理解し、自分の意見を主張でき、自文化を相手に理解させ、その上で相手と共生していくための接点を見出すことが重要である。 本講義では、基礎的な理論及び概念を紹介し、そうした理論に基づいて、学生諸君に、円滑な異文化間コミュニケーションを促進していくためのスキルを習得させることにおおいに定めている。すなわち、それらは異文化環境において文化的認知度を高め、適切な行動をとることができるようなスキルである。そうしたプロセスを通じて、学生諸君の異文化理解を深めることが、本講義の最終目的である。	
授業内容 異文化間コミュニケーションの基礎知識と実践を2本の柱とした構成とする。 理論面では、E・ホール、M・ベネット、J・ベネット、W・グディンスト等の基礎理論の講義に続いて、講師が展開している異文化対応型リーダーシップに焦点を当てる。一方、実践面では、事例やシミュレーション（模擬体験）等を取り入れながら、異文化間コミュニケーション力を向上させたいと考えている。 尚、本講義では、2008年、12年、16年及び20年米大統領選挙において、オバマ、ヒラリー・クリントン及びバイデン陣営に参加した経験に基づいて、オバマ元大統領とトランプ元大統領及びバイデン大統領のリーダーシップ並びにコミュニケーションスタイルについても講ずる予定である。 本講義では、以下の内容を考えている。 第1回 イントロダクション 第2回 自文化中心主義と文化相対主義Ⅰ 第3回 自文化中心主義と文化相対主義Ⅱ 第4回 ステレオタイプ・偏見・人種差別Ⅰ 第5回 ステレオタイプ・偏見・人種差別Ⅱ 第6回 事例研究 第7回 言語・非言語コミュニケーションⅠ 第8回 言語・非言語コミュニケーションⅡ 第9回 事例研究 第10回 カルチャーショックと異文化適応 第11回 異文化対応型リーダーシップ 第12回 オバマ陣営・クリントン陣営・バイデン陣営の戸別訪問 第13回 バイデン米大統領とトランプ前大統領のリーダーシップスタイルとコミュニケーションスタイル 第14回 講義全体のふりかえり また、講師による一方的な講義を避け、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。	
履修の注意点 社会心理学、文化人類学、社会学、経営学、コミュニケーション論、比較文化論、政治学（外交交渉論）等の関連科目を履修することが望ましい。	
準備学習の内容 今回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。異文化間コミュニケーション論で扱う理論や概念を復習すること。	
教科書 特に定めない	
参考書 海野素央（2013）『オバマ再選の内幕 オバマ陣営を支えた日本人が語る選挙戦略』（同友館） 海野素央（2002）『異文化ビジネスハンドブック 事例と対処法』（学文社） ウィリアム・B・グディンスト ICC研究会誌（1993）『異文化に橋を架ける』（聖文社） L・A・サモバー 西田司訳（1983）『異文化間コミュニケーション入門－国際人養成のために』（聖文社）	
課題に対するフィードバックの方法 事例の発表に関して、講師が口頭でフィードバックを行う。	
成績評価の方法 「期末試験」「授業への貢献度」	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) EDU131J	
異文化摩擦とコミュニケーション	2 単位
	1・2 年次
教授 海野素央	
授業の概要・到達目標 それぞれの文化には、文化的価値観、即ち、重視される価値観が存在する。文化的背景の異なる人の価値観を理解することは、効果的な異文化間コミュニケーションには不可欠である。というのも異なった価値観は、両者の間にコンフリクト（衝突）を生じさせる可能性を高めるからである。 本講義では、文化的価値観とコンフリクトに焦点を当て、異文化環境におけるコンフリクトの対処能力の向上を目指す。将来、海外勤務及び留学を望む学生諸君はもちろんのこと、国内においても文化的背景の相違する人とのコラボレーション（協働）を考えている学生諸君には、是非とも履修して頂きたい。	
授業内容 基本的には、「異文化理解とコミュニケーション」と同様、基礎理論と実践の2本の柱とした構成とする。 理論面では、G・ホフステッド、C・ハンペンターナー、F・トロンベナルス、E・ランガー、I・ジャニス等の基礎理論の講義を行う。一方、実践面では、事例や測定ツールを取り入れながら、異文化間コミュニケーション力を向上させたいと考えている。学生諸君は、文化的価値観及びコンフリクトの対処法を測定するツールを用いて、自分自身の価値観やコンフリクトの対処法を測定する機会を得る。講師は、その測定結果を分析しコメントをする。さらに、トヨタ公聴会並びに東京電力福島第一原発事故におけるコミュニケーションとリーダーシップの問題を事例として取りあげる。 本講義では、以下の内容を考えている。 第1回 イントロダクション 第2回 文化的価値観とコミュニケーションⅠ 第3回 文化的価値観とコミュニケーションⅡ 第4回 文化的価値観の測定 第5回 事例研究 第6回 異文化コンフリクトの対処法 第7回 集団思考の罠と多様性 第8回 マインドフルとマインドレス 第9回 効果的な通訳の使い方 第10回 トヨタ公聴会と異文化コミュニケーションⅠ 第11回 トヨタ公聴会と異文化コミュニケーションⅡ 第12回 東京電力福島第一原発事故とリーダーシップⅠ 第13回 東京電力福島第一原発事故とリーダーシップⅡ 第14回 講義全体のふりかえり また、講師による一方的な講義を避け、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。	
履修の注意点 社会心理学、文化人類学、社会学、経営学、コミュニケーション論、比較文化論、政治学（外交交渉論）等の関連科目を履修することが望ましい。	
準備学習の内容 今回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。異文化間コミュニケーション論で扱う理論並びに概念について復習すること。	
教科書 特に定めない	
参考書 海野素央（2011）『リスクと回復力－東京電力福島第一原発事故から学ぶリーダーシップ』（同友館） 海野素央（2011）『トヨタ公聴会から学ぶ異文化コミュニケーション』（同友館） 海野素央（2002）『異文化ビジネスハンドブック－事例と対処法』（学文社） G・ホフステッド（1995）岩井紀子 岩井八郎訳 『多文化世界』（有斐閣） W.B.グディンスト（1993）ICC研究会誌 『異文化に橋を架ける－効果的なコミュニケーション』（聖文社）	
課題に対するフィードバックの方法 事例の発表に関して、講師が口頭でフィードバックを行う。	
成績評価の方法 「期末試験」「授業への貢献度」	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ARS161J	
国際地域研究基礎論	2単位
	1・2年次
教授 前田 更子	
授業の概要・到達目標 【授業のテーマ】 近現代フランス史－共和国と多様な社会 【授業の概要】 18世紀末から20世紀のフランスを対象に、国民国家の構築と変容の過程、および現実の社会の多様性や差別構造について宗教、ジェンダー、植民地の問題を軸に考えていきたい。 【授業の到達目標】 「自由・平等・博愛の共和国」「一にして不可分の共和国」。フランス革命期に登場し、現在でも政治家や知識人たちが繰り返し強調するこれらの共和国の原理は、フランス型国民国家のあり方を理解する上で不可欠な要素である。国民の4人に1人が外国からの移民にルーツがあるとされるフランスにおいて、多様な文化や宗教、言語をもつ人々が共に生きるにはどうしたらいいのだろうか。授業を通して、受講生はフランス史に関する基礎知識を習得すると同時に、近代国家の形成過程の具体例を学びながら、こうした問題を考察する歴史的視座を獲得することができるだろう。	
授業内容 第1回 インTRODクシヨン—近世フランスの国家と統治構造 第2回 フランス革命とナポレオンの時代（1）革命の解釈をめぐって 第3回 フランス革命とナポレオンの時代（2）人権宣言と女性 第4回 フランス革命とナポレオンの時代（3）植民地と奴隷制 第5回 フランス革命とナポレオンの時代（4）ナポレオン帝国 第6回 19世紀のさまざまなフランス（1）復古王政と七月王政を中心に 第7回 19世紀のさまざまなフランス（2）奴隷制廃止とアルジェリア征服 第8回 19世紀のさまざまなフランス（3）ナポレオン三世と第二帝政 第9回 国民国家の構築と変容（1）国民統合と公教育 第10回 国民国家の構築と変容（2）フェミニズム運動を中心に 第11回 国民国家の構築と変容（3）移民と外国人 第12回 現代フランスの諸問題（1）記憶と歴史家—第二次世界大戦をめぐって 第13回 現代フランスの諸問題（2）ライシテ 第14回 総括	
履修の注意点	
準備学習の内容 毎回紹介する関係文献を参考にして授業内容を復習し、学習を深めること。	
教科書 平野千果子編『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房、2019年（定価2800円+税）	
参考書 授業ごとに各回に関連する主要参考文献一覧を提示するが、フランス史の通史を学ぶ基本書としては、指定教科書の他に以下のようなものがある。 ・柴田三千雄・榊山紘一・福井憲彦編『世界歴史大系 フランス史 第1～3巻』（山川出版社、1996年） ・谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に』（ミネルヴァ書房、2006年） ・上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2020年）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業のリアクションペーパー [40%] および学期末のレポート [60%] から総合的に評価する。 リアクションペーパーについては講義の内容を正確に理解し、自らの疑問や問題意識に結び付けて考察できているかを評価の基準とする。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ARS161J	
国際地域研究基礎論	2単位
	1・2年次
講師 永江 敦	
授業の概要・到達目標 本講では、「戦争」について考えてみたい。 戦争は、人類史上、約1万年ほど前から始まったと見られているが、逆に言えば、それ以前は戦争はなかったことになる。ところが、この1万年間、人類は、絶えず戦争に明け暮れていたと言っても過言ではない。どうして、人類は戦争という愚かな行為をやめることができないのであろうか。 当然のことながら、戦争とは、単なる概念ではなく、実際に、人が人を殺し、人権を犯し、村を焼き、インフラを破壊し、環境を汚染することである。 平時では決して許されないこうした集団的殺戮や破壊行為が、戦争では、どうして簡単に是認されるのであろうか。あるいは、戦争は、始めるのは容易でも、やめるのは難しいのはどうしてなのであろうか。 そうしたことを、主として、近代ヨーロッパの歴史文化という「祖板(まないた)」の上に、いくつかの映画作品を置いて考えてみよう。授業時間帯に映画全編を観ることはほぼ不可能なので、あらかじめ、大学のビデオライブラリーやネットレンタルで作品を観ておくこと。	
授業内容 1. 講義概要 2. 『日本のいちばん長い日』（1967年・岡本喜八監督） 3. 『西部戦線異状なし』（1930年・米・ルイス・マイルストン監督） 4. 『ひまわり』（1970年・伊ソ仏米・ヴィットリオ・デ・シーカ監督） 5. 『戦争のはらわた』（1977年・英/西独・サム・ベキンパー監督） 6. 『僕の村は戦場だった』（1962年・ソ連・アンドレイ・タルコフスキー監督） 7. 『追想』（1975年・仏/西独・ロベール・アンリコ監督） 8. 『戦場のピアニスト』（2002年・英独仏・ロマン・ポランスキー監督） 9. 『戦場の小さな天使たち』（1987年・英・ジョン・ブアマン監督） 10. 『太平洋の地獄』（1968年・米・ジョン・ブアマン監督） 11. 『夜と霧』（1956年・仏・ルネ・クレマン監督） 12. 『ライフ・イズ・ビューティフル』（1997年・伊・ロベルト・ベニーニ監督） 13. 『スパルタカス』（1960年・米・スタンリー・キューブリック監督） 14. まとめ	
履修の注意点 学期中に数本のレポートを課するので、必ず、提出のこと。試験はなし。	
準備学習の内容 講義内で映画作品を見るが、度々静止して、詳しい解説をするつもりだが、時間が限られているので、あらかじめ、作品等を見てくることを課することあり。 できるだけ、無料で見られる方法を提示するが、各自ネットレンタルを利用して見ておくこと。	
教科書 オーメイジで、適宜、資料を示す。	
参考書 オーメイジで、適宜、資料を示す。 レマルク『西部戦線異状なし』 https://www.shinchosha.co.jp/book/212501/ 参考文献：『黒澤明が選んだ100本の映画』（文春新書）	
課題に対するフィードバックの方法 オーメイジの機能を利用する。	
成績評価の方法 3～4本のレポートを課する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ARS161J	
国際地域研究基礎論	2単位
	1・2年次
教授 佐原徹哉	
授業の概要・到達目標 必須項目入力エラー回避の為、事務室記入本講義はバルカン地域の歴史と現状を概観する。具体的に取り上げるのはクロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、セルビア、マケドニア、ギリシャ、ブルガリア、トルコ、キプロスである。この地域は現在では欧州の一部である南東欧と中東に属するトルコに分かれているが、19世紀まで「近東」と呼ばれていたように共通する歴史的背景を持ち、様々な問題を共有している。授業ではオスマン帝国時代の共存の文化が近代のナショナリズムによって破壊され、様々な悲劇が繰り返された事件を振り返り、それが現代的問題である難民問題に与える影響を説明する。	
授業内容 必須項目入力エラー回避の為、事務室記入第1回目 オリエンテーション（授業の概要説明） 第2回目 バルカン半島の地理と国勢 第3回目 古代と中世のバルカン地域 第4回目 オスマン帝国時代 第5回目 ナショナリズムの時代 第6回目 アルメニア人強制移住 第7回目 第一次世界大戦と住民交換 第8回目 クロアチア独立国と民族浄化 第9回目 社会主義時代のバルカン 第10回目 ボスニア内戦 第11回目 冷戦後のバルカン地域 第12回目 欧州難民危機とバルカン・ルート 第13回目 難民連帯と共存の文化の復興 第14回目 総括	
履修の注意点 なし	
準備学習の内容 授業はパワーポイントを用いて行う。講義の概要はクラス・ウェブ上の「資料」欄にアップするので、授業前にハード・コピーを作成しておくとい。また、授業で使用する映像は、海外のドキュメンタリー等をもとにしているので、日本語字幕はない。	
教科書 なし	
参考書 授業で指示する	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 定期試験の結果で成績評価を行う	
その他	

科目ナンバー：(PE) MAT151J	
基礎数学	2単位
	1・2年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 現代数学は「集合」と「写像」の概念を基礎として数学的な世界が構築される。本講義では、このような数学の言葉を学ぶ。 写像や同値関係の意味を正しく理解し、基本的な性質を自身の言葉で説明できるようになることが目標である。	
授業内容 第1回 集合とその記法 第2回 集合の演算 第3回 論理と命題 第4回 全称記号と存在記号 第5回 積み木と ε - δ 論法 第6回 写像の定義 第7回 写像の基本的性質 第8回 単射、全射、全単射 第9回 部分集合の像と逆像 第10回 阿弥陀籤 第11回 逆写像 第12回 同値関係と類別 第13回 商集合と完全代表系 第14回 Fermatの小定理	
履修の注意点 本科目は関連する他の数学科目の基盤となる内容を扱う。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 藤岡敦著『手を動かしてまなぶ集合と位相』裳華房	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT191J	
数学概論	2単位
	1・2年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 本講義では、微分積分学の基礎、特に1変数関数の積分法とその応用に関する事項を学ぶ。不定積分や定積分などの概念を正しく理解し、積分法に関する基本的な計算ができるようになることが目標である。	
授業内容 第1回 不定積分と原始関数 第2回 初等関数の不定積分 第3回 置換積分 第4回 部分積分 第5回 有理関数の不定積分 第6回 部分分数分解 第7回 有理関数の不定積分の応用 第8回 定積分 第9回 微積分学の基本定理 第10回 定積分と不等式 第11回 Schwarzの不等式 第12回 広義積分 第13回 広義積分の収束と発散 第14回 Taylor展開の剰余項	
履修の注意点 解析学Ⅰも合わせて履修することが望ましい。1変数関数の微分法は解析学Ⅰで扱う。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 長岡亮介、渡辺浩、矢崎成俊、宮部賢志著『新しい微積分〈上〉』講談社	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT111J	
線形代数学Ⅰ	2単位
	1・2年次
兼任講師(理) 内田俊郎	
授業の概要・到達目標 [授業の概要] 数を縦横にいくつか並べたものを行列という。行列とその演算は種々の数学分野の基礎であるだけでなく、多くの応用がある。この授業では実数を成分とする行列とその演算を連立1次方程式への応用を中心に学ぶ。 [到達目標] 行列の基本的な演算を普通の数の四則演算と同じくらいに使いこなせるようになる。 行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。	
授業内容 1. この授業で学ぶことの紹介。ベクトルとその演算の復習 2. 行列の導入 3. 行列の基本的な演算 4. 行列の積と零因子 5. 行列の分割 6. 連立1次方程式と行列、掃き出し法 7. 行列の基本変形1 8. 行列の基本変形2、小テスト 9. 基本変形と基本行列 10. 連立方程式に解が存在する条件 11. 行列の階数 12. 基本変形による連立1次方程式の解法 13. 基本変形による逆行列の求め方 14. いくつかの補足	
履修の注意点 高校での行列の学習は前提としないが、義務教育で学んだ数学は当然、前提とする。 経済学で用いる数学を理解するためには、解析学の知識も必要である。線形代数学と合わせて解析学も履修してほしい。	
準備学習の内容 授業に先立って、あらかじめ教科書の対応箇所を読んでおく。 数学の理解にはそれなりの数の問題を解くことが不可欠である。少なくとも配布する練習問題は解くようしてください。	
教科書 森山洋一 著 『線形代数入門』 ムイスリ出版	
参考書 水本久夫 『線形代数の基礎』 培風館 藤岡敦 『手を動かしてまなぶ線形代数』 裳華房 その他、授業の中で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 小テスト後、解法の解説を行う。	
成績評価の方法 定期試験：90%、小テスト：10%	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT111J	
線形代数学 I	2 単位
	1・2 年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 線形代数学は、連立方程式を解く技法のことである。現在では、数学や物理学、化学、生物学といった自然科学分野に限らず、社会科学分野においても現れる汎用性の高い数学である。本講義では、行列の定義から始め、行列を用いた連立方程式の解法を学ぶ。 行列と行列の基本変形、行列の階数などの概念を正しく理解し、連立方程式の解を求める計算に習熟することが目標である。	
授業内容 第1回 平面内の一次変換と行列 第2回 行列の定義、行列の和とスカラー倍 第3回 行列の積、行列の零因子 第4回 行列のブロック分割 第5回 行列の基本変形 第6回 基本行列 第7回 行列の階数 第8回 正則行列 第9回 逆行列 第10回 掃き出し法 第11回 斉次連立一次方程式の解法 第12回 斉次連立一次方程式の解法 第13回 非斉次連立一次方程式の解法 第14回 非斉次連立一次方程式の解法	
履修の注意点 基礎数学も合わせて履修することが望ましい。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 長岡亮介著『長岡亮介 線形代数入門講義』東京図書	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT111J	
線形代数学 II	2 単位
	1・2 年次
兼任講師 (理) 内田俊郎	
授業の概要・到達目標 線形代数は自然科学・社会科学の様々な分野において道具として用いられている。この授業では線形代数学の基礎のうち、行列式およびベクトル空間について学ぶ。行列式の基本的な計算ができるようになること、ベクトル空間の基本的な概念（特に1次独立、1次従属など）を理解して使えるようになることを目標とする。	
授業内容 1. 線形代数学IIの概観。線形代数学Iの復習 2. 2次と3次の行列式 3. 2次、3次の行列式の幾何学的な意味 4. 順列と互換、行列式の導入の準備 5. 任意次数の行列式の定義 6. 行列式の性質と計算 7. 行列式の性質と計算の続き 8. 余因子展開、余因子と逆行列 9. クラメル公式、小テスト 10. ベクトル空間とベクトルの1次結合 11. 部分空間 12. ベクトルの1次独立・1次従属 13. 基底と次元 14. 基底の変換と座標変換	
履修の注意点 線形代数学Iを履修済みであるか、それと同等以上の線形代数の知識があることが望ましい。	
準備学習の内容 あらかじめ教科書の対応箇所を読んでおく。 数学の理解には問題を解いてみる必要がある。 少なくとも配布する練習問題は解いてみる。	
教科書 森山洋一 著 『線形代数入門』 ムイスリ出版	
参考書 水本久夫 『線形代数の基礎』 培風館 藤岡敦 『手を動かしてまなぶ線形代数』 裳華房 その他 授業の中で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 小テスト解説は実施後の授業時間内に行う。	
成績評価の方法 定期試験：90%、小テスト：10%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) MAT111J	
線形代数学Ⅱ	2単位
	1・2年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 線形代数学Ⅰにおいて、行列の基本的性質と連立方程式の解法を学んだ。本講義では、日本古来の阿弥陀籤をモデルに置換の理論を展開し、行列式の理論へと進む。 行列式とその基盤となる置換の概念を理解し、行列式を求める計算に習熟することが目標である。	
授業内容 第1回 線形代数学Ⅰの復習 第2回 2次と3次の行列式 第3回 置換と順列 第4回 置換の基本的性質 第5回 阿弥陀籤 第6回 一般の次数の行列式 第7回 行列式の基本的性質 第8回 余因子 第9回 余因子展開 第10回 余因子行列と逆行列 第11回 Cramerの公式 第12回 行列式の幾何学的意味 第13回 Heronの公式 第14回 ベクトルの外積	
履修の注意点 線形代数学Ⅰの内容を理解しておくこと。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 長岡亮介著『長岡亮介 線形代数入門講義』東京図書	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT211J	
線形代数学Ⅲ	2単位
	3・4年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 線形代数学Ⅰ、Ⅱにおいて、行列と行列式の基本的性質と連立方程式の解法を学んだ。本講義では、連立方程式を解くことの意味をより深く理解するために、解全体の集合（解空間）を考え、その数学的な構造を調べる。 ベクトルの一次独立性とベクトル空間の基底の意味を理解し、与えられたベクトル空間の基底を求められることが目標である。	
授業内容 第1回 線形代数学Ⅱの復習 第2回 ベクトルの一次独立性 第3回 連立方程式の解空間 第4回 ベクトル空間と部分空間 第5回 ベクトル空間の基底と基底の存在定理 第6回 ベクトル空間の次元 第7回 行列の階数 第8回 小行列式 第9回 部分空間の次元公式 第10回 線形写像 第11回 線形写像の核と像 第12回 線形写像の次元公式 第13回 線形代数学の基本定理 第14回 基底の取り替えと表現行列	
履修の注意点 線形代数学Ⅰ、Ⅱの内容を理解しておくこと。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 長岡亮介著『長岡亮介 線型代数入門講義』東京図書	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT211J	
線形代数学Ⅳ	2単位
	3・4年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 線形代数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、行列と行列式の基本的性質、連立方程式の解法、及びベクトル空間の基本的性質を学んだ。本講義では、行列の三角化・対角化とベクトルの内積を扱う。 Cayley-Hamiltonの定理を理解すること、及びSchmidtの直交化法により正規直交基底を求められることが目標である。	
授業内容 第1回 行列の固有多項式 第2回 固有値と固有ベクトル 第3回 固有空間 第4回 行列の三角化 第5回 Frobeniusの定理 第6回 Cayley-Hamiltonの定理 第7回 行列の対角化 第8回 行列の最小多項式 第9回 ベクトルの内積と内積空間 第10回 Schwarzの不等式と三角不等式 第11回 直交補空間 第12回 正規直交系 第13回 Schmidtの直交化法 第14回 エルミート行列とユニタリー行列	
履修の注意点 線形代数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を理解しておくこと。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 長岡亮介著『長岡亮介 線形代数入門講義』東京図書	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT131J	
解析学Ⅰ	2単位
	1・2年次
兼任講師(理) 内田俊郎	
授業の概要・到達目標 この授業では主に1変数関数の微分法について学ぶ。講義とともに演習を行う。微分法の内容を理解し、合成関数の微分法などの1変数の微分法に関する基本的な計算ができるようになること、その応用として極値問題が解けるようになることを目標とする。	
授業内容 1. 解析学Ⅰの内容の概観、集合・関数などの基礎概念の確認 2. 関数の極限 3. 関数の連続性 4. 三角関数と指数関数、対数関数 5. 微分係数と導関数の定義 6. 微分法の公式 7. 初等関数の導関数 8. 高階導関数 9. 小テスト 10. 平均値の定理 11. 不定形の極限(ロピタルの定理) 12. テイラーの定理とテイラー展開 13. 関数の増減、極大・極小 14. グラフの凹凸	
履修の注意点 高校での微分の学習は前提としない。 経済学で用いる数学を理解するためには、線形代数学も履修することが望ましい。	
準備学習の内容 予習 教科書の対応箇所を読んでくる。 復習 解析学の理解には演習が不可欠である。教科書に載っている問題や配布した問題を解いてください。	
教科書 水本 久夫 『微分積分学の基礎 改訂版』培風館	
参考書 微分積分学の教科書・参考書はたくさんあるので自分に合うものを探して下さい。 経済系の学生向けに書かれた解析学の教科書としては例えば、以下のものがある。 小宮英敏 著 「入門 経済学のための微分・積分 高校数学から経済数学へ」 東洋経済新報社 西原健二 著 「経済系のための微分積分」 共立出版	
課題に対するフィードバックの方法 小テストの解説は授業の中で行う。	
成績評価の方法 定期試験：90% 小テスト：10%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) MAT131J	
解析学Ⅰ	2単位
	1・2年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 本講義では、微分積分学の基礎、特に1変数関数の微分法とその応用に関する事項を学ぶ。 関数の連続性及び微分可能性などの概念を正しく理解し、微分法に関する基本的な計算ができるようになること、またその応用としてTaylor展開が求められるようになることが目標である。	
授業内容 第1回 数列と関数の極限 第2回 関数の連続性と中間値の定理 第3回 関数の微分可能性 第4回 初等関数の導関数 第5回 微分の基本的性質 第6回 平均値の定理 第7回 Rolleの定理 第8回 逆三角関数 第9回 双曲線関数 第10回 関数と多項式 第11回 Taylor展開 第12回 Eulerの公式 第13回 無限小の位数 第14回 Taylorの定理	
履修の注意点 数学概論も合わせて履修することが望ましい。1変数関数の積分法は数学概論で扱う。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 長岡亮介、渡辺浩、矢崎成俊、宮部賢志著『新しい微積分〈上〉』講談社	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT131J	
解析学Ⅱ	2単位
	1・2年次
兼任講師(理) 内田俊郎	
授業の概要・到達目標 解析学Ⅱでは、多変数関数(主として2変数関数)の微分法について学ぶ。多変数関数の微分法に関する基本的な計算ができるようになること、その応用として陰関数の極値問題や2変数関数の極値問題、条件付き極値問題などが解けるようになることを目標とする。	
授業内容 1. 解析学Ⅱの概観と解析学の基本的事項の復習 2. 2変数関数とその定義域 3. 2変数関数の極限と連続性 4. 偏導関数 5. 全微分 6. 接平面と方向微分係数 7. 高階偏導関数と2変数関数の合成関数の微分法 8. 小テストとその解説 9. 平均値の定理とテイラーの定理 10. 2変数関数の極値問題1、極値の必要条件と停留点 11. 2変数関数の極値問題2、極値の十分条件と極値の計算 12. 陰関数と陰関数定理 13. 条件付き極値問題1、Lagrangeの未定乗数法 14. 条件付き極値問題2、極値の十分条件と極値の計算	
履修の注意点 「解析学Ⅰ」を履修しているか、それと同程度の微分や積分に対する理解が必要である。 3変数以上の変数をもつ多変数関数を扱うには線形代数の知識も必要である。線形代数学も履修することが望ましい。	
準備学習の内容 教科書の対応箇所を読んでくる。復習として、問題集などで問題を解いておく。	
教科書 水本 久夫 『微分積分学の基礎 改訂版』 培風館	
参考書 微分積分学の教科書・参考書はたくさんあるので自分にあうものを探して下さい。 経済系の学生向けに書かれた解析学の教科書としては例えば、以下のものがある。 小宮英敏 著 「入門 経済学のための微分・積分 高校数学から経済数学へ」 東洋経済新報社 西原健二他 著 「経済系のための微分積分」	
課題に対するフィードバックの方法 小テストの解説は授業の中で行う。	
成績評価の方法 定期試験：90% 小テスト：10%	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) MAT131J	
解析学Ⅱ	2単位
	1・2年次
講師 遠藤直樹	
授業の概要・到達目標 解析学Ⅰにおいて、1変数関数の微分法を学んだ。本講義では、多変数関数の微分法に関する事項を扱う。 多変数関数の連続性及び偏微分可能性、全微分可能性などの概念を正しく理解し、合成関数の微分を始めとした微分法に関する基本的な計算ができるようになることが目標である。	
授業内容 第1回 解析学Ⅰの復習 第2回 多変数関数の極限と連続性 第3回 偏微分 第4回 全微分 第5回 接平面 第6回 高階偏導関数 第7回 多変数合成関数の微分 第8回 多変数関数の微分の基本的性質 第9回 多変数関数の平均値の定理 第10回 多変数関数のTaylorの定理 第11回 陰関数定理 第12回 逆関数定理 第13回 多変数関数の極値 第14回 条件付き極値問題	
履修の注意点 解析学Ⅰの内容を理解しておくこと。	
準備学習の内容 数学は積み重ねの学問であるので、毎回の講義の後には必ず復習をすること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 長岡亮介、渡辺浩、矢崎成俊、宮部賢志著『新しい微積分〈下〉』講談社	
課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答例を公開する。演習課題を含めた個別の質問に対しては演習の時間に対応する。	
成績評価の方法 期末試験70%、演習・レポート30%で評価する。 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) STS111J	
科学史 A 【2022年度以降入学者】 歴史における科学 【2021年度以前入学者】	2単位
	1・2年次
准教授 稲葉 肇	
授業の概要・到達目標 科学はわれわれの考え方や生き方に大きな影響を与えている。しかし、現在見られるような科学的知識の体系が、人類の始まりとともに存在したわけではない。それは長い時間をかけて、多くの人々が、試行錯誤を重ねながら、作り出してきたものである。つまり人間の営為としての科学には歴史があり、それゆえ科学史というアプローチが可能となるのである。 科学史は科学そのものと同じくらい、あるいはそれ以上に幅広い分野である。本講義ではその中でも、古代ギリシアから近世ヨーロッパに至る天文学と自然学（物理学）の歴史を題材として、科学の歴史的变化を論ずるための基本的な概念や観点を習得することを目標とする。	
授業内容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 科学史という学問について 第3回 古代の天文学（1）天球の概念 第4回 古代の天文学（2）プトレマイオスの体系 第5回 古代の自然学（1）アリストテレスの形而上学 第6回 古代の自然学（2）アリストテレスの自然学 第7回 天文学の革新（1）コペルニクスの太陽中心説：科学革命のはじまり 第8回 天文学の革新（2）ティコの天文観測からケプラーの法則へ 第9回 天文学の革新（3）ガリレオの望遠鏡 第10回 自然学の革新（1）ガリレオの落下法則 第11回 自然学の革新（2）ベーコンの帰納法 第12回 自然学の革新（3）デカルトの形而上学と自然学 第13回 ニュートンの総合：科学革命の完成 第14回 まとめ	
履修の注意点 必要な数学・天文学・物理学の知識は講義内で説明する。「科学史B」（または「社会の中の科学」；秋学期）も関連科目である。	
準備学習の内容 授業で配布する資料をよく読んでおくこと。	
教科書 使用しない。	
参考書 『科学革命』L. Principe（丸善出版サイエンスパレット）2014年	
課題に対するフィードバックの方法 定期試験に対する全体講評を行う。	
成績評価の方法 論述式の期末定期試験（100%）による。	
その他 授業中に私語をはじめとする妨害行為が認められた場合には、当該の学生の成績を減点することがある。	

科目ナンバー：(PE) STS111J	
科学史B【2022年度以降入学者】	2単位
社会の中の科学【2021年度以前入学者】	1・2年次
准教授 稲葉 肇	
授業の概要・到達目標 科学と科学者は社会から隔絶された存在ではない。むしろ、科学が科学者という人間によってなされる営みである以上、科学の歴史を論ずるにあたっては、さまざまな制度的・社会的要素を考慮することは不可欠であると言ええる。ここに科学の社会史と呼ばれる分野の存在意義がある。 この講義では、主として欧米諸国の事例を通じて、科学とそれを取り巻く制度・社会・文化との関係を講ずる。これにより、科学から社会への影響と、社会から科学への影響を考察するためのさまざまな視点を涵養することを目指す。	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 キリスト教と科学 第3回 中世西欧の大学 第4回 科学革命と学会の形成 第5回 啓蒙主義と科学 第6回 フランス革命と科学 第7回 ドイツ大学改革と科学 第8回 「サイエンティスト」と「エンジニア」 第9回 産業革命とイギリスの科学 第10回 アメリカ産業社会における科学 第11回 日本の大学と科学 第12回 ナショナリズムと科学 第13回 戦争と科学 第14回 まとめ	
履修の注意点 必要な数学・物理学の知識は講義内で説明する。「科学史A」(または「歴史における科学」;春学期)も関連科目である。	
準備学習の内容 教科書と授業で配布する資料をよく読んでおくこと。	
教科書 『科学の社会史：ルネサンスから20世紀まで』古川安(ちくま学芸文庫)2018年	
参考書 『近代ヨーロッパ大学史』アンダーソン(昭和堂)2012年	
課題に対するフィードバックの方法 定期試験に対する全体講評を行う。	
成績評価の方法 論述式の期末定期試験(100%)による。	
その他 授業中に私語をはじめとする妨害行為が認められた場合には、当該の学生の成績を減点することがある。	

科目ナンバー：(PE) STS111J	
技術史A【2022年度以降入学者】	2単位
技術の歩み【2021年度以前入学者】	3・4年次
古代・中世・近代の技術【2016年度以前入学者】	
兼任講師 河西 棟馬	
授業の概要・到達目標 本講義では前史時代から産業革命直前期までを対象に、(西洋中心主義の誹りは覚悟した上で)西洋世界の技術史を検討する。「技術」は常にその時々社会・経済・政治・文化・環境等と技術は相互に規定しあう関係にあり、また、常に何らかの目的のために用いられるものである。本講義では「技術の目的」という視点から、近代以前の技術史を概観していく。 【到達目標】 過去の技術の発展と社会的背景の結びつきを理解するとともに、歴史的文脈の中で過去・現在の技術について分析する能力を養う。	
授業内容 第1回目 導入(分析対象の概念的整理)、現生人類登場以前から新石器革命まで 第2回目 古代(1) 文明と国家の始まり(文字記録システムと官僚制、治水事業、大建築) 第3回目 古代(2) 戦争技術の起こりと古代の冶金技術 第4回目 古代(3) ヘレニズム文化における科学と技術 第5回目 古代(4) ローマ帝国時代の土木と建築、古代世界の終焉 第6回目 中世(1) 中世ヨーロッパの農業と動力 第7回目 中世(2) ゴシック建築の時代：神を荘厳するための技術 第8回目 中世(3) 機械式時計の発明と近代以前の時間意識 第9回目 中世(4) 商業および都市の復活：中世の手工業と商業数学 第10回目 近世(1) 東から西への技術移転：製紙、羅針盤、火薬、印刷術 第11回目 近世(2) ルネサンスの技術者たちと遠近法 第12回目 近世(3) 活版印刷のインパクト 第13回目 近世(4) 火器の導入と軍事革命 第14回目 近世(5) 技術史側から見た科学革命	
履修の注意点 特に履修要件は設けないが、科学・技術及び歴史学に一定の関心があることが望ましい。	
準備学習の内容 必要に応じて講義前に該当回の講義資料に目を通しておくことが望ましい。	
教科書 特に設けない。	
参考書 講義中に指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の講義冒頭で前回の質問およびコメントに対して講師より応答を行う。	
成績評価の方法 毎講義後のリフレクションシートの提出(平常点)と最終レポートで評価する。評価の比重は平常点を50%、最終レポートを50%とする。	
その他 資料の印刷・配布はしないため、各自講義資料をプリントアウトして持参するか、あるいは資料の閲覧が可能な端末(ラップトップPCあるいはタブレットなど)を持参することが望ましい。	

科目ナンバー：(PE) STS111J	
技術史B【2022年度以降入学者】	2単位
科学技術と現代社会【2021年度以前入学者】	3・4年次
近代・現代の技術【2016年度以前入学者】	
兼任講師 河西棟馬	
授業の概要・到達目標 本講義では産業革命期から現代までを対象に、西洋世界の技術史を検討する。従来科学は技術とは別系統で発展してきたが、近代以降は国家や資本を介して技術との結びつきを急速に強めていく。技術の「科学技術」化とともに、科学もまた目的駆動的（つまりは技術的な）性格を持つようになる。本講義では〈国家・資本を介した科学・技術の融合〉という視点から、近現代の技術史を概観していく。 【到達目標】 過去の技術の発展と社会的背景の結びつきを理解するとともに、歴史的文脈の中で過去・現在の技術について分析する能力を養う。	
授業内容 第1回目 導入：産業革命概論 第2回目 繊維産業の歴史的意義：近代的産業経済の形成 第3回目 応用化学：塩素漂白から合成染料まで 第4回目 機械工業：鉄・石炭・蒸気機関 第5回目 陸海交通輸送インフラの形成：道路・鉄道・蒸気船 第6回目 19世紀のグローバリゼーション：帝国の技術としての電気通信 第7回目 第二次産業革命概論 第8回目 電灯・電力システムの形成 第9回目 生産の「科学」化：標準化部品・互換性・科学的管理・大量生産 第10回目 動力輸送技術の転換：石油・内燃機関・自動車・航空技術 第11回目 総力戦時代の科学技術（1）ハーバー・ボッシュ法と第一次大戦 第12回目 総力戦時代の科学技術（2）マンハッタン計画と原爆開発 第13回目 冷戦とコンピュータ・インターネット 第14回目 総括	
履修の注意点 特に履修要件は設けないが、科学・技術及び歴史学に一定の関心があることが望ましい。	
準備学習の内容 必要に応じて講義前に該当回の講義資料に目を通しておくことが望ましい。	
教科書 特に設けない。	
参考書 講義中に指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の講義冒頭で前回分の質問およびコメントに対して講師より応答を行う。	
成績評価の方法 毎講義後のリフレクションシートの提出（平常点）と最終レポートで評価する。評価の比重は平常点を50%、最終レポートを50%とする。	
その他 資料の印刷・配布はしないため、各自講義資料をプリントアウトして持参するか、あるいは資料の閲覧が可能な端末（ラップトップPCあるいはタブレットなど）を持参することが望ましい。	

科目ナンバー：(PE) BPH171J	
物理科学概論A【2022年度以降入学者】	2単位
物理の世界【2021年度以前入学者】	1・2年次
物質の成り立ち【2016年度以前入学者】	
兼任講師（理）内田俊郎	
授業の概要・到達目標 授業の概要 この授業では物理学の基礎を解説し、現代物理学が到達した物質観を学ぶ。前半で、古典力学から量子力学に至る物理学の基礎を概説し、ついで原子核や放射線、原子核分裂等に話を進める。原子核に関連して原子力発電を多少詳しく解説する。最後に現在、解明されている物質の基礎的な構成要素（素粒子）とそれらに働く基礎的な相互作用を説明する。 到達目標 新聞・雑誌、ニュース等に現れる物理学、特に原子力に関する用語の意味を理解し、説明できる。	
授業内容 1. 講義内容の紹介、物理学の歴史 2. 古典力学と近代物理学の成立 3. 巨視的世界と微視的世界、巨大数の世界 4. 熱の本性と性質 5. 電磁気学の成立 6. 特殊相対性理論 7. ミクロな物質の世界と古典物理学の限界 8. 原子の構造と量子力学 9. 原子から原子核へ、原子核の性質 10. 同位体と放射線 11. 核分裂の発見と連鎖反応 12. 原子炉と原子力発電 13. クォークとレプトン、原子核から素粒子へ 14. 4つの力と素粒子の標準模型、まとめ	
履修の注意点 高校の物理や数学の知識は不要だが、中学で学習した程度の数式は使う。	
準備学習の内容 配布資料で予習、復習してください。	
教科書 教科書は指定しない。 PDFファイルで資料を配布する。	
参考書 安孫子誠也 著「歴史をたどる物理学」東京教学社 S.ワインバーグ 著「電子と原子核の発見」ちくま学芸文庫 山本義隆 著「原子・原子核・原子力 わたしが講義で伝えたかったこと」岩波書店 朝永振一郎 編「物理学読本」みすず書房 その他、授業の中で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 課題のフィードバックは授業時間中に行う。	
成績評価の方法 定期試験 90%、授業への取り組み10%。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) BPH171J	
物理科学概論B【2022年度以降入学者】 物質と宇宙【2021年度以前入学者】	2単位 1・2年次
兼任講師(理) 内田俊郎	
授業の概要・到達目標 20世紀を通じて原子や原子核などの微視的な世界の理解が進むと同時に、それらの知識を宇宙に応用することにより宇宙に対する理解も進んだ。この講義では恒星を主題として宇宙が物理法則でどのように理解されるのか、我々のまわりにある元素がどのように作られたのかを説明する。 近寄ることができない恒星の状態をどのようにして知ることができるのか、恒星のエネルギー源は何か、恒星の進化やその終末、元素の起源などを理解し、我々と宇宙の関係性を知ることが目標とする。	
授業内容 1. ガイダンス、宇宙の階層構造、ビッグバン宇宙論の概要 2. 恒星のみかけの「明るさ」 3. 恒星までの距離と恒星の絶対等級 4. 恒星からの光、スペクトル、光度、表面温度、HR図 5. 恒星の質量と組成、質量光度関係 6. 恒星のエネルギー源 7. 恒星の内部 8. 恒星の進化1 9. 恒星の進化2 10. 恒星の終末1 - 高密度星 11. 恒星の終末2 - 超新星 12. 元素の起源 13. ブラックホール 14. まとめ	
履修の注意点 高校の物理や地学、数学の知識は前提とせず、必要なことは解説する。中学で履修した程度の数学は使用する。 「記憶」より、「理解」や「考えること」を重視する。頭を使うのを厭う人はこの講義を履修しないほうがよい。	
準備学習の内容 予習 レジュメを読んでくる。 復習 復習用の課題を出す。	
教科書 教科書は指定しない。 資料をpdfファイルで配布する。	
参考書 ・米山忠興 著「教養のための天文学講義」丸善株式会社 ・中嶋浩一 著「天文学入門 星とは何か」丸善株式会社	
課題に対するフィードバックの方法 課題のフィードバック・解説は授業中に行う。	
成績評価の方法 定期試験：95% 授業への貢献など：5%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) BHP171J	
環境科学概論A【2022年度以降入学者】 エネルギーと環境【2021年度以前入学者】	2単位 1・2年次
兼任講師 市野美夏	
授業の概要・到達目標 近年、環境の悪化が人類だけでなく、生物全体に及ぼす影響が懸念され、大きな社会問題となっています。世界的な異常気象に加えて、日本では豪雨災害が毎年発生するなど、「地球温暖化」への懸念が年々増しています。このような中、2021年には気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第6次報告書が発表され、「人間の影響による大気、海洋、及び陸域の温暖化に疑いの余地はない」とされました。さらに、気候モデル研究の第一人者である眞鍋淑郎博士がノーベル物理学賞を受賞し、2023年にはCOP28が開催されるなど、地球温暖化への関心がこれまで以上に高まりました。一方、「地球温暖化」は地球規模での科学、政治、経済、社会など多様な分野を巻き込む複雑な問題です。地球システムは多くの構成要素から成り立ち、そのサブシステムである気候システムの理解も容易ではありません。そのため、変化のメカニズムや時間スケールに関する誤解や混同が見られ、多くの人は「地球温暖化については知っているが、詳細はよくわからない」と感じているのではないのでしょうか。 本講義では、地球温暖化に対する科学的理解を深めるため、まず、気候の形成に重要な物理法則などの基本的な概念を学びます。そして、過去に起こった気候変動を取り上げ、全地球環境史という広い視点から気候変動の全体像を俯瞰します。国際的、国家的な努力がなされているものの、社会を構成する一人一人が地球温暖化について正しく理解し、それに基づく行動を取ることが必要です。そのため、受講者には、気候システムや過去の気候変動に関する学習を通じて、現在人類が直面している地球温暖化問題について、各々の視点から考察することを求めます。	
授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：太陽放射とアルベド 第3回：放射の基礎と地球放射 第4回：放射エネルギー収支 第5回：大気のない放射収支 第6回：大気層を含む放射収支 第7回：温室効果 第8回：全球凍結とは 第9回：気候ジャンプ 第10回：炭素循環 第11回：酸素の増加 第12回：古生代の気候変動 第13回：大量絶滅-PT境界 第14回：総合演習とまとめ	
履修の注意点 この講義では、中学校卒業レベルの数学と理科の知識が前提とされます。また、高校1年生程度の数学、物理、化学の知識があると理解が深まります。数式を使用した講義内容も含まれています。 講義中には、受講者が意見を発表する機会も設けられており、積極的な参加が望まれます。 後期に開講される「環境科学概論B」は、本講義の続編です。こちらでは新生代以降の気候変動を扱います。「環境科学概論B」では、本講義の内容が前提知識とされるため、「環境科学概論B」を受講する前に本講義を受講することを推奨します。	
準備学習の内容 各講義中に配布される資料は、その後の復習に役立ちます。講義の理解を深めるため、これらの資料を活用して、講義後に自主的に復習することをお勧めします。特に基礎的な項目については、次の講義に進む前に十分に理解しておくことが重要です。疑問点があれば、次回の講義の始めに質問することで、理解を深めることができます。 また、講義の理解を助けるために演習問題や考察課題を用意しています。これらの宿題は、復習だけではなく、次の講義への準備や質問を促すためのものです。過度な負担とならないよう配慮しており、各自のペースで取り組んでいただくことが望まれます。	
教科書 教科書は特に決めていませんが、各講義で配布される資料には、学習を深めるための参考文献も含まれています。	
参考書 この講義では、特定の参考書を必須とはしていませんが、講義で使用する図表やデータの引用文献を配布資料に記載しています。これらの文献は専門性が高く、難易度もありますが、知識を深めたいと考える方には良い資源となります。ただし、これらは学びの補完として位置づけられており、基本的な講義内容の理解に集中することをお勧めします。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、講義への積極的な参加・貢献度と、期末試験の結果を総合的に評価して決定します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ENV191J	
環境科学概論B【2022年度以降入学者】	2単位
環境と社会【2021年度以前入学者】	1・2年次
兼任講師 市野美夏	
授業の概要・到達目標 近年、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告や、眞鍋淑郎博士のノーベル物理学賞受賞により、地球温暖化が社会的、科学的に大きな注目を集めています。本講義では、この現代の緊急課題に焦点を当て、気候変動のメカニズムを深く理解するための学びを展開します。環境科学概論Aで触れた基礎知識に基づき、人類の歴史を通じた気候変動の詳細な分析と、その現代社会への影響を探索します。	
受講者は以下の目標を達成することが期待されます：	
1. 新生代を通じた長期の気候変動の理解：人類の歴史に沿った気候変動のパターンを学び、その科学的背景を理解します。 2. 現代の気候問題への洞察：最新の気候変動研究や政府間パネル（IPCC）の報告を参考に、現代の地球温暖化問題への深い洞察を得ます。 3. 地球温暖化問題の再考：既に学んだ知識を活用して地球温暖化問題を再考し、その理解を深めます。	
この講義を通じて、受講者は地球温暖化という複雑な問題への科学的な理解を深め、現代社会における重要な課題への対応能力を高めることができますでしょう。	
授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：放射収支の基礎（環境科学概論Aの復習） 第3回：大気循環の基礎 第4回：新生代の気候変動 第5回：ヒマラヤ隆起と寒冷化 第6回：第四紀の気候：氷期と間氷期 第7回：ミランコビッチサイクル 第8回：最終氷期 第9回：急激な気候変動と熱塩循環 第10回：完新世前期の気候変動 第11回：過去2000年の気候変動 第12回：20世紀の気候と地球温暖化 第13回：気候モデル実験と将来予測 第14回：まとめと総合演習	
履修の注意点 この講義では、中学校卒業レベルの数学と理科の知識を前提としています。また、高校1年生程度の数学、物理、化学の知識があることが望ましいです。講義には数式を用いる部分もありますので、これらの基礎的な科学知識が役立ちます。	
前期に開講される「環境科学概論A」では、本講義の第2回の内容を6回にわたって詳細に学びます。したがって、できるだけ「環境科学概論A」を受講した上で本講義に臨むことをお勧めします。環境科学概論Aを受講していない場合、その6回分の内容について自習する必要があります可能性があります。	
また、講義中には受講者が自身の意見を発表する機会も設けられています。積極的な参加と意見交換が講義の理解を深める上で重要です。	
準備学習の内容 各講義内容は、次回以降の講義を理解するために必要な事柄を扱います。そのため、講義後は配布資料等を活用して復習し、これが次回の講義の予習となります。特に基礎的な項目は、次の講義に進む前に十分に理解しておくことが重要です。もし疑問点があれば、次回の講義の始めに質問して、理解を深めるようにしましょう。	
さらに、講義の理解を支援するために演習問題や考察課題を宿題として用意しています。これらは復習のためだけでなく、次の講義への準備や質問のためのものでもありますので、各自で取り組むことをお勧めします。	
教科書 教科書は特に定めていませんが、各講義で配布される資料には、学習を深めるための参考文献も含まれています。	
参考書 この講義では、特定の参考書を必須とはしていませんが、講義で使用する図表やデータの引用文献を配布資料に記載しています。これらの文献は専門性が高く、難易度もありますが、知識を深めたいと考える方には良い資源となります。ただし、これらは学びの補完として位置づけられており、基本的な講義内容の理解に集中することをお勧めします。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、講義への積極的な参加・貢献度と、期末試験の結果を総合的に評価して決定します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) BBI191J	
生命科学概論A【2022年度以降入学者】	2単位
生物の成り立ちと生命現象【2021年度以前入学者】	1・2年次
兼任講師 田口瑞姫	
授業の概要・到達目標 「生命科学」という言葉をどう捉えるだろうか。20世紀後半、ワトソンとクリックによるDNAの二重らせん構造の発見は生命科学の発展に寄与し、ヒトゲノムの解読は生命科学分野だけでなく、我々ヒトや生物の見方に大きく影響を与えた。こんな歴史はともかくとして（大事なので授業では触れますが）、現代において生命科学という存在は私たちの日常生活に密接に関係してきている。何気なく雑誌を手にとれば「DNA」や「マクロファージ」、「mRNA」といった言葉が並び、その意味を知らなければ記事の内容を理解することもできない。現代社会において生命科学的な知識は、ある程度の一般常識として身につけておくべきものになっている。	
この授業では、生命科学の基本的な知識、およびそれらが現代社会にどう関わっているのかを解説する。大学入試のような暗記科目としてではなく、現代社会を生きていく上で必要な生命科学的な知識を得ること、あふれている様々な情報から正しいものを選択できるようになることが目標である。	
授業内容 第1回：生物の共通性と多様性 第2回：細胞1 基本構造 第3回：細胞2 細胞の分裂 第4回：ゲノムと個性1 セントラルドグマ 第5回：ゲノムと個性2 エピゲノム 第6回：発生1 個体発生 第7回：発生2 幹細胞・再生 第8回：内分泌と神経 第9回：性と生殖1 性の決定 第10回：性と生殖2 有性生殖と無性生殖 第11回：感染と免疫 第12回：進化1 第13回：進化2 第14回：生命科学と社会 ※授業の進捗状況により内容は前後する可能性があります。	
履修の注意点 毎回の授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。	
準備学習の内容 予習・復習することをおすすめします。	
教科書	
参考書 必要があれば授業内で紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 定期試験もしくはレポート課題 40% 授業への参加度 60%	
その他	

科目ナンバー：(PE) BBI191J	
生命科学概論B【2022年度以降入学者】	2単位
生命とバイオテクノロジー【2021年度以前入学者】	1・2年次
兼任講師 飯島和樹	
授業の概要・到達目標 前期の生命科学概論 A からの発展として、マクロな生物現象に関わる生物学分野（進化生物学、生態学、神経科学など）を扱う。特に、政治経済について考察する上で重要な意義を持つ、人間の生物学的側面に関わる知見を紹介する。授業の前半では、遺伝現象から進化のメカニズムを理解し、進化の産物として人間行動を理解するアプローチを紹介する。授業の後半は、神経細胞の働きから知覚・運動を生み出す脳のメカニズムを概説し、経済的意思決定や道徳判断などの社会行動を生み出す脳の働きについての理解を深める。最終的には、こうした人間行動についての機械論的理解と、日常的な世界像が前提とする人間の自由とがどのように調停可能であるのかを考察する。また、基礎的な生物学の知識だけでなく、生命や生命科学技術に関する倫理的・法的・社会的な課題も取り扱う。 本講義を通じて、マクロな生物学についての基礎的な知識を獲得するとともに、政治や経済といった人間固有に思われる社会現象の背後にある生物学的な基盤について見通す感覚を養ってほしい。本講義を通じて、政治経済に対するパースペクティブがより豊かなものとなることを期待する。	
授業内容 第1回 政治経済学部生が生物学を学ぶ理由 第2回 進化生物学序論（1）：進化のメカニズム 第3回 進化生物学序論（2）：分子進化学 第4回 進化生物学序論（3）：進化とゲーム理論 第5回 進化と人間行動（1）：人類の進化 第6回 進化と人間行動（2）：協力行動 第7回 神経科学序論（1）：神経細胞 第8回 神経科学序論（2）：知覚 第9回 神経科学序論（3）：運動 第10回 神経経済学（1）：報酬系 第11回 神経経済学（2）：意思決定と経済行動 第12回 道徳の神経科学：道徳判断 第13回 神経科学と自由意志 第14回 神経倫理学／神経科学技術の ELSI （講義内容は、授業の進行状況等により変更する場合がある）	
履修の注意点 この講義では、高校1年生程度の数学、生物の知識があることを前提とする。数式を用いる箇所もある。統合的な生命理解のためには、生命科学概論 A を履修していることが望ましいが必須ではない。	
準備学習の内容 各講義内容は、次回以降の講義内容を理解する上で必要な事柄について学習するため、講義後は配布したスライド資料や紹介した参考文献などで復習することで、次回以降の予習となる。疑問点などがあれば、次の講義のはじめに質問し、理解した上で次の講義に進むよう心がける。	
教科書 特に定めない。	
参考書 カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000194951 カラー図解 進化の教科書 第1-3巻（講談社） 長谷川寿一・長谷川真理子・大槻久 http://www.utp.or.jp/book/b600572.html 進化と人間行動 第2版（東京大学出版会） 三上章允 https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000370445 カラー図解 脳の教科書：はじめての「脳科学」入門（講談社） エリック・R・カンデルら http://119.245.210.133/book/archives/2922 カンデル神経科学 第2版（メディカル・サイエンス・インターナショナル） （その他、関連書籍を講義中に紹介する）	
課題に対するフィードバックの方法 小レポートについては、全体についての講評をフィードバックする。	
成績評価の方法 授業への参加度、小レポートおよび期末試験から総合的に判断する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ARS191J	
国際文化特殊講義 A【2022年度以降入学者】	2単位
国際文化特殊講義 I【2021年度以前入学者】	1・2年次
准教授 兼子 歩	
授業の概要・到達目標 この授業は、アメリカ合衆国の歴史を「クィア」な視点から読み直すことを目的としている。合衆国のもとになったイギリス人による北米大陸東海岸の植民地建設の時代から、21世紀までを概観することで、アメリカ史におけるLGBTQの歩みの経験、かれらをとりにくく社会の状況、かれらのサバイバルと抵抗、そしてかれらがアメリカにもたらしてきたものについて考える。	
授業内容 各週の授業内容は以下の通り。 1) イントロダクション 2) 迫害社会（植民地期） 3) 性的に曖昧な革命（アメリカ革命と建国） 4) クィアなアメリカを想像する（アンテベラム期） 5) 死と芸術の民主主義（南北戦争と再建期） 6) 危険な純潔（20世紀転換期） 7) 舞台上の生／都会の生（同） 8) ジェンダーの生産とマーケティング（20世紀前半） 9) 監獄でのセックス（第二次世界大戦期） 10) 目に見えるコミュニティ／目に見えない人びとの生活（戦後） 11) 反乱／バックラッシュ／抵抗（1960年代～1980年代） 12) LGBTQと新しい資本主義（1980年代～現代） 13) 同性婚の時代（1990年代～現代） 14) トランスジェンダーのアメリカ（20世紀後半～現代） 第2週～第11週までは、教科書（『クィアなアメリカ史』）を使用する。前の週に扱う章に登場する時代に関する解説を簡単に行うので、当日前に教科書の該当する章を読み、Oh-ol Meiji上で小テストに回答する。当日は小テストの解説を行い、またOh-ol Meijiを通じて寄せられた質問やコメントなどに対してレスポンスする。 第12週～第14週は、教科書が扱っていない範囲について講義を行う。こちらは、授業の後でOh-ol Meijiを通じて小テストに回答すること。	
履修の注意点 教科書は必ず購入すること。	
準備学習の内容 事前ないし事後の小テストには必ず回答すること。	
教科書 マイケル・ブロンスキー『クィアなアメリカ史』（兼子歩・坂下史子・高内悠貴・土屋和代訳）勁草書房、2023年。 第12週～第14週は、レジュメを配布するため教科書を購入する必要はない。	
参考書 授業の中で随時紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答や、質問・コメントに対するレスポンスは、授業の中で行うか、あるいはまとめて文書化してOh-ol Meijiを通じて配信する。	
成績評価の方法 授業の事前・事後の小テストのみによって評価する。なお、小テストに回答するためには、授業に出席する必要がある。	
その他 この授業では、インターンシップや、体育会の練習や競技会への出場などに対する特別な措置は講じないので注意すること。 ただし、体育会の大会のうち大学ないし学部から派遣される場合は、公欠に準じた扱いをするので、証明しうる書類のコピーを提出すること。また、インフルエンザや新型コロナウイルスなど感染症による出席停止の場合は、診断書のコピーを提出することで停止期間に該当する回を公欠扱いとする。	
以上に該当しない特殊事情の場合は、個別に判断するので、遠慮なく担当教員に相談すること。	

科目ナンバー：(PE) ARS191J	
国際文化特殊講義B【2022年度以降入学者】	2単位
国際文化特殊講義II【2021年度以前入学者】	1・2年次
准教授 稲葉 肇	
授業の概要・到達目標 本講義では、19世紀のヨーロッパで論じられた物理学の世界像、とくに力学的世界像を取り上げ、その科学史的意義を考える。力学とは物体の運動ならびに物体間にはたらく力の物理学であり、力学的世界像とはこの世界のすべての現象は究極的には力学によって理解・説明されるという主張である。このような主張は、もちろん今日の現代物理学からすればあまりにも素朴で説得力をもたないが、19世紀には力学は社会科学を含めた諸科学の範型ないし理想としての地位を築いていたのである。他方で、当時からすでに力学的世界像の妥当性や含意については数多くの異論があった。 受講生には当時のテキストに触れてもらいながら、ある科学理論がもつ狭義の含意のみならず、より広い哲学的・文化的含意をも含めた重層的な歴史理解を目指す科学史研究の手法に習熟することが期待される。	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 世界像と世界観 第3回 力学の基本的特徴 第4回 「ニュートンの力学」から「ニュートン力学」へ 第5回 ラプラスの力学的世界像 第6回 諸科学の範型としての力学 第7回 唯物論論争 第8回 イグノラビムス論争 第9回 新しい物理学の登場（1）熱力学 第10回 新しい科学観と新しい力学 第11回 統計力学と力学的世界像 第12回 新しい物理学の登場（2）電磁気学 第13回 「現代」物理学と「古典」力学 第14回 まとめ	
履修の注意点 講義の性格上、数学や物理学に関する概念的説明は避けられないが、具体的な計算や証明は求めない。	
準備学習の内容 授業で配布する資料をよく読んでおくこと。	
教科書 使用しない。	
参考書 『物理学の誕生：エネルギー・力・物質の概念の発達史』ハーマン（朝倉書店）1991年 『20世紀物理学史（上）』カーオ（名古屋大学出版会）2015年	
課題に対するフィードバックの方法 期末試験に対する全体講評を行う。	
成績評価の方法 期末定期試験（100%）による。	
その他 授業中に私語をはじめとする妨害行為が認められた場合には、当該の学生の成績を減点することがある。また、本講義は担当者が現在進めている研究にもとづくため、内容の大幅な変更がありうる。	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(A) 【2022年度以降入学者】 ACE I (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 火曜 4 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation 第4回目 Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation 第5回目 Mini Debate Topic Presentation All Teams 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion 第8回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice 第9回目 First Debate Topic Presentation All Teams 第10回目 Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development 第11回目 Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion 第12回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice 第13回目 Final Debates in Groups 第14回目 Vocabulary Sheet Submission (Google Classroom), Final Debate Review	
履修の注意点 Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course. This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students also cannot repeat this class in the fall semester, as it is designed as a one semester class.	
準備学習の内容 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES (JPEG, PNG, GIF, etc) for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.	
教科書 No textbook required.	
参考書 Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class	
課題に対するフィードバックの方法 We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course, Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom.	
成績評価の方法 30% Weekly Review (research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online) 30% Participation (students will need to be actively involved in the class) 40% Assessment (includes two debates, a mini-debate, debate-related preparation assignments)	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(U) 【2022年度以降入学者】 ACE I (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 火曜 5 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation 第4回目 Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation 第5回目 Mini Debate Topic Presentation All Teams 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion 第8回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice 第9回目 First Debate Topic Presentation All Teams 第10回目 Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development 第11回目 Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion 第12回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice 第13回目 Final Debates in Groups 第14回目 Vocabulary Sheet Submission (Google Classroom), Final Debate Review	
履修の注意点 Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course. This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students also cannot repeat this class in the fall semester, as it is designed as a one semester class.	
準備学習の内容 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES (JPEG, PNG, GIF, etc) for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.	
教科書 No textbook required.	
参考書 Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class	
課題に対するフィードバックの方法 We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course, Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom.	
成績評価の方法 30% Weekly Review (research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online) 30% Participation (students will need to be actively involved in the class) 40% Assessment (includes two debates, a mini-debate, debate-related preparation assignments)	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study (U) 【2022年度以降入学者】 ACE I (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 1 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハイネス、マーティン	
授業の概要・到達目標 This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; immigration, Japan's changing society, education, the role of women in society, and crime. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary (through reading assignments) and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.	
授業内容 Week 1. Introduction / The World Today 1. Week 2. Education 1. School life Week 3. Education 2. Education systems around the world Week 4. Focus on Japan 1. A changing society Week 5. Focus on Japan 2. Tourism & immigration Week 6. The World Today 2. Week 7. Racism & Discrimination Week 8. Immigration 1. 'A world without borders' Week 9. Immigration 2. Political asylum / Economic refugees Week 10. Crime & Punishment 1. Week 11. Crime & Punishment 2. Week 12. The World Today 3. Week 13. Women in the workplace 1. Week 14. Final presentations, course review & explanation	
履修の注意点 This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.	
準備学習の内容 Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles (provided by the lecturer) or research. Additionally, students will conduct on-line research and prepare for their final presentations. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.	
教科書 There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 Any Feedback from assignments will be provided after the class.	
成績評価の方法 A student's final grade will be based on the following: Classroom participation & attendance Homework A final presentation	
その他	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(A) 【2022年度以降入学者】 ACE I (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 3 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ライト、アレックス	
授業の概要・到達目標 This class will aim to teach students about the basic concepts international relations as well as improve their English skill through a variety of related activities. Students will learn to think critically about historical and current events by understanding the concepts which drive international events. Students will improve their English through listening to short lectures, short readings, discussions, learning the vocabulary of the field and a short debate and presentation. 1 単位	
授業内容 第 1 回 Course introduction 第 2 回 Concepts in Realism: anarchy, the security dilemma, and balance of power 第 3 回 Concepts in Realism: structural realism, polarity, alliance politics 第 4 回 Concepts in Realism: defensive realism, balance of threat, arms racing 第 5 回 Concepts in Liberalism: democratic peace theory and collective security 第 6 回 Concepts in Liberalism: International organizations and regimes 第 7 回 Concepts in Liberalism: Interdependence and international law 第 8 回 Debate: Realism vs Liberalism 第 9 回 Concepts in Constructivism identities, interests, and Norms 第10回 Nature of anarchy in international relations 第11回 Psychology in international relations 第12回 Peace strategies 第13回 Presentation: Relating concepts to current events and history 第14回 Test	
履修の注意点 This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.	
準備学習の内容 Please review the readings and think about the discussion questions I distribute to prepare before each class. Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.	
教科書 No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 25% Quizzes 25% Test 25% Debate 25% Presentation	
その他 If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(A) 【2022年度以降入学者】 ACE I (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 火曜 4 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation 第4回目 Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation 第5回目 Mini Debate Topic Presentation All Teams 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion 第8回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice 第9回目 First Debate Topic Presentation All Teams 第10回目 Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development 第11回目 Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion 第12回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice 第13回目 Final Debates in Groups 第14回目 Vocabulary Sheet Submission (Google Classroom), Final Debate Review	
履修の注意点 Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course. This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students who took the Tuesday class in the spring semester must inform me before registering for the class, as it is designed as a one semester class.	
準備学習の内容 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES (JPEG, PNG, GIF, etc) for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.	
教科書 No textbook required.	
参考書 Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class	
課題に対するフィードバックの方法 We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course, Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom.	
成績評価の方法 30% Weekly Review (research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online) 30% Participation (students will need to be actively involved in the class) 40% Assessment (includes two debates, a mini-debate, debate-related preparation assignments)	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(U) 【2022年度以降入学者】 ACE I (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 火曜 5 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation 第4回目 Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation 第5回目 Mini Debate Topic Presentation All Teams 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion 第8回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice 第9回目 First Debate Topic Presentation All Teams 第10回目 Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development 第11回目 Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion 第12回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice 第13回目 Final Debates in Groups 第14回目 Vocabulary Sheet Submission (Google Classroom), Final Debate Review	
履修の注意点 Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course. This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students who took the Tuesday class in the spring semester must inform me before registering for the class, as it is designed as a one semester class.	
準備学習の内容 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES (JPEG, PNG, GIF, etc) for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.	
教科書 No textbook required.	
参考書 Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class	
課題に対するフィードバックの方法 We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course, Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom.	
成績評価の方法 30% Weekly Review (research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online) 30% Participation (students will need to be actively involved in the class) 40% Assessment (includes two debates, a mini-debate, debate-related preparation assignments)	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(M) 【2022年度以降入学者】	1 単位
ACE I (Mixed) 【2021年度以前入学者】	1～4 年次
【和泉】 秋学期 水曜 1 時限	
講師 永 江 敦	
授業の概要・到達目標 <授業の到達目標及びテーマ> 日本語の世界でも同じことだけど、英語でもいろいろなジャンルの言葉使いや文体があって、そのジャンル独特の書き方がある。この授業では、そんな様々なジャンルの英語に触れながら、それを読み解いていく体験をするのが目的である。 原則として、プリントを使用する。 毎時間、必ず課題を出すので、家で頑張ってくること。	
授業内容 第1回目：イントロダクション 第2回目：英語の成立 第3回目：雑誌を読む1 第4回目：雑誌を読む2 第5回目：新聞を読む1 第6回目：新聞を読む2 第7回目：歌詞を読む 第8回目：詩を読む 第9回目：広告を読む 第10回目：小説を読む1 第11回目：小説を読む2 第12回目：シナリオを読む 第13回目：アフレコの作り方 第14回目：論文を読む	
履修の注意点 ACEの履修規定に従うこと。	
準備学習の内容 その都度、指示する。 英語辞典必携。 英和・英々辞典については、初期の段階で詳しく解説する。	
教科書 プリントを使用。	
参考書 随時、指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 オーマイジの機能を利用する。	
成績評価の方法 授業への参加度と期末試験。	
その他 毎回、何らかの課題を出すので必ずやってくること。	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(U) 【2022年度以降入学者】 ACE I (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 1 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハイネス、マーティン	
授業の概要・到達目標 This course will examine major issues currently facing Japan and the world. Examples of the topics, which will be explored, include; multi-culturalism, Japan's changing society, urban life, Populism – the new face of politics, and image in society. The majority of materials and topics for discussion will be provided by the lecturer. However, students will be actively encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Additionally, students are free to suggest topics, which they may find interesting. Although there is no strict format, all lessons will feature pair-work / group discussion and will conclude with a listening activity or a short video clip. The aims of this course are to help students improve their fluency in English, develop their research skills, broaden their vocabulary (through reading assignments) and learn how to think both critically and reflectively on a range of contentious topics.	
授業内容 Week 1. Media Today Week 2. Populism The New Face of Politics Week 3. Urban Life Week 4. Population / Demographics Week 5. Open Topic Week 6. The World This Week Week 7. Cross-Cultural Issues: Education Week 8. Cross Cultural Issues: Family Life Week 9. Open Topic Week 10. Image in Society 1. Week 11. Image in Society 2. Week 12. Social Media Week 13. A look back at 2024 Week 14. Final presentations course review & explanation	
履修の注意点 This is a one-semester course. Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.	
準備学習の内容 Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles (provided by the lecturer) or research.	
教科書 There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 Any Feedback from assignments will be provided after the class.	
成績評価の方法 A student's final grade will be based on the following: Classroom participation & attendance Homework A final presentation	
その他	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(U) 【2022年度以降入学者】	1 単位
ACE I (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1～4 年次
【駿河台】 春学期 火曜 2 時限	
准教授 兼 子 歩	
授業の概要・到達目標 <p>In this class you are expected to achieve basic skills of reading social sciences and humanities texts and of discussing issues related to the texts, both in English. You will enjoy good opportunities not only to learn oral English but also to deepen your understanding of global political and social issues.</p> <p>This year we will read Eric Avila's <i>American Cultural History: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press, 2018). This book covers the transformation of American cultures since the Colonial Era to the Present, casting a light on culture's multiple and hybrid nature, and its complicated relations with society and politics.</p> <p>Each week one of the students are assigned a part of the book and expected to make a presentation using Powerpoint. After questions from other students, we are to discuss various issues related to the assigned article.</p>	
授業内容 1) Introduction to this class 2) "Introduction: The Stories of American History and Why They Matter" 3) "Chapter 1: American Culture in Red, White, and Black" 1/2 4) "Chapter 1: American Culture in Red, White, and Black" 2/2 5) "Chapter 2: Mass Culture and Mass Politics, 1800-1860" 1/2 6) "Chapter 2: Mass Culture and Mass Politics, 1800-1860" 2/2 7) "Chapter 3: The Culture of the City,1860-1900" 1/2 8) "Chapter 3: The Culture of the City,1860-1900" 2/2 9) "Chapter 4: The New Mass Culture, 1900-1945" 1/2 10) "Chapter 4: The New Mass Culture, 1900-1945" 2/2 11) "Chapter 5: The Suburbanization of American Culture" 1/2 12) "Chapter 5: The Suburbanization of American Culture" 2/2 13) "Chapter 6: The World Wide Web of American Culture" 1/2 14) "Chapter 6: The World Wide Web of American Culture" 2/2	
履修の注意点 This class is designated as "Upper-Advanced," so you are required to have TOEIC score of 700 or more.	
準備学習の内容 You are required to read every assignment (7 to 10 pages) in order to actively participate in discussions. You are also required to give a presentation on an assigned essay at least once during the semester.	
教科書 Eric Avila, <i>American Cultural History: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press, 2018)	
参考書 I will occasionally introduce books and articles fit for further study on issues related to the textbook.	
課題に対するフィードバックの方法 I will make comments on your presentation, and assist you in discussion.	
成績評価の方法 Presentation... 40% Contribution to discussion...60%	
その他	

科目ナンバー：(PE) ANT111E	
ACE Content-based Study(M) 【2022年度以降入学者】	1 単位
ACE I (Mixed) 【2021年度以前入学者】	1～4 年次
【駿河台】 春学期 木曜 2 時限	
特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 <p>This ACE course introduces students to the study of mass communication in English for them to gain an understanding of media as the "fourth estate" (第四階級) and look at how media works in society in addressing social, political, or technological issues and problems by acquainting them with mass communication theories. The course content takes a historical approach by looking at how media's role evolved especially with major changes in the past few decades with the rapid development and influence of the Internet.</p> <p>Aimed at students who are interested in media studies or in conducting research on media, they will have the opportunity to deeply think about and examine the role of media in society, its use by audiences, and the links between media and culture. As they learn about the problems and issues that are addressed by different mass communication theories, both social/behavioral and cultural/critical theories, they will also see their application through real-life examples in historical events and news. Students connect these with their own observations and analysis and personal experiences as users of media and thus, learn how to make better use of media not only for their study but also in their lives.</p> <p>The class will make use of readings with different topics discussed each week with presentations and small-group discussions to encourage students to engage in critical thinking about the topics that were presented.</p>	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction to the course Week 2: Defining media and mass communication Week 3: An overview of mass communication theory Week 4: Discussion introduction activity Week 5: Mass society theory Week 6: Propaganda theory Week 7: Social responsibility theory Week 8: Midterm activity Week 9: Limited effects theory Week 10: Popular culture Week 11: McLuhan and the medium theory Week 12: Contemporary mass communication theory Week 13: Media and culture theories Week 14: Review Evaluation and assessment Wrap-up	
履修の注意点 <p>This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520.</p> <p>Active participation in class is necessary. Students who wish to enroll in the course must be willing to speak out and be not shy in expressing their ideas in class and in sharing and comparing viewpoints. A cooperative attitude is also needed as most activities are designed to encourage students to share their thoughts, ask questions, and exchange ideas with each other as well as to learn to work with a partner or in groups. Students must always make every effort to use and speak in English in class.</p>	
準備学習の内容 <p>Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, both in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.</p> <p>Students are advised to always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.</p>	
教科書 Handouts of the required readings will be given out in class.	
参考書 1) Baran, Stanley J. and Davis, Dennis K. (2010) <i>Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future</i> . Wadsworth Cengage Learning. 2) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either printed, online, or an app. For dictionary apps, students may use their mobile phones with the professor's permission.	
課題に対するフィードバックの方法 <p>Students can directly receive feedback and advice from the professor regarding their work during the class.</p> <p>Individual consultation sessions will be held as necessary.</p>	
成績評価の方法 Attendance and class participation (30%) In-class work and written assignments, including homework (40%) Oral and written reports (30%)	
その他 Refer to the syllabus that the professor provides in class for further details.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 月曜 1 時限	1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Introduction to Media Literacy This course aims to increase listening, reading, speaking, and writing skills through analyzing rhetoric and the use of media. Students will learn how conscious and subconscious choice of text and image commands hidden messages and values. Students will learn how to identify these messages, evaluate the goals of the messages, and think critically about around all these messages benefit and (potentially) harm.	
授業内容 Course content includes lectures, discussions, and projects on the following topics: What is Media? What is entertainment? Types of entertainment media, their economic impact, and their various purposes Story structure vocabulary and various story structures Tropes in storytelling (and other media): the good, the bad, and the ugly Text, subtext, and implied messages & values in entertainment media Entertaining from start to finish: the creative process Types of jobs in entertainment media	
履修の注意点 Students should regularly review class content and come to each lesson prepared to contribute in a meaningful way, asking questions if needed.	
準備学習の内容 There are no prerequisites for this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese. Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 50%: Classwork and homework assignments 30%: Projects 20%: Content and Language Quizzes/Tests	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (U) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 月曜 2 時限	1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Profanity and Slurs This course will examine the meanings, origins, grammatical structures, and effects of profanity and slurs in English through sociolinguistic and social justice perspectives. Overall, the goal is not to teach students how to use these words, but rather how they are used and how to accurately interpret and safely react to them when they are used by others. WARNING 1: ANY abusive or inappropriate use of these words in or out of class will not be tolerated. The student will be failed and reported to the university for violating the student Code of Conduct. WARNING 2: Content warning: offensive content. If you are uncomfortable with offensive or hurtful words, this course will be difficult.	
授業内容 Unit 1: An introduction to sociolinguistics (approximately 3 weeks) Unit 2: Profanity (approximately 6 weeks) Unit 3: Slurs (approximately 5 weeks)	
履修の注意点 There are no prerequisites to this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.	
準備学習の内容 Students are encouraged to read the University's Code of Conduct before enrolling in the course. Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.	
教科書 No textbook is required.	
参考書 Netflix series 'The History of Swear Words'	
課題に対するフィードバックの方法 50%: Classwork and homework 10%: Quizzes 40%: Projects	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 月曜 2 時限	1 ~ 4 年次
講師 ヨーク ジェームズ	
授業の概要・到達目標 この授業は、「Games and Politics」というテーマで、ゲームの教育的可能性を活かし、政治経済学生に必要な語彙力や知識を英語で養うことを目指す。 学生は、以下のスキルを習得する * ゲーム理論の知識（戦略的状況、双行列ゲーム、原初状態、損益、など） * 政治経済のトピックスを英語で話せるようになる * ゲームの知識を深める。	
授業内容 第1回 イン트로ダクション（授業内容や達成目標） 第2回 ゲーム1：学ぶ（ルール、歴史、語彙、文法） 第3回 ゲーム1：プレイする 第4回 ゲーム1：政治や経済的にゲーム1を分析する 第5回 ゲーム1：再度プレイする（スピーキングテスト） 第6回 ゲーム2：学ぶ（ルール、歴史、語彙、文法） 第7回 ゲーム2：プレイする 第8回 ゲーム2：政治や経済的にゲーム2を分析する 第9回 ゲーム2：再度プレイする（スピーキングテスト） 第10回 ゲーム3：学ぶ（ルール、歴史、語彙、文法） 第11回 ゲーム3：プレイする 第12回 ゲーム3：政治や経済的にゲーム3を分析する 第13回 ゲーム3：再度プレイする（スピーキングテスト） 第14回 期末発表	
履修の注意点 * Students will need a smartphone in order to record their gameplay session. * A laptop computer is helpful for completing activities, but a desktop computer at home will also suffice. * The class will have reading, writing, speaking and listening components, but the main skill evaluated is speaking, so be prepared to speak a lot in this class. * Finally, and this is important: this class is an English class, not a “gaming class,” so students should be prepared to use English at all times, both as a language during gameplay sessions and also during discussion and analysis activities.	
準備学習の内容 なし	
教科書 なし	
参考書 なし	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。	
成績評価の方法 Speaking tests x3 (90%) Final Reflection (10%)	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位 1～4 年次
【和泉】 春学期 水曜 4 時限 特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 <p>The course is designed for students to develop and hone practical oral communication skills for interacting with English speakers in daily life. The class is ideal for students who want to learn how to express ideas and exchange opinions with others freely and with respect and how to respond appropriately when participating in conversations in both social and academic settings.</p> <p>The textbook lessons are based on actual experiences by foreigners living in Japan and Japanese nationals who have lived in other countries. Each unit features a specific setting with different topics revolving around those settings. Students will be able to reflect and learn from the examples of real-life episodes and explore a variety of cultural patterns that occur in daily life, comparing it with their own sentiments and experiences. Focus will be on developing confidence and speaking with fluency and spontaneity, as well as building vocabulary and gaining contemporary cultural knowledge. Through the course, students will be able to: practice speaking for conversations in daily life; learn to respond and readily express their feelings and thoughts; exchange ideas with others through interviews, dialogues, and discussions; and further build their vocabulary, learning words, phrases, and expressions that will be useful in enriching their speech and thus, improve their spoken fluency.</p> <p>Class activities include a lot of communicative and cooperative tasks such as interviews, role plays, small-group discussions, and oral reporting to enhance students' ability to think critically, creatively, and reflectively about cross-cultural concepts.</p>	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction to the course Week 2: Overview of unit content and structure Lesson walkthrough Weeks 3-4: (People) Self-introductions Weeks 5-6: (School) In the classroom Weeks 7-8: (Habits) Sleep and rest Weeks 9-10: (Home) Having guests in your home Weeks 11-12: (Extracurricular activities) In the clubhouse Week 13: Consultation and preparations for the final project Week 14: Evaluation and assessment Wrap-Up	
履修の注意点 <p>This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520 up to 630.</p> <p>Active participation is necessary for success in class. If you join this class, you are expected to be proactive and contribute to class activities and discussions to ensure a more lively classroom atmosphere and to enrich the learning experience. You must not be shy in expressing yourself in front of others and comparing viewpoints. A cooperative attitude is also needed as most activities are designed to encourage students to share their thoughts, ask questions, and exchange ideas with each other as well as to learn to work with a partner or in groups.</p> <p>You must always make every effort to use and speak in English in class.</p> <p>NOTE: If you wish to take both the spring and fall courses, take note that the class will use the same textbook but will not have the same content.</p>	
準備学習の内容 <p>Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, both in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.</p> <p>It would be useful to always bring to class your dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.</p>	
教科書 Stephen Richmond and Bruno Vannieu (2021) <i>ibunka! Intercultural Communication in Daily Life</i> . Alma Publishing. ISBN 978-4-905343-30-1. Handouts for exercises and class activities will also be given out in class.	
参考書 (1) ibunka! website < https://ibunka.jp/ > (2) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either printed, online, or an app. For dictionary apps, students may use their mobile phones with the professor's permission.	
課題に対するフィードバックの方法 <p>Students can directly receive feedback and advice from the professor regarding their work during the class.</p> <p>Individual consultation sessions will be held as necessary.</p>	
成績評価の方法 Attendance and class participation (30%) In-class work and written assignments, including homework (40%) Final project (30%)	
その他 Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 水曜 1 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ヴァジラサーン、アンディ	
授業の概要・到達目標 While we cover the four skills of listening, speaking, reading, and writing, the primary purpose of this course is to improve students' oral communication skills. Students will read materials related to certain topics, participate in conversations about the topics introduced, and finally they give their own original presentations/speeches, which involves writing short speeches. Listening tasks to help students improve listening comprehension have recordings of conversations between native and non-native speakers of English, which gives student more real-world-like listening practice. We may do additional reading tasks using a series of short reading passages are aimed to help students focus on improving reading speed and comprehension of details of a passage quickly.	
授業内容 Classes will be interactive, using pair work and group work. Working with classmates is essential for success in this class. The proposed weekly schedule is below (and may change due to circumstances): Week 1 Introductions Week 2 Unit 1 Small World: Six degrees of separation? Week 3 Unit 1 Small World: Six degrees of separation? Week 4 Unit 2 Languages: Practice makes perfect? Week 5 Unit 2 Languages: Practice makes perfect? Week 6 Unit 3 Personality: All work and no play Week 7 Unit 3 Personality: All work and no play -Midterm assessment report/project- Week 8 Unit 4 Story Time: A happy ending? Week 9 Unit 4 Story Time: A happy ending? Week 10 Unit 5 Inventions: Whose idea was that? Week 11 Unit 5 Inventions: Whose idea was that? Week 12 Unit 6 Word Meanings: Call my bluff Week 13 Unit 6 Word Meanings: Call my bluff Week 14 Final Assessment or Interviews	
履修の注意点	
準備学習の内容 To succeed in this course, students will need to do all the assignments given by the given deadlines, especially the presentation assignments. Every 2 weeks or so there will be presentations. Students must be prepared enough to deliver a short speech to classmates and submit the written speech to the teacher. They should also read through the weekly course outline as well as the lesson topic from the course textbook in advance.	
教科書 On Task 3 by Justin Harris and Paul Leeming from Abax ELT publishing 978-1-78547-073-8 This is a REQUIRED textbook, which includes an access code to the online homework website. Be careful about purchasing a used book because the code may have already been used. If so, you will need to purchase access to the online task separately.	
参考書 Any useful dictionary, electronic or paper.	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given as a score or as comments, written or spoken.	
成績評価の方法 ABAX LMS (online homework tasks & quizzes): 35% Presentations (performance and written speech): 20% Participation: 20% Final Assessment/Interview: 25%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
	1～4 年次
【和泉】 春学期 水曜 2 時限 兼任講師 ヴァジラサーン、アンディ	
授業の概要・到達目標 This course is for intermediate-level students and above who want to gain experience reading, summarizing, and discussing news articles in English. Objectives of this course include: 1. Building and maintaining vocabulary. 2. Improving reading fluency and reading comprehension 3. Reading, understanding, and explaining the contents of news articles in English 4. Learning and using discussion strategies 5. Writing summaries and commentaries/opinions of new articles.	
授業内容 This course is taught in English and class discussions are in English. Every week there will be reading comprehension tasks for short passages. The goal of this task is to push students to read a little faster every week, while not losing too much comprehension. A stopwatch will be needed to measure your reading times. We will sometimes do oral reading tasks and students should record their audio. Most smartphones have both a stopwatch and voice memo function which can be used. Prerequisites and Registration Requirements SCHEDULE [Phase 1: Introduction] 1. Course Explanation. Level check tests. Silent reading and oral reading comprehension tasks. [Phase 2: Practicing news summaries] 2. In-class reading tasks. Topic 0 (Teacher's choice) - Practice #1 News article presentations and discussion. 3. In-class reading tasks. Topic 0 (Teacher's choice) - Practice #2 News article presentations and discussion. [Phase 3: Students' news summaries] 4. In-class reading tasks. Topic 1 - Week 1 News article presentations and discussion. 5. In-class reading tasks. Topic 1 - Week 2 News article presentations and discussion. 6. In-class reading tasks. Topic 1 - Week 3 News article presentations and discussion. 7. In-class reading tasks. Topic 2 - Week 1 News article presentations and discussion. 8. Mid-term Assessment: Students read an article given by the teacher, and write a summary during class time. 9. In-class reading tasks. Topic 2 - Week 2 News article presentations and discussion. 10. In-class reading tasks. Topic 2 - Week 3 News article presentations and discussion. 11. In-class reading tasks. Topic 3 - Week 1 News article presentations and discussion. 12. In-class reading tasks. Topic 3 - Week 2 News article presentations and discussion. 13. In-class reading tasks. Topic 3 - Week 3 News article presentations and discussion. 14. Final assessment: Students read an article given by the teacher, and write a summary during class time.	
履修の注意点 Be at the Intermediate level according to ACE policy. Bring a completed entry sheet with a photo on the first day.	
準備学習の内容 Preparation is absolutely required. • Students will select one to two English-language news articles (from an appropriate news source) per week to read. • Students will write a report for each news story and use this report to introduce the news articles to other students during group discussions. • Each report consists of five sections: 1. Reference Information (the article's title, the news source, author, date, page number or URL, etc.) 2. Vocabulary list of useful terms from the news article. 3. Summary (Explain what the article is about AND use the keywords from your section #2 in the summary. 4. Personal Commentary (Express what you think about the article, what you learned from it, what surprised you, etc.) 5. A list of 3 or more discussion questions related to the news stories (NOT questions testing the audience's understanding of the news.)	
教科書 Some materials will be provided by the instructor. Other materials will be prepared by students themselves: 1-2 news articles a week, each with a summary and commentary by the student. Access to news articles is required, either in print or online. Talk to your university library about your options. As a university student, you can probably access news websites through your university library, without paying for subscriptions or memberships. Printing out or photocopying your chosen news articles is recommended.	
参考書 Useful resource for writing citations of online news articles. https://www.easybib.com/guides/citation-guides/apa-format/how-to-cite-a-newspaper-apa/	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given in the form of scores and comments for each assignment, or each "set" of assignments, either in Oh-Meiji's Class Web, or to the students directly.	
成績評価の方法 Weekly discussion participation points: 30% News File points (collection of news articles with summaries and commentaries) and 2 assessments: 70% *Typed reports (not handwritten) are required. *Participation points are lost in such cases: No or low level of cooperation / participation, texting in class, Internet browsing without permission, too much personal chitchat, sleeping, forgetting one's textbook, incomplete homework.	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E																
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】	1 単位															
ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1～4 年次															
【和泉】 春学期 水曜 2 時限																
准教授 ネルソン、リンジー																
授業の概要・到達目標 ACE General Communication Skills: Pop Music and Popular Culture This course is designed to improve your English speaking, listening, and reading skills. Our focus is on English-language pop music--song lyrics plus news articles and videos about popular music and music stars. By the end of this course, you should be able to: 1. understand more vocabulary, slang, and phrases commonly used in pop songs and articles / videos about popular music 2. have one-on-one conversations (without notes) about topics related to popular music and popular culture 3. have discussions with your classmates about topics related to popular music and popular culture 4. give a short presentation (a "music intro") in which you introduce the class to a particular song and talk about why it is meaningful for you																
授業内容 1 Introduction to course 2 Music and pop culture vocabulary 3 Article or video 4 Article or video, music intros 5 Article or video, music intros 6 Article or video, music intros 7 Article or video, QUIZ 8 Article or video, music intros 9 Article or video, music intros 10 Article or video, music intros 11 Article or video, music intros 12 Article or video, music intros 13 Semester review 14. FINAL EXAM																
履修の注意点 Be prepared to speak only English in class. Students must attend the first class. Students who are absent from more than four classes will receive a failing grade. However, please don't come to class if you are sick! Your health is more important than grades. If you need to miss a lot of classes because of illness, please talk to me and we can decide on a solution together.																
準備学習の内容 Before each class, students will read the assigned article or watch the video listed for that class date. Each class will include small group discussions of the article or video, a review of key phrases and concepts, conversation practice, listening practice, and lectures about ideas presented in the article or video. There will also be weekly worksheets with questions related to that week's reading or video. These worksheets will not be graded, but they will be part of the class discussion. Students will do a "music introduction" activity in which they talk for a few minutes in front of the class about a favorite song. Please come to class prepared to discuss the readings and videos listed for that day. Please also come to class with your own questions about words, phrases, or ideas that you don't understand.																
教科書 No textbook (readings and links can be downloaded via Oh-o! Meiji).																
参考書 Please see the weekly schedule.																
課題に対するフィードバックの方法 I will mark your "music intros", quizzes, and final exams. I will give written comments on your music intros and sometimes on your weekly worksheets.																
成績評価の方法 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">Participation</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 30%; text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>Music Intro</td> <td></td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>Student questions</td> <td style="text-align: right;">10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Quiz</td> <td></td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td>Final Exam</td> <td></td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> </table>		Participation		30%	Music Intro		10%	Student questions	10%		Quiz		20%	Final Exam		30%
Participation		30%														
Music Intro		10%														
Student questions	10%															
Quiz		20%														
Final Exam		30%														
その他 If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com. (Please call me Professor Nelson.)																

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (M) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Mixed) 【2021年度以前入学者】	1 単位 1～4 年次
【和泉】 春学期 水曜 3 時限 准教授 ジョージ、ジョニー-E.	
授業の概要・到達目標 Create a DIY TED Talk TED (Technology Entertainment and Design) talks have recently served as the premier online platform for excellence in presentation. TED's exploration of social issues through the voices of dynamic, charismatic speakers has made it into an online phenomenon. While you may have seen a TED talk, have you ever aspired to GIVE a TED talk? In this course we will watch and analyze TED talks to try to understand what makes such presentations effective. Finally, you will prepare your TED talk (with assistance) and present it to the class! OBJECTIVES Create clear, concise, engaging presentation content Play to your strengths in speech and manner when presenting Increase your awareness of presentation styles and strategies	
授業内容 This course focuses on practice and improvement of your presentation skills with lots of feedback. You will discuss effective presentation skills with video examples. Afterwards you will present your TED talk and provide detailed feedback to your classmates' talks. The remainder of the course primarily involves presentations along with discussion of instructor and peer/self feedback. Homework includes: finding video examples of effective speaking; preparing for presentations; and giving feedback. The materials and support for this class will be targeted towards intermediate/advanced English level students. 1 Self intros/what is TED?/what makes an effective presentation discussion 2 Qualities of an effective presentation/ What's so special about TED? 3 Structure: introduction, body, conclusion (THEME/message) 4 How to tell a story 5 Present your favorite talks 6 Present your favorite talks 7 Group presentation workshop 8 Group created presentations 9 Student TED talk videos 10 Preparation help and practice 11 Your TED talks 12 Your TED talks 13 Your TED talks 14 Feedback and Discussion	
履修の注意点	
準備学習の内容 Go to the TED website listed under references. Watch any videos you find interesting and read some of the transcripts.	
教科書 教科書はありません。すべての教材はOh-o! Meijiで利用可能です。 All materials for the class will be provided via Oh-o! Meiji	
参考書 The TED website -- https://www.ted.com/	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Class participation 10% Feedback to other students 20% Two minor presentations 30% One major presentation 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
	1～4 年次
【和泉】 春学期 金曜 1 時限 特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 This ACE course is about learning English through news media by reading and following news and current events as well as understanding public issues on topics that have an impact on Japan and the Japanese people. It is designed for students who would like to strengthen their reading and writing skills and to broaden their vocabulary and their general knowledge of local, national, and world affairs in English. The class will make use of authentic reading texts through articles from different English-language news media. Students update themselves with recent news and current events and are introduced to ideas, vocabulary, and terminology in real-world contexts and become familiar with words and phrases in popular use. As they increase their vocabulary and cultural knowledge, they learn to understand these from the perspectives of native English speakers and draw comparisons with their own perspectives. Students will also become acquainted with news style of writing and distinguish between news and opinion. They will learn to interpret and summarize the content of articles further improving their reading comprehension skills and writing skills. Additionally, students will learn reading strategies and the importance of news literacy as well as media literacy skills, getting to know the concepts of fairness, balance, bias, evidence, fake news, propaganda, political correctness, etc. Through the study of these concepts, they understand how they can develop themselves to become well-informed and discerning readers and consumers of news. Apart from news searches and summaries, class activities include information sharing, discussions, and oral reporting. At the end of the course, students will be able to confidently express ideas and give their position on issues and news and current events based on what they read from news media, and be able to engage with others who have views different from their own.	
授業内容 Week 1: Introduction to the course Overview Week 2: What is news? Weeks 3 to 5: Understanding news literacy and media literacy Note-taking and news summaries Week 6: Preparing for article discussions Weeks 7 to 13: Article discussions (Various assigned topics) Week 14: Evaluation and Assessment Wrap-up	
履修の注意点 Students with a TOEIC score of 600 and above are welcome to join the course. Active participation is necessary for success in class. If you join this class, you are expected to be proactive and contribute to the liveliness of class activities and discussions to ensure a more engaging classroom atmosphere and enrich the learning experience. You must not be shy in expressing yourself in front of others and comparing viewpoints. A cooperative attitude is also needed as most activities are designed to encourage students to share their thoughts, ask questions, and exchange ideas with each other as well as to learn to work with a partner or in groups. Proficiency with Microsoft Word or other word-processing software and with PowerPoint will be helpful for accomplishing class assignments.	
準備学習の内容 For this class, students are encouraged to read newspapers on a daily basis and be well-informed and up-to-date about the latest news topics and issues as it will be beneficial for participation in class. They are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must also complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework. Always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.	
教科書 There is no set textbook for this course. News articles from online and print media sources will be used for assignments and discussions. Readings and handouts will also be given out in the course of the semester.	
参考書 Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either printed, online, or an app. A list of recommended news media sources will be announced in class.	
課題に対するフィードバックの方法 Students can directly receive feedback and advice from the professor regarding their work during the class. Individual consultation sessions will be held as necessary.	
成績評価の方法 Class participation and attendance (30%) In-class activities and homework including article summaries and other written assignments (30%) Vocabulary list (15%) Final presentation or project (25%)	
その他 Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 1 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format 第4回目 Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice 第5回目 1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class 第8回目 Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up 第9回目 Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2 第10回目 Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development 第11回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format 第12回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development 第13回目 Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class 第14回目 Vocabulary Sheet Submissions (on Google Classroom BEFORE class) & Class Review	
履修の注意点 Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You MUST submit your GMAIL account address on Oh O Meiji after our first lesson.	
準備学習の内容 Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course. This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.	
教科書 Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted (ZERO grade).	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 2 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハイネス、マーティン	
授業の概要・到達目標 The main objective of this course is to improve communication skills. There is a strong emphasis on pair and group-work and obviously, students are expected to communicate in English, at all times. Additionally, to develop reading skills and expand vocabulary, students will also be given reading assignments at regular intervals throughout the semester. The majority of materials for discussion will be provided by the lecturer but students will be encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Ongoing weekly presentations will be a feature of the spring semester, with students giving a brief summary of a major news item presently dominating the mainstream media.	
授業内容 Week 1. Introduction to the course / The World Today Week 2. Education Week 3. Environmental Issues Week 4. Technology Week 5. Open Topic Week 6. Lifestyles: Past & Present Week 7. Lifestyles: The East & the West Week 8. Fashion & Trends 1. Week 9. Fashion & Trends 2. - Image Week 10. Open Topic Week 11. The World of Work 1. Week 12. The World of Work 2. Week 13. The Power of Advertising Week 14. Final presentations, course review & explanation	
履修の注意点 Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.	
準備学習の内容 Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles, or research. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.	
教科書 There is no course reader or textbook for this course.	
参考書 There is no reference book for this course.	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback can be provided after class	
成績評価の方法 Student's final grade will be based on the following: 1. Participation & Attendance 2. Coursework 3. Presentations	
その他 Students should be aware that a high percentage of their grade will be allocated to classroom participation and presentations. As such, only students who are fully committed to improving their communication skills should enroll. As noted in the course description above, students (when requested) are expected to bring their own research materials to the classroom. This assignment is not to be taken lightly and only hard copies of research are acceptable. Materials, articles etc., which have only been downloaded onto small hand-held devices such as smartphones, are not permitted.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 3 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハイネス、マーティン	
授業の概要・到達目標 The main objective of this course is to improve communication skills. There is a strong emphasis on pair and group-work and obviously, students are expected to communicate in English, at all times. Additionally, to develop reading skills and expand vocabulary, students will also be given reading assignments at regular intervals throughout the semester. The majority of materials for discussion will be provided by the lecturer but students will be encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. Ongoing weekly presentations will be a feature of the course with students giving a brief summary of a major news item presently dominating the mainstream media.	
授業内容 Week 1. Introduction to the course / The World Today Week 2. Family Life 1 Week 3. Family Life 2 Week 4. Open Topic Week 5. Health & Fitness 1 Week 6. Health & Fitness 2 Week 7. The Power of Advertising 1 Week 8. The Power of Advertising 2 Week 9. Open Topic Week 10. Education 1 Week 11. Education 2 Week 12. Open Topic Week 13. The World Today Week 14. Presentations, course review & explanation	
履修の注意点 Before the course, students may want to get in the habit of reading an English language newspaper or watching news bulletins from the mainstream media.	
準備学習の内容 Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles, or research. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.	
教科書 There is no course reader or textbook for this course.	
参考書 There is no reference book for this course.	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback can be given after class.	
成績評価の方法 Student's final grade will be based on the following: 1. Participation & Positive Attitude 2. Coursework 3. Presentation	
その他 Students should be aware that a high percentage of their grade will be allocated to classroom participation and presentations. As such, only students who are fully committed to improving their communication skills should enroll. As noted in the course description above, students (when requested) are expected to bring their own research materials to the classroom. This assignment is not to be taken lightly and only hard copies of research are acceptable. Materials, articles etc., which have only been downloaded onto small hand-held devices such as smartphones, are not permitted.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 4 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ライト、アレックス	
授業の概要・到達目標 This class will introduce students to American music and artists from a variety of styles. Students will learn about historical and modern styles of American music as well as engage with the music by looking at song lyrics. Students will practice their English through short readings and lectures, vocabulary practice, in class conversations and discussions about the material, and presentations.	
授業内容 第 1 回 Course introduction, introduction to part 1: Historical music styles 第 2 回 Jazz part 1 第 3 回 Jazz part 2 第 4 回 Jazz part 3 第 5 回 Blues part 1 第 6 回 Blues part 2 第 7 回 Presentation 1, introduction to part 2: Modern music styles 第 8 回 Rock and roll 第 9 回 R&B 第10回 Pop 第11回 Hip hop 第12回 Rock 第13回 Presentation 2 第14回 Test	
履修の注意点 This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.	
準備学習の内容 Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.	
教科書 No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 25% Quizzes 25% Test 25% Presentation 1 25% Presentation 2	
その他 If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 4 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format 第4回目 Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice 第5回目 1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class 第8回目 Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up 第9回目 Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2 第10回目 Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development 第11回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format 第12回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development 第13回目 Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class 第14回目 Vocabulary Sheet Submissions (on Google Classroom BEFORE class) & Class Review	
履修の注意点 Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You MUST submit your GMAIL account address on Oh O Meiji after our first lesson.	
準備学習の内容 Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course. This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.	
教科書 Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted (ZERO grade).	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 月曜 1 時限	1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Introduction to Media Literacy This course aims to increase listening, reading, speaking, and writing skills through analyzing rhetoric and the use of media. Students will learn how conscious and subconscious choice of text and image commands hidden messages and values. Students will learn how to identify these messages, evaluate the goals of the messages, and think critically about around all these messages benefit and (potentially) harm.	
授業内容 Course content includes lectures, discussions, and projects on the following topics: What is Media? What is entertainment? Types of entertainment media, their economic impact, and their various purposes Story structure vocabulary and various story structures Tropes in storytelling (and other media): the good, the bad, and the ugly Text, subtext, and implied messages & values in entertainment media Entertaining from start to finish: the creative process Types of jobs in entertainment media	
履修の注意点 Students should regularly review class content and come to each lesson prepared to contribute in a meaningful way, asking questions if needed.	
準備学習の内容 There are no prerequisites for this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese. Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 50%: Classwork and homework assignments 30%: Projects 20%: Content and Language Quizzes/Tests	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 月曜 2 時限	1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Improving Speaking Fluency: Grammar and Pronunciation Please consider this course if you want to speak English faster and more comprehensibly in conversations. The course will cover various situations in which students can practice describing, comparing, and evaluating, with improved ability to communicate their true emotions and sound like their natural selves in a second language. The goals of this course are: <ol style="list-style-type: none"> 1. to learn and refine use of spoken English grammar 2. to learn and refine English pronunciation principles 3. to gain ability to speak in English with greater ease and at longer length 	
授業内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. Grammar content: Verb tense and aspect Modals and semi-modals Adverbials Articles, pronouns, and prepositions Punctuation (for added reading and writing ease) 2. Pronunciation content: Vowel sounds Consonant sounds Stress patterns Regional accents and vocabulary 3. Functional content (Note: these are examples of situations in which students will practice the above grammar and pronunciation content. More will be added according to student need and interest) : Interjections based on situation Agreeing and disagreeing based on the conversation partner Scary and exciting situations Sarcasm 	
履修の注意点 There are no prerequisites for this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese. Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.	
準備学習の内容 Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.	
教科書 To be announced at a later date.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 60% Classwork and homework 20% Projects 20% Tests	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
	1～4 年次
	【和泉】 秋学期 水曜 4 時限
	特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.
授業の概要・到達目標 <i>This ACE General Communication Skills Intermediate course follows the same structure as the spring course but with a different set of themes.</i> The course is designed for students to develop and hone practical oral communication skills for interacting with English speakers in daily life. The class is ideal for students who want to learn how to express ideas and exchange opinions with others freely and with respect and how to respond appropriately when participating in conversations in both social and academic settings. The textbook lessons are based on actual experiences by foreigners living in Japan and Japanese nationals who have lived in other countries. Each unit features a specific setting with different topics revolving around those settings. Students will be able to reflect and learn from the examples of real-life episodes and explore a variety of cultural patterns that occur in daily life, comparing it with their own sentiments and experiences. Focus will be on developing confidence and speaking with fluency and spontaneity, as well as building vocabulary and gaining contemporary cultural knowledge. Through the course, students will be able to: practice speaking for conversations in daily life; learn to respond and readily express their feelings and thoughts; exchange ideas with others through interviews, dialogues, and discussions; and further build their vocabulary, learning words, phrases, and expressions that will be useful in enriching their speech and thus, improve their spoken fluency. Class activities include a lot of communicative and cooperative tasks such as interviews, role plays, small-group discussions, and oral reporting to enhance students' ability to think critically, creatively, and reflectively about cross-cultural concepts.	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction to the course Week 2: Overview of unit content and structure Lesson walkthrough Weeks 3-4: (Shopping) In a shop Weeks 5-6: (Romance) Romance and relationships Weeks 7-8: (Family) Parents and children Weeks 9-10: (Communication with Others) Conversation and discussion Weeks 11-12: (Communication with Others) Asking a favor Week 13: Consultation and preparations for the final project Week 14: Evaluation and assessment Wrap-Up	
履修の注意点 This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520 up to 630. Active participation is necessary for success in class. If you join this class, you are expected to be proactive and contribute to class activities and discussions to ensure a more lively classroom atmosphere and to enrich the learning experience. You must not be shy in expressing yourself in front of others and comparing viewpoints. A cooperative attitude is also needed as most activities are designed to encourage students to share their thoughts, ask questions, and exchange ideas with each other as well as to learn to work with a partner or in groups. You must always make every effort to use and speak in English in class. NOTE: If you wish to take both the spring and fall courses, take note that the class will use the same textbook but will not have the same content.	
準備学習の内容 Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, both in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings. It would be useful to always bring to class your dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.	
教科書 Stephen Richmond and Bruno Vannieu (2021) <i>ibunka! Intercultural Communication in Daily Life</i> . Alma Publishing. ISBN 978-4-905343-30-1. Handouts for exercises and class activities will also be given out in class.	
参考書 (1) ibunkal website (https://ibunka.jp/) (2) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either printed, online, or an app. For dictionary apps, students may use their mobile phones with the professor's permission.	
課題に対するフィードバックの方法 Students will be able to directly receive advice and feedback about their work from the professor. Feedback may also be given immediately after an activity.	
成績評価の方法 Attendance and class participation (30%) In-class work and written assignments, including homework (40%) Final project (30%)	
その他 Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 水曜 1 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ヴァジラサーン、アンディ	
授業の概要・到達目標 While we cover the four skills of listening, speaking, reading, and writing, the primary purpose of this course is to improve students' oral communication skills. Students will read materials related to certain topics, participate in conversations about the topics introduced, and finally they give their own original presentations/speeches, which involves writing short speeches. Listening tasks to help students improve listening comprehension have recordings of conversations between native and non-native speakers of English, which gives student more real-world-like listening practice. Additional reading tasks using a series of short reading passages are aimed to help students focus on improving reading speed and comprehension of details of a passage quickly.	
授業内容 Classes will be interactive, using pair work and group work. Working with classmates is essential for success in this class. The proposed weekly schedule is below (and may change due to circumstances): Week 1 Introductions Week 2 Unit 7 Change: Make an impact Week 3 Unit 7 Change: Make an impact Week 4 Unit 8 Dilemmas: What would you do? Week 5 Unit 8 Dilemmas: What would you do? Week 6 Unit 9 Travel: Ticket to ride. Week 7 Unit 9 Travel: Ticket to ride. -Midterm assessment report/project- Week 8 Unit 10 Understanding culture: The cultural iceberg Week 9 Unit 10 Understanding culture: The cultural iceberg Week 10 Unit 11 Volunteering: Travel bug Week 11 Unit 11 Volunteering: Travel bug Week 12 Unit 12 Predictions: Robots will inherit the earth! Week 13 Unit 12 Predictions: Robots will inherit the earth! Week 14 Final Assessment / Interviews	
履修の注意点	
準備学習の内容 To succeed in this course, students will need to do all the assignments given by the given deadlines, especially the presentation assignments. Every 2 weeks or so there will be presentations. Students must be prepared enough to deliver a short speech to classmates and submit the written speech to the teacher. They should also read through the weekly course outline as well as the lesson topic from the course textbook in advance.	
教科書 On Task 3 by Justin Harris and Paul Leeming from Abax ELT publishing 978-1-78547-073-8 This is a REQUIRED textbook, which includes an access code to the online homework website. Be careful about purchasing a used book because the code may have already been used. If so, you will need to purchase access to the online task separately.	
参考書 Any useful dictionary, electronic or paper.	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given as a score or as comments, written or spoken.	
成績評価の方法 ABAX LMS (online homework tasks & quizzes): 35% Presentations (performance and written speech): 20% Participation: 20% Final Assessment/Interview: 25%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 水曜 2 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ヴァジラサーン、アンディ	
授業の概要・到達目標 Learn to THINK like a police detective. Pick up bits of information and think logically about how it all connects. Giving students a chance to think like a detective to solve crimes is a fun way to encourage critical thinking skills and cooperative discussion. In this course, students will read 2 fictional crime stories in order to practice how to do critical thinking, summarize ideas, participate in and lead discussions. Each story is six chapters long and each chapter contains about ten pages. Every chapter reveals a little more information than the last. Students can pick expressions related to law, crime, and human relationships. Before each class meeting, students must read the assigned chapter, attempt the "puzzle" at the end of each chapter (questions about the vocabulary and the story information), and make notes in their personal "detective notebook". In class, groups of students will hold a discussion to review the chapter, check their understanding of the facts and evidence available, check their puzzle answers together, and prepare a list of questions for the teacher about vocabulary or story points that need clarification. There will be a quiz every week on the chapter assigned for that week. The textbook cannot be used during the quiz, however, the students' notes may be used.	
授業内容 Week 1. Course Introduction. Crime Talk. Pre-reading pages. HW is to read Story 1, Chapter 1, and do the puzzle Week 2 Story 1: The Inverted Eagle Discussion and Quiz of Chapter 1 "The Scene of the Crime". HW Read Chapter 2 and do the puzzle. Week 3 Discussion and Quiz of Chapter 2 "Three Interviews". HW Read Chapter 3 and do the puzzle. Week 4 Discussion and Quiz of Chapter 3 "The Hospital". HW Read Chapter 4 and do the puzzle. Week 5 Discussion and Quiz of Chapter 4 "The Suspect". HW Read Chapter 5 and do the puzzle. Week 6 Discussion and Quiz of Chapter 5 "Family Secrets". HW Read Chapter 6 and do the puzzle. Week 7 Discussion and Quiz of Chapter 6 "The Arrest". Week 8 Wrap-up & Midterm Assessment. HW Read Story 2 Crime Talk and Chapter 1 and do the puzzle. Week 9 Story 2: Death on U Street Discussion and Quiz of Chapter 1 "The Victim". HW Read Chapter 2 and do the puzzle. Week 10 Discussion and Quiz of Chapter 2 "Blackmail". HW Read Chapter 3 and do the puzzle. Week 11 Discussion and Quiz of Chapter 3 "The Videotape". HW Read Chapter 4 and do the puzzle. Week 12 Discussion and Quiz of Chapter 4 "The Letter". HW Read Chapter 5 and do the puzzle. Week 13 Discussion and Quiz of Chapter 5 "The Meeting". HW Read Chapter 6 and do the puzzle. Week 14 Discussion and Quiz of Chapter 6 "Guilty, Guilty, Guilty". Final Exam online given in Class Web *Adjustments to this schedule may be made in terms of contents and pace due to class needs	
履修の注意点 Be at the Intermediate level according to ACE policy. Bring a completed entry sheet with photo on the first day.	
準備学習の内容 It is required to read the entire chapter assigned for that week and attempt the homework puzzles by yourself BEFORE coming to class. *All homework reading & questions should be done BEFORE coming to class. Rushing to finish homework in the classroom during the class period will not count. *Create a FREE account on www.quizlet.com to access the online flashcards for each chapter's content.	
教科書 Whodunit by Adam Gray & Marcos Benevides Abax Publishing (2010, 2013) 9781785470912	
参考書 Any useful dictionary. Create a free account on quizlet.com for accessing the online vocabulary and flashcard practice.	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback on Quizzes will be given after they are scored by the teacher. Feedback on discussions will happen during the class time.	
成績評価の方法 The final grade will be calculated this way: In-class participation points: 30% 12 quizzes: 30% 2 assessments (Story 1 & Story 2): 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E																
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位															
【和泉】 秋学期 水曜 2 時限	1 ~ 4 年次															
准教授 ネルソン、リンジー																
授業の概要・到達目標 ACE General Communication Skills: Idols and Celebrity Culture This course is designed to improve your English speaking, listening, and reading skills. Our focus is on Japanese popular culture, specifically idols, tarento, and celebrities. We will also discuss U.S./European/Canadian celebrities and celebrity scandals. By the end of this course, you should be able to: <ul style="list-style-type: none"> • understand more vocabulary, slang, and phrases commonly used to talk about Japanese popular culture • give presentations on topics related to Japanese popular culture • have discussions with your classmates about topics related to Japanese popular culture 																
授業内容 1 Introduction to course 2 Article or video 3 Article or video 4 Article or video, presentations 5 Article or video, presentations 6 Article or video, presentations, mid-semester review 7 QUIZ, article or video 8 Article or video, presentations 9 Article or video, presentations 10 Article or video, presentations 11 Article or video, presentations 12 Article or video, presentations 13 Semester review 14. FINAL EXAM																
履修の注意点 Be prepared to speak only English in class. Students must attend the first class. Students who are absent from more than four classes will receive a failing grade. However, please don't come to class if you are sick! Your health is more important than grades. If you need to miss a lot of classes because of illness, please talk to me and we can decide on a solution together.																
準備学習の内容 Before each class, students will read the assigned article or watch the video listed for that class date. There will also be weekly worksheets with questions and new vocabulary words. Each class will include small group discussions of the article or video, a review of key phrases and concepts, conversation practice, listening practice, and lectures about ideas presented in the article or video. Students will also give a presentation on the topic of "scandal" (you will choose a particular celebrity scandal and talk about it in front of the class).																
教科書 No textbook (readings and links can be accessed via Oh-o! Meiji).																
参考書 Please see the weekly schedule.																
課題に対するフィードバックの方法 I will mark your presentations, quizzes, and final exams. I will give written comments on your presentations and sometimes on your weekly worksheets.																
成績評価の方法 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">Participation</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>Presentation</td> <td></td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>Student questions</td> <td style="text-align: right;">10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Quiz</td> <td></td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td>Final Exam</td> <td></td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> </table>		Participation		30%	Presentation		10%	Student questions	10%		Quiz		20%	Final Exam		30%
Participation		30%														
Presentation		10%														
Student questions	10%															
Quiz		20%														
Final Exam		30%														
その他 If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com . (Please call me Professor Nelson.)																

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 水曜 4 時限	1 ~ 4 年次
准教授 ジョージ、ジョニーE.	
授業の概要・到達目標 Create a DIY TED Talk TED (Technology Entertainment and Design) talks have recently served as the premier online platform for excellence in presentation. TED's exploration of social issues through the voices of dynamic, charismatic speakers has made it into an online phenomenon. While you may have seen a TED talk, have you ever aspired to GIVE a TED talk? In this course we will watch and analyze TED talks to try to understand what makes such presentations effective. Finally, you will prepare your TED talk (with assistance) and present it to the class! OBJECTIVES Create clear, concise, engaging presentation content Play to your strengths in speech and manner when presenting Increase your awareness of presentation styles and strategies	
授業内容 This course focuses on practice and improvement of your presentation skills with lots of feedback. You will discuss effective presentation skills with video examples. Afterwards you will present your TED talk and provide detailed feedback to your classmates' talks. The remainder of the course primarily involves presentations along with discussion of instructor and peer/self feedback. Homework includes: finding video examples of effective speaking; preparing for presentations; and giving feedback. The materials and support for this class will be targeted towards advanced English level students. 1 Self intros/what is TED?/what makes an effective presentation discussion 2 Qualities of an effective presentation/ What's so special about TED? 3 Structure: introduction, body, conclusion (THEME/message) 4 How to tell a story 5 Present your favorite talks 6 Present your favorite talks 7 Group presentation workshop 8 Group created presentations 9 Student TED talk videos 10 Preparation help and practice 11 Your TED talks 12 Your TED talks 13 Your TED talks 14 Feedback and Discussion	
履修の注意点	
準備学習の内容 Go to the TED website listed under references. Watch any videos you find interesting and read some of the transcripts.	
教科書 教科書はありません。すべての教材はOh-o! Meijiで利用可能です。 All materials for the class will be provided via Oh-o! Meiji	
参考書 The TED website -- https://www.ted.com/	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Class participation 10% Feedback to other students 20% Two minor presentations 30% One major presentation 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 水曜 3 時限	1 ~ 4 年次
准教授 ジョージ、ジョニーE.	
授業の概要・到達目標 A Planet Money Chitchat This class is based on the National Public Radio economic podcast Planet Money. Planet Money uses storytelling to explain economic concepts to a mainstream audience in an accessible way. We will discuss podcasts from the Planet Money summer school episodes. You will have conversations about basic economic concepts in English. You will lead a class discussion on an economic concept. OBJECTIVES Improve your ability to have conversations in English Use storytelling as a device to explain abstract topics Discuss basic economics concepts in English	
授業内容 1 Course introduction/Self Intros 2 Lesson 1 Choices and Dating 3 Lesson 2 Markets and Pickles 4 Lesson 3 Profit and Cocaine 5 Lesson 4 Scarcity and Pistachios 6 Lesson 5 Tariffs and Santa 7 Lesson 6 Taxes and Donald Duck 8 Lesson 7 Advertising and Race 9 Lesson 8 Risk and Disaster 10 Graduation episode Feedback and Discussion	
履修の注意点 None. However, be prepared to work in a class conducted in English.	
準備学習の内容 Go to the Planet Money website listed in the references and listen to a few episodes. Go to the Planet Money TikTok to learn more about the podcast.	
教科書 教科書がありません。コースウェブサイトからダウンロードする。 All materials for the class will be provided via Oh-ol Meiji	
参考書 Planet Money summer school https://www.npr.org/2020/07/15/884827691/planet-money-summer-school Planet Money TikTok https://www.tiktok.com/@planetmoney?lang=en	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 40% Class participation 40% Leading class 20% Quizzes	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】	1 単位
ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1～4 年次
【和泉】 秋学期 金曜 3 時限	
兼任講師 ライト、アレックス	
授業の概要・到達目標 <p>This course will teach you how to speak in a variety of situations in English more naturally. People use language to do many things, like apologize, greet each other and make requests of each other. In this course we learn about English “Pragmatics”. “Pragmatics” is the study of how native speakers perform actions like greeting and requesting naturally and the differences in how speakers perform these actions in different languages. For example, an English speaker is more likely to accept a compliment directly than a Japanese speaker. This course will explore how to perform many actions in English including, apologizing, complaining, complimenting, greeting, inviting, refusing, requesting and thanking as well as how to take turns and open and close a conversation in a natural way. It will also explore how many of these actions are performed in a different way in English than in Japanese. Students will learn both the natural language and culturally appropriate strategies to perform these important actions.</p>	
授業内容 第 1 回 Intro to course, greetings and conversation openings 第 2 回 Compliments 第 3 回 Invitations 第 4 回 Requests 第 5 回 Refusals 第 6 回 Thanks 第 7 回 Skit 1 第 8 回 Complaints 第 9 回 Apologies 第10回 Turn taking: how to know when to speak 第11回 Topic management and storytelling 第12回 Closing conversations 第13回 Skit 2 第14回 Test	
履修の注意点 This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.	
準備学習の内容 Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.	
教科書 No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 25% Quizzes 25% Test 25% Skit 1 25% Skit 2	
その他 If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 1 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format 第4回目 Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice 第5回目 1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class 第8回目 Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up 第9回目 Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2 第10回目 Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development 第11回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format 第12回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development 第13回目 Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class 第14回目 Vocabulary Sheet Submissions (on Google Classroom BEFORE class) & Class Review	
履修の注意点 Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You MUST submit your GMAIL account address on Oh O Meiji after our first lesson.	
準備学習の内容 Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course. This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.	
教科書 Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted (ZERO grade).	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 2 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハイネス、マーティン	
授業の概要・到達目標 The primary focus of this course is on improving fluency skills through pair and group-work. The majority of materials for discussion will be provided by the lecturer and students will be encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. In the final weeks of this semester, some class time will be allocated for presentation preparation and students will collaborate as they examine a major issue presently dominating the media. In the final lesson, the group will then present their research to the class and answer questions.	
授業内容 Week 1. The summer of 2024 Week 2. City Life 1 Week 3. City Life 2 Week 4. Populism: The Changing Political Landscape Week 5. Open Topic Week 6. Travel 1 Week 7. Travel 2: Mass Tourism Week 8. Conflict Week 9. The News Today Week 10. Family Life 1 Week 11. Family Life 2 Week 12. Open Topic Week 13. A look back at 2024 Week 14. Group presentations, course review and explanation	
履修の注意点 Students should use their free time to keep themselves informed of global issues through reading English language newspapers or watching news bulletins from the mainstream media.	
準備学習の内容 Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles or research. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.	
教科書 There is no course reader or textbook for this course.	
参考書 There is no reference book for this course.	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback can be provided after class.	
成績評価の方法 Student's final grade will be based on the following: 1. Participation & Positive Attitude 2. Coursework 3. Presentations:	
その他 Students should be aware that a high percentage of their grade will be allocated to classroom participation and presentations. As such, only students who are fully committed to improving their communication skills should enroll. As noted in the course description above, students (when requested) are expected to bring their own research materials to the classroom. This assignment is not to be taken lightly and only hard copies of research are acceptable. Materials, articles etc., which have only been downloaded onto small hand-held devices such as smartphones, are not permitted.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 3 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハイネス、マーティン	
授業の概要・到達目標 The primary focus of this course is on improving fluency skills through pair and group-work. The majority of materials for discussion will be provided by the lecturer and students will be encouraged to develop their research skills and bring their own materials to the classroom. In the final weeks of this semester, some class time will be allocated for presentation preparation and students will collaborate as they examine a major issue presently dominating the media. In the final lesson, the group will then present their research to the class and answer questions.	
授業内容 Week 1. The major global events in the summer of 2024 Week 2. The Internet and A.I. 1 Week 3. The Internet and A.I. 2 Week 4. Open Topic Week 5. The World of Entertainment 1 Week 6. The World of Entertainment 2 Week 7. Protest movements: Past and Present Week 8. Open Topic Week 9. Society 1 social issues Week 10. Society 2 The changing family Week 11. Our consumer society 1 Week 12. Our consumer society 2 Week 13. 2024: The year in review Week 14. Group presentations, course review and explanation	
履修の注意点 Students should use their free time to keep themselves informed of global issues through reading English language newspapers or watching news bulletins from the mainstream media.	
準備学習の内容 Students will be assigned homework on a weekly basis. This will consist of reading comprehension from newspaper articles or research. These assignments will probably entail about 1 hour of extra study.	
教科書 There is no textbook for this course.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback can be provided after class.	
成績評価の方法 Student's final grade will be based on the following: 1. Participation & Positive Attitude 2. Coursework 3. Presentations	
その他 Students should be aware that a high percentage of their grade will be allocated to classroom participation and presentations. As such, only students who are fully committed to improving their communication skills should enroll. As noted in the course description above, students (when requested) are expected to bring their own research materials to the classroom. This assignment is not to be taken lightly and only hard copies of research are acceptable. Materials, articles etc., which have only been downloaded onto small hand-held devices such as smartphones, are not permitted.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills(U) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 4 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ライト、アレックス	
授業の概要・到達目標 This course will introduce students to the role of psychology in international politics. By studying this subject in English students will improve their understanding of international politics as well as improve their English at the same time. In the world of international relations, psychology plays an important role. The thoughts and beliefs of citizens and their leaders can have a strong impact on the choices countries make. Understanding how psychology affects international relations can give you a better understanding of the world. In addition, understanding psychology in international relations can help you better understand your own psychology and reflect on your own decision-making. This course aims to give students the concepts and framework to understand the impact of psychology in international politics. The course also aims to improve students English through reading, listening and discussion in a natural way that resembles the way native speakers learn their own language in school. Finally this course aims to give students psychological insights they can apply to their own lives.	
授業内容 第 1 回 Intro to course 第 2 回 Identity 第 3 回 Nationalism 第 4 回 Public opinion 第 5 回 Leaders beliefs 第 6 回 Images and signaling 第 7 回 Debate 第 8 回 Biases 第 9 回 Biases part 2 第10回 Misinterpretation 第11回 Thinking of the world as a system 第12回 Resolve, reputation and deterrence 第13回 Presentation 第14回 Test	
履修の注意点 This course is a one semester ACE course, class size is limited to 15 students.	
準備学習の内容 Make sure you understand the material we cover each week and be sure to look up or ask me about anything you don't understand. Please be prepared to speak only in English during class time.	
教科書 No textbook purchase is required, all material will be provided by instructor.	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 25% Quizzes 25% Test 25% Debate 25% Presentation	
その他 If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 4 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and presentations, clarification techniques, listening to dialogs and making comments or asking questions, stating opinions and giving reasons, and using evidence to support an argument. Additionally, the course will work on developing Slideshow presentation skills through computer-based presentation tasks. This will be accomplished primarily during small team presentation development and homework tasks.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Presentation Topic Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Presentation Development, Presentation Q&A format 第4回目 Discussion, Speaking Skills Preview, 1st Presentation Practice 第5回目 1st Presentation Small Group, Topic 1 Question and Answer, Presentation Q&A Discussion 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation Q&A Content Check, Presentation Format 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Topic 1 Presentation to Class 第8回目 Second Presentation Part 4: Topic 2 Presentation Topic Set Up 第9回目 Second Presentation Part 5, Question and Answer, Presentation Topic 2 第10回目 Discussion, Speaking Skills Part 6: Body Language, Presentation Development 第11回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Q&A Discussion, Presentation Format 第12回目 Discussion, Speaking Skills Part 7: Topic 2 Presentation Development 第13回目 Second Presentations Part 8: Topic 2 Presentation to Class 第14回目 Vocabulary Sheet Submissions (on Google Classroom BEFORE class) & Class Review	
履修の注意点 Feedback will be provided online using Google Classroom. Students will need a Gmail account to register for our Google Classroom. You MUST submit your GMAIL account address on Oh O Meiji after our first lesson.	
準備学習の内容 Students thinking about studying abroad or looking to improve academic and general communication skills will also benefit from taking this course. This course is a one-semester ACE General Communication course. Class size is limited to 14 students.	
教科書 Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You should have some understanding of Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as presentation drafts will be submitted online in our Google Classroom. Late submissions will not be accepted (ZERO grade).	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位 1～4 年次
【和泉】 春学期 月曜 5 時限	
講師 森 本 陽 子	
授業の概要・到達目標 Building Presentation and Discussion Skills for Study Abroad (for advanced students) This course is designed for advanced students who are seriously considering studying abroad in English speaking countries. Using small group activities, students will build a firm foundation for academic and social skills in English focusing especially on presentation and discussion skills. Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and group presentations, on their lives, articles, videos, films, and books of their academic interests, such as in politics, economics, environmental issues, their study abroad plans, positive psychology, and neuroscience. The aim of this course is for each student to gain more confidence in listening, speaking, reading, writing, and cooperative skills so that they will be able to fully participate in and enjoy their study abroad experiences. Students will also get to read and write English extensively through posting short entries in social media within a closed group, such as in a Facebook group, and also through their article, video, and book report assignments.	
授業内容 Weeks 1-4 Getting to know each other. Each student makes an introductory speech. Introduction to Positive Psychology. Review basic conversation skills for social and academic settings. Posting short entries on positive experiences daily. Weeks 3-5 Learning effective learning skills by studying neuroscientific findings mainly from internet articles and TED.com video clips. Introduction to Mindfulness. (Weekly mindfulness experiences will follow throughout the semester.) Weeks 4-8 Student-led group discussions based on TED.com talks. Weeks 6-8 Basic presentation skills focusing on body language and voice inflection. Weeks 9-12 Developing an effective persuasive speech. Students in small groups will prepare a short group presentation (4 to 5 minutes each). Weeks 13-14 Final delivery of group presentations.	
履修の注意点 この授業は指定された教室において、ZOOMを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。 ・指定された教室以外での受講は不可であること。 授業は1学期で完結しますが、なるべくならば、秋学期も継続して履修することを強くお勧めします。 <p>また、このクラスを履修する方には、他のACE授業、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生／卒業生などが主催する各種イベント／勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で使用するZoomミーティングID： https://zoom.us/j/98771991894?pwd=MkJvb1ZPTesraTBwNGNSY1VrdlpiZz09 ミーティング ID: 987 7199 1894 バスコードを設定する: 879493 ・森本Emailアドレス（問合せ用）: yokomorimoto2012@gmail.com（必ずメールの表題に月5ACE、学年、受講生名を明記してください。例：月5ACE 1年明治花子） *この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZOOMでのリアルタイム授業が設定されています。	
準備学習の内容 This is a highly demanding course for advanced students. There will be a lot of homework in reading articles, books, watching videos, and preparing short reports. Additionally, students will be required to prepare for group presentations outside of their class time. In particular, they will be highly recommended to set up a time to talk in English EVERY DAY with their classmates, foreign students, or anybody who is willing to speak only in English in places such as International Exchange Lounge（国際交流ラウンジ）and/or online. 初回の授業では、英語による1分以内の簡単な自己紹介をしてもらいますので、準備をして来てください	
教科書 Study Skills for College English 2nd Edition（慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ¥1,050）	
参考書 Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery by Garr Reynolds, Voices That Matter, 3rd edition, 2019 Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021 ¥2,800+税 コウビルド英英辞典 ¥3,885（税込） マクミラン英英辞典(コンパクト版) 紀伊国屋書店 ¥3,990（税込） 電子辞書、英辞郎pro lite等オンライン辞書など。	
課題に対するフィードバックの方法 Mid-term and final presentations will be evaluated not only by the instructor, but also by the classmates using Google Form. However, the final grade for the course will be determined solely by the instructor.	
成績評価の方法 Participation: 20%（4回以上欠席した場合は原則として単位は認定されない。） Reports and written assignments including short posts: 40%（すべての課題を提出しなければ単位は認定されない。） Speeches, presentations and quizzes: 40%	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位 1～4 年次
【和泉】 秋学期 月曜 5 時限	
講師 森 本 陽 子	
授業の概要・到達目標 Building Presentation and Discussion Skills for Study Abroad (for advanced students) This course is designed for advanced students who are seriously considering studying abroad in English speaking countries. Using small group activities, students will build a firm foundation for academic and social skills in English focusing especially on presentation and discussion skills. Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and group presentations, on their lives, articles, videos, films, and books of their academic interests, such as in politics, economics, environmental issues, their study abroad plans, positive psychology, and neuroscience. The aim of this course is for each student to gain more confidence in listening, speaking, reading, writing, and cooperative skills so that they will be able to fully participate in and enjoy their study abroad experiences. Students will also get to read and write English extensively through posting short entries in social media within a closed group, such as in a Facebook group, and also through their article, video, and book report assignments.	
授業内容 Weeks 1-4 Getting to know each other. Each student makes an introductory speech. Introduction to Positive Psychology. Review basic conversation skills for social and academic settings. Posting short entries on positive experiences daily. Weeks 3-5 Learning effective learning skills by studying neuroscientific findings mainly from internet articles and TED.com video clips. Introduction to Mindfulness. (Weekly mindfulness experiences will follow throughout the semester.) Weeks 4-8 Student-led group discussions based on TED.com talks. Drama-based activities to enhance communicative skills. Weeks 6-8 Basic presentation skills focusing on body language and voice inflection. Weeks 9-12 Developing an effective persuasive speech. Students in small groups will prepare a short group presentation (4 to 5 minutes each). Weeks 13-14 Final delivery of group presentations.	
履修の注意点 この授業は指定された教室において、ZOOMを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。 ・指定された教室以外での受講は不可であること。 授業は1学期で完結しますが、より高い能力を身につけるために、この授業を履修した方に継続して履修することを強くお勧めします。すでに留学経験のある方も大歓迎です。 秋学期から加わる学生さんに向けて、春学期の成果を、復習を兼ねて継続履修の方々にプレゼンなどをしてもらおう予定です。秋学期は演劇の要素や、より高度なプレゼンスキルも無理のない範囲で取り入れる予定です。春学期と授業でのアクティビティや課題は類似しますが、扱う内容は各自が選択する部分が多いので、復習部分を除いては、授業内容の重複は限られます。 また、このクラスを履修する方には、他のACE授業、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生/卒業生などが主催する各種イベント/勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。 ・授業で使用するZoomミーティングID： https://zoom.us/j/98771991894?pwd=MkVjb1ZPTeSraTBwNGNSY1Vrdlpz00 ミーティング ID: 987 7199 1894 パスコードを設定する: 879493 ・森本Emailアドレス（問合せ用）: yokomorimoto2012@gmail.com（必ずメールの表題に月5ACE、学年、受講生名を明記してください。例：月5ACE 1年明治花子） *この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZOOMでのリアルタイム授業が設定されています。	
準備学習の内容 This is a highly demanding course for advanced students. There will be a lot of homework in reading articles, books, watching videos, and preparing short reports. Additionally, students will be required to prepare for group presentations outside of their class time. In particular, they will be highly recommended to set up a time to talk in English EVERY DAY with their classmates, foreign students, or anybody who is willing to speak only in English in places such as International Exchange Lounge (国際交流ラウンジ) and/or online. 初回の授業では、英語による1分以内の簡単な自己紹介をしてもらいますので、準備をして来てください	
教科書 Study Skills for College English 2nd Edition (慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ¥1,050)	
参考書 Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery by Garr Reynolds, Voices That Matter, 3rd edition, 2019 Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021 ¥2,800+税 コウビルド英英辞典 ¥3,885 (税込) マクミラン英英辞典(コンパクト版) 紀伊国屋書店 ¥3,990 (税込) 電子辞書、英辞郎pro lite等オンライン辞書など。	
課題に対するフィードバックの方法 Mid-term and final presentations will be evaluated not only by the instructor, but also by the classmates using Google Form. However, the final grade for the course will be determined solely by the instructor.	
成績評価の方法 Participation: 20% (4回以上欠席した場合は原則として単位は認定されない。) Reports and written assignments including short posts: 40% (すべての課題を提出しなければ単位は認定されない。) Speeches, presentations and quizzes: 40%	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【駿河台】 春学期 火曜 2 時限	1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Improving Speaking Fluency: Grammar and Pronunciation Please consider this course if you want to speak English faster and more comprehensibly in conversations. The course will cover various situations in which students can practice describing, comparing, and evaluating, with improved ability to communicate their true emotions and sound like their natural selves in a second language. The goals of this course are: <ol style="list-style-type: none"> 1. to learn and refine use of spoken English grammar 2. to learn and refine English pronunciation principles 3. to gain ability to speak in English with greater ease and at longer length 	
授業内容 1. Grammar content: Verb tense and aspect Modals and semi-modals Adverbials Articles, pronouns, and prepositions Punctuation (for added reading and writing ease) 2. Pronunciation content: Vowel sounds Consonant sounds Stress patterns Regional accents and vocabulary 3. Functional content (Note: these are examples of situations in which students will practice the above grammar and pronunciation content. More will be added according to student need and interest) : Interjections based on situation Agreeing and disagreeing based on the conversation partner Scary and exciting situations Sarcasm	
履修の注意点 There are no prerequisites for this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese. Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.	
準備学習の内容 Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.	
教科書 To be announced at a later date.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 60% Classwork and homework 20% Projects 20% Tests	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (M) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Mixed) 【2021年度以前入学者】	1 単位
	1～4 年次
【駿河台】 春学期 木曜 3 時限	
特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 <p>The main objective of this ACE course is to strengthen students' English-speaking ability and offers good opportunities for students who feel the need to develop their fluency and to increase confidence in order to participate in formal and informal conversations in daily life. The class will use an approach that incorporates speaking with the other skills of listening, reading, writing, and vocabulary in different classroom activities. In this course, students develop and gain confidence in speaking for real-life communication, with the use of themes and language frequently used in everyday conversations covering a variety of topics and including content based on the experiences of other English learners. The lessons are also designed to address issues such as improving pronunciation and intonation, avoiding common mistakes, honing critical thinking skills, and understanding informal and colloquial language in order to make students become more effective and confident communicators in English. Class activities include various skill-based exercises and drills, listening tasks, combined skills lessons making use of reading or listening text with writing, and will have a mix of individual, pair, and group work. There will also be focus on developing students' speaking skills through interaction with other students and allow them to work collaboratively in tasks involving information sharing and discussion.</p>	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction and overview Weeks 2-3: People and personalities Making introductions and getting to know people Weeks 4-5: City features Places in school and your community Weeks 6-7: Plans for a trip Making decisions and plans Weeks 8-9: Movies and TV shows Favorite movies and TV shows Weeks 10-11: Subjects in school Rules for working or studying at home Weeks 12-13: Preparing for team presentations Week 14: Team presentations Evaluation and assessment Wrap-up	
履修の注意点 <p>This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520. Active participation in class is necessary. Students who wish to enroll in the course must be willing to speak out and be not shy in expressing their ideas in class and in sharing and comparing viewpoints. A cooperative attitude is also needed as most activities are designed to encourage students to share their thoughts, ask questions, and exchange ideas with each other as well as to learn to work with a partner or in groups. Students must make every effort to always use and speak in English in class.</p>	
準備学習の内容 <p>Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings. It would be useful to always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.</p>	
教科書 Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, Kathryn O'Dell. <i>Evolve Level 3 Student's Book</i> . Cambridge University Press. 978-1-108-40528-7. Handouts for class activities and exercises will also be given out in the course of the semester.	
参考書 (1) Evolve website < https://www.cambridge.org/jp/cambridgeenglish/catalog/adult-courses/evolve > (2) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either printed, online, or an app. For dictionary apps, students may use their mobile phones with the professor's permission.	
課題に対するフィードバックの方法 <p>Students can directly receive feedback and advice from the professor regarding their work during the class. Consultation sessions will be held as necessary.</p>	
成績評価の方法 Attendance and class participation (30%) In-class work and written assignments, including homework (40%) Team presentation and speaking tasks (30%)	
その他 <p>Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.</p>	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (U) 【2022年度以降入学者】	1 単位
ACE II (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1～4 年次
【駿河台】 秋学期 火曜 2 時限	
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Profanity and Slurs This course will examine the meanings, origins, grammatical structures, and effects of profanity and slurs in English through sociolinguistic and social justice perspectives. Overall, the goal is not to teach students how to use these words, but rather how they are used and how to accurately interpret and safely react to them when they are used by others. WARNING 1: ANY abusive or inappropriate use of these words in or out of class will not be tolerated. The student will be failed and reported to the university for violating the student Code of Conduct. WARNING 2: Content warning: offensive content. If you are uncomfortable with offensive or hurtful words, this course will be difficult.	
授業内容 Unit 1: An introduction to sociolinguistics (approximately 3 weeks) Unit 2: Profanity (approximately 6 weeks) Unit 3: Slurs (approximately 5 weeks)	
履修の注意点 There are no prerequisites to this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese.	
準備学習の内容 Students are encouraged to read the University's Code of Conduct before enrolling in the course. Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.	
教科書 No textbook is required.	
参考書 Netflix series 'The History of Swear Words'	
課題に対するフィードバックの方法 50%: Classwork and homework 10%: Quizzes 40%: Projects	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE General Communication Skills (M) 【2022年度以降入学者】 ACE II (Mixed) 【2021年度以前入学者】	1 単位 1～4 年次
【駿河台】 秋学期 木曜 3 時限 特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 <p>This ACE course is about learning English through news media by reading and following news and current events as well as understanding public issues on topics that have an impact on Japan and the Japanese people. It is designed for students who would like to strengthen their reading and writing skills and to broaden their vocabulary and their general knowledge of local, national, and world affairs in English.</p> <p>The class will make use of authentic reading texts through articles from different English-language news media. Students update themselves with recent news and current events and are introduced to ideas, vocabulary, and terminology in real-world contexts and they become familiar with words and phrases in popular use. As they increase their vocabulary and cultural knowledge, they learn to understand these from the perspectives of native English speakers and draw comparisons with their own perspectives.</p> <p>Students will also become acquainted with news style of writing and distinguish between news and opinion. They will learn to interpret and summarize the content of articles further improving their reading comprehension skills and writing skills. Additionally, students will learn reading strategies and the importance of news literacy as well as media literacy skills, getting to know the concepts of fairness, balance, bias, evidence, fake news, propaganda, political correctness, etc. Through the study of these concepts, they understand how they can develop themselves to become well-informed and discerning readers and consumers of news.</p> <p>Apart from news searches and summaries, class activities include information sharing, discussions, and oral reporting. At the end of the course, students will be able to confidently express ideas and give their position on issues and news and current events based on what they read from news media, and be able to engage with others who have views different from their own.</p>	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction to the course Overview Week 2: What is news? Weeks 3 to 5: Understanding news literacy and media literacy Note-taking and news summaries Week 6: Preparing for article discussions Weeks 7 to 13: Article discussions (Various assigned topics) Week 14: Evaluation and Assessment Wrap-up	
履修の注意点 <p>This course welcomes students with a TOEIC score of at least 520.</p> <p>Active participation in class is necessary. Students who wish to enroll in the course must be willing to speak out and be not shy in expressing their ideas in class and in sharing and comparing viewpoints. A cooperative attitude is also needed as most activities are designed to encourage students to share their thoughts, ask questions, and exchange ideas with each other as well as to learn to work with a partner or in groups. Proficiency with Microsoft Word or other word-processing software and with PowerPoint will be helpful for accomplishing class assignments. Students must make every effort to always use and speak in English in class.</p>	
準備学習の内容 <p>For this class, students are encouraged to read newspapers on a regular basis and be well-informed and up-to-date about the latest news topics and issues as it will be helpful for participation in class. They are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must also complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework.</p> <p>Always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.</p>	
教科書 <p>There is no set textbook for this course. News articles from online and print media sources will be used for assignments and discussions. Readings and handouts will also be given out in the course of the semester.</p>	
参考書 <p>Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either printed, online, or an app. A list of recommended news media sources will be announced in class.</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>Students can directly receive feedback and advice from the professor regarding their work during the class. Individual consultation sessions will be held as necessary.</p>	
成績評価の方法 Class participation and attendance (30%) In-class activities and homework including article summaries and other written assignments (30%) Vocabulary list (15%) Final presentation or project (25%)	
その他 <p>Refer to the syllabus that the professor provides in class for further information.</p>	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE III (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 月曜 4 時限	1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Language Test Prep and Independent Study Skills - Vocabulary, Listening, Reading, Grammar The goal of this course is to help students develop language study skills that they can adapt and continue independently, thereby aiding in improving language test performance. The course will also cover test preparation skills such as researching and choosing an exam and creating a study plan. Non-language related test skills such as brainstorming and managing anxiety will also be explored.	
授業内容 Language study skills will cover how to study: Vocabulary Listening Reading Grammar Test preparation skills instruction will cover: TOEFL, TOEIC, and IELTS test structure and question types for the above skills Test-taking skills instruction will cover skills such as: Skimming/Scanning Making Inferences Guessing from context Note-taking	
履修の注意点 There are no prerequisites for this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese. Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.	
準備学習の内容 Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.	
教科書 No textbook is required for this course.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 50%: Language study skills reflections 10%: Quizzes on class content 40%: Classwork engagement and attendance	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE Ⅲ (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 水曜 4 時限	1 ~ 4 年次
准教授 ジョージ、ジョニーE.	
授業の概要・到達目標 TOEFL preparation strategies This course focuses on preparation for the TOEFL iBT exam. You will do reading and listening test drills as well as vocabulary quizzes. In groups you will practice TOEFL speaking and writing tasks and offer your classmates feedback. You will also discuss and share test taking strategies. The course objectives: Develop study skills Apply test taking strategies Improve your TOEFL score	
授業内容 This course focuses on practice and improvement of your test taking skills with lots of feedback. You will discuss test taking strategies. You will practice the TOEFL test.	
履修の注意点	
準備学習の内容 Read about the TOEFL test. Try a TOEFL sample test.	
教科書 教科書がありません。コースウェブサイトからダウンロードする。 All materials for the class will be provided via Oh-ol Meiji	
参考書 The TOEFL iBT is changing. What does that mean for you? https://www.timeshighereducation.com/student/advice/toefl-ibt-changing-what-does-mean-you	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Class participation 40% Vocabulary Quizzes 20% Practice TOEFL tests 40%	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE Ⅲ (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 5 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ライト、アレックス	
授業の概要・到達目標 This class will improve students' TOEIC test taking skills and basic English ability. By focusing on a number of test taking strategies as well as practicing material from sample tests, students will improve their TOEIC test taking skills. By learning the most important TOEIC specific vocabulary and gaining extensive listening input, students will improve their basic English skills in a way which will also benefit their TOEIC scores as well.	
授業内容 第 1 回 Course introduction 第 2 回 Unit 1: Listening Test Part 1 第 3 回 Unit 2: Listening Test Part 2 第 4 回 Unit 3: Listening Test Part 3 第 5 回 Unit 4: Listening Test Part 4 第 6 回 Unit 5: Reading Test Part 5 第 7 回 Unit 6: Reading Test Part 6 第 8 回 Unit 7: Reading test Part 7 第 9 回 Unit 8: Listening test Part 1 第10回 Unit 9: Listening test Part 2 第11回 Unit 10: Listening test Part 3 第12回 Unit 11: Listening test Part 4 第13回 Unit 12: Reading test Part 1 第14回 Unit 13: Reading test Part 2	
履修の注意点 This is a one year ACE course. The second half of the same textbook will be used for the fall course. Class size is limited to 15 students.	
準備学習の内容 Please be ready with your Textbook each week. Students will be required to master a large portion of the TSL (TOEIC Service List) which is a list of the most important vocabulary for ToEIC by how frequently it appears. Students will have to look at a portion of the list each week and identify the words they don't know and then learn the words they don't know on their own. They will also be required to listen to listening materials outside of class each week to improve their listening comprehension skills and write a short summary for homework.	
教科書 Tactics for TOEIC Listening and Reading Test, Grant Trew ~2650yen Listeners will be provided by the instructor	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 30% Participation 40% Quizzes 30% Extensive listening	
その他 If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE Ⅲ (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 2 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing four skills (Speaking, Listening, Reading and Writing) for academic purposes. The course goal is to help students perform in an academic environment by performing the following tasks: pair and group discussions and presentations, using clarification techniques, analyzing listening passages, writing and peer-editing sentences and paragraphs and analyzing and organizing reading passage information. Additionally, the course will work on developing collaboration skills through spoken and writing small group tasks. This will be done primarily through presentation writing and speaking assignments in small teams. This course will also develop the skills necessary to improve performance on the IELTS Test. Students will use IELTS exam materials for reading and vocabulary assignments which will be discussed in class. Additionally, students will be provided with the fundamentals for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Options 第3回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development. 第4回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, 1st Presentation Practice 第5回目 1st Presentation Small Group, Question and Answer, Presentation Draft Review 第6回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice, IELTS Vocabulary Review 第7回目 Class Presentations All Groups 第8回目 2nd Presentation Topic Introductions and Group Formations 第9回目 2nd Presentation New Groups, Presentation Content Options 第10回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development 第11回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Review, IELTS Reading Review 第12回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice Set 1 & 2 第13回目 Final Presentations Set 1 and Set 2, Question and Answer 第14回目 Final Presentations Review, Question and Answer, Presentation Feedback	
履修の注意点 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must have some degree of proficiency with MS Word or Google Documents, as presentation drafts will require online applications to submit documents for the class.	
準備学習の内容 Students thinking about taking other ACE exam preparation courses will also benefit from taking this course. This course is a full year ACE exam skills course. Students can register for both semesters of this course Students cannot take the Friday period 2 and period 3 courses offered, as each period is designed for different levels, and because some of the class content and material will be used in both classes. Class size is limited to 14 students.	
教科書 No textbook required. Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You must have a good level of proficiency with Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as coursework drafts & presentation materials will be submitted in Google Classroom. Late submissions receive a ZERO score. Additionally, the course is meant to help students preparing for IELTS online tests. STUDENTS SHOULD BRING A COMPUTER or TABLET TO CLASS ITO DO IN-CLASS WORK.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (U) 【2022年度以降入学者】 ACE Ⅲ (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 春学期 金曜 3 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing four skills (Speaking, Listening, Reading and Writing) for academic purposes. The course goal is to help students perform in an academic environment by performing the following tasks: pair and group discussions and presentations, using clarification techniques, analyzing listening passages, writing and peer-editing sentences and paragraphs and analyzing and organizing reading passage information. Additionally, the course will work on developing collaboration skills through spoken and writing small group tasks. This will be done primarily through presentation writing and speaking assignments in small teams. This course will also develop the skills necessary to improve performance on the IELTS Test. Students will use IELTS exam materials for reading and vocabulary assignments which will be discussed in class. Additionally, students will be provided with the fundamentals for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Presentation Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Options 第3回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development. 第4回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, 1st Presentation Practice 第5回目 1st Presentation Small Group, Question and Answer, Presentation Draft Review 第6回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice, IELTS Vocabulary Review 第7回目 Class Presentations All Groups 第8回目 2nd Presentation Topic Introductions and Group Formations 第9回目 2nd Presentation New Groups, Presentation Content Options 第10回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Development 第11回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Content Review, IELTS Reading Review 第12回目 Discussion, Speaking and Writing Skills, Presentation Practice Set 1 & 2 第13回目 Final Presentations Set 1 and Set 2, Question and Answer 第14回目 Final Presentations Review, Question and Answer, Presentation Feedback	
履修の注意点 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must have some degree of proficiency with MS Word or Google Documents, as presentation drafts will require online applications to submit documents for the class.	
準備学習の内容 Students thinking about taking other ACE exam preparation courses will also benefit from taking this course. This course is a full year ACE exam skills course. Students can register for both semesters of this course Students cannot take the Friday period 2 and period 3 courses offered, as each period is designed for different levels, and because some of the class content and material will be used in both classes. Class size is limited to 14 students.	
教科書 No textbook required. Students will use computers for this class. Please consider this carefully before registering. You must have a good level of proficiency with Google Applications (Drive: Documents, Sheets, Slides) and/or MS Office, as coursework drafts & presentation materials will be submitted in Google Classroom. Late submissions receive a ZERO score. Additionally, the course is meant to help students preparing for IELTS online tests. STUDENTS SHOULD BRING A COMPUTER or TABLET TO CLASS ITO DO IN-CLASS WORK.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (I) 【2022年度以降入学者】 ACE III (Intermediate) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 月曜 4 時限	1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Language Test Prep and Independent Study Skills - Vocabulary, Speaking, Writing, Grammar The goal of this course is to help students develop language study skills that they can adapt and continue independently, thereby aiding in improving language test performance. The course will also cover test preparation skills such as researching and choosing an exam and creating a study plan. Non-language related test skills such as brainstorming and managing anxiety will also be explored.	
授業内容 Language study skills will cover how to study: Vocabulary Speaking Writing Grammar Test preparation skills instruction will cover: TOEFL, TOEIC, and IELTS test structure, question types, and rubrics (if available) for the above skills Test-taking skills instruction will cover skills such as: Note-taking Brainstorming Circumlocution Writing quickly and effectively Speaking confidently	
履修の注意点 There are no prerequisites for this course. Students should be ready to use English in the class with minimal or no Japanese. Please ensure that you are signing up for ACE courses that are at your level of English proficiency.	
準備学習の内容 Students should make sure to complete reading and homework assignments before the start of class, as well as regularly review the content and language of the previous classes.	
教科書 No textbook is required for this course.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 50%: Language study skills reflections 10%: Quizzes on class content 40%: Classwork engagement and attendance	
成績評価の方法	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE Ⅲ (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位 1～4 年次
【和泉】 秋学期 金曜 1 時限	
特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 <p>This ACE course is designed with an integrated skills approach to help students prepare for the IELTS and other similar standardized English-language proficiency exams and to hone their test-taking skills and language skills. It provides skills practice, exam practice, and learning strategies for students who are aiming for an IELTS Target Band score of about 6-6.5 (between 60 to 90 in TOEFL iBT).</p> <p>The course aims to prepare students by familiarizing them with the IELTS test format, introducing them to a different range of topics and then, providing them with practical lessons to improve their performance and scores. The lessons aim to develop test-taking skills and strategies in a structured IELTS context with flexibility so that it can be tailored to meet student needs.</p> <p>The lessons for each unit provide students with guided practice, organized according to skill (speaking, writing, reading, listening, plus grammar and vocabulary) with examples of different test question types and sample test items. They also include vocabulary-building tasks, pronunciation practice, and tips for writing and answering test questions. By the end of the course, students will have developed the necessary skills and be better equipped for IELTS and standardized English language tests. Moreover, they can apply the knowledge to various academic contexts such as research, writing paper, and for coursework during studying abroad.</p>	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction to the course Overview Week 2: Understanding the IELTS Week 3: Topic (1) The Man-made Environment - Listening and Reading Week 4: Topic (1) The Man-made Environment - Speaking and Writing Week 5: Topic (2) The News and Media - Listening and Reading Week 6: Topic (2) The News and Media - Speaking and Writing Week 7: Midterm test Week 8: Review Supplementary skills practice Week 9: Topic (3) Education Systems - Listening and Reading Week 10: Topic (3) Education Systems - Speaking and Writing Week 11: Topic (4) Festivals and Traditions - Listening and Reading Week 12: Topic (4) Festivals and Traditions - Speaking and Writing Week 13: Review Supplementary skills practice Week 14: Final test Wrap-up	
履修の注意点 <p>This course welcomes students with a TOEIC score of at least 600 with the intention of taking any of the standardized language proficiency examinations but it is specially targeted for those who intend to take the IELTS in preparation for studying abroad.</p> <p>Please note that the class will not be a typical test preparation course with mere drills and practice exams but will take a more practical and interactive multi-skill approach with added opportunity for practicing speaking and writing. There will be a mix of activities that will require students to work independently and with each other as a pair or in a group. Students who wish to enroll in this class must be willing to speak out and actively participate in group work and discussions and are not shy in sharing and comparing viewpoints with others. Both a collaborative and cooperative attitude are necessary to successfully complete the course.</p>	
準備学習の内容 <p>Students are expected to come to class prepared and ready to contribute to the discussion and be involved in all activities. They must complete within the given time all assignments, including in-class work and homework and participate as well in out-of-class preparations such as communicating and working together with classmates for group assignments and meetings.</p> <p>Always bring to class a dictionary, a notebook for taking down lecture notes and vocabulary, and a file folder for keeping all handouts. The use of devices, i.e. mobile phones, tablets, and computer laptops, will be allowed only for study purposes and with permission from the professor.</p>	
教科書 Peter Crosthwaite, Natasha De Souza, and Marc Loewenthal. <i>Cambridge English MINDSET FOR IELTS Student's Book 2</i> . Cambridge University Press. ISBN 978-1-316-64015-9. Handouts for exercises and for some class activities will also be given out in class.	
参考書 1) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or a monolingual English one, either printed, online, or an app. 2) The official IELTS website (https://www.ielts.org/) 3) The Official Cambridge Guide to IELTS app available in both Android and iOS versions	
課題に対するフィードバックの方法 Students will be able to directly receive advice and feedback about their work from the professor. Feedback may also be given immediately after an activity.	
成績評価の方法 Class participation and attendance (25%) In-class activities and exercises (30%) Midterm and final tests (30%) Vocabulary list (15%)	
その他 Refer to the syllabus that the professor will hand out in class for further details.	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE Ⅲ (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 5 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ライト、アレックス	
授業の概要・到達目標 This class will improve students' TOEIC test taking skills and basic English ability. By focusing on a number of test taking strategies as well as practicing material from sample tests, students will improve their TOEIC test taking skills. By learning the most important TOEIC specific vocabulary and gaining extensive listening input, students will improve their basic English skills in a way which will also benefit their TOEIC scores as well.	
授業内容 第 1 回 Unit 15 Listening Test Part 1 第 2 回 Unit 16: Listening Test Part 2 第 3 回 Unit 17: Listening Test Part 3 第 4 回 Unit 18: Listening Test Part 4 第 5 回 Unit 19: Reading Test Part 5 第 6 回 Unit 20: Reading Test Part 6 第 7 回 Unit 21: Reading Test Part 7 第 8 回 Unit 22: Listening Test Part 1 第 9 回 Unit 23: Listening Test Part 2 第10回 Unit 24: Listening Test Part 3 第11回 Unit 25: Listening Test Part 4 第12回 Unit 26: Reading Test Part 1 第13回 Unit 27: Reading test Part 2 第14回 Unit 28: Reading test Part 3	
履修の注意点 This is the second half of a one year course. The second half of the same textbook will be used for the fall course. Students who have not completed the spring part of the course can still join this class. Class size is limited to 15 students.	
準備学習の内容 Please be ready with your Textbook each week. Students will be required to master a large portion of the TSL (TOEIC Service List) which is a list of the most important vocabulary for ToEIC by how frequently it appears. Students will have to look at a portion of the list each week and identify the words they don't know and then learn the words they don't know on their own. They will also be required to listen to listening materials outside of class each week to improve their listening comprehension skills and write a short summary for homework.	
教科書 Tactics for TOEIC Listening and Reading Test, Grant Trew ~2650yen Listeners will be provided by the instructor	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 30% Participation 40% Quizzes 30% Extensive listening	
その他 If you have any questions please email me at alexwright48@gmail.com	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (A) 【2022年度以降入学者】 ACE Ⅲ (Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位 1 ~ 4 年次
【和泉】 秋学期 金曜 2 時限 兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第 1 回目 Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction 第 2 回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development 第 3 回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation 第 4 回目 Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation 第 5 回目 Mini Debate Topic Presentation All Teams 第 6 回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development 第 7 回目 Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion 第 8 回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice 第 9 回目 First Debate Topic Presentation All Teams 第10回目 Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development 第11回目 Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion 第12回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice 第13回目 Final Debates in Groups 第14回目 Vocabulary Sheet Submission (Google Classroom), Final Debate Review	
履修の注意点 Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course. This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students also cannot repeat this class in the fall semester, as it is designed as a one semester class.	
準備学習の内容 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES (JPEG, PNG, GIF, etc) for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.	
教科書 No textbook required.	
参考書 Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class	
課題に対するフィードバックの方法 We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course, Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom.	
成績評価の方法 30% Weekly Review (research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online) 30% Participation (students will need to be actively involved in the class) 40% Assessment (includes two debates, a mini-debate, debate-related preparation assignments)	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Exam Skills (U) 【2022年度以降入学者】 ACE III (Upper Advanced) 【2021年度以前入学者】	1 単位
【和泉】 秋学期 金曜 3 時限	1 ~ 4 年次
兼任講師 ハダス, マイケルM.	
授業の概要・到達目標 This course will focus on developing speaking, listening, and communication skills for academic and general communication purposes. The course goal is to help students communicate effectively in social and academic environments using the following tasks: pair and group discussions and debates, rebuttal formation, listening to opinions and determining reasons, debating opinions and disagreeing with reasons, and using credible evidence to support an argument. The course will focus on developing debate skills by defending arguments with credible and effective reasons. This will be accomplished primarily during small team debate development and homework tasks. Additionally, students will develop and apply vocabulary skills for writing at the university level in universities abroad.	
授業内容 第1回目 Course Introduction and Expectations and Academic Debate Topics Introduction 第2回目 Discussion, Speaking Skills Part 1, Academic Debate Development 第3回目 Discussion, Speaking Skills Part 2, Academic Debate Development, Debate formation 第4回目 Discussion, Speaking Skills Review, Mini Debate Preparation 第5回目 Mini Debate Topic Presentation All Teams 第6回目 Discussion, Speaking Skills Part 3: Debate 1 Introduction, Evidence Development 第7回目 Discussion, Speaking Skills Part 4: Debate 1 Development, Evidence Completion 第8回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 1 Practice 第9回目 First Debate Topic Presentation All Teams 第10回目 Debate Speaking Skills Part 6: Debate 2 Introduction, Evidence Development 第11回目 Debate Speaking Skills Part 7: Debate 2 Development, Evidence Completion 第12回目 Discussion, Speaking Skills Review, Debate 2 Practice 第13回目 Final Debates in Groups 第14回目 Vocabulary Sheet Submission (Google Classroom), Final Debate Review	
履修の注意点 Students who would like to study abroad or improve academic communication skills will benefit from taking this course. This course is a one semester ACE Content Based-Study course. Class size is limited to 14 students. Students taking the other Tuesday 5th period content-based study class cannot take this course, as there will be material shared between the classes. Students also cannot repeat this class in the fall semester, as it is designed as a one semester class.	
準備学習の内容 Students will use Google Classroom for all class work submissions for this class. Please consider this before registering. You must be proficient with MS Word and/or Google Documents, as ALL coursework will be submitted online for the class. I WILL NOT ACCEPT PDF's or IMAGE FILES (JPEG, PNG, GIF, etc) for grading. ALL coursework must be submitted by the deadline posted in Google Classroom. I DO NOT ACCEPT LATE HOMEWORK SUBMISSIONS.	
教科書 No textbook required.	
参考書 Online resources will be introduced throughout the semester. I will provide instructions on how to use the Google Classroom functions in our second class	
課題に対するフィードバックの方法 We will use Google Classroom for feedback & assignments for the course, Students MUST HAVE a Gmail address to register for Google Classroom.	
成績評価の方法 30% Weekly Review (research collected outside of class for debates and vocabulary sheet to be submitted online) 30% Participation (students will need to be actively involved in the class) 40% Assessment (includes two debates, a mini-debate, debate-related preparation assignments)	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) LAN311E	
ACE Presentation Skills	1 単位
	【駿河台】 春学期 火曜 4 時限 1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ, ルアン K.	
授業の概要・到達目標 The main goal of this course is to review presentation skills and to build up toward a final persuasive presentation on an academic subject, which will be presented individually. Students will be expected to deliver their presentations effectively and also to smoothly handle questions after the delivery. It is possible that we will invite students and teachers from outside our class to our mid-term and final presentation classes and have them participate in the discussions after each presentation. Students will be encouraged to support their classmates preparing for their presentations. Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and speeches.	
授業内容 Lesson Content: - Purposes of presenting - Factors of successful presentations - Rhetoric choices - Citation expectations - The Q&A session - Presentation content structure and organization - Finding reliable sources - Visual accessibility - Writing a catchy title and description - Preparing an outline and notecards	
履修の注意点	
準備学習の内容 単位を得るには、最低、mid-term, final presentationを合格レベルで発表し、スムーズに発表後の質疑応答、ディスカッションを英語でこなすことが求められます。また、4回以上欠席すると、評価の対象にはなりません。	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Participation, weekly assignments and speeches: 30% Mid-term presentation: 30% Final presentation: 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN311E	
ACE Presentation Skills	1 単位
	【駿河台】 春学期 木曜 4 時限 1 ~ 4 年次
特任講師 デヴェラ, ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 This course is a special "exit" course in the ACE Program, designed for students who wish to obtain the ACE Certificate with the aim of honing and enhancing their presentation and public speaking skills in English. Students will have the opportunity to review the structure and flow of an academic presentation and to build on the skills that they have acquired in other ACE classes, thus learning how to more effectively communicate their ideas to an audience. They will receive more specific and directed guidance in planning and creating persuasive speeches and presentations to be able to deliver these with confidence. Students will be expected to conduct their own research on an academic topic they choose for their presentations. The lessons will help further develop students' presentation skills and communicative skills by providing speaking opportunities in different class activities such as mini presentations, dialogues, or small-group discussions for them to also share ideas, information, and opinions. These form part of the preparations for their final presentations, which they must present individually or in pairs at the end of the semester. During the final presentations, they will speak before a public audience that may include fellow students and invited instructors and participate in Q&A and discussions after each presentation.	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction to the course Overview Weeks 2 to 4: Review of basic presentation skills and structure of a presentation Weeks 5 to 7: Preparations for the midterm presentations Week 8: Midterm presentations Weeks 9 to 12: Preparations and rehearsals for the final presentations Weeks 13 to 14: Final presentations Wrap-up Evaluation and Assessment	
履修の注意点 The maximum number of students who can register for this course is 8 students. To register for this class, students must meet the following two prerequisites: 1 Earned a minimum of 6 credits with a grade of S or A from ACE and other approved classes 2 A TOEIC score of 600 or higher (Criteria will change for students enrolling in 2018 and beyond.)	
準備学習の内容 Students must plan and perform two major presentations, a midterm presentation and a final presentation, at a level that meets class requirements and standards for assessment, and also prepare for the post-presentation Q&A and discussions in English. They are expected to come to class ready to contribute to discussions and be involved in all activities. They must complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework.	
教科書 None in particular. Handouts for class activities and exercises will also be given out in the course of the semester.	
参考書 (1) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or better yet, an all-English dictionary for English learners, either printed, online, or an app (2) LeBeau, C. (2020) <i>Speaking of speech</i> . National Geographic Learning. (3) Stafford, M. (2012) <i>Successful presentations: An interactive guide</i> . Cengage Learning.	
課題に対するフィードバックの方法 Individual consultation sessions will be held so students can directly receive feedback and advice from the instructor regarding their work during the class.	
成績評価の方法 Attendance and class participation (30%) In-class work and written assignments (20%) Midterm and final presentations (50%)	
その他 Refer to the syllabus that the instructor provides in class for further information.	

科目ナンバー：(PE) LAN311E	
ACE Presentation Skills	1 単位
	【駿河台】 秋学期 火曜 4 時限 1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ, ルアン K.	
授業の概要・到達目標 The main goal of this course is to review presentation skills and to build up toward a final persuasive presentation on an academic subject, which will be presented individually. Students will be expected to deliver their presentations effectively and also to smoothly handle questions after the delivery. It is possible that we will invite students and teachers from outside our class to our mid-term and final presentation classes and have them participate in the discussions after each presentation. Students will be encouraged to support their classmates preparing for their presentations. Students will have ample opportunities to use English in small group discussions and speeches.	
授業内容 Lesson Content: - Purposes of presenting - Factors of successful presentations - Rhetoric choices - Citation expectations - The Q&A session - Presentation content structure and organization - Finding reliable sources - Visual accessibility - Writing a catchy title and description - Preparing an outline and notecards	
履修の注意点	
準備学習の内容 単位を得るには、最低、mid-term, final presentationを合格レベルで発表し、スムーズに発表後の質疑応答、ディスカッションを英語でこなすことが求められます。また、4回以上欠席すると、評価の対象にはなりません。	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Participation, weekly assignments and speeches: 30% Mid-term presentation: 30% Final presentation: 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN311E	
ACE Presentation Skills	1 単位
	【駿河台】 秋学期 木曜 4 時限 1 ~ 4 年次
特任講師 デヴェラ, ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 This course is a special "exit" course in the ACE Program, designed for students who wish to obtain the ACE Certificate with the aim of honing and enhancing their presentation and public speaking skills in English. Students will have the opportunity to review the structure and flow of an academic presentation and to build on the skills that they have acquired in other ACE classes, thus learning how to more effectively communicate their ideas to an audience. They will receive more specific and directed guidance in planning and creating persuasive speeches and presentations to be able to deliver these with confidence. Students will be expected to conduct their own research on an academic topic they choose for their presentations. The lessons will help further develop students' presentation skills and communicative skills by providing speaking opportunities in different class activities such as mini presentations, dialogues, or small-group discussions for them to also share ideas, information, and opinions. These form part of the preparations for their final presentations, which they must present individually or in pairs at the end of the semester. During the final presentations, they will speak before a public audience that may include fellow students and invited instructors and participate in Q&A and discussions after each presentation.	
授業内容 (Content is subject to change based on the needs of the class) Week 1: Introduction to the course Overview Weeks 2 to 4: Review of basic presentation skills and structure of a presentation Weeks 5 to 7: Preparations for the midterm presentations Week 8: Midterm presentations Weeks 9 to 12: Preparations and rehearsals for the final presentations Weeks 13 to 14: Final presentations Wrap-up Evaluation and Assessment	
履修の注意点 The maximum number of students who can register for this course is 8 students. To register for this class, students must meet the following two prerequisites: 1 Earned a minimum of 6 credits with a grade of S or A from ACE and other approved classes 2 A TOEIC score of 600 or higher (Criteria will change for students enrolling in 2018 and beyond.)	
準備学習の内容 Students must plan and perform two major presentations, a midterm presentation and a final presentation, at a level that meets class requirements and standards for assessment, and also prepare for the post-presentation Q&A and discussions in English. They are expected to come to class ready to contribute to discussions and be involved in all activities. They must complete within the given time all class assignments, including in-class work and homework.	
教科書 None in particular. Handouts for class activities and exercises will also be given out in the course of the semester.	
参考書 (1) Any English dictionary for language learners, a bilingual English/Japanese dictionary or better yet, an all-English dictionary for English learners, either printed, online, or an app (2) LeBeau, C. (2020) <i>Speaking of speech</i> . National Geographic Learning. (3) Stafford, M. (2012) <i>Successful presentations: An interactive guide</i> . Cengage Learning.	
課題に対するフィードバックの方法 Individual consultation sessions will be held so students can directly receive feedback and advice from the instructor regarding their work during the class.	
成績評価の方法 Attendance and class participation (30%) In-class work and written assignments (20%) Midterm and final presentations (50%)	
その他 Refer to the syllabus that the instructor provides in class for further information.	

科目ナンバー：(PE) LAN311E	
ACE Presentation Skills	1 単位
	【駿河台】 春学期 水曜 5 時限 1 ~ 4 年次
講師 森 本 陽 子	
授業の概要・到達目標 <p>This course is a special "exit" course in the ACE Program, designed for students who wish to obtain the ACE Certificate. The main goal of this course is to review presentation skills and to build up toward a final persuasive presentation on an academic subject, which will be presented individually. Students will be expected to deliver their presentations effectively and also to smoothly handle questions after the delivery. We will invite students and teachers from outside our class to our mid-term and final presentation classes and have them participate in the discussions after each presentation. Students will be encouraged to support their classmates preparing for their presentations, and peer teaching of various presentation skills will often be assigned. They will have ample opportunities to use English in small group discussions and speeches.</p>	
授業内容 <p>Week 1 Getting to know each other. Short self-introduction speeches by each student.</p> <p>Weeks 2-4 Reviewing basic presentation skills. Every week each student will prepare and give a short speech, a presentation, or a workshop on a given topic.</p> <p>Week 4 A class survey on the opinion statement chosen for the mid-term presentation. Submission of the outline for the mid-term presentations. Introduction to Mindfulness. We'll be having a mindfulness experience weekly throughout the semester to build the confidence and equanimity required for a confident presenter.</p> <p>Weeks 5 Delivering Introduction of the mid-term presentations (about 1 minute)</p> <p>Week 6 Delivering Introduction and Body of the mid-term presentations (about 4 to 5 minutes)</p> <p>Week 7 A full rehearsal of the mid-term presentation (5 to 6 minutes each).</p> <p>Week 8 Full delivery of the mid-term presentation (5 to 6 minutes each) followed by short discussions involving the audience.</p> <p>Week 9 A class survey on the opinion statement chosen for the final presentations. Submission of the outline for the final presentations</p> <p>Week 10 Delivering Introduction to the final presentations</p> <p>Week 11 Delivering Introduction and Body of the final presentations</p> <p>Week 12 Rehearsing the delivery of the Final presentations</p> <p>Week 13-14 Full delivery of the final presentations (9 to 10 minutes each) followed by short discussions involving the audience. The final presentation event will be open to the public, and they will be done online and videotaped and may be shared in other ACE classes and the ACE public website.</p>	
履修の注意点 <p>定員は 8 名です。この授業に登録するには、以下の 2 つの前提条件をすべてクリアしている必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ACBI-IV から、S または A の評価を 6 単位以上取得。 2 TOEIC スコア 700 以上を取得。(2017 年以前の入学者は 600 点以上。) <p>この授業は指定された教室において、ZOOM を使用して開講されます。特に次の点に留意した上で履修してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修者が各自で PC とヘッドセット、またはイヤホン(マイク付き)を準備すること。 ・指定された教室以外での受講は不可であること。 <p>また、このクラスを履修する方には、グローバルキャリア形成(GCD)プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACE の学生/卒業生などが主催する各種イベント/勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で使用する Zoom ミーティング ID : トピック: Zoom meeting invitation - Yoko Morimoto 水5 ACE Presentation Skills 時刻: 毎週水曜 05:00 PM 大阪、札幌、東京 (実際の授業開始時間は 5 時からです) <p>参加 Zoom ミーティング https://zoom.us/j/98563231553?pwd=SnhnRHkvR0hUTVnJM3hZnZXV29ZQT09 ミーティング ID: 985 6323 1553 パスコードを設定する: 860986</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森本 Email アドレス (問合せ用): yokomorimoto2012@gmail.com (必ずメールの表題に水5ACE PS、学年、受講生名を明記してください。例: 水5ACE PS 3 年明治花子 課題についての質問) <p>*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別に ZOOM でのリアルタイム授業が設定されています。</p>	
準備学習の内容 <p>単位を得るには、mid-term, final presentation を授業で学ぶ各スキルを体得し、合格レベル(リサーチに基づき、わかりやすく構成された内容を、スムーズに、原稿に頼らず、メモ程度を使って、ポディーランゲージをフルに活用するなどして、感情に訴える聴衆が見やすいスライドなどを使用して行うことができる)以上のクオリティで発表し、発表後の質疑応答、ディスカッションを英語でこなすことが求められます。そのために、毎週段階的に、準備をしていき、各授業で準備ができた部分を発表していただくので、毎週の準備を怠らなければ、確実に満足のいくプレゼンが披露できるでしょう。万が一欠席をした時には、必ずクラスメートにその週の課題などを確認するようにしてください。また、4 回以上欠席すると、評価の対象にはなりません。</p>	
教科書 Study Skills for College English 2nd Edition (慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ¥1,050)	
参考書 Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021 Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery, 2nd Edition by Garr Reynolds, Voices That Matter, 2011 英辞郎 Pro Lite 等オンライン辞書。	
課題に対するフィードバックの方法 Mid-term and final presentations will be evaluated not only by the instructor, but also by the classmates (and others in the audience) using Google Form. However, the final grade for the course will be determined solely by the instructor.	
成績評価の方法 Participation, weekly assignments and speeches: 25% Mid-term presentation: 30% Final presentation: 45%	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) LAN311E	
ACE Presentation Skills	1 単位
	【駿河台】 秋学期 水曜 5 時限 1 ~ 4 年次
講師 森 本 陽 子	
授業の概要・到達目標 <p>This course is a special "exit" course in the ACE Program, designed for students who wish to obtain the ACE Certificate. The main goal of this course is to review presentation skills and to build up toward a final persuasive presentation on an academic subject, which will be presented individually. Students will be expected to deliver their presentations effectively and also to smoothly handle questions after the delivery. We will invite students and teachers from outside our class to our mid-term and final presentation classes and have them participate in the discussions after each presentation. Students will be encouraged to support their classmates preparing for their presentations, and peer teaching of various presentation skills will often be assigned. They will have ample opportunities to use English in small group discussions and speeches.</p>	
授業内容 <p>Week 1 Getting to know each other. Short self-introduction speeches by each student.</p> <p>Weeks 2-4 Reviewing basic presentation skills. Every week each student will prepare and give a short speech, a presentation, or a workshop on a given topic.</p> <p>Week 4 A class survey on the opinion statement chosen for the mid-term presentation. Submission of the outline for the mid-term presentations. Introduction to Mindfulness. We'll be having a mindfulness experience weekly throughout the semester to build the confidence and equanimity required for a confident presenter.</p> <p>Weeks 5 Delivering Introduction of the mid-term presentations (about 1 minute)</p> <p>Week 6 Delivering Introduction and Body of the mid-term presentations (about 4 to 5 minutes)</p> <p>Week 7 A full rehearsal of the mid-term presentation (5 to 6 minutes each).</p> <p>Week 8 Full delivery of the mid-term presentation (5 to 6 minutes each) followed by short discussions involving the audience.</p> <p>Week 9 A class survey on the opinion statement chosen for the final presentations. Submission of the outline for the final presentations</p> <p>Week 10 Delivering Introduction to the final presentations</p> <p>Week 11 Delivering Introduction and Body of the final presentations</p> <p>Week 12 Rehearsing the delivery of the Final presentations</p> <p>Week 13-14 Full delivery of the final presentations (9 to 10 minutes each) followed by short discussions involving the audience. The final presentation event will be open to the public, and they will be done online and videotaped and may be shared in other ACE classes and the ACE public website.</p>	
履修の注意点 <p>定員は 8 名です。この授業に登録するには、以下の 2 つの前提条件をすべてクリアしている必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ACBI-IV から、S または A の評価を 6 単位以上取得。 2 TOEIC スコア 700 以上を取得。(2017 年以前の入学者は 600 点以上。) <p>この授業は指定された教室において、ZOOM を使用して開講されます。特に次の点に留意した上で履修してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修者が各自で PC とヘッドセット、またはイヤホン(マイク付き)を準備すること。 ・指定された教室以外での受講は不可であること。 <p>また、このクラスを履修する方には、グローバルキャリア形成(GCD)プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACE の学生/卒業生などが主催する各種イベント/勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなどに積極的に参加することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で使用する Zoom ミーティング ID : トピック: Zoom meeting invitation - Yoko Morimoto 水5 ACE Presentation Skills 時刻: 毎週水曜 05:00 PM 大阪、札幌、東京 (実際の授業開始時間は 5 時からです) <p>参加 Zoom ミーティング https://zoom.us/j/98563231553?pwd=SnhnRHkvR0hUTVnJM3hZnZXV29ZQT09 ミーティング ID: 985 6323 1553 パスコードを設定する: 860986</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森本 Email アドレス (問合せ用): yokomorimoto2012@gmail.com (必ずメールの表題に水5ACE PS、学年、受講生名を明記してください。例: 水5ACE PS 3 年明治花子 課題についての質問) <p>*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別に ZOOM でのリアルタイム授業が設定されています。</p>	
準備学習の内容 <p>単位を得るには、mid-term, final presentation を授業で学ぶ各スキルを体得し、合格レベル(リサーチに基づき、わかりやすく構成された内容を、スムーズに、原稿に頼らず、メモ程度を使って、ボディーランゲージをフルに活用するなどして、感情に訴える聴衆が見やすいスライドなどを使用して行うことができる)以上のクオリティで発表し、発表後の質疑応答、ディスカッションを英語でこなすことが求められます。そのために、毎週段階的に、準備をしていき、各授業で準備ができた部分を発表していただくので、毎週の準備を怠らなければ、確実に満足のいくプレゼンが披露できるでしょう。万が一欠席をした時には、必ずクラスメートにその週の課題などを確認するようにしてください。また、4 回以上欠席すると、評価の対象にはなりません。</p>	
教科書 Study Skills for College English 2nd Edition (慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ¥1,050)	
参考書 Speaking of Speech Premium Edition, by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan, 2021 Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery, 2nd Edition by Garr Reynolds, Voices That Matter, 2011 英辞郎 ProLite 等オンライン辞書。	
課題に対するフィードバックの方法 Mid-term and final presentations will be evaluated not only by the instructor, but also by the classmates (and others in the audience) using Google Form. However, the final grade for the course will be determined solely by the instructor.	
成績評価の方法 Participation, weekly assignments and speeches: 25% Mid-term presentation: 30% Final presentation: 45%	
その他 None	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Academic Training 【2022年度以降入学者】	1 単位
	【和泉】 春学期 月曜 2 時限 1 ~ 4 年次
准教授 ネルソン、リンジー	
授業の概要・到達目標 ACE Academic Training: Work and Play This course is designed to emulate an undergraduate area studies course in a U.S. university. The course will be taught entirely in English and will make use of English-language readings, videos, written response assignments, presentations, and class discussions. The theme of this class is "work and play." We will be reading and critically engaging with a variety of academic texts on the concept of work (how we define "work," what it means to exchange services for money, affective labor) and play (leisure time, the consumption of popular media and popular culture, social media). Much of the reading will be focused on examining these concepts in a Japan-specific context. Every week we will read an article or section from an academic text, write a short response to it online, discuss it in class, and have lectures related to that week's topic (and to "work and play" more generally). We will also do in-class writing assignments and homework assignments related to writing. Once during the semester, you will "lead" the class for approximately 30 minutes by summarizing that week's topic and offering some questions for the class to discuss. The final exam will be an in-class essay assignment in which you choose one question to answer in approximately 1000 words. You will be able to use your readings and in-class notes during the exam (but not any computers or smartphones). Your final exam will be graded on clarity and your ability to engage with the texts and ideas that we have discussed in class. By the end of this class, you should be able to: 1) discuss high-level academic readings in English 2) write short responses to those readings in English 3) develop your own ideas about class concepts via short writing assignments and a final essay exam 4) lead the class discussion for approximately 30 minutes by summarizing the week's topic and creating discussion questions for the class	
授業内容 1 Introduction to course 2 Discussion of readings, lecture, writing exercises 3 Discussion of readings, lecture, writing exercises 4 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 5 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 6 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions, mid-semester review 7 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 8 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 9 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 10 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 11 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 12 Discussion of readings, lecture, writing exercises, student-led discussions 13 Semester review, writing exercises 14. FINAL EXAM	
履修の注意点 The recommended TOEIC score for this course is in the 800-850 range (upper advanced). Students must attend the first class. Students who are absent from more than four classes will receive a failing grade. However, please don't come to class if you are sick! Your health is more important than grades. If you need to miss a lot of classes because of illness, please talk to me and we can decide on a solution together.	
準備学習の内容 Every week you will be required to read that week's reading assignment and write a short response to it online. You should read the text "actively," meaning that you take notes as you read, write down questions you want to ask, and write down any sections that you do not understand or want to talk about more. You will also occasionally need to complete short writing assignments that will help to improve aspects of writing like sentence and paragraph structure and developing a thesis statement for an essay.	
教科書 No textbook (readings will be available to download via Oh-o! Meiji).	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法 You will receive number/letter grades for your discussion leading and your final exam. I will frequently give you written comments on your weekly responses and your writing-related homework assignments. I will also give you written comments on your discussion leading.	
成績評価の方法 Participation: 30% Written homework assignments: 20% Discussion leading: 20% Final exam: 30%	
その他 If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com. (Please call me Professor Nelson.)	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Academic Training 【2022年度以降入学者】	1 単位
	【和泉】 秋学期 月曜 2 時限 1 ~ 4 年次
講師 ヨーク ジェームズ	
授業の概要・到達目標 1. Development of writing skills, specifically academic writing skills (undergraduate level) 2. Understanding the stages and components of the writing process (brainstorming, developing a thesis statement, gathering information, drafting, revision/peer review, citation) 3. Understanding the concept of citation and how to avoid plagiarism, also how to distinguish between good and bad outside sources 4. Understanding good note-taking (active reading/listening) 5. Engaging in readings and activities that are a bit more challenging than those in a typical ACE class 6. Breaking down the components of an essay and working on each component (sentences, paragraphs, introductions, conclusions, thesis statement, supporting evidence) 7. Experience an English-language classroom environment 8. Discussing ideas and research findings, either through group/pair discussions or via presentations	
授業内容 第 1 回 Orientation work 第 2 回 Deciding a research topic 第 3 回 Reading academic papers 第 4 回 Structure of an essay 第 5 回 Writing a literature review 第 6 回 The methodology section 第 7 回 Research methods 第 8 回 Focus on academic writing skills 第 9 回 Paper writing -- introduction to the zine format 第10回 Paper writing 第11回 Paper writing 第12回 Paper writing 第13回 Paper writing 第14回 Paper showcase and review	
履修の注意点 Students are expected to write a term paper. All communication is expected to be in English. From week 5 onwards, students are expected to be writing their thesis each week. Help will be given for specific problems and questions each week.	
準備学習の内容 The recommended TOEIC scores for this course are in the 800-850 range (upper advanced).	
教科書 なし	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 Check ClassWeb	
成績評価の方法 (20%) Participation (70%) Final essay (again, multiple drafts are recommended) (10%) Reviewing other papers	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Academic Training 【2022年度以降入学者】	1 単位
	【駿河台】 春学期 火曜 5 時限 1 ~ 4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Course Goals: 1. Development of advanced academic skills: academic writing, research, and critical thinking skills 2. Development of advanced and specialized academic vocabulary and communication/discussion skills 3. Practice of learning strategies for managing large reading assignments, projects, and other assignments 4. Experience various learning activities and assessments simulating a foreign English-speaking university Through this course, students should expect to develop their ability to engage in independent study and scholarship, and thereby be well-prepared for any future academic study in foreign English-speaking universities.	
授業内容 Academic Writing: The 5-Paragraph Essay, The Annotated Bibliography, The Research Paper, Citation expectations and avoiding plagiarism Communication Skills: Writing an email, asking questions, engaging in class discussion and activity leading Study and time management skills: reading strategies, note-taking, and project management	
履修の注意点 The course is conducted entirely in English. If you are not comfortable using English exclusively, then you should reconsider if you are ready for this class.	
準備学習の内容 Students should have a minimum of 850 TOEIC score. Please be sure to bring proof of your latest TOEIC test score to the first lesson.	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Final Research Paper: 50% Annotated Bibliography: 15% Course Participation and Attendance: 20% Quizzes & Homework: 15%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAN111E	
ACE Academic Training 【2022年度以降入学者】	1 単位
	【駿河台】 秋学期 火曜 5 時限 1～4 年次
特任講師 パスクッチ、ルアン K.	
授業の概要・到達目標 Course Goals: 1. Development of advanced academic skills: academic writing, research, and critical thinking skills 2. Development of advanced and specialized academic vocabulary and communication/discussion skills 3. Practice of learning strategies for managing large reading assignments, projects, and other assignments 4. Experience various learning activities and assessments simulating a foreign English-speaking university Through this course, students should expect to develop their ability to engage in independent study and scholarship, and thereby be well-prepared for any future academic study in foreign English-speaking universities.	
授業内容 Academic Writing: The 5-Paragraph Essay, The Annotated Bibliography, The Research Paper, Citation expectations and avoiding plagiarism Communication Skills: Writing an email, asking questions, engaging in class discussion and activity leading Study and time management skills: reading strategies, note-taking, and project management	
履修の注意点 The course is conducted entirely in English. If you are not comfortable using English exclusively, then you should reconsider if you are ready for this class.	
準備学習の内容 Students should have a minimum of 850 TOEIC score. Please be sure to bring proof of your latest TOEIC test score to the first lesson.	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Final Research Paper: 50% Annotated Bibliography: 15% Course Participation and Attendance: 20% Quizzes & Homework: 15%	
その他	

科目ナンバー：ー	
英語	1 単位
	1～4 年次
<p>【教 授】 虎岩直子、中村幸一、石山徳子、廣部 泉 【准教授】 兼子 歩、ネルソン・リンジー R、ジョージ・ジョニー E 【専任講師】 永江 敦、ヨーク・ジェームズ、森本陽子 【兼任講師】 安藤和弘、石井千春、伊藤健一郎、伊藤由起子、井上和哉、宇野雅章、大和久悌一郎、奥井裕、越智敏之、加藤 匠、神山左文、河本房子、木内久美子、儀部直樹、具島靖、熊澤清美、倉光紀子、斉藤くるみ、佐藤信夫、塚田幸一、中野里美、中林正身、中村美奈子、西浦 徹、野川浩美、堀越喜晴、松崎由貴、松沼真由子、マリッカル、F. A、望月千栄子、矢向寛子、山内正太郎、山口志のぶ、横田保恵、依田里花、若月麻美、渡邊浩子</p>	
<p>授業の概要・到達目標 授業の概要・到達目標 21世紀を迎えグローバル化の進む現在、英語の重要度は、益々大きくなっている。特に、本学部では、単位を伴った留学促進に力を入れており、英語は留学準備のためにも特に重要である。授業では読む、書く、話す、聴く、能力を高めることを当面のねらいとするが、一人の教員がすべての分野を同時に指導するのではなく、個々のクラスによっていくつかの分野に的を絞ることになる。いずれの分野を学ぶにしても、単なる言語習得ではなく、外国語を学ぶ意義を深く考え、その奥にある文化、風土、思考方法、外国語学習方法などに対する視野を広げること、もう一つの目的とする。</p>	
<p>授業内容 クラス指定、再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。 選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>履修の注意点 明治大学、或いは政治経済学部の外国語教育は全体としてバランスが取れるように構成されている。当学部の英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳの授業の他にも、以下の授業やプログラムを履修したり参加することが可能である。 1) 学部間共通外国語科目：詳しくは配布された「学部間共通外国語シラバス」を参照のこと、英語については英会話科目が中心である 2) 本学部独自のACE(Advanced Communicative English)プログラム：1クラス15人以下のコミュニケーション能力を重視した少人数授業を履修し、プレゼンテーションなどの能力も養い、ACE修了証を獲得することも、条件を満たせば可能である。(詳しくは、4月のACEガイダンスに出席し、シラバス、政治経済学部HP(教育の特色の中にあるACEページ)を参照すること)。 3) 実践的英語力強化プログラム(仮称)：各種英語試験受験のサポート、オンライン英会話講座、語学留学講座などがオファーされている。今年度受講可能な講座や申し込み時期、方法については、http://meiji-seikei-ghrd.com/original/english.html他、掲示板などの情報に常に注意すること。 4) その他にも、英語科目ではないが、専門科目を英語で学ぶトップスクールセミナー(国内留学体験)、留学生サポーター制度、留学準備講座など、英語を介してオファーされる各種講義や受け入れ留学生との交流機会等があるので、掲示等に注意し、積極的に履修、あるいは参加すること。 いずれにせよ、履修に関して特に留意してほしいことは、受身の学習を脱却して、英語を学習の対象としてみるだけでなく、「英語を使って学ぶ」気持ちになることである。日頃から、書物、新聞、英語を母国語とする人との会話など、英語を実生活で積極的に使うように心がけよう。本学部の学生には、留学に積極的にチャレンジして欲しいが、そうでなくとも、実際、社会に出てから、思わぬ時に国際的な場面で学んだり、働いたりする<巡り合わせ>に、会うものである。(30代、40代の卒業生が一番よく口にする言葉は、学生時代に「もっと英語を」そして「もっと教養を」身に付けておけばよかった、というものである。[教養があれば応用が効く、とのこと])</p>	
<p>準備学習の内容</p>	
<p>教科書 クラス指定、再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。 選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>参考書 クラス指定、再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。 選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>課題に対するフィードバックの方法 クラス指定、再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。 選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>成績評価の方法 それぞれの担当教員によって異なる。クラス指定、再履修授業は Oh-o! Meiji クラスウェブを確認すること。選択外国語（2年生以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>その他</p>	

科目ナンバー：ー	
ドイツ語	1 単位
	1～4 年次
<p>【教 授】 田村久男 【准教授】 飯嶋曜子 【専任講師】 永川 聡 【兼任講師】 赤池エルフリーデマリア、石原竹彦、遠藤紀明、野口 健、橋本由紀子、阪東知子、平山茂樹</p>	
<p>授業の概要・到達目標 ABC（アー・ベー・ツェー）の発音から接続法までのドイツ語文法の基礎と簡単なドイツ文の理解から始めて、中級読本が読めるようになるまでを目指す。同時にドイツ語圏諸国をはじめとしてヨーロッパの歴史、社会、文化、地理などにも目を向ける。 2年次では文法事項を再確認しながら、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の歴史、社会、文化、地理、風俗、生活、文学などに関するものを読むが、各人の関心に応じて、さまざまなジャンルのドイツ語（必ずシラバスを参照のこと）を読む中級ドイツ語、独検対応のためのドイツ語、ドイツ語会話のなかから選ぶことができる。 その他、学部間共通外国語科目としてドイツ人講師による会話I、II、IIIも設置されている。また、夏休み中に和泉キャンパスでネイティブ・スピーカーによるドイツ語夏期集中講座も開催される。夏と冬の年2回、ドイツ語技能検定試験（独検）も実施されており、これらは学部の語学の単位に換算することができるので、シラバスをよく目を通すこと。</p>	
<p>授業内容 1年次では基本文法を学ぶとともに、やさしい読本を使って標準的な表現に親しむ。文法も講読もほぼ同じ章立てになっているので、対応させながら学ぶことができる。文法、講読ともに前期をドイツ語I、後期をドイツ語IIといい、ドイツ語Iでは、発音から始め、動詞系列では現在形を、名詞系列では格変化を中心にして、文を作るための基本的な語順を学ぶ。ドイツ語IIではさまざまな時称、助動詞、関係文、受動、最後に英語の仮定法に似た接続法を学び、ドイツ文の基本構造（枠構造）を理解する。 クラス指定授業は Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>履修の注意点 ドイツ語会話I、II、III（学部間共通外国語科目）の履修を薦めたい。専門科目の中にもドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化を対象とする科目がある。</p>	
<p>準備学習の内容</p>	
<p>教科書 クラス指定授業は Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>参考書 クラス指定授業は Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。 【参考文献】 （1） 独和辞典。特に指定しないので、担当教員の説明を聞いて購入するとよい。 （2） ドイツの政治、経済、社会、文化などについての文庫本や新書なども読むとよい。</p>	
<p>課題に対するフィードバックの方法 担当教員の考え方や方針によって異なる。 クラス指定授業は Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>成績評価の方法 担当教員の考え方や方針によって異なる。 クラス指定授業は Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択ドイツ語（2年次以上）は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>その他</p>	

科目ナンバー：ー	
フランス語	1 単位
	1～4 年次
<p>【教 授】瀬倉正克、前田更子 【准 教 授】佐久間寛 【兼任講師】久保みゆき、佐々木菜緒、陣野俊史、高橋俊二、中島万紀子、藤井宏尚、ベルテ・ディデエ、前之園望、宮川慎也、山上昌子、山出裕子</p>	
<p>授業の概要・到達目標 初めてフランス語に接する学習者を対象としています。新たな言語との出会いによって、それまで自分が作り上げてきた世界観や社会の見方が大きく揺さぶられることは少なくありません。2年間のフランス語の授業を通して、フランス語を習得するだけでなく、フランコフォニー（フランス語使用圏）の文化、社会に関する知識を深めていきましょう。 1年次では、発音や文法の初歩を学び、最終的にはフランス語の文章を正確に音読し、平易な文章を理解し、日常的な事柄について最低限の意志を相手に伝えられるようにします。 2年次の授業での具体的な目標は、多様なジャンルのフランス語の原書を辞書を用いて理解し、平易なフランス語でコミュニケーションを取れるようになることです。</p>	
<p>授業内容 1年次の授業においては、フランス語の総合力を養う導入教育をおこないます。春学期の2コマ（フランス語I）、および秋学期の1コマ（フランス語II）では、基礎文法の習得を主な目的とした授業が展開されます。1年次秋学期に設置されているもう1コマの授業（フランス語II）については、担当教員の裁量にゆだねられていますが、それらの授業ではおおむね、既習文法事項の復習をしながら、簡単な文章の読解、日常表現を中心とした会話の練習、身近な話題に関する作文などに力が注がれ、学習者がフランス語に慣れ親しむように工夫されています。 2年次においては、未習の文法項目を学びつつ、辞書を片手にさまざまなジャンルの文章を読み理解する能力、また、語彙力を強化しながら伝えたいことを文章化し、話す能力を養います。さらに、DVDなどの視覚教材を用いた授業では、フランスだけでなく、スイスやベルギー、ケベック、アフリカ諸国といったフランコフォニーの多様な文化に触れる機会もあるでしょう。 具体的な授業の進め方については、それぞれの授業に関するシラバス、および担当教員からの説明で確認してください。 なお、政治経済学部では、「実用フランス語技能検定試験」の受験を奨励しています。習熟度の確認のため、フランス語運用能力の向上のためにぜひ利用してください。詳しくは、授業時に担当教員に相談してください。 クラス指定授業については、Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。 2年次以上の選択フランス語の授業については、「選択外国語シラバス」で確認すること。</p>	
<p>履修の注意点 学部間共通科目として「フランス語会話」と「夏期集中講座」が用意されています。より多くの学びの機会を得たい人、会話力を身につけたい人には、学部間共通外国のシラバスにも目を通すことを勧めます。 語学の習得には日々の努力の積み重ねが大切です。学習内容を消化し、自分の中に定着させるためには、とりわけ復習が重要になるでしょう。なお、毎時間新しいことを学んでいきます。やむを得ず欠席する場合には必ず自習するようにしてください。</p>	
<p>準備学習の内容 クラス指定授業については、Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。 2年次以上の選択フランス語の授業については、「選択外国語シラバス」で確認すること。</p>	
<p>教科書 クラス指定授業については、Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。 2年次以上の選択フランス語の授業については、「選択外国語シラバス」で確認すること。</p>	
<p>参考書 クラス指定授業については、Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。 2年次以上の選択フランス語の授業については、「選択外国語シラバス」で確認すること。</p>	
<p>課題に対するフィードバックの方法 クラス指定授業については、Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。 2年次以上の選択フランス語の授業については、「選択外国語シラバス」で確認すること。</p>	
<p>成績評価の方法 クラス指定授業については、Oh-o! Meijiクラスウェブで確認すること。 2年次以上の選択フランス語の授業については、「選択外国語シラバス」で確認すること。</p>	
<p>その他</p>	

科目ナンバー：—	
中国語	1 単位
	1～4 年次
<p>【教 授】本間次彦、丸川哲史、羽根次郎</p> <p>【准教授】—</p> <p>【兼任講師】阿部由美子、石井 理、石井 剛、石黒ひさ子、伊藤英人、宇都宮美生、江崎隆哉、蛭名良亮、王 俊文、大西陽子、蓋 暁星、郭 偉、河田聡美、牛 黎涛、喬 志航、齊 金英、佐藤 賢、菅野敦志、高橋美千子、張 士陽、中本梅衣、花井みわ、本田親史、将邑剣平、楊川 力、劉 娟</p>	
<p>授業の概要・到達目標</p> <p>発音・文法の初歩から始めて、中国語の基礎的な表現を習得すること、平易な文章を理解できる能力を養うことが目指される。さらに、応用的な表現能力と読解能力の養成を目標としていく。</p>	
<p>授業内容</p> <p>「音」で表わされる「ことば」を学ぶという点から見て、中国語の学習に当たって最も大切なのは、正確な発音とその表記である「ピンイン」(ローマ字による中国語表記法)を習得することである。一方、通常中国語の文章を読むためには、逆に、発音とピンインのマスターを前提とした、ピンイン離れ(日本語で言えば、振り仮名離れに相当する)が必要となる。二年間の授業は、このピンイン離れの入り口のレベルに到達するまでの課程と位置づけることができる。</p> <p>〔1年次〕基礎的な発音練習から始め、基本文法を学びながら、簡単な会話ができ、やさしい文章が理解できる力を養う。日本人教員が担当する授業では主に、ピンイン表記および語法面の理解に重点を置き、ネイティブ教員が担当するクラスでは主に、音声面の練習に重点を置く。詳しい授業内容は、Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p> <p>〔2年次〕基礎的な表現や文法事項を復習しつつ、応用的な表現能力と読解能力をバランスよく身につけることを目指す。この他、より高度の中国語運用能力の習得を希望する学生向けに、3年次以降にも特別のクラスが設けられている。2年次以降の選択外国語は「選択外国語シラバス」もしくは Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p>	
<p>履修の注意点</p> <p>学部間共通外国語科目の中に、「中国語会話」や「夏期集中講座」などが設置されている。話す力、聞く力を特に身につけようと望む者には、履修を薦めたい。</p>	
<p>準備学習の内容</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス指定授業は、Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p> <p>選択中国語は、「選択外国語シラバス」もしくは Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p> <p>中国語の辞書としては、初級向けに『プログレッシブ中国語辞典』(小学館)、『クラウン中日辞典』(三省堂)などがある。また、より本格的な学習を目指す者のためには、『中日辞典』(小学館)、『講談社中日辞典』、『白水社中国語辞典』、『東方中国語辞典』(東方書店)、『中日大辞典』(大修館書店)などがある。</p>	
<p>参考書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p>	
<p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>クラス指定授業は、Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p> <p>選択中国語は、「選択外国語シラバス」もしくは Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>担当教員の考え方や方針によって異なる。</p> <p>クラス指定授業は Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p> <p>選択中国語(2年次以上)は「選択外国語シラバス」もしくは Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。</p>	
<p>その他</p>	

科目ナンバー：—	
スペイン語	1 単位
	1～4 年次
<p>【准 教授】 仮屋浩子、内田兆史、武田和久</p> <p>【兼任講師】 有田美保、石原 セルヒオナバロポロ、稲森広明、遠藤健太、コルメナ ロメロ ロベルト、佐藤麻里乃、セグ スビラ ホセ オリオル、田中 恵、徳吉敬介、バリエントス ロドリゲス、ブルゴス ホアン、福原弘識、松井賢治、松浦芳枝、松尾俊輔、メンドサ オスカル、ロドリゲス ベニト、渡辺有美</p>	
<p>授業の概要・到達目標</p> <p>初めてスペイン語に触れる学生を対象に、文字と発音を学ぶところから始めます。スペイン語で、1. 最低限の意志を伝える、2. 辞書をひけるようになる、3. ある程度のコミュニケーションを成立させる、といった段階を経て、2年間学んだのちには、自分の感情を含め、身の回りのことについて表現し、相手のことも理解できるようになることを目指します。また、言語と並行してスペイン語圏の文化とその背景についても学習します。広大なスペイン語圏を旅行する際に、人と知り合い、自分のことを話し相手の話を聞けるようになること、辞書を片手に初歩的な文章の読解ができるようになることを目指します。</p> <p>1級から6級までの6段階に分けられたスペイン語技能検定を例に取れば、最初の学期で6級、1年～一年半かけて5級、2年を終えて4級程度の取得を目標にします。さらに半年から一年努力すれば、EUが設定しているヨーロッパ言語共通参照枠のA2を目指すこともできるでしょう。</p>	
<p>授業内容</p> <p>スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞／形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。</p> <p>さらに、簡単な読解、身近な話題に関する作文、聞き取り、日常表現を中心にした会話練習などを取り入れながら、学んだ文法を大きく広げていきます。また、言語習得には文化的背景も不可欠なので、二十カ国におよぶスペイン語圏の多様な文化に触れる機会も与えられることでしょう。具体的な授業の進め方その他については担当教員の説明およびそれぞれのシラバスを確認してください。</p> <p>【1年次】</p> <p>おもに文法学習を中心とするクラスと、聞いたり話したりする練習を中心とするクラスがあります。文法あつての凡用性と、口頭あつての実用性、そのふたつをバランスよく学んでいきます。前期には現在形を、後期には過去形を中心に学び、スペイン語の基礎を築きます。</p> <p>【2年次】</p> <p>既習文法事項を復習・再確認しながら、未習の基礎文法を仕上げます。言いたいことを表現する技術、書かれていること・言われていることを理解するコツを身につけたり、語彙を強化したりします。スペイン語で友人と話をすること、辞書さえあればスペイン語の文章を理解できるようになること、スペイン語検定4級合格を目指した文法事項の習得を到達目標とします。</p> <p>意欲的な学習をして「初習外国語（という卒業単位）」の域を超えた習得を目指してください。</p>	
<p>履修の注意点</p> <p>学部間共通外国語のなかにもスペイン語が設置されています。より多くの学びの機会を得たい、会話力を身につけたい、復習がしたい、といったさまざまな活用法があります。</p>	
<p>準備学習の内容</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス指定授業は、Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス指定授業は、Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>クラス指定授業は、Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>クラス指定授業は、Oh-ol Meiji クラスウェブを確認すること。 選択スペイン語は「選択外国語シラバス」を確認すること。</p>	
<p>その他</p>	

科目ナンバー：(PE) HES191J	
健康・運動科学 I	2 単位
	2 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業は、体育学と医学およびその他の関連諸科学の知見を総合して、健康づくりの3要素である「運動・栄養・休養」について、できるだけ具体的に解説する。またヒトの健康を理解する上で必要と思われる基礎的な生理学分野（神経、筋肉、呼吸、循環等）についても解説する。 これによって受講生は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わり、栄養・休養の重要性、基礎的な生理学分野について学びつつ教養を高め、生涯に亘って日常的に運動やスポーツを個人の健康や能力に合わせて実践できるようになる。また、疾患にかかる前に健康度を高め、疾患にかからない身体をつくる正しい健康づくり理論が理解でき、医・科学的根拠に基づいた健康度の測定・評価、到達目標の決定が実現できるようになる。	
授業内容 第1回 ガイダンス（授業実施上の注意点）、現代人の生活習慣と健康状態 第2回 体力とは何か 第3回 運動不足とその影響 第4回 安全で有効な運動の基準 第5回 どのような運動がよいのか 第6回 筋の種類とその特徴 第7回 筋の収縮様式と筋力トレーニング 第8回 身体組成と肥満 第9回 運動と体温調節 第10回 活性酸素と生活習慣病 第11回 栄養～生活習慣病・老化を防ぐ食事 第12回 運動と免疫 第13回 禁煙と節酒 第14回 効果的な休養とは	
履修の注意点 1. 講義はPower Pointを用いて行う。講義資料は、Oh-ol Meiji Systemの本講義クラスウェブにアクセスし、事前に受講生がダウンロード&印刷をして授業に持参することとする。 2. 高校の保健理論の理解を前提とする。 3. 1回ずつの授業が相互に関連があるので休まず受講することが望ましい。 4. 授業中の飲食行為、携帯電話による通話・メールは厳禁とする。 5. 私語など人の迷惑になる行為は厳禁とする。	
準備学習の内容 講義資料は事前に必ず一読しておくことを予習と位置づける。各回の授業内容についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねることを復習として位置づける。	
教科書 特に指定はしない。	
参考書 特に指定はしない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 1. 学期末に行う筆記試験の点数で評価する。 2. 点数は60点以上を合格とし、点数に応じてS～Cの評価をする。 3. 合格点に満たない者についての救済措置（追試、レポート等）は行わない。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HES191J	
健康・運動科学 I	2 単位
	2 年次
講師 武田 紘 平	
授業の概要・到達目標 この授業の目標は、健康を維持・増進するためになぜ運動が必要なのか、運動を行うと身体がどのように変化するのかを自然科学的に理解することです。この目標を達成するために、自然科学的かつ専門的な内容となることを十分理解して受講して下さい。また、本授業で身につけた知見を活用して生涯にわたり、日常的な運動を実践することが望まれます。 授業の概要として、体力、栄養、運動器、加齢、生活習慣病、スポーツ医学、スポーツ科学、トレーニングなどの内容が主になります。	
授業内容 第1回 イントロダクション、健康について (授業の内容、評価方法についての説明) 第2回 健康に関連する体力-1 第3回 健康に関連する体力-2 第4回 カロリー 第5回 栄養 第6回 運動器-1 第7回 運動器-2 第8回 トレーニング理論と実践 第9回 心肺蘇生法・スポーツ医学 第10回 生活習慣病-1 第11回 生活習慣病-2 第12回 加齢による身体の変化と運動の効果 第13回 メンタルヘルスと健康 第14回 運動習慣の形成 講義内容は変更になることがあります	
履修の注意点 ・体育会の学生など、練習・試合などの欠席は基本的には考慮しません。 ・スライドを用いた講義をおこないます。 ・自然科学的な内容を多く含み、それに関わる専門用語も使用します。 ・健康科学だけでなく、スポーツ科学の内容も含まれます。	
準備学習の内容 授業内容に関する書籍、文献を積極的に読むことを推奨します。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学身体運動研究室編）東京大学出版会 『乳酸と運動生理・生化学』（八田秀雄著）市村出版 『健康づくりのための運動の科学』（鶴木秀夫編）化学同人	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時冒頭に概説します。	
成績評価の方法 期末試験（70%）と授業への参加度・取り組み（30%）で総合的に判断します。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) HES191J	
健康・運動科学Ⅰ（特定 スポーツ）	2単位
	2年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 この授業では、スポーツに深く関わる学生として知っておくべき基本的な事項のうち主に文化・社会的側面について取り上げます。対面授業またはメディア授業での講義を基本としながら、受講者自身による作業、あるいはグループワークを通じて講義内容の理解を深めます。 この授業の達成目標は、受講者が深く関わりをもつスポーツや、そのスポーツをめぐる社会情勢についての理解を深め、さらにそうした理解に基づいて各自の将来的なキャリアを構想することにあります。 なおこの授業では、半期14回のうち9回を対面授業、5回をメディア授業として実施します。	
授業内容 第1回：近代スポーツとは〔対面〕 第2回：アマチュアリズム〔対面〕 第3回：スポーツと暴力①〔メディア〕 第4回：スポーツと暴力②〔対面〕 第5回：ドーピング①〔メディア〕 第6回：ドーピング②〔対面〕 第7回：スポーツとジェンダー①〔メディア〕 第8回：スポーツとジェンダー②〔対面〕 第9回：スポーツと障がい①〔メディア〕 第10回：スポーツと障がい②〔対面〕 第11回：UNIVASとアスリートのキャリア①〔メディア〕 第12回：UNIVASとアスリートのキャリア②〔対面〕 第13回：アスリートのキャリアを考える①〔対面〕 第14回：アスリートのキャリアを考える②〔対面〕	
履修の注意点 <ul style="list-style-type: none"> ・この授業の受講者はスポーツ特別入試によって入学した学生に限定します。 ・この授業は教室での対面授業を基本としつつ半期に5回のメディア授業（オンデマンド型）を行います。 ※講義動画は原則として毎週月曜日にOh-ol Meijiシステムを通じて配信し、よく火曜日まで視聴できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては授業開始時に口頭で出席を確認し、メディア授業においては課題の提出を持って出席とします。 ・授業に関する質問や相談は担当教員へのメールによって常時受け付けます。また対面授業時に受講者同士の意見交換の場を積極的に設け、メディア授業の内容に関する意見等の共有を図ります。 ・担当教員から受講者への連絡はOh-ol Meijiの「お知らせ」機能を用い、受講者から担当教員への連絡は公開したメールアドレスを使用します。 	
準備学習の内容 毎回の授業終了時に出す課題を復習として捉え、丁寧かつ着実にこなして提出することを求めます。	
教科書 『現代社会とスポーツの社会学』 高峰ほか（杏林書院）2022年	
参考書 『スポーツ教養入門』 高峰修編著（岩波書店）2010年	
課題に対するフィードバックの方法 次回対面授業の冒頭にて行います。	
成績評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回のリアクションペーパー（60%）と期末レポート（40%）によって評価し、対面形式での定期試験は行いません。 ・3分の2以上の出席（リアクションペーパーの提出）を単位取得の条件とします。 	
その他	

科目ナンバー：(PE) STS111J	
健康・運動科学Ⅲ	2単位
	3・4年次
教授 後藤 光 将	
授業の概要・到達目標 本授業は、外国・日本における地域コミュニティのつながり方の代表的な事例を紹介し、異文化理解の有用な方策としての「スポーツ」について考えることを目標とします。 地球上の様々な地域でおこなわれている伝統遊戯（伝統スポーツ）、および、近代スポーツの受容と変容の実相を、異文化交流というグローバルな視点で捉え直します。スポーツを切り口にして、文化創造のダイナミズムを歴史学、および、文化人類学的視点から比較検討します。祝祭的な空間における身体活動の意義を現代的課題と結びつけながら考えます。	
授業内容 第1講 初回オリエンテーション 第2講 古代ギリシャの葬送競技（古代オリンピック） 第3講 古代ローマの見世物（剣闘士競技） 第4講 メキシコの古式長距離競走（ララヒッパリ） 第5講 バヌアツの通過儀礼（ナゴール） 第6講 イギリスの古式サッカー（シュローヴタイドフットボール） 第7講 イタリアの古式サッカー（カルチョストーリコ） 第8講 イタリアの古式競馬（パリオ） 第9講 秋田県刈野の大綱引 第10講 福岡県吉富町の八幡古表神社の神相撲 第11講 福島県相馬の野馬追 第12講 スポーツの種類 第13講 平和とスポーツ 第14講 まとめ	
履修の注意点 学際的なテーマの授業なので、事前に学習する必要はありませんが、スポーツ関連の時事問題を新聞などで常に収集することを心懸けてください。	
準備学習の内容 学際的なテーマの授業なので、事前に学習する必要はありませんが、スポーツ関連の時事問題を新聞などで常に収集することを心懸けてください。	
教科書 後藤光将編（2020）『オリンピック・パラリンピックを学ぶ』 岩波書店 新井博編（2019）『新版 スポーツの歴史と文化』 道と書院	
参考書 日本オリンピック・アカデミー編（2022）『2022+1 東京大会を考える』 メディア・パル 日本オリンピック・アカデミー編（2019）『JOAオリンピック小事典2020 増補改訂版』 メディア・パル 阿部生雄編（2012）『スポーツの世界地図』 丸善出版 井上俊・菊幸一編（2011）『よくわかるスポーツ文化論』 ミネルヴァ書房 日本オリンピック・アカデミー編（2008）『ポケット版オリンピック事典』 Martin Polley（2007）『Sports History: A Practical Guide』 Palgrave MacMillan	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 小レポート（60%）、期末レポート（40%）を総合的に判断して成績評価をおこないます。 3分の2以上の出席が必要です。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
教授 後藤光将	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：テニスコート 第1回 ガイダンス 第2回 送球マシンを用いた練習（フォアハンドストローク） 第3回 送球マシンを用いた練習（バックハンドストローク） 第4回 送球マシンを用いた練習（フォア・バックハンドストローク） 第5回 送球マシンを用いた練習（ボレー） 第6回 サービス、スマッシュ 第7回 ショートラリー、ミニゲーム（シングルス） 第8回 ショートラリー、ミニゲーム（3人vs3人） 第9回 サービスvsリターン、ミニゲーム（3人vs3人） 第10回 テニスの歴史・ルール・マナー 第11回 サービスvsリターン、ダブルスゲーム 第12回 サービスvsリターン、ダブルスゲーム 第13回 サービスvsリターン、ダブルスゲーム 第14回 講義（まとめ）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 テニスのルールやマナーについて事前に調べて下さい。健康に関する情報収集を常に心懸けて下さい。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度（40%）、平常点（30%）、期末レポート（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 一川大輔	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフゲージ 第1回 オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、パッティング基礎 第2回 パッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解 第3回 アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎 第4回 アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パター（バックスイングなし型） 第5回 アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パター（インパクト型） 第6回 アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パター（フォロースルー型） 第7回 ショットクロック練習（7時から5時）、パターゲーム 第8回 ショットクロック練習（9時から3時）、パターゲーム 第9回 ショットクロック練習（11時から1時）、パターゲーム 第10回 打ち出し角度を変えるためのショット練習、ショットデータの確認 第11回 各種クラブ（ウッド等）でのショット練習 第12回 各種クラブ（アイアン、ウッド等）でのショット練習 第13回 実際のラウンドを想定した模擬ショット練習 第14回 まとめ：授業内容の総括	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。	
教科書 特になし	
参考書 PGA 基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会） 2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 *授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。 平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。 受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス） 第2回：体力測定（トレーニング前 その1） 第3回：体力測定（トレーニング前 その2） 第4回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義） 第5回：フィットネスルーム安全講習 第6回：各自のトレーニング 第7回：各自のトレーニング 第8回：各自のトレーニング 第9回：各自のトレーニング 第10回：各自のトレーニング 第11回：体力測定（トレーニング状況の中間評価） 第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング 第13回：心肺蘇生法（CPR）実習 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習Iは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況 30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 梅澤 秋久	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：オリエンテーション（受講上の留意点についてのガイダンス） 第2回：パターゴルフをやってみよう（チカラの調整とパターの操作） 第3回：パターの操作に慣れよう（傾斜を計算してゴルフボールを転がそう） 第4回：パターゴルフ大会をしよう（Par2の5つのホールでスコアを競おう） 第5回：長いホールのパターゴルフ大会をしよう 第6回：短いクラブでショットに挑戦しよう（グリップの握り方、アドレスの取り方） 第7回：短いクラブでショットの型を学ぼう（ICTを活用して、見本とのずれ：問題点を発見しよう） 第8回：狙った方向にボールを飛ばそう 第9回：ライ角通りにボールを上げよう 第10回：自身のスイングの特徴を知ろう（ICTを活用し、他者との違いを発見しよう） 第11回：下半身始動のスイングを身につけよう 第12回：ミドルアイアンでボールを打とう 第13回：ミドルアイアンでボールを飛ばそう 第14回：本授業のまとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 基礎的な身体活動を日常的に実践する。	
教科書 特になし	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 蛭 間 栄 介	
授業の概要・到達目標 実施種目：水泳・水球・シュノーケリング 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：プール 第1回 講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。 第2回 水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。 第3回 フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。 第4回 スキンダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。 第5回 演習：救急処置法について学習し、説明できる。 第6回 クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第7回 背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第8回 平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第9回 バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第10回 水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。 第11回 水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。 第12回 水球の審判法について学習し、説明できる。 第13回 水球の戦術について学習し、説明できる。 第14回 講義2：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 準備学習として事前に配布される資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。	
準備学習の内容 事前に配布された資料を読み、授業内容を理解しておいてください。また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。	
教科書 使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。	
参考書 「水泳指導教本」(財団法人日本水泳連盟 編、大修館書店) 「スイミングファステスト」(高橋繁浩、鈴木大地 監訳、ベースボールマガジン社) 「潜水医学入門」(池田知純 著、大修館書店) 「アクアエクササイズ指導教本」(深代泰子、尾陰由美子 監修、公益財団法人 日本フィットネス協会)	
課題に対するフィードバックの方法 レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。	
成績評価の方法 平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 第1回目の授業には必ず出席してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 蛭 間 栄 介	
授業の概要・到達目標 実施種目：水泳・水球・シュノーケリング 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：プール 第1回 講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。 第2回 水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。 第3回 フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。 第4回 スキンダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。 第5回 演習：救急処置法について学習し、説明できる。 第6回 クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第7回 背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第8回 平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第9回 バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第10回 水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。 第11回 水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。 第12回 水球の審判法について学習し、説明できる。 第13回 水球の戦術について学習し、説明できる。 第14回 講義2：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 準備学習として事前に配布される資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。	
準備学習の内容 事前に配布された資料を読み、授業内容を理解しておいてください。また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。	
教科書 使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。	
参考書 「水泳指導教本」(財団法人日本水泳連盟 編、大修館書店) 「スイミングファステスト」(高橋繁浩、鈴木大地 監訳、ベースボールマガジン社) 「潜水医学入門」(池田知純 著、大修館書店) 「アクアエクササイズ指導教本」(深代泰子、尾陰由美子 監修、公益財団法人 日本フィットネス協会)	
課題に対するフィードバックの方法 レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。	
成績評価の方法 平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 第1回目の授業には必ず出席してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 梅 澤 秋 久	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：卓球場 第1回 オリエンテーション（受講上の留意点についてのガイダンス） 第2回 からだを使ったアイスブレイク（仲間づくりをしよう） 第3回 ネット型ボール運動の特性について（卓球の面白さに気づこう） 第4回 ネット型ボール運動としての「温泉卓球」（相手へのケアをもった卓球を心がけよう） 第5回 ネットを挟んでラリーを続けよう（たくさんラリーして相手コートに入れる感覚を磨こう） 第6回 卓球のボールに回転をかけよう（ドライブの面白さを探ろう） 第7回 卓球のボールに回転をかけよう（「カット」したボールの行方を探ろう） 第8回 卓球のボールをコースに打ち分けよう（狙ったところに打ってみよう） 第9回 バックハンドでも打ってみよう（どのコースのボールも返せるようになろう） 第10回 サーブで相手を崩そう（回転やコースを考えて打とう） 第11回 相手の打ちにくそうなところを狙おう（シングルス大会） 第12回 協働でラリーをしよう（ダブルスに慣れよう） 第13回 協力して相手の打ちにくそうなところを狙おう（ダブルス大会） 第14回 本授業のまとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 基礎的な身体活動を日常的に実践する。	
教科書 特になし	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 一 川 大 輔	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフゲージ 第1回 オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、パッティング基礎 第2回 パッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解 第3回 アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎 第4回 アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パター（バックスイングなし型） 第5回 アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パター（インパクト型） 第6回 アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パター（フォロースルー型） 第7回 ショットクロック練習（7時から5時）、パターゲーム 第8回 ショットクロック練習（9時から3時）、パターゲーム 第9回 ショットクロック練習（11時から1時）、パターゲーム 第10回 打ち出し角度を変えるためのショット練習、ショットデータの確認 第11回 各種クラブ（ウッド等）でのショット練習 第12回 各種クラブ（アイアン、ウッド等）でのショット練習 第13回 実際のラウンドを想定した模擬ショット練習 第14回 まとめ：授業内容の総括	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。	
教科書 特になし	
参考書 PGA 基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会） 2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 *授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。 平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：サブホール 第1回 イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回 フットサル① 第3回 フットサル② 第4回 バレーボール① 第5回 バレーボール② 第6回 バレーボール③ 第7回 バドミントン① 第8回 バドミントン② 第9回 バドミントン③ 第10回 キンボール① 第11回 キンボール② 第12回 ユニホック① 第13回 ユニホック② 第14回 まとめ ※内容は変更になることがあります	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。	
準備学習の内容 1. 食事や睡眠など体調管理につとめてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に行く	
成績評価の方法 授業への取り組み（50%）・意欲や態度（30%）・レポート（20%）で総合的に判断します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 竹崎 一真	
授業の概要・到達目標 現在、世界保健機構（WHO）は、「健康」を「単に病気あるいは虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に良好な状態（全人的健康）」として定義している。アメリカの医学者ハルバート・ダンはこの定義をさらに深め、より良い状態にするために、自己の身体への気づきを深め、QOL（生活の質）を追求する積極的な健康法である「ウェルネス」を提唱した。 本授業では、ダンが提唱する「ウェルネス」を実践的に学ぶことに加えて、身体運動やスポーツの実践に不可欠な「身体の多様性」や「他者との共生」についての理解も高めていくことを目標とする。多様性に対する理解の高まりとともに、ユニバーサルデザイン（文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した設計）への取り組みが重要視されている今日、「ウェルネス」にもそうした考え方を導入することが求められている。そのため授業では、自己の身体への気づきを高めることを目的とした身体運動とスポーツの実践だけでなく、身体の多様性を学ぶことを目的とした障害者スポーツの実践や、他者との共生についての理解を深めるためのスポーツのルール開発を実践する。	
授業内容 本授業では、いわゆる「競技スポーツ」ではなく、ライフキネティックやパラスポーツ、ニュースポーツなど、誰でも能力に関係なく参加できるスポーツ中心に行く。 <授業場所：SR11> 第1回：イントロダクション 第2回：ライフキネティック① 第3回：ライフキネティック② 第4回：ストレングス&コンディショニング 第5回：ユニホッケー① 第6回：ユニホッケー② 第7回：バターゴルフ 第8回：ドッチビー 第9回：ペタンク／ポッチャ 第10回：ユニホッケー③ 第11回：フットサル 第12回：ブラインドサッカー 第13回：ライフキネティック③ 第14回：まとめ ※授業内容は、状況に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズを使用すること。体調管理を徹底すること。	
準備学習の内容 日常的な運動習慣を身につけましょう。	
教科書 使用しない。	
参考書 使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法 毎授業時に行います。	
成績評価の方法 ・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。 ・授業の取り組み姿勢（60点）、クラスメイトとの関わり方（20点）、期末レポート（20点）から総合評価する。	
その他 4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 杉山 仁 志	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することです。運動不足病が深刻な社会問題となっている現在、運動実践の機会および知識の獲得を教育の一環として確保されることは大学生にとって重要であり、不可欠であると考えます。健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の向上・育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：サブホール 第1講：前期授業のガイダンス 第2講：バレーボール（1）基礎技術の習得 第3講：バレーボール（2）基礎技術の応用・班分け 第4講：バレーボール（3）攻撃基礎技術の習得・ゲーム実践 第5講：バレーボール（4）攻撃基礎技術の応用・ゲーム実践 第6講：バレーボール（5）基礎技術習得確認・ゲーム実践 第7講：バレーボール（6）ゲーム実践 第8講：バドミントン（1）シングルスゲーム実践 第9講：バドミントン（2）シングルスゲーム実践 第10講：バドミントン（3）ダブルスゲーム実践 第11講：バドミントン（4）ダブルスゲーム実践 第12講：バドミントン（5）ダブルスゲーム実践 第13講：バドミントン（5）団体戦ゲーム実践 第14講：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 バレーボールのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。 バドミントンのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。	
教科書 特になし	
参考書 コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）大修館書店 バドミントン教本基礎編 日本バドミントン協会（編集）ベースボールマガジン社	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に行う	
成績評価の方法 (1) 主に授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。 (2) 平常点100%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘 平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：グラウンド 第1回：イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回：体ほぐし運動① 第3回：体ほぐし運動② 第4回：タグラグビー① 第5回：タグラグビー② 第6回：アルティメット① 第7回：アルティメット② 第8回：アルティメット③ 第9回：フットサル① 第10回：フットサル② 第11回：フットサル③ 第12回：ソフトボール① 第13回：ソフトボール② 第14回：ソフトボール③ ※内容は変更になることがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要なウェアや靴を準備してください。	
準備学習の内容 1. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に行う	
成績評価の方法 平常点（60%）、態度（20%）、理解（20%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 竹 井 尚 也	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：メインホール 第1回：授業の説明とオリエンテーション 第2回：サッカーの基礎 1 第3回：サッカーの基礎 2 第4回：サッカーの応用 第5回：ドッジビーの基礎 1 第6回：ドッジビーの基礎 2 第7回：ドッジビーの応用 第8回：バスケットボールの基礎 1 第9回：バスケットボールの基礎 2 第10回：バスケットボールの応用 第11回：サッカー、ドッジビー、バスケットボールのリーグ戦 1 第12回：サッカー、ドッジビー、バスケットボールのリーグ戦 2 第13回：サッカー、ドッジビー、バスケットボールのリーグ戦 3 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 サッカー、ドッジビー、バスケットボールのルールやマナーについて調べる。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (a) 授業への積極的な取り組み・態度 60% (b) 理解力・技能の上達度 30% (c) レポート・提出物10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 高 梨 美 奈	
授業の概要・到達目標 実施種目：ニュースポーツ 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。 運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業概要： これまであまり経験したことのないスポーツを通じ、スポーツの幅広さを学ぶと同時に、楽しく体を動かす場をつくるということをもつて学びます。そのため、他者との関わりを重視し、そのプロセスを通じ、リーダーシップ、フォロワーシップ、コミュニケーションをとることを目指します。 また、ストレッチや筋力トレーニングを身に付け、生涯に渡り、自ら実践できるようにすることを目指します。	
授業内容 使用施設:(スポーツルーム11) 第1回：コミュニケーションゲーム (互いを知り合う) 第2回：ボールゲーム 第3回：ホッケー 第4回：ウォーキング 第5回：ボッチャ、シッティングバレーボール 第6回：バスケットボール 第7回：バスケットボール 第8回：キンボール 第9回：キンボール 第10回：ダブルダッチ 第11回：ダブルダッチ 第12回：フライングディスク 第13回：フライングディスク (アルティメット) 第14回：まとめ、レポート提出	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業の内容は、変更になる場合があります。 5. 受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。内履きも必ず持参して下さい。 ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。	
準備学習の内容 (予習) 授業で行うスポーツ種目ルールおよびリスク・安全管理について理解する。 授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。 (復習) 授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。 授業後はリフレクションシートを記入すること。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。 Oh-olMeijiで紹介することがあります。	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-olMeijiを利用します。 質問や連絡がある場合にはOh-olMeijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。	
成績評価の方法 1. 授業参加度や積極性 (70%) ①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度 などを総合的に評価します。 2. 目標達成度 (10%) 毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します 3. レポート (20%) 授業を振り返り、最終日にレポートを提出する	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 杉山仁志	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することです。運動不足病が深刻な社会問題となっている現在、運動実践の機会および知識の獲得を教育の一環として確保されることは大学生にとって重要であり、不可欠であると考えます。健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の向上・育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：サブホール 第1講：前期授業のガイダンス 第2講：バレーボール（1）基礎技術の習得 第3講：バレーボール（2）基礎技術の応用・班分け 第4講：バレーボール（3）攻撃基礎技術の習得・ゲーム実践 第5講：バレーボール（4）攻撃基礎技術の応用・ゲーム実践 第6講：バレーボール（5）基礎技術習得確認・ゲーム実践 第7講：バレーボール（6）ゲーム実践 第8講：バドミントン（1）シングルスゲーム実践 第9講：バドミントン（2）シングルスゲーム実践 第10講：バドミントン（3）ダブルスゲーム実践 第11講：バドミントン（4）ダブルスゲーム実践 第12講：バドミントン（5）ダブルスゲーム実践 第13講：バドミントン（5）団体戦ゲーム実践 第14講：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 バレーボールのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。 バドミントンのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。	
教科書 特になし	
参考書 コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）大修館書店 バドミントン教本基礎編 日本バドミントン協会（編集）ベースボールマガジン社	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 （1）主に授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。 （2）平常点100%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。 受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス） 第2回：体力測定（トレーニング前 その1） 第3回：体力測定（トレーニング前 その2） 第4回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義） 第5回：フィットネスルーム安全講習 第6回：各自のトレーニング 第7回：各自のトレーニング 第8回：各自のトレーニング 第9回：各自のトレーニング 第10回：各自のトレーニング 第11回：体力測定（トレーニング状況の中間評価） 第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング 第13回：心肺蘇生法（CPR）実習 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習IIは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況 30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 今野和志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1講 インTRODクシヨン（授業計画の説明、評価について） 第2講 体力測定① 第3講 体力測定②、フィットネス・データの解説 第4講 トレーニング機器の取り扱い説明 第5講 プログラム作成、トレーニングの原則について 第6講 トレーニングの実践①、筋力トレーニングの原則① 第7講 トレーニングの実践②、筋力トレーニングの原則② 第8講 トレーニングの実践③、有酸素運動について① 第9講 トレーニングの実践④、有酸素運動について② 第10講 トレーニングの実践⑤、ストレッチ① 第11講 トレーニングの実践⑥、ストレッチ② 第12講 トレーニングの実践⑦、バランスボール① 第13講 トレーニングの実践⑧、バランスボール② 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを準備してください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に充分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようところがけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、データ・シート作成（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 齋藤実	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：サブホール 教材：バドミントン 第1回：INTRODUCTION（運動学を学修する意義、リスクマネジメント） 第2回：導入（シャトル、ラケットに慣れ、模範演技によって競技特性を理解する） 第3回：技能実習I（グリップ・ラケットワーク・フットワークの理解） 第4回：技能実習II（基本ストローク：サーブ・ヘアピン・ドロップ） 第5回：技能実習III（基本ストローク：ドライブ・ハイクリアー・スマッシュ） 第6回：技能実習IV（コンビネーションプレー、簡易ラリー） 第7回：シングルス簡易ゲームI（審判法の学習） 第8回：シングルス簡易ゲームII（ゲーム実習） 第9回：シングルス簡易ゲームIII（ゲームの戦略を学ぶ） 第10回：ダブルス簡易ゲームI（ゲーム実習） 第11回：ダブルス簡易ゲームII（ゲームの戦略を学ぶ） 第12回：大会実習I（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む） 第13回：大会実習II（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む） 第14回：大会実習III（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 服装とシューズの準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。	
準備学習の内容 授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。	
教科書 特に定めない。	
参考書 『基礎から学ぶスポーツリテラシー』高橋 健夫（著）、大修館書店	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を取り上げて、授業内にて講評する。	
成績評価の方法 平常点評価 70%：授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。 授業内評価 30%：実技、筆記（ルール、マナーについて）を実施し、技能、理解度を評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 今野和志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館3階サブホール 第1講 イントロダクション（授業計画の説明・評価について） 第2講 バトミントン①（ルールとマナー、ハイ・クリアー、ドリブン・クリアー） 第3講 バトミントン②（ドライブ、プッシュ、スマッシュ） 第4講 バトミントン③（ドロップ&カット、ヘアピン、サーブス） 第5講 バトミントン④（ゲーム） 第6講 バレーボール①（ルールとマナー、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） 第7講 バレーボール②（サーブ、レシーブ） 第8講 バレーボール③（スパイク、ブロック） 第9講 バレーボール④（ゲーム） 第10講 フットサル①（ルールとマナー、各種パス、トラップ） 第11講 フットサル②（ドリブル、シュート） 第12講 フットサル③（ポストプレー、ポジショニング） 第13講 フットサル④（ゲーム） 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを準備してください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に十分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようところがけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 今野和志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：グラウンド（和泉） 第1講 イントロダクション（授業計画の説明・評価について） 第2講 サッカー①（ルールとマナー、キック） 第3講 サッカー②（トラップ） 第4講 サッカー③（ドリブル） 第5講 サッカー④（ボールポゼッション、ゲーム） 第6講 サッカー⑤（リーグ戦） 第7講 ソフトボール①（ルールとマナー、スローイング） 第8講 ソフトボール②（キャッチング） 第9講 ソフトボール③（バッティング） 第10講 ソフトボール④（フィールディング、ゲーム） 第11講 ソフトボール⑤（リーグ戦） 第12講 アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム） 第13講 アルティメット②（リーグ戦） 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に十分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようところがけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 緒 方 貴 浩	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明） 第2回：グリップ、アドレス、スイング理論（スイングクロック） 第3回：ミドルアイアンを使得のスイングフォームの形成（スイングクロック①～③） 第4回：ミドルアイアンを使得のスイングフォームの形成（スイングクロック③～⑤） 第5回：スイング作り（ビデオを使得スイング修正①） 第6回：ショートアイアンを使得のスイングフォームの形成 第7回：ロングアイアンを使得のスイングフォームの形成 第8回：ドライバーのスイング理論（ビデオを使得スイング修正②） 第9回：ドライバーショット時のティーの高さの考え方 第10回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチショット） 第11回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチエンドラン、チップショット） 第12回：パッティング技術の習得 第13回：ミニゲーム① 第14回：ミニゲーム②	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. ゴルフ競技を観るスポーツとして楽しむことができるようにルールを積極的に覚える努力をしてください。	
準備学習の内容 下記サイト（日本ゴルフ協会）を参考にルールについて学習すること。 ・ゴルフ規則について（ http://www.jga.or.jp/jga/html/rules/rules.html ） ・ゴルフ規則動画（ http://www.jga.or.jp/jga/html/rules/movie.html ）	
教科書 ゴルフには様々なスイング理論があるため、1つと限定した教科書は使用しない。	
参考書 ・PGAジュニア基本ゴルフ教本 別途、必要に応じて資料を配布する。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に行う	
成績評価の方法 成績は、以下の観点から総合的に評価する。 1. 実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢） 2. 理解点（20%）：ルールおよびゴルフのラウンドマナー・エチケットの理解（幅広い教養としての知識・理解） 3. 技能達成度（30点）：基礎的技術の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
講師 武 田 紘 平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：剣道場 第1回 イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回 縄跳び① 第3回 縄跳び② 第4回 ユニホック① 第5回 ユニホック② 第6回 ショートテニス① 第7回 ショートテニス① 第8回 レクリエーションスポーツ① 第9回 レクリエーションスポーツ② 第10回 レクリエーションスポーツ③ 第11回 ミニサッカー① 第12回 ミニサッカー② 第13回 ミニサッカー③ 第14回 まとめ ※内容が変更になることがあります	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。	
準備学習の内容 1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に行う	
成績評価の方法 平常点（60%）、態度（20%）、理解（20%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 佐藤 伸一郎	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 第1講 前期授業のガイダンス・講義 第2講 ラケットとグリップについての説明、フォアハンド練習 第3講 バックハンド練習、ロング・ショート打ち分け 第4講 各種ショットの打ち分けとシングルス・ルールの理解 第5講 シングルス・ゲームのグループ分け 第6講 シングルス・ゲーム実践(1) 第7講 シングルス・ゲーム実践(2) 第8講 ダブルス・ルールの理解とペア分け 第9講 ダブルス・ゲーム実践(1) 第10講 ダブルス・ゲーム実践(2) 第11講 ダブルス・ゲーム実践(3) 第12講 団体戦ゲーム実践(1) 第13講 団体戦ゲーム実践(2) 第14講 まとめ(実技試験含む)	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 1. ゲームのルール(シングルスとダブルス)を文献で理解しておくこと。できれば事前に実際にゲームを経験しておくことと理解がスムーズになります。 2. 準備体操が自分でできるようにしておくこと。 3. 自宅でストレッチをする、通学時に駅1区間はウォーキングするなど授業だけでなく週に2～3回は意識的に身体を動かすようにしましょう。	
教科書 特に指定しません。必要な資料は授業中に配布します。	
参考書 特に指定しません	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は総合的な観点(平常点50%、各自の取り組み姿勢25%、実技試験25%)から評価されます。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 石渡 貴之	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：ガイダンス(授業の目的、内容、注意点の確認等)、ゴルフの特性、ルール、マナー 第2回：クラブの握り方、姿勢、スイングチェック、スイング撮影 第3回：スイング確認、基本スイングの習得、ショートアイアン練習(SW、PW) 第4回：基本スイングの習得、ショートアイアン練習(SW、PW)アプローチショットゲーム① 第5回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、アプローチショットゲーム② 第6回：グループ演習課題打合せ、パター練習、ミドルアイアン練習(9I～7I) 第7回：グループ課題発表①、パター練習、ミドルアイアン練習(9I～7I) 第8回：グループ課題発表②、パター練習、ロングアイアン練習(6I～5I) 第9回：グループ課題発表③、パターゴルフゲーム① 第10回：グループ課題発表④、ドライバー、フェアウェイウッド練習 第11回：グループ課題発表⑤、ドライバー、フェアウェイウッド、アイアン練習 第12回：グループ課題発表⑥、ドライバー、フェアウェイウッド、アイアン、ショートアイアン練習 第13回：グループ課題発表⑦、パターゴルフゲーム②、スイング試験 第14回：まとめ、学期末レポート作成	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-ol Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。	
教科書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
参考書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で直接フィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への参加態度(60%)、技術の習熟度(20%)、グループ課題発表(10%)、学期末レポート(10%)	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 授業中にガムを噛む、または飲食行為(必要な水分補給を除く)は厳禁とする。 4. 受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。 上記の点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 今野和志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：グラウンド（和泉） 第1講 イントロダクション（授業計画の説明、評価について） 第2講 サッカー①（ルールとマナー、キック） 第3講 サッカー②（トラップ） 第4講 サッカー③（ドリブル） 第5講 サッカー④（ボールポゼッション、ゲーム） 第6講 サッカー⑤（リーグ戦） 第7講 ソフトボール①（ルールとマナー、スローイング） 第8講 ソフトボール②（キャッチング） 第9講 ソフトボール③（バッティング） 第10講 ソフトボール④（フィールディング、ゲーム） 第11講 ソフトボール⑤（リーグ戦） 第12講 アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム） 第13講 アルティメット②（リーグ戦） 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に十分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようところがけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 西谷善子	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 2020+1東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。 一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。 クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使い方によって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。 本授業では、クライミングの中のボルダラー（ボルダリング）種目を中心に授業を展開し、自分の身体の機能や動き等を学びます。 【到達目標】 クライミングを通して、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。	
授業内容 使用施設：和泉体育館1階クライミングウォール 主に3～5m程の短い壁を登る「ボルダラー（ボルダリング）」と呼ばれる種目を中心に行います。 毎回、ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。 第1週：講義1 クライミング概論 第2週：講義2 クライミングの安全対策 第3週：講義3 クライミングに必要な体力 第4-5週：講義4 足の置き方、ホールドの持ち方、ムーブ 第6週：講義5 ルートを読む：オブザベーションの重要性 第7-8：講義6 課題を作ってみる 第9-10週：講義7 競技クライミング；ボルダラー（ボルダリング） 第11週：講義8 長いルートに登ってみる；ルートクライミング 第12-13：課題を登る 中間テスト（理解度・達成度チェック） 第14週：講義9 体力の比較、まとめ、レポート提出	
履修の注意点 1. 授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。 2. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 初回～3、4週目までは様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。 5. 本務の関係で、何回かの授業を対面からオンラインに切り替える場合があります。	
準備学習の内容 必要に応じて授業中に指示する。	
教科書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。	
参考書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。 興味がある人は『フリークライミングはじめました。：ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミングボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』（西谷監修）を読むと、授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、平常点（60%）、理解度・達成度（20%）、レポート（20%）で総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 齋藤 実	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：サブホール 教材：バドミントン 第1回：イントロダクション（運動学を学修する意義、リスクマネジメント） 第2回：導入（シャトル、ラケットに慣れ、模範演技によって競技特性を理解する） 第3回：技能実習I（グリップ・ラケットワーク・フットワークの理解） 第4回：技能実習II（基本ストローク：サーブ・ヘアピン・ドロップ） 第5回：技能実習III（基本ストローク：ドライブ・ハイクリアー・スマッシュ） 第6回：技能実習IV（コンビネーションプレー、簡易ラリー） 第7回：シングルス簡易ゲームI（審判法の学習） 第8回：シングルス簡易ゲームII（ゲーム実習） 第9回：シングルス簡易ゲームIII（ゲームの戦略を学ぶ） 第10回：ダブルス簡易ゲームI（ゲーム実習） 第11回：ダブルス簡易ゲームII（ゲームの戦略を学ぶ） 第12回：大会実習I（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む） 第13回：大会実習II（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む） 第14回：大会実習III（ダブルスゲームを中心とした団体戦、技能評価を含む）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 服装とシューズの準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。	
準備学習の内容 授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。	
教科書 特に定めなし。	
参考書 『基礎から学ぶスポーツリテラシー』高橋 健夫（著）、大修館書店	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を取り上げて、授業内にて講評する。	
成績評価の方法 平常点評価 70%：授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。 授業内評価 30%：実技、筆記（ルール、マナーについて）を実施し、技能、理解度を評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階プール 第1回 イン트로ダクション（受講上の留意点など） 第2回 水慣れ、泳力測定 第3回 クロール1（キック・プル） 第4回 クロール2（コンビネーション） 第5回 背泳ぎ1（キック・プル） 第6回 背泳ぎ2（コンビネーション） 第7回 平泳ぎ1（キック・プル） 第8回 平泳ぎ2（コンビネーション） 第9回 バタフライ1（キック・プル） 第10回 バタフライ2（コンビネーション） 第11回 個人メドレー 第12回 スキンダイビング 第13回 水球（パス・ドリブル・シュート） 第14回 水球（ゲーム）、授業のまとめ ※内容は変更になることがあります	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 1. 授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。 2. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 西 谷 善 子	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 2020+1東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。 一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。 クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使い方によって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。 本授業では、クライミングの中のボルダー（ボルダリング）種目を中心に授業を展開し、自分の身体の機能や動き等を学びます。 【到達目標】 クライミングを通して、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。	
授業内容 使用施設：和泉体育館1階クライミングウォール 主に3～5m程の短い壁を登る「ボルダー（ボルダリング）」と呼ばれる種目を中心に行います。 毎回、ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。 第1週：講義1 クライミング概論 第2週：講義2 クライミングの安全対策 第3週：講義3 クライミングに必要な体力 第4-5週：講義4 足の置き方、ホールドの持ち方、ムーブ 第6週：講義5 ルートを読む；オブザベーションの重要性 第7-8週：講義6 課題を作ってみる 第9-10週：講義7 競技クライミング；ボルダー（ボルダリング） 第11週：講義8 長いルートを登ってみる；ルートクライミング 第12-13週：課題を登る 中間テスト（理解度・達成度チェック） 第14週：講義9 体力の比較、まとめ、レポート提出	
履修の注意点 1. 授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。 2. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 初回～3、4週目までは様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。 5. 本務の関係で、何回かの授業を対面からオンラインに切り替える場合があります。	
準備学習の内容 必要に応じて授業中に指示する。	
教科書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。	
参考書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。 興味がある人は『フリークライミングはじめました。：ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミングボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』（西谷監修）を読むと、授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、平常点（60%）、理解度・達成度（20%）、レポート（20%）で総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 成 瀬 和 弥	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：柔道場（スポーツルームC） 第1回：オリエンテーション 第2回：救急救命法 第3回：ウォーキングの基礎 第4回：ウォーキングの応用 第5回：ウォーキングからランニング 第6回：瞑想の基礎 第7回：瞑想の実践（20分） 第8回：瞑想の実践（25分） 第9回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを投げる 第10回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを取る 第11回：ウォーキングフラッグフットボール 戦術の理解 第12回：ウォーキングフラッグフットボール ワンゴールゲーム 第13回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム 第14回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ニュースポーツについて調べる 障害者スポーツについて調べる	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 技能40%、知識・理解60%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 成瀬和弥	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：柔道場（スポーツルームC） 第1回：オリエンテーション 第2回：救急救命法 第3回：ウォーキングの基礎 第4回：ウォーキングの応用 第5回：ウォーキングからランニング 第6回：瞑想の基礎 第7回：瞑想の実践（20分） 第8回：瞑想の実践（25分） 第9回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを投げる 第10回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを取る 第11回：ウォーキングフラッグフットボール 戦術の理解 第12回：ウォーキングフラッグフットボール ワンゴールゲーム 第13回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム 第14回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ニュースポーツについて調べる 障害者スポーツについて調べる	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 技能40%、知識・理解60%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
教授 後藤光将	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：ガイダンス 第2回：用具とグリップ 第3回：アドレス、スウィングの基礎 第4回：クォータースウィングからハーフスウィング 第5回：ハーフスウィングからスリークォータースウィング 第6回：スリークォータースウィングからフルスウィング 第7回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（1） 第8回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（2） 第9回：パッティング（1） 第10回：パッティング（2） 第11回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（1） 第12回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（2） 第13回：講義（ゴルフの歴史、ルール、マナー） 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ゴルフのルールやマナーについて事前に調べて下さい。健康に関する情報収集を常に心懸けて下さい。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度（40%）、平常点（30%）、期末レポート（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 石 渡 貴 之	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：ガイダンス（授業の目的、内容、注意点の確認等）、ゴルフの特性、ルール、マナー 第2回：クラブの握り方、姿勢、スイングチェック、スイング撮影 第3回：スイング確認、基本スイングの習得、ショートアイアン練習（SW、PW） 第4回：基本スイングの習得、ショートアイアン練習（SW、PW）アプローチショットゲーム① 第5回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、アプローチショットゲーム② 第6回：グループ演習課題打合せ、パター練習、ミドルアイアン練習（9I~7I） 第7回：グループ課題発表①、パター練習、ミドルアイアン練習（9I~7I） 第8回：グループ課題発表②、パター練習、ロングアイアン練習（6I~5I） 第9回：グループ課題発表③、パターゴルフゲーム① 第10回：グループ課題発表④、ドライバー、フェアウェイウッド練習 第11回：グループ課題発表⑤、ドライバー、フェアウェイウッド、アイアン練習 第12回：グループ課題発表⑥、ドライバー、フェアウェイウッド、アイアン、ショートアイアン練習 第13回：グループ課題発表⑦、パターゴルフゲーム②、スイング試験 第14回：まとめ、学期末レポート作成	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-ol Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。	
教科書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
参考書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で直接フィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への参加態度（60%）、技術の習熟度（20%）、グループ課題発表（10%）、学期末レポート（10%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 授業中にガムを噛む、または飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。 4. 受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。 上記の点について、万が一不遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 杉 山 仁 志	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することです。運動不足病が深刻な社会問題となっている現在、運動実践の機会および知識の獲得を教育の一環として確保されることは大学生にとって重要であり、不可欠であると考えます。健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の向上・育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：サブホール 第1講：前期授業のガイダンス 第2講：バレーボール（1）基礎技術の習得 第3講：バレーボール（2）基礎技術の応用・班分け 第4講：バレーボール（3）攻撃基礎技術の習得・ゲーム実践 第5講：バレーボール（4）攻撃基礎技術の応用・ゲーム実践 第6講：バレーボール（5）基礎技術習得確認・ゲーム実践 第7講：バレーボール（6）ゲーム実践 第8講：バドミントン（1）シングルスゲーム実践 第9講：バドミントン（2）シングルスゲーム実践 第10講：バドミントン（3）ダブルスゲーム実践 第11講：バドミントン（4）ダブルスゲーム実践 第12講：バドミントン（5）ダブルスゲーム実践 第13講：バドミントン（5）団体戦ゲーム実践 第14講：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 バレーボールのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。 バドミントンのゲームが行えるように、基本的なルールを理解しておくこと。	
教科書 特になし	
参考書 コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）大修館書店 バドミントン教本基礎編 日本バドミントン協会（編集）ベースボールマガジン社	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 （1）主に授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。 （2）平常点100%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 水 口 潔	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 授業は、ゴルフ練習場において実施する。ゴルフは自分の体の動かし方を意識する必要があるため、自主的な練習への取り組みが強く求められる。ゴルフの基本技術の習得と、基礎的なルール・マナー等を学ぶことによって、ゴルフへの理解を深める。運動に適したシューズを準備すること。手袋などについては、オリエンテーションで説明する。 【授業の到達目標】 初心者・初級者として、ゴルフを楽しむことのできる技術を取得し、ゴルフを通し、スポーツの魅力と楽しさを実感する。	
授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：基本技術の練習（パッティングストローク） 第3回：基本技術の練習（アプローチストローク） 第4回：基本技術の練習（グリップの確認） 第5回：基本技術の練習（アプローチストロークその2） 第6回：基本技術の練習（ハーフスイング） 第7回：基本技術の練習（クォータースイング） 第8回：基本技術の練習（フルスイング） 第9回：基本技術の練習（フルスイングその2） 第10回：基本技術の練習（長いクラブの練習） 第11回：基本技術の練習（ドライバーの練習） 第12回：ハーフショットのアプローチゲーム 第13回：チーム対抗戦1回戦 第14回：チーム対抗戦2回戦 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 履修開始の第1週目(授業の開講時限)は、インフォメーションボードで指定された教室に集合してください。通常授業に関しては、以下の点に留意してください。これが準備学習となります。 (1) 心身のコンディションを整えて出席してください。 (2) スポーツ活動にふさわしいシューズやウェアを着用してください。 (3) 授業の進行および安全管理の観点から、遅刻は厳禁とします。雨天時の対応などは実技に関する指示は、体育館の入り口にあるインフォメーションボードに掲載されていますので、授業前に必ず目を通してください。ゴルフ用の手袋を各自準備すること。	
準備学習の内容 ネット上の動画なども含め、興味のある映像などを見ておくこと。	
教科書 特に定めない。	
参考書 特に定めない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 単位の取得には、開講日数の2/3以上の出席が必要です。2/3以上出席した者について、以下のような比率により総合的に評価します。 (a) 平常点:40% (b) 理解力・コミュニケーション能力:40% (c) 技能・体力:20% & 実技能力や向上度、ルールとマナーの理解度などを見るために試験を実施し、レポートの提出を求めます。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 針ヶ谷 雅子	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：剣道場（スポーツルームB） 第1回：ガイダンス 第2回：ストレッチと体力チェック 第3回：＜フィットネス1＞ エアロビックダンス入門 第4回：＜フィットネス2＞ ヨガ入門 第5回：＜フィットネス3＞ ヨガ応用 第6回：＜レクリエーション1＞ 長縄跳びのバリエーション 第7回：＜レクリエーション2＞ 短縄跳びのバリエーション 第8回：＜レクリエーション3＞ ダブルダッチとリズム縄跳び 第9回：＜レクリエーション4＞ ジャグリングボール 第10回：＜レクリエーション5＞ インラインスケート 第11回：＜ニューススポーツ1＞ ユニバーサルホッケー 第12回：＜ニューススポーツ2＞ キンボール 第13回：＜ダンス＞ フラダンス 第14回：まとめ・講義「環境とスポーツ」	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 睡眠や食事をきちんととり、元気なところとからだで参加してください。	
準備学習の内容 学びを深めるため、また、生涯スポーツとして活用するため、授業で触れた教材について、書籍やインターネットを活用して補習・復習することを推奨します。	
教科書 教科書は使用しません。	
参考書 (1) ニューススポーツ辞典（北川勇人/日本レクリエーション協会編著、遊戯社） (2) 健康教育—表現する身体—（山岸俊子/山口順子 編、勁草書房） (3) 誰でもできる楽しいなわとび（榎木繁男 他、大修館書店）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 平常点（参加、意欲、取り組み、積極性、協調性など）60% (2) 達成度（種目・教材の特性をどの程度理解しているか）30% (3) 学期末レポート（授業で学んだことを整理してまとめる）10%	
その他 1. 各種目に適切な服装については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
教授 後藤光将	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：ガイダンス 第2回：用具とグリップ 第3回：アドレス、スウィングの基礎 第4回：クォータースウィングからハーフスウィング 第5回：ハーフスウィングからスリークォータースウィング 第6回：スリークォータースウィングからフルスウィング 第7回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（1） 第8回：ショートアイアンを用いたスウィングレッスン（2） 第9回：パッティング（1） 第10回：パッティング（2） 第11回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（1） 第12回：ドライバーを用いたスウィングレッスン（2） 第13回：講義（ゴルフの歴史、ルール、マナー） 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ゴルフのルールやマナーについて事前に調べて下さい。健康に関する情報収集を常に心懸けて下さい。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度（40%）、平常点（30%）、期末レポート（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
兼任講師 高梨美奈	
授業の概要・到達目標 実施種目：ニュースポーツ 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。 運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業概要： これまであまり経験したことのないスポーツを通じ、スポーツの幅広さを学ぶと同時に、楽しく体を動かす場をつくるということをもつて学びます。そのため、他者との関わりを重視し、そのプロセスを通じ、リーダーシップ、フォロワーシップ、コミュニケーションをとることを目指します。 また、ストレッチや筋力トレーニングを身に付け、生涯に渡り、自ら実践できるようにすることを目指します。	
授業内容 使用施設:(スポーツルーム11) 第1回：コミュニケーションゲーム（互いを知り合う） 第2回：ボールゲーム 第3回：ホッケー 第4回：ウォーキング 第5回：ボッチャ、シッティングバレーボール 第6回：バスケットボール 第7回：バスケットボール 第8回：キンボール 第9回：キンボール 第10回：ダブルダッチ 第11回：ダブルダッチ 第12回：フライングディスク 第13回：フライングディスク（アルティメット） 第14回：まとめ、レポート提出	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業の内容は、変更になる場合があります。 5. 受講の際は、動きやすい服装に替え、爪を短く切ってきてください。内履きも必ず持参して下さい。 ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。	
準備学習の内容 (予習) 授業で行うスポーツ種目ルールおよびリスク・安全管理について理解する。 授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。 (復習) 授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。 授業後はリフレクションシートを記入すること。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。 Oh-olMeijiで紹介することがあります。	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-olMeijiを利用します。 質問や連絡がある場合にはOh-olMeijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。	
成績評価の方法 1. 授業参加度や積極性（70%） ①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度 などを総合的に評価します。 2. 目標達成度（10%） 毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します 3. レポート（20%） 授業を振り返り、最終日にレポートを提出する	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいます。	
授業内容 使用施設： グラウンド 実施種目： フライングディスク、フラッグフットボール、テーパーボール、ペタンク 第1講 ガイダンス 第2講 アイスブレイク 第3講 コミュニケーションゲーム (1) 第4講 コミュニケーションゲーム (2) 第5講 フォトラリー 第6講 フラッグフットボール(1) 第7講 フラッグフットボール(2) 第8講 フラッグフットボール(3) 第9講 フラッグフットボール(4) 第10講 フライングディスク(1) 第11講 フライングディスク(2) 第12講 ディスクゴルフ 第13講 ペタンク(2) 第14講 ペタンク(3)	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 半期に数回、個人やグループ単位で課題を出します。それらの課題については授業時間外で取り組むことになります。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業中に行います。	
成績評価の方法 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。またレポート課題を数回出します。成績は以下の点から評価します： 1) 授業への参加度 (60%) 2) グループ活動への貢献度 (20%) 3) 課題評価 (20%)	
その他 1. 適切な服装や靴、メガネの着用についてはガイダンスにて説明します。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。 受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1回：aのみ：イントロダクション (授業実施上のガイダンス) 第2回：体力測定 (トレーニング前 その1) 第3回：体力測定 (トレーニング前 その2) 第4回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方 (講義) 第5回：フィットネスルーム安全講習 第6回：各自のトレーニング 第7回：各自のトレーニング 第8回：各自のトレーニング 第9回：各自のトレーニング 第10回：各自のトレーニング 第11回：体力測定 (トレーニング状況の中間評価) 第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング 第13回：心肺蘇生法 (CPR) 実習 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習IIは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技 (身体運動) が中心となるため、普段からの自己管理 (食事・睡眠等) を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点 (授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など) 70% 2. レポート (提出状況、内容など)、データシート記入状況 30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装 (高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可)、体育館シューズ (外靴以外)、外靴を入れて保管する袋 (シューズ袋) を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習Ⅰ－1	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、人間にとっての身体運動の意味、運動と健康の関わりについて科学的根拠に基づく理解をし、運動を安全かつ有効に実践できる知識を習得することである。 受講生は、自分自身の体力の現状を知り、今後どのように生活を送ることが大切であるかを、授業を通して理解、説明することができるようになる。フィットネスルームにある様々な器具の正しい使用方法を理解し、目的に合ったトレーニング方法を学び自ら適切に実践できるようになる。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス） 第2回：体力測定（トレーニング前 その1） 第3回：体力測定（トレーニング前 その2） 第4回：体力評価とトレーニングプログラムの組み方（講義） 第5回：フィットネスルーム安全講習 第6回：各自のトレーニング 第7回：各自のトレーニング 第8回：各自のトレーニング 第9回：各自のトレーニング 第10回：各自のトレーニング 第11回：体力測定（トレーニング状況の中間評価） 第12回：体力評価の簡易フィードバック、各自のトレーニング 第13回：心肺蘇生法（CPR）実習 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習Ⅰは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Ⅰの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Ⅰの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認めるが、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート（提出状況、内容など）、データシート記入状況 30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性能が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習Ⅰ－1（特定 スポーツ）	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、スポーツ特別入試で入学した体育会所属の学生を対象に、高い競技レベルで活躍するために身につけておくべき基本的知識について、実技と講義を通じて学ぶことである。また、4年間で卒業するために必要な日々の生活習慣や学習習慣を整えるための取り組みも行う。受講生が、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣を、この授業を通して身につけ、適切に実践できるようになることを到達目標とする。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1回：ガイダンス（授業の進め方）、体組成測定、食事の考え方（講義）／必要カロリー算出 第2回：ライフスキルテスト／ライフスキルとは？（講義）、練習日誌の書き方 第3回：形態計測（周径圍） 第4回：競技力向上に欠かせない体力とトレーニングの考え方（講義）、体力測定（筋力、筋持久力、柔軟性、平衡性、全身持久力） 第5回：体力測定（全身持久力、敏捷性） 第6回：筋力と筋パワー（講義）、体力測定（垂直跳、無酸素パワーテスト） 第7回：体力測定（脚伸展パワー、全力ベダリングピークパワー） 第8回：トレーニングの実践、体幹筋力測定 第9回：トレーニングの実践、体幹筋力測定 第10回：トレーニングの実践、体幹筋力測定 第11回：トレーニングの実践、体幹筋力測定 第12回：トレーニングの実践、体幹筋力測定 第13回：心肺蘇生法（CPR）実習、レポート課題の提示 第14回：まとめ（レポート提出・回収）	
履修の注意点 1. 本授業は1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。 2. 本授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 本授業の単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認め、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。 5. 大会出場、強化合宿、遠征等で授業を欠席する場合は、学部指定の「欠席届」を必ず提出すること。提出がない場合は、通常の欠席として取り扱う。 6. 授業中に出席された課題・レポート等は必ず行い、提出を求められた場合は必ず提出すること。 7. 怪我で運動が制限されている場合は、第1回目の授業時に担当教員へ申し出て指示を受けること。 8. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業参加に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、自身の競技力向上に必要なと思われる様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート・課題（提出状況、内容など）30%	
その他 1. 受講中にガムを噛む、また飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。 2. 運動に適した服装、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを身につけること、および使用は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 1 (特定 スポーツ)	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘平	
授業の概要・到達目標 本授業は、スポーツ特別入試で入学した体育会所属の学生を対象に、高い競技レベルで活躍するために身につけておくべき専門的な知識について、実技ならびに講義を通じて学びます。自身の専門種目以外の運動種目についても理解を深め、他者の考え方や取り組みから自身のパフォーマンス向上に繋げられる広い視野を持つことが望まれます。この授業を通して、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣を身につけることを到達目標とします。 本授業では、パフォーマンス向上に関わる知識や技能（トレーニング、運動生理学、運動栄養学、解剖学等）を講義と実践の両面から身に付けます。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1回 イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回 フィットネスルームの使い方 第3回 ビッグスリーのフォーム、1RM測定 第4回 栄養と休養、各自のトレーニング 第5回 トレーニングの原理と原則、各自のトレーニング 第6回 筋の肥大、各自のトレーニング 第7回 心拍数とトレーニング、各自のトレーニング 第8回 怪我の予防と対処法、各自のトレーニング 第9回 ベンチプレスのバリエーション、各自のトレーニング 第10回 スクワットのバリエーション、各自のトレーニング 第11回 デッドリフトのバリエーション、各自のトレーニング 第12回 1RM測定、各自のトレーニング 第13回 心肺蘇生法 第14回 まとめ 授業内容は変更になることがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。 5. 授業を正当な理由（大会出場、強化合宿、遠征等）で欠席する場合は、学部指定の欠席届を必ず提出してください。提出がない場合は、無断欠席として取り扱います。	
準備学習の内容 体育・スポーツに関わる本や資料を積極的に読むようにしましょう。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に紹介します。	
成績評価の方法 授業への取り組み（50%）・意欲や態度（20%）・ミニレポート（30%）で総合的に判断します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 成瀬 和弥	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：柔道場（スポーツルームC） 第1回：オリエンテーション 第2回：救急救命法 第3回：ウォーキングの基礎 第4回：ウォーキングの応用 第5回：ウォーキングからランニング 第6回：瞑想の基礎 第7回：瞑想の実践（20分） 第8回：瞑想の実践（25分） 第9回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを投げる 第10回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを取る 第11回：ウォーキングフラッグフットボール 戦術の理解 第12回：ウォーキングフラッグフットボール ワンゴールゲーム 第13回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム 第14回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ニュースポーツについて調べる 障害者スポーツについて調べる	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 技能40%、知識・理解60%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 一 川 大 輔	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉キャンパス総合体育館 サブホール 第1回：オリエンテーション、利用施設の説明、簡易エクササイズ 第2回：バドミントン導入のためのルール説明、試しのゲーム 第3回：ラケットイング、打法の練習、簡易ゲーム 第4回：基礎練習（ヘアピン・ドライブ、ロングサーブ）、半コートでのシングルスゲーム 第5回：基礎練習（ハイクリア・スマッシュ、ドロップ）、半コートでのシングルスゲーム 第6回：フルコートでのシングルスゲーム導入のためのルール説明、簡易ゲーム 第7回：レベル別のシングルスゲーム 第8回：ダブルスゲーム導入のためのルール説明、簡易ゲーム 第9回：ダブルスゲームのためのルール説明、基礎練習（ショートサービス） 第10回：上級者と未経験者でのダブルスゲーム 第11回：ソフトバレーボール導入、シッティングバレーボール 第12回：リクリエショナルボールでのリーグ戦 第13回：バレーボールのリーグ戦 第14回：実技運動のまとめ、授業総括	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 赤い靴ひもの室内用運動靴を用意してください。	
準備学習の内容 授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 *授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。 平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようにすることを目的としている。 受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに応用できるようにする。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。	
授業内容 使用施設：スポーツルームA 第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス） 第2回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー 第3回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける 第4回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践 第5回：シングルス・ゲーム実践（1） 第6回：シングルス・ゲーム実践（2） 第7回：シングルス・ゲーム実践（3） 第8回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践 第9回：ダブルス・ゲーム実践（1） 第10回：ダブルス・ゲーム実践（2） 第11回：ダブルス・ゲーム実践（3） 第12回：様々な形式でのゲーム実践（1） 第13回：様々な形式でのゲーム実践（2） 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習IIは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組みだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート（提出状況、内容など）30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 蛭 間 栄 介	
授業の概要・到達目標 実施種目：水泳・水球・シュノーケリング 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：プール 第1回 講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。 第2回 水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。 第3回 フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。 第4回 スキンダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。 第5回 クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第6回 背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第7回 平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第8回 バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第9回 水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。 第10回 水球のゲーム法について学習し、説明できる。 第11回 水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。 第12回 水球の審判法について学習し、説明できる。 第13回 水球の戦術について学習し、説明できる。 第14回 講義2：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 準備学習として事前に配布される資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。	
準備学習の内容 事前に配布された資料を読み、授業内容を理解しておいてください。また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。	
教科書 使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。	
参考書 「水泳指導教本」（財団法人日本水泳連盟 編、大修館書店） 「スイミングファステスト」（高橋繁浩、鈴木大地 監訳、ベースボールマガジン社） 「潜水医学入門」（池田知純 著、大修館書店） 「アクアエクササイズ指導教本」（深代泰子、尾陰由美子 監修、公益財団法人 日本フィットネス協会）	
課題に対するフィードバックの方法 レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。	
成績評価の方法 平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 第1回目の授業には必ず出席してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 梅 澤 秋 久	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：オリエンテーション（受講上の留意点についてのガイダンス） 第2回：パターゴルフをやってみよう（チカラの調整とパターの操作） 第3回：パターの操作に慣れよう（傾斜を計算してゴルフボールを転がそう） 第4回：パターゴルフ大会をしよう（Par2の5つのホールでスコアを競おう） 第5回：長いホールのパターゴルフ大会をしよう 第6回：短いクラブでショットに挑戦しよう（グリップの握り方、アドレスの取り方） 第7回：短いクラブでショットの型を学ぼう（ICTを活用して、見本とのずれ：問題点を発見しよう） 第8回：狙った方向にボールを飛ばそう 第9回：ライ角通りにボールを上げよう 第10回：自身のスイングの特徴を知ろう（ICTを活用し、他者との違いを発見しよう） 第11回：下半身始動のスイングを身につけよう 第12回：ミドルアイアンでボールを打とう 第13回：ミドルアイアンでボールを飛ばそう 第14回：本授業のまとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 基礎的な身体活動を日常的に実践する。	
教科書 特になし	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 梅 澤 秋 久	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：サブホール 第1回 オリエンテーション（受講上の留意点についてのガイダンス） 第2回 ネット型ボール運動の特性について（バドミントンで攻守一体型の特性を知ろう） 第3回 ネット型ボール運動の特性を深めよう（相手コートに羽を落とすための方法を探究しよう） 第4回 ネット型ボール運動の特性を極めよう（スマッシュ、ドロップ、ヘアピン、ハイクリアを駆使しよう） 第5回 ネットを挟んでラリーを続けよう（ソフトバレーボールに触れよう） 第6回 バレーボールの特性を考えて実践しよう（コートに落とすか／落とさせないかの間を愉しもう） 第7回 バレーボール大会をしよう 第8回 足でボールを扱う面白さを味わおう（「できる／できない」の間を愉しもう） 第9回 ドリブルの角度を変える動きを学ぼう（フェイントで相手を翻弄しよう） 第10回 仲間と共に突破しよう（ボールを持たない人がどう動かすかを考えよう） 第11回 サイドに開いてゲームをつくろう（「ありんこ状態」から抜け出そう） 第12回 ゲームの中で「ギャップ」に入ってパスを受けよう（日本代表の縦パスに学ぼう） 第13回 ゲームの中で「マイナス」のボールを打とう（ゴールに向けてきれいなシュートを決めよう） 第14回 本授業のまとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 基礎的な身体活動を日常的に実践する	
教科書 特になし	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業中のテーマに関連する取り組み（40%）、授業への貢献度（30%）、パフォーマンス（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 蛭 間 栄 介	
授業の概要・到達目標 実施種目：水泳・水球・シュノーケリング 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：プール 第1回 講義1:オリエンテーションと水の力学的影響について学習し、説明できる。 第2回 水泳に必要な準備体操および水中運動での身体的応答について学習し、説明できる。 第3回 フィン及びシュノーケリングを使用したフィンスイムについて学習し、説明できる。 第4回 スキングダイビング（シュノーケルクリアやマスククリアなど）について学習し、説明できる。 第5回 クロールの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第6回 背泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第7回 平泳ぎの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第8回 バタフライの基本動作とドリルについて学習し、説明できる。 第9回 水球の基本動作（立ち泳ぎ、パス、ドリブル、シューティング）の習得とルールについて学習し、説明できる。 第10回 水球のゲーム法について学習し、説明できる。 第11回 水球の基本動作のトレーニングについて学習し、説明できる。 第12回 水球の審判法について学習し、説明できる。 第13回 水球の戦術について学習し、説明できる。 第14回 講義2：「フィジカル・フィットネスと健康」について学習し、説明できる。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 準備学習として事前に配布される資料を、各授業前に読んで理解しておいてください。	
準備学習の内容 事前に配布された資料を読み、授業内容を理解しておいてください。また、水中エクササイズは、普段にあまり使用しない筋群を使用するため普段からストレッチングやトレーニングをしておいてください。	
教科書 使用しません。必要に応じて担当者が授業中に資料を配布します。	
参考書 「水泳指導教本」（財団法人日本水泳連盟 編、大修館書店） 「スイミングファステスト」（高橋繁浩、鈴木大地 監訳、ベースボールマガジン社） 「潜水医学入門」（池田知純 著、大修館書店） 「アクアエクササイズ指導教本」（深代泰子、尾陰由美子 監修、公益財団法人 日本フィットネス協会）	
課題に対するフィードバックの方法 レポートは評価とコメントを記入して学生に返却します。	
成績評価の方法 平常点(60点)、授業の取り組み(20点)、およびレポート(20点)から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 第1回目の授業には必ず出席してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 一 川 大 輔	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉キャンパス総合体育館 サブホール 第1回：オリエンテーション、利用施設の説明、簡易エクササイズ 第2回：バドミントン導入のためのルール説明、試しのゲーム 第3回：ラケットイング、打法の練習、簡易ゲーム 第4回：基礎練習（ヘアピン・ドライブ、ロングサーブ）、半コートでのシングルスゲーム 第5回：基礎練習（ハイクリア・スマッシュ、ドロップ）、半コートでのシングルスゲーム 第6回：フルコートでのシングルスゲーム導入のためのルール説明、簡易ゲーム 第7回：レベル別のシングルスゲーム 第8回：ダブルスゲーム導入のためのルール説明、簡易ゲーム 第9回：ダブルスゲームのためのルール説明、基礎練習（ショートサービス） 第10回：上級者と未経験者でのダブルスゲーム 第11回：ソフトバレーボール導入、シッティングバレーボール 第12回：レクリエショナルボールでのリーグ戦 第13回：バレーボールのリーグ戦 第14回：実技運動のまとめ、授業総括	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 赤い靴ひもの室内用運動靴を用意してください。	
準備学習の内容 授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 *授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。 平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
講師 武 田 紘 平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：剣道場 第1回 イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回 縄跳び① 第3回 縄跳び② 第4回 ユニホック① 第5回 ユニホック② 第6回 ショートテニス① 第7回 ショートテニス① 第8回 レクリエーションスポーツ① 第9回 レクリエーションスポーツ② 第10回 レクリエーションスポーツ③ 第11回 ミニサッカー① 第12回 ミニサッカー② 第13回 ミニサッカー③ 第14回 まとめ ※内容は変更になることがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。	
準備学習の内容 1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に紹介します。	
成績評価の方法 平常点（60%）、態度（20%）、理解（20%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階プール 第1回 イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回 水慣れ、泳力測定 第3回 クロール1（キック・プル） 第4回 クロール2（コンビネーション） 第5回 背泳ぎ1（キック・プル） 第6回 背泳ぎ2（コンビネーション） 第7回 平泳ぎ1（キック・プル） 第8回 平泳ぎ2（コンビネーション） 第9回 バタフライ1（キック・プル） 第10回 バタフライ2（コンビネーション） 第11回 個人メドレー 第12回 スキンダイビング 第13回 水球（パス・ドリブル・シュート） 第14回 水球（ゲーム）、授業のまとめ ※内容は変更になることがあります	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 1. 授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。 2. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に紹介します。	
成績評価の方法 授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 杉山 仁志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 第1講 ガイダンス(ゴルフ練習場) 第2講 グリップの基本及びスイングの基本 1 第3講 グリップの基本及びスイングの基本 2 第4講 ハーフスイングからのショット 1 第5講 ハーフスイングからのショット 2 第6講 フルスイングショット 1 第7講 フルスイングショット 2 第8講 フルスイングショット 3 第7講 フルスイングショット 4 第8講 フェアウエーウッドショット(能力別) 1 第9講 フェアウエーウッドショット(能力別) 2 第10講 フェアウエーウッドショット(能力別) 3 第11講 ドライバーショット(能力別) 1 第12講 ドライバーショット(能力別) 2 第13講 バター 第14講 まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ゴルフスイングの基本となるグリップ・スイングなどを雑誌及びメディアを利用し、理解しておくこと。 自分が行っているスイング動画をチェックする。(プロのスイングと比較など)	
教科書 特に指定しません。	
参考書 PGA基本ゴルフ教本(社)日本プロゴルフ協会(監修) 学研	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。 (2) 平常点100%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、については担当教員の指示に従って下さい。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診して下さい。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：剣道場 第1回 イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回 縄跳び① 第3回 縄跳び② 第4回 ユニホック① 第5回 ユニホック② 第6回 ショートテニス① 第7回 ショートテニス① 第8回 レクリエーションスポーツ① 第9回 レクリエーションスポーツ② 第10回 レクリエーションスポーツ③ 第11回 ミニサッカー① 第12回 ミニサッカー② 第13回 ミニサッカー③ 第14回 まとめ ※内容は変更になることがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。	
準備学習の内容 1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に紹介します。	
成績評価の方法 平常点 (60%)、態度 (20%)、理解 (20%) の3項目を点数化し、その合計点で評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 竹井 尚也	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館ウェスト2階 フィットネスルーム 第1回：授業の説明とオリエンテーション 第2回：体力測定1、トレーニングマシンの解説と実技 第3回：目標設定、プログラム作成、フリーウエイトの解説と実技1 第4回：持久的運動の解説、フリーウエイトの解説と実技2 第5回：トレーニングの実践1 第6回：トレーニングの実践2 第7回：トレーニングの実践3 第8回：トレーニングの実践4 第9回：トレーニングの実践5 第10回：トレーニングの実践6 第11回：トレーニングの実践7 第12回：トレーニングの実践8 第13回：体力測定2、測定結果の評価と解説 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 健康やフィットネストレーニングに関する情報収集を心懸けて下さい。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (a) 授業への積極的な取り組み・態度 60% (b) 理解力・技能の上達度 30% (c) レポート・提出物10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 高 梨 美 奈	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。 運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 実施種目：スポーツクライミング 授業概要： クライミングは、これまで経験したことのない人、運動が得意な人もそうでない人でも、自分のペースで取り組めるスポーツです。 クライミングを通して、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。本授業では、クライミングの中の「ボルダリング」「ロープクライミング」を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体への理解を深めます。講義やリフレクションを15分ほど導入し、自分で目標を立ててチャレンジすること、また他者を観察し他者から学ぶこと、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じていくよう、グループワークも取り入れていきます。 到達目標： ・クライミングの基本技術について理解し説明できる。 ・ロープクライミングの技術を習得し、安全に行うことができる。 ・ボルダリングの課題を作ることができる。 ・ルートを正確に読むことができる。 ・事故や怪我を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。 ・スポーツを通じて仲間と協力や励まし合いコミュニケーションを活発にすることができる。 ・生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心を高めることができる。 ・感情や自らの言動を客観的に振り返ることで、自分自身と向き合い、自己分析力を高めることができる	
授業内容 使用施設：クライミングウォール 第1回：オリエンテーション（授業の概要に関する説明、カード記入） 第2回：クライミングの概要、安全対策 第3回：コンディショニング（筋トレ、ストレッチ）、ボルダリングとロープクライミング 第4回：グループワーク、フットワーク（足の置き方） 第5回：グループワーク、ホールドの持ち方、体の動かし方（ムーブ） 第6回：グループワーク、ルートを読む（オブザベーション） 第7回：グループワーク、オリジナル課題を作る 第8回：グループワーク、ロープクライミング（安全システムを学ぶ）/ボルダリング 第9回：グループワーク、ロープクライミング（ビレイを学ぶ）/ボルダリング 第10回：グループワーク、ロープクライミング（チームビレイ）/ボルダリング 第11回：目標設定、自分の目標を決めて登る 第12回：グループワーク、課題を作る 第13回：コンペティション、コンペティション 第14回：まとめ、レポート提出 クラスメイトとのコミュニケーションを重視し、グループによる活動を行います。状況により、場所を変更する日があるかもしれません。必ず掲示を確認するようにしてください。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の 3分の2以上の出席 が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。ネイルやアクセサリは怪我の恐れがあるため厳禁です。 5. 薄手の靴下を持参して下さい。	
準備学習の内容 (予習) スポーツクライミングに関するルールおよびリスク・安全管理について理解する。授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。 (復習) 授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。 授業後はリフレクションシートを記入すること。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。授業で資料を配布することがあります。 おすすめ 「完全図解スポーツクライミング教本」 東秀磯 著、山と渓谷社	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-olMeijiを利用します。 質問や連絡がある場合にはOh-olMeijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。	
成績評価の方法 1. 授業参加度や積極性 (70%) ①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度 などを総合的に評価します。 2. 目標達成度 (10%) 毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します 3. レポート (20%) 授業を振り返り、最終日にレポートを提出する	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診して下さい。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 杉 山 仁 志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 第1講 ガイダンス(ゴルフ練習場) 第2講 グリップの基本及びスイングの基本 1 第3講 グリップの基本及びスイングの基本 2 第4講 ハーフスイングからのショット 1 第5講 ハーフスイングからのショット 2 第6講 フルスイングショット 1 第7講 フルスイングショット 2 第8講 フルスイングショット 3 第7講 フルスイングショット 4 第8講 フェアウエーウッドショット(能力別) 1 第9講 フェアウエーウッドショット(能力別) 2 第10講 フェアウエーウッドショット(能力別) 3 第11講 ドライバーショット(能力別) 1 第12講 ドライバーショット(能力別) 2 第13講 パター 第14講 まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の 3分の2以上の出席 が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ゴルフスイングの基本となるグリップ・スイングなどを雑誌及びメディアを利用し、理解しておくこと。 自分が行っているスイング動画をチェックする。(プロのスイングと比較など)	
教科書 特に指定しません。	
参考書 PGA基本ゴルフ教本(社)日本プロゴルフ協会(監修) 学研	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。 (2) 平常点100%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診して下さい。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようにすることを目的としている。 受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに活用できるようにする。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。	
授業内容 使用施設：スポーツルームA 第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス） 第2回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー 第3回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける 第4回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践 第5回：シングルス・ゲーム実践（1） 第6回：シングルス・ゲーム実践（2） 第7回：シングルス・ゲーム実践（3） 第8回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践 第9回：ダブルス・ゲーム実践（1） 第10回：ダブルス・ゲーム実践（2） 第11回：ダブルス・ゲーム実践（3） 第12回：様々な形式でのゲーム実践（1） 第13回：様々な形式でのゲーム実践（2） 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習IIは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート（提出状況、内容など）30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 今野 和志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階多目的ホールB（剣道場） 第1講 イントロダクション（授業計画の説明、評価について） 第2講 インラインスケート①（基本姿勢、歩行） 第3講 インラインスケート②（前方への移動、停止、方向転換） 第4講 キンボール①（ルールとマナー、ゲーム） 第5講 キンボール②（リーグ戦） 第6講 ユニホック①（ルールとマナー、ハンドリング） 第7講 ユニホック②（ボール回し、シュート） 第8講 ユニホック③（ゲーム） 第9講 ユニホック④（リーグ戦） 第10講 フライングディスク①（バックハンドスロー、フォアハンドスロー） 第11講 フライングディスク②（オーバーハンドスロー、キャッチング） 第12講 アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム） 第13講 アルティメット②（リーグ戦） 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを準備してください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に十分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようところがけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 齋藤 実	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：多目的ホールB（剣道場） 教材：剣道 第1回：オリエンテーション、剣道の歴史と教育的意義 第2回：剣道の礼法と所作 第3回：剣道の動機付け（新聞紙切り、発声、剣道的ゲーム） 第4回：竹刀操作と実際の打突（素振り、竹刀への打突） 第5回：木刀を用いた稽古法1（剣道基本技稽古法基本1～4） 第6回：木刀を用いた稽古法2（剣道基本技稽古法基本5～9） 第7回：技能評価（剣道基本技稽古法） 第8回：剣道具着用の仕方、剣道具への打ち方と打たせ方、剣道具の片づけ方 第9回：踏み込み足での仕掛け技（剣道基本技稽古法基本1～4） 第10回：踏み込み足での仕掛け技と応じ技（簡単な試合） 第11回：模擬審査（1級レベル、初段レベル） 第12回：試合のやり方と審判のやり方 第13回：技能評価1（試合と審判） 第14回：技能評価2（試合と審判）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 服装の準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。 5. 手ぬぐいの用意をお願いします。 6. 昇級審査、昇段審査（全日本剣道連盟）に参加することができます（希望制）。	
準備学習の内容 授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。	
教科書 特に定めなし。	
参考書 『日本剣道形解説書』、『剣道指導要領』、全日本剣道連盟	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を授業内にて取り上げて講評する。	
成績評価の方法 平常点評価 70%：授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。 授業内評価 30%：実技、筆記（ルール、マナーについて）を実施し、技能、理解度を評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 今野 和志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階多目的ホールB（剣道場） 第1講 インTRODクション（授業計画の説明、評価について） 第2講 インラインスケート①（基本姿勢、歩行） 第3講 インラインスケート②（前方への移動、停止、方向転換） 第4講 キンボール①（ルールとマナー、ゲーム） 第5講 キンボール②（リーグ戦） 第6講 ユニホック①（ルールとマナー、ハンドリング） 第7講 ユニホック②（ボール回し、シュート） 第8講 ユニホック③（ゲーム） 第9講 ユニホック④（リーグ戦） 第10講 フライングディスク①（バックハンドスロー、フォアハンドスロー） 第11講 フライングディスク②（オーバーハンドスロー、キャッチング） 第12講 アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム） 第13講 アルティメット②（リーグ戦） 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを準備してください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に十分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるよう心がけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 西 谷 善 子	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 2020+1東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。 一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。 クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使い方によって様々な可能性が開かれているというような限らない魅力を持っています。 本授業では、クライミングの中のボルダ（ボルダリング）種目を中心に授業を展開し、自分の身体の機能や動き等を学びます。 【到達目標】 クライミングを通して、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。	
授業内容 使用施設：和泉体育館1階クライミングウォール 主に3～5m程の短い壁を登る「ボルダ（ボルダリング）」と呼ばれる種目を中心に行います。 毎回、ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。 第1週：講義1 クライミング概論 第2週：講義2 クライミングの安全対策 第3週：講義3 クライミングに必要な体力 第4-5週：講義4 足の置き方、ホールドの持ち方、ムーブ 第6週：講義5 ルートを読む；オブザベーションの重要性 第7-8週：講義6 課題を作ってみる 第9-10週：講義7 競技クライミング；ボルダ（ボルダリング） 第11週：講義8 長いルートを登ってみる；ルートクライミング 第12-13週：課題を登る 中間テスト（理解度・達成度チェック） 第14週：講義9 体力の比較、まとめ、レポート提出	
履修の注意点 1. 授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。 2. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 初回～3、4週目までは様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。 5. 本務の関係で、何回かの授業を対面からオンラインに切り替える場合があります。	
準備学習の内容 必要に応じて授業中に指示する。	
教科書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。	
参考書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。 興味がある人は『フリークライミングはじめました。：ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミング ボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!』（西谷監修）を読むと、授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、平常点（60%）、理解度・達成度（20%）、レポート（20%）で総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 緒 方 貴 浩	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：剣道場 第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明） 第2回：ボディワーク① 第3回：ボディワーク② 第4回：ショートテニス① 第5回：ショートテニス② 第6回：シットイングバレー① 第7回：シットイングバレー② 第8回：フライングディスク① 第9回：フライングディスク② 第10回：大縄跳び 第11回：スポーツ鬼ごっこ 第12回：ユニホック① 第13回：ユニホック② 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 1. ルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を積極的に活用し、授業の課題に取り組むこと。 2. 運動習慣確立のために日常生活における身体活動量の増加に務めること。	
教科書 教科書は使用しない。	
参考書 必要に応じて資料を配布する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、以下の観点から総合的に評価する。 1. 実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢） 2. 理解点（20%）：ルールおよびマナーの理解（幅広い教養としての知識・理解） 3. 技能達成度（30点）：基礎的技能の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘平	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階プール 第1回 インTRODakション（受講上の留意点など） 第2回 水慣れ、泳力測定 第3回 クロール1（キック・プル） 第4回 クロール2（コンビネーション） 第5回 背泳ぎ1（キック・プル） 第6回 背泳ぎ2（コンビネーション） 第7回 平泳ぎ1（キック・プル） 第8回 平泳ぎ2（コンビネーション） 第9回 バタフライ1（キック・プル） 第10回 バタフライ2（コンビネーション） 第11回 個人メドレー 第12回 スキンダイビング 第13回 水球（パス・ドリブル・シュート） 第14回 水球（ゲーム）、授業のまとめ ※内容は変更になることがあります	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 1. 授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。 2. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に紹介します。	
成績評価の方法 授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 佐藤 伸一郎	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 第1講 秋学期授業のイントロダクション、柔道衣の貸し出し。 第2講 柔道と世界の JUDO 第3講 礼法（自然体、自護体、立礼と座礼） 第4講 基本動作（摺足、継足、八方の崩し、体の捌き方） 第5講 受身（横受身、後受身、前まわり受身） 第6講 振り返り 第7講 投技と固技（1）膝車と袈裟固 第8講 投技と固技（2）体落と横四方固 第9講 投技と固技（3）大腰と上四方固 第10講 投技と固技（4）大内刈と縦四方固 第11講 投技と固技（5）送足払と出足払 第12講 約束練習（1）技を繋げてみる 第13講 約束練習（2）相手の技に対応してみる 第14講 まとめおよび実技試験	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 1. 柔道の大会をyoutube等で見てください。 2. 自重で行うプッシュアップやスクワット、シットアップなどをやっておくと良いと思います。	
教科書 特に指定しません。必要な資料は授業中に配布します。	
参考書 特に指定しません	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は総合的な観点（平常点60%、各自の取り組み姿勢20%、実技試験20%）から評価されます。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 石 渡 貴 之	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：テニスコート 第1回：ガイダンス（授業の目的、内容、注意点の確認等）、テニスの特性、ルール 第2回：グリップと構え、フォア・バックハンドの打ち方、練習 第3回：サーブの打ち方、ショートラリー（フォア・バック）、シングルスゲーム 第4回：サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲーム 第5回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦① 第6回：グループ演習課題打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦② 第7回：グループ課題発表①、ダブルスゲーム説明、練習 第8回：グループ課題発表②、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム① 第9回：グループ課題発表③、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム② 第10回：グループ課題発表④、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム③ 第11回：グループ課題発表⑤、団体戦① 第12回：グループ課題発表⑥、団体戦② 第13回：グループ課題発表⑦、団体戦③ 第14回：まとめ、学期末レポート作成	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-ol Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。	
教科書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
参考書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で直接フィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への参加態度（60%）、技術の習熟度（20%）、グループ課題発表（10%）、学期末レポート（10%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 授業中にガムを噛む、または飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。 4. 受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。 上記の点について、万が一不遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 西 谷 善 子	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 2020+1東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。 一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。 クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使い方によって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。 本授業では、クライミングの中のボルダー（ボルダリング）種目を中心に授業を展開し、自分の身体の機能や動き等を学びます。 【到達目標】 クライミングを通して、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。	
授業内容 使用施設：和泉体育館1階クライミングウォール 主に3～5m程の短い壁を登る「ボルダー（ボルダリング）」と呼ばれる種目を中心に行います。 毎回、ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。 第1週：講義1 クライミング概論 第2週：講義2 クライミングの安全対策 第3週：講義3 クライミングに必要な体力 第4-5週：講義4 足の置き方、ホールドの持ち方、ムーブ 第6週：講義5 ルートを読む：オブザベーションの重要性 第7-8：講義6 課題を作ってみる 第9-10週：講義7 競技クライミング；ボルダー（ボルダリング） 第11週：講義8 長いルートに登ってみる；ルートクライミング 第12-13：課題を登る 中間テスト（理解度・達成度チェック） 第14週：講義9 体力の比較、まとめ、レポート提出	
履修の注意点 1. 授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。 2. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 初回～3、4週目までは様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。 5. 本務の関係で、何回かの授業を対面からオンラインに切り替える場合があります。	
準備学習の内容 必要に応じて授業中に指示する。	
教科書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。	
参考書 特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。 興味がある人は『フリークライミングはじめました。：ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミングボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!』（西谷監修）を読むと、授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、平常点（60%）、理解度・達成度（20%）、レポート（20%）で総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 今野和志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階多目的ホールB（剣道場） 第1講 イントロダクション（授業計画の説明、評価について） 第2講 インラインスケート①（基本姿勢、歩行） 第3講 インラインスケート②（前方への移動、停止、方向転換） 第4講 キンボール①（ルールとマナー、ゲーム） 第5講 キンボール②（リーグ戦） 第6講 ユニホック①（ルールとマナー、ハンドリング） 第7講 ユニホック②（ボール回し、シュート） 第8講 ユニホック③（ゲーム） 第9講 ユニホック④（リーグ戦） 第10講 フライングディスク①（バックハンドスロー、フォアハンドスロー） 第11講 フライングディスク②（オーバーハンドスロー、キャッチング） 第12講 アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム） 第13講 アルティメット②（リーグ戦） 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを準備してください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に十分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるよう心がけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 齋藤実	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：多目的ホールB（剣道場） 教材：剣道 第1回：オリエンテーション、剣道の歴史と教育的意義 第2回：剣道の礼法と所作 第3回：剣道の動機付け（新聞紙切り、発声、剣道的ゲーム） 第4回：竹刀操作と実際の打突（素振り、竹刀への打突） 第5回：木刀を用いた稽古法1（剣道基本技稽古法基本1～4） 第6回：木刀を用いた稽古法2（剣道基本技稽古法基本5～9） 第7回：技能評価（剣道基本技稽古法） 第8回：剣道具着用の仕方、剣道具への打ち方と打たせ方、剣道具の片づけ方 第9回：踏み込み足での仕掛け技（剣道基本技稽古法基本1～4） 第10回：踏み込み足での仕掛け技と応じ技（簡単な試合） 第11回：模擬審査（1級レベル、初段レベル） 第12回：試合のやり方と審判のやり方 第13回：技能評価1（試合と審判） 第14回：技能評価2（試合と審判）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 服装の準備できていない場合は怪我の原因になることがあるため、授業に参加できないことがあります。 5. 手ぬぐいの用意をお願いします。 6. 昇級審査（全日本剣道連盟）に参加することができます（希望制）。	
準備学習の内容 授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料に目を通しておくこと。	
教科書 特に定めません。	
参考書 『日本剣道形解説書』、『剣道指導要領』、全日本剣道連盟	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を授業内にて取り上げて講評する。	
成績評価の方法 平常点評価 70%：授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、到達目標への積極性を評価する。 授業内評価 30%：実技、筆記（ルール、マナーについて）を実施し、技能、理解度を評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 竹 崎 一 真	
授業の概要・到達目標 現在、世界保健機構（WHO）は、「健康」を「単に病気あるいは虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に良好な状態（全人的健康）」として定義している。アメリカの医学者ハルバート・ダンはこの定義をさらに深め、より良い状態するために、自己の身体への気づきを深め、QOL（生活の質）を追求する積極的な健康法である「ウェルネス」を提唱した。本授業では、ダンが提唱する「ウェルネス」を実践的に学ぶことに加えて、身体運動やスポーツの実践に不可欠な「身体多様性」や「他者との共生」についての理解も高めていくことを目標とする。多様性に対する理解の高まりとともに、ユニバーサルデザイン（文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した設計）への取り組みが重要視されている今日、「ウェルネス」にもそうした考え方を導入することが求められている。そのため授業では、自己の身体への気づきを高めることを目的とした身体運動とスポーツの実践だけでなく、身体多様性を学ぶことを目的とした障害者スポーツの実践や、他者との共生についての理解を深めるためのスポーツのルール開発を実践する。	
授業内容 本授業では、いわゆる「競技スポーツ」ではなく、ライフキネティックやバラスポーツ、ニュースポーツなど、誰でも能力に関係なく参加できるスポーツ中心に行く。 <授業場所：SR11> 第1回：イントロダクション 第2回：ライフキネティック① 第3回：ライフキネティック② 第4回：ストレングス&コンディショニング 第5回：ユニホッケー① 第6回：ユニホッケー② 第7回：パターゴルフ 第8回：ドッチビー 第9回：ペタンク／ポッチャ 第10回：ユニホッケー③ 第11回：フットサル 第12回：ブラインドサッカー 第13回：ライフキネティック③ 第14回：まとめ ※授業内容は、状況に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズを使用すること。体調管理を徹底すること。	
準備学習の内容 日常的な運動習慣を身につけましょう。	
教科書 使用しない。	
参考書 使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法 毎授業時に行います。	
成績評価の方法 ・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。 ・授業の取り組み姿勢（60点）、クラスメイトとの関わり方（20点）、期末レポート（20点）から総合評価する。	
その他 4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 今 野 和 志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階多目的ホールB（剣道場） 第1講 イントロダクション（授業計画の説明、評価について） 第2講 インラインスケート①（基本姿勢、歩行） 第3講 インラインスケート②（前方への移動、停止、方向転換） 第4講 キンボール①（ルールとマナー、ゲーム） 第5講 キンボール②（リーグ戦） 第6講 ユニホック①（ルールとマナー、ハンドリング） 第7講 ユニホック②（ボール回し、シュート） 第8講 ユニホック③（ゲーム） 第9講 ユニホック④（リーグ戦） 第10講 フライングディスク①（バックハンドスロー、フォアハンドスロー） 第11講 フライングディスク②（オーバーハンドスロー、キャッチング） 第12講 アルティメット①（ルールとマナー、ゲーム） 第13講 アルティメット②（リーグ戦） 第14講 講義のまとめ *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを準備してください。	
準備学習の内容 事故や怪我を予防するため、前日に十分な睡眠をとり、体調を整えて授業に参加できるようところがけてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組みと姿勢（60%）、協調性・コミュニケーション能力（20%）、授業への貢献度（20%）から総合的に評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 成瀬和弥	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：プール 第1回：オリエンテーション 第2回：水慣れ 第3回：アクアエクササイズ 第4回：スキングダイビング 第5回：クロール 第6回：クロール 第7回：平泳ぎ 第8回：平泳ぎ 第9回：水球 ルールと歴史 第10回：水球 パス 第11回：水球 シュート 第12回：水球 ゲーム 第13回：水球 ゲーム 第14回：水球 ゲーム	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください	
準備学習の内容 クロール、平泳ぎの技術について調べる。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 水泳体幹トレーニング 小泉圭介 マイナビ 2014年	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 技能40%、知識・理解60%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 成瀬和弥	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：プール 第1回：オリエンテーション 第2回：水慣れ 第3回：アクアエクササイズ 第4回：スキングダイビング 第5回：クロール 第6回：クロール 第7回：平泳ぎ 第8回：平泳ぎ 第9回：水球 ルールと歴史 第10回：水球 パス 第11回：水球 シュート 第12回：水球 ゲーム 第13回：水球 ゲーム 第14回：水球 ゲーム	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください	
準備学習の内容 クロール、平泳ぎの技術について調べる。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 水泳体幹トレーニング 小泉圭介 マイナビ 2014年	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 技能40%、知識・理解60%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
教授 後藤光将	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館 2階スポーツルームA（卓球場） 第1講 オリエンテーション、基本的知識の習得（ルールの理解など） 第2講 ラリーの実践（フォア・バック） 第3講 サーブ・レシーブ、ミニゲーム 第4講 スマッシュ、ミニゲーム 第5講 ダブルスゲームの基本戦術 第6講 ダブルスゲームの応用戦術 第7講 ダブルスゲームの実践 第8講 シングルスゲームの実践 第9講 ダブルスチャンピオンゲーム（1） 第10講 ダブルスチャンピオンゲーム（2） 第11講 ダブルスチャンピオンゲーム（3） 第12講 ダブルスチャンピオンゲーム（4） 第13講 ダブルスチャンピオンゲーム（5） 第14講 ダブルスチャンピオンゲーム（6）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 卓球のルールやマナーについて事前に調べてください。健康に関する情報収集を常に心懸けて下さい。	
教科書 特に指定はしません。必要な資料は授業中に配布します。	
参考書 特に指定はしません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組み姿勢（40%）、出席（30%）、期末レポート（30%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 石渡貴之	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：テニスコート 第1回：ガイダンス（授業の目的、内容、注意点の確認等）、テニスの特性、ルール 第2回：グリップと構え、フォア・バックハンドの打ち方、練習 第3回：サーブの打ち方、ショートラリー（フォア・バック）、シングルスゲーム 第4回：サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲーム 第5回：グループ演習課題説明、グループ分け、打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦① 第6回：グループ演習課題打合せ、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、シングルスゲームレベル別対戦② 第7回：グループ課題発表①、ダブルスゲーム説明、練習 第8回：グループ課題発表②、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム① 第9回：グループ課題発表③、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム② 第10回：グループ課題発表④、サーブ、ストローク（フォア・バック）練習、ダブルスゲーム③ 第11回：グループ課題発表⑤、団体戦① 第12回：グループ課題発表⑥、団体戦② 第13回：グループ課題発表⑦、団体戦③ 第14回：まとめ、学期末レポート作成	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 準備学習の指示は、履修登録完了後にOh-ol Meiji上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。	
教科書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
参考書 特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で直接フィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への参加態度（60%）、技術の習熟度（20%）、グループ課題発表（10%）、学期末レポート（10%）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 授業中にガムを噛む、または飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。 4. 受講中にスマートフォン等を身につけること、およびメール・通話等の操作は厳禁とする。 上記の点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 杉 山 仁 志	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 第1講 ガイダンス(ゴルフ練習場) 第2講 グリップの基本及びスイングの基本 1 第3講 グリップの基本及びスイングの基本 2 第4講 ハーフスイングからのショット 1 第5講 ハーフスイングからのショット 2 第6講 フルスイングショット 1 第7講 フルスイングショット 2 第8講 フルスイングショット 3 第9講 フルスイングショット 4 第10講 フェアウエーウッドショット(能力別) 1 第11講 フェアウエーウッドショット(能力別) 2 第12講 フェアウエーウッドショット(能力別) 3 第13講 ドライバーショット(能力別) 1 第14講 ドライバーショット(能力別) 2 第15講 パター 第16講 まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ゴルフスイングの基本となるグリップ・スイングなどを雑誌及びメディアを利用し、理解しておくこと。 自分が行っているスイング動画をチェックする。(プロのスイングと比較など)	
教科書 特に指定しません。	
参考書 PGA基本ゴルフ教本(社)日本プロゴルフ協会(監修)学研	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 授業への取組状況及び積極性を重視し評価する。 (2) 平常点100%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、については担当教員の指示に従って下さい。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診して下さい。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 水 口 潔	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 授業は、体育館にて行う。技術および体力別にグループに分かれて活動することから、自主的な練習への取り組みが強く求められる。主にバドミントンの基本技術の習得と、基礎的なルール・マナー等を学ぶことによって、バドミントンへの理解を深める。室内専用シューズを準備すること。 【授業の到達目標】 それぞれの技術レベルに応じて、バドミントンのゲームを楽しむことのできる技術を取得し、バドミントンを通して、スポーツの魅力と楽しさを実感する。	
授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：基本技術の練習(フォアハンドストローク) 第3回：基本技術の練習(バックハンドストローク) 第4回：基本技術の練習(ヘヤピン) 第5回：基本技術の練習(スマッシュ) 第6回：サーブ&レシーブ 第7回：基本的なルール・マナー・審判法およびバドミントンの歴史(入門編) 第8回：ゲームにおける基本的戦術 第9回：ゲーム形式の練習(ダブルス中心、攻撃の際の動き方) 第10回：ゲーム形式の練習(ダブルス中心、守りの際の動き方) 第11回：リーグ戦(ダブルス)1回戦 第12回：リーグ戦(ダブルス)2回戦 第13回：チーム対抗戦1回戦 第14回：チーム対抗戦2回戦 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 履修開始の第1週目(授業の開講時限)は、インフォメーションボードで指定された教室に集合してください。通常授業に関しては、以下の点に留意してください。これが準備学習となります。 (1) 心身のコンディションを整えて出席してください。 (2) スポーツ活動にふさわしいシューズやウェアを着用してください。 (3) 授業の進行および安全管理の観点から、遅刻は厳禁とします。雨天時の対応などは実技に関する指示は、体育館の入り口にあるインフォメーションボードに掲載されていますので、授業前に必ず目を通してください。	
準備学習の内容 ネット上の動画なども含め、興味のある映像などを見ておくこと。	
教科書 特に定めない。	
参考書 特に定めない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 単位の取得には、開講日数の2/3以上の出席が必要です。2/3以上出席した者について、以下のような比率により総合的に評価します。 (a)平常点:40% (b)理解力・コミュニケーション能力:40% (c)技能・体力:20% & 実技能力や向上度、ルールの理解度などを見るために試験を実施し、レポートの提出を求めます。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 針ヶ谷 雅子	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、運動学演習I-1で学んだ知識や経験を活かし、実際にスポーツを体験・習得しながら、スポーツの魅力や身体を動かすことの楽しさを十分に味わい、生涯にわたる運動習慣の基盤とすることです。また、友人と協力したり、助言し合ったりしながら互いに成長することも有意義な体験です。さらに、自ら工夫して技術を身につけたり、練習に没頭するような経験から、自己を理解し、意欲が湧き、生き生きとした大学生活につなげることも目指します。	
授業内容 使用施設：テニス場 第1回：ガイダンス 第2回：ストレッチと体力チェック 第3回：ラケットの持ち方・ボールを使った基礎練習 第4回：ストロークの打ち方（フォア・バック） 第5回：ラリーの練習・ミニゲーム 第6回：サービスの基礎・ミニゲーム 第7回：ボレーの基礎・ミニゲーム 第8回：ダブルスのルール・ダブルスのミニゲーム 第9回：ダブルス① 第10回：ダブルス② 第11回：ダブルス③ 第12回：シングルス① 第13回：シングルス② 第14回：まとめ・ふりかえり	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 睡眠や食事をきちんととり、元気なからだで参加してください。	
準備学習の内容 学びを深めるため、また、生涯スポーツとして活用するため、授業で触れた教材について、書籍やインターネットを活用して補習・復習することを推奨します。	
教科書 教科書は使用しません。	
参考書 (1) これでダブルスに勝てる一知的テニスのすすめー (Bob Harman & Keith Monroe著/勝田茂 訳、アイオーエム)	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 平常点 (参加、意欲、取り組み、積極性、協調性など) 60% (2) 達成度 (種目・教材の特性をどの程度理解しているか) 30% (3) 学期末レポート (授業で学んだことを整理してまとめる) 10%	
その他 1. 各種目に適切な服装については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
教授 後藤 光将	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 場所：多目的ホールC (柔道場) 第1回：イントロダクション 第2回：コラボレーティブゲーム 1 第3回：コラボレーティブゲーム 2 第4回：ボールジャグリングの基礎 1 (1ボールから3ボールカスケード) 第5回：ボールジャグリングの基礎 2 (安定した3ボールカスケード) 第6回：ボールジャグリングの応用 (オーバーザトップ、ワンアップ・ツーアップ) 第7回：ウォーキングラリー 第8回：ポッチャの基礎 (持ち方、投げ方、ルール) 第9回：ポッチャのゲーム 1 第10回：ポッチャのゲーム 2 第11回：シッティングバレーボール 1 第12回：シッティングバレーボール 2 第13回：シッティングバレーボール 3 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 赤い靴ひもの室内用運動靴を用意してください。	
準備学習の内容 様々なニュースポーツ、パラスポーツに取り組みますので各種文献やウェブサイトなどでルールなどをあらかじめ予習しておいてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組み姿勢 (40%)、出席 (30%)、期末レポート (30%)	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
兼任講師 高 梨 美 奈	
授業の概要・到達目標 実施種目：スポーツクライミング 授業概要： クライミングは、これまで経験したことのない人、運動が得意な人もそうでない人でも、自分のペースで取り組めるスポーツです。クライミングを通して、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。本授業では、クライミングの中の「ボルダリング」「ロープクライミング」を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体への理解を深めます。講義やリフレクションを15分ほど導入し、自分で目標を立ててチャレンジすること、また他者を観察し他者から学ぶこと、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じ得るよう、グループワークも取り入れていきます。 到達目標： ・クライミングの基本技術について理解し説明できる。 ・ロープクライミングの技術を習得し、安全に行うことができる。 ・ボルダリングの課題を作ることができる。 ・ルートを正確に読むことができる。 ・事故や怪我を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。 ・スポーツを通じて仲間と協力や励まし合いコミュニケーションを活発にすることができる。 ・生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心を高めることができる。 ・感情や自らの言動を客観的に振り返ることで、自分自身と向き合い、自己分析力を高めることができる	
授業内容 使用施設：クライミングウォール 第1回：オリエンテーション（授業の概要に関する説明、カード記入） 第2回：クライミングの概要、安全対策 第3回：コンディショニング（筋トレ、ストレッチ）、ボルダリングとロープクライミング 第4回：グループワーク、フットワーク（足の置き方） 第5回：グループワーク、ホールドの持ち方、体の動かし方（ムーブ） 第6回：グループワーク、ルートを読む（オフザベーション） 第7回：グループワーク、オリジナル課題を作る 第8回：グループワーク、ロープクライミング（安全システムを学ぶ）/ボルダリング 第9回：グループワーク、ロープクライミング（ビレイを学ぶ）/ボルダリング 第10回：グループワーク、ロープクライミング（チームビレイ）/ボルダリング 第11回：目標設定、自分の目標を決めて登る 第12回：グループワーク、課題を作る 第13回：コンペティション、コンペティション 第14回：まとめ、レポート提出 クラスメイトとのコミュニケーションを重視し、グループによる活動を行います。状況により、場所を変更する日があるかもしれません。必ず掲示を確認するようにしてください。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の 3分の2以上 の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。 5. 薄手の靴下を持参して下さい。	
準備学習の内容 (予習) スポーツクライミングに関するルールおよびリスク・安全管理について理解する。 授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。 (復習) 授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。 授業後はリフレクションシートを記入すること。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。授業で資料を配布することがあります。 おすすめ 「完全図解スポーツクライミング教本」 東秀磯 著、山と溪谷社	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを利用します。 質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。	
成績評価の方法 1. 授業参加度や積極性 (70%) ①授業に臨む姿勢、②授業に対する貢献度、③他者に働きかけて自ら動く・発言する態度、④他者を受容・尊重する態度などを総合的に評価します。 2. 目標達成度 (10%) 毎回のリフレクションシートへの記入を参考に、各自の目標の達成度を評価します 3. レポート (20%) 授業を振り返り、最終日にレポートを提出する	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
教授 高 峰 修	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設 ：メインホール 実施種目 ：なわとび、バレーボール、キンボール 第1講 バレーボール(1)～基本的なスキルとルール確認 第2講 バレーボール(2)～レシーブとトス 第3講 バレーボール(3)～スリータッチによるゲーム 第4講 バレーボール(4)～スリータッチによるゲーム 第5講 シットイングバレーボール～体験 第6講 キンボール(1)～ゲーム作りその1 第7講 キンボール(2)～ゲーム作りその2 第8講 キンボール(3)～ゲーム作りその3 第9講 キンボール(4)～正規のルールでのゲームと戦略・戦術 第10講 なわとび(長なわ) コンビネーション(1) 第11講 なわとび(短なわ) コンビネーション(2) 第12講 なわとびコンビネーション(3) 第13講 なわとびパフォーマンス 第14講 まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の 3分の2以上 の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 半期に数回、個人やグループ単位で課題を出します。それらの課題については授業時間外で取り組むことになります。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業中に行います。	
成績評価の方法 単位修得にあたっては、授業実施回数の 3分の2以上 の出席が必要となります。またレポート課題を数回出します。成績は以下の点から評価します： 1) 授業への参加度 (60%) 2) グループ活動への貢献度 (20%) 3) 課題評価 (20%)	
その他 1. 適切な服装や靴についてはガイダンスにて説明します。 2. 種目によってはメガネの着用を禁止します。 3. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようにすることを目的としている。 受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに応用できるようになる。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。	
授業内容 使用施設：スポーツルームA 第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス） 第2回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー 第3回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける 第4回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践 第5回：シングルス・ゲーム実践（1） 第6回：シングルス・ゲーム実践（2） 第7回：シングルス・ゲーム実践（3） 第8回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践 第9回：ダブルス・ゲーム実践（1） 第10回：ダブルス・ゲーム実践（2） 第11回：ダブルス・ゲーム実践（3） 第12回：様々な形式でのゲーム実践（1） 第13回：様々な形式でのゲーム実践（2） 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習IIは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート（提出状況、内容など）30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、卓球という教材を通して人間形成や心身に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、有効に実践できる知識を習得することである。また、卓球を通して個人のスキルを高め、ルールを理解しながらシングルス、ダブルスのゲームが安全に楽しくできるようにすることを目的としている。 受講生は、ボールに対する回転のかけ方、その応じ方を理解し、ゲームに応用できるようになる。また卓球を通じて相互のコミュニケーションが図れるようになり、交流を深めることができる。	
授業内容 使用施設：スポーツルームA 第1回：aのみ：イントロダクション（授業実施上のガイダンス） 第2回：ラケットの種類と特性の説明、フォア・バックハンド練習、ラリー 第3回：ラリー、サーブ練習、ボールへ回転をかける 第4回：シングルス・ルールの理解、ゲーム実践 第5回：シングルス・ゲーム実践（1） 第6回：シングルス・ゲーム実践（2） 第7回：シングルス・ゲーム実践（3） 第8回：ダブルス・ルールの理解、ゲーム実践 第9回：ダブルス・ゲーム実践（1） 第10回：ダブルス・ゲーム実践（2） 第11回：ダブルス・ゲーム実践（3） 第12回：様々な形式でのゲーム実践（1） 第13回：様々な形式でのゲーム実践（2） 第14回：まとめと振り返り	
履修の注意点 1. 運動学演習IIは1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており半期で評価される。また実技ばかりではなく実技に関連した講義も含まれている。 2. 運動学演習Iの授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 運動学演習Iの単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業の出欠確認時に本人がいない場合は、原則として「欠席」扱いとする。また、原則として早退は認めない。 5. 運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出ること。 6. 4月に実施される健康診断を必ず受診すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、卓球についての様々な情報をインターネットや図書を利用して積み重ねること。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート（提出状況、内容など）30%	
その他 1. 受講中に「ガムを噛む」、また必要な水分補給を除く「飲食行為」は厳禁とする。 2. 運動に適した服装（高校時の体育授業前に着替えた運動着を想定。ジーパン、チノパン、ワイシャツ、ブラウス等、伸縮性が低い着衣での受講不可）、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを「身につける」こと、および「メール・通話等の操作」は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2 (特定 スポーツ)	1 単位
	1 年次
教授 春日井 淳 夫	
授業の概要・到達目標 本授業の目的は、スポーツ特別入試で入学した体育会所属の学生を対象に、高い競技レベルで活躍するために身につけておくべき応用的知識について、実技と講義を通じて学ぶことである。基本的な授業内容は春学期に準じているが、学生アスリートとして自立するために必要な知識とそのための習慣について、自身の競技種目により特化した内容とする。受講生が、競技力を高めるためのために必要な知識とそのための習慣を、この授業を通して身につけ、適切に実践できるようにすることを到達目標とする。	
授業内容 使用施設：フィットネスルーム 第1回：ガイダンス（秋学期授業スケジュールの確認等）、形態計測（体組成、周径圍） 第2回：体力測定（筋力、筋持久力、柔軟性、平衡性、全身持久力） 第3回：体力測定（全身持久力、敏捷性） 第4回：体力測定（無酸素パワーテスト、脚伸展パワー） 第5回：体力測定（垂直跳、全力ペダリングピークパワー） 第6回：コンディショニング②/ビーキングとテーパリング（講義） 第7回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング 第8回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング 第9回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング 第10回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング 第11回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング 第12回：各自のトレーニング実践、体幹筋力測定、個人カウンセリング 第13回：アンチドーピング（講義）、レポート課題提示 第14回：まとめ（レポートの提出・回収）	
履修の注意点 1. 本授業は1年次必修科目である。週1回で14回の開講が予定されており、半期で評価される。 2. 本授業は、時間割に指定された曜日・時限で行う。 3. 本授業の単位評価には、最低でも授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。 4. 授業に遅れてきた場合、20分以内であれば遅刻と認め、遅刻2回で欠席1回と換算する。また、原則として早退は認めない。 5. 大会出場、強化合宿、遠征等で授業を欠席する場合は、学部指定の「欠席届」を必ず提出すること。提出がない場合は、通常の欠席として取り扱う。 6. 授業中に出された課題・レポート等は必ず行い、提出を求められた場合は必ず提出すること。 7. 授業への出席に関する相談（特にスキー、スケート等の冬季種目）は、担当教員と連絡を密にして対応すること。	
準備学習の内容 実技（身体運動）が中心となるため、普段からの自己管理（食事・睡眠等）を心がけ、授業参加に支障が出ないようにすること。また、授業に取り組むだけでなく、自身の競技力向上に必要と思われる様々なトレーニング方法についてインターネットや図書を利用した知識の積み重ねを行うこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績評価は以下の通り行う。 1. 平常点（授業への取り組み状況、積極性、理解度、ルールの遵守など）70% 2. レポート・課題（提出状況、内容など）30%	
その他 1. 受講中にガムを噛む、また飲食行為（必要な水分補給を除く）は厳禁とする。 2. 運動に適した服装、体育館シューズ（外靴以外）、外靴を入れて保管する袋（シューズ袋）を準備すること。 3. 受講中にスマートフォンを身につけること、および使用は厳禁とする。 4. 授業を無断で早退すること、代返は厳禁とする。代返の場合、依頼者と実行者の両者をルール違反として扱う。 5. 上記4点について、万が一遵守できない場合は、単位の認定をしない。	

科目ナンバー：(PE) HES193J	
運動学演習 I - 2 (特定 スポーツ)	1 単位
	1 年次
講師 武田 紘 平	
授業の概要・到達目標 この授業の目標は、健康を維持・増進するためになぜ運動が必要なのか、運動を行うと身体がどのように変化するのかを自然科学的に理解することです。この目標を達成するために、自然科学的かつ専門的な内容となることを十分理解して受講して下さい。また、本授業で身につけた知見を活用して生涯にわたり、日常的な運動を実践することが望まれます。 授業の概要として、体力、栄養、運動器、加齢、生活習慣病、スポーツ医学、スポーツ科学、トレーニングなどの内容が主になります。	
授業内容 第1回 インTRODクッション、健康について（授業の内容、評価方法についての説明） 第2回 健康に関連する体力-1 第3回 健康に関連する体力-2 第4回 カロリー 第5回 栄養 第6回 運動器-1 第7回 運動器-2 第8回 トレーニング理論と実践 第9回 心肺蘇生法・スポーツ医学 第10回 生活習慣病-1 第11回 生活習慣病-2 第12回 加齢による身体の変化と運動の効果 第13回 メンタルヘルスと健康 第14回 運動習慣の形成 ※講義内容が変更になることがあります	
履修の注意点 ・体育会の学生など、練習・試合などの欠席は基本的には考慮しません。 ・スライドを用いた講義をおこないます。 ・自然科学的な内容を多く含み、それに関わる専門用語も使用します。 ・健康科学だけでなく、スポーツ科学の内容も含まれます。	
準備学習の内容 授業内容に関する書籍、文献を積極的に読むことを推奨します。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 『栄養としての身体運動・健康科学』（東京大学身体運動研究室編）東京大学出版会 『乳酸と運動生理・生化学』（八田秀雄著）市村出版 『健康づくりのための運動の科学』（鶴木秀夫編）化学同人	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時冒頭で概説します。	
成績評価の方法 期末試験（70%）と授業への参加度・取り組み（30%）で総合的に判断します。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 実施種目：クライミング クライミングとはとっ手（ホールド）のついた人口壁を縦に横に移動し、自分の課題ルートのクリアを目指す身体活動です。腕力が必要のように思うかもしれませんが、むしろバランス力が求められ、男女を問わず様々な体格や体力レベル、運動経験をもつ学生が各自で決めた課題ルートに取り組むことができます。 この授業の前半では高さ4mほどの人口壁を補助具を付けずに登るボルダリングを、後半はハーネスとロープを使い約10mの壁を登るロープクライミングを実践します。 クライミングは基本的には個人の活動ですが、ロープクライミングでは登っている人のロープを確保する活動が加わります。そうしたことから毎回の授業ではグループを作り、グループメンバーのコミュニケーションを通じて各自の知識をより確かなものにし、スキルの向上を目指します。競争原理に基づくスポーツとは違った協同原理の身体活動を体験してください。	
授業内容 使用施設：クライミングウォール 第1回：イントロダクション～クライミングのルールと安全管理、設備と用具について 第2回：ホールドの持ち方、足の使い方、オブザベーション【ボルダリング】 第3回：三点支持と正対ムーブ 第4回：二点支持とダイアゴナル 第5回：多様なムーブ 第6回：フラッキング 第7回：各自の課題練習、ロープクライミングの基本技術【ロープクライミング】 第8～9回：ロープクライミング1回目 第10～11回：ロープクライミング2回目、パディによるビレイ練習 第12～13回：ロープクライミング3回目、パディによるビレイ 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 定員を超えた場合は抽選を行います。詳細については4月のガイダンスにて説明します。 2. 単位修得のためには、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 実技と講義の内容に関するレポート課題を出します。 4. 服装やメガネの着用については教員の指示に従うこと。	
準備学習の内容 常にクライミングの情報を集めるよう心がけましょう。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業中に行います。	
成績評価の方法 単位修得のためには、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。また実技と講義の内容にかかわるレポート課題を出します。成績は以下の点から評価します： 1) 各自の課題への取り組み（50%） 2) グループワークへの参加度（20%） 3) クライミングスキル評価（20%） 4) レポート評価（10%）	
その他 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診しておくこと。クライミングに必要なシューズはレンタル用を用意してあります。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 佐古 隆之	
授業の概要・到達目標 <授業概要> 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 実施種目：バドミントン <到達目標> ハイクリア、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピンなどの基本的技術を習得するための練習に加えて、ゲームを数多く行うことで、バドミントンに必要な「動く」「打つ」「読む」能力の向上を目指します。	
授業内容 使用施設：サブホール 第1講：春学期授業のイントロダクション 第2講：グリップについての説明、ストローク練習（1）ハイクリア 第3講：ストローク練習（2）ドライブ、ドロップ 第4講：ストローク練習（3）スマッシュ、ヘアピン 以降、毎授業の前半30分は各種ストローク練習を行う。 第5講：シングルスゲームの実践（1）ハーフコート 第6講：シングルスゲームの実践（2）ハーフコート（レベル分け） 第7講：シングルスゲームの実践（3）ハーフコート（レベル別） 第8講：シングルスゲームの実践（4）オールコート（レベル別） 第9講：ダブルスゲームの実践（1） 第10講：ダブルスゲームの実践（2） 第11講：ダブルスゲームの実践（3） 第12講：団体戦のためのチーム作り 第13講：団体戦の実践（1） 第14講：団体戦の実践（2）	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。	
準備学習の内容 授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 平常点60%…授業への取り組み状況、積極性 (2) 実技内容の習得度20% (3) 授業への貢献度20%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 佐 古 隆 之	
授業の概要・到達目標 <授業概要> 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 実施種目：バドミントン <到達目標> ハイクリア、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピンなどの基本的技術を習得するための練習に加えて、ゲームを数多く行うことで、バドミントンに必要な「動く」「打つ」「読む」能力の向上を目指します。	
授業内容 使用施設：サブホール 第1講：春学期授業のイントロダクション 第2講：グリップについての説明、ストローク練習（1）ハイクリア 第3講：ストローク練習（2）ドライブ、ドロップ 第4講：ストローク練習（3）スマッシュ、ヘアピン以降、毎授業の前半30分は各種ストローク練習を行う。 第5講：シングルスゲームの実践（1）ハーフコート 第6講：シングルスゲームの実践（2）ハーフコート（レベル分け） 第7講：シングルスゲームの実践（3）ハーフコート（レベル別） 第8講：シングルスゲームの実践（4）オールコート（レベル別） 第9講：ダブルスゲームの実践（1） 第10講：ダブルスゲームの実践（2） 第11講：ダブルスゲームの実践（3） 第12講：団体戦のためのチーム作り 第13講：団体戦の実践（1） 第14講：団体戦の実践（2）	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。	
準備学習の内容 授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 平常点60%…授業への取り組み状況、積極性 (2) 実技内容の習得度20% (3) 授業への貢献度20%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 一 川 大 輔	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフゲージ 第1回 オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、パッティング基礎 第2回 パッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解 第3回 アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎 第4回 アプローチショットでのバックスイングからインパクト、バター（バックスイングなし型） 第5回 アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、バター（インパクト型） 第6回 アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、バター（フォロースルー型） 第7回 ショットクロック練習（7時から5時）、バターゲーム 第8回 ショットクロック練習（9時から3時）、バターゲーム 第9回 ショットクロック練習（11時から1時）、バターゲーム 第10回 打ち出し角度を変えるためのショット練習、センサーでのショットデータの確認 第11回 各種クラブ（ウッド等）でのショット練習、センサーでのショットデータの確認 第12回 各種クラブ（アイアン、ウッド等）でのショット練習、センサーでのショットデータの確認 第13回 実際のラウンドを想定した模擬ショット練習 第14回 まとめ：授業内容の総括	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。	
教科書 特になし	
参考書 PGA 基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会） 2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 *授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。 平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 板橋クリストファーマリオ	
授業の概要・到達目標 実施種目：硬式テニス（上級） 本授業では、テニス経験者を対象に戦略的なダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。 短期到達目標としては、各種トーナメントに出場してより高い成績を挙げられること、長期到達目標としては、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。	
授業内容 場所：和泉キャンパス テニスコート 第1講 イントロダクション（テニスの技術と戦術・歴史） 第2講 グラウンドストロークの基本（ミス減らす） 第3講 グラウンドストロークの左右への打ち分け 第4講 回転をかけるサービス（スライス・トップスピン） 第5講 サービスリターン 第6講 ボレーの基本（ミス減らす） 第7講 ダブルス雁行陣の戦術（ボーチ・フェイント） 第8講 ダブルス雁行陣の戦術（ロブ・スマッシュ） 第9講 ダブルス前平行陣の戦術（ポジショニング） 第10講 ダブルス前平行陣の戦術（縦ボーチ） 第11講 グラウンドストロークの応用（スライス・ドロップショット） 第12講 シングルの戦術とシングルス大会 第13講 ダブルスの戦術とダブルス大会 第14講 団体戦 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 本授業は技術的にも体力的にも高度なメニューを行います。現在テニスサークルなどで定期的にテニス活動を行っており、テニス技術向上のために日々努力している学生を対象とします。初心者単位は単位の取得が困難になるため履修の際は注意してください。	
準備学習の内容 次回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。 また、授業後についても動画を視聴して復習してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqQaN0cVDwsJVwVgViYuw	
教科書 特に指定しません。	
参考書 以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqQaN0cVDwsJVwVgViYuw	
課題に対するフィードバックの方法 直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。	
成績評価の方法 授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。	
その他 1. 雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 堀川浩之	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 到達目標 1. バドミントンの競技特性について概略できる 2. バドミントン競技規則について説明できる 3. ルールやマナーを遵守したスポーツ活動を実践できる 4. 基本技能を身に付けスポーツ活動に積極的に参加することができる 5. 練習や試合を通じて仲間と協調性や公平性を保つことができる	
授業内容 使用施設：サブホール 第1講 a：本授業の進め方、参加方法、評価方法等について説明を受ける b：羽根（シャトル）を使った動きの練習を行う。グリップの説明を受け、前腕の回内動作習得のための直上ショットの練習を行う。 第2講 前腕の回内動作習得のための直上ショット、フォアハンド・バックハンドショットの練習を行う。 第3講 スマッシュについて練習し、簡易ゲームを行う。 第4講 クリアについて練習し、簡易ゲームを行う。 第5講 ドロップについて練習し、簡易ゲームを行う。小テスト（競技規則13条～16条）を受ける。 第6講 ドライブについて練習し、簡易ゲームを行う。 第7講 ヘヤビンについて練習し、簡易ゲームを行う。 第8講 サーブ、ゲーム進行に関する説明を受け、簡易ゲームを行う。 第9講 4人ゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。 第10講 3人ゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。小テスト（競技規則6条～12条）を受ける。 第11講 ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。 第12講 ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。 第13講 ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。 第14講 ダブルスゲームに参加するとともに、仲間と協力して審判を担当する。小テスト（競技規則1条～5条）を受ける。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位取得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 <予習>小テストは、フォルトやレット、ダブルスのゲームの進め方など基本的な事項について競技規則から出題されます。授業内でも説明していきますが、競技規則に目を通しておいてください。 <復習>バドミントンの試合がテレビなどで放映された場合は、積極的に視聴し授業内で実施した技能が試合でどのように活かされているかを確認してください。	
教科書 なし	
参考書 バドミントン競技規則（日本バドミントン協会） (https://www.badminton.or.jp/rule/docs/rule_20200617.pdf)	
課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは翌週に全体に対しておこないます。	
成績評価の方法 平常点 50%（授業への取り組みの積極性、他の学生との協調性等） 実技点 20% 小テスト 30%（バドミントン競技規則に関するもの、授業内に15分程度で3回実施）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 板橋クリストファーマリオ	
授業の概要・到達目標 実施種目：硬式テニス（初級） 本授業では、テニス未経験者、初級者を対象に基本的なシングルス、ダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。また、長期到達目標として、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。	
授業内容 場所：和泉キャンパス テニスコート 第1講 イントロダクション（テニスとは） 第2講 硬式テニスボールに慣れる、グラウンドストロークの基本（ラリーが5往復できるようになる） 第3講 グラウンドストロークの復習、シングルスポイントゲーム 第4講 サービス、シングルスゲーム 第5講 シングルス大会 第6講 ボレーの基本とダブルス雁行陣（デュースサイド） 第7講 ボレーの基本とダブルス雁行陣（アドバンテージサイド） 第8講 サービスの復習、ダブルスゲーム（デュースサイド） 第9講 サービスの復習、ダブルスゲーム（アドバンテージサイド） 第10講 ダブルス大会 第11講 グラウンドストロークの応用（トップスピン） 第12講 グラウンドストロークの応用（スライス） 第13講 スマッシュ 第14講 団体戦 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。	
準備学習の内容 次回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。また、授業後についても動画を視聴して復習してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqAN0cVDwsJVwVgViYuw	
教科書 特に指定しません。	
参考書 以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqAN0cVDwsJVwVgViYuw	
課題に対するフィードバックの方法 直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。	
成績評価の方法 授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。	
その他 1. 雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 実施種目：クライミング クライミングとはとっ手（ホールド）のついた人口壁を縦に横に移動し、自分の課題ルートのクリアを目指す身体活動です。腕力が必要のように思いますが、むしろバランス力が求められ、男女を問わず様々な体格や体力レベル、運動経験をもつ学生が各自で決めた課題ルートに取り組むことができます。 この授業の前半では高さ4mほどの人口壁を補助具を付けずに登るボルダリングを、後半はハーネスとロープを使い約10mの壁を登るロープクライミングを実践します。 クライミングは基本的には個人の活動ですが、ロープクライミングでは登っている人のロープを確保する活動が加わります。そうしたことから毎回の授業ではグループを作り、グループメンバーのコミュニケーションを通じて各自の知識をより確かなものにし、スキルの向上を目指します。競争原理に基づくスポーツとは違った協同原理の身体活動を体験してください。	
授業内容 使用施設：クライミングウォール 第1回：イントロダクション～クライミングのルールと安全管理、設備と用具について 第2回：ホールドの持ち方、足の使い方、オブザベーション【ボルダリング】 第3回：三点支持と正対ムーブ 第4回：二点支持とダイアゴナル 第5回：多様なムーブ 第6回：フラッキング 第7回：各自の課題練習、ロープクライミングの基本技術【ロープクライミング】 第8～9回：ロープクライミング1回目 第10～11回：ロープクライミング2回目、パディによるビレイ練習 第12～13回：ロープクライミング3回目、パディによるビレイ 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 定員を超えた場合は抽選を行います。詳細については4月のガイダンスにて説明します。 2. 単位修得のためには、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 実技と講義の内容に関するレポート課題を出します。 4. 服装やメガネの着用については教員の指示に従うこと。	
準備学習の内容 常にクライミングの情報を集めるよう心がけましょう。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業中に行います。	
成績評価の方法 単位修得のためには、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。また実技と講義の内容にかかわるレポート課題を出します。成績は以下の点から評価します： 1) 各自の課題への取り組み（50%） 2) グループワークへの参加度（20%） 3) クライミングスキル（20%） 4) レポート評価（10%）	
その他 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診しておくこと。クライミング用のシューズはレンタル用を用意してあります。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
講師 武田 紘平	
授業の概要・到達目標 実施種目：アクアスポーツ 自身の健康管理や体力向上のために、継続して運動することは強く推奨されています。この観点から水泳は個人の体力や技術レベルを問わず取り組むことができる種目であることから、「生涯スポーツ」として最適な運動です。本授業では個人の泳力や目的に合わせて授業を展開し、生涯にわたり水泳に親しみ、取り組むことを目標とします。したがって、泳ぎの得意・不得意は関係ありません。 本授業では近代4泳法を中心に学ぶことで「楽に、綺麗に、速く泳ぐ」ことを目指します。また、スタートやターンなどの泳ぎ以外のテクニックについても学び、自身の記録更新に繋がります。また、スキンダイビングや水球に触れることで水中でのアクティビティの楽しさについても学習します。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館1階プール 第1回 イントロダクション（受講上の留意点など） 第2回 水慣れ、泳力測定 第3回 クロール1（キック・プル） 第4回 クロール2（コンビネーション） 第5回 背泳ぎ1（キック・プル） 第6回 背泳ぎ2（コンビネーション） 第7回 平泳ぎ1（キック・プル） 第8回 平泳ぎ2（コンビネーション） 第9回 バタフライ1（キック・プル） 第10回 バタフライ2（コンビネーション） 第11回 個人メドレー 第12回 スキンダイビング 第13回 水球（パス・ドリブル・シュート） 第14回 水球（ゲーム）、授業のまとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要な水着、キャップ、ゴーグル、タオル等は忘れずに準備してください。	
準備学習の内容 1. 食事や睡眠など体調管理に努めてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に紹介します。	
成績評価の方法 授業への取り組み（40点）・意欲や態度（30点）・レポート（30点）から総合的に判断します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 緒方 貴浩	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：テニスコート 第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明） 第2回：ラケットティング、テニス競技の特性を知る 第3回：グラウンドストローク（フォア・バック） 第4回：ショートラリーからロングラリーへ 第5回：フットワークを意識したグラウンドストローク 第6回：サービスの基礎 第7回：サービス・レシーブ 第8回：ボレー・スマッシュ 第9回：ダブルスマッチの進め方 第10回：ダブルスゲーム（平行陣・雁行陣） 第11回：シングルスゲーム 第12回：リーグ戦① 第13回：リーグ戦② 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. テニス競技を観るスポーツとして楽しむことができるようにルールを積極的に覚える努力をしてください。	
準備学習の内容 1. ルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を積極的に活用し、授業の課題に取り組むこと。 2. 運動習慣確立のために日常生活における身体活動量の増加に務めること。	
教科書 教科書は使用しない。	
参考書 テニス指導教本Ⅰ 別途、必要に応じて資料を配布する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、以下の観点から総合的に評価する。 1. 実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢） 2. 理解点（20%）：ルールおよびマナーの理解（幅広い教養としての知識・理解） 3. 技能達成度（30点）：基礎的技術の習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 竹 井 尚 也	
授業の概要・到達目標 実施種目：バドミントン 習慣的に運動を行うことは心身の健康を保つうえで重要です。バドミントンは、半球状のコルクに羽がついたシャトルを打ち合う球技です。シャトルの特性上、手元に届くまでにシャトルが減速しやすいためラリーが続きやすく初心者にも取り組みやすい種目です。本授業では、バドミントンの基礎やルールを学び、生涯スポーツの一つとして取り組めるようになることを目指します。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館ウエストサブホール 第1回：授業の説明とオリエンテーション 第2回：バドミントンのルールと基礎、ラケット操作 第3回：シングルス、ダブルスの基礎と戦略 第4回：サービスとラリー 第5回：クリアとドロップ1 第6回：クリアとドロップ2 第7回：スマッシュ1 第8回：スマッシュ2 第9回：ドライブ1 第10回：ドライブ2 第11回：ミニゲーム 第12回：リーグ戦1 第13回：リーグ戦2 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください	
準備学習の内容 バドミントンの成り立ちやルールについて調べる。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (a) 平常点：50% (b) 理解力・コミュニケーション能力:20% (c) 技能・体力:20% (d) レポート・提出物10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 成 瀬 和 弥	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：柔道場（スポーツルームC） 第1回：オリエンテーション 第2回：救急救命法 第3回：ウォーキングの基礎 第4回：ウォーキングの応用 第5回：ウォーキングからランニング 第6回：瞑想の基礎 第7回：瞑想の実践（20分） 第8回：瞑想の実践（25分） 第9回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを投げる 第10回：ウォーキングフラッグフットボール ボールを取る 第11回：ウォーキングフラッグフットボール 戦術の理解 第12回：ウォーキングフラッグフットボール ワンゴールゲーム 第13回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム 第14回：ウォーキングフラッグフットボール ゲーム	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ニュースポーツについて調べる 障害者スポーツについて調べる	
教科書 特に指定しない。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 技能40%、知識・理解60%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
兼任講師 梅 澤 秋 久	
授業の概要・到達目標 実施種目：バレーボール 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。 運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質・能力（身体的リテラシー）の育成をねらいとします。特にバレーボールを行うため、身体的距離を確保しつつ、相手コートにボールを落とせるか/自コートに落とさせないかの機能的特性を味わう中で、豊かなスポーツライフに資するスキルを協働探究していきます。各回にテーマを掲げますが、原則ゲーム中心に授業を進めていきます。	
授業内容 使用施設：メインホール 第1回 オリエンテーション（受講上の留意点についてのイントロダクション） 第2回 からだを使ったアイスブレイク（仲間づくりをしよう） 第3回 ネット型ボール運動の面白さを味わおう（自コートにボールを落とさない面白さ） 第4回 面でボールを扱う面白さを味わおう（アンダーハンドパスのコツを知ろう） 第5回 面でボールを扱う面白さを味わおう（オーバーハンドパスのコツを知ろう） 第6回 繋いで攻撃しよう（スパイクやフェイントで相手コートに落とそう） 第7回 サーブで崩そう（多様なサーブに挑戦しよう） 第8回 ブロックをしよう（攻撃を止めよう） 第9回 トスを左右に振って攻撃しよう（レフト、ライト、センターからスパイクで攻撃しよう） 第10回 3段攻撃でブロックをかわそう 第11回 性差や能力差を包摂するバレーボールのアダプテーション・ルールをつくらう 第12回 アダプテーション・ルールをつくり競争を楽しもう（自分たちで勝敗のギリギリを楽しめるハンディをつくらう） 第13回 まとめのゲーム大会をしよう 第14回 まとめのゲーム大会をしよう 本授業のまとめ	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。	
準備学習の内容 基礎的な体力づくりを日常から実践しておくこと。	
教科書 特になし	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度50%、身体リテラシー50%(特にバレーボールに関連する資質・能力)	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－1	1 単位
	2 年次
教授 後 藤 光 将	
授業の概要・到達目標 実施種目：ゴルフ 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 本授業では、ゴルフの競技特性、マナー、ルールの理解を深め、マナー、ルールを遵守しながら活動を実践する能力、簡易ゲームや練習で仲間との協調性や公平性を保つことができることを到達目標とします。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回 オリエンテーション 第2回 アドレスとグリップ、バットイングの基礎 第3回 アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎 第4回 アプローチショットでのバックスイングからインパクト、バターゲーム 第5回 アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、バターゲーム 第6回 アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、バターゲーム 第7回 ゴルフの歴史・ルール・マナー 第8回 方向を定めてのアイアンショット練習、バターゲーム 第9回 方向を定めてのアイアンショット練習、バターゲーム 第10回 方向を定めてのアイアンショット練習、バターゲーム 第11回 様々なクラブ（ウッド等）でのショット練習 第12回 様々なクラブ（ウッド等）でのショット練習 第13回 模擬ラウンド練習 第14回 まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 ゴルフに関するルール、マナーなどの情報収集を心懸けてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組み姿勢（70%）、期末レポート（30%）から総合的に評価します。 3回以上欠席した場合は成績評価対象外とします。	
その他 1. 屋内施設での活動となりますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 佐 古 隆 之	
授業の概要・到達目標 使用施設：卓球場 <授業概要> 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について、科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 実施種目：卓球 各人のレベルに応じ、卓球の基本的な打法の練習とゲームを中心に展開する。 <到達目標> 初心者はゲームを楽しめるようになることを目標とする。また中・上級者は戦術の理解を深め、よりレベルの高いゲーム展開が行えるようになることを目標とする。	
授業内容 第1回：卓球のルール、特徴についての説明、基本的練習－導入（ラケットの持ち方、基本的ルールの説明） 第2回：基本的練習－導入（フォアハンド）の練習 第3回：基本的練習－導入（バックハンド）の練習 第4回：基本的練習－導入（ツッツキ）の練習、なおフォアハンド、バックハンド、ツッツキは以後の授業前半に繰り返し練習する 第5回：基本的練習－発展（サーブ）の練習 第6回：基本的練習－発展（レシーブ）の練習 第7回：基本的練習－発展（スマッシュ）の練習 第8回：応用的練習（シングルス）の試合（1） 第9回：応用的練習（シングルス）の試合（2） 第10回：応用的練習（ダブルス）の試合（1） 第11回：応用的練習（ダブルス）の試合（2） 第12回：応用的練習（団体戦）の試合（1） 第13回：応用的練習（団体戦）の試合（2） 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。	
準備学習の内容 授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。	
教科書 使用しない。	
参考書 使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 平常点60%…授業への取り組み状況、積極性 (2) 実技内容の習得度20% (3) 授業への貢献度20%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 佐 古 隆 之	
授業の概要・到達目標 使用施設：卓球場 <授業概要> 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について、科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっている中で、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 実施種目：卓球 各人のレベルに応じ、卓球の基本的な打法の練習とゲームを中心に展開する。 <到達目標> 初心者はゲームを楽しめるようになることを目標とする。また中・上級者は戦術の理解を深め、よりレベルの高いゲーム展開が行えるようになることを目標とする。	
授業内容 第1回：卓球のルール、特徴についての説明、基本的練習－導入（ラケットの持ち方、基本的ルールの説明） 第2回：基本的練習－導入（フォアハンド）の練習 第3回：基本的練習－導入（バックハンド）の練習 第4回：基本的練習－導入（ツッツキ）の練習、なおフォアハンド、バックハンド、ツッツキは以後の授業前半に繰り返し練習する 第5回：基本的練習－発展（サーブ）の練習 第6回：基本的練習－発展（レシーブ）の練習 第7回：基本的練習－発展（スマッシュ）の練習 第8回：応用的練習（シングルス）の試合（1） 第9回：応用的練習（シングルス）の試合（2） 第10回：応用的練習（ダブルス）の試合（1） 第11回：応用的練習（ダブルス）の試合（2） 第12回：応用的練習（団体戦）の試合（1） 第13回：応用的練習（団体戦）の試合（2） 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。	
準備学習の内容 授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。	
教科書 使用しない。	
参考書 使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (1) 平常点60%…授業への取り組み状況、積極性 (2) 実技内容の習得度20% (3) 授業への貢献度20%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 一 川 大 輔	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が起因となる疾病等が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：ゴルフゲージ 第1回 オリエンテーション、利用施設の説明、アドレスとグリップ、パッティング基礎 第2回 パッティングでのアドレス、グリップ、距離感の理解 第3回 アイアンショットでのアドレスとグリップ、ショット基礎 第4回 アプローチショットでのバックスイングからインパクト、パター（バックスイングなし型） 第5回 アプローチショットでのインパクトからフォロースルー、パター（インパクト型） 第6回 アプローチショットでのフォロースルーからフィニッシュ、パター（フォロースルー型） 第7回 ショットクロック練習（7時から5時）、パターゲーム 第8回 ショットクロック練習（9時から3時）、パターゲーム 第9回 ショットクロック練習（11時から1時）、パターゲーム 第10回 打ち出し角度を変えるためのショット練習、センサーでのショットデータの確認 第11回 各種クラブ（ウッド等）でのショット練習、センサーでのショットデータの確認 第12回 各種クラブ（アイアン、ウッド等）でのショット練習、センサーでのショットデータの確認 第13回 実際のラウンドを想定した模擬ショット練習 第14回 まとめ：授業内容の総括	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位取得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 授業前に特別の運動トレーニングを実施する必要はないが、日頃から健康状態を整えるように努める。授業後も学内運動施設を利用し運動習慣を獲得する意識を持ち、運動記録をつけるなどの方策が望まれる。	
教科書 特になし	
参考書 PGA 基本ゴルフ教本（日本プロゴルフ協会） 2019年ゴルフ規則書（日本ゴルフ協会）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 *授業開講時数2/3以上の出席を成績の対象とします。 平常点（授業内容への理解と受講態度・協調性）60%、技術（初期の技術レベルからの向上度等）30%、レポート10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 板橋クリストファーマリオ	
授業の概要・到達目標 実施種目：硬式テニス（上級） 本授業では、テニス経験者を対象に戦略的なダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。 短期到達目標としては、各種トーナメントに出場してより高い成績を挙げられること、長期到達目標としては、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。	
授業内容 場所：和泉キャンパス テニスコート 第1講 インタロダクション（テニスの技術と戦術・歴史） 第2講 グラウンドストロークの基本（ミス減らす） 第3講 グラウンドストロークの左右への打ち分け 第4講 回転をかけるサービス（スライス・トップスピン） 第5講 サービスリターン 第6講 ボレーの基本（ミス減らす） 第7講 ダブルス雁行陣の戦術（ボーチ・フェイント） 第8講 ダブルス雁行陣の戦術（ロブ・スマッシュ） 第9講 ダブルス前平行陣の戦術（ポジショニング） 第10講 ダブルス前平行陣の戦術（縦ボーチ） 第11講 グラウンドストロークの応用（スライス・ドロップショット） 第12講 シングルの戦術とシングルス大会 第13講 ダブルスの戦術とダブルス大会 第14講 団体戦 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 本授業は技術的にも体力的にも高度なメニューを行います。現在テニスサークルなどで定期的にテニス活動を行っており、テニス技術向上のために日々努力している学生を対象とします。初心者単位取得が困難になるので履修の際は注意してください。	
準備学習の内容 今回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。 また、授業後についても動画を視聴して復習してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqAN0cVDwsJVwgViYuw	
教科書 特に指定しません。	
参考書 以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqAN0cVDwsJVwgViYuw	
課題に対するフィードバックの方法 直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。	
成績評価の方法 授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。	
その他 1. 雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 堀川浩之	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。 到達目標 1. ゴルフの競技特性について概略できる 2. ゴルフのマナー、ルールについて概略できる 3. マナー、ルールを遵守したスポーツ活動を実践できる 4. 基本技能を身に付けスポーツ活動に積極的に参加することができる 5. 簡易ゲームや練習で仲間との協調性や公平性を保つことができる	
授業内容 使用施設：ゴルフ練習場 第1講 a：本授業の進め方、参加方法、評価方法、ゴルフのマナー等について説明を受ける。 b：ゴルフクラブの握り方、構え方について説明を受け個人で練習を行う。バター練習を行う。 第2講 7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（ジャイロスイング）を行う。バター練習を行う。 第3講 バターゲームを行う。 第4講 アプローチ練習（構え方、距離感の作り方）を行う。 第5講 アプローチ練習（的あて）を行う。 第6講 アプローチ練習（サークル入れ）を行う。 第7講 7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（クロスハンドグリップ）を行う。 第8講 7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（ハンカチ等を使ってハーフスイング）を行う。 第9講 7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（スプリットグリップ）を行う。 第10講 7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（ハーフスイングからフルスイング）を行う。 第11講 7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（片手打ち）を行う。 第12講 7（6）アイアンを使ったスイング作りの練習（フルスイング）を行う。 第13講 ウッドを使ったスイング作りの練習（ジャイロスイング）を行う。 第14講 総合練習（アイアン～ウッド）、ヘッドスピードの測定、レポート提出を行う。	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 <予習>場合によっては凶器となるクラブを使用するスポーツです。安全の確認などゴルフ規則に書かれていますので、ゴルフ規則に目を通しておいください。レポートはゴルフ規則から出題されます。 <復習>ゴルフの試合がテレビなどで放映された場合は、積極的に視聴し授業内で実施した技能が試合でどのように活かされているかを確認してください。	
教科書 なし	
参考書 2019年度ゴルフ規則（日本ゴルフ協会）（ http://www.jga.or.jp/?page_id=1206 ）	
課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは週週に全体に対しておこないます。	
成績評価の方法 平常点 50%（授業への取り組みの積極性、他の学生との協調性等） 実技点 20% レポート 30%（学期後半に指示）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 板橋クリストファーマリオ	
授業の概要・到達目標 実施種目：硬式テニス（初級） 本授業では、テニス未経験者、初級者を対象に基本的なシングルス、ダブルスゲームがプレイできるようになることを目指します。また、長期到達目標として、生涯にわたってテニスを実践できる素養を学ぶことです。そのための基礎体力トレーニング、技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。	
授業内容 場所：和泉キャンパス テニスコート 第1講 イントロダクション（テニスとは） 第2講 硬式テニスボールに慣れる、グラウンドストロークの基本（ラリーが5往復できるようになる） 第3講 グラウンドストロークの復習、シングルスポイントゲーム 第4講 サービス、シングルスゲーム 第5講 シングルス大会 第6講 ボレーの基本とダブルス雁行陣（デュースサイド） 第7講 ボレーの基本とダブルス雁行陣（アドバンテージサイド） 第8講 サービスの復習、ダブルスゲーム（デュースサイド） 第9講 サービスの復習、ダブルスゲーム（アドバンテージサイド） 第10講 ダブルス大会 第11講 グラウンドストロークの応用（トップスピン） 第12講 グラウンドストロークの応用（スライス） 第13講 スマッシュ 第14講 団体戦 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 単位取得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。	
準備学習の内容 今回の授業で行う内容を、以下のチャンネルの動画で確認してください。 また、授業後についても動画を視聴して復習してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqAN0cVDwsJVwVgViYuw	
教科書 特に指定しません。	
参考書 以下のチャンネルを登録して予習復習に活用してください。 https://www.youtube.com/channel/UCuPCQqAN0cVDwsJVwVgViYuw	
課題に対するフィードバックの方法 直接、口頭で行います。また、メールでも対応します。	
成績評価の方法 授業への参加度（70%）、授業への取り組み姿勢（10%）、技能点（基礎点10%、上達点10%）から総合的に評価します。	
その他 1. 雨天の場合は室内施設で活動を行いますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。 3. 適切な服装、靴については担当教員の指示に従ってください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 実施種目：クライミング クライミングとはとっ手（ホールド）のついた人口壁を縦に横に移動し、自分の課題ルートのクリアを目指す身体活動です。腕力が必要のように思うかもしれませんが、むしろバランス力が求められ、男女を問わず様々な体格や体力レベル、運動経験をもつ学生が各自で決めた課題ルートに取り組むことができます。 この授業の前半では高さ4mほどの人口壁を補助具を付けずに登るボルダリングを、後半はハーネスとロープを使い約10mの壁を登るロープクライミングを実践します。 クライミングは基本的には個人の活動ですが、ロープクライミングでは登っている人のロープを確保する活動が加わります。そうしたことから毎回の授業ではグループを作り、グループメンバーのコミュニケーションを通じて各自の知識をより確かなものにし、スキルの向上を目指します。競争原理に基づくスポーツとは違った協同原理の身体活動を体験してください。	
授業内容 使用施設：クライミングウォール 第1回：イントロダクション～クライミングのルールと安全管理、設備と用具について 第2回：ホールドの持ち方、足の使い方、オブザベーション【ボルダリング】 第3回：三点支持と正対ムーブ 第4回：二点支持とダイアゴナル 第5回：多様なムーブ 第6回：フラッキング 第7回：各自の課題練習、ロープクライミングの基本技術【ロープクライミング】 第8～9回：ロープクライミング1回目 第10～11回：ロープクライミング2回目、パディによるビレイ練習 第12～13回：ロープクライミング3回目、パディによるビレイ 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 定員を超えた場合は抽選を行います。詳細については4月のガイダンスにて説明します。 2. 単位修得のためには、半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 実技と講義の内容に関するレポート課題を出します。 4. 服装やメガネの着用については教員の指示に従うこと。	
準備学習の内容 常にクライミングの情報を集めるよう心がけましょう。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業中に行います。	
成績評価の方法 単位修得のためには、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。また実技と講義の内容にかかわるレポート課題を出します。成績は以下の点から評価します： 1) 各自の課題への取り組み（50%） 2) グループワークへの参加度（20%） 3) クライミングスキル（20%） 4) レポート評価（10%）	
その他 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診しておくこと。クライミングに必要なシューズはレンタル用を用意してあります。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
講師 武田 紘 平	
授業の概要・到達目標 実施種目：フィットネス フィットネスルーム内の様々なトレーニング機器を用いてトレーニングを行います。各個人が目標を設定し、目標達成のためのトレーニングプログラムを立案し、実践します。最後にトレーニング効果について評価し、レポートにまとめます。運動トレーニングの実践および安全で効果的なトレーニングプログラム作成のための知識と技術の習得を目指します。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館ウエスト2階 フィットネスルーム 第1回：ガイダンス 第2回：体力測定（1）、トレーニング機器の取り扱い説明、機器の使用に慣れる 第3回：目標設定、プログラム作成、フリーウエイトトレーニングのフォーム解説 第4回：トレーニング強度の設定（10RMの測定など） 第5回：トレーニングの実践（1） 第6回：トレーニングの実践（2） 第7回：トレーニングの実践（3） 第8回：トレーニングの実践（4） 第9回：トレーニングの実践（5） 第10回：トレーニングの実践（6） 第11回：トレーニングの実践（7） 第12回：トレーニングの実践（8） 第13回：体力測定（2）、トレーニング効果の評価 第14回：レポート提出、まとめ	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 授業に必要なウェアや靴の準備をしてください。	
準備学習の内容 1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけてください。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。必要に応じて資料を配布します。	
課題に対するフィードバックの方法 次回授業時に紹介します。	
成績評価の方法 平常点（40%）、授業への取り組み（30%）、レポート（30%）の3項目を点数化し、その合計点で評価します。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 緒 方 貴 浩	
授業の概要・到達目標 実施種目：ゴルフ 本授業では種目の特性、必要とされる技術や戦略、運動中の心理的变化、自分に合ったコンディショニング、スポーツの文化的背景の理解などを通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための態度と技能の習得を目指す。さらにゴルフの体験を通じて、基本的なルールやマナー、エチケットとその意味を理解する。そして、ゴルフスイングを論理的に学習することを目指す。	
授業内容 使用施設：ゴルフレンジ 第1回：オリエンテーション（授業の概要と目的、履修上の注意、成績評価方法などの説明） 第2回：グリップ、アドレス、スイング理論（スイングクロック） 第3回：ミドルアイアンを使ってのスイングフォームの形成（スイングクロック①～③） 第4回：ミドルアイアンを使ってのスイングフォームの形成（スイングクロック③～⑤） 第5回：スイング作り（ビデオを使ってスイング修正①） 第6回：ショートアイアンを使ってのスイングフォームの形成 第7回：ロングアイアンを使ってのスイングフォームの形成 第8回：ドライバーのスイング理論（ビデオを使ってスイング修正②） 第9回：ドライバーショット時のティーの高さの考え方 第10回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチショット） 第11回：ショートゲーム（アプローチ：ピッチエンドラン、チップショット） 第12回：パッティング技術の習得 第13回：ミニゲーム① 第14回：ミニゲーム②	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. ゴルフ競技を観るスポーツとして楽しむことができるようにルールを積極的に覚える努力をしてください。	
準備学習の内容 下記サイト（日本ゴルフ協会）を参考にルールについて学習すること。 ・ゴルフ規則について（ http://www.jga.or.jp/jga/html/rules/rules.html ） ・ゴルフ規則動画（ http://www.jga.or.jp/jga/html/rules/movie.html ）	
教科書 ゴルフには様々なスイング理論があるため、1つと限定した教科書は使用しない。	
参考書 ・PGAジュニア基本ゴルフ教本 別途、必要に応じて資料を配布する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は、以下の観点から総合的に評価する。 1. 実践点（50%）：授業への積極的な参加、課題達成度（コミュニケーション能力、動的学習姿勢） 2. 理解点（20%）：ルールおよびゴルフのラウンドマナー・エチケットの理解（幅広い教養としての知識・理解） 3. 技能達成度（30点）：基礎的技能的習得など（専門分野の基本的な知識・理解及び技術）	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 竹 井 尚 也	
授業の概要・到達目標 実施種目：フィットネス フィットネスルームで様々なトレーニング機器を用いて全身の筋を鍛えます。全身の筋を鍛えることは、スポーツのパフォーマンスを高めるためだけでなく、健康を保つうえでも重要です。本授業では、各種トレーニングの基礎と応用について学び、自らトレーニングプログラムを作成し実践できるようになることを目指します。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館ウエスト2階 フィットネスルーム 第1回：授業の説明とオリエンテーション 第2回：体力測定1、トレーニングマシンの解説と実技 第3回：目標設定、プログラム作成、フリーウエイトの解説と実技1 第4回：持久的運動の解説、フリーウエイトの解説と実技2 第5回：トレーニングの実際と応用 第6回：トレーニングの実践1 第7回：トレーニングの実践2 第8回：トレーニングの実践3 第9回：トレーニングの実践4 第10回：トレーニングの実践5 第11回：トレーニングの実践6 第12回：トレーニングの実践7 第13回：体力測定2、測定結果の評価と解説 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けて下さい。	
準備学習の内容 健康やフィットネストレーニングに関する情報収集を心懸けて下さい。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 (a) 平常点:50% (b) 理解力・コミュニケーション能力:20% (c) 技能・体力:20% (d) レポート・提出物10%	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
教授 後藤光将	
授業の概要・到達目標 実施種目：パラスポーツ パラスポーツとは、障害者スポーツ全体のことを指します。もともとは、パラリンピックで採用されている競技のことを呼ぶ際の名称として使われ始めましたが、現在では、障害者が行うスポーツ全般を指すことが多いです。パラスポーツは、さまざまな障害を持つ人が取り組むため、オリンピックスポーツとは異なるルール上の工夫があります。本授業では、パラスポーツの代表的競技であるポッチャ、シッティングバレーボールを中心に、ガイドランナー体験等に取り組みます。ポッチャなどのルールを理解して実践しながら、さまざまな人びとと共に生きていく社会とは何かを考えていきます。	
授業内容 使用施設：和泉総合体育館ウェスト1階多目的ホールB（剣道場） 第1回：ガイダンス（履修に関する注意事項の説明、パラスポーツの歴史・意義） 第2回：ポッチャのルール 第3回：ポッチャの距離感、方向 第4回：ポッチャの基本戦術（1） 第5回：ポッチャの基本戦術（2） 第6回：ポッチャの基本戦術（3） 第7回：ポッチャの応用戦術（1） 第8回：ポッチャの応用戦術（2） 第9回：ポッチャの応用戦術（3） 第10回：ガイドランナー体験 第11回：シッティングバレーボール（1） 第12回：シッティングバレーボール（2） 第13回：シッティングバレーボール（3） 第14回：まとめ	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 2. 本授業は運動量が少ないパラスポーツ（おもにポッチャ）に取り組めます。緻密な戦略を考えながら行うスポーツなので、運動が苦手な人でも十分活躍できます。	
準備学習の内容 パラスポーツ（特にポッチャ）に関するルールや戦術について情報収集を心掛けてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への取り組み姿勢（70%）、期末レポート（30%）から総合的に評価します。 3回以上欠席した場合は成績評価対象外とします。	
その他 1. 雨天の場合は屋外施設での活動となりますので、赤い靴紐の体育館履きを持参してください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅱ－2	1 単位
	2 年次
兼任講師 梅澤秋久	
授業の概要・到達目標 実施種目：バレーボール 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。 運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質・能力（身体的リテラシー）の育成をねらいとします。特にバレーボールを行うため、身体的距離を確保しつつ、相手コートにボールを落とせるか/自コートに落とさせないかの機能的特性を味わう中で、豊かなスポーツライフに資するスキルを協働探究していきます。各回にテーマを掲げますが、原則ゲーム中心に授業を進めていきます。	
授業内容 使用施設：メインホール 第1回 オリエンテーション（受講上の留意点についてのイントロダクション） 第2回 からだを使ったアイスブレイク（仲間づくりをしよう） 第3回 ネット型ボール運動の面白さを味わおう（自コートにボールを落とさない面白さ） 第4回 面でボールを扱う面白さを味わおう（アンダーハンドパスのコツを知ろう） 第5回 面でボールを扱う面白さを味わおう（オーバーハンドパスのコツを知ろう） 第6回 繋いで攻撃しよう（スパイクやフェイントで相手コートに落とそう） 第7回 サーブで崩そう（多様なサーブに挑戦しよう） 第8回 ブロックをしよう（攻撃を止めよう） 第9回 トスを左右に振って攻撃しよう（レフト、ライト、センターからスパイクで攻撃しよう） 第10回 3段攻撃でブロックをかわそう 第11回 性差や能力差を包摂するバレーボールのアダプテーション・ルールをつくろう 第12回 アダプテーション・ルールをつくり競争を楽しもう（自分たちで勝敗のギリギリを楽しめるハンディをつくろう） 第13回 まとめのゲーム大会をしよう 第14回 まとめのゲーム大会をしよう 本授業のまとめ	
履修の注意点 1. 単位修得にあたっては半期授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。	
準備学習の内容 基礎的な体力づくりを日常から実践しておくこと。	
教科書 特になし	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度50%、身体リテラシー50%(特にバレーボールに関連する資質・能力)	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 中西康己	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：スポーツホール 第1講 イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等）、バレーボールの特性 第2講 パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）、ミニゲーム 第3講 サーブ練習（フローターサーブ、スピンスーブ）、ゲーム 第4講 スパイク練習、ゲーム 第5講 レシーブ練習（スパイクレシーブ）、ゲーム 第6講 レシーブ練習（サーブレシーブ）、ゲーム 第7講 フォーメーション練習（サーブレシーブ体形）、ゲーム 第8講 ブロック練習、ゲーム 第9講 フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス）、ゲーム 第10講 ゲーム ①（リーグ戦） 第11講 ゲーム ②（リーグ戦） 第12講 ゲーム ③（リーグ戦） 第13講 ゲーム ④（リーグ戦） 第14講 ゲーム ⑤（まとめ）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。	
教科書 特に指定しません	
参考書 特に指定しません	
課題に対するフィードバックの方法 授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。	
成績評価の方法 授業への参加及び取り組み姿勢（40%）、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%）、期末レポート（20%）とします。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 中西康己	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：スポーツホール 第1講 イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等）、バレーボールの特性 第2講 パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）、ミニゲーム 第3講 サーブ練習（フローターサーブ、スピンスーブ）、ゲーム 第4講 スパイク練習、ゲーム 第5講 レシーブ練習（スパイクレシーブ）、ゲーム 第6講 レシーブ練習（サーブレシーブ）、ゲーム 第7講 フォーメーション練習（サーブレシーブ体形）、ゲーム 第8講 ブロック練習、ゲーム 第9講 フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス）、ゲーム 第10講 ゲーム ①（リーグ戦） 第11講 ゲーム ②（リーグ戦） 第12講 ゲーム ③（リーグ戦） 第13講 ゲーム ④（リーグ戦） 第14講 ゲーム ⑤（まとめ）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。	
教科書 特に指定しません	
参考書 特に指定しません	
課題に対するフィードバックの方法 授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。	
成績評価の方法 授業への参加及び取り組み姿勢（40%）、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%）、期末レポート（20%）とします。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 相澤勝治	
授業の概要・到達目標 実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール） 本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組みることに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。	
授業内容 使用施設：リバティタワー地下スポーツホール 第1講 イントロダクション 第2講 フットサル実技（1）ゴールを狙う 第3講 フットサル実技（2）周りの人が動く 第4講 フットサル実技（3）ゲーム実践 第5講 バドミントン実技（1）基本練習 第6講 バドミントン実技（2）ゲームの組み立て 第7講 バドミントン実技（3）ゲーム実践 第8講 バレーボール実技（1）ルールと基本の動き 第9講 バレーボール実技（2）レシーブ/アタック 第10講 バレーボール実技（3）ゲーム実践 第11講 バレーボール実技（4）ゲーム実践 第12講 ボールゲーム実技（1）ボールを用いたアクティビティ 第13講 ボールゲーム実技（2）ゲーム実践 第14講 ボールゲーム実技（3）ゲーム実践	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを用意すること。	
準備学習の内容 各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。	
教科書 教科書等は使用しない	
参考書 参考書等は使用しない	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を取り上げて講評する	
成績評価の方法 授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－１・Ⅳ－１	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 相澤勝治	
授業の概要・到達目標 実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール） 本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組みることに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。	
授業内容 使用施設：リバティタワー地下スポーツホール 第1講 イントロダクション 第2講 フットサル実技（1）ゴールを狙う 第3講 フットサル実技（2）周りの人が動く 第4講 フットサル実技（3）ゲーム実践 第5講 バドミントン実技（1）基本練習 第6講 バドミントン実技（2）ゲームの組み立て 第7講 バドミントン実技（3）ゲーム実践 第8講 バレーボール実技（1）ルールと基本の動き 第9講 バレーボール実技（2）レシーブ/アタック 第10講 バレーボール実技（3）ゲーム実践 第11講 バレーボール実技（4）ゲーム実践 第12講 ボールゲーム実技（1）ボールを用いたアクティビティ 第13講 ボールゲーム実技（2）ゲーム実践 第14講 ボールゲーム実技（3）ゲーム実践	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを用意すること。	
準備学習の内容 各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。	
教科書 教科書等は使用しない	
参考書 参考書等は使用しない	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を取り上げて講評する	
成績評価の方法 授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 中西康己	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：スポーツホール 第1講 イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等）、バレーボールの特性 第2講 パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）、ミニゲーム 第3講 サーブ練習（フローターサーブ、スピンスーブ）、ゲーム 第4講 スパイク練習、ゲーム 第5講 レシーブ練習（スパイクレシーブ）、ゲーム 第6講 レシーブ練習（サーブレシーブ）、ゲーム 第7講 フォーメーション練習（サーブレシーブ体形）、ゲーム 第8講 ブロック練習、ゲーム 第9講 フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス）、ゲーム 第10講 ゲーム ①（リーグ戦） 第11講 ゲーム ②（リーグ戦） 第12講 ゲーム ③（リーグ戦） 第13講 ゲーム ④（リーグ戦） 第14講 ゲーム ⑤（まとめ）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。	
教科書 特に指定しません	
参考書 特に指定しません	
課題に対するフィードバックの方法 授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。	
成績評価の方法 授業への参加及び取り組み姿勢（40%）、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%）、期末レポート（20%）とします。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 中西康己	
授業の概要・到達目標 本授業の目標は、人間形成や心身共に健康な活力を培うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得することです。運動不足が要因となる病が深刻な社会問題となっているなかで、健康で活力ある生活の基礎となる身体運動の実践能力向上、生涯を通じて運動が実践できる資質の育成をねらいとします。	
授業内容 使用施設：スポーツホール 第1講 イントロダクション（授業の目的、内容、注意点の確認等）、バレーボールの特性 第2講 パス練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）、ミニゲーム 第3講 サーブ練習（フローターサーブ、スピンスーブ）、ゲーム 第4講 スパイク練習、ゲーム 第5講 レシーブ練習（スパイクレシーブ）、ゲーム 第6講 レシーブ練習（サーブレシーブ）、ゲーム 第7講 フォーメーション練習（サーブレシーブ体形）、ゲーム 第8講 ブロック練習、ゲーム 第9講 フォーメーション練習（デフェンス、及びオフェンス）、ゲーム 第10講 ゲーム ①（リーグ戦） 第11講 ゲーム ②（リーグ戦） 第12講 ゲーム ③（リーグ戦） 第13講 ゲーム ④（リーグ戦） 第14講 ゲーム ⑤（まとめ）	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。	
準備学習の内容 バレーボールのルールの確認、怪我の予防に関する資料を読む。	
教科書 特に指定しません	
参考書 特に指定しません	
課題に対するフィードバックの方法 授業開始時、出欠確認後に口頭で行う。またレポートに関してはコメントを記入した後コピーを返却する。	
成績評価の方法 授業への参加及び取り組み姿勢（40%）、基本技術の習得及びリーグ戦の運営等の観点からの総合的な評価（40%）、期末レポート（20%）とします。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 相澤勝治	
授業の概要・到達目標 実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール） 本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組むことに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。	
授業内容 使用施設：リバティタワー地下スポーツホール 第1講 イントロダクション 第2講 フットサル実技（1）ゴールを狙う 第3講 フットサル実技（2）周りの人が動く 第4講 フットサル実技（3）ゲーム実践 第5講 バドミントン実技（1）基本練習 第6講 バドミントン実技（2）ゲームの組み立て 第7講 バドミントン実技（3）ゲーム実践 第8講 バレーボール実技（1）ルールと基本の動き 第9講 バレーボール実技（2）レシーブ/アタック 第10講 バレーボール実技（3）ゲーム実践 第11講 バレーボール実技（4）ゲーム実践 第12講 ボールゲーム実技（1）ボールを用いたアクティビティ 第13講 ボールゲーム実技（2）ゲーム実践 第14講 ボールゲーム実技（3）ゲーム実践	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを用意すること。	
準備学習の内容 各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。	
教科書 教科書等は使用しない。	
参考書 参考書等は使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を取り上げて講評する。	
成績評価の方法 授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES293J	
運動学演習Ⅲ－２・Ⅳ－２	1 単位
	3・4 年次
兼任講師 相澤勝治	
授業の概要・到達目標 実施種目：マルチスポーツ（スポーツホール） 本授業の目標は、身体運動の実践を通して心身の健康維持に取り組むことに加え、共に学ぶ仲間作りの場として、学生間のコミュニケーション能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うことを習得することです。様々なスポーツ種目の経験を通して、スポーツの文化や可能性について理解し、健康に関する諸課題に対して解決する能力を養うことをねらいとします。	
授業内容 使用施設：リバティタワー地下スポーツホール 第1講 イントロダクション 第2講 フットサル実技（1）ゴールを狙う 第3講 フットサル実技（2）周りの人が動く 第4講 フットサル実技（3）ゲーム実践 第5講 バドミントン実技（1）基本練習 第6講 バドミントン実技（2）ゲームの組み立て 第7講 バドミントン実技（3）ゲーム実践 第8講 バレーボール実技（1）ルールと基本の動き 第9講 バレーボール実技（2）レシーブ/アタック 第10講 バレーボール実技（3）ゲーム実践 第11講 バレーボール実技（4）ゲーム実践 第12講 ボールゲーム実技（1）ボールを用いたアクティビティ 第13講 ボールゲーム実技（2）ゲーム実践 第14講 ボールゲーム実技（3）ゲーム実践	
履修の注意点 1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。 2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。 3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。 4. 室内用のシューズを用意すること。	
準備学習の内容 各回の授業概要の指示に従い関連するキーワードを調べ、授業終了後は授業内容を復習し、自分のライフスタイルを省察すること。	
教科書 教科書等は使用しない。	
参考書 参考書等は使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法 代表的な意見を取り上げて講評する。	
成績評価の方法 授業への参加度（60%）、授業に取り組む態度（20%）、スキルの上達度（20%）から総合的に評価する。	
その他 1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。 2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。	

科目ナンバー：(PE) HES233J	
生涯スポーツ演習	1 単位
	1～4 年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 実施種目：キャンプベーシック 1 期 この授業では、自然環境の中でテント泊と野外炊事をベースにした生活を送りながら、キャンプを安全に楽しむための知識・技術・マナー、野外でのリスクマネジメントや環境への配慮、集団で生活するための組織運営や役割分担の方法について学びます。キャンプの生活方法は、常設のテントや炊飯場を利用した初歩的なもので、キャンプ経験がない初心者でも受講が可能です。 また、こうしたアウトドアライフを基礎にして、サイクリング、トレッキング、沢歩きといったアウトドアスポーツを体験し、将来的に野外活動を安全に楽しむための基礎知識と態度、技術を身につけます。煩雑な都会での日常生活を離れ、自然の中でシンプルな生活を送ることで、自然や仲間、そして自分自身について新しい発見をする機会を得ることができます。 なおキャンプベーシック 1 期と 2 期は同一のプログラムです。	
授業内容 1. 期 間：2024年 9 月 3 日（火）～6 日（金） 3 泊 4 日 2. 場 所：静岡県立朝霧野外活動センター（静岡県富士宮市） 3. 対 象：経験は問いません 4. 定 員：42名（うち政治経済学部生 21名） 5. 受講料：1,500円（保険料など） 6. 参加費用：交通費約 12,000円、現地費用約 10,000円、計 22,000円程度 7. 担当者：高峰修（政治経済学部） 8. プログラム 1 日目：（午後）キャンプ場に現地集合。開講式、備品配布、野外炊事、初日の振り返り 2 日目：（終日）キャンプ場内およびキャンプ場周辺の活動 3 日目：（終日）キャンプ場外での活動 4 日目：（午前）撤収、まとめ、正午頃解散 9. 事前授業：7 月初旬に事前授業を行います（出席必須）。プログラムの詳細についてはそこで説明します。	
履修の注意点 1. この集中授業は、和泉の選択体育実技の学部間相互乗り入れ科目として実施します。応募多数の場合は抽選となります。受講の手続きについては 4 月のガイダンスにて説明します。 2. プログラムはスタッフや天候などの都合、感染症等により変更または中止になることがあります。 3. 受講を認められた学生は、原則としてキャンセルはできませんので注意してください。 4. 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。	
準備学習の内容 7 月の事前授業への出席が必須となります。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 成績は以下の 3 点から総合的に評価します： 事前授業と実習当日の出席（60%） 活動への取り組み（20%） グループ活動状況（20%）	
その他 繰り返しになりますが、受講を認められた学生は原則としてキャンセルはできませんので、くれぐれも注意してください。また 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。	

科目ナンバー：(PE) HES233J	
生涯スポーツ演習	1 単位
	1～4 年次
教授 後藤 光 将	
授業の概要・到達目標 本授業では、ゴルフの運動学的特性を理解し、基礎的な技術を身につけ、スポーツの楽しさを理解することを目的とします。ゴルフは、日本では競技人口が多く、社会人のレジャースポーツとして最もポピュラーなスポーツです。体育授業教材としてゴルフは取り上げられることが少ないので、社会人で初めて経験する人が多いです。ゴルフの運動特性として、瞬間的に大きなパワーの発揮とミリ単位の正確な動作が要求されます。これはゴルフのが難しさであり、醍醐味でもあります。また、ゴルフは個々の体力に応じて活動できるため、老若男女問わずに楽しむことのできるのも魅力的な点です。 本授業は、わが国を代表するリゾート地「軽井沢」で実施することから、リゾートスポーツとしてのゴルフ文化を体験する場でもあります。ゴルフに加えて、軽井沢で盛んに行われている氷上スポーツである「カーリング」も体験的に実施します。リゾートスポーツ文化を総合的に経験、理解する機会によって、健康的な生活を自らデザインして、生涯に亘りスポーツに触れ合う素養を学びます。	
授業内容 1. 期間：2024年 9 月 9 日（月）～12 日（木） ※和泉総合体育館にて事前授業 9 月 2 日（月）13:00-15:00 2. 場所：馬越ゴルフコース、軽井沢ゴルフ練習場、軽井沢アイスパーク（長野県北佐久郡軽井沢町） 3. 受講条件：ラウンド経験者、あるいはゴルフ授業を半期受講した者 4. 定員：30名（指導者 5 名を予定） 5. 登録費：1,000円（保険料） 6. 参加費用：約 50,000円（宿泊代、ゴルフラウンド・練習場代、カーリング講習費用など） 7. 宿泊場所：軽井沢高峰荘（〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉塩尻 533） 8. 担当者：後藤光将（政治経済学部） 1 日目：（午後）開講式、ゴルフ練習 2 日目：（午前）ゴルフラウンド、（午後）ゴルフ練習 3 日目：（午前）ゴルフラウンド、（午後）カーリング体験 4 日目：（午前）カーリング試合、ふりかえり、閉講式	
履修の注意点 1. ゴルフ未経験者は受講できません。受講条件はゴルフラウンド経験者、あるいはゴルフ授業を半期受講した者です。 2. 本授業は、選択体育実技の 8 学部間相互乗り入れ科目（和泉・駿河台・中野キャンパス）として実施します。 3. 4 月 1 日、2 日（予定）に対面で履修説明ガイダンスを行います。4 月 3 日（水）9:00～5 日（金）9:00 に Oh-of Meiji のアンケートで履修を受け付けます。定員を超過した場合は抽選となりますが、対面ガイダンス参加者優先となります。 4. 9 月 2 日（月）13:00-15:00 に事前授業を和泉キャンパスで行いますので、受講を認められた学生は必ず出席してください。 5. 受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセルはできません。日程をよく確認してください。 6. 各学期複数の希望科目を申請することができます。また、同一種目を翌年度以降も繰り返し履修できます。 7. 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。	
準備学習の内容 ゴルフ、カーリングに関するルール、マナーに関して事前に理解するように努めてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 事前授業への出席（10%）、授業への取り組み姿勢（40%）、技能上達度（20%）、グループ行動状況（20%）、ふりかえりレポート（10%）から、総合的に評価します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HES233J	
生涯スポーツ演習	1 単位
	1～4 年次
教授 後藤光将	
授業の概要・到達目標 【野辺山スケートコース】 心地よいスピードを感じながら、自分の身体全体を用いて意のままに氷上を滑走することは、他では得られない感覚です。寒い場所での体温調節は多くのエネルギーを消費させる有酸素運動であり、ダイエットにも効果的です。実習では、まず基礎スケーティングを習得します。集団で音楽に合わせて滑る“シンクロナイズドスケーティング”、氷上の格闘技“アイスホッケー”などにも挑戦します。野辺山高原は長野県の東端に位置しており、高原野菜の産地で有名です。滑走練習の合間には、近隣の牧場を訪問して、雄大な自然を体験する機会もあります。氷上での様々な活動を体験しながら、普段の都会の生活では感じる事のない、すばらしい発見があるはず	
授業内容 1. 期間：2025年2月18日(火)～2月21日(金) 3泊4日 2. 場所：長野県南佐久郡南牧村野辺山1003 帝産アイススケートトレーニングセンター 3. 対象：経験は問いません。 4. 定員：40名(指導者6名を予定) 5. 登録費：1,000円(保険料など) 6. 参加費用：約36,000円(宿泊費、食費、リンク代、スケート靴レンタル料など) 7. 担当者：後藤光将(政治経済学部教授) 1日目：(午後)開講式、基礎スケーティング1、講義 2日目：(終日)基礎スケーティング2、講義 3日目：(終日)基礎スケーティング3、牧場見学、シンクロナイズドスケーティング、講義 4日目：(午前)アイスホッケー体験、ふりかえり、閉講式	
履修の注意点 1. 本授業は、選択体育実技の8学部間相互乗り入れ科目(和泉・駿河台・中野キャンパス)として実施します。 2. 4月1日、2日(予定)に対面で履修説明ガイダンスを行います。4月3日(水)9:00～5日(金)9:00にOh-ol Meijiのアンケートで履修を受け付けます。定員を超過した場合は抽選となりますが、対面ガイダンス参加者優先となります。 3. 12月に事前授業を行いますので、受講を認められた学生は必ず出席してください。 4. 受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセルはできません。日程をよく確認してください。 5. 2月下旬に実施する授業のため、4年生は卒業判定後の単位認定となりますので、卒業要件の単位に含めることができません。 6. 各学期複数の希望科目を申請することができます。また、同一種目を翌年度以降も繰り返し履修できます。 7. 4月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。	
準備学習の内容 氷上スポーツ(フィギュアスケート)に関する情報を事前に調べておいてください。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 特に指定しません。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 事前授業への出席(10%)、授業への取り組み姿勢(40%)、技能上達度(20%)、グループ行動状況(20%)、ふりかえりレポート(10%)から、総合的に評価します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HES233J	
生涯スポーツ演習	1 単位
	1～4 年次
講師 武田紘平	
授業の概要・到達目標 <授業の概要> この実習では、海でシュノーケリングやスキndaダイビング、シーカヤック、遠泳を行う予定です。プールとは異なる環境でこれら活動に関する基本的知識・技術の習得と安全に実施する上での注意点の理解が主な目的です。実習場所の沖縄県渡嘉敷島近海は「ケラマブルー」と呼ばれており、ダイバーに人気があります。世界屈指の美しさで、運が良ければウミガメやクジラに会えるかもしれません。海に身を委ねサンゴ礁や色とりどりの魚など壮大な自然に触れてみたいという学生は、この授業を受講してはいかがでしょうか。	
<到達目標> (1)水中でのバディシステムによる安全確保の実践、各種器材を使用した遊泳ならびに潜水スキルを身につける (2)カヤックの準備や片付けを含めた操作技術を確実に理解、実践する (3)生態系などの海洋環境について理解を深める (4)他者との活動・生活を通してコミュニケーション能力を高める	
授業内容 期間：2024年9月12日～9月15日(予定) 3泊4日 場所：国立沖縄青少年交流の家海洋研修場及び周辺海岸 沖縄県島尻郡渡嘉敷村字阿波連775 受講条件：自分で呼吸を確保し、呼吸をコントロールしながら25mクロール、平泳ぎを完泳できる 定員：18名(指導者3名を予定) 受講費：1,000円(保険料など) 参加費用：宿泊費・食費・フェリー代・バス貸切代・雑費(約23,000円 ※3泊分)＋交通費、前泊分宿泊費(各自) 担当者：武田紘平(政治経済学部) 1日目：(午前)泊港(那覇市)集合後、フェリーで渡嘉敷島に移動(午後)開講式、水慣れ、講義 2日目：(終日)シュノーケリング、カヤック、講義 3日目：(終日)シュノーケリング、カヤック、講義 4日目：(午前)遠泳、閉講式(午後)フェリーで泊港(那覇市)へ移動後、解散 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1. 本授業は、選択体育実技の学部間相互乗り入れ科目(和泉・駿河台・中野キャンパス)として実施します。受講希望者はシラバスで詳細を確認したうえで、Oh-ol Meijiのアンケート機能で申し込みを行ってください。また、4月上旬に対面ガイダンスを実施します。対面ガイダンスは参加必須ではありませんが、希望者多数(抽選)の場合は対面ガイダンス参加者優先となります。 2. 9月11日中に那覇入りできるよう日程調整をしてください。また、この日のホテルは各自で手配します。 3. 春学期期間中に事前授業(2回)を行いますので、受講を認められた学生は必ず出席してください。単位取得の必須条件です。 4. 受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセルはできません。日程をよく確認してください。 5. 4月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいて下さい。	
準備学習の内容 マリンスポーツや沖縄近辺の海に関する情報を事前に調べておいてください。	
教科書 特にありません	
参考書 特にありません	
課題に対するフィードバックの方法 適宜行います。	
成績評価の方法 授業への取り組み姿勢(40%)、技能上達度(20%)、グループ活動状況(20%)、小レポート(20%)から、総合的に評価します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC161J	
マスコミュニケーション特殊講義B【2022年度以降入学者】	2単位
マスコミュニケーション特殊講義II【2021年度以前入学者】	1・2年次
教授 水野剛也	
授業の概要・到達目標 <p>本講の目的は、ジャーナリズム、つまりマス・メディアがなす多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点を絞り、その特質や問題点を総合的に論じることである。本講であつたか媒体は、新聞や雑誌などの活字メディアを中心とするが、写真・テレビ・ラジオ・インターネットなども含む。ただし、ニュースの報道や評論・論説活動に直接関わらないものは、基本的に除外する。</p> <p>本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々ほどのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。</p>	
授業内容 <p>大まかに、ジャーナリズムの定義、ジャーナリズムのおこり、ジャーナリストという職業の特質、ジャーナリズムにおけるニュース価値、ジャーナリズムの倫理、ジャーナリズムをめぐる最近の問題、の順で講義をすすめる予定である。毎回、当日の新聞を教材として使用する。</p> <p>ただし、受講者数によっては、講義形式よりも、ゼミのようなディスカッション形式に重きを置く場合もある。</p> <p>いずれにせよ、より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。受講希望者は、初回にはかならず出席すること。</p> <p>第1回 本講の基本方針、具体的なスケジュールなど 第2回 メディア、マス・メディア、ニュース・メディアの定義 第3回 ジャーナリズムの定義 第4回 ジャーナリズムのおこり(世界) 第5回 ジャーナリズムのおこり(日本) 第6回 ジャーナリストという職業 それはプロフェッションか？ 第7回 ジャーナリズムの価値 ニュースとは何か 1(相対主義的アプローチ) 第8回 ジャーナリズムの価値 ニュースとは何か 2(社会学的アプローチ) 第9回 ジャーナリズムの倫理 1(規範論の源流) 第10回 ジャーナリズムの倫理 2(現代的な規範論) 第11回 ジャーナリズム日誌の発表 第12回 ジャーナリズムをめぐる最近の問題 1(学生、あるいは教員が選択する時事的な諸問題) 第13回 ジャーナリズムをめぐる最近の問題 2(同上) 第14回 総括・総評、ジャーナリズム日誌の発表・提出、受講者アンケート、など</p>	
履修の注意点 <p>受講希望者は、少なくとも次の点について了解しておかなければならない。</p> <p>第1に、「コツコツ努力することが嫌い・苦手」という人、あるいは「楽に単位を取得したい」と考えている人は受講すべきでない。単位取得のためには、相当の作業量が継続的に要求されるからである。基本的に試験は実施しないので、短期間の集中的な努力だけでは好結果にはつながらない。</p> <p>第2に、少なくとも新聞(一般紙)を定期的に閲読する必要がある。毎授業で当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求めるほか、新聞閲読にもとづく「ジャーナリズム日誌」は必須の課題である。</p> <p>なお、本講は出席と授業参加を重視するため、欠席が多くなることが予想される者(とくに就職活動を予定する者など)は、はじめから受講すべきでない。本講は、特定の受講者を優遇しない。全員を平等にあつた。個別的な試験なども実施しない。</p>	
準備学習の内容 <p>事前・事後とも、積極的な授業参加を前提とした新聞閲読、および各自できる範囲での追加的な学習が求められる。</p> <p>最大の課題である「ジャーナリズム日誌」の作成にあたっては、日常的な新聞閲読が必須であることはもちろん、講義内容をふまえた考察・分析をすることになる。</p> <p>通常、予習・復習ともに、講義と同程度、あるいはそれ以上の時間・労力を要する。</p>	
教科書 <p>テキストは使用しないが、受講者は最低1紙、新聞(一般紙)を定期的に閲読することになる。受講者は、毎授業に当日の新聞と「ジャーナリズム日誌」を持参し、最近のニュースについてコメントする。</p>	
参考書 <p>Bill Kovach and Tom Rosenstiel, The Elements of Journalism (Guardian Books, 2003). ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステイール、加藤岳文・斎藤邦泰訳、「ジャーナリズムの原則」(日本経済評論社、2002年)。</p> <p>Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media 9th ed. (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000). マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井渡二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳「アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から見た米国史」(松本社、2016年)。</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>受講者は、毎授業に当日の新聞と「ジャーナリズム日誌」を持参し、最近のニュースについてコメントするため、その都度、フィードバックをする。必要に応じて、大学ポータルサイトでも課題などについてフィードバックをおこなう。</p>	
成績評価の方法 <p>その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。したがって、欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位は獲得できない。日々の継続的な努力と積極的な参加が評価を大きく左右する。</p> <p>最大の課題の1つは、新聞をはじめとする報道機関に積極的に接し、それにもとづいて「ジャーナリズム日誌」をつけることである。そのために主要日刊紙を最低1紙は定期的に閲読することになる。毎授業で、最近起こった時事問題やそのなかでジャーナリズムに関わる事象について意見を尋ねるため、日誌と当日の朝刊を持参する必要がある。</p> <p>さらに、講義内容に関わる複数の課題を課す。</p> <p>評価の配分は、おおまかに、「ジャーナリズム日誌」=45%、講義内容に関わる課題=45%、その他=10%程度とする。</p>	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN141J	
経済政策特殊講義A【2022年度以降入学者】	2単位
経済政策特殊講義I【2021年度以前入学者】	1・2年次
特任教授 小西淳文	
授業の概要・到達目標 <p>副題を「開発経済学の潮流と援助戦略の変遷」とし、各時代を席巻した理論とそれに基づく援助プロジェクトの成功例・失敗例を確認し、それぞれの理論の射程と限界を確認する。このような歴史的経緯・事実を理解した上で、グローバル化した世界、ポスト・コロナの世界、戦乱により分断されることになるかもしれない世界の中で、どのような開発と援助を行うべきか考えることができることを目標とする。</p>	
授業内容 <p>1 回目 「講義の概要」、「国際社会の援助体制の確立(1945年～)と戦後初期のアメリカの戦略」、「日本の援助戦略」 2 回目 「国際貿易と経済状況(1960年前後)」、「GATT」、「アジア・アフリカ諸国のムーブメント」 3 回目 「第1回・2回UNCTAD(1964年・1968年)」、「プレビッシュ報告書」、「GATTケネディラウンド」、「ピアソン報告書」、「ティンバーゲン報告書」 4 回目 「第2次国連開発の10年(1971～80)」、「第3回UNCTAD(1972年)」、「第4回UNCTAD(1976年)」、「新国際経済秩序(1977年)」 5 回目 「第3次国連開発の10年(1981～90)」、「プラント委員会報告書」、「南北サミット(1981年)」 6 回目 「歴史から学ぶ(総括)」、「従属論(新マルクス主義)」、「世界資本蓄積論」 7 回目 「国連人間環境会議(1972年)」～「地球サミット(1992年)」 8 回目 「地球サミットフォロー(環境関連条約)」、「MDGs(2000年)」、「SDGs(2015年)」 9 回目 「構造調整計画」、「改良主義」、「人間開発報告」、「人間の安全保障」、「JICA課題別指針」 10 回目 「世界開発報告2011 紛争、安全保障と開発」、「JICA課題別指針」(平和構築)、 11 回目 「世界開発報告1997 開発における国家の役割」、「世界開発報告2017 ガバナンスと法」 12 回目 「世界開発報告2012 ジェンダーの平等と開発」、「JICA課題別指針」(ジェンダーと開発) 13 回目 「世界開発報告2023 移民、難民と社会」 14 回目 「世界開発報告2020 グローバル・バリューチェーン時代の貿易による開発」、「総括」</p>	
履修の注意点 <p>各回とも授業の概要を示す事前配信資料を各回の授業の前週末までにクラスウェブに掲載するので、あらかじめ必ず目を通しておいてください。</p> <p>授業では改めて本資料をクラスウェブに掲載し、事前配信資料の内容を詳しく説明します。</p>	
準備学習の内容 <p>授業での配信資料に加え、「外交青書」、世界開発銀行の「世界開発報告」、「UNDPの人間開発報告書」、「JICAホームページからアクセスできる該当資料」、「プラント委員会報告書」などから理解を深めるようにしてください。</p>	
教科書 <p>特にありません。</p>	
参考書 <p>授業での配布資料に加え、「外交青書」、世界開発銀行の「世界開発報告」、「UNDPの人間開発報告書」、「JICAホームページからアクセスできる該当資料」、「プラント委員会報告書」などから理解を深めるようにしてください。</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>各回とも受講後に小レポート(A4 1～2枚程度)の提出をお願いします。提出期限は、各回とも授業の6日後の午前8時30分までなので、厳守してください。この小レポートを評価対象としているので必ず提出するようにしてください。また、提出されたレポートに対しては、コメントを返します。</p>	
成績評価の方法 <p>1 授業後に提出された小レポート(A4 1～2枚程度)の評価(各回5%満点 計70%満点) 2 提出された期末レポート(A4 3枚以上)の評価(30%満点) 「グローバル化した世界、ポスト・コロナの世界、戦乱により分断されることになるかもしれない世界の中で、どのような開発と援助を行うべきか」がテーマ。</p>	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN141J	
経済政策特殊講義 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
経済政策特殊講義 I 【2021年度以前入学者】	1・2 年次
教授 八 木 尚 志	
授業の概要・到達目標 <授業概要> 経済政策の効果、地域経済政策の効果进行分析するための手法、特に産業連関表を用いた分析をマイクロソフトのエクセルを用いて講義をする。受講生にも実際に産業連関表のデータを用いて、Excelを用いて、経済構造の把握や政策効果の評価を行ってもらう。 公共投資や消費の増加が産業間にどのように波及するのか、新型コロナや災害などによる需要の減少がどのように地域間・産業間に波及するのか、といったマクロ経済指標ではとらえることが困難な地域間・国際間の産業連関表を用いた分析・評価の方法を取り上げる。原材料の取引などの中間財の取引の連鎖を記述した産業連関表を用いると、より詳細な分析に基づいた産業構造の特性や生産・分配・支出の取引のネットワークを知ることができる。 日本では、全国表、地域表・地域間表、都道府県表、市町村表・市町村間表などの国内で4階層の産業連関表が作成されており、公的機関が公表している産業連関表は、100近く存在する。海外でも多くの国で産業連関表は作成されており、国際産業連関表もOECD、EUなどをはじめ多数作成されている。この講義では、これらの産業連関表を活用して、経済構造や政策効果の分析を行うための分析手法をコンピュータを用いた演習を交えて習得することを目指している。 <到達目標> 産業連関分析の基本的な分析手法から、地域産業連関表を用いた分析の事例や政策効果の分析、国際産業連関表や地域間産業連関表などの多地域間産業連関表の分析手法、など、最近の産業連関分析の手法について理解を深め分析を行う力をつけることを目標とする。	
授業内容 第1回 産業連関表を基礎とした理論、データ、政策の関係について 第2回 マイクロソフトのExcelを用いた計算の方法 第3回 分析のための基礎理論と政策の波及効果の分析 第4回 経済政策による生産誘発効果、雇用誘発効果、付加価値誘発効果 第5回 国及び地域(都道府県・市町村など)の経済構造と政策波及効果の比較の方法 第6回 国際間の政策波及効果 第7回 地域間の政策波及効果(1) 第8回 地域間の政策波及効果(2) 第9回 地域間の政策波及効果(3) 第10回 産業連関表を用いた政策効果の予測 第12回 産業連関表を用いた政策効果の予測 第13回 レオンチェフの価格モデルと費用構造分析のモデル(八木モデル) 第14回 実際の産業連関表を用いた演習(レポート課題のための準備)	
履修の注意点 コンピュータを利用できる演習室での実施を予定しています。受講希望者が多い場合には、人数制限を行います。 授業はコンピュータ演習を伴うものなので、遅刻や欠席をしないように留意してください。	
準備学習の内容 事前に予習できる内容とやや理論的に難しいものがあります。事前に予習できるものについては授業で案内をします。 復習としては、授業で説明した分析手法を数値例を用いて計算をしてください。そのための課題を出します。	
教科書 授業用のExcelファイルを配布します。	
参考書 基礎的な内容については、総務省産業連関表・総合解説編を参考にしてください。 URL: https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/10/015index.html また少し進んだものでは、土居英二・土居英二か、『はじめよう地域産業連関分析 改定版』日本評論社 浅利一郎・ほか『地域間産業連関分析の理論と実際』日本評論社 宮沢健一『産業連関分析入門』日経文庫 産業連関分析の手法については、授業中に案内します。 絶版になっている著書も多いので、必要に応じてプリントを配布します。	
課題に対するフィードバックの方法 各回とも受講後に小レポート(A4 1~2枚程度)の提出をお願いします。この小レポートを評価対象としているので必ず提出するようにしてください。また、提出されたレポートに対しては、コメントを返します。 提出期限は、各回とも授業の6日後の午前8時30分までなので、厳守してください。	
成績評価の方法 1) 通常授業での課題の成果(70%) 2) 期末レポート(30%) 注意: 遅刻はしないでください。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN141J	
経済政策特殊講義 B 【2022年度以降入学者】	2 単位
経済政策特殊講義 II 【2021年度以前入学者】	1・2 年次
特任教授 小 西 淳 文	
授業の概要・到達目標 日本及び国際社会の環境問題への取り組みを理解し、環境課題に対処しつつ成長を促す方法を模索することができること。 トピックとして、JICAが実施したプロジェクトの成果とそこで使われた科学技術やイノベーション技術についても紹介する。	
授業内容 1 回目 「持続可能な開発～成長と環境の調和～ 講義の概要」 トピック: 「ツバル 沈みゆく島?」 2 回目 「日本の環境問題の歴史と二国間協力」 トピック: 「インドネシア ヘイズ」 3 回目 「人間環境会議(1972年)」 トピック: 「タイ 酸性雨対策」 4 回目 「国際社会の協体制確立と日本の開発途上国支援」 トピック: 「タイ 環境研修センター」、「中国 日中友好環境保全センター」 5 回目 「国連地球環境会議(1992年)と国際条約」 トピック: 「ブータン ヒマラヤ氷河湖決壊洪水」 6 回目 「大気関連」 トピック: 「中南米 オゾン層の保護」 7 回目 「海洋関連、廃棄物管理」 トピック: 「フィリピン 沿岸生態系保全」、「ブータン 廃棄物管理」 8 回目 「森林の保全」 トピック: 「ブラジル アマゾン森林地帯の炭素量評価ほか」 9 回目 「生物多様性条約」 トピック: 「ガボン 森林生態系保全と科学的エコツーリズム」 10 回目 「気候変動枠組み条約」 トピック: 「タイ チャオプラヤ川の大洪水」 11 回目 「MDGs(2000年)、感染症対策」 トピック: 「Neglected Tropical Diseases」 12 回目 「ヨハネスブルグサミット(2002年)」 トピック: 「東部・南部アフリカの気象予測」、「南部アフリカ 気候変動とダイヤモンド現象」 13 回目 「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」 トピック: 「防災、減災」、「フィリピン 火山」、「チリ 地震・津波」 14 回目 「SDGs(2016年)」 トピック: 「セネガル ダカール首都圏開発」、「アジア 低炭素社会シナリオの開発」 なお、時事問題との関連が深い項目については、そのタイミングで取り上げることにするので、講座の順序が入れ替わることがあります。2023年度は、第27回気候変動枠組み条約の締約国会議が開催されたタイミングで、関連授業を取り上げました。 また、時流に応じたトピックとする参考事例については、変更することもあるのでご留意ください。	
履修の注意点 各回とも授業の概要を示す「事前配信資料」をクラスウェブに掲載するので、あらかじめ必ず目を通しておいてください。 授業では改めて本資料をクラスウェブに掲載し、事前配布資料の内容を詳しく説明します。	
準備学習の内容 「国際協力機構ホームページ→研究者の方→JICA図書館ポータルサイト→JICA報告書・図書・雑誌」にアクセスし、各課題の理解を深めるように努めてください。関連情報が多々あります。	
教科書 特にありません。 授業で使用する資料の理解に努めるとともに、関連情報が掲載されているJICAのホームページにアクセスして理解を深めてください。	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 各回とも受講後に小レポート(A4 1~2枚程度)の提出をお願いします。この小レポートを評価対象としているので必ず提出するようにしてください。また、提出されたレポートに対しては、コメントを返します。 提出期限は、各回とも授業の6日後の午前8時30分までなので、厳守してください。	
成績評価の方法 1 授業後に提出された小レポート(A4 1~2枚程度)の評価(各回5% 計70%) 2 提出された期末レポート(A4 3枚以上)(30%)の評価 「各自関心のある環境課題とその対策に向けた提言」がテーマ。	
その他	

科目ナンバー：(PE) IND111J	
就業力育成総合講座B【2022年度以降入学者】	2単位
就業力育成総合講座II【2021年度以前入学者】	1・2年次
特任教授 小西淳文	
授業の概要・到達目標 講師（JICA職員、外務省員としての経験あり）による講和と意見交換に加え、様々な組織の一員として国際社会で活躍される方々10名を外部講師としてお招きし、各々の業務内容を紹介していただくとともに、学生時代に取り組んでいたことなど、貴重なアドバイスを頂ける授業としています。国際社会での活躍を検討している学生さんがその実現に向けた課題を整理し、実践できることが目標。	
授業内容 1回目 国際社会で活躍できる職業の概要説明（小西） 2回目 外務省員による講和と意見交換（順不同） 3回目 JICA職員による講和との意見交換（順不同） 4回目 JICA在外事務所企画調査員による講和と意見交換（順不同） 5回目 JOCV経験者による講和と意見交換（順不同） 6回目 開発系コンサルタントによる講和と意見交換（順不同） 7回目 中間総括（小西） 8回目 開発系一般財団役員による講和と意見交換（順不同） 9回目 リサーチ&コンサルティング社員による講和と意見交換（順不同） 10回目 開発系NPO職員による講和と意見交換（順不同） 11回目 一般NGO職員による講和と意見交換（順不同） 12回目 国際連合職員による講和と意見交換（順不同） 13回目 国際機関職員による講和と意見交換（順不同） 14回目 総括（小西） （外部講師の招聘は調整中で、所属先等一部変更があるかもしれませんが、都合のつく方10～11名を想定しています。）	
履修の注意点 外部講師の講話時に、明治大学の学生として恥ずかしくない態度で臨むよう心掛けてください。	
準備学習の内容 各回とも講師が使用されたプレゼン資料をクラスウェブに掲載するので、復習に利用してください。 また、各講師から紹介された書籍や資料を熟読されることをお勧めします。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。 なお、各講師から紹介された書籍や資料を熟読されることをお勧めします。	
課題に対するフィードバックの方法 各回とも講話に対する感想やコメント、質問事項などを小レポート（A4 1～2枚）にまとめ、提出してください。 テーマ「講師（小西）や外部講師の講話と意見交換を通じて考えたこと」 提出された小レポートには、講師（小西）や外部講師のコメントや質問への回答をフィードバックします。	
成績評価の方法 1 小レポート（A4 1枚程度）の提出 テーマ「講師（小西）や外部講師の講話と意見交換を通じて考えたこと」（各回5% 計70%） 2 期末レポート（A4 1ページ程度、記入様式あり）（30%） テーマ「この講座を受けて確認できた自分自身の課題を5項目あげ、アクションプランを作成すること」 なお、アクションプランには到達目標となる指標とスケジューリングを明記すること。	
その他 特にありません。	

科目ナンバー：(PE) IND111J	
就業力育成総合講座D【2022年度以降入学者】	2単位
就業力育成総合講座IV【2021年度以前入学者】	1・2年次
教授 奥山雅之	
授業の概要・到達目標 休業業・解散した企業のうち、直前期の業績データが判明している企業についての集計によると、2019年において約61%の企業が当期純利益が黒字である（中小企業庁）。また、企業の後継者不在率は約6割となっている（帝国データバンク調査）。他方、農業においても、販売農家戸数は133万戸、そのうち後継者がいるのは65万戸と、半分に満たない状況となっている（2015年農林業センサス）。一定程度の業績を上げながら、あるいは社会的にも意義ある事業を実施しながら、休業業・解散に至る事業者の貴重な経営資源を散逸させないためには、意欲ある次世代の経営者や第三者などに事業を引き継ぐ取組が重要であり、これは個別事業者の経営問題を超越して、社会問題となっている。 本講座は、こうした背景のもと、将来の後継者となる者だけでなく、地域のリーダーとして活躍したい者、地方自治体の職員、税理士やコンサルタント、地域金融機関あるいは地域社会に密接する企業に勤務したいと考えている学生を対象に、地域社会の有形資産、地域雇用、権能、理念、自然環境、文化、規範、ブランド、紐帯などを次の世代に引き継ぐ「社会的事業承継」を主導する「地域リーダー」としての基礎的な知識を習得を目的とする。 なお、この講座はメディア授業（オンライン併用）として開講されるため、駿河台キャンパス以外の学生もキャンパスを移動せず受講可能となっている。	
授業内容 第1回：イントロダクション：なぜ今、「あとつぎ」なのか？（奥山雅之） 第2回：企業の承継問題と地域の産業発展（政治経済学部専任教授 森下正） 第3回：「あとつぎ」までの道のり（一般社団法人次世代経営協会理事長 高橋秀仁） 第4回：「あとつぎ」から「経営者」になるために（一般社団法人次世代経営協会理事長 高橋秀仁） 第5回：先代や先輩とどうつきあうか（外部講師 調整中） 第6回：伝統産業の承継（SPEACE代表 八木温子） 第7回：地域のコミュニティへの参画（政治経済学部専任准教授 藤本積彦） 第8回：農林水産業の承継問題（農業・食品産業技術総合研究機構 澤野久美） 第9回：事業承継の実際：農林水産業を引き継ぐ（株式会社みやじ豚 宮治勇輔） 第10回：事業承継の実際：第三者の事業を引き継ぐ（企業経営者 調整中） 第11回：事業承継・地域発展プラン作成の要点（奥山雅之） 第12回：事業承継・地域発展プラン作成演習（奥山雅之） 第13回：事業承継・地域発展プランの発表（外部講師、奥山雅之） 第14回：事業承継・地域発展プランの発表（外部講師、奥山雅之） 一部の講師は現在調整中。詳細は決定次第、Oh-olMeijiクラスウェブに掲載する。	
履修の注意点 事業承継問題は、中小企業や農業者の経営課題だけでなく、政策や地域経済などの政治経済的課題、税制などの法的問題、ファミリービジネスの所有やビジネス文化などの社会的問題などの複合的、学際的領域であり、多面的なアプローチが必要である。このため、日頃より、地域産業や事業承継に関する新聞記事などに興味を持って触れておく必要がある。 また、外部から講師を招聘する講座ですので、講師への礼を失うことがないように、能動的に学ぼうとする姿勢をもって、講義に真剣に向き合うことが求められる。	
準備学習の内容 ほぼ毎回、講義終了時に講師から出される課題レポートを提出期限を守ってOh-ol Meijiクラスウェブにアップすることが求められる。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 とくに指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法 レポートが提出された場合には、必要に応じて次回講義において総括的なコメントによってフィードバックする。	
成績評価の方法 この講座の成績評価は、 (1) 授業への参加・貢献度（平常点に加えて、クラスに向けての発言など、能動的な参加態度を授業への貢献として加点する） (2) 毎回のレポート提出状況（毎回、講師から出される課題レポートを提出期限を守ってOh-ol Meijiシステムにアップすること） (3) 最終レポート（事業承継プラン）の内容 以上の(1)(2)(3)によって総合的に評価する。 定期試験は実施しない。	
その他 この講座はメディア授業（オンライン併用）として開講されるため、駿河台キャンパス以外の学生もキャンパスを移動せず受講可能となっている。ただし、対面授業を基本とし、他キャンパスからの受講者がいない場合には全面対面授業とする。	

科目ナンバー：(PE) ABR111J	
留学基礎講座	2単位
	1・2年次
特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 本講座は、海外留学プログラムへの参加に関心のある学生を対象とする準備講座です。授業では十分な事前指導を行い留学に必要な基礎知識、出願から実際の留学に至るまでのガイダンスを提供することで、留学をより容易に進めることを目的としています。海外の大学で通用する実践的な英語力を含む基礎的かつ必要なアカデミック・スキルを身につけます。 本講座の到達目標は、次の2点です： 1. 履修者が自ら留学の出願や留学計画を適切に決定するために、留学をしっかりと理解ができること； 2. 英語の能力とスキルを磨き、海外の大学レベルの授業に特化した基礎的なアカデミック・スキルを取得すること。 本講座は基本的に日本語と英語を使用しますが、英語練習のため、英語のみの授業も行います。	
授業内容 (変更の可能性あります) 第1回：オリエンテーション 第2回～第4回：留学申請について 第5回～第8回：留学に学習スキルの向上 第9回～第10回：授業の予習・復習と試験に必要な準備 第11回～第13回：アカデミック・ライティングとプレゼンテーション 第14回：復習・まとめ	
履修の注意点 本講座は、TOEIC 550以上又はTOEFL iBT 61 / CBT 173 / PBT 500以上のいずれかのスコアを持つ学生を対象とします。ただし、これらのスコアは協定校留学プログラムの要件を反映したものではありませんので、希望する留学先の大学で必要とされるスコアを確認して、そのスコアを目安として前もって相当する英語学習をしっかりと達成しましょう。 真剣に留学を検討している学生にとっては、日本の大学と海外の大学との授業の進め方や期待される学習レベルの違いを理解し、受け入れることが重要です。履修者には積極的な行動と前向きな受講姿勢、留学経験で何を学び、何を達成したいのかを明確にする自律した学習者になることが望まれます。 ほとんどの教室内でのアクティビティは学生が発言したり、自らの考えを表現したり、クラスのメンバーと意見交換したりすることとなるため、協力的な態度で積極的に授業に参加することが必要不可欠です。 注意： 秋コース（基礎講座）に履修する学生は、春コース（準備講座）を受講する必要はありません。留学講座は、どちらか一つだけを選んで受講してください。	
準備学習の内容 履修者は授業が始まる前までに、ディスカッションや学習活動に関与できるように十分に予習をして、出席してください。また、与えられた時間内に宿題、授業内外の課題やグループワーク、プレゼンテーション等の事前準備に取り組み、すべての課題を完遂してください。メモをとるためのノートと配布プリントをまとめるためのファイルを各自用意して必ず持参してください。	
教科書 教科書は特に使用しません。必要に応じて授業中にプリントを配布します。	
参考書 特にありませんが、新聞・テレビ・インターネット、その他のメディアを通して、興味のある留学先の国に関連する情報を読んでメモを取り、収集することを習慣づけてください。 常に辞書（和英・英和・英英辞書）を持参すると授業に役立ちます。スマホの辞書アプリに関しては教員の許可を得て、使用しても構いません。授業中にノートPCやタブレットなどの電子機器は学習以外の使用禁止です。	
課題に対するフィードバックの方法 学生は授業中に教授から直接課題に対するフィードバックやアドバイスを受けることができます。 また、必要に応じて個別面談を実施します。	
成績評価の方法 授業へ積極的参加、態度・出席（30%） 授業内で実施する課題や宿題（40%） 最終プレゼンテーション・ペーパー（30%）	
その他 授業計画の詳細については、初回に配付するシラバスを参照のこと。	

科目ナンバー：(PE) ABR111J	
留学準備講座	2単位
	1・2年次
特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア L.	
授業の概要・到達目標 本講座は履修者が留学先の国について日常生活、価値観、習慣、伝統などのさまざまな側面や状況を入念に調べて、日本文化と比較することにより、留学先の人々や文化への理解を深めることを授業目標としています。しかも異文化能力の育成と、さらなる国際的な視野や考え方を身に付ける機会を提供します。留学プログラムに参加する予定の学生、または参加しようとしている学生は基礎的なアカデミック・トレーニングと共に実践的な留学先国の知識を得て語学学習の指導も受けられます。このクラスでは以下のことができるようになります： 1. 留学経験の重要性や価値、そのメリットが個人の成長及び自分の将来計画とどのようにつながるかを理解できるようにします； 2. 海外大学レベルの授業の困難さを乗り越えられるように、基本的なアカデミック・スキルと学習スキルに磨きをかけます； 3. 留学先での学生生活において、さまざまな場面でのコミュニケーションや交流のために、個人的・社会的なレベルで自信とスキルを身につけることができます。 履修者は学問的な学習や海外生活のための知識やスキルをさらに上げるように、このクラスで他の留学準備に役立つ授業から得た知識を拡充することができます。また留学経験を成功に導くために、英語による教育を受ける備えとして教室での学習や交流に役立つコミュニケーションスキルとストラテジーの指導も行います。留学に対する意識を高めながら、新しい文化と環境への取組みに際し学生が必ず学ぶべきスキルである問題解決能力（トラブルシューティング）と批判的思考力（クリティカル・シンキング）も養います。 本講座は基本的に日本語と英語を使用しますが、英語練習のため、授業中にレッスンは英語で行います。	
授業内容 (変更の可能性あります) 第1回：オリエンテーション 第2回～第7回：留学準備ガイダンス／アカデミック・スキルの指導 第8回～第13回：留学先の国についてテーマ別調査・発表・ディスカッション 第14回：復習・まとめ	
履修の注意点 本講座は、TOEIC 550以上またはTOEFL iBT 61 / CBT 173 / PBT 500以上のいずれかのスコアを持つ学生を対象とします。留学を希望している、または、留学を決められた履修者にとっては、日本の大学と海外の大学との授業のあり方や期待される学習態度や内容の違いを理解し、受け入れることが重要です。履修者には積極的な行動と前向きな受講姿勢、留学経験で何を学び、何を達成したいのかを明確にする自律した学習者になることが望まれます。ほとんどの教室内でのアクティビティは学生が発言したり、自らの考えを表現したり、クラスのメンバーと意見交換したりすることとなるため、協力的な態度で積極的に授業に参加することが必要不可欠です。 注意： 本講座は、教室で使う英語を練習したり慣れたりすることができますが、語学の授業ではないことに注意してください。 春コース（準備講座）に履修した学生は、秋コース（基礎講座）を受講する必要はありません。留学講座は、どちらか一つだけを選んで受講してください。	
準備学習の内容 履修者は授業が始まる前までに、ディスカッションや学習活動に関与できるように十分に予習をして、出席してください。また、与えられた時間内に宿題、授業内外の課題やグループワーク、プレゼンテーション等の事前準備に取り組み、すべての課題を完遂してください。	
教科書 教科書は特に使用しません。必要に応じて授業中にプリントを配布します。	
参考書 特にありませんが、新聞・テレビ・インターネット、その他のメディアを通して、留学先の国に関連する情報を読んでメモを取り、収集することを習慣づけてください。 常に辞書（和英・英和・英英辞書）を持参すると授業に役立ちます。スマホの辞書アプリに関しては教員の許可を得て、使用しても構いません。授業中にノートPCやタブレットなどの電子機器は学習以外の使用禁止です。	
課題に対するフィードバックの方法 学生は授業中に教授から直接課題に対するフィードバックやアドバイスを受けることができます。 また、必要に応じて個別面談を実施します。	
成績評価の方法 授業へ積極的参加、態度・出席（30%） ディスカッションの提出物や発表（40%） その他、授業内で実施する課題や宿題（30%）	
その他 授業計画の詳細については、初回に配付するシラバスを参照のこと。	

科目ナンバー：(PE) LAW191J	
憲法	4 単位
	1・2 年次
兼任講師 松 井 直 之	
授業の概要・到達目標 ・私たちの生活のルールである様々な法の基本である日本国憲法は、私たちの人権を保障し、国の仕組みを規定し、実は身近なところにつながっています。こうした日本国憲法の様々な論点、争点を具体的な判例を紹介しながら解説していくことを通じて、日本国憲法に関する基礎的な知識、考え方を身につけていきます。 ・日本国憲法の基礎的な知識や考え方を身につけ、自分の意見を組み立てることができるようになることを目標とします。	
授業内容 第1回 平和主義（1）：立憲主義、平和的生存権、戦力、自衛隊 第2回 平和主義（2）：集団的自衛権、日米安全保障条約、国際貢献 第3回 国民主権：主権・国民の多義性、憲法制定権力 第4回 天皇：皇室典範、皇位継承、国事行為、内閣の助言と承認 第5回 選挙権：参政権、二元説、選挙運動の自由 第6回 選挙制度：立法裁量、日本の選挙制度、選挙運動の自由 第7回 国会（1）：権力分立、国民の代表機関、唯一の立法機関 第8回 国会（2）：二院制、会期、国会の権能 第9回 内閣（1）：行政、國務の総理、内閣の権限、議院内閣制 第10回 内閣（2）：内閣の位置づけ、閣議、独立行政委員会 第11回 裁判所（1）：司法、法律上の争訟、司法権の限界 第12回 裁判所（2）：特別裁判所の禁止、裁判官の良心、裁判員制度 第13回 裁判所（3）：裁判の公開、司法権の独立 第14回 地方自治：地方自治の本旨、機関と権限、条例 第15回 思想・良心の自由：思想良心、信条・内心、外部的行為 第16回 表現の自由（1）：優越的地位、検閲・事前抑制、明確性 第17回 表現の自由（2）：表現内容規制 第18回 表現の自由（3）：表現内容中立的規制、マス・メディア 第19回 集会・結社の自由：公共施設管理権、公安条例、結社 第20回 信教の自由：宗教、政教分離、制度的保障 第21回 学問の自由：天皇機関説、先端科学技術研究、大学の自治 第22回 経済的自由：移動の自由、職業の自由、財産権 第23回 社会権：生存権、教育を受ける権利、勤労権 第24回 身体の自由：適正手続、行政手続、被疑者・被告人の権利 第25回 法の下での平等：相対的平等、憲法14条後段列挙事由、家族 第26回 幸福追求権：人格権、名誉権、自己決定権 第27回 人権の享有主体：未成年者、外国人、団体 第28回 人権規定の射程：特別な公法上の関係、私人間効力、間接適用説	
履修の注意点 ・該当箇所の一読を前提に、重要な点を軸に通常の講義形式により行います。	
準備学習の内容 ・復習を中心に行うようにしてください。 ・1回目から通常の講義をするので、指定された教科書・講義資料（「Oh-ol Meiji」に掲載します）を事前に読み、分からないところを明らかにしておいてください。 ・受講後、指定された教科書・講義資料を読み直し、参考書を参照して、事前に分からなかった点が理解できるようになったかを確認してください。	
教科書 ・『大学生のための憲法』〔第2版〕 君塚正臣、大江一平、松井直之編著（法律文化社）2024年 ・『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）、『コンパクト六法』（岩波書店）などの六法を持参してきてください。	
参考書 ・『高校から大学への憲法』〔第2版〕 君塚正臣編著（法律文化社）2017年 ・『VIRTUAL 憲法』 君塚正臣＝藤井樹也＝毛利透（悠々社）2005年 ・『比較憲法』 君塚正臣編著（ミネルヴァ書房）2012年	
課題に対するフィードバックの方法 授業時に説明します。	
成績評価の方法 ・①期末試験と②授業への参加度（課題・質疑応答）を合わせて成績評価を行います。	
その他 ・講義の際に質問に答えてもらうことがありますので、国内政治や国際政治などに関心を持って積極的に参加してください。	

科目ナンバー：(PE) LAW191J	
憲法	4単位
	1・2年次
兼任講師（法） 平 松 直 登	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 日本国憲法の基本原理について、国政を行うための機構が憲法上どのように設計されているかを把握した上で、憲法の保障する人権について深い理解を得ることが可能となるような授業を行う。 【到達目標】 (1) 憲法学上の基礎的な知識（基本的概念・専門用語）を説明できること、(2) 憲法学の基本的思考方法を身につけることができること、(3) 日本国憲法がすべての国民を「個人として尊重」している意義を踏まえて、現実の憲法に関する諸問題を自ら分析・検討できること、を目標とする。	
授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：憲法の基礎知識 第3回：日本国憲法の歴史と構成 第4回：憲法改正 第5回：国民主権と象徴天皇制 第6回：平和主義 第7回：国会（1）－国会の地位・組織 第8回：国会（2）－国会の活動・権限 第9回：内閣 第10回：財政／地方自治 第11回：裁判所 第12回：違憲審査制と憲法訴訟 第13回：人権総論（1）－人権の観念 第14回：人権総論（2）－憲法上の権利の主体・適用範囲・限界 第15回：包括的基本権 第16回：法の下での平等（1）－平等の観念 第17回：法の下での平等（2）－判例の展開 第18回：思想・良心の自由 第19回：信教の自由・政教分離 第20回：表現の自由（1）－保障の意義と内容 第21回：表現の自由（2）－表現の自由規制の違憲審査手法 第22回：表現の自由（3）－表現の自由の保護範囲 第23回：集会・結社の自由／学問の自由 第24回：経済的自由 第25回：人身の自由 第26回：社会権 第27回：参政権／国務請求権 第28回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 法学の予備知識は特に必要としないが、教科書（指定の2冊）は必ず持参すること。	
準備学習の内容 事前に、シラバスを参考とし、各回の授業内容に該当する教科書のページに目を通しておくこと。 また、教科書および授業中に配布するレジュメ等の該当箇所を振り返り、レジュメにある「確認問題」を解いた上で、翌週の授業に臨み、不明な部分があれば質問をすること。	
教科書 『グラフィック憲法入門〔第2版〕』毛利透（新世社） 『憲法判例50!〔第3版〕』上田健介・尾形健・片桐直人（有斐閣）	
参考書 『憲法〔第8版〕』芦部信喜〔高橋和之補訂〕（岩波書店） 『図録 日本国憲法〔第2版〕』斎藤久・堀口悟郎編（弘文堂）	
課題に対するフィードバックの方法 各回の授業内課題・確認問題の解説は、Oh-olMeijiや授業内で行います。	
成績評価の方法 期末試験（70%）、授業への参加態度／リアクション・ペーパー等（30%）	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAW191J	
憲法	4単位
	1・2年次
兼任講師（法） 三 枝 昌 幸	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業では憲法の全体像について基礎事項を中心に講義する。最初に憲法の内容や基本原則を解説し、次に憲法が定める統治の仕組みを解説する。これらの知識を踏まえつつ、憲法が保障する基本的人権の意義や内容、限界について解説する。授業では裁判所の判決も積極的に取り上げ、具体的な憲法問題の解決方法についても検討する。 《到達目標》 憲法の基礎概念を説明できるようになること、及び基礎的な憲法問題について自身の見解を説明できるようになることを目標とする。	
授業内容 第1回 憲法とは何か 第2回 憲法の基本原則 第3回 国民主権と権力分立 第4回 象徴天皇制 第5回 国会（1） 国会の組織 第6回 国会（2） 国会の権限 第7回 内閣（1） 内閣の組織 第8回 内閣（2） 内閣の権限 第9回 裁判所（1） 裁判所の組織 第10回 裁判所（2） 裁判所の権限 第11回 裁判所（3） 違憲審査制 第12回 財政と地方自治 第13回 平和主義 第14回 a：前半のまとめ b：試験 第15回 人権総論（1） 人権の意義 第16回 人権総論（2） 人権の制約 第17回 思想良心の自由 第18回 信教の自由 第19回 表現の自由 第20回 集会結社の自由 第21回 職業選択の自由 第22回 刑事手続上の権利 第23回 生存権 第24回 勤労の権利 第25回 参政権 第26回 法の下での平等 第27回 新しい人権 第28回 a：後半のまとめ b：試験	
履修の注意点 特になし。	
準備学習の内容 次回の授業範囲について教科書の該当箇所を熟読し、重要だと思われる部分を整理しておくこと。授業後はレジュメやノートを見返し、授業内容を整理すること。分からない部分があれば質問すること。	
教科書 毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年） 上田健介、尾形健、片桐直人『憲法判例501〔第3版〕』（有斐閣、2023年）	
参考書 使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で実施する試験の結果を講評する。	
成績評価の方法 授業内試験（90%）、授業への参加態度（10%）	
その他 レジュメをOh-ol Meijiに掲載するので、授業前にダウンロードしたり印刷したりしておくこと。	

科目ナンバー：(PE) POL111J	
政治学基礎	2単位
	1・2年次
兼任講師 土肥有理	
授業の概要・到達目標 政治学の基本的な知識を習得するとともに、主権者としてある問題に対する自分なりの考えを持つ能力（言語化する力）を養う。また、シニズムに陥りがちな現状に抗するため、政治学を根本からとらえなおす。	
授業内容 第1回目：オリエンテーション／2023年の政治をふりかえる 第2回目：政治学とは何か、政治とは何か 第3回目：市民とは何か 第4回目：権力と国家 第5回目：自由とは何か 第6回目：政治体制とその転換 第7回目：政党と圧力団体、市民運動 第8回目：政治過程と自治 第9回目：世論とマスメディア 第10回目：選挙とその制度 第11回目：政策とその実施 第12回目：戦後の日本政治 第13回目：国際政治 第14回目：まとめ ※履修者の関心や時々の社会問題に応じて順番や内容を一部変更する可能性がある。	
履修の注意点 レジュメやパワーポイントを使用し、重要事項は板書する。	
準備学習の内容 事前に、教科書の該当箇所を読み、わからない用語があれば事典等で調べておくこと。また、どの新聞でもよいので、眼を通す、あるいは関心のあるテーマについて複数紙読み比べてみる、ということをやってみてほしい。	
教科書 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹編著『政治学』有斐閣	
参考書 名古忠行著『政治学のすすめ』法律文化社、2003年	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業時にコメントペーパーを配布し、いくつか紹介し、知識や質問の共有を図る。	
成績評価の方法 授業への貢献度（30%）、期末試験（70%）	
その他 私語や授業中のスマートフォンの使用は控えること。	

科目ナンバー：(PE) POL111J	
政治学基礎	2単位
	1・2年次
兼任講師 具裕珍	
授業の概要・到達目標 ニュースで伝えられる政治の出来事や、電車站の前で訴えている政治家、商店街で行われる署名活動など、私たちの身近には政治というものが存在する。この授業では、政治学の基本概念や分析ツールなどの基礎知識を学び、それを通じて私たちの身の回りの政治について考える機会を提供する。この授業を通して政治学の基礎知識を習得し、現代の日本や他国の政治を理解することを目指す。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨN 第2回目 執政制度 第3回目 選挙制度と政治のかたち 第4回目 投票行動論 第5回目 政党システムと政党組織 第6回目 議会制度 第7回目 官僚制と行政組織 第8回目 独立機関 第9回目 地方自治 第10回目 国際政治 第11回目 メディアと政治 第12回目 利益団体 第13回目 市民社会 第14回目 総括	
履修の注意点 ＊講義にはスライドを使用する。＊リアクシヨN・ペーパーを毎回提出する。	
準備学習の内容 予習として、教科書の該当箇所を読み、わからない部分を調べておく（特にディスカシヨN）。復習としては、講義に基づき、ディスカシヨNを再考し、リアクシヨN・ペーパーを提出する。	
教科書 木寺元（編）『政治学入門〔第3版〕』（弘文堂、2023年）	
参考書 講義中に紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業の冒頭で前回のリアクシヨN・ペーパーの一部を紹介・共有する。または個別に対応する。	
成績評価の方法 授業への貢献度（リアクシヨN・ペーパーなど、50%）、期末試験（50%）	
その他 授業中の私語など、授業の妨げになる行動は厳禁とする。	

科目ナンバー：(PE) POL111J	
政治理論基礎	2 単位
	1・2 年次
兼任講師 土 肥 有 理	
授業の概要・到達目標 政治学や現在社会問題となっているテーマについて、その分析資格を理解するとともに、その問題に対する自分の考えを表現（言語化）する能力を養う。	
授業内容 第1回目 オリエンテーション／政治学とは 第2回目：民主政治の起源 第3回目：民主政治の変容 第4回目：民主政治の危機①：ファシズム 第5回目：現代民主政治の展開 第6回目：民主政治の危機②：右翼ポピュリズム 第7回目：グローバル化と新自由主義 第8回目：歴史否定論と歴史修正主義 第9回目：植民地責任を問う運動 第10回目：フェミニズムとジェンダー 第11回目：差別とヘイトクライム 第12回目：ロシア・ウクライナ戦争 第13回目：パレスチナ問題 第14回目：まとめと振り返り ※履修者の関心や時々の社会情勢に応じて順番や内容を一部変更する可能性がある。	
履修の注意点 レジュメやパワーポイントを使用し、重要事項は板書する。	
準備学習の内容 どの新聞でもよいので、国際面に目を通すこと。	
教科書 特に指定しない	
参考書 川崎修・杉田敦編著『現代政治理論』有斐閣アルマ、2015年ほか、適宜提示する。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業時にコメントペーパーを配布し、いくつか紹介し、知識や質問の共有を図る。	
成績評価の方法 授業への貢献度（30%）、期末レポート（70%）	
その他 私語や授業中のスマートフォンの使用は控えること。	

科目ナンバー：(PE) POL111J	
政治理論基礎	2 単位
	1・2 年次
兼任講師 大 川 千 寿	
授業の概要・到達目標 本講義では、現代民主政治の重要な概念・理論の基本について、現代日本政治を専門とする講師の観点から説明する。現実の政治的な動き・事象を適宜取り上げながら、できる限り分かりやすく授業を進めていく。 なお、①現代民主政治の重要な概念・理論の基本を習得すること、②社会において政治が果たしている多様な役割を理解すること、③習得したことを自らの生活に活かす力を身につけることを到達目標とする。	
授業内容 第1回 はじめに—政治とは・政治学とは 第2回 民主主義 第3回 日本の民主政治 第4回 選挙①—1票の政治への反映のされ方 第5回 選挙②—なぜ投票に行き、どう投票先を決めるか 第6回 政治家—有権者の代理人の行動原理 第7回 政党①—目的・機能・組織 第8回 政党②—政党システムの諸相 第9回 議会・国会—多数決の原理と少数派の権利 第10回 首相と内閣—リーダーシップとその統制 第11回 マスメディア①—理論 第12回 マスメディア②—変わるメディアと人々に与える変化 第13回 市民と民主政治 第14回 民主政治の展開とこれから—日本、そして世界	
履修の注意点 毎回の授業用資料を事前にOh-ol Meijiにアップロードするので、授業前にダウンロード、もしくはプリントアウトし、教科書とともに手元に用意したうえで授業に臨むこと。 授業はパワーポイントを用いて進めるが、必要に応じて板書も行う。詳細は初回授業で説明する。	
準備学習の内容 各回の授業前に、授業で触れられる予定の項目について教科書・参考書やその他の政治学の文献を読んで予習しておくこと、授業の理解がしやすいだろう。 復習としては、各回の授業後に参考書や用語集なども積極的に参照しながらポイントを整理することを通して、各自で授業内容を深めていくことが重要となる。	
教科書 『つながるつなげる日本政治（第2版）』大川千寿編（弘文堂）2023年	
参考書 毎回の資料において適宜指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 各回授業後の復習課題の解説は次回授業の冒頭で行う。また、レポートの講評は口頭もしくは Oh-ol Meiji を通して行う。	
成績評価の方法 各回授業後の復習課題（Google フォームを用いる予定）：40%、2回のレポート（中間と期末）：60%。 なお、授業中に行う質問への回答内容によって、加点することがある。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL211J	
政治学原論	4 単位
	2 年次
准教授 高 山 裕 二	
授業の概要・到達目標 <p>皆さんはこれまで、主に政治がどう動いているかについて学んできたと思います。つまり、国家や地方自治体、国際機関などが通常どのような活動をしているのか、その《現象》に焦点を当てた授業を受けてきたのではないのでしょうか。</p> <p>これに対して、権力とは何か、自由や平等はどういった関係にあるか、どの程度の格差なら公正な社会と言えるか、あるいは保守主義や自由主義、社会主義とはいったい何かなど、政治をめぐるより原理的（根本的）な問いについて本講義では考えてゆきます。大別すると、これまでの授業の「経験的・実証的研究」に対して、この講義は「規範的・原理的研究」と言えます。</p> <p>政治に限らず、ある《現象》について研究・分析するには、そのよし悪しを判断する規準が必要になります。その規準となる規範理論（政治学原論）を学ぶことで、政治や社会の問題を自分で評価し、それをより良いものに変えていく知識が身につけられるはずですが、そのためには、受講生自身が政治について情報として知るだけでなく、より深く考えることが重要です。この講義は、大人数の授業になりますが、できる範囲で受講生自身が考えをまとめ、発信をする機会を多く設けたいと考えています。</p> <p>授業は、【前編】と【後編】に分かれます（前編のまとめとして第13・14回に「中間考察」を設ける）。2回を一セットとみなし、各テーマに関して1回目に従来の学術的な議論、2回目に現在の議論を紹介します。また、2回目にグループ（クラス）に分かれて考えをまとめ、発表してもらうことも予定しています。</p>	
授業内容 【前編】 第1回 イントロ 2回 政治とは何か？ 第3回 権力 4回 権力論の最前線 第5回 平等 6回 平等論の最前線 第7回 自由 8回 自由論の最前線 第9回 正義 10回 正義論の最前線 第11回 デモクラシー 12回 デモクラシー論の最前線 【中間考察】 第13回 公共性とは何か？ 第14回 「新しい公共」論について 【後編】 第15回 liberalism（近代） 16回 liberalism（現代） 第17回 conservatism（近代） 18回 conservatism（現代） 第19回 socialism（近代） 20回 socialism（現代） 第21回 nationalism（近代） 22回 nationalism（現代） 第23回 authoritarianism（近代） 24回 authoritarianism（現代） 第25回 feminism（近代） 26回 feminism（現代） 第27回 まとめ（1） 28回 まとめ（2） *受講生の履修状況を踏まえ授業内容を変更することがある。	
履修の注意点 この授業では、そのつど紹介される図書を読み、自分の考えを整理し発信するなどの「参加」が求められます。	
準備学習の内容 毎回授業の最初に、「ブリーフレポート」（確認テスト）の解説を行うので、それに基づいて各自で授業内容を復習すること。また、授業前は、授業で紹介された参考文献を各自で入手し、読んでおくこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論 [新版補訂版]』有斐閣アルマ、2024年。 ・山岡龍一・大澤津『現実と向き合う政治理論』放送大学教育振興会、2022年。 ・野口雅弘ほか編『よくわかる政治思想』ミネルヴァ書房、2021年。 ・田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論(有斐閣ストゥディア)』有斐閣、2017年。 ・瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』有斐閣、2014年。 	
課題に対するフィードバックの方法 上記「準備学習の内容」を参照のこと。	
成績評価の方法 平常点80%、試験20% *授業中に、2回に1度実施予定の「ブリーフ・レポート」（原則、授業中の「問い」に答えてもらう形式の当日提出型レポート）や、プレゼンテーション（クラスごとに考えをまとめ発表）などで評価する。 *試験は、最後の授業に、拡大版「ブリーフ・レポート」として実施する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL211J	
政治学原論	4単位
	2年次
兼任講師 安野修右	
授業の概要・到達目標 本講義は、一つの学問分野としての政治学の俯瞰図を学生に提供し、そのうえで学生が自らの知的関心と政治学にある個々の下位領域との接点を見出せるようになること、もっと具体的にいえば学生が自身の関心のある下位領域に属する論文を読めるようになることを目的としている。それにあたり①現状の政治学において重要であると認識されている研究対象、②重要であると認識されている研究手法とその実例（実例については可能な限り前者の議論において重要とされる文献を採用する）について、各々説明する。	
授業内容 第1回目 ガイダンス 第2回目 政治学の見取図 第3回目 現代政治の基礎概念①：政治について 第4回目 現代政治の基礎概念②：権力について 第5回目 現代政治の基礎概念③：国家について 第6回目 現代政治の基礎概念④：民主政治について 第7回目 現代政治の基礎概念⑤：選挙について 第8回目 政治研究の系譜と研究手法の発展 第9回目 因果推論の構成要素 第10回目 推論が成立する要件 第11回目 推論の実例としてのダールの民主主義論 第12回目 事例選択の戦略①：単一事例研究の場合 第13回目 事例選択の戦略②：比較事例研究の場合 第14回目 事例選択の実例：伝統的な主題の現状 第15回目 質的研究の概要③：インタビュー法について 第16回目 質的研究の概要④：参与観察法について 第17回目 質的研究の実例：日本で政治家はどのように「誕生」するのか 第18回目 量的研究の概要①：記述統計 第19回目 量的研究の実例①：地域格差とポピュリズムの台頭 第20回目 量的研究の概要②：推測統計 第21回目 量的研究の実例②：選挙研究の現状 第22回目 実験研究の概要 第23回目 実験研究の実例：誰が陰謀論を信じるのか 第24回目 演繹的手法の概要①：合理的選択理論 第25回目 演繹的手法を用いた研究の実例①：政治家の最大の目的は何か 第26回目 演繹的手法の概要②：ゲーム理論 第27回目 演繹的手法を用いた研究の実例②：日本政治と利益誘導 第28回目 まとめ：政治研究は価値中立的でありうるか？	
履修の注意点 特に条件は設けていないが、授業で学習した内容を現実政治に当てはめながら理解する態度があるとよい。	
準備学習の内容 予習・復習を行うこと。講義では次回使用する資料を提示する場合がありますので、それを事前に読むこと。また講義で扱った文献のうち興味のあるものについてもよく読むこと。	
教科書 特に指定はしない。授業中に用いる参考文献については、その都度詳細を示す。	
参考書 加藤淳子・境家史郎・山本健太郎『政治学の方法』（有斐閣アルマ、2014年） 久米郁夫『原因を推論する』（有斐閣、2013年） 野村康『社会科学の考え方』（名古屋大学出版会、2017年） 吉田敬『社会科学の哲学入門』（勁草書房、2021年）	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーの質問事項については、次回の授業の際に説明する。	
成績評価の方法 リアクションペーパーの提出・内容（20%）、レポート（80%）により総合的に判断する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) POL221J	
行政学基礎	2 単位
	2 年次
教授 西 村 弥	
授業の概要・到達目標 《授業の到達目標》 「行政の肥大化」が指摘され、数次にわたる行政改革が行われてきたにもかかわらず、わが国行政の果たす役割は拡大を遂げてきた。規制改革が進められる一方で、一年間に数百の許認可が新設されている。行政機関の長である総理とその閣僚たちに対する注目度は、国会両院の議長や委員長の比ではない。本講義では、行政についての基礎的な知識を身につけることはもちろんのこと、これからの行政に求められる役割や、無数の行政批判論や擁護論の当否について、自ら考える力をつけることを目標とする。 《授業の概要》 行政学基礎では、近代以降における行政の守備範囲の変遷と拡大について把握するとともに、議院内閣制や大統領制、あるいはそれを支える官僚制や行政機構等、現代行政を構成する基本的な「制度」について理解を深める。また、後半では、長らく改革の対象とされながら、もっとも変動の少ない分野である公務員制度について多様な観点からとりあげ、現代公務員制度の意義と課題について光をあてる。	
授業内容 第1講 行政学基礎では何を学ぶか？（行政とは？） 第2講 立法国家から行政国家へ 第3講 日本における特徴と各国政府 第4講 議院内閣制と大統領制①：支持基盤と政策立案 第5講 議院内閣制と大統領制②：閣僚と官僚、首相公選制 第6講 官僚制①：家産官僚制、近代官僚制の構成要件 第7講 官僚制②：官僚制の逆機能、政治家・官僚それぞれの責任 第8講 日本の行政機構①：ラインとスタッフ、独任制と合議制 第9講 日本の行政機構②：警察組織からキャリア制度・合議制を考える 第10講 公務員制度①：国家公務員の給与制度 第11講 公務員制度②：各国の公務員制度、開放型任用制と閉鎖型任用制 第12講 公務員制度③：戦前の官吏制度、キャリアとノンキャリア 第13講 公務員制度④：事務官と技官、天下り 第14講 公務員制度⑤：国家公務員の義務、分限処分と懲戒処分	
履修の注意点 この講義を履修するにあたっては、行政学の素養を広く身につけるため、「行政理論基礎」を受講することが望ましい。	
準備学習の内容 日常生活の中のある場所と場面に「行政」は関与している。公務員がいるところだけが「行政の現場」ではない。日常生活の中にどのように行政が関与しているか、しっかりアンテナを立てておくこと。それによって、行政学をより実のある形で深く理解できる。また、行政についての基礎的な知識・理論を学ぶ教科であることから、ノートをもとにしっかりと復習し、知識を定着させること。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 中邨章『感染症危機管理と自治体』ぎょうせい、2023年。 真淵勝『行政学〔新版〕』有斐閣、2020年。 石見豊『日本の公共経営』北樹出版、2014年。	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に実施する小テストに学生のコメント欄（記入任意）を設け、教員からフィードバックを行う。共有すべきと判断した質問やコメントについては「お知らせ」機能を使用して共有する。	
成績評価の方法 原則として毎回の授業で実施する小テスト30%、期末試験70%で評価する。 希望者には、「期末試験より前」の時点で課題図書レポートを課す予定である。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL221J	
行政理論基礎	2 単位
	2 年次
教授 西 村 弥	
授業の概要・到達目標 《授業の到達目標》 「行政の肥大化」が指摘され、数次にわたる行政改革が行われてきたにもかかわらず、わが国行政の果たす役割は拡大を遂げてきた。規制改革が進められる一方で、一年間に数百の許認可が新設されている。行政機関の長である総理とその閣僚たちに対する注目度は、国会両院の議長や委員長の比ではない。本講義では、行政についての基礎的な知識を身につけることはもちろんのこと、これからの行政に求められる役割や、無数の行政批判論や擁護論の当否について、自ら考える力をつけることを目標とする。 《授業の概要》 行政理論基礎では、行政機関の「活動」について理論と実際の両面から光をあてる。最新の動向にも配慮しながら、わが国の行政において、政策、ヒト（定員）、カネ（予算決算）がこれまでどのように運用・管理されてきたのか概観する。最後に、改革の対象として注目されてきた特殊法人や独立行政法人等の外郭団体との関係、および、行政改革を支える理論的動向について理解を深める。	
授業内容 第1講 行政理論基礎では何を学ぶか？（行政の商品＝政策） 第2講 政策形成①：政策課題の設定と担当者、「政策の窓」理論 第3講 政策形成②：私的諮問機関、審議会と稟議制 第4講 政策形成③：政策立案とココの調整、次官連絡会議と官房副長官（事務） 第5講 政策形成④：内閣と大臣、閣議とその実態 第6講 政策形成⑤：政務調査会と事前審査、国会審議の形骸化 第7講 政策形成⑥：政行二分論と政行融合論、政策形成と政官関係 第8講 人事・定員①：日本の公務員数、二つある「人事」機関 第9講 人事・定員②：総定員法とその効果、定員管理と省内人事 第10講 予算・決算①：予算の種類、予算編成のプロセス 第11講 予算・決算②：予算編成における課題、骨太の答申と入札制度 第12講 予算・決算③：3つのEと会計検査院、決算の課題 第13講 企画と実施の分離①：NPM、特殊法人と独立行政法人 第14講 企画と実施の分離②：民営化・特殊会社とは、完全民営化と privatization	
履修の注意点 この講義を履修するにあたっては、行政学の素養を広く身につけるため、「行政学基礎」を受講することが望ましい。	
準備学習の内容 日常生活の中のある場所と場面に「行政」は関与している。公務員がいるところだけが「行政の現場」ではない。日常生活の中にどのように行政が関与しているか、しっかりアンテナを立てておくこと。それによって、行政学をより実のある形で深く理解できる。また、行政についての基礎的な知識・理論を学ぶ教科であることから、ノートをもとにしっかりと復習し、知識を定着させること。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 中邨章『感染症危機管理と自治体』ぎょうせい、2023年。 真淵勝『行政学〔新版〕』有斐閣、2020年。 石見豊『日本の公共経営』北樹出版、2014年。	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に実施する小テストに学生のコメント欄（記入任意）を設け、教員からフィードバックを行う。共有すべきと判断した質問やコメントについては「お知らせ」機能を使用して共有する。	
成績評価の方法 原則として毎回の授業で実施する小テスト30%、期末試験70%で評価する。 希望者には、「期末試験より前」の時点で課題図書レポートを課す予定である。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) SOC211J	
社会学 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
社会学 【2021年度以前入学者】	1・2 年次
教授 鍾 家 新	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 社会学は社会科学の一つであり、近代以降の社会を中心に研究する学問である。この授業では、社会学の由来・研究対象・基本概念・研究方法・視点・考え方、政治・統治、言語共同体、植民地・異文化などにたいする応用分析を中心に、社会学という学問の考え方・特徴・分析手法と近現代社会の仕組みを説明していく。 《授業の到達目標及びテーマ》 この授業の到達目標は、＜1＞社会学の基礎知識、＜2＞社会的想像力、＜3＞日中社会など現代社会の比較分析能力、＜4＞自己分析力と自己相対化力、を身につけさせていくことである。 この授業のテーマは、＜1＞社会学の誕生の背景・研究対象・基本概念・研究方法・社会学の考え方を基礎から学ぶことと、＜2＞近代国家と最高権威の再構築、＜3＞自国言語の廃止論からみた非西洋近代化の苦悩、＜4＞台湾統治をめぐる後藤新平の中国認識と日本認識など、具体的な社会現象を分析することである。これら分析することによって、社会学という学問体系の概要を習得し、①日中の近代化における表と裏、②現代社会における個人と社会の関係の本質を探る。社会学と現代社会への認識を深めることは自己認識を深めることである。	
授業内容 第1回：社会学の定義 第2回：社会学の価値と意義 第3回：社会学の研究対象(1) 第4回：社会学の研究対象(2) 第5回：社会学の基本概念 第6回：社会学の研究方法 第7回：政治・統治Ⅰ：天皇と天皇制 第8回：政治・統治Ⅱ：毛沢東と中国共産党体制 第9回：政治・統治Ⅲ：日本と中国の最高権威の異同とゆくえ 第10回：言語共同体Ⅰ：日本の近代化における漢字廃止論・日本語廃止論・日本語賛美論 第11回：言語共同体Ⅱ：中国の近代化における漢字廃止論・中国語廃止論・中国語賛美論 第12回：言語共同体Ⅲ：言語と社会凝集力 第13回：植民地・異文化Ⅰ：台湾統治をめぐる後藤新平の中国認識と日本認識 第14回：植民地・異文化Ⅱ：後藤新平の台湾統治策 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 学習効果の向上のため、「社会学A」・「社会学B」という両科目を併せて履修したほうが望ましい。	
準備学習の内容 事前に、配布した資料と教科書の該当箇所を読むこと。授業後、復習すること。	
教科書 『社会凝集力の日中比較社会学』鍾家新（ミネルヴァ書房）2016年。	
参考書 ①『自殺論－社会学研究』E. デュルケム著、宮島喬訳（中公文庫）。 ②『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. ウェーバー著、大塚久雄訳（岩波文庫）。 ③『社会学の根本問題－個人と社会』G. ジンメル著、清水幾太郎訳（岩波文庫）。 ④『社会学』A・ギデンズ著、内田健他訳（而立書房）。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 ①平常点と②期末の筆記試験によって評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC211J	
社会学 B 【2022年度以降入学者】	2 単位
社会学 【2021年度以前入学者】	1・2 年次
教授 鍾 家 新	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 社会学は社会科学の一つであり、近代以降の社会を中心に研究する学問である。この授業では社会学という学問の基礎を創った、E.デュルケム、M.ウェーバー、G.ジンメルという三巨匠のそれぞれの経歴・社会学の特徴・代表作を学習し、社会学の基本的な考えにたいする理解をさらに深める。また、貧困・福祉、移民・エスニシティ、国家・国民などを中心に現代社会の仕組みや個人と社会との関係について、社会学という分析手法で説明していく。 《授業の到達目標及びテーマ》 この授業の到達目標は、＜1＞社会学の基本的な視点・考えに基づく理解力、＜2＞現代社会を総合的に分析する力、＜3＞現代社会、とくに日本社会と中国社会に関する国際比較分析を行う力、を身につけさせていくことである。 この授業のテーマは、＜1＞E.デュルケム、M.ウェーバー、G.ジンメルという三巨匠のそれぞれの経歴・社会学の特徴・代表作を学ぶことと、＜2＞日中の社会保障の構築と伝統文化、＜3＞在日華僑華人にとつての＜日本＞と＜中国＞、＜4＞中国残留孤児にとつての＜中国＞と＜日本＞など、具体的な社会現象を分析することである。これら分析することによって、社会学の視点と考え方をさらに習得し、日中の近代化における表と裏、現代社会における個人と社会の関係の本質を探る。社会学と現代社会への認識を深めることは自己認識を深めることである。	
授業内容 第1回：E.デュルケムの経歴・代表作・社会学の特徴 第2回：社会学の名著〔1〕：E.デュルケム『自殺論－社会学研究』主な視点・考え方 第3回：貧困・福祉Ⅰ：中国の社会保障制度の構築・運営と「伝統文化」 第4回：貧困・福祉Ⅱ：中国の「伝統文化」への社会保障体系化の影響 第5回：貧困・福祉Ⅲ：日本の社会保障制度の構築と「伝統文化」 第6回：M.ウェーバーの経歴・代表作・社会学の特徴 第7回：社会学の名著〔2〕M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の主な視点・考え方 第8回：移民・エスニシティⅠ：在日華僑華人の形成とエスニックの特徴の「利用」「隠滅」 第9回：移民・エスニシティⅡ：在日華僑華人の老い・死と故郷喪失・故郷探し 第10回：G.ジンメル経歴・代表作・社会学の特徴 第11回：社会学の名著〔3〕：G.ジンメル『社会学の根本問題－個人と社会』の主な視点・考え方 第12回：国家・国民Ⅰ：「中国残留孤児」の創出と召還 第13回：国家・国民Ⅱ：「中国残留孤児」の老後 第14回：国家・国民Ⅲ：日中のはざまで生きる「中国残留孤児」 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 学習効果の向上のため、「社会学A」・「社会学B」という両科目を併せて履修したほうが望ましい。	
準備学習の内容 事前に、配布した資料と教科書の該当箇所を読むこと。授業後、復習すること。	
教科書 『社会凝集力の日中比較社会学』鍾家新（ミネルヴァ書房）2016年。	
参考書 ①『自殺論－社会学研究』E. デュルケム著、宮島喬訳（中公文庫）。 ②『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. ウェーバー著、大塚久雄訳（岩波文庫）。 ③『社会学の根本問題－個人と社会』G. ジンメル著、清水幾太郎訳（岩波文庫）。 ④『社会学』A・ギデンズ著、内田健他訳（而立書房）。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 ①平常点と②期末の筆記試験によって評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC261J	
ジャーナリズム論	2 単位
	1・2 年次
教授 水野 剛也	
授業の概要・到達目標 <p>本講の目的は、ジャーナリズム、つまりマス・メディアがなす多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点を絞り、その特質や問題点を総合的に論じていることである。本講であつた媒体は、新聞や雑誌などの活字メディアを中心とするが、写真・テレビ・ラジオ・インターネットなども含む。ただし、ニュースの報道や評論・論説活動に直接関わらないものは、基本的に除外する。</p> <p>本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々はどうのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。</p>	
授業内容 <p>大まかに、ジャーナリズムの定義、ジャーナリズムのおこり、ジャーナリストという職業の特質、ジャーナリズムにおけるニュース価値、ジャーナリズムの倫理、ジャーナリズムをめぐる最近の問題、の順で講義をすすめる予定である。毎回、当日の新聞を教材として使用する。</p> <p>ただし、受講者数によっては、講義形式よりも、ゼミのようなディスカッション形式に重きを置く場合もある。</p> <p>いずれにせよ、より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかとする。受講希望者は、初回にはかならず出席すること。</p> <p>第1回 本講の基本方針、具体的なスケジュールなど 第2回 メディア、マス・メディア、ニュース・メディアの定義 第3回 ジャーナリズムの定義 第4回 ジャーナリズムのおこり (世界) 第5回 ジャーナリズムのおこり (日本) 第6回 ジャーナリストという職業 それはプロフェッションか？ 第7回 ジャーナリズムの価値 ニュースとは何か 1 (相対主義的アプローチ) 第8回 ジャーナリズムの価値 ニュースとは何か 2 (社会学的アプローチ) 第9回 ジャーナリズムの倫理 1 (規範論の源流) 第10回 ジャーナリズムの倫理 2 (現代的な規範論) 第11回 ジャーナリズム日誌の発表 第12回 ジャーナリズムをめぐる最近の問題 1 (学生、あるいは教員が選択する時事的な諸問題) 第13回 ジャーナリズムをめぐる最近の問題 2 (同上) 第14回 総括・総評、ジャーナリズム日誌の発表・提出、受講者アンケート、など</p>	
履修の注意点 <p>受講希望者は、少なくとも次の点について了解しておかなければならない。</p> <p>第1に、「コツコツ努力することが嫌い・苦手」という人、あるいは「楽に単位を取得したい」と考えている人は受講すべきでない。単位取得のためには、相当の作業量が継続的に要求されるからである。基本的に試験は実施しないので、短期間の集中的な努力だけでは好結果にはつながらない。</p> <p>第2に、少なくとも新聞(一般紙)を定期的に関連する必要がある。毎授業で当日の新聞を教材として使用し、受講者にコメントを求めるとともに、新聞関連にもとづく「ジャーナリズム日誌」は必須の課題である。</p> <p>なお、本講は出席と授業参加を重視するため、欠席が多くなることが予想される者(とくに就職活動を予定する者など)は、はじめから受講すべきでない。本講は、特定の受講者を優遇しない。全員を平等にあつかう。個別的な試験なども実施しない。</p>	
準備学習の内容 <p>事前・事後とも、積極的な授業参加を前提とした新聞閲読、および各自できる範囲での追加的な学習が求められる。</p> <p>最大の課題である「ジャーナリズム日誌」の作成にあたっては、日常的な新聞閲読が必須であることはもちろん、講義内容をふまえた考察・分析をすることになる。</p> <p>通常、予習・復習ともに、講義と同程度、あるいはそれ以上の時間・努力を要する。</p>	
教科書 <p>テキストは使用しないが、受講者は最低1紙、新聞(一般紙)を定期的に関連することになる。受講者は、毎授業に当日の新聞と「ジャーナリズム日誌」を持参し、最近のニュースについてコメントする。</p>	
参考書 <p>Bill Kovach and Tom Rosenstiel, The Elements of Journalism (Guardian Books, 2003). ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステイール、加藤岳文・斎藤邦泰訳、「ジャーナリズムの原則」(日本経済評論社、2002年)。 Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media 9th ed. (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000). マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井渡二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳「アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から見た米国史」(松柏社、2016年)。</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>受講者は、毎授業に当日の新聞と「ジャーナリズム日誌」を持参し、最近のニュースについてコメントするため、その都度、フィードバックをする。必要に応じて、大学ポータルサイトでも課題などについてフィードバックをおこなう。</p>	
成績評価の方法 <p>その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。したがって、欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位は獲得できない。日々の継続的な努力と積極的な参加が評価を大きく左右する。</p> <p>最大の課題の1つは、新聞をはじめとする報道機関に積極的に接し、それにもとづいて「ジャーナリズム日誌」をつけることである。そのために主要日刊紙を最低1紙は定期的に関連することになる。毎授業で、最近起こった時事問題やそのなかでジャーナリズムに関わる事象について意見を尋ねるため、日誌と当日の朝刊を持参する必要がある。</p> <p>さらに、講義内容に関わる複数の課題を課す。</p> <p>評価の配分は、おおまかに、「ジャーナリズム日誌」=45%、講義内容に関わる課題=45%、その他=10%程度とする。</p>	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC261J	
メディアコミュニケーション論	2 単位
	1・2 年次
教授 竹下 俊郎	
授業の概要・到達目標 <p>現代は「メディア依存社会」である。テレビ、新聞・雑誌、書籍、映画などの伝統メディア、そして、Webサイトやソーシャルメディアなどのネットメディア。われわれは情報メディアが環境と化した世界で生活している。では、こうしたさまざまなメディアを利用して情報を受容し、あるいは発信を行うことは、人間にとってどのような可能性や問題をもたらしているのだろうか。本講義ではこの問題を考えてみたい。多様なタイプのメディアコミュニケーションが、個人や社会に対してどのような機能や影響を及ぼすかについて理解を深め、かつメディアコミュニケーション研究という学問領域への関心を高めることが本講義の目標である。とくに、政治経済学部のカリキュラムの一環として、現代社会の政治行動や経済(とくに消費)行動にメディアがどう関わっているかという問題へと受講生の興味を促したい。</p>	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 メディアの発達史 第3回 メディアと現実構成 第4回 メディアと大衆社会 第5回 対人コミュニケーション 第6回 広告コミュニケーション(1) 第7回 広告コミュニケーション(2) 第8回 電話コミュニケーション 第9回 インターネットの発達 第10回 ソーシャルメディアという(場) 第11回 国際世論と対外発信 第12回 イノベーションの普及 第13回 メディアリテラシーとは 第14回 国際PR戦の時代	
履修の注意点 <p>原則として、毎回の授業用資料を事前にOh-o! Meijiの本科目のページに掲載するので、受講生はそれらをプリントアウト等閲覧可能な状態にして、授業に持参してほしい。</p>	
準備学習の内容 <p>この講義を受けるにあたっては、予習よりも復習に重点を置いてほしい。授業の中で関心を持ったトピックについて、紹介された文献やオンラインの資料等でさらに追究することを勧める。</p>	
教科書 特に指定しない。	
参考書 『図説 日本のメディア【新版】』藤竹暁・竹下俊郎(編)(NHK出版、2018) その他、各論についての文献は授業中に指示。	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で、もしくは Oh-o! Meiji 経由で行う。	
成績評価の方法 筆記試験 50% レポート 25% 授業への参加度 25%	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ECN111J	
マクロ経済学	4 単位
	1・2 年次
教授 八 木 尚 志	
授業の概要・到達目標 マクロ経済学の入門的な内容について講義を行います。講義を大きく3つに分け、第1に経済全体の捉え方（国民経済計算の基礎）、第2に国民所得の決定理論に関する基礎理論（静学マクロモデル）、第3にインフレーション、景気循環、経済成長などの時間を通じたマクロ経済の動きについて説明します。マクロ経済の把握の方法とそのメカニズムを理解するための様々な理論を初学者に修得してもらうことが、この講義の目的です。	
授業内容 第1回 経済学を学ぶにあたって、マクロ経済学について 第2回 産業連関表と産業連関分析 第3回 国民所得勘定 第4回 国民所得勘定 第5回 国民所得勘定 第6回 貨幣と金融、物価、 第7回 古典派経済モデル 第8回 古典派経済モデル 第9回 ケインズの消費関数 第10回 単純なケインズモデル（45度線モデル）：国民所得の決定 第11回 単純なケインズモデル：乗数効果 第12回 単純なケインズモデルと古典派モデルの相違 第13回 貨幣数量説、流動性選好理論 第14回 IS-LMモデル：IS曲線 第15回 IS-LMモデル：LM曲線 第16回 IS-LMモデル：国民所得と利率の決定 第17回 中間テスト（第1回目） 第18回 総需要（AD）総供給（AS）モデル 第19回 総需要（AD）総供給（AS）モデル 第20回 フィリップス曲線 第21回 失業とインフレーションの理論 第22回 失業とインフレーションの理論 第23回 中間テスト（第2回目） 第24回 ハロッド＝ドーマーの経済成長モデル 第25回 国際収支、ISバランス 第26回 オープン・マクロモデル 第28回 オープン・マクロモデル	
履修の注意点 ・出席をするようにしてください。 ・1時限の授業がありますが、遅刻をしないようにしてください。	
準備学習の内容 次回の講義・内容について授業やOh-ol Meijiで指示します。 事前学習については、テキストで次の授業範囲を読んでください。 事後学習については、中間テスト2回と期末テストに合わせて復習をしてください。	
教科書 西村和雄・八木尚志著『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版	
参考書 西村和雄・友田康信『経済学ゼミナール上級編』実務教育出版	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点（授業での確認、20%）程度）及び中間テスト（40%程度）、期末テスト（40%程度）	
その他 予習・復習を十分にを行い、マクロ経済学の内容と理論構造を理解してください。	

科目ナンバー：(PE) ECN111J	
マクロ経済学	4単位
	1・2年次
教授 平 口 良 司	
授業の概要・到達目標 マクロ経済学とは、国・地域全体の経済が動く仕組みや、その動きに経済政策が与える影響を分析する研究分野です。本講義ではこのマクロ経済学の基礎を学びます。GDP、消費、投資といった経済指標の持つ意味を理解すること、そして経済の動きや政策の効果を、モデルを使って主体的に分析できるようになることが到達目標です。	
授業内容 第1回目 マクロ経済学とは何か 第2回目 国内総生産(1) 3面等価の原理 第3回目 国内総生産(2) 実質と名目の違い 第4回目 景気・物価統計 第5回目 雇用統計 第6回目 金融市場 第7回目 貨幣の機能 第8回目 中央銀行の役割 第9回目 財政(1) 予算 第10回目 財政(2) 税制と国債 第11回目 消費の決まり方 第12回目 乗数理論 第13回目 投資の決まり方 第14回目 財市場・貨幣市場の均衡 第15回目 財政金融政策の効果の分析 第16回目 総需要曲線 第17回目 総需要・総供給分析 第18回目 日本経済の課題 第19回目 経済成長の決定要因 第20回目 経済成長モデルの分析 第21回目 インフレとデフレ 第22回目 経常収支と為替レート 第23回目 開放経済における国内総生産の決まり方 第24回目 経済格差の経済分析 第25回目 消費のライフサイクル仮説 第26回目 産業連関分析 第27回目 資産価格の決まり方 第28回目 まとめ	
履修の注意点 ミクロ経済学と同様、マクロ経済学は基礎からの積み重ねの学問ですので、授業の欠席をしないようにしてください。	
準備学習の内容 授業中に配布する練習問題にしっかり取り組んでください。テレビや新聞の経済ニュースに関心を持つようにしてください。産業連関分析においては簡単な行列やベクトルの知識があるとより理解が深まるでしょう。数学的知識についても授業後復習してください。	
教科書 マクロ経済学 (平口良司・稲葉大著、有斐閣ストゥディア)	
参考書 『経済学のための線形代数』(平口良司著、浅倉書店)	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 中間試験(30%)と期末試験(70%)によって評価します。	
その他 私語はしないようにしてください。	

科目ナンバー：(PE) ECN111J	
マクロ経済学	4 単位
	1・2 年次
教授 武 田 巧	
授業の概要・到達目標 <p>本講義は、経済の仕組みをこれから本格的に学ぼうとしている初学者を対象としたマクロ経済学の入門講義である。従って、経済学に関する事前知識を何ら前提とせず、ともすれば抽象的で難解になりがちなマクロ経済学の基本的な概念や基礎知識を、身近な具体例を多用しながら分かりやすく説明することに努めていく。GDP とは何か。何が一国の GDP を決めるのか。日本の財政赤字はなぜ膨らんでいったのか。日銀はなぜ低金利政策を維持しているのか。中国の貿易収支はなぜ黒字なのか。新型コロナは日本経済、世界経済をどう変えたのか。反対に、米国はなぜ貿易収支が赤字なのか。金融危機はなぜ生じたのか。インフレ、デフレはなぜ生じたのか。多くの途上国はなぜ経済発展できずにいるのか。すべてがマクロ経済学の扱う問題である。履修者が現代社会における経済の仕組みや役割を把握し、様々な経済現象に対する理解を深め、問題解決の方法を自ら考えることができるようになることを、本講義は目指している。</p> <p>到達目標としては、「ミクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、『日本経済新聞』を読めるようになり、そして経済学検定試験で B+ を獲得することを目指している。</p>	
授業内容 <p>講義は、後述の教科書に沿って、以下の様に進める予定。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：マクロ経済学とは1 第3回：マクロ経済学とは2 第4回：GDP と経済指標の見方1 第5回：GDP と経済指標の見方2 第6回：GDP の決定1 第7回：GDP の決定2 第8回：消費と投資1 第9回：消費と投資2 第10回：中間総括1 第11回：貨幣の需要と供給1 第12回：貨幣の需要と供給2 第13回：IS-LM 分析1 第14回：IS-LM 分析2</p> <p>第15回：IS-LM 分析3 第16回：経済政策の有効性1 第17回：経済政策の有効性2 第18回：中間総括2 第19回：オープン・マクロ経済1 第20回：オープン・マクロ経済2 第21回：オープン・マクロ経済3 第22回：労働市場と総需要・総供給1 第23回：労働市場と総需要・総供給2 第24回：インフレーションと失業1 第25回：インフレーションと失業2 第26回：経済成長1 第27回：経済成長2 第28回：全体総括</p>	
履修の注意点 <p>マクロ経済学とミクロ経済学は、経済を理解するうえでの両輪であり、経済学科生のみならず、両方を履修することが望ましい。両科目への理解はすべての経済関連科目の基礎となり、その基礎がなければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。とすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。かえて是非お勧めしたいのが、『日本経済新聞』などの経済紙/誌を日々読み続けることである。マクロでも、ミクロでも、経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で、新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、The Wall Street Journal もお勧めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供しているため、是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。また、昨年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。</p> <p>なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、Oh-of Meiji に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにするはずとの考えからである。</p>	
準備学習の内容 <p>毎回の予習としては、教科書、Oh-of Meiji にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題、 http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/7874960106 およびOh-of Meiji に閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高める。</p>	
教科書 <p>山田久、武田巧他『入門マクロ経済学』実教出版。 上記出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。 Oh-of Meiji に閲覧可能な各種問題。 『日本経済新聞』。</p>	
参考書 <p>N.G. マンキュー 『マンキュー経済学IIマクロ編』東洋経済新報社。 J.E. スティグリッツ 『マクロ経済学』東洋経済新報社。 P.A. クルーグマン、R. ウェルズ 『クルーグマン マクロ経済学』東洋経済新報社。 D. アセモグル、D. レイブソン、J. リスト 『マクロ経済学』東洋経済新報社。 中谷巖 『マクロ経済学入門第5版』日本評論社。 伊藤元重 『マクロ経済学』日本評論社。 なお、数学を苦手とする場合は、下記参考書を勧める。 E・ドウリング 『例題で学ぶ入門・経済数学(上)(下)』シーエービー出版。 その他、必要に応じて紹介する。</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれもOh-of Meijiにて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、Oh-of Meiji に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。その他、Oh-of Meiji のディスカッション欄は常時開放し、質問を受け付ける。</p>	
成績評価の方法 <p>中間試験2回(各25%)、期末試験(50%)の合計によって評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テスト(最低5回)も予定している。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを Oh-of Meiji を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。</p>	
その他 <p>以下の点を心しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 出席せずして単位認定は有り得ない。 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。 講義中は最低限のマナーを守る。次の点は特に順守のこと。 <ol style="list-style-type: none"> 勝手なおしゃべりはしない。 スマホ、携帯電話はマナー・モードにしておく。 教室をむやみに出入りしない。 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。 定期試験対策問題、定期試験問題解答、休講連絡など講義に関わる連絡事項は、Oh-of Meiji により通知する。連絡事項が PC ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。 	

科目ナンバー：(PE) ECN111J	
マクロ経済学	4 単位
	1・2 年次
准教授 盛本圭一	
授業の概要・到達目標 前半は、国民経済計算、経済成長、貯蓄と投資、開放経済に関する基礎知識を概説する。受講者が重要なマクロ経済変数の定義・性質・動向について説明できるようになることを目指す。 後半は、貨幣経済の基礎、IS-LM分析、AD-AS分析に関する理論と現実への応用を紹介する。受講者が実際の景気変動と経済政策について自ら意見を述べられるようになることを目指す。	
授業内容 第1回 経済活動の水準（1）〈GDP統計〉 第2回 経済活動の水準（2）〈名目GDPと実質GDP〉 第3回 一般物価水準 第4回 演習（1）〈GDP・一般物価水準〉 第5回 経済成長（1）〈経済成長に関する事実〉 第6回 経済成長（2）〈新古典派成長モデル〉 第7回 経済成長（3）〈経済成長のエンジン〉 第8回 演習（2）〈経済成長〉 第9回 貯蓄と投資（1）〈貯蓄の決定〉 第10回 貯蓄と投資（2）〈投資の決定〉 第11回 開放経済（1）〈国際収支〉 第12回 開放経済（2）〈開放マクロ経済学〉 第13回 演習（3）〈貯蓄と投資・開放経済〉 第14回 前半のまとめと質疑応答（モジュールaのみ） 第15回 貨幣経済（1）〈中央銀行と貨幣〉 第16回 貨幣経済（2）〈貨幣市場の分析〉 第17回 貨幣経済（3）〈インフレーション〉 第18回 演習（4）〈貨幣経済〉 第19回 総需要の決定（1）〈45度線モデル〉 第20回 総需要の決定（2）〈IS-LMモデル〉 第21回 総需要の決定（3）〈財政・金融政策のIS-LM分析〉 第22回 演習（5）〈総需要の決定〉 第23回 景気変動（1）〈AD-ASモデル〉 第24回 景気変動（2）〈財政・金融政策のAD-AS分析〉 第25回 景気変動（3）〈景気変動のAD-AS分析〉 第26回 失業、財政の持続可能性 第27回 演習（6）〈景気変動・失業・財政〉 第28回 後半のまとめと質疑応答（モジュールaのみ）	
履修の注意点 毎回の講義では、受講者が下記の準備学習をこなしていることを前提に解説する。高校レベルの数学は多用するので、よく学習してから受講すること。	
準備学習の内容 指定教科書の該当範囲を事前に一読し、疑問点・不明点を整理して授業に臨むこと（予習していることを前提に講義する）。	
教科書 二神孝一『マクロ経済学入門』（第3版、2017、日本評論社）	
参考書 特になし。	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-olMeijiのコメント機能を利用した対応および課題内容に関する授業内講評の実施	
成績評価の方法 2回の課題レポート（各20%、計40%）と期末試験（60%）により評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN111J	
ミクロ経済学	4 単位
	1・2 年次
講師 井上 朋紀	
授業の概要・到達目標 まず、独占や寡占の不完全競争市場の分析をする。寡占市場のモデルとして、(1) 企業が同時に生産量を決めるクールノー競争、(2) 企業が同時に価格を決めるベルトラン競争、(3) 1つの企業が先に生産量を決め、もう1つの企業がその生産量を観察してから自分の生産量を決めるシュタッケルベルク競争、(4) 2企業がクールノー競争を無限回くり返す状況を扱う。(1)と(2)は戦略型ゲーム、(3)は展開型ゲーム、(4)は無制限回くり返しゲームとして記述することになるので、ゲーム理論も扱う。 次に、すべての消費者が価格を所与として扱うような完全競争的な交換経済の分析をする。消費者の行動を定式化し、需要ベクトル(最適消費計画)を求める。 最後に、それぞれの消費者が所与としていた価格がどのような水準に決まるかについて見る。ワルラス的な見方は、すべての消費者について集計した総需要と総供給が等しくなる水準に価格が決まる。需給が一致した状態であるワルラス均衡が社会的に望ましい性質をもつことを意味する厚生経済学の基本定理を扱う。 この講義を通して、現実の経済をどのようにモデル化し、どのような方法で分析するかについて学んでもらいたい。2年生以降、経済政策論、国際貿易論、産業組織論といった応用分野を重点的に勉強していく場合でもミクロ経済学は重要である。理論的な基礎を習得するだけでなく、応用例を通してミクロ経済学の使い方に慣れるのが目的である。	
授業内容 第1回：イントロダクション、独占市場のモデル 第2回：独占企業の生産量の決定 第3回：需要の価格弾力性、独占や寡占になる理由 第4回：クールノー競争 第5回：戦略型ゲームのナッシュ均衡 第6回：戦略型ゲームのナッシュ均衡の例、製品差別化のないベルトラン競争 第7回：製品差別化のないベルトラン競争の一意性、製品差別化のあるベルトラン競争 第8回：シュタッケルベルク競争、展開型ゲーム、部分ゲーム完全均衡 第9回：展開型ゲームの部分ゲーム完全均衡の例、バックワードインダクション 第10回：無限回くり返しゲームの部分ゲーム完全均衡 第11回：クールノー競争の無限回くり返しゲーム 第12回：完全競争市場モデル 第13回：消費者行動1：消費者の特徴づけ、効用関数と選好関係 第14回：消費者行動2：効用関数の序数性、限界代替率 第15回：消費者行動3：限界代替率の意味、選好の凸性と限界代替率減滅の法則 第16回：消費者行動4：需要ベクトルの求め方 第17回：中間試験 第18回：消費者行動5：所得消費曲線、上級財と下級財 第19回：消費者行動6：エンゲル曲線、必需財と奢侈財、需要の所得弾力性 第20回：消費者行動7：粗代替財と粗補完財、通常財とギッフェン財 第21回：消費者行動8：支出最小化問題と補償需要ベクトル、代替効果と所得効果 第22回：消費者行動9：スルツキー方程式、労働供給の決定 第23回：市場均衡1：一般均衡分析、エッジワース・ボックス経済の記述 第24回：市場均衡2：エッジワース・ボックス経済のワルラス均衡、ワルラス均衡を求め方 第25回：市場均衡3：パレート効率性、厚生経済学の第1基本定理 第26回：市場均衡4：厚生経済学の第2基本定理 第27回：市場均衡5：エッジワース・ボックス経済と完全競争、オーマン＝ベレグの例 第28回：市場均衡6：部分均衡分析、消費者余剰	
履修の注意点 分析に必要な数学については授業中に最低限の内容について講義するが、それだけでは自分で計算できるようにならない。「数量経済分析」または「解析学Ⅰと解析学Ⅱ」を履修することを強く勧める。 それぞれの講義では細かいことを扱うので、全体像のどの部分を学習しているのか常に意識すること。 週2コマあって進度が速いので、よく復習して分からないことを溜めないようにすること。 授業中に基本的な問題について数回小テストを実施する。	
準備学習の内容 『ミクロ経済学演習第2版』の中から「解いてほしい問題」を知らせるので、それらの問題を解いて、理解を深めること。	
教科書 『ミクロ経済学』奥野正寛(編著)(東京大学出版会)2008年(3850円)。 授業に出ずに独りで読み進めるには難しい。板書の内容で意味が通るようにするので、教科書を購入する場合は、授業を聞いてから読むことを勧める。講義は、教科書に書いてある順序で行うわけではないので注意すること。 『ミクロ経済学演習第2版』奥野正寛(編)(東京大学出版会)2018年(3080円)。 関連する問題を「解いてほしい問題」として知らせるので、それらの問題を解いて理解を深めること。	
参考書 (1)『改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』尾山大輔、安田洋祐(編著)(日本評論社)2013年(2310円)。 (2)『ミクロ経済学』山崎昭(知泉書館)2006年(5060円)。 (3)『ミクロ経済学のみ』神取道宏(日本評論社)2014年(3520円)。 1変数関数の微分や方程式のグラフを描くことに不安のある者には(1)を勧める。経済学でどのように使われるかの例題も多いので、授業内容の演習にもなる。教科書よりも、数学的により厳密に学びたい者には(2)を勧める。限界代替率の導出がより厳密であり、双対性(効用最大化と支出最小化の関係)についても書いてある。(3)は、理論的な説明に加え、ミクロ経済学をどのように使うかを身近な多くの例で示している。(3)も読むことを全受講者に強く勧める。	
課題に対するフィードバックの方法 中間試験については、講義で解説する。	
成績評価の方法 中間試験(45～50%)、期末試験(45～50%)、小テスト(0～10%)で評価する。 中間試験や小テストの点数が高くても、期末試験を受験していない者には単位を認定しない。	
その他 講義中は、携帯電話を鳴らさないこと、私語をしないこと、教室を頻繁に出入りしないこと、スマートフォンなどで撮影しないこと。 授業後の昼休みにオフィスアワーを実施する予定である。	

科目ナンバー：(PE) ECN111J	
ミクロ経済学	4 単位
	1・2 年次
教授 平 口 良 司	
授業の概要・到達目標 ミクロ経済学とは、家計（世帯）や企業が市場においてどのような経済活動を行い、結果としてどのように品物の値段や生産量が決まるかを分析する分野です。この授業では、ミクロ経済学の基礎を講義します。ミクロ経済学の基本的な考え方をを用いて、経済における市場の役割とその限界、そして市場経済における政策の果たす役割について理解することを到達目標とします。	
授業内容 第1回目 ミクロ経済学とは何か 第2回目 経済学に必要な数学：1次関数、2次関数、グラフ、近似計算など 第3回目 経済学の原理 第4回目 比較優位の原理 第5回目 市場と需要・供給 第6回目 均衡価格と均衡数量 第7回目 価格規制の効果 第8回目 弾力性 第9回目 市場の効率性 第10回目 課税の費用・税制の設計 第11回目 国際貿易 第12回目 外部性 第13回目 公共財 第14回目 消費者選択の理論（1） 予算制約式と無差別曲線 第15回目 消費者選択の理論（2） 効用最大化問題 第16回目 消費者選択の理論（3） 上級財と下級財 第17回目 消費者選択の理論（4） 消費のライフサイクル仮説 第18回目 競争市場と企業 第19回目 長期競争均衡 第20回目 独占と寡占 第21回目 独占的競争 第22回目 生産要素市場 第23回目 所得不平等と格差の理論 第24回目 ゲーム理論入門 第25回目 情報の非対称性 第26回目 労働と余暇の選択 第27回目 一般均衡理論入門 第28回目 まとめ	
履修の注意点 ミクロ経済学は基礎から応用への積み重ねの学問ですので、欠席をしないようにしてください。	
準備学習の内容 予習の必要はありませんが、授業中に配布する練習問題に積極的に取り組んでください。	
教科書 グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学 I ミクロ編』 東洋経済新報社	
参考書 井堀利宏 『入門ミクロ経済学』 新世社、平口良司 『経済学のための線形代数』 浅倉書店	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 中間試験（30%）と期末試験（70%）によって評価します。	
その他 私語はしないようにしてください。	

科目ナンバー：(PE) ECN111J																													
ミクロ経済学	4 単位																												
	1・2 年次																												
教授 浅井 澄子																													
授業の概要・到達目標 ミクロ経済学は、家計と企業の行動や市場メカニズムと政府の役割を考えるうえで重要な学問であり、本講義は2年次以降で経済学の応用科目を学ぶにあたっての基礎科目という位置づけでもある。さまざまな社会現象を考察するには、論理的思考と評価の基軸が必要である。この講義により、ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけるとともに、経済現象への理解を深めることが目標である。入門科目であることから、具体例や数値例を使い、重要事項にしばって説明をし、全員が経済学の基礎理論を習得することを目指す。																													
授業内容 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回目 ミクロ経済学の考え方</td> <td style="width: 50%;">第15回目 企業行動（4） 利潤最大化の行動</td> </tr> <tr> <td>第2回目 経済モデル トレードオフと取引</td> <td>第16回目 企業行動（5） 短期・長期の概念</td> </tr> <tr> <td>第3回目 需要と供給（1） 需要曲線</td> <td>第17回目 生産要素市場（1） 概要</td> </tr> <tr> <td>第4回目 需要と供給（2） 価格弾力性・所得弾力性</td> <td>第18回目 生産要素市場（2） 労働の需要と供給</td> </tr> <tr> <td>第5回目 需要と供給（3） 供給曲線</td> <td>第19回目 余剰分析（1） 基本</td> </tr> <tr> <td>第6回目 需要と供給（4） 市場均衡</td> <td>第20回目 余剰分析（2） 余剰分析の応用</td> </tr> <tr> <td>第7回目 消費者行動（1） 効用の概念</td> <td>第21回目 不完全競争（1） 独占企業の行動</td> </tr> <tr> <td>第8回目 消費者行動（2） 無差別曲線</td> <td>第22回目 不完全競争（2） 独占市場の余剰分析</td> </tr> <tr> <td>第9回目 消費者行動（3） 予算制約</td> <td>第23回目 不完全競争（3） 寡占 ゲーム理論の基礎</td> </tr> <tr> <td>第10回目 消費者行動（4） 最適な消費</td> <td>第24回目 不完全競争（4） 製品差別化</td> </tr> <tr> <td>第11回目 消費者行動（5） 代替効果・所得効果</td> <td>第25回目 市場の失敗（1） 外部性</td> </tr> <tr> <td>第12回目 企業行動（1） 生産関数</td> <td>第26回目 市場の失敗（2） 公共財</td> </tr> <tr> <td>第13回目 企業行動（2） 費用関数の基本</td> <td>第27回目 情報の経済学</td> </tr> <tr> <td>第14回目 企業行動（3） 費用関数の導出</td> <td>第28回目 まとめ</td> </tr> </table>		第1回目 ミクロ経済学の考え方	第15回目 企業行動（4） 利潤最大化の行動	第2回目 経済モデル トレードオフと取引	第16回目 企業行動（5） 短期・長期の概念	第3回目 需要と供給（1） 需要曲線	第17回目 生産要素市場（1） 概要	第4回目 需要と供給（2） 価格弾力性・所得弾力性	第18回目 生産要素市場（2） 労働の需要と供給	第5回目 需要と供給（3） 供給曲線	第19回目 余剰分析（1） 基本	第6回目 需要と供給（4） 市場均衡	第20回目 余剰分析（2） 余剰分析の応用	第7回目 消費者行動（1） 効用の概念	第21回目 不完全競争（1） 独占企業の行動	第8回目 消費者行動（2） 無差別曲線	第22回目 不完全競争（2） 独占市場の余剰分析	第9回目 消費者行動（3） 予算制約	第23回目 不完全競争（3） 寡占 ゲーム理論の基礎	第10回目 消費者行動（4） 最適な消費	第24回目 不完全競争（4） 製品差別化	第11回目 消費者行動（5） 代替効果・所得効果	第25回目 市場の失敗（1） 外部性	第12回目 企業行動（1） 生産関数	第26回目 市場の失敗（2） 公共財	第13回目 企業行動（2） 費用関数の基本	第27回目 情報の経済学	第14回目 企業行動（3） 費用関数の導出	第28回目 まとめ
第1回目 ミクロ経済学の考え方	第15回目 企業行動（4） 利潤最大化の行動																												
第2回目 経済モデル トレードオフと取引	第16回目 企業行動（5） 短期・長期の概念																												
第3回目 需要と供給（1） 需要曲線	第17回目 生産要素市場（1） 概要																												
第4回目 需要と供給（2） 価格弾力性・所得弾力性	第18回目 生産要素市場（2） 労働の需要と供給																												
第5回目 需要と供給（3） 供給曲線	第19回目 余剰分析（1） 基本																												
第6回目 需要と供給（4） 市場均衡	第20回目 余剰分析（2） 余剰分析の応用																												
第7回目 消費者行動（1） 効用の概念	第21回目 不完全競争（1） 独占企業の行動																												
第8回目 消費者行動（2） 無差別曲線	第22回目 不完全競争（2） 独占市場の余剰分析																												
第9回目 消費者行動（3） 予算制約	第23回目 不完全競争（3） 寡占 ゲーム理論の基礎																												
第10回目 消費者行動（4） 最適な消費	第24回目 不完全競争（4） 製品差別化																												
第11回目 消費者行動（5） 代替効果・所得効果	第25回目 市場の失敗（1） 外部性																												
第12回目 企業行動（1） 生産関数	第26回目 市場の失敗（2） 公共財																												
第13回目 企業行動（2） 費用関数の基本	第27回目 情報の経済学																												
第14回目 企業行動（3） 費用関数の導出	第28回目 まとめ																												
履修の注意点 講義は基本的に板書で行うが、数週間単位で資料をOh-ol Meijiにアップロードする。授業では扱わなかった練習問題も含んでいるので、復習用に活用してほしい。出欠は取らないが、積み重ねが重要な科目であることから、欠席者は次回までに教科書でその内容を補っておくこと。																													
準備学習の内容 前回までの授業の内容を復習しておくこと。																													
教科書 嶋村紘輝（2005）『新版 ミクロ経済学』成文堂																													
参考書 教科書以外の参考書としては、以下のとおりである。 芦谷政浩（2009）『ミクロ経済学』、有斐閣 伊藤元重（2003）『ミクロ経済学 第2版』、日本評論社 神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤（2006）『ミクロ経済学をつかむ』、有斐閣 クルーグマン・ウェルス（2007）『ミクロ経済学』、東洋経済新報社 西村和雄（1996）『現代経済学入門 ミクロ経済学』、岩波書店 マンキュー（2013）『マンキュー経済学 第3版 ミクロ編』、東洋経済新報社 吉田真理子・荒田映子（2013）『ミクロ経済学の理論と演習』、中央経済社																													
課題に対するフィードバックの方法																													
成績評価の方法 授業中に15分くらいの小テストを2回程度、実施する。期末に行う筆記試験と小テストで評価し、評価のウエイトは期末試験で80%、小テストで20%である。いかなる理由であっても、欠席者に対する小テストの再試験はない。																													
その他 特になし																													

ミクロ経済学

4 単位

1・2 年次

教授 武田 巧

授業の概要・到達目標

経済現象を大雑把に捉え、経済の基本的な動きを理解するには、経済理論、なかでも主に価格の決定を扱うミクロ経済学が必要不可欠となる。モノやサービスの価格はどのように決まるのか。限りある資源は一体どのように配分されるのか。そこにおいて、市場はいかなる役割を果たし得るのか。市場が機能することで、私たちはどのような社会に到達し得るのか。それでは市場が機能しない場合はどうか。本講義では、身近な具体例を多用し、とすれば抽象的で難解になりがちなミクロ経済理論を分かりやすく解説する。受講者は本講義を通じて経済の基礎的な考え方を体系的に習得し、現代社会における経済の仕組みや役割、様々な経済現象に対する理解を深めることになる。到達目標としては、「マクロ経済学」とあわせて履修することで、受講者が広範な経済関連科目を理解できるだけの基礎力を身に付け、経済的思考法に慣れ、「日本経済新聞」を読めるようになり、そして経済学検定試験でB+を獲得することを目指している。

授業内容

講義は、以下の様に進める予定。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：はじめにミクロ経済学で学ぶこと 1
- 第3回：はじめにミクロ経済学で学ぶこと 2
- 第4回：需要曲線と消費者行動 1
- 第5回：需要曲線と消費者行動 2
- 第6回：供給曲線と生産者行動 1
- 第7回：供給曲線と生産者行動 2
- 第8回：供給曲線と生産者行動 3
- 第9回：供給曲線と生産者行動 4
- 第10回：中間総括 1
- 第11回：消費者行動の理論 1
- 第12回：消費者行動の理論 2
- 第13回：消費者行動理論の展開 1
- 第14回：消費者行動理論の展開 2

- 第15回：消費者行動理論の展開 3
- 第16回：企業行動の理論 1
- 第17回：企業行動の理論 2
- 第18回：中間総括 2
- 第19回：一般均衡と資源配分
- 第20回：ミクロ経済学の応用 国際経済学の基礎
- 第21回：独占の理論 1
- 第22回：独占の理論 2
- 第23回：市場の失敗 1
- 第24回：市場の失敗 2
- 第25回：市場の失敗 3
- 第26回：ミクロ経済学の応用 ゲーム理論の基礎
- 第27回：ミクロ経済学の応用 不完全情報の経済学
- 第28回：全体総括

履修の注意点

マクロ経済学とミクロ経済学は経済を理解するうえでの両輪であり、経済学科生のみならず、両方を履修することが望ましい。両科目への理解はすべての経済関連科目の基礎となり、その基礎が無ければ、応用科目の理解は不可能となる。この際、是非、真剣に取り組んで欲しい。さすれば、日々の経済に対する理解が格段に深まるはずである。加えて是非お勧めしたいのが、「日本経済新聞」などの経済紙を日々読み続けることである。ミクロでもマクロでも、経済学を理解するには現実の経済がどう動いているかを知る必要があるが、その点で新聞は格好の教材になる。また、英語力向上や留学を目指しているのなら、The Wall Street Journal もお勧めする。政治経済学部は希望者に無料購読の機会を提供している。是非、挑戦して欲しい。政治経済学部生だけの特権である。さらに、経済学はもちろんだが、あらゆる分野で数学および統計学の重要性が高まっている。経済学部/学科の必修科目は世界中でマクロ、ミクロ、統計学、計量経済学と決まっており、世界中どこへ行っても、こうした科目の理解がいまや必須となっている。本講義では高度な数学的知識を前提とはしないものの、数学、統計学、そして計量経済学の知識を身に付けることを勧める。昨年度から全学で始まったデータサイエンス科目の履修も同様である。

なお、本講義では、教科書の進行に合わせて、Oh-of Meiji に課題や練習問題を開示している。各自挑戦することで、経済そして経済学に対する基本的知識と考え方をより確かなものにするはずとの考えからである。是非、挑戦して欲しい。

準備学習の内容

毎回の予習としては、教科書、Oh-of Meiji にアップロードする講義資料を事前に読むこと。復習としては、下記教科書の出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な10分間ミニテスト、教科書各章末問題
<http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/105/6994461826>
 とOh-of Meiji にて閲覧可能な各種問題を通じて理解力を高めることを勧める。

教科書

- ・山田久、武田巧他『入門ミクロ経済学』（初版第二刷）実教出版。
- ・また上記出版社 WEB サイトにて無料閲覧可能な教科書各章末問題の解答と解説、各章の10分間ミニテスト。
- ・Oh-of Meiji にて閲覧可能な各種問題。
- ・『日本経済新聞』。

参考書

- 伊藤元重『ミクロ経済学 第2版』日本評論社。
- 伊藤元重、下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社。
- 上記2冊は特に、教科書を補完するうえで有用と思われる。
- N.G. マンキュー『マンキュー経済学Iミクロ編』東洋経済新報社。
- J.E. スティグリッツ『ミクロ経済学I』東洋経済新報社。
- ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルズ『クルーグマン・ミクロ経済学』東洋経済新報社。
- 数学を苦手とする者には下記を勧める。
- E・ドウリング『例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）』シーエービー出版。
- その他、必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

本講義で実施する中間試験、期末試験、小テストは後日、解答、成績をいずれもOh-of Meiji にて開示する。成績は受講者の氏名を伏せたうえで、学生番号で閲覧可能にする。尚、小テストの場合は解説も加え、その後の中間試験と期末試験対策とする。更に、Oh-of Meiji に掲載する諸問題にも、講義の進行に合わせて、解答と解説を開示する。その他、Oh-of Meiji のディスカッション欄は常時開放し、質問を受け付ける。

成績評価の方法

中間試験2回（各25%）と期末試験（50%）の合計で評価する。ただし、短時間の基本的理解を問う小テスト（最低5回）を実施する予定。なお、中間試験を止むを得ない事情で受験できない場合は、医師による診断書、体育会部長による対外試合などのための欠席願いなど、書面による欠席届を速やかに持参するとともに、別途指定するテーマ、形式、提出方法によるレポートを Oh-of Meiji を通じて直接電子的に提出してもらう予定。期末試験を受験できない場合は特別試験を申請すること。

その他

- 以下の点を心しておくこと。
- 1. 出席せずして単位認定は有り得ない。
- 2. 現実の経済動向を把握するために、常に新聞を読むこと。
- 3. 講義中は最低限のマナーを守ること。次の点は特に順守のこと。
 - a. 勝手なおしゃべりはしない。
 - b. 携帯電話、スマホはマナー・モードにしておく。
 - c. 教室をむやみに出入りしない。
- 4. 上記マナーを守らない場合は、退室を命じ、以後受講を認めない。
- 5. 試験にて不正行為を行った者には単位を認定しない。
- 6. 講義に関わる連絡事項は、Oh-of Meiji により通知する。連絡事項が PC ないしスマホや携帯電話に転送されるように設定を済ませておくこと。

科目ナンバー：(PE) ECN181J	
経済史	4 単位
	1・2 年次
教授 須 藤 功	
授業の概要・到達目標 資本主義世界経済は21世紀を迎えて激動の様相を呈しており、わたしたちはその有り様を身近に体験している。目前で進行しているこうした出来事の帰趨を的確に理解するためには、鋭敏な現実感覚に加えて、鋭利な歴史感覚を不可欠とする。経済史学はその対象を人間の経済生活の歴史におき、経験的知識にもとづいて具体的に考察し、その基本的な道筋を明らかにすることを課題とする。したがって、学生諸君は、資本主義とそれに先行する歴史的諸時代の人間の経済生活の歴史を理解することを通じて、経験科学としての経済学に不可欠の経験的知識を修得するとともに、また現代経済分析への鋭い洞察力のための基礎を養うことになる。経済史は、理論経済学や経済政策などの経済学以外の諸部門を専攻する学生、国際経済史・現代経済史・日本経済史・アジア経済史・各国経済史など、より専門的な経済史学を専攻する学生のための基礎的知識を提供する。 経済史の基本的な過程を西洋経済史研究の成果にもとづき、各国・各地域の発展の特質に焦点をあてながら、比較経済史的方法に依拠して講義する。とくに、封建制から産業革命、資本主義の確立に重点をおくが、資本主義社会の発展過程の検討を通じて現代資本主義をも展望する。	
授業内容 第1回 イントロダクション：経済史学の課題 第2回 経済史学の方法 第3回 封建領主制の構造と変容 第4回 中世都市とギルド 第5回 中世ヨーロッパ商業の展開 第6回 封建社会の動揺 第7回 資本主義世界経済の成立 第8回 ヨーロッパ大陸のプロト工業化 第9回 イギリス絶対王政と市民革命 第10回 重商主義の時代 第11回 フランスとドイツの絶対主義と市民革命 第12回 「最初の工業国家」イギリス 第13回 イギリスの工業化と人口・農業・商業 第14回 イギリス産業革命とその帰結 第15回 ヨーロッパ大陸の産業革命 第16回 アメリカ合衆国の独立 第17回 アメリカ合衆国の産業革命 第18回 パックス・ブリタニカ 第19回 第二次産業革命の時代 第20回 世紀転換期のイギリス経済 第21回 世紀転換期のドイツ・フランス経済 第22回 世紀転換期のアメリカ経済 第23回 両大戦間期のアメリカ経済（1） 第24回 両大戦間期のヨーロッパ経済（1） 第25回 両大戦間期のアメリカ経済（2） 第26回 両大戦間期のヨーロッパ経済（2） 第27回 第二次大戦後のアメリカ経済 第28回 第二次大戦後のヨーロッパ経済 試験	
履修の注意点 ・社会思想史、経済思想史、日本経済史などの歴史科目を履修することが望ましい。	
準備学習の内容 ・Oh-of Meiji などを利用して配付、指示した文献・資料は必ず読むこと。 ・不明な点があれば、授業の前後に質問すること。 ・次回の授業に備えて、教科書、参考書、課題文献を読んでおくこと。	
教科書 ・馬場 哲・山本 通・廣田 功・須藤 功 著『エレメンタル 欧米経済史』（晃洋書房、2020年）	
参考書 1. 『経済史—いまを知り、未来を生きるために—』（有斐閣、小野塚知二著）社会人を含め広範な読者層に向けた最新のテキスト。 2. 『あなたが歴史と出会うとき』（名古屋大学出版会、堺 憲一著）やさしい副読本。 3. 『コア・テキスト 経済史』（新世社、岡崎哲二著）新制度史アプローチによるテキスト 4. 『世界経済の歴史—グローバル経済史入門—』（名古屋大学出版会、金井雄一ほか編）アジア地域にも焦点をあてた最新のテキスト。「解説」コラムが充実している。 5. 『経済社会の形成（原著第12版）』（ピアソンエデュケーション、ハイルブローナー&ミルバーク著、菅原歩訳）市場社会の登場・展開に焦点をあてたアメリカのテキスト。 6. 『西洋経済史学』（東京大学出版会、馬場 哲・小野塚知二編）専門への手ほどき。 7. 『不確実性の時代（上・下）』（講談社学術文庫、J・K・ガルブレイス著、斎藤藤一郎訳）経済思想との関わりに着目。ビデオ教材の解説本。 8. 『マネーの進化史』（ハヤカワ・ノンフィクション文庫、ニール・ファーガソン著、仙名紀訳）貨幣の誕生からヘッジファンドまで。ビデオ教材の解説本。 9. 『グラフィック 経営史』（新世社、佐々木聡編）図表や写真を多用した日本・外国経営史の概説書。	
課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブ等を活用する。	
成績評価の方法 期末試験を中心に評価するが（70%）、課題提出を含め、授業への積極的参加（30%）は成績評価に反映される。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN181J	
経済史	4単位
	1・2年次
教授 下斗米 秀 之	
授業の概要・到達目標 われわれの生きるグローバルな資本主義経済の現在の状況を的確に理解し、未来を展望するにはどうすればよいのか。経済史はこの問題を考えるうえで有用な科目である。経済史とは現在と過去、そして経済と歴史を結ぶ学問である。現在の経済は過去の遺産であり、その形成過程を知ることによって、われわれの立っている現在の位置を確かめることができる。現代の支配的な社会経済システムである近代資本主義や市場経済の成立・発展・変質の過程を把握することが経済史研究の課題であり、それらがどのように世界へと広がり、各国・各地域の経済発展に寄与したのかを理解することが重要となる。資本主義経済は技術革新や工業化によって人々の生活水準を引き上げ、かつてないほど豊かな社会を実現させた。その一方で公害や環境破壊、貧富の格差の拡大は経済発展の弊害でもある。 資本主義経済のもつ二面性に留意しつつ、本講義では、西洋経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて現代社会を生きるための鋭い洞察力と論理的思考力を養う。西洋経済の歴史を概観しながら、現在の経済における諸問題との関連やそれらを読み解く力を身につける。	
授業内容 第1回目 経済史への招待—ガイダンス 第2回目 経済史の課題と方法 第3回目 中世都市とギルドの世界 第4回目 農民の世界と封建社会の動揺 第5回目 近代世界の成立と大航海時代 第6回目 大航海時代の新たな旅 第7回目 プロト工業化とヨーロッパ経済 第8回目 ヨーロッパの絶対主義と市民革命 第9回目 「最初の工業国」イギリス 第10回目 イギリス産業革命とその帰結 第11回目 ヨーロッパ大陸の産業革命 第12回目 アメリカ合衆国の独立 第13回目 アメリカ産業革命と南北戦争 第14回目 パックス・ブリタニカの時代 第15回目 第二次産業革命の時代 第16回目 「グレート・ファミリー」の出現 第17回目 20世紀転換期のアメリカ経済 第18回目 第一次世界大戦と戦時経済体制 第19回目 繁栄の1920年代の光と影 第20回目 ヨーロッパの戦後復興と相対的安定 第21回目 大恐慌とニューディール 第22回目 自由主義の刷新と第二次世界大戦 第23回目 米ソ冷戦とパクス・アメリカーナの時代 第24回目 パクス・アメリカーナの動揺 第25回目 加速するグローバル経済 第26回目 グローバル経済の行方 第27回目 経済史からみる21世紀のグローバル経済 第28回目 講義のまとめ	
履修の注意点 隣接科目の日本経済史、社会思想史、経済思想史などを履修することが望ましい。	
準備学習の内容 予習：参考文献を読んで単元についての理解を深める。 復習：レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。	
教科書 とくに使用しない。毎回レジュメを配布する。	
参考書 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功編『エレメンタル欧米経済史』見洋書店、2012年 堺憲一『あなたが歴史と出会うとき—経済の視点から』名古屋大学出版会、2009年 坂出健・松林洋一・北野重人編『入門国際経済Q&A100』中央経済社、2023年	
課題に対するフィードバックの方法 頂いたコメント・質問は翌週の授業にて紹介・回答する。	
成績評価の方法 期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求めることもある。 授業態度、提出課題（40％）期末試験（60％）	
その他 授業に関する質問は授業終了後に受け付ける。	

科目ナンバー：(PE) ECN181J	
経済史	4単位
	1・2年次
教授 赤津正彦	
授業の概要・到達目標 将来についての見通しを持つためには、現在をよく理解しなければならない。現在を正確に把握するためには、過去についての知見を深めなければならない。なぜなら現在は過去の積み重ねによって成り立っているからである。本講義では、主に西洋の経済の歴史について学ぶ。西洋にその歴史的起源を持ちながらも、世界的に拡延し、また今なお存続する経済システムは多い。なかでも「資本主義」は、我々が生きる今日の経済社会の基軸的なシステムであり、その西洋における生成、発展、変容の過程を振り返って見ることは、我々が生きる現代社会の成り立ちを考える上で不可欠のことといえよう。 本講義では、この「資本主義」を中心とした西洋の経済社会システムが、いかなる条件・状況のもとで、どのように生成・確立したか、またいかにして世界的に展開し、そして変容してきたかについて学ぶ。そしてそれを通じて、今日の経済社会について考えるための、また将来のそれを展望するための視座の獲得を目指す。	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 経済史と近代および資本主義（前半） 第3回 経済史と近代および資本主義（後半） 第4回 中世社会（1）中世の農村共同体（前半） 第5回 中世社会（1）中世の農村共同体（後半） 第6回 中世社会（2）中世の都市共同体（前半） 第7回 中世社会（2）中世の都市共同体（後半） 第8回 中世末の経済社会とルネサンス 第9回 大航海時代のヨーロッパ経済（前半） 第10回 大航海時代のヨーロッパ経済（後半） 第11回 農村社会の変容と農村工業の萌芽的展開 第12回 絶対王政と市民革命—市民革命の経済的背景 第13回 宗教と資本主義 第14回 貿易国家オランダの盛衰 第15回 産業革命前夜のイギリス 第16回 イギリス産業革命（前半） 第17回 イギリス産業革命（後半） 第18回 イギリス産業革命と世界経済 第19回 産業革命の波及（前半） 第20回 産業革命の波及（後半） 第21回 イギリスの産業覇権（前半） 第22回 イギリスの産業覇権（後半） 第23回 19世紀末大不況 第24回 世界経済の再編成（前半） 第25回 世界経済の再編成（後半） 第26回 帝国主義と第一次世界大戦 第27回 相対的安定と大恐慌 第28回 世界恐慌と資本主義の変容	
履修の注意点 上記の授業内容はおおよその計画であり、実際の進捗状況などにより変更もありうる。 授業計画の詳細および授業の進め方などについては初回の授業時に説明する。	
準備学習の内容 下記の「参考書」に挙げられている予習・復習用参考書を入手し、授業の前後に読むことが望まれる。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 予習のための参考書 『経済史入門』岡田泰男（慶應義塾大学出版会） 『欧米経済史』関口尚志・梅津順一（放送大学教育振興会） 『欧米経済史』藤瀬浩司（放送大学教育振興会） （以上のうちどれか一冊） 復習のための参考書 各回授業時に配布されるプリントに参考文献として示す。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業内で口頭で行う。	
成績評価の方法 定期試験（70%）、小テスト（20%）、授業への参加度（10%）、などにより総合的に評価する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ECN141J	
経済政策【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次
講師 齋藤 雅己	
授業の概要・到達目標 本講義では、我々の社会において生じる様々な経済問題を解決していく「 経済政策 」とはどのようなものであるのか、また、その「 経済政策 」はどのように 形成・実践 されていくのか、という問題について理解し、 <u>現実の経済政策について自ら考えられるようになることを目標としている。</u> 具体的には、1年次に履修したマクロ経済学の基本モデルを用いて現実経済を分析するとともに、それらを経済政策の形成へと応用していく方法を学んでいく。なお、受講生が講義内容をより理解し易くなるように、毎週、とくに重要な 経済時事問題 を取り挙げ、そのときの 経済政策課題 とその 政策的対応 を検討していく予定です。	
授業内容 本講義は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定である。 第1回：イントロダクション～経済政策とは何か～ 第2回：経済政策の形成とその基本概念 第3回：経済政策の目標と政策体系およびその理論構造～経済分析理論と政策理論 第4回：経済運動メカニズムの分析と経済政策 第5回：経済政策の目標変数としての所得水準の決定～二部門経済モデル～ 第6回：三部門・四部門経済モデルにおける所得水準の決定～経済モデルの拡張と修正～ 第7回：経済活動の変化と経済政策 第8回：自律的拡大成長のメカニズムとGlobal Economyにおける経済発展 第9回：生産物市場の分析（1）～IS曲線の導出と均衡調整メカニズム～ 第10回：生産物市場の分析（2）～IS曲線のシフトと政策論的应用～ 第11回：貨幣市場の分析（1）～LM曲線の導出と均衡調整メカニズム～ 第12回：貨幣市場の分析（2）～LM曲線のシフトと政策論的应用～ 第13回：生産物市場・貨幣市場・労働市場の同時均衡～財政・金融政策とその効果～ 第14回：講義のまとめ&復習 ※ 第1回の授業 において、より詳細なシラバスを配布し、講義の進め方や受講時の基本的ルール、出席・試験・成績評価などの 重要事項 について説明いたします。この科目の単位取得を考えている学生は、必ず出席するようにして下さい。	
履修の注意点 (基本科目) マクロ経済学、数量経済分析 ※本科目は、マクロ経済学(経済モデル)の応用を行う内容となっているため、マクロ経済学の単位取得が前提となっています。 ※数量経済分析の単位を取得していても履修は可能ですが、その場合、経済学で用いられている数学的手法について自分で学習を補完する必要があります。(それほど高度な数学を用いることはありません) ※毎回必ず出席するとともに、授業の予習・復習をきちんと行えば、本科目の単位取得自体は難しくありません。	
準備学習の内容 Oh-of Meijiクラスウェブで提示される次回授業範囲について、事前に参考書を読んで内容を把握するように努めてください。また、授業で十分に理解できなかった箇所については、レジメとノート、および参考書・Webサイト等を用いて調べなおしてください。なお、欠席して授業を受けられなかった場合や授業内容を復習したい場合などの補完的措置として、講義動画のアーカイブを公開予定。 本講義は、現実の世界経済において生じている様々な問題と関連させながら進めていくため、日常的に関心を持って経済情報の収集・整理を行ってください。少なくとも、毎日、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」に目を通し、重要な出来事や政策課題について批判的に検討し、自らの考えをまとめておくことを強くお勧めします。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/リスト【著】(東洋経済新報社、2019年) 『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/リスト【著】(東洋経済新報社、2020年) 『ネットニュースではわからない本当の日本経済入門』、伊藤元重【著】(東洋経済新報社、2021年) ※その他、必要とする参考文献等は、講義においてその都度提示します。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、前回授業で出された重要な質問に回答するほか、オンライン(Zoom)による週1回のオフィスアワーを設けて学生からの質問に対応することを検討中です。	
成績評価の方法 期末試験(100%)の点数に 授業への参加度(特別加点による上乗せ、最大15%) を加えて100点満点で評価する。なお、授業への参加度は、[1]授業開始前の「現実経済の問題(WN?)」の提出、[2]授業終了後の教室での「出席確認票」の提出+出席コメント(講義の質問/感想)の送信、という2項目を特別加点として評価する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN141J	
経済政策【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次
講師 宮崎 イキサン	
授業の概要・到達目標 今日において、世界の多くの国ではいわゆる市場経済あるいはその変型が主流であり、かつて存在した計画経済は限られた場所を彷徨うだけの亡霊となっている。これまでに世界各国が経験した経済成長や世界レベルでの生活水準の上昇は、その全てではないにしても、かなりの部分が市場経済(資本主義経済)という制度によってもたらされていると言える。しかし、市場経済はバラ色の世界をもたらすものではなく、そもそも市場経済という制度上、そのようなものが約束されているわけでもない。バブル経済、金融危機、失業、格差や環境、世代間の問題など、経済成長と共に、市場経済の下での経済活動がもたらす問題も、以前にも増して顕在化している。これらの問題に対処し、これらを是正すべく経済政策が行われるが、そもそも何故上記のような問題が発生するのか、問題に対する対策の方向性は何か、その方向性に基づく政策をどのように実行していくべきか。本講義ではこれらの問いに対しての経済学の知見を学ぶことで、理解を深める。 【講義の目的】 本講義の目的は以下の3点を通じて経済政策について学ぶことである。1. 1点目は経済政策の前提として、市場経済においてどのような問題が存在し、またそれらが政策の対象となるのかについて理解すること。2. 2点目は経済政策を考えるのにあたり、経済学はどのような知見を与えているのかを学ぶこと。3. 3点目は先に触れた問題やそれに対する知見とを、現実の問題と実施された・されている政策と結びつけることである。 【講義の到達目標】 本講義は講義中に触れた議論や学術的知見を基に、学生が日頃目にする経済に関連する問題について、 経済学的な視点から、政策についての議論ができるようになる ことを目標としている。講義内容と実世界の問題に結び付きを見出し、机上の空論に終わらない形で、経済政策をつかむことが理想である。	
授業内容 第1回目 イントロダクション(講義ガイダンス) 第2回目 そもそも「経済成長」とは、具体的に何を指しているのか? - GDPについて 第3回目 何故大抵の国がデジタル化や持続可能性などを後押しするのか? - 総需要と総供給 第4回目 「外資系企業はリモートワークが当たり前」は本当なのか? - 労働市場と働き方 第5回目 「仮想通貨はお金なのか」と聞かれたら、何と答えれば良いのか? - 通貨の概念と金利 第6回目 値上がりはしない方が良い気がするが、何故インフレ目標なるものが存在するのか? - インフレとデフレ 第7回目 「異次元緩和」は、何故異次元まで緩和するようになったのか? - 金融政策とその変遷 第8回目 何故「日本 財政」と検索すると、「破綻」と検索エンジンがサジェストするのか? - 財政、税制と債務問題 第9回目 急激な円安が記憶に新しいが、円安は国力の低下なのか? - 為替相場制度と為替レートの決定理論 第10回目 貿易収支はやはり「黒字」が良いのか? - 国際貿易と国際収支 第11回目 通貨危機、金融危機、経済危機、何が違って、どうすれば良いのか? - 危機の経済学 第12回目 所得格差は是正されるべきと言うが、格差の存在しない世界が望ましいのか? - 個人、地域間の再配分 第13回目 財政出動? 金融緩和? インベーション? 経済成長に必要なものは何か? - 経済成長の理論 第14回目 講義のまとめおよび期末評価について	
履修の注意点 授業はスライド資料を中心に進め、必要に応じて板書をすることもある。授業に用いられるスライドおよび関連資料は事前にOh-of Meijiクラスウェブにアップロードする予定である。	
準備学習の内容 授業内容をより良く理解するため、授業前に資料や参考書などに目を通し、授業後には復習を行うことが望ましい。 本講義はあくまで「経済政策」であり、かつ半期集中ではないため、テーマによっては総論あるいは導入的な内容になってしまうことが、講義の設定あるいは特性上考えられる。履修学生には是非基本となるミクロ・マクロ経済学に加え、財政学や金融、経済成長論や国際経済学などの関連する講義を履修し、より詳細に学習することを勧める。	
教科書 教科書は特に指定しない、適宜参考書を読むことを勧める。	
参考書 伊藤元重(2021)『ネットニュースではわからない本当の日本経済入門』(東洋経済新報社) 井堀利宏(2003)『財政政策』(新世社) 岩田規久男・飯田泰之(2006)『ゼミナール 経済政策入門』(日本経済新聞出版) 内田浩史(2016)『金融』(有斐閣) 黒田晃生(2011)『入門 金融(第5版)』(東洋経済新報社) 東短りサーチ株式会社(2019)『東京マネーマーケット』(有斐閣選書) 前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清(2014)『金融論をつかむ』(有斐閣)	
課題に対するフィードバックの方法 講義において課題が出された場合、課題の提出・評価・フィードバックはOh-of Meijiシステム上で行う。 具体的には課題をOh-of Meijiクラスウェブの「レポート」欄に公開し、提出もこちらで受け付ける。さらに、Oh-of Meijiクラスウェブの「レポート」欄にはコメントやフィードバック機能が付いているので、課題に対するコメントやフィードバックもその機能を利用して行う。さらなる理解や研究のために必要であれば、オフィスアワーでの対面でのコメントやフィードバックを実施することもある。	
成績評価の方法 期末評定の結果を基に、明治大学の評価・評点基準に沿って成績評価を行う。	
その他 1. 学生には学ぶ権利があり、教員には教える権利がある。これを邪魔する権利は誰にも無い。 2. 授業中はマナーを守り、私語など、その他授業中に不要あるいは授業の妨げになると思われる行為は慎むこと。場合によっては減点あるいは退室・その後受講を認めないなどの措置を取ることがある。 3. 出席なくして授業内容、国際経済学に関する理解と単位認定は不可能に近い。 4. 授業中にノートパソコンあるいはタブレット端末を利用した授業ノートの作成を認めるが、ノート作成以外の用途には使用しないこと。スマートフォンは授業に必要になるものではないため、緊急時以外は使用を控えること。 5. 講義内容(講義資料、課題および試験など)をSNSを含むインターネット上に投稿・アップロード・シェアすること禁ずる。	

科目ナンバー：(PE) ECN151J	
財政学【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次
准教授 倉地 真太郎	
授業の概要・到達目標 授業の到達目標及びテーマ 本講義の目標は、財政と市場の関係性、日本と諸外国が直面する財政問題を学び、財政政策と公共サービスの意義と課題を理解すること、身近な社会問題を財政学的視点でとらえることである。 授業の概要 本講義では、財政学の基本的な考えを、理論と実際の両面から学習する。現在、日本は未曾有の政府債務を抱えており、将来の公共サービスの持続可能性に対して多くの人々が不安を抱えている。これに加えて、2020年初頭から新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を奮っている。政府はコロナ対策として類を見ない規模の財政支出を決定したが、多額の財政出動にもかかわらず貧富の差は拡大し、コロナ危機からの脱却には至っていない。さらに2022年からはウクライナ危機の影響が世界中に及び、多くの国々が物価高騰対策を実施している状況にある。危機の時代において、あるべき財政の姿はどのようなものだろうか。なぜ、このような財政問題が発生しているのか。どのようにすれば解決可能なのか。財政学の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深める。	
授業内容 授業計画 第1回目 インTRODクシヨン～財政とは何か～ 第2回目 財政の機能と役割 第3回目 予算原則と予算編成 第4回目 直接税―所得税・法人税・資産課税 第5回目 間接税―消費税・環境税 第6回目 財政赤字 第7回目 財政政策・金融政策 第8回目 社会保険と租税 第9回目 現金給付―生活保護・年金 第10回目 現物給付―医療・介護・保育 第11回目 地方財政―地方税 第12回目 地方財政―地方交付税 第13回目 グローバル化と財政 第14回目 まとめ	
履修の注意点 授業はスライドを中心に進める。すべての講義資料は事前にOh-ol meijiのクラスウェブにアップロードする予定である。	
準備学習の内容 日頃からニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある。	
教科書 指定しない。講義資料はすべてOh-olMeijiのクラスウェブにて配布する。	
参考書 『財政学の扉をひらく』 高端正幸・佐藤滋（有斐閣）2020年、『財政学（改訂版）』 神野直彦（有斐閣）2007年、『現代財政を学ぶ』 池上岳彦ら（有斐閣）2015年、『福祉財政』 高端正幸・伊集守直編（ミネルヴァ書房）2018年	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーについては次週の授業冒頭時にコメントの一部をピックアップし、フィードバックをする。また、レポートについてもレポート締め切り後の授業で全体に対して書き方や内容についてフィードバックを行う予定である。	
成績評価の方法 リアクションペーパー・平常点（20%）、レポート（20～25%）、定期試験（55～60%）の成績による。	
その他 オフィスアワーは授業後に実施する予定である。連絡先：mail@shintarokurachi.org	

科目ナンバー：(PE) ECN151J	
財政学【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次
教授 小野島 真	
授業の概要・到達目標 本講義では、財政学の基本的な考えを、理論と実際の両面から学習する。現在、少子高齢化がますます進展している日本は、未曾有の政府債務を抱えており、将来の公共サービスの持続可能性に対して多くの人々が不安を抱えている。これに加えて、未知の感染症の拡大など緊急対策が必要とされる事態がありうることを、新型コロナウイルス感染症の拡大、地震や気候変動などに伴う災害の増加によって我々は思い知らされた。さらに、安全保障上の問題についても、再考せざるを得ない事態が世界中で起きている。危機の時代において、あるべき財政の姿はどのようなものだろうか。なぜ、このような財政問題が発生しているのか。どのようにすれば解決可能なのか。財政学の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深める。	
授業内容 本講義は、財政と市場の関係性、日本と諸外国が直面する財政問題を学び、財政の役割を再考するとともに、身近な社会問題を財政学的視点で捉える。授業は概ね以下の順で進める。 授業計画 第1回目 インTRODクシヨン～財政とは何か～ 第2回目 財政の機能と役割 第3回目 租税とは何か（租税原則） 第4回目 直接税―所得課税・資産課税 第5回目 間接税―消費課税 第6回目 グローバル化と税制 第7回目 環境と税制 第8回目 予算制度 第9回目 財政投融资制度 第10回目 社会保障と財政 第11回目 地方財政の仕組み 第12回目 補助金制度 第13回目 財政の国際比較 第14回目 まとめ	
履修の注意点 授業はスライドを中心に進める。また、理解度等を考慮し、授業計画の順番を前後させることがありうる。	
準備学習の内容 日頃からニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある。	
教科書 指定しない。随時、資料を配布する。	
参考書 『現代財政論』 星野泉・小野島真編著（税務経理協会）2007年、『グローバル財政論』 兼村高文他著（税務経理協会）2012年、『財政学（改訂版）』 神野直彦（有斐閣）2007年、『現代財政を学ぶ』 池上岳彦ら（有斐閣）2015年など。そのほか授業中に参考文献を指示する場合がある。	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーやその他の課題については、次回授業時に説明を加える。	
成績評価の方法 リアクションペーパー等（40%）、定期試験（60%）を予定している。受講者数により変更する場合があるが、その際には改めて指示する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN151J	
経済学史【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次
教授 高橋 信勝	
授業の概要・到達目標 経済学は体系的な社会科学の代表格であるといわれる。私たちが経済学科で学ぶ経済学とは、経済の「理論」、経済および経済学の「歴史」、経済の「政策」という3つの部門に大きく分かれている。この経済学史の授業では、その名のとおり、経済学の歴史を学ぶ。しかし、上記のような経済学内部での学問の「分業」は学び手自身による「統合」への努力を伴わなければ、経済学の体系的な習得は、おぼつかないものとなる。経済学史の授業内容と他の2年次選択必修科目との関連をつねに意識して、授業に臨むことが望ましい。 <p>本講座が経済学科の2年次選択必修であることに鑑みて、重商主義を起点とする経済学の通史を講じる。授業では3・4年次の専門課程での講義を見据えて、経済学の生成と展開過程についての基本知識のみならず、経済学の歴史的知見のなかに秘められた社会現象の多様な見方にも触れる。</p>	
授業内容 第1回： 授業の進め方と成績評価の仕方 (aのみ) 第2回： 重商主義とフィジオクラシー 第3回： スミスの普遍的富裕の増進論 第4回： マルサスの人口論 第5回： リカードウの利潤率低下論 第6回： ミルの価格論と停止状態論 第7回： リストのキャッチアップ論 第8回： 限界革命による経済学の革新 第9回： マーシャルの価格論と有機的成長論 第10回： ビゲーの厚生経済学 第11回： ケインズ経済学とマネタリズム 第12回： シュンペーターのイノベーション論と景気循環論 第13回： 経済学の歴史研究の意義 第14回： まとめ	
履修の注意点 とくになし。	
準備学習の内容 予習： とくに必要はない。 復習： 授業内容の詳細な板書は行わないので、授業のメモを含めてノートを整理し直すこと。また講義の「道筋」に当たる内容については、別途自分で要約を作成すること。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 経済学史学会編『経済思想史辞典』丸善株式会社。 岡田純一『経済思想史』東洋経済新報社。 馬場啓之介『近代経済学史』東洋経済新報社。 その他の推奨文献は、必要に応じて授業中に紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 課題の解説は、後の授業回に行う予定である。詳細は初回授業時に説明する。	
成績評価の方法 小テスト (40パーセント)、定期試験 (60パーセント) で評価する予定である。詳細は初回授業時に説明する。	
その他 なし。	

科目ナンバー：(PE) ECN141J	
現代経済事情【2022年度以降入学者】	2単位
	2年次
教授 飯田 泰之	
授業の概要・到達目標 経済データに関する基礎知識を修得することを目標とするとともに、データを用いた日本経済論・国際経済論を理解するための基礎知識を講義する。3年時以降の学習に向け、自身でのデータ収集やデータ調整を行うための基礎知識を講義する。	
授業内容 1. Introduction 2. 経済理論の目指すもの・データ分析でわかること 3. SNA (国民経済計算) 4. 戦後日本経済の歩み 5. 需要主導経済と供給主導経済 6. 経済成長理論からみる世界 7. 産業連関表と経済効果 8. 景気とは何か 9. 景気動向指数と関連統計 10. 人口と経済成長 11. 地域経済の現状とその課題 12. その他発展的論点I 13. その他発展的論点II 14. まとめ	
履修の注意点 ミクロ経済学・マクロ経済学に関する基礎知識は履修済であることを想定して講義を進める。そのため、各自で必要を感じた場合にはミクロ経済学・マクロ経済学に関する入門的な書籍を副読書として活用しながら受講してほしい。	
準備学習の内容 日々の経済ニュースに関心を持ちながら受講してほしい。	
教科書 指定しない。	
参考書 開講時に指定する。多岐にわたるテーマを扱う講義のため、多くの参考文献に言及すると思われる。興味を持ったテーマについて参考文献を通じて深く学ぶことを勧めたい。	
課題に対するフィードバックの方法 レポート提出と総評・解説によるフィードバック。	
成績評価の方法 期末テストとレポートから評価する。	
その他 なし。	

科目ナンバー：(PE) ECN211J	
経済原論	4 単位
	1・2 年次
講師 高橋 聡	
授業の概要・到達目標 (1) 授業概要 経済原論 (Principles of Political Economy) は、資本主義経済の原理(Principles=メカニズム・法則性)の理解を目的とする。具体的には、資本主義経済のメカニズムを次の2点から解明する。1.人間・社会・自然のトータルなあり方としての資本主義経済の再生産のしくみ、2.資本主義経済の歴史的展開をふまえた長期的動態・景気変動。 経済学は、学派によって資本主義経済の見方(ヴィジョン)と分析手法が異なる。現在の大学では、ミクロ経済学(=新古典派経済学)の枠組にしたがって、ミクロ経済学だけでなくマクロ経済学も講義されている。これに対して本講義では、マルクスと非主流派経済学(ケインズ学派、制度学派など)の理論に即して経済現象を解明する。資本主義経済の全体像を把握するには複数のヴィジョンを身に着ける必要があるため、ミクロ・マクロと合わせて経済原論の分析手法も学んでほしい (2) 到達目標 1.資本主義経済の構造の理解、2.経済と社会の歴史的方向を読む力を身につけること。 自分がこれからどのような社会の中で生きていくのか、どのような社会が望ましいのかを常に考えて受講してほしい。具体的には、以下のような資本主義がもたらす問題をその構造と動態に即して読み解く。 ①労働-長時間労働やパワハラ、②雇用・失業・貧困-技術進歩と失業、③社会の持続可能性-人口減少、ワーク・ライフ・バランス	
授業内容 第1回目 経済原論で何を学ぶことができるか? ミクロ・マクロ経済学と経済原論のちがい 第2回目 資本主義経済と市場経済のちがい。資本主義経済の歴史的発展区分 第3回目 市場の基本構造とその特質 商品と貨幣 第4回目 市場の基本構造とその特質 貨幣の諸機能 第5回目 近代的企業システムと産業資本 資本とは何か 第6回目 近代的企業システムと産業資本 資本の再生産 第7回目 近代的企業システムと産業資本 資本内部の人的組織 第8回目 近代的企業システムと産業資本 資本の所有 第9回目 剰余価値の理論 剰余価値とは何か 第10回目 剰余価値の理論 絶対的剰余価値 第11回目 剰余価値の理論 相対的剰余価値 第12回目 剰余価値の理論 特別剰余価値 第13回目 再生産と産業連関 資本主義経済とその分析視角 第14回目 再生産と産業連関 単純再生産表式 第15回目 再生産と産業連関 拡大再生産表式 第16回目 前半のまとめ、理解度の確認 第17回目 諸資本間の競争と利潤 資本の行動指針としての利潤率 第18回目 諸資本間の競争と利潤 利潤率の規制要因と資本の行動 第19回目 諸資本間の競争と利潤 部門間競争と平均利潤、生産価格 第20回目 資本主義経済と失業 相対的過剰人口の理論 第21回目 資本主義経済と失業 産業予備軍の形成メカニズム 第22回目 資本主義経済と失業 ケインズの雇用理論 第23回目 資本主義経済と消費 マルクスの消費概念 第24回目 資本主義経済と消費 制度学派とレギュレーション学派 第25回目 資本主義経済と消費 消費過程のこれから-豊かさとは何か 第26回目 商業資本と銀行資本、そして信用制度 商業資本と銀行資本 第27回目 商業資本と銀行資本、そして信用制度 信用の機能とコントロール 第28回目 商業資本と銀行資本、そして信用制度 流動性選好説(ケインズ)と貨幣数量説(フリードマン) 第29回目 恐慌・景気循環論 資本主義の確立と景気循環 第30回目 恐慌・景気循環論 独占資本主義における景気循環の変容 第31回目 現代資本主義論 高度経済成長の時代 第32回目 現代資本主義論 プレトンウッズ体制の崩壊から金融グローバリゼーションへ	
履修の注意点 講義とは教員と学生が共同で創造するものと考えるので、質問やコメントなどを通じた授業参加そして何よりも良好な受講環境・雰囲気づくりに協力してほしい。私語をする者がいれば、その都度授業をストップさせ、教室が静粛になるのを待って再開する。このストップ&ゴーが頻繁にくり返されると、授業がなかなか前に進まないだけでなく、受講者の思考が中断されて講義内容が頭に残らなくなる。したがって出席者に対しては、円滑な授業進行に責任を負うことを承諾したものとみなす。	
準備学習の内容 予習：次回範囲の教科書・プリントを読み、疑問点をあげておくこと。 復習：疑問点を解決することができたかどうかを確認し、授業で指示された箇所をまとめ、問題を解くこと。	
教科書 『現代資本主義の経済理論』 飯田和人・高橋聡・高橋輝好(日本経済評論社)、2016年。	
参考書 使用しない。ただし、授業で配布する資料に登場する参考文献に目を通すことが望ましい。	
課題に対するフィードバックの方法 講義において解説を行う。	
成績評価の方法 中間試験50%、期末試験50%	
その他 雇用や景気変動などはマクロ経済学にある程度近い内容である。経済史、経済思想、経済学史も講義の理解を助けるはずである。資本主義経済の同一の現象(たとえば失業)をとりあげても、ミクロ、マクロ(ケインズ派)、原論(マルクス)の経済学の間には、学派ごとに異なる(時として正反対の)ヴィジョン、分析、政策が存在する。できれば複数の学派を通じて思考することで、受講者も自らの価値観から少し距離を置き、相対化してみることをすすめる。マルクス『資本論』の副題は、Critique of Political Economy(経済学批判)である。critiqueとは、否定や非難というより、相手の言うことを呑みこみせずに自分の頭でいったん吟味するという意味である。その意味で、複数の経済学派を学ぶことは、クリティカル・シンキングのよい練習にもなるだろう。	

科目ナンバー：(PE) ECN231J	
統計学	4 単位
	1・2 年次
准教授 関 根 篤 史	
授業の概要・到達目標 【講義概要】 統計学の基礎理論について講義を行う。具体的には、記述統計、確率、分布、推定、仮説検定、回帰分析である。この講義では、これらの理論を基礎として、Excelを用いたデータ分析について解説する。 【到達目標】 統計学の基礎理論について理解を深めることを目標とする。この講義では、統計学の基礎となる推定や仮説検定、回帰分析を学ぶだけでなく、Excelを使ってどのようにデータ分析を行うのか、また出力された結果に対してどのように解釈するのかについて理解を深めることが期待される。	
授業内容 第1回目 インTRODakション (統計学とは) 第2回目 『統計学基礎講義』第2章 データを記述する図 第3回目 『統計学基礎講義』第3章 度数分布表から計算する数値的尺度 第4回目 『統計学基礎講義』第4章 確率 第5回目 『統計学基礎講義』第5章 確率変数と確率分布 第6回目 『統計学基礎講義』第6章 確率変数の関数と標準化 第7回目 『統計学基礎講義』第7章 正規分布 第8回目 『統計学基礎講義』第7章 正規分布 第9回目 『統計学基礎講義』第8章 中心極限定理 第10回目 『統計学基礎講義』第8章 中心極限定理 第11回目 『統計学基礎講義』第9章 信頼区間の推定 第12回目 『統計学基礎講義』第9章 信頼区間の推定 第13回目 『統計学基礎講義』第10章 仮説検定 第14回目 『統計学基礎講義』第10章 仮説検定 第15回目 『統計学基礎講義』第11章 相関分析 第16回目 『統計学基礎講義』第11章 相関分析 第17回目 第16回までの総復習 第18回目 中間試験 第19回目 『統計学基礎講義』第12章 回帰分析の基礎 第20回目 『統計学基礎講義』第13章 回帰式の説明力 第21回目 『統計学基礎講義』第13章 回帰式の説明力 第22回目 『統計学基礎講義』第14章 回帰分析と仮説検定 第23回目 『統計学基礎講義』第14章 回帰分析と仮説検定 第24回目 『統計学基礎講義』第15章 様々な平均 第25回目 『統計学基礎講義』第15章 様々な平均 第26回目 『統計学基礎講義』第16章 所得不平等度の分析 第27回目 『統計学基礎講義』第16章 所得不平等度の分析 第28回目 第27回までの総復習	
履修の注意点 授業内でExcelの実習を行うので、出来る限りノートPCを持参することが望ましい。	
準備学習の内容 事前に該当の章を読んで来ることが望ましい。また授業後には、実習で学習した内容をもう一度自分で復習すること。	
教科書 秋山裕 (2022) 『統計学基礎講義 第3版』慶應義塾大学出版会。	
参考書 森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司 (2015) 『統計学 改訂版』有斐閣。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で問題演習を行い、受講者にはOh-ol Meijiのアンケート機能を使って解答を提出してもらおう予定である。そしてその問題演習の解説を次の授業で行う。	
成績評価の方法 期末試験(50%)、中間試験(50%)	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ECN211J	
数量経済分析	2 単位
	1・2 年次
講師 齋藤雅己	
授業の概要・到達目標 (授業の概要) 経済学においては、多くの分野で数学的な手法や思考法を用いた理論展開がなされているため、数学的素養がなければ講義内容を十分に理解することはできないという現状がある。しかし、「数学的手法を用いているから経済学はむずかしい」というのは誤った先入観であり、実際には、「 数学的手法を用いることで経済学はやさしくなる 」と言える。なぜならば、数学は、複雑に絡み合った現実の経済現象を論理的かつ明快に整理し、分析する強力なツールとなってくれるからである。本講義では、このような「 経済学における分析ツール 」としての 基本的な数学手法 を学ぶとともに、そうした数学的手法が 経済学へどのように応用されているのか を学んでいく。 (到達目標) 本講義を通じて、受講生が学部レベルの経済学の学習に必要な数学的知識を身につけるとともに、専門科目における講義に対応できるだけの 数学的基礎能力 を養成することを目的としている。	
授業内容 本講義は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定である。 第1回：イントロダクション～経済学における数学的アプローチ～ 第2回：高校数学の復習 第3回：経済学におけるグラフ・方程式の応用 第4回：数列とその応用 第5回：指数関数と対数関数 第6回：微分法の基礎(1) 第7回：微分法の基礎(2) 第8回：微分の経済学的応用 第9回：微分法の展開と応用 第10回：積分法の基礎 第11回：積分の経済学的応用 第12回：線形代数の基礎(1) 第13回：線形代数の基礎(2) 第14回：経済学における線形代数の応用 ※ 第1回の授業 において、より詳細なシラバスを配布し、講義の進め方や受講時の基本ルール、出席・試験・成績評価などの 重要事項 について説明いたします。 <u>この科目の単位取得を考えている学生は、必ず出席するようにして下さい。</u>	
履修の注意点 数学を苦手に感じている人は、これまで数学を学ぶ過程のどこかで分からなくなってしまい、道に迷ってしまっただけですので、この講義を通じて基礎から積み重ねていくことで必ず理解することができるようになります。ただし、 数学的な手法 は、説明を何度も聞いたとしても、実際に自分で問題を解いてみないかぎり身に付くものではありません。その意味では、この科目は「 実技科目 」であると言えます。そのため、受け身で講義を受けるのではなく、受講生の 主体的かつ継続的な努力 が望まれます。 具体的には、受講生が 数学的手法 に対する理解を深め、それらを十分に身につけるために、毎回、 演習問題 や 復習・応用課題 を配布し、 自ら問題を解く という作業を行っていただきます。 なお、受講生は高校1年生程度の数学知識があれば十分であり、本講義は、数学に苦手意識を持っている人や昔習った数学を忘れてしまった人も含めて、基礎から学んでいく講座となっています。	
準備学習の内容 (予習・復習) 毎回の授業終了後にOh-of Meijiで提示される次回授業範囲について、事前に教科書・参考書を読み、レジュメ内容の理解に努めること。また、授業で十分に理解できなかった箇所について、レジュメとノート、および教科書・参考書を用いて調べなおすこと。なお、欠席して授業を受けられなかった場合や授業内容を復習したい場合などの補完的措置として、講義動画のアーカイブを公開予定。 (復習・応用課題) 毎週、講義内容に関連した復習・応用課題を配布するので、次の授業までに各自で問題を解いていくこと(答えだけではなく、答えの導出過程も含めて記述する)。 (現実経済の情報収集) 本講義は、現実の世界経済において生じている様々な問題と関連させながら進めていくため、日常的に関心を持って経済情報の収集・整理を行っていただきたい。少なくとも、毎日、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」に目を通し、重要な出来事や経済問題についての知識を積み上げていく必要があります。そうすることで、経済学に対する理解が深まるとともに、 経済学を学ぶことが楽しくなるはず です。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 『経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める(改訂版)』、尾山大輔・安田洋祐編著(日本評論社、2013年) ※このテキストは、授業の予習・復習等、自宅での学習に用いる「サブテキスト」となります。 ※その他、必要とする参考文献等は、講義においてその都度提示します。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、前回授業で出された重要な質問に回答するほか、オンライン(Zoom)による週1回のオフィスアワーを設けて学生からの質問に対応することを検討中です。	
成績評価の方法 期末試験の点数(100%)に 授業への参加度(特別加点による上乘せ、最大15%) を加えて、100点満点で評価する。なお、授業への参加度は、[1] 毎回の復習・応用課題の提出(10%分)、[2] 教室で配布する「出席確認票」の提出および出席コメント送信(5%分)、という2項目を特別加点として評価する。	
その他 (基本科目) マクロ経済学、ミクロ経済学 ※上記科目の単位を取得していなくても履修は可能ですが、その場合、経済学の様々な概念を理解するのに時間がかかることが考えられます。自らの数学的力を勘案するとともに、ミクロ経済学・マクロ経済学を本講座と同時並行で学んでいくことが可能かどうか、事前に十分検討してください。 (関連科目) 線形代数、解析学、基礎数学、数学概論	

科目ナンバー：(PE) ECN211J	
数量経済分析	2 単位
	1・2 年次
教授 八木尚志	
授業の概要・到達目標 経済分析に必要な 数学的知識 を取り上げて講義を行います。高校で身に付けた 数学の学力 は履修者によってさまざまであるかもしれませんが、この講義では、 数学的知識 とともに、毎回の講義においてどのような 数学的理解 がどのような 経済分析 に関連しているか応用されるかという点に配慮して講義を進める予定です。	
授業内容 第1回 経済数量のとりえ方1 第2回 経済数量のとりえ方2 第3回 経済数量のとりえ方3 第4回 関数とグラフ、方程式 第5回 行列とベクトル 第6回 生産関数と効用関数 第7回 指数関数と対数関数 第8回 経済分析と微分1 第9回 経済分析と微分2 第10回 中間テスト 第11回 経済分析と微分3 第12回 経済分析と微分4 第13回 経済分析と積分 第14回 経済分析と積分	
履修の注意点 毎回出席(小テストをかねる場合もあります)を取ります。欠席をしないようにしてください。	
準備学習の内容 次回の内容についてプリントを配布します。 配付プリントを用いて準備をして下さい。	
教科書 毎回プリントを配布する予定です。	
参考書 授業中に案内します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点(確認を行うことがあります、20%程度)および中間試験(40%程度を考えていますが授業の進行を見て調整します)、期末試験(40%程度を考えていますが授業の進行を見て調整します)	
その他 経済学の基礎となる 数学 をわかりやすく講義するように努力します。現代の 経済分析 においては、 ソフトウェア を利用して簡単に計算ができるようになってきていますが、 基礎的な概念 を理解したり、自分で計算してみることを心がけてください。	

科目ナンバー：(PE) ECN281J	
日本経済史	4単位
	1・2年次
准教授 日向祥子	
授業の概要・到達目標 [授業の概要] 幕末・開港から高度成長期までの日本経済・社会について、その変容過程を学ぶ。 [到達目標] 日本経済・社会の在り様の変容してきた過程について、基本的な知識を習得するとともに、ごく基本的な経済学の理解に基づいて史的因果関係を吟味する力を身につける。	
授業内容 第1回目 黒船襲来（講義） 第2回目 黒船襲来（小テスト&確認） 第3回目 維新の税制改革（講義） 第4回目 維新の税制改革（小テスト&確認） 第5回目 明治14年政変（講義） 第6回目 明治14年政変（小テスト&確認） 第7回目 足尾鉍毒事件（講義） 第8回目 足尾鉍毒事件（小テスト&確認） 第9回目 別子暴動事件（講義） 第10回目 別子暴動事件（小テスト&確認） 第11回目 大正政変（講義） 第12回目 大正政変（小テスト&確認） 第13回目 米騒動（講義） 第14回目 米騒動（小テスト&確認） 第15回目 昭和恐慌（講義） 第16回目 昭和恐慌（小テスト&確認） 第17回目 2.26事件（講義） 第18回目 2.26事件（小テスト&確認） 第19回目 敗戦（講義） 第20回目 敗戦（小テスト&確認） 第21回目 ドッジ・ライン（講義） 第22回目 ドッジ・ライン（小テスト&確認） 第23回目 保守合同と55年体制（講義） 第24回目 保守合同と55年体制（小テスト&確認） 第25回目 新日本製鉄の成立（講義） 第26回目 新日本製鉄の成立（小テスト&確認） 第27回目 ドル・ショックと石油危機（講義） 第28回目 ドル・ショックと石油危機（小テスト&確認）	
履修の注意点 ・講義資料はOh-ol Meijiシステムを通じて配信するので、各自印刷のうえ講義に臨むこと。 ・期末試験は持ち込み不可。また、出題形式などの事前情報提供は行わない。	
準備学習の内容 講義資料には、各回末尾に「理解の確認」として論述形式の問いをつけるので、その問いに解答できるよう復習を行うとよい。 なお、各講義の受講前に「理解の確認」に目を通しておくと、講義を通して理解すべきポイントが予め把握でき、効率的と思われる。	
教科書 ・『(新版) 日本経済の事件簿』 武田晴人（日本経済評論社）2009年	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 小テストおよび確認課題については講義中に解説を行う。	
成績評価の方法 小テスト（50%）、期末試験（50%）	
その他 特になし	

社会思想史

4 単位

1・2 年次

講師 杉本 隆 司

授業の概要・到達目標

この授業では、社会思想史における宗教と合理化の問題を検討する。古来より西欧では、宗教は単なる個人の信仰に留まらず、政治や経済などあらゆる社会的な場面に浸透してきた。マックス・ウェーバーは、こうした宗教的世界観から近代以降の合理的世界観への転換を「脱魔術化」の過程として特徴づけた。だが近年では、西欧とイスラムの摩擦に象徴されるように再び世俗化の問題が現実の政治的課題となっている。この授業はキリスト教と異教（魔術）、文明と野生（野蛮）、プロテスタンティズムと資本主義といったテーマを中心に、社会と宗教の緊張関係を近代初頭までさかのぼり、従来の市民社会論や近代化論では周縁に置かれてきた宗教問題の系譜を社会思想の観点からとらえ直すことを目的とする。

授業内容

中世まで神学者たちは異教・異端を排除しつつ聖書の歴史を人類史として描いてきた。だが近世以降、キリスト教文明とは異質な世界観が西欧世界に流入する。その仕方はキリスト教・文明批判という直接的な形もあれば、古典古代や新大陸の称揚、ユートピア思想の形をとることもある。他方、キリスト教の側からの反論も生まれるが、それもプロテスタントとカトリックでは一枚岩ではなく、経験主義など世俗の思想からも野生や自然状態の称揚を批判する動きが現れる。授業ではこれらの流れを歴史的に整理し、国家と教会、啓蒙主義と宗教批判、観念論と唯物論（実証主義）をめぐる諸問題を思想史のなかで改めて検討する。最後にキリスト教が失墜した19世紀に再び世俗宗教による社会の組織化を掲げた思想潮流に社会学思想や社会主義の起源を置きなおし、現代の社会と宗教の在り方や自由主義批判の思想的起源についても併せて考える。

- 1) イントロダクション-授業の概要
- 2) 西欧思想と現代-ポスト世俗化の時代
- 3) ユダヤ・キリスト教の歴史①-律法主義と原罪・贖罪意識
- 4) ユダヤ・キリスト教の歴史②-福音書の普遍主義、愛と正義
- 5) 中世キリスト教思想の展開①-教父の異教批判と教会制度の確立
- 6) 中世キリスト教思想の展開②-アウグスティヌスからスコラ哲学へ
- 7) 宗教改革の史的展開①-ルターのカトリック批判と領邦教会制
- 8) 宗教改革の史的展開②-カルヴァンの禁欲思想とベーコンのイドラ論
- 9) 宗教改革の史的展開③-ウェーバーの脱魔術化論と資本蓄積論
- 10) 宗教改革の史的展開④-デモロジーの盛衰とボダンの自由意志論争
- 11) 新大陸と野生の「発見」①-アリストテレス復興と文明化の使命論
- 12) 新大陸と野生の「発見」②-「無主の地」論批判と高貴な野生人論
- 13) ユマニスムとユートピア思想①-モンテーニュの懐疑とモアの文明批判
- 14) ユマニスムとユートピア思想②-新プラトン主義とユマニスム思想
- 15) 理神論と経験主義①-自然宗教論とスピノザの寛容思想
- 16) 理神論と経験主義②-デカルトの合理論、ホッブズの自然状態批判
- 17) 理神論と経験主義③-ロックの経験論と生得観念批判
- 18) 啓蒙思想の史的展開①-ヴォルテールとモンテスキューの思想
- 19) 啓蒙思想の史的展開②-啓蒙のユートピアとルソーの文明批判
- 20) 啓蒙思想の史的展開③-進歩思想とヒュームの理神論批判
- 21) 啓蒙思想の史的展開④-国家・宗教・言語の起源論争
- 22) フランス革命とロマン主義①-ネーションの創出とライシテ思想
- 23) フランス革命とロマン主義②-ロマン主義の啓蒙批判と反文明論
- 24) ドイツ観念論と社会主義①-ヘーゲルの歴史哲学と市民社会批判
- 25) ドイツ観念論と社会主義②-フォイエルバッハからマルクス疎外論へ
- 26) フランス実証主義と社会学①-サン=シモンとコントの社会組織思想
- 27) フランス実証主義と社会学②-カトリック社会主義とデュルケム社会学
- 28) 全体の解説とまとめ

履修の注意点

Oh-olMeijiの出席管理機能を利用します。私語、スマホ厳禁。

準備学習の内容

毎回の授業の内容について、ノートに沿って理解を深めるとともに、毎回配布するレジュメで指示する参考図書のうち関心のあるものを自分でさらに読んで調べてみる。また、毎回のテーマは、下記の【参考書】欄の事典などにすべて載っている重要項目なので、事前に問題のイメージを得ておく。

教科書

なし。毎回プリントを配布。

参考書

マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』大塚久雄訳、岩波文庫、1989年（諸版あり）
 梅津順一『近代経済人の宗教的根源-ヴェーバー、バクスター、スミス』みすず書房、1989
 ピエール・ミュツツ『サン=シモンとサン=シモン主義』杉本隆司訳、文庫クセジュ、2019年
 安藤隆徳、坂本達哉ほか編『社会思想史事典』丸善、2019年

課題に対するフィードバックの方法

中間テストで答案にコメントをつけて返却。

成績評価の方法

授業の前半の終りに中間小テストを行う。欠席が過半数を上回る場合、期末試験の資格を失う。この中間テスト（30%）と期末試験（70%）を総合して評価します（合計100%）。

その他

特になし

科目ナンバー：(PE) ECN221J	
経済思想	4 単位
	1・2 年次
准教授 奥 山 誠	
授業の概要・到達目標 <p>経済思想は、それが生まれてきた時代の社会的背景あるいは制度的環境と切り離すことはできない。なぜなら、経済思想とは、そのときどきの経済社会が抱える問題に答えようとする経済学者たちの真摯な努力のうえに築かれるものだからである。</p> <p>本講義では、近代初期のヨーロッパを舞台として生まれた経済思想がどのような時代的特殊性と時代を超えた普遍性を有していたのかについて検討を行う。考察の範囲としては、経済学の黎明である重商主義、重農主義からアダム・スミスを嚆矢とする古典派経済学を経て、その批判的継承としてのマルクス、歴史学派経済学、アメリカ制度学派までを予定している。</p> <p>主要な経済思想について一通りの理解を得ること、また現代を代表する経済システムである「資本主義」の特徴をより具体的に掴めるようになることを到達目標とする。</p>	
授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：中世封建社会と「資本主義」 第3回：重商主義の時代と経済政策 第4回：重商主義の理論1 マンとベティ 第5回：重商主義の理論2 ヒュームとステュアート 第6回：重農主義の時代と経済政策 第7回：ケネーの経済思想と「経済表」 第8回：古典学派の時代と経済政策 第9回：アダム・スミスの生涯と著作 第10回：『国富論』概説1 富と分業、価値・価格論 第11回：『国富論』概説2 資本投下論と重商主義批判 第12回：『国富論』概説3 経済と国家、政策提言 第13回：マルサスの人口論とゴドウィン批判 第14回：穀物法をめぐるリカードとマルサスの論争 第15回：地代論と「資本主義」に対する長期的展望 第16回：ミルにおける環境経済思想の萌芽と「停止状態」 第17回：社会主義経済学の興隆とマルクスの『資本論』 第18回：労働価値説と人間の疎外、物象化論 第19回：剰余価値の形成と搾取、資本蓄積論 第20回：ドイツ産業革命と歴史学派の生誕 第21回：ゾンバルトの「近代資本主義」論 第22回：ヴェーバーにおける宗教と経済 第23回：シュンペーターの企業家観と経済発展論 第24回：歴史学派の波及とアメリカ制度学派 第25回：ヴェブレンにおける大衆消費社会論 第26回：世界恐慌とケインズ 第27回：ガルブレイスの現代資本主義論 第28回：経済思想の古典と現代をつなぐ スミスとセン	
履修の注意点 社会思想史、経済史を併せて履修すること。	
準備学習の内容 授業で扱ったテーマについて参考書の該当箇所を読むこと。	
教科書 特に定めない。	
参考書 『経済思想』 長峰章編著（学文社）2015年 『経済思想の源流』 金子光男編著（八千代出版）2008年 『経済思想』 松原隆一郎（新世社）2001年 『経済思想』 八木紀一郎（日経文庫）1993年 『経済思想』 猪木武徳（岩波書店）1987年	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。	
成績評価の方法 平常点（30%）、期末試験（70%）	
その他 初回の授業には必ず出席すること。	

科目ナンバー：(PE) LAW261J	
民法（総則）	2単位
	2年次
兼任講師 續 孝 史	
授業の概要・到達目標 民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法（親族法・相続法）によって構成されているが、本授業では民法総則を学習する。教育的効果をあげるため、基礎講義と応用講義に分けて授業を行う。基礎講義は、民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。応用講義では、最高裁判例を主たる題材とする重要論点についての解説を行う。 本授業では、公務員試験（国家・地方上級）、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。	
授業内容 第1回目 基礎(1)民法の意義・学習方法、モデルケースの理解 第2回目 基礎(2)法律行為と意思表示① 第3回目 基礎(3)法律行為と意思表示② 第4回目 基礎(4)代理 第5回目 基礎(5)権力能力、行為能力 第6回目 基礎(6)条件・期限・期間、時効① 第7回目 基礎(7)時効② 第8回目 基礎(8)法人、物、その他 第9回目 応用(1)法律行為・心裡留保・虚偽表示の重要論点 第10回目 応用(2)錯誤・詐欺・強迫の重要論点 第11回目 応用(3)無権代理・表見代理の重要論点 第12回目 応用(4)時効総論の重要論点 第13回目 応用(5)取得時効・消滅時効の重要論点 第14回目 応用(6)法人・物の重要論点	
履修の注意点 受講に際しては、必ず、指定教科書と六法を持参すること。	
準備学習の内容 教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。応用講義については、事例問題ないしCASEを授業前にアップロードするので授業前に読んでおくこと。	
教科書 潮見佳男『民法（全）』（有斐閣）	
参考書 (1)『六法』：どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣 判例六法』（有斐閣）のほうが良い。 (2)山本敬三監修『有斐閣ストゥディア 民法1 総則』（有斐閣） (3)『民法判例百選I 総則・物権[第9版]』（有斐閣）	
課題に対するフィードバックの方法 期末試験の解説については、Oh-O! Meijiを通じて配信するので確認すること。	
成績評価の方法 期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果（100%）で評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAW261J	
民法（物権）	2単位
	2年次
兼任講師 續 孝 史	
授業の概要・到達目標 民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法（親族法・相続法）によって構成されているが、本授業では物権法を学習する。教育的効果をあげるため、基礎講義と応用講義に分けて授業を行う。基礎講義は、民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。応用講義では、最高裁判例を主たる題材とする重要論点についての解説を行う。 本授業では、公務員試験（国家・地方上級）、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。	
授業内容 第1回目 基礎(1)物権の意義・効力、不動産物権変動① 第2回目 基礎(2)不動産物権変動②、動産物権変動 第3回目 基礎(3)占有権、所有権① 第4回目 基礎(4)所有権②、用益物権 第5回目 基礎(5)担保物権総論、抵当権① 第6回目 基礎(6)抵当権② 第7回目 基礎(7)抵当権③、非典型担保 第8回目 基礎(8)留置権、先取特権、質権 第9回目 応用(1)不動産物権変動の重要論点① 第10回目 応用(2)不動産物権変動の重要論点② 第11回目 応用(3)抵当権の重要論点① 第12回目 応用(4)抵当権の重要論点② 第13回目 応用(5)非典型担保の重要論点 第14回目 応用(6)留置権・質権の重要論点	
履修の注意点 受講に際しては、必ず、指定教科書と六法を持参すること。	
準備学習の内容 教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。応用講義については、事例問題ないしCASEを授業前にアップロードするので授業前に読んでおくこと。	
教科書 潮見佳男『民法（全）』（有斐閣）	
参考書 (1)『六法』：どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣 判例六法』（有斐閣）のほうが良い。 (2)佐久間 毅『民法の基礎2 物権』（有斐閣）、松井宏典『担保物権法』（成文堂） (3)『民法判例百選I 総則・物権[第9版]』（有斐閣）	
課題に対するフィードバックの方法 期末試験の解説については、Oh-O! Meijiを通じて配信するので確認すること。	
成績評価の方法 期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果（100%）で評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL291J	
地方自治法	2単位
	2年次
教授 牛山久仁彦	
授業の概要・到達目標 日本の地方自治は、90年代に進められた地方分権の推進によって、大きく前進した。それ以前にも、地方自治は憲法保障されており、戦後改革をふまえた地方自治の確立がなされていたが、戦前からの官治集権が引きつがれた面もあり、地方自治のあり方が問われていた。本講義では、日本国憲法に規定された自治権保障の基本的な原則をふまえ、憲法付属法ともいわれる地方自治法の基本的な原理と制度等について講義を行う。この講義を通じて地方自治の基本原則についての法的な理解を深め、地方自治の基本的な構造と制度についての概略についての知見を得る。	
授業内容 本講義では、地方自治の基本的な原理について、地方自治法を学ぶことによって理解する。その上で、国地方の関係や地方自治に関連する諸制度の法的な根拠について学び、地方自治の意義と制度についての理解を深めていく。講義の具体的な内容と進め方は以下の通り。 第1回 講義の進め方について（地方自治法についての概略） 第2回 地方自治の法原理（地方自治の意義と根拠） 第3回 地方自治法制の歴史（戦前の地方制度） 第4回 日本国憲法と地方自治法 第5回 自治体の種類と自治体の区域（都道府県と市区町村） 第6回 自治体の合併と道州制 第7回 自治体政治と二元代表制 第8回 自治体住民とその権利と義務 第9回 自治立法権と例規 第10回 政策法務と自治体条例 第11回 自治行政権と自治体の事務 第12回 国の関与と中央-地方関係 第13回 公の施設の管理と指定管理者制度 第14回 自治財政権と自治体の財務・全体のまとめ	
履修の注意点 生きた地方自治法を習得・理解するためには、自治体が直面する諸問題について、行政法、行政学、政治学をはじめ、社会学や財政学など広範な視点からの理解が不可欠である。本講座では、憲法学・行政法学など法律学的な視点を重視するが、政策法務的な思考が求められることから、地方自治の現状に関心をもち、具体的な自治体の動向について気を配ることを望む。	
準備学習の内容 講義内容について事前にテキスト等で確認するとともに、地方自治法の条文や判例との関連について理解を深める。	
教科書 人見剛・須藤陽子『ホーンブック地方自治法』北樹出版	
参考書 磯部力・小幡純子・斎藤誠編『地方自治判例百選（第四版）』（有斐閣） 六法（「地方自治法」が収録されていれば出版社は問わない） 他は講義内で適宜指示する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 学期末の試験の結果により評価する。なお、講義への参加状況やリアクションペーパーなどの結果も評価に加算する。	
その他 講義中の私語等、講義の妨げになったり、他の履修者の迷惑になる行為は厳禁とする。	

科目ナンバー：(PE) POL291J	
地域研究論	2単位
	2年次
兼任講師（文） 谷川尚哉	
授業の概要・到達目標 そもそも、地域研究とは何であるのか。そのアプローチを地理学の立場から考えていきたい。 私たちが生活している場所（地域）は、大なり小なり様々な問題を抱えている。地理学ではそれを、地域問題または地域矛盾と呼ぶ。地域の実態を調査研究すれば、おのずと地域問題が浮かび上がり、次は、その問題解決のための模索が始まるというものである。この地域問題の正しい理解を到達目標としたい。 具体的な地域として、香川県小豆郡土庄町豊島（てしま）を取り上げる。瀬戸内海に浮かぶ島である。この豊島が、産業廃棄物の不法投棄の場となった。住民たちは、その問題に真正面から取り組んだ。問題は、一応の解決を見たが、島民の高齢化は進む。今、豊島は、新たな「島興し」を模索している。	
授業内容 第1回目 地域とは何か（1） 第2回目 地域とは何か（2） 第3回目 地域調査とは何か（1） 第4回目 地域調査とは何か（2） 第5回目 豊島産廃問題を理解する（1） 第6回目 豊島産廃問題を理解する（2） 第7回目 豊島産廃問題を理解する（3） 第8回目 豊島産廃問題を理解する（4） 第9回目 豊島産廃問題を理解する（5） 第10回目 豊島産廃問題を理解する（6） 第11回目 豊島産廃問題を理解する（7） 第12回目 豊島産廃問題を理解する（8） 第13回目 豊島産廃問題を理解する（9） 第14回目 豊島産廃問題を理解する（10）	
履修の注意点 欠席回数が授業回数の3分の1を超えた者は試験を受けられない。	
準備学習の内容 高校程度の地図帳があると良い。下記の参考書を一読することを薦める。	
教科書 現時点では未定である。ビデオ教材を活用する。	
参考書 大川真郎『豊島産業廃棄物不法投棄事件』日本評論社、2001年。 曾根英二『ゴミが降る島』日本経済新聞社、1999年。 中坊公平『中坊公平・私の事件簿』集英社新書、2000年。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 期末の試験（100点満点・持ち込み不可）が100%である。レポート等での代替はない。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL291J	
地域分析法	2単位
	2年次
教授 廣 松 悟	
授業の概要・到達目標 この授業では、空間を明示的な分析単位としたアプローチの実践について、毎回、導入的な講義に引き続いて参加者各自に演習課題に積極的に取り組んでもらうことを通じて、都市や地域に関連する専門諸科目へのイントロダクションとしたい。	
授業内容 1. イントロダクション 2. 地域分析入門（1） 地域統計の実際 3. 地域分析入門（2） 地域データの特質とその限界 4. 地域分析入門（3） 同演習 5. 地域分析の実際（1） 地域特化指数について 6. 地域分析の実際（2） 立地係数と地域集積 7. 地域分析の実際（3） 同演習 8. 地域分析の実際（4） GIS ソフトの導入と使用 9. 地域分析の実際（5） 同演習 10. 地域分析の実際（6） 多変量解析法の導入 a 11. 地域分析の実際（7） 多変量解析法の導入 b 12. 地域分析の実際（8） 多変量解析法の導入 c 13. 地域分析とプレゼンテーション（1） プレゼンテーションと地図化 14. 表地域分析とプレゼンテーション（2） 表象としての「地図」の特質と限界（含演習）	
履修の注意点 学科を問わず、生活の場としての都市や地域に関する様々なトピックについて、何らかの「具体的関心」を抱いていることをこの科目履修のための最低必要条件としたい。なお、演習の課題遂行上 PC 表計算ソフトを使用するので、基本操作については既知であることが望まれる。つまり、データ入力や計算式の利用等の基本事項については特に解説はしないということ。なお、それ以外のソフトウェア操作等については、授業中で解説する。PCの数に制限あり。超えた場合（30数名）には抽せんを行う。	
準備学習の内容 講義内容の正確な理解と運用を図るため、講義終了時に関連する問題を提示し次週開始時に解答およびその補足を適宜行う、ので、そのための積極的な対応が求められる。	
教科書 特に定めない。講義中に適宜プリント類を配布する。	
参考書 特に定めないが、その都度、必要に応じて詳細な文献リストを配布する。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて適宜、授業内野このオーメージを通じた質疑応答や各自のレポート・テーマについて面接等を行う。	
成績評価の方法 複数の演習の成果により、それらの「総合評価」とする。各課題の「重み付け」や課題提出の手順等については、初回オリエンテーションで詳しく述べるので、単位取得希望者は必ず出席のこと。原則的に、初回出席ができない学生の受講は認められない。	
その他 関連科目である「地域研究論」（2単位）の受講を勧める。	

科目ナンバー：(PE) ACC211J	
簿記論	4単位
	2年次
教授（会計）梅原秀継	
授業の概要・到達目標 本講義は、これから会計学の学習を開始する者を対象として、特に財務会計論の入門レベルの知識修得を目指している。また本講義では、財務会計論の根幹となる会計基準を題材とするとともに、その理解に役立つように設例を用いた説明を行う。	
授業内容 第1回 企業会計の基礎（1） 第2回 企業会計の基礎（2） 第3回 貸借対照表と損益計算書（1） 第4回 貸借対照表と損益計算書（2） 第5回 貸借対照表と損益計算書（3） 第6回 棚卸資産（1） 第7回 棚卸資産（2） 第8回 棚卸資産（3） 第9回 固定資産（1） 第10回 固定資産（2） 第11回 固定資産（3） 第12回 金銭債権と金銭債務（1） 第13回 金銭債権と金銭債務（2） 第14回 貸借対照表の構成 第15回 損益計算書の構成 第16回 負債会計（1） 第17回 負債会計（2） 第18回 資本会計（1） 第19回 資本会計（2） 第20回 収益会計（1） 第21回 収益会計（2） 第22回 法人税等と課税所得 第23回 有価証券 第24回 無形資産（1） 第25回 無形資産（2） 第26回 総まとめ・演習（1） 第27回 総まとめ・演習（2） 第28回 総まとめ・演習（3）	
履修の注意点 会計学の理解には、初歩的な簿記（仕訳）の知識が不可欠である。授業でも簿記の仕組みは説明するが、あらゆる機会を利用して簿記の学習に努めること。	
準備学習の内容 復習に際しては、授業で配布するレジュメの他、参考文献などを吟味すること。	
教科書 梅原秀継（2022）『財務会計論』白桃書房。	
参考書 テーマに応じて必要な参考文献は、適宜、指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業における質疑のほか、Oh-ol Meijiのクラスウェブ機能も利用する。	
成績評価の方法 授業への貢献度（20%）と定期試験（80%）により評価する。	
その他 本講義をきっかけとして、社会で生起している多くの会計問題に目を向け、より上級レベルの学習に進まれることを期待したい。	

科目ナンバー：(PE) IND211J	
社会科学方法論	4 単位
	1・2 年次
講師 中 島 満 大	
授業の概要・到達目標 大学に入り、概念、理論、仮説などの言葉を耳にする機会も増えたと思う。これらの言葉は、研究の方法論に関係する用語である。本講義の前半では、研究（ex. 卒業研究）を実施する際に必要となる方法論やその考え方について解説していく。後半では、各調査法について概説し、それぞれの調査法の強みや注意すべき点を説明する。 本講義では、皆さんが、社会科学方法論に基づいて、卒業研究などの研究計画を立案できることを到達目標とする。自分で問いを立て、先行研究を整理し、何らかの方法で調査し、その調査を土台として論文を執筆していくための基礎的な力の習得を本講義では目指していく。	
授業内容 第1回目 インTRODクダクシヨクン 第2回目 リサーチ・リテラシーとは何か？ 第3回目 科学という方法（1）科学と疑似科学 第4回目 科学という方法（2）帰納と演繹 第5回目 リサーチ・デザイン（1）量的調査と質的調査 第6回目 リサーチ・デザイン（2）分析単位と時間の扱い方 第7回目 因果関係 第8回目 概念化と操作化 第9回目 測定 第10回目 サンプリング 第11回目 ケーススタディ 第12回目 先行研究との接続 第13回目 調査倫理（1） 第14回目 調査倫理（2） 第15回目 実験（1）実験のロジック 第16回目 実験（2）実験室実験／サーベイ実験／フィールド実験 第17回目 サーベイ・リサーチ（1）サーベイのプロセス 第18回目 サーベイ・リサーチ（2）質問紙の作成 第19回目 参与観察（1）参与観察の考え方 第20回目 参与観察（2）参与観察を使った研究事例 第21回目 インタビュー（1）インタビューのプロセス 第22回目 インタビュー（2）インタビューを使った研究事例 第23回目 既存データ分析（1）二次分析 第24回目 既存データ分析（2）内容分析と計量テキスト分析 第25回目 最終課題の説明 第26回目 混合研究法 第27回目 社会問題とは何か？ 第28回目 論文／レポートを書き上げるということ	
履修の注意点 課題（社会問題に関する研究計画書）では、履修者自らがテーマ設定を行うため、「何の社会問題にも関心がない」、「自分の人生には何の問題も発生していない」等といった学生は、そこで苦勞することが多いです。「問題のない問題」を抱えている学生は、その点に十分注意してから履修するようにしてください。	
準備学習の内容 この講義（特に後半部）では、該当する調査法を用いた研究論文や文献を読んでもらうことを求める。できるだけおもしろい研究にふれて、「自分もやってみよう」と思ってもらえることが理想である。	
教科書 毎回、レジユメを配布する。	
参考書 適宜、講義で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点（40%）と研究計画書（60%）で成績を評価する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) POL191J

政治学・社会学総合講座【2017年度以降入学者】〔メディア授業科目〕
政治・社会研究総合講座【2016年度以前入学者】〔メディア授業科目〕

2単位

1年次

複数担当者

授業の概要・到達目標

政治学・社会学を学ぶにあたって、知っておいてほしい基本的な事柄、トピックスを取り上げる。
各回の担当者が、「政治学理論」、「政治史・政治思想」および「社会学」のさまざまなテーマを入門的に解説する。
これらを通じて、政治学科で学ぶ内容に興味を持ってもらい、1年次から専門教育につながる学習を促すことがねらいである。

2. 授業内容

授業内容	授業日	担当者	テーマ
第1回	4月12日	重田園江	ガイダンス
第2回	4月19日	野澤千絵	人口減少社会と都市政策
第3回	4月26日	堀金由美	アジアの中の日本—学際的アプローチのすすめ—
第4回	5月10日	外池力	デモクラシーと人権
第5回	5月17日	伊藤剛	国際関係論入門
第6回	5月24日	井田正道	世論調査と政治
第7回	5月31日	西村弥	危機管理から学ぶ行政の役割
第8回	6月7日	牛山久仁彦	自治体行政の現状と課題
第9回	6月14日	水戸部由枝	20世紀の日本とドイツにみる“セクシュアリティと政治”
第10回	6月21日	川嶋周一	冷戦後の時代は《歴史》なのか？ 国際関係史の観点から
第11回	6月28日	小西徳應	時代とともに変わる歴史の見方
第12回	7月5日	鍾家新	社会的役割という社会学の基本概念から人生過程を考える
第13回	7月12日	荒木淳子	これからの「働く」を考える
第14回	7月19日	水野剛也	政治経済学部で学ぶジャーナリズム論

履修の注意点

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。
講義動画は原則、毎週金曜日の午前9時までにOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該授業日の午前9時から週明け火曜日0時（月曜日の24時）まで視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して課題を設け、Oh-o! Meijiシステムの「出欠管理」、「レポート」、「アンケート」、「小テスト」等の機能を用いて提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。
また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設ける。

準備学習の内容

講義では、期日までに取り組むべき課題を指示するので、それらを学習したうえで、講義動画を視聴すること。

教科書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

参考書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

平常点および各授業回で課される小テストの成績を加味して総合的に評価する。※対面形式での授業は行わない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) ECN191J

経済学総合講座【2017年度以降入学者】〔メディア授業科目〕
 経済研究総合講座【2016年度以前入学者】〔メディア授業科目〕

2単位

1年次

複数担当者

授業の概要・到達目標

経済学科の学生のなかには、「経済学を学ぼう」という高い理想をもって入学したものの、「経済学がわからない」、「経済学はどうやって学習するのか」という壁にぶつかるケースが多々ある。本講座は「経済学を何から学んでいいのかわからない」「経済学を学ぶにはどういった文献を読んだらいいのか」といった学生に対して、経済学の基礎を提供することを目的としている。本講座では、経済学の基礎について理論、歴史、政策、総合の分野から専門の教員が講義を行い、経済学をやさしく解説する。履修者は各分野の専門教員から経済学の基礎を学ぶとともに、今後の経済学研究の出発点にしてもらいたい。

授業内容

【区分1】	授業日	担当者	テーマ
第1回	4月15日	武田 巧	講座概要
第2回	4月22日	飯田 泰之	経済学的な思考の方法
第3回	4月29日	高橋 聡	経済学者は豊かさをどのようにとらえたか？
第4回	5月13日	井上 朋紀	交互手番ゲームにおけるZermeloの定理
第5回	5月20日	赤津 正彦	経済史の多様性と可能性
第6回	5月27日	中島 満大	リサーチ・リテラシー入門
第7回	6月3日	小野島 真	日本の財政状況と税制の国際比較
第8回	6月10日	盛本 圭一	経済動態と私たち
第9回	6月17日	齋藤 雅己	経済学的思考に基づく洞察力の養成
第10回	6月24日	原 ひろみ	日本の労働市場について考える
第11回	7月1日	宮崎 イキサン	重力と貿易は同じ？—経済学の分析とそのツール—
第12回	7月8日	奥山 雅之	地域産業はどう変わったか
第13回	7月15日	鎌田 健司	人口学からみた日本の人口減少
第14回	7月22日	森下 正	Society5.0時代の人材採用・育成戦略
【区分2】	授業日	担当者	テーマ
第1回	4月15日	武田 巧	講座概要
第2回	4月22日	平口 良司	不平等の固定化について
第3回	4月29日	高橋 聡	経済学者は豊かさをどのようにとらえたか？
第4回	5月13日	井上 朋紀	交互手番ゲームにおけるZermeloの定理
第5回	5月20日	下斗米 秀之	経済史からみるアメリカの移民問題
第6回	5月27日	奥山 誠	西欧経済学と近代日本
第7回	6月3日	星野 泉	少子高齢化と財政
第8回	6月10日	勝 悦子	日本経済と金融
第9回	6月17日	藤本 積彦	自然エネルギーとまちづくり
第10回	6月24日	原 ひろみ	日本の労働市場について考える
第11回	7月1日	宮崎 イキサン	重力と貿易は同じ？—経済学の分析とそのツール—
第12回	7月8日	廣松 悟	地域の経済的自立とその課題、ほか
第13回	7月15日	鎌田 健司	人口学からみた日本の人口減少
第14回	7月22日	森下 正	Society5.0時代の人材採用・育成戦略
【区分3】	授業日	担当者	テーマ
第1回	4月15日	武田 巧	講座概要
第2回	4月22日	飯田 泰之	経済学的な思考の方法
第3回	4月29日	平口 良司	不平等の固定化について
第4回	5月13日	関根 篤史	経済データの統計分析
第5回	5月20日	須藤 功	近代化と銀行制度の日米比較
第6回	5月27日	杉本 隆司	サン＝シモンの産業組織思想
第7回	6月3日	倉地 真太郎	日本財政と格差社会
第8回	6月10日	小早川 周司	デジタル社会と貨幣
第9回	6月17日	藤本 積彦	自然エネルギーとまちづくり
第10回	6月24日	原 ひろみ	日本の労働市場について考える
第11回	7月1日	末永 啓一郎	iPhoneの経済学
第12回	7月8日	大森 正之	経済と環境はどうつながっているのか
第13回	7月15日	鎌田 健司	人口学からみた日本の人口減少
第14回	7月22日	森下 正	Society5.0時代の人材採用・育成戦略

※各時限とも、理論・歴史・政策・総合等の分野をバランスよく開講する。

履修の注意点

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則、毎週月曜日の午前9時までにOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該授業日の午前9時から各授業実施日の週の週末金曜日0時（木曜日の24時）まで視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して課題を設け、Oh-o! Meijiシステムの「出欠管理」、「レポート」、「アンケート」、「小テスト」等の機能を用いて提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。また、Oh-o! Meijiウェブサイトのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設ける。

準備学習の内容

講義では、期日までに取り組むべき課題を指示するので、それらを学習したうえで、講義動画を視聴すること。

教科書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

参考書

使用しない。Oh-o! Meijiシステムを通じて資料等を配布する事がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

平常点および各授業回で課される小テストの成績を加味して総合的に評価する。※対面形式での授業は行わない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(PE) POL191J

地域研究総合講座

4 単位

2 年次

教授 奥 山 雅 之

授業の概要・到達目標

行政、企業、地域社会、3つのテーマを柱として、それぞれに関わる講義を行う。講師は、地域あるいはそれに関連する現場でご活躍されている先生方で、その経験をもとに、各分野の現状と問題点、課題などについてお話しいただく。地域において政策を展開・運用する際の、地域の「実態」を十分に理解できるようになることを目的としている。自治体の政策形成、地域活性化、まちづくりなど、理論だけでは得られない貴重な体験談等も紹介していただく。なお、初回と最終回は、専任教員による講座の概要、成績評価等のガイダンスを含めた導入講義とまとめの講義を行なう。また「地域研究インターンシップ」を経験したOB・OGの話聞いて、この総合講座がもつ意義に対する理解を深めることもする。

こうした一連の講義により、地域づくりの最先端の取り組み状況を理解できるようになるとともに、3年生時に実施される「地域研究インターンシップ」に参加する際の、「基礎体力」＝知識・見識・常識を身につけることを目的としている。

地域行政学科の必修科目であるため卒業のために必要なだけでなく、3年次の地域研究インターンシップに参加することを目指す学生は、本講座を受講し、単位修得をしておかなければならない。

2. 授業内容

回数	授業日	担当者	テーマ	紹介教員	
第1回	4月15日	政治経済学部 教授	奥山 雅之	ガイダンス	-
第2回	4月22日	合同会社アंकアンドパートナー代表社員	斉藤隆秀	副業本格時代到来！ローカルでソーシャルな副業起業に挑戦してみよう！	野澤 千絵
第3回	4月29日	元竹中工務店 開発計画本部、医療福祉・教育本部	河合力哉	都市開発とアーバンデザインの実際（仮）	野澤 千絵
第4回	5月13日	吉本興業所属 ソーシャルビジネス芸人	マヌー島岡	「お笑い」x「ソーシャルビジネス」	奥山 雅之
第5回	5月20日	(株)博報堂 αクリエイティブ局 局長代理/チームリーダー/クリエイティブディレクター	永淵 雄也	地域資産をブランドにする。	星野 泉
第6回	5月27日	ワイズティーネットワーク株式会社 代表取締役社長	根本泰昌	紅茶を通じて人と地域を元気に ～一杯の紅茶からはじまるストーリー～	森下 正
第7回	6月3日	株式会社船場 PPP総合開発研究所 所長	小西 龍人	(仮) みんなで循環型経済を考えるこれからのビジネスの仕組みづくり	奥山 雅之
第8回	6月10日	元地方自治総合研究所	菅原 敏夫	息を吹き返す地方財政ー24年度予算を読む	星野 泉
第9回	6月17日	(一社) 埼玉県商工会議所連合会 広域指導員	黒澤 元国	中小企業支援機関の仕事といま求められる支援	森下 正
第10回	6月24日	戦国魂 地域歴史活性化研究所 鈴木商事株式会社 代表取締役	鈴木 智博	未定	奥山 雅之
第11回	7月1日	野忍風魔忍術道場 (X INTELLIGENCE AGENCY 有限会社)	甚川浩志	混迷の世における、「現代忍術」の使命	奥山 雅之
第12回	7月8日	調整中	調整中	調整中	調整中
第13回	7月15日	①公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構 交流促進部 部長 ②復興まちづくりに関わる方、起業した方を招聘予定。	①植田 誠 ②1～2名ゲストスピーカー	①「福島イノベーション・コースト構想推進機構の取組等について」 ②貴学・ゲストスピーカーと協議の上決定予定。	奥山 雅之
第14回	7月22日	調整中	調整中	調整中	調整中

履修の注意点

地域行政学科の学生だけが「地域研究総合講座」を履修することができる。

準備学習の内容

次回の講義担当者について、プロフィール、著書、業績などを確認しておくことより興味が高まると思います。

教科書

なし。

参考書

なし。ただし、各講師より各講義時に紹介される場合がある。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。

成績評価の方法

授業での発言等貢献度（平常点）および講師から出された課題に対しレポートを提出することで総合的に評価される。したがって、定期試験は実施されない。

その他

Oh-o! meijiシステムへのこまめなアクセスおよび「お知らせ機能」を携帯電話へ転送する設定をしておくことよ。

科目ナンバー：(PE) POL291J	
政治思想史【2022年度以降入学者】	2単位
政治学説史【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 高山裕二	
授業の概要・到達目標 現実の政治の背景には法制度があり、その背後には理念がある。この授業では、日本国憲法の条文を手がかりに、現代政治の基礎をなす理念を読み解いていく。たとえば、「近代」以降の政治思想史において生みだされた政教分離、民主権、基本的人権などの理念である。受講生は、政治学の名著の「原典」に直に触れ、時間や場所の異なる思想（思考の蓄積）を知ることで、現代社会の問題を相対的に捉える視座を養い、社会をよりよくする理念＝アイデアを少しでもそこから学びとることが期待される。 講義では、主に日本の憲法の条文をまずは紹介したうえで、その背景にある思想を理解するために各思想家のテキストを検討する。なかでも重要な著作の箇所は「原典」にも目を通してじっくり読解する。	
授業内容 プロローグ 第1回 「ロビンソン・クルーソー」の時代（近代政治思想史の課題） 第Ⅰ部 内戦の時代（16・17世紀） 第2回 政教分離（古代・中世の「法」思想とマキアヴェッリ） 第3回 思想・良心の自由（モンテーニュと宗教戦争） 第4回 主権／代表（ホッブズ） 第5回 議会／基本的人権（ロック） 第Ⅱ部 イングランドの世紀（18世紀） 第6回 権力分立（モンテスキュー） 第7回 結社／二院制（フェデラリスト） 第8回 経済的自由／財産権（ヒュームとスミス） 第Ⅲ部 フランス革命の時代 第9回 生存権／憲法改正（ルソー） 第10回 政党／代議制（バーク） 第11回 自衛権／公共性（カント） 第Ⅳ部 〈民主化〉の時代（19世紀） 第12回 地方自治／陪審制（トクヴィル） 第13回 平等／参政権（ミル） 第14回 議院内閣制／天皇（パジョット） エピローグ ＊講義内容は必要に応じて変更することがある。	
履修の注意点 とくに予備知識は必要としない。ただし、授業内容を理解するため、毎回紹介する思想家のテキストや参考文献を中心に、関連図書を各自で入手し、そのつど読むことが求められる。なお、初回から教科書を用いるため、明大三省堂等で各自で購入しておくこと。	
準備学習の内容 授業で扱う思想家のテキストに少しでも目を通して予習しておくこと。毎回授業の最後に行う「ブリーフ・レポート」（当日提出型レポート）で授業の要点を確認し、また次週の冒頭で行う解説を聞いて復習すること。	
教科書 『憲法からよむ政治思想史』（有斐閣、2022年）	
参考書 講義の進捗に合わせて適宜紹介するが、以下に、政治思想史全般に関わるものを一部あげておく。 ・和田・高山編『政治思想と啓蒙』ナカニシヤ書店、2023年。 ・野口・山本・高山編『よくわかる政治思想』ミネルヴァ書房、2021年。 ・川崎修・杉田敦編『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014年。 ・宇野重規『西洋政治思想史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2013年。 ・川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史——視座と論点』岩波テキストブックス、2012年。 ・ジョン・ロールズ『ロールズ 政治哲学史講義Ⅱ』岩波現代文庫、2020年。 ・松本礼二・川出良枝『近代国家と近代革命の政治思想』放送大学教育振興会、1997年。 ・佐藤正志『政治思想のパラダイム—政治概念の持続と変容』新評論、1996年。	
課題に対するフィードバックの方法 上記の「準備学習の内容」を参照。	
成績評価の方法 平常点100% ＊毎回、授業内容を確認する「ブリーフ・レポート」を実施する。 ＊「中間レポート」の提出は任意。成績の「繰り上げ」に用いる。	
その他 授業で紹介する参考文献のいくつかを各自で入手し、そのつど読むという姿勢を持ってください。出欠はとりませんが、欠席せざるをえない場合は、各自で授業内容の埋め合わせをしていただくことが求められます。 毎回Oh-of Meiji上にレジュメをアップします。また「ブリーフ・レポート」の採点結果はOh-of Meijiを通じて通知します。	

科目ナンバー：(PE) POL291J	
政治理論史【2022年度以降入学者】	2単位
政治学説分析【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 高山裕二	
授業の概要・到達目標 今日、「政治リテラシー」という言葉が聞かれるようになった。それは今、「ポピュリズム」が各国の政治の基本知識や認識水準の低下ないし劣化によって世界中で拡大しつつあると考えられているためである。 本講義では、そのような現象をデモクラシーの「専制」とみなしたうえで、その原因や処方箋を、近代の政治理論史において形成された政治のコンセプトやイデオロギーを解説しながら考えていく。 前半では、近代革命後に「宗教化」した民衆の政治の性質について、3大イデオロギーである保守主義・自由主義・社会主義などをもとに検討する。後半では、ファシズム前夜、大衆社会の成立にともなって登場した国民主義（ナショナリズム）や人種問題、科学主義（社会ダーウィニズム）の諸問題を検討する。さらに、ファシズムについて、20世紀を代表する政治思想家、カール・シュミットとハンナ・アーレントの政治理論を取り上げ、歴史的背景にも触れながら分析する。 民主主義の構造的問題を鋭く指摘した政治理論を歴史的に理解することで、今日民主主義諸国の抱える諸課題とそれへの解決策を、受講生各自が自分で考えられるようになることを目指す。	
授業内容 イントロ 第1回 「専制」とは何か？：政治理論の現代的課題 第Ⅰ部 近代革命と「宗教化」する民衆の政治 第2回 共和主義：フランス革命とロベスピエール 第3回 民衆主義：アメリカ革命とジャクソン 第4回 保守主義：反革命から新保守まで 第5回 自由主義：移り変わる専制と個人主義 第Ⅱ部 資本主義の矛盾とヨーロッパの世紀末 第6回 社会主義：ヘーゲルからマルクスへ 第7回 皇帝主義：普通選挙とカエサル問題 第8回 国民主義：官僚制と構造化される支配 第9回 科学主義：社会ダーウィニズムと人種差別 第Ⅲ部 ファシズムと世界大戦後の世界 第10回 議会主義：シュミットの「決められない」政治批判 第11回 独裁主義：シュミットと決断する政治 第12回 全体主義：アーレントのナチズム論 第13回 多元主義：アーレントの公共性論 エピローグ 第14回 環境主義：政治理論の現代的可能性 ＊講義内容は必要に応じて変更することがある。	
履修の注意点 春学期の「政治思想史」を履修していることが望ましい。	
準備学習の内容 授業で扱う思想家のテキストに少しでも目を通して予習しておくこと。毎回授業の最後に行う「ブリーフ・レポート」で授業の要点を確認し、また次週の冒頭で行う解説を聞いて復習すること。	
教科書 『憲法からよむ政治思想史』（有斐閣、2022年）	
参考書 講義の進捗に合わせて適宜紹介するが、ここではさしあたり、政治理論史全般に関わるものを一部あげておく。 ・川崎修・杉田敦編『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014年。 ・宇野重規『西洋政治思想史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2013年。 ・川崎修・杉田敦編『現代政治理論（有斐閣アルマ）新版』有斐閣、2012年。 ・川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史——視座と論点』岩波テキストブックス、2012年。 ・ジョン・ロールズ『ロールズ 政治哲学史講義Ⅱ』岩波現代文庫、2020年。 ・シュルドン・S.ウォーリン『政治とヴィジョン』尾形典男ほか訳、福村出版、2007[1960]年。	
課題に対するフィードバックの方法 上記の「準備学習の内容」を参照。	
成績評価の方法 平常点100% ＊毎回、授業内容を確認する「ブリーフ・レポート」を実施する。 ＊「中間レポート」の提出は任意。成績の「繰り上げ」に用いる。	
その他 授業で紹介する参考文献のいくつかを各自で入手し、そのつど読むという姿勢を持ってください。出欠はとりませんが、欠席せざるをえない場合は、各自で授業内容の埋め合わせをしていただくことが求められます。 毎回Oh-of Meiji上にレジュメをアップします。また「ブリーフ・レポート」の採点結果はOh-of Meijiを通じて通知します。	

科目ナンバー：(PE) POL291J	
日本政治史	4 単位
	3・4 年次
教授 小 西 徳 應	
授業の概要・到達目標 日本の第2次大戦敗戦後を中心に、1960年代～70年代末までの政治・社会状況を主な対象として、世界情勢経済情勢も視野に入れながら、「現代」を理解する基礎を身につけることを目的とする。 東西対決が終焉を迎えて30年以上が過ぎた現在も冷戦とその崩壊の余波が見られるだけでなく、次々と新たな「うねり」が世界を襲っている。EU・ユーロ問題や WTO・APEC・TPP問題、さらには北朝鮮問題など、各地における多様なとり組みや紛争がすぐに思い浮かぶ。これらとのかかわりをはじめ日米・日中・日韓関係などにより、さまざまなレベルで世界とリンクしている日本も深刻な影響をまぬがれない。比較的最近の出来事を、日本独自の問題にかぎって見ても、選挙制度改革・政治改革・行政改革をはじめ、領土問題や北朝鮮の“ミサイル”発射問題、さらには沖縄基地問題や安保法制問題など、多岐にわたる問題と密接な関係を持っていることがわかる。これらは戦後の日本が歩んできた路線に大きな変更を迫るものであり、われわれの生活に密着している政治や社会をいっそう不安定かつ不透明なものにしている。 今こそ、歴史を学ぶことで「現在」を正しく理解し、それによって「将来」を的確に予想していくことが不可欠になっている。同時に、上述した日本国内での事象のほとんどが世界の動きと通底しているため、世界の動きを理解することなしに現在の日本を理解することはできない。講義ではこのことを念頭におき、今日の社会に大きな枠組みを与えることになった第2次大戦がいかなるものであったのか、その結果もたらされた占領政策はどのようなものだったのか、世界情勢が変化する中でいかにそれが変遷していったのかに焦点を当てる。また日本の独立後は、冷戦下で、世界情勢のさまざまな影響を受けながら、日本政治が変遷をたどることとなる。それらを分析することで、日本社会の特性を明らかにするとともに、戦時・戦中の変化が今日の社会にどのような影響を与えているのかについて解説をする。またさまざまな資料や映像などを教材として使用することにより「時代の雰囲気」の追体験もおこなう。	
授業内容 便宜上、内閣を中心に時代を区分をして講義を進めるが、時事的な動きに合わせたタイムリーな議題もとり入れ、状況に応じて構成を変えることもある。折に触れ、日本社会の特徴である「イエモト・モデル」について説明を加える。 第1・2回 インTRODクシヨ—政治史とは何か。第2次大戦とそれ以降の事象を学ぶ意義など 第3・4回 第2次大戦とは何だったのか（とくにヨーロッパにとって） 第5・6回 第2次大戦とアジア 第7～9回 第2次大戦と日本 第10・11回 無条件降伏と戦争責任 第12・13回 東久邇内閣の政策と果たした役割 第14～16回 アメリカの対日政策形成史と GHQ 第17回 幣原内閣（憲法改正過程、総選挙と政党・公職追放、民主化運動と2・1ゼネスト） 第18・19回 冷戦構造の始まりと国内政策の変更 第20・21回 第1次吉田内閣（芦田修正、東京裁判、農地解放、財閥解体） 第22～25回 片山・芦田内閣（社会党・中道政権の失政と長期低落、GHQ 内部の確執）、第2次～第5次吉田内閣 第26回 岸内閣と60年安保 第27回 三池闘争と戦後の住民参加 第28回 1960年代の世界と日本、社会運動と政府の対応（4大公害裁判、大学紛争と教育改革）	
履修の注意点 関連科目は特に指定しないが、歴史の理解には幅広い関心と理解が不可欠であるので、断片的な知識に終わらせないように、目的意識をもった不断の努力が不可欠である。また早朝からの講義であるが、本講義のねらいを明確に認識するためにも、第1回目から必ず出席すること。	
準備学習の内容 多様な通史を読んだり、紹介するビデオ等を見ることで、歴史的事実の把握に努めると同時に、歴史の捉え方の多様性と困難さを知るように心がけること。	
教科書 小西徳應他 『戦後日本政治の変遷』（北樹出版）	
参考書 テーマが多岐にわたるので講義のなかでそのつど紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 課題に対してはコメントを付して、フィードバックする。	
成績評価の方法 学期中に課す課題文と定期試験の成績の総合点で判断する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL291E	
日本政治史	4 単位
	3・4 年次
特任講師 津 田 太 郎	
授業の概要・到達目標 <p>This is a survey of the history of Japanese politics from the early modern period to the present. We will look at important political developments and processes Japan has experienced both in its domestic politics and in its foreign relations. Part I of the course (Lectures 1-22) is a chronological survey of Japanese political history. Part II (Lectures 23-27) examines important contemporary political issues in Japan from a historical perspective. The premise is that politics and history are closely intertwined, and that an objective and sophisticated understanding of history is essential to analyzing the most pressing political problems and challenges of today.</p> <p>The objectives of this course include:</p> <p>(1) understand how political actors, institutions, and processes in the Japanese state have changed and have stayed the same over time (2) reassess the main political events in Japan's modern history in a national, regional and global perspective (3) enhance skills in advanced reading, writing, and discussion in the English language.</p>	
授業内容 第1回目 Introduction: Japanese History and Politics 第2回目 The Tokugawa System 第3回目 The Fall of the Tokugawa and Meiji Restoration 第4回目 Early Meiji State-building 第5回目 Resistance and Rebellion 第6回目 The Meiji Constitution 第7回目 Imperialism in the Meiji Period 第8回目 Participatory Politics from Meiji to Taisho 第9回目 Japan and World War I 第10回目 Politics and Diplomacy of the 1920s 第11回目 The Rise of Militarism 第12回目 The Asia-Pacific War 第13回目 Midterm Exam Review 第14回目 Midterm Exam 第15回目 Experience in the Empire 第16回目 The US Occupation 第17回目 The 1955 System and the Anpo Crisis 第18回目 Economic Development and Social Movements 第19回目 Political Transition in the 1970s 第20回目 The Economic Superstate 第21回目 The Lost Decades 第22回目 From Heisei to Reiwa 第23回目 Unresolved Issues: Okinawa 第24回目 Unresolved Issues: Territorial Disputes 第25回目 Unresolved Issues: Historical Memory 第26回目 Unresolved Issues: Ethnicity and Immigration 第27回目 Unresolved Issues: Gender and Social Politics 第28回目 Conclusion and Synthesis	
履修の注意点 <p>This course will be conducted in English. An interest in Japanese, East Asian, and global history and politics is strongly recommended.</p>	
準備学習の内容 <p>Students must do the assigned readings before each lecture and come to class prepared to participate actively in discussion and other activities.</p>	
教科書 <p>Gordon, Andrew. <u>A Modern History of Japan</u>. Fourth edition (New York: Oxford University Press, 2020).</p>	
参考書 <p>Kitaoka Shinichi. <u>The Political History of Modern Japan</u>. translated by Robert D. Eldridge with Graham Leonard (Abingdon: Routledge, 2018)</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>The instructor will provide individual feedback for assignments. Additional guidance is also available by email or in office hours.</p>	
成績評価の方法 <p>Class participation 35%, Response Papers 20%, Midterm Exam 20%, Final Exam 25%</p>	
その他 <p>特になし</p>	

科目ナンバー：(PE) POL291J	
西洋政治史	4 単位
	3・4 年次
教授 水戸部 由 枝	
授業の概要・到達目標 <p>世界でいち早く近代的な主権国家が成立したヨーロッパ。このヨーロッパにおいて政治社会はどのような変容をとげてきたのか。また、市民革命、産業革命、国民国家形成を特徴とする近代から、グローバル化のもと国家統合が進められてきた現代にかけての、政治的な連続性・非連続性、諸政治社会現象の歴史的な因果関係、政治が経済や社会におよぼした影響とはいかなるものなのか。</p> <p>本講義では、主にヨーロッパ政治史を概観しながら、これらの間について考察する。その際、国家に関わる事柄だけに限らず、あらゆる社会的な諸集団、さらには諸個人の間でも政治が機能していること（政治の多様性）、また、国家による権利保障や福祉・社会保障と引き替えに、どのような国家介入が家族や個人に対してなされたのかについても言及する。加えて、トピックスとして、ジェンダー／セクシュアリティの歴史についても都度ふれる。</p> <p>到達目標：現代から歴史にアプローチし、歴史から現代を捉え返すことで、過去だけでなく現在の政治・社会への理解をより深めること。さらに、将来の社会のあり方について考える力をつけること。</p>	
授業内容 (全28回) 第1回 イントロダクション：西洋政治史の意義 第2回 啓蒙の時代 第3回 フランス革命 第4回 ナポレオンの時代・ウィーン体制 第5回 ブルジョワ・自由主義の台頭 第6回 1848年革命 第7回 産業革命——急激な工業化が社会に与えた影響 第8回 国民国家形成——エスニシティ、ネイション、ナショナリズム 第9回 植民地主義、オリエンタリズム 第10回 帝国主義・帝国意識 第11回 第一次世界大戦——総力戦体制の成立 第12回 大戦中と大戦後の変化 第13回 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ政治——政治的・経済的動揺 第14回 ファシズム体制の成立 第15回 ナチ独裁体制 第16回 反ユダヤ主義——ホロコースト 第17回 第二次世界大戦 第18回 「過去の克服」 第19回 冷戦(1)——東西ドイツの建国とベルリンの壁建設 第20回 冷戦(2)——自由主義陣営と共産主義陣営の対立 第21回 冷戦の終結——ベルリンの壁崩壊 第22回 ヨーロッパ統合——経済統合から政治統合へ 第23回 福祉国家 第24回 学生運動——その前後の政治と社会 第25回 市民・社会運動、緑の党 第26回 新自由主義の台頭 第27回 移民・難民問題と極右政党の台頭 第28回 まとめ	
履修の注意点 ・授業は毎回パワーポイントを使って行う。各授業のレジュメは、Oh-of Meiji「授業内容・資料」にて一定期間公開する。	
準備学習の内容 授業内容の理解をより深めるために、歴史、特に西洋近現代史に関する基礎知識を事前に習得しておくことが望ましい。	
教科書 教科書は特に指定しない。	
参考書 1) 荒川正晴他編『岩波講座 世界歴史01 世界史とは何か/22, 23 冷戦と脱植民地化(全24巻)』岩波書店、2021～2023年。 2) 池本 大輔・板橋 拓己・川嶋 周一・佐藤 俊輔『EU政治論：国境を越えた統治のゆくえ』有斐閣、2020年。 3) 板橋拓己・妹尾哲志編『現代ドイツ政治外交史：占領期からメルケル政権まで』ミネルヴァ書房、2023年。 4) 岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年(初版、岩波全書、1955年)。 5) 小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史：主権国家体系のあゆみ』有斐閣、2018年。 6) 金澤周作・藤井崇・青谷秀紀・古谷大輔・坂本優一郎・小野沢透『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年。 7) 川越修・脇村幸平・友部謙一・花島誠人『ワークショップ社会経済史：現代人のための歴史ナビゲーション』ナカニシヤ出版、2010年。 8) 木畑洋一『20世紀の歴史』岩波新書、2014年。 9) 君塚直隆『ヨーロッパ近代史』筑摩書房、2019年。 10) 北村暁夫『近代ヨーロッパの歴史：人の移動から見る』放送大学教育振興会、2022年。 11) 木村靖二・近藤和彦編『近現代ヨーロッパ史』放送大学教育振興会、2006年。 12) 篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986年。 13) 田野大輔・柳原伸洋『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016年。 14) 中山洋平・水島治郎『改訂新版 ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2020年。 15) 馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック(第2版)』東京大学出版会、2010年。 16) 平島健司・飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2010年。 17) 平野千果子編『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房、2019年。 18) ホブズボーム、E. J. (柳父国近・荒関めぐみ他訳)『資本の時代：1848-1875(1)(2)』みずす書房、2018年。(新装版) 19) ホブズボーム、E. J. (野口建彦・野口照子他訳)『帝国の時代：1875-1914(1)(2)』みずす書房、1993, 1998年。 20) ホブズボーム、E. J. (大井由紀訳)『20世紀の歴史(上)(下)』ちくま学芸文庫、2018年。 21) ヤーラオシュ、コンラート『灰燼の中から：20世紀ヨーロッパ史の試み 上下』人文書院、2022年。 22) 若尾祐司・井上茂子編『ドイツ文化史入門：16世紀から現代まで』昭和堂、2011年。 23) 『シリーズ近現代ヨーロッパ200年史全4巻』：リチャードJ.エヴァンズ『力の追求(上・下)：ヨーロッパ史1815-1914』白水社、2018年/イアン・カーショー『地獄の淵から：ヨーロッパ史1914-1949』『分断と統合への試練：ヨーロッパ史1950-2017』白水社、2919年 ※その他、参考書、資料は講義中に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回授業内でリアクションペーパーのコメントをいくつか紹介し、さらに教員によるコメントや教員と学生または学生同士での意見交換を通じて、課題内容への理解を深める。	
成績評価の方法 平常点40% (授業への参加度・リアクションペーパー) と学期末試験60% (論述形式) の総合点をもとに成績評価を行う。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) PHL291J	
現代思想	2 単位
	3・4 年次
教授 重田園江	
授業の概要・到達目標 ウクライナ戦争によって明らかになったのは、戦争が武力衝突であるだけでなく、真実と虚偽をめぐる抗争でもあるということだ。戦争においてなぜ真実が大きな賭金となるのか。そしてこれまで、真実と虚偽をめぐるような暴力的行いが、戦争においてなされてきたのか。 こうした点について、ウクライナ戦争、第二次大戦時のソ連東欧地域、そしてベトナム戦争、また第二次大戦時の東アジアを例に見ていく。焦点となるのはソ連東欧についてはユダヤ人虐殺とウクライナ戦争での情報戦、またベトナム戦争時のアメリカによる戦時国際法違反と自国軍人を対象に含む暴力、そして日本の第二次大戦における情報操作と戦後の「国民＝犠牲者」史観の醸成などである。 ・戦争とは単なる武力の衝突ではないことが分かる。 ・戦争における真実の扱いを見ることで、現代社会における真実の位置がより一般的な次元で理解できるようになる。 ・言い換えると「ポストトゥルース」時代、価値相対主義がネットによって広がるまで広がった時代における真実の政治化について理解できるようになる。 ・この意味での真実の政治性の起源はかなり古く、プロパガンダが大衆動員に利用された100年前に遡ることが分かる。 ・100年前と今とで何が違うのか、あるいは100年間途切れることなく続いてきたものは何かを考えることで、今の国際秩序の危うさの根源を理解できる。 ・日本の第二次大戦とその後の歩みについても、比較の第一歩として言及する。	
授業内容 1. ウクライナ戦争の経緯と現在の状況、ロシアの偽旗作戦、戦争正当化の衝撃 2. 開戦の正当化理由の歴史 ベトナム戦争、日中戦争における虚偽 3. ポスト・トゥルースはなぜ恐ろしいのかーガルゲンとトランプ 4. 「事実の真実」とは何か 5. セルゲイ・ロズニツァとフィクション／ドキュメンタリー 6. バビ・ヤールで何が起こったのか 7. ソ連ユダヤ人の運命はなぜどのように隠蔽されたのか 8. 全体主義と秘密警察の現在 9. 東欧圏の過去の共有と統一ポーランド、ベラルーシ、バルト三国、ウクライナ 10. 現代ウクライナのナショナリズムとユダヤ人追悼 11. 過去をどのように現在に結びつけるべきなのかー日本の戦時の記憶 12. 戦時の記憶と戦後の映像メディアー朝鮮戦争という分水嶺 13. 基地国家の誕生としての朝鮮戦争と日本 14. 20世紀の負の遺産に縛られる私たちの困難な未来 15. 定期試験	
履修の注意点 特になし	
準備学習の内容 セルゲイ・ロズニツァ「バビ・ヤール：コンテクスト」 この映画は授業でも部分的に見せるが、アマゾンでレンタルできる。 「マイダン」 「新生ロシア1991」 「ミスター・ランズベルグ」 「肅清裁判」 「ジェントル・クリチャー」 など、教科書で取り上げられている映画の視聴を勧める。 映画館で観られる機会は少ないが、英語のサブスクサイトにけっこう上がっている。私が観たのは主にMUBI。日本語のサブスクサイトでは「国葬」「肅清裁判」「アウステルリッツ」「ドンパス」(U-NEXT)、が観られる。 アマゾン、vimeoなどでも一本単位でWebレンタルできる。セリフが少ないので英語字幕でも十分視聴可能です。 日本のものでは、 「私は貝になりたい」(1958年ドラマ版はU-NEXT、2008年映画版はアマプラとU-NEXTで見られる)、「日本の悲劇<自由の声>」(1946年の亀井文夫によるドキュメンタリー、https://www.youtube.com/watch?v=QyBwheX7Ezwで全編視聴できる)、「ピルマの堅琴」(1956年版はU-NEXT、アマゾンではレンタル、1985年版は現在視聴できない)に授業で言及する予定。	
教科書 重田園江 『真実の語り手ーアレントとウクライナ戦争』(白水社、2022年)	
参考書 南基正 『基地国家の誕生ー朝鮮戦争と日本・アメリカ』東京堂出版、2023年 ハンナ・アレント、大久保和郎・大島おかり訳 『全体主義の起源3 全体主義』(みすず書房、2017年) ハンナ・アレント、齋藤純一・引田隆也訳 『過去と未来の間ー政治思想への8 試論』(みすず書房、1994年) この中の「真実と政治」 ハンナ・アレント、山田正行訳 『暴力についてー共和国の危機』(みすず書房、2000年) この中の「政治における嘘」 野村真理 『ガリツアのユダヤ人ーポーランド人とウクライナ人のほざまで』人文書院、2008年 ワシーリー・グロスマン 『トレ布林カの地獄』みすず書房、2017年	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 定期試験、毎回提出してもらったコメントペーパー(お題に答えたり授業の感想などなんでも書いていい紙)、積極性	
その他 授業の初めに「前説」と「お便りコーナー」があり、受講者との触れ合いの心温まる場になっています。前説では主に映画やサブカルチャー、懐かしいアニメや風俗を取り上げます。	

科目ナンバー：(PE) POL211J	
現代政治理論	2 単位
	3・4 年次
教授 重田園江	
授業の概要・到達目標 春学期は「シン・アナキズム」と題して、新しいアナキズム的な実践と、新たな角度からみたアナキズム思想をセットで解説する。NHKBooksWebサイト「本がひらく」に不定期連載中の「シン・アナキズム」を元にした話。 若い方は知らないかもしれないが、アナキズムというと「テロル」「暴力」下手すると「一揆」といった印象を長い間持たれてきた。しかし、いまになってみると、アナキズムにはそれとは異なる側面が多々ある。共通するのは、「国家」や「巨大な権力」による支配とは異なった形での、「自治」や「自律」の政治・社会実践を伴うことだ。 これについて、都市と農村のそれぞれについて社会運動を実践してきた二人の女性、ジェイン・ジェイコブズとヴァンダナ・シヴァをまず取り上げる。彼女たちが何に抵抗していたかを見ることで、近代の裏面が自ずと浮かび上がってくる。つづいて、アナキズムのより思想的・理論的な取り組みとして、カール・ポランニーの経済人類学的な市場社会批判と、デイヴィッド・グレーバーのアナキズム思想を取り上げる。この二人の人物には共通点も多いが、20世紀前半と21世紀初頭というそれぞれの時代の文脈に即して、その思想を紐解いてゆく。 授業を通じて理解してほしいのは、いかに今の世界が社会編成原理として、また主流の価値観として、どん詰まりの状態にあるかだ。だからこそ、この世界は身近なところから変えていくことができる。間違ったことだからなので。そのために、自分の足で立ち、自分の頭で考える第一歩になってほしい。これが授業の到達目標。	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 タネと水と大地(ヴァンダナ・シヴァ)と1 第3回 タネと水と大地と2 第4回 タネと水と大地と3 第5回 都市は誰のものか(ジェイン・ジェイコブズ)1 第6回 都市は誰のものか2 第7回 都市は誰のものか3 第8回 市場社会の形成と限界(カール・ポランニー)1 第9回 市場社会の形成と限界2 第10回 市場社会の形成と限界3 第11回 アナキスト人類学と運動の未来(デイヴィッド・グレーバー)1 第12回 アナキスト人類学と運動の未来2 第13回 アナキスト人類学と運動の未来3 第14回 講義内容のまとめ 第15回 定期試験	
履修の注意点	
準備学習の内容 映像資料として参考書に挙げた、原村政樹監督「タネは誰のもの?」マリー=モニク・ロバン「モンサントの不自然な食べもの」ロバート・ケナー「フードインク」などの視聴を勧める。	
教科書 重田園江「連載 シン・アナキズム」ヴァンダナ・シヴァ1-3 NHK出版HP「本がひらく」 https://nhkbook-hiraku.com/n/n167e6dcfeaf6 重田園江「連載 シン・アナキズム」ジェイン・ジェイコブズ1-3 https://nhkbook-hiraku.com/n/n98b02d8586b3 重田園江「連載 シン・アナキズム」ポランニーとグレーバー(内容はポランニーのみ)1-7 https://nhkbook-hiraku.com/n/n786bf6de0712 重田園江「連載 シン・アナキズム グレーバー」1-9(連載中、13くらいまでいきそう) https://nhkbook-hiraku.com/n/n62e45cd41791	
参考書 ヴァンダナ・シヴァ、浜名喜美子訳『緑の革命とその暴力』日本経済評論社、1997年 映像資料 原村政樹監督「タネは誰のもの?」マリー=モニク・ロバン「モンサントの不自然な食べもの」ロバート・ケナー「フードインク」 ジェイン・ジェイコブズ、山形浩生訳『アメリカ大都市の死と生』鹿島出版社2010年 カール・ポランニー、野口建彦・栖原学訳『大転換』東洋経済新報社、2009年 デイヴィッド・グレーバー、デイヴィッド・ウェングロー『万物の黎明ー人類史を根本からくつがえす』光文社、2023年 そのほかグレーバーの翻訳されている諸著作	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 期末試験。毎回の授業への取り組み。 授業では毎回リアクションペーパーを配り、回収します。 現代的な話題なので、毎回の授業への皆さんのリアクション次第で内容が深まります。 自分の意見を持ちやすい話題が多いので、熱い議論が出てくることを期待します。	
その他 授業の初めに「前説」と「お便りコーナー」があり、受講者との触れ合いの心温まる場になっています。前説では主に映画やサブカルチャー、懐かしいアニメや風俗を取り上げます。時事的なワンテーマで話すこともあります。	

科目ナンバー：(PE) POL291J	
日本政治思想史	2 単位
	3・4 年次
講師 相原耕作	
授業の概要・到達目標 日本には、後進国として先進国の文明を輸入し続けてきた歴史があります。外来思想の導入には様々な軋轢や反発を伴い、そこから新たな思想も産み出されてゆきます。そのような営みについて、主に中国由来の儒学・朱子学に対する江戸時代の知識人たちの知的格闘に即して考えます。 本講義の目標は、「異質な他者」と出会うことです。「異質な他者」の思考の道筋を辿り、彼らとともに考え、思考の幅を広げることを目指します。	
授業内容 一話完結型の講義は行いませんが、おおよその予定は以下の通りです。但し、変更はあります。 第1回 イントロダクション 序論 (1) 「異質な他者」との出会い 第2回 序論 (2) 「日本」「日本語」について考える 儒学・朱子学の政治思想 (1) 儒学の成り立ち 第3回 儒学・朱子学の政治思想 (2) 存在論・人性論 第4回 儒学・朱子学の政治思想 (3) 政治論・ユートピアと革命 第5回 儒学・朱子学の政治思想 (4) 中華と夷狄 第6回 「御威光」の支配—徳川政権のクレデンダとミランダ 第7回 徳川社会と儒学 (1) 家・家職国家 第8回 徳川社会と儒学 (2) 家業道徳・君臣・天子 第9回 徳川社会と儒学 (3) 礼楽・革命・東夷 第10回 反朱子学の政治思想—古学の成立 伊藤仁斎の思想 (1) 古義学の方法・朱子学批判 第11回 伊藤仁斎の思想 (2) 道徳論・政治論 荻生徂徠の思想 (1) 朱子学・仁斎学批判 荻生徂徠の思想 (2) 言語研究・古文辞学・徂徠学 第13回 荻生徂徠の思想 (3) 政策論 第14回 太宰春台と国学	
履修の注意点 日本政治文化論と併せて受講すると理解が深まります。講義中に資料の朗読や意見を求める場合があります。その際は快く応じて下さい。	
準備学習の内容 配付資料に予習・復習のための欄を設けますから、それに従って予習・復習を行って下さい。	
教科書 教科書は使用しません。毎回、資料を配付します。	
参考書 渡辺浩『日本政治思想史 [十七～十九世紀]』東京大学出版会、2010年 田尻祐一郎『江戸の思想史 人物・方法・連環』中公新書、2011年 米原謙『日本政治思想 [増補版]』ミネルヴァ書房、2017年 原武史『日本政治思想史 (改訂版)』放送大学、2021年 その他の文献は、講義の際に適宜紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回提出のコメント・ペーパーを踏まえて、講義の際に口頭でコメントを行います。	
成績評価の方法 定期試験80% (講義で得た知識を運用する工夫と論理的に表現する力を問う論述試験)・平常点20% (毎回提出のコメント・ペーパーによる)。	
その他 話を聞きながらノートをとる能力を身につけて下さい。また、毎回、コメント・ペーパーに、質問・意見・感想などを書いていただきます。 Oh-olMeijiで配付資料やお知らせをチェックしてください。	

科目ナンバー：(PE) POL211E	
日本政治思想史	2 単位
	3・4 年次
特任講師 ブルチャー ミヒャエル	
授業の概要・到達目標 The purpose of this course is to offer a survey of the history of Japanese political thought, with a focus on the Tokugawa and early Meiji periods. Central to its approach will be the question of continuities and constitutive differences between "premodern," "early modern" and "modern" forms of political thought. Students will gain basic acquaintance with major Tokugawa and early Meiji political thinkers and achieve an improved understanding of "Confucianism" as a form and language of political thought, with a view to how characteristically modern political ideas emerged from this background, as seminal thinkers were challenged to rethink Japan's changing society and relations to the wider world.	
授業内容 1. Introduction: "History of Japanese Political Thought" as a field 2. The foundation myths and early state formation in Japan 3. The <i>ritsuryo</i> 律令 state and privatization of government in Heian Japan 3. Medieval backgrounds: Buddhist esotericism and the concept of <i>shinkoku</i> 神国 4. Political consolidation during the Warring States period: The concept of <i>kokka</i> 国家 5. The Unification regimes and the concept of <i>tenka</i> 天下 6. The spread of Confucianism 7. Varieties of Tokugawa Confucian thought 8. The school of National Learning 9. The advent of Western Learning 10. Aizawa Seishisai and the idea of the <i>kokutai</i> 国体 11. The discourse on "civilization" (<i>bunmei</i> 文明) 12. The struggle over "sovereignty" (<i>shuken</i> 主権) and "people's rights" (<i>minken</i> 民権) 13. The Meiji Constitution in theory and practice 14. Summing Up	
履修の注意点 This course will be conducted in English.	
準備学習の内容 Weekly readings of 20-30 pages in English prior to each class. The weekly lectures will summarize, explain, and offer interpretations of these texts, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.	
教科書 None. Weekly readings will be distributed in class or accessible online.	
参考書 Hiroshi Watanabe, <i>A History of Japanese Political Thought, 1600-1901</i> , International House of Japan, 2012. Kiri Paramore, <i>Japanese Confucianism: A Cultural History</i> , Cambridge University Press, 2016.	
課題に対するフィードバックの方法 Correct answers on quizzes/tests will be made available to students afterwards. The instructor will also provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are additionally encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc).	
成績評価の方法 Attendance and Participation: 10% Occasional Quizzes: 60% Essay: 30%	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL211E	
日本政治文化論	2 単位
	3・4 年次
講師 相原耕作	
授業の概要・到達目標 日本には、後進国として先進国の文明を輸入し続けてきた歴史があります。江戸時代には、中国由来の儒学・朱子学が学問の主流となる一方、西洋思想も入ってきます。江戸時代半ばから幕末維新期の知識人たちが、儒学・朱子学や近代西洋の思想とどのように知的に格闘したのか、考えます。 本講義の目標は、「異質な他者」と出会うことです。「異質な他者」の思考の道筋を辿り、彼らとともに考え、思考の幅を広げることを目指します。	
授業内容 一話完結型の講義は行いませんが、おおよその予定は以下の通りです。但し、変更はありえます。 第1回 イントロダクション 「まつりごと」―日本在来の政治観 第2回 「政は正なり」―儒学の政治観 第3回 「おおやけ」と「わたくし」―公共性をめぐって 第4回 「言語」をめぐる構想と闘争（1）儒学者・五十音図・契沖・賀茂真淵 第5回 「言語」をめぐる構想と闘争（2）本居宣長の語学説と秩序像 第6回 「言語」をめぐる構想と闘争（3）本居宣長の「神」・平田篤胤 第7回 近世日本の外交関係 第8回 後期水戸学の思想 第9回 幕末の朱子学と西洋観 第10回 近代国家の形成と江戸思想 第11回 「国民nation」の創出―ナショナリズム 第12回 立憲主義の導入（1）「公議輿論」と明治憲法 第13回 立憲主義の導入（2）明治憲法の制定と運用 第14回 武士なき「武士道」の成立	
履修の注意点 日本政治思想史と併せて受講すると理解が深まります。講義中に資料の朗読や意見を求める場合があります。その際は快く応じて下さい。	
準備学習の内容 配付資料に予習・復習のための欄を設けますから、それに従って予習・復習を行って下さい。	
教科書 教科書は使用しません。毎回、資料を配付します。	
参考書 渡辺浩『日本政治思想史 [十七～十九世紀]』東京大学出版会、2010年 田尻祐一郎『江戸の思想史 人物・方法・連環』中公新書、2011年 米原謙『日本政治思想 [増補版]』ミネルヴァ書房、2017年 原武史『日本政治思想史 (改訂版)』放送大学、2021年 その他の文献は、講義の際に適宜紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回提出のコメント・ペーパーを踏まえて、講義の際に口頭でコメントを行います。	
成績評価の方法 定期試験80%（講義で得た知識を運用する工夫と論理的に表現する力を問う論述試験）・平常点20%（毎回提出のコメント・ペーパーによる）。	
その他 話を聞きながらノートをとる能力を身につけて下さい。また、毎回、コメント・ペーパーに、質問・意見・感想などを書いていただきます。 Oh-olMeijiで配付資料やお知らせをチェックしてください。	

科目ナンバー：(PE) POL211J	
日本政治文化論	2 単位
	3・4 年次
特任講師 ブルチャー ミヒャエル	
授業の概要・到達目標 The purpose of this course is to serve as an introduction to Japanese political culture. "Political culture" is a problematic concept used in multiple (and often shifting) senses. While it can make sense to discuss a (tenacious or changing) "culture" - or maybe "cultures" - of "Japanese politics," it is also important to note the "politics" involved in assertions of "Japanese culture" as a supposed "national" essence. This course will critically pursue the theme of "Japanese political culture" in both of these directions. Weekly lectures will take up key aspects under which Japanese "political culture" (under this or closely related headings) has been discussed, and introduce influential contributions to the ensuing debates. In other words, Japanese "political culture" will here be approached as the topic of an ongoing debate and a subject of continuing political struggles. It is in the nature of an introduction that many of the complex issues involved can be only broached in passing. This course aims to serve students as a source of inspiration and ideas for further study or research on these and related topics in the future.	
授業内容 1. Introduction: The culture of "Japanese politics" and the politics of "Japanese culture" 2. The controversy over Ruth Benedict's <i>Chrysanthemum and the Sword</i> 3. "Culture" and "society": Arthur Stockwin's take on the "social background of Japanese politics" 4. The "1955 System": One-party dominance as the "logic of Japanese politics"? 5. Limits and legacies of political opposition in postwar Japan 6. "Citizen" movements and "civil society" in postwar Japan 7. S.N. Eisenstadt on the "political and social system of modern and contemporary Japan" 8. Sheldon Garon on Japanese bureaucracy as a culture of "social management" 9. Maruyama Masao on "the logic and psychology of Japanese ultra-nationalism" and "structure of <i>matsurigoto</i> " 10. Imagining all "the people": Irokawa Daikichi on "the culture of the Meiji period." 11. Narratives of "modernization" and the search for the "cultural roots of modern Japan" 12. The Japanese "symbol monarchy" 13. Controversies over "war remembrance" 14. David Leheny on the "empire of hope"	
履修の注意点 This course will be conducted in English.	
準備学習の内容 Weekly readings of 20-30 pages in English prior to each class. The lectures will summarize, explain, and offer interpretations of these texts, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.	
教科書 Lauren McKee, <i>Japanese Government and Politics</i> (Key Issues in Asian Studies), Association for Asian Studies, distributed by Columbia University Press, 2023. This book can be purchased as an e-book (EPUB or PDF) at https://www.asianstudies.org/store/japanese-government-and-politics/ or Japanese ebook sellers. As a very concise introduction to the various dimensions of Japanese politics, it will serve as background reading.	
参考書 Jeff Kingston (ed.), <i>Critical Issues in Contemporary Japan</i> , 2nd ed. Routledge, 2019. J.A.A. Stockwin, <i>Governing Japan: Divided Politics in a Resurgent Economy</i> , Blackwell 2008. Simon Andrew Avenell, <i>Making Japanese Citizens: Civil Society and the Mythology of the Shimin in Postwar Japan</i> , University of California Press, 2010. Kenneth Ruoff, <i>The People's Emperor: Democracy and the Japanese Monarchy 1945-1995</i> , Harvard University Press, 2002. Arthur Stockwin, <i>The Failure of Political Opposition in Japan: Implications for Democracy and a Vision of the Future</i> , Routledge 2023.	
課題に対するフィードバックの方法 Correct answers on quizzes/tests will be made available to students afterwards. The instructor will also provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are additionally encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc.).	
成績評価の方法 Attendance and Participation: 10% Occasional Quizzes: 60% Essay: 30%	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC261J	
メディアリテラシー論	2単位
	3・4年次
兼任講師 牛山佳菜代	
授業の概要・到達目標 メディアリテラシーとは、一般的に「メディアを主体的・批判的に読み解く能力」と定義されるが、近年のメディアの多様化の中で、問題点を指摘するだけでなく、これからのメディアのあり方を提案する能力までが含まれる広い概念である。そこで、この講義では、メディアリテラシーを理解するための前提となる基礎概念及びメディア環境・文法の特徴について概説を行った後に、実際のテレビ番組、新聞記事、雑誌記事、ネットコンテンツなどを題材としながら、その読み解き方を検討し、今後のあり方を構想する。これらの講義を通じて、メディアリテラシーの総合的向上及び自らが情報発信者となるための手法を修得することを目指す。	
授業内容 第1回目：イントロダクション（現代におけるメディアリテラシーの重要性）／現代社会におけるメディアの役割 第2回目：メディア・リテラシーとは 第3回目：メディア環境の変容 第4回目：メディア文法の特徴 第5回目：ニュース報道を考える（1） 第6回目：ニュース報道を考える（2） 第7回目：ドキュメンタリーを読み解く 第8回目：ドラマと現代社会の関係性（1） 第9回目：ドラマと現代社会の関係性（2） 第10回目：雑誌が提示する価値観 第11回目：広告が提示する価値観 第12回目：地域メディアと地域社会 第13回目：ネットメディアが生み出す新しいメディア空間 第14回目：メディアリテラシーが拓く可能性・まとめ	
履修の注意点 1)メディアに関する前提知識は必要としないが、授業内で実際にメディア分析を行うため、主体的に授業に取り組みたいと考える学生の受講を歓迎する。 2)講義資料は電子配布し、授業内においてリアルタイムアンケートシステム（スグキク）を使用した双方向型講義を行う。授業初回より、ネットにアクセスできるPC、タブレット、スマホ等を持参することを求める。 3)一部授業において実務家との連携講義を実施する可能性があり、その場合シラバスに記載の順番を入れ替えて行う可能性がある。	
準備学習の内容 授業中に配布するレジュメ及び授業で紹介した問題について文献等で調べ、不明な点があれば質問すること。次週のテーマについては、自分で事前に調べておくことが望ましい。	
教科書 使用しない。	
参考書 『メディア・リテラシー論』中橋雄（北樹出版）2014年 『吟味思考を育むメディアリテラシー』坂本旬・山脇岳志（時事通信社）2022年 『情報戦争を生き抜く』津田大介（朝日新聞出版）2018年	
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題のうち、優秀、気づきがあるものなどについて、次週以降の授業で一部を紹介し、フィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への貢献度(20%)、授業終了時の小レポート(30%)、期末レポート(50%)	
その他 授業の進め方について初回に詳細説明を行うため、受講希望者は初回より出席すること。	

科目ナンバー：(PE) SOC261J	
国際コミュニケーション論	2単位
	3・4年次
兼任講師 石澤靖治	
授業の概要・到達目標 授業の概要： テーマは「紛争とメディア」。学問分野としては、政治学・社会学・国際関係論の学際的なもの。 授業の到達目標： 国際関係におけるニュースメディアと二国間関係の相互作用についてのモデルとダイナミズムを理解し、それを他の二国間関係にも応用して考えられるようにすること、国際関係における世論とPRの影響と役割、政治プロセスとの関連、国際関係論の基本を理解すること。その上で、パブリック・ディプロマシーやソフトパワーの重要性への認識を深めることで、国際関係のありようについての自らのフレームを構築できるようにする。	
授業内容 第1回目：授業の説明、イントロダクション、ニュースメディアの基本的特質1 第2回目：ニュースメディアの基本的特質2 第3回目：ニュースメディアの基本的特質3 第4回目：ニュースメディアの基本的特質4 第5回目：戦後日米関係史1 第6回目：戦後日米関係史2 第7回目：日米関係とニュースメディア 第8回目：理解度の確認 第9回目：前回のフォローアップ、紛争とメディアへの導入（日露戦争、第一次大戦など） 第10回目：ベトナム戦争、湾岸戦争とメディア 第11回目：イラク戦争とメディア 第12回目：ボスニア紛争とメディア、ロシアのウクライナ侵攻 第13回目：紛争とメディアの諸相、パブリック・ディプロマシー、ソフトパワー1 第14回目：紛争とメディアの諸相、パブリック・ディプロマシー、ソフトパワー2 ＊状況により内容、進行に変化があることがある。	
履修の注意点 一つ一つ積み上げ式の講義となる。表面的ではなく、いかに深く内容を理解するかが重要。事前に問題意識を持っていると受講が充実する。 国際関係論、国際情勢に関する授業を履行しているか、その分野に興味と関心をもっていることが望まれる。 お互いが不幸になるので、真面目に学ぶ気持ちのない学生は履修しないこと。	
準備学習の内容 テキストや参考書を読むこと。ジャーナリズムに興味のある学生は、国際関係以外の章にも目をおしておくことを推奨する。授業で扱う、日米関係、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争、ボスニア紛争などについては、事前・事後に関連書籍を読んでおくことで、より理解が深まる。 日常的に国際ニュースに触れて自分なりの問題意識を深めておくこと。	
教科書 石澤靖治編著『政治コミュニケーション概論』（ミネルヴァ書房）、2021年	
参考書 石澤靖治『テキスト現代ジャーナリズム論』ミネルヴァ書房、2008年 石澤靖治『戦争とマスメディア』ミネルヴァ書房、2005年 石澤靖治『アメリカ情報・文化支配の終焉』PHP研究所、2019年 高木徹『戦争広告代理店』講談社、2002年 その他、随時指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 提出されたものの中から興味深い視点のものについて紹介。あるいは質問する事もある。	
成績評価の方法 期末試験:50%、理解度の確認:30%、平常点（授業中に実施するコメントの提出など）:20%	
その他 しばしば映像を使用する。	

科目ナンバー：(PE) SOC261J	
マスメディア論	2 単位
	3・4 年次
教授 竹下俊郎	
授業の概要・到達目標 テレビや新聞といったマスメディアは、現代社会のなかで公共的な情報・知識の共有を促進するという役割を担っている。社会学的に見れば、マスメディアはひとつの社会制度である。こうした社会制度としてのマスメディアが、政治・経済・法といった他の制度とどう関連しながら日々コンテンツを生産し、また、それがどう利用されているのかを考察する。議論の対象となるコンテンツとしては、娯楽的内容よりもニュースなど時事的な情報の生産・流通・消費の過程に焦点を合わせる。現代社会におけるマスメディアの構造とマスコミュニケーションの過程に対する受講者の理解を深めることを目標とする。それと同時に、ネットの普及に伴う多メディア・多チャンネル化のなかで、伝統的なメディアがどう変容するかについても考えたい。	
授業内容 第1回 イントロダクション：多様化するメディア環境とマスメディア 第2回 産業としてのマスメディア（1）：新聞の発達 第3回 産業としてのマスメディア（2）：放送の発達 第4回 産業としてのマスメディア（3）：メディアのビジネスモデル 第5回 産業としてのマスメディア（4）：市場寡占化の問題 その1 第6回 産業としてのマスメディア（5）：市場寡占化の問題 その2 第7回 メディアの自由と責任（1）：思想の自由市場論 第8回 メディアの自由と責任（2）：社会的責任論 第9回 メディアの自由と責任（3）：表現の自由と知る権利 第10回 ニュース制作とその規定要因（1）：ニュースバリュー 第11回 ニュース制作とその規定要因（2）：客観報道主義 第12回 ニュース制作とその規定要因（3）：取材源との関係、ニュースの娯楽化 第13回 メディアの利用過程（1）：「利用と満足」研究 第14回 メディアの利用過程（2）：メディア利用の分散化とマスメディアの役割の変化	
履修の注意点 この講義を受けるにあたって、「メディアと世論」を合わせて履修することが望ましい。また、他の関連科目として「国際コミュニケーション論」「メディアリテラシー論」などがある。 原則として、毎回の授業用資料を事前にOh-ol Meijiの本科目のページに掲載するので、受講生はそれらをプリントアウト等閲覧可能な状態にして、授業に持参してほしい。	
準備学習の内容 この講義を受けるにあたっては、予習よりも復習に重点を置いてほしい。授業の中で関心を持ったトピックについて、紹介された文献やオンラインの資料等でさらに追究することを勧める。	
教科書 『図説 日本のメディア [新版]』 藤竹暁・竹下俊郎(編) (NHK出版、2018)	
参考書 『メディアと政治 [改訂版]』 蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一 (有斐閣、2010) 個別テーマの参考文献については授業中に指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で、もしくはOh-ol Meijiを活用して行う。	
成績評価の方法 筆記試験 50% レポート 25% 授業への参加度 25%	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) SOC261E	
マスメディア論	2 単位
	3・4 年次
特任教授 杉田弘毅	
授業の概要・到達目標 Title: Understanding Media The course will give the participants an overview of Japanese and international media organizations and challenges resulting from rapid transition in the Internet-AI age. Information will be provided about history of Japan's newspapers and TV broadcasters, and their influence in shaping public opinion. The course will examine challenges related to news gathering activities by Japanese media organizations. The participants will also be briefed on the Japan's out-going news service for the purpose of having foreign nations understand Japan objectively. Finally, we will discuss about ways to revitalize responsible media and journalism. The course objectives are: 1 To get a comprehensive understanding of Japan's mass media 2 To acquire the knowledge of media policies 3 To learn about role of major media organizations in Internet-AI age	
授業内容 Lecture1 Introduction Lecture2 The present situation of Japan's media organizations Lecture3 History of Japan's media, newspapers and TV broadcasters Lecture4 Media and its influencing power Lecture5 Media bias, liberal and conservative Lecture6 Fake news and media Lecture7 Mid semester report Lecture8 Free press Lecture9 War and media Lecture10 Media and governments Lecture11 The roles and challenges of the mass media in the Internet age Lecture12 Traditional media and Artificial Intelligence Lecture13 Discussion about the future of media Lecture14 Final report	
履修の注意点 Classes will be conducted in English; both reports will be written in English	
準備学習の内容 Before class: Check for current news for 60 mins. Occasionally we will discuss about major news stories. After class: Review important information provided and learned in class	
教科書 None	
参考書 Professor will recommend on-line materials at classes	
課題に対するフィードバックの方法 成績評価の方法 Class contribution=30% Midterm report=30% Final report=40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC261J	
メディアと世論	2単位
	3・4年次
教授 竹下俊郎	
授業の概要・到達目標 民主主義は世論にもとづく統治であるといわれる。そして、現代の高度大衆社会にあって世論の形成や変動に大きく関わっているのが、マスメディアをはじめとする各種情報メディアである。本講義では、メディアと「世論（＝公共的問題をめぐる一般市民の意識や行動）」との間の影響の授受関係について考える。現代政治を分析・考察するうえで、メディアの役割に対する理解は欠かせない。たんなる印象批評ではなく、科学的方法によって事実やデータの収集・分析を行った実証研究にもとづきながら、現代の大衆民主主義におけるメディアの機能について理解を深めることを目標とする。	
授業内容 第1回 イントロダクション：輿論と世論 第2回 プロパガンダの時代(1) 第3回 プロパガンダの時代(2) 第4回 古典研究：放送の大衆動員力(1) 第5回 古典研究：放送の大衆動員力(2) 第6回 選挙キャンペーンと投票行動 第7回 限定効果論の成立と再検討 第8回 認知的影響への視点の転換 第9回 議題設定研究の展開(1) 第10回 議題設定研究の展開(2) 第11回 フレーミング研究の展開 第12回 「意見の風向き」とメディア：沈黙のらせん 第13回 培養仮説：テレビメディアの集合的影響 第14回 メディア環境の変容と政治コミュニケーション	
履修の注意点 この講義を受けるにあたって、「マスメディア論」を合わせて履修することが望ましい。また、他の関連科目として「国際コミュニケーション論」「メディアリテラシー論」などがある。 原則として、毎回の授業用資料を事前にOh-ol Meijiの本科目のページに掲載するので、受講生はそれらをプリントアウト等閲覧可能な状態にして、授業に持参してほしい。	
準備学習の内容 この講義を受けるにあたっては、予習よりも復習に重点を置いてほしい。授業の中で関心を持ったトピックについて、紹介された文献やオンラインの資料等でさらに追究することを勧める。	
教科書 『メディアと政治 [改訂版]』 蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一（有斐閣、2010）	
参考書 『メディアの議題設定機能 [増補版]』 竹下俊郎（学文社、2008） 『アジェンダセッティング』 M. マコームズ（竹下俊郎訳）（学文社、2018） 個別テーマに関する参考文献は授業中に指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で、もしくはOh-ol Meijiを活用して行う。	
成績評価の方法 筆記試験 50% レポート 25% 授業への参加度 25%	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) SOC261E	
メディアと世論	2単位
	3・4年次
特任教授 杉田弘毅	
授業の概要・到達目標 Title: Media and Public Opinion This course will deepen understanding of the relationship between media and public opinion. The media is often criticized for raising malignant nationalism and hostile attitudes toward foreign countries. It is also pointed out that the media is responsible for the deterioration of politics. In this course, we will examine the validity of such criticism and discuss the roles that the media should play in a democratic society. The course objectives are: 1 To get comprehensive knowledge of the relationship of media and public opinion 2 To examine criticism of media in shaping public opinion 3 To discuss ways to improve media contents	
授業内容 Lecture1 Introduction Lecture2 Basic relationship of media and public opinion Lecture3 History of the relationship of media and public opinion 1: Cases in Japan Lecture4 History of the relationship of media and public opinion 2: Cases in the United States Lecture5 Media and populism Lecture6 Media and propaganda Lecture7 Mid seminar report Lecture8 Media and war Lecture9 Media and echo Chamber Lecture10 Criticism or policy proposal? Lecture11 Efforts to improve media contents 1: Investigative reporting Lecture12 Efforts to improve media contents 2:NPO Journalism Lecture13 General discussion about media and public opinion Lecture14 Final report	
履修の注意点 Classes will be conducted in English; both exams will be written in English	
準備学習の内容 Before class: Check for current news for 60 mins. Occasionally we will discuss about major news stories. After class: Review important information provided and learned in class	
教科書 Walter Lippmann "Public Opinion"	
参考書 Professor may recommend on-line materials at classes	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Class attendance/contribution=30% Midterm report=30% Final report=40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN221J	
社会経済史【2022年度以降入学者】	2単位
	3・4年次
講師 中島満大	
授業の概要・到達目標 <p>本講義では、心性史・社会史、歴史人口学、あるいは歴史社会学の知見にもとづいて、日本における人口転換と家族のあり方の連関について検討していく。人口学的な事象、たとえば少子化の進展や平均寿命の延伸は、私たちの考える「家族」のあり方に大きく作用している。そしてその時代における家族は、同時代の人口学的な事象をつくりだしている。そこに生じる連関を長期的に導出し、人口と家族のあり方を素描することを本講義では目指していく。</p> <p>この講義では、人口転換と家族のあり方との連関を検討するために、アナル学派の手法や視点を導入する。歴史学者のリュシアン・フェーヴルとマルク・ブロックによって刊行された『社会経済史年報 Annales d'histoire économique et sociale』を端緒とし、そこから生まれた歴史学者のグループの通称がアナル学派である。</p> <p>アナル学派の特徴は時代や世代によっても異なるが、本講義では、二つの視点に焦点をあてる。ひとつは、フェルナン・ブローデルが採用した時空間の区分である。ブローデルは(1)「構造」または「長期持続」、(2)「変動」、(3)「事件」という三層に区分し、長期的な持続性とその変動を析出している。もうひとつは、数量史と心性史・社会史の統合である。アナル学派は、数量史の積極的な導入を進める一方で、心性史や社会史といった数量では示しにくい対象にも焦点をあててきた。いわゆる「量」と「質」との架橋こそがアナル学派の特徴であると言える。これらのふたつの視点を採用し、本講義は、日本における人口と家族のあり方を議論していく。それに加えて本講義では、日本の家族を論じていくにあたり、近代家族論と「創られた伝統」論を補助線として参照する。</p>	
授業内容 (1) イントロダクション (2) 創られた伝統 (1) 演歌と日本の心 (3) 創られた伝統 (2) 初詣の社会史 (4) アナル学派の歴史学 (1) 「長期持続」への着目 (5) アナル学派の歴史学 (2) 数量史と心性史・社会史の統合 (6) 二つの人口転換論 (7) 歴史人口学からみた出生と死亡 (8) 歴史人口学からみた結婚と離婚 (9) <家族>の実現性の変動 (10) 家族の自明性と近代家族論 (11) 子ども中心主義の浸透 『<子ども>の誕生』 (12) 母性愛の構築 『母性という神話』 (13) 性別役割分業のはじまりと拡散 (14) 近代(家族)の伝統化	
履修の注意点	
準備学習の内容 事前に歴史人口学、社会史や心性史、歴史社会学などの研究にふれておいてくれるとうれしい。	
教科書 適宜、レジユメを配布する。	
参考書 レジユメに記載されている参考文献を中心に読み進めてほしい。	
課題に対するフィードバックの方法 提出されたコメントカードに書かれている質問や感想には、授業の冒頭やコメントカードへの返信というかたちでフィードバックを行う。	
成績評価の方法 毎回の講義でのコメントカードの提出(30%)、期末レポート(70%)で評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN221J	
経済学史【2021年度以前入学者】	4単位
	3・4年次
助教 加藤真琴	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、まず古典派経済学を中心にその代表者と批判者の主張をとりあげる。その後、秋学期に開講される「近代経済学史」への橋渡しとして、限界革命からケインズ革命までを概略的に扱う。 【到達目標】 ①授業で扱う経済学者の主張にかんするキーワードを自分の言葉で説明できるようになる。 ②過去の経済学者が克服しようとした課題と現代社会が抱える問題との接点を考えることができる。	
授業内容 第1回目 授業の進め方と成績評価（aのみ） 第2回目 「経済学史」とはなにか 第3回目 重商主義：経済への国家の介入、現代アメリカにみる重商主義の復活 第4回目 重農主義：ケネーの『経済表』、自由貿易政策 第5回目 古典派経済学の成立：アダム・スミス① 「古典派」とはなにか、スミスの生涯とイギリス 第6回目 古典派経済学の成立：アダム・スミス② 『道徳感情論』 第7回目 古典派経済学の成立：アダム・スミス③ 『国富論』 第8回目 古典派経済学の成立：アダム・スミス④ フェミニストからみたスミスの経済学 第9回目 古典派経済学の発展：T. R. マルサス 人口論 第10回目 古典派経済学の発展：デイビッド・リカードウ 穀物法論争と自由貿易 第11回目 古典派経済学の再編：J. S. ミル① 社会科学方法論と『経済学原理』 第12回目 古典派経済学の再編：J. S. ミル② 社会主義論とミル以後の古典派経済学 第13回目 ドイツとフランスの経済学：フリードリヒ・リスト（独）、セーとシモンディ（仏） 第14回目 a：古典派経済学のまとめ、b：中間試験① 第15回目 古典派経済学への批判：カール・マルクス① 産業革命と社会問題 第16回目 古典派経済学への批判：カール・マルクス② 『資本論』の執筆背景と概要 第17回目 古典派経済学への批判：カール・マルクス③ マルクスとマルクス主義 第18回目 忘れられた経済学者：1970年代の経済学の危機、歴史学派と制度学派の再評価 第19回目 忘れられた経済学者：ドイツ歴史学派 旧歴史学派、新歴史学派、最新歴史学派 第20回目 忘れられた経済学者：アメリカ制度学派 ヴェブレン、コモنز、ミッチェル 第21回目 a：古典派経済学批判のまとめ、b：中間試験② 第22回目 限界革命の経済学：1870年代からはじまる「限界革命」 第23回目 限界革命の経済学：W. S. ジェヴォンズ 第24回目 限界革命の経済学：カール・メンガー 第25回目 限界革命の経済学：レオン・ワルラス 第26回目 新古典派経済学：アルフレッド・マーシャル 第27回目 ケインズ革命：ケインズと1930年代の失業問題 第28回目 全体のまとめ	
履修の注意点 なし	
準備学習の内容 予習：学生同士のディスカッション（30分間）、ニュースの視聴（30分間） 復習：キーワードを自分の言葉でまとめる（60分間）	
教科書 とくに定めない	
参考書 『経済学史—経済学の生誕から現代まで』早坂忠編著（ミネルヴァ書房）1989年 『アメリカの経済思想—建国期から現代まで』田中敏弘（名古屋大学出版会）2002年 『経済学史入門—経済学方法論からのアプローチ』久保真・中澤信彦編（昭和堂）2023年	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で行う	
成績評価の方法 平常点（30%）、期末試験（70%）※平常点はリアクションペーパーの記述内容に中間試験の成績を加味する	
その他 なし	

科目ナンバー：(PE) ECN221J	
近代経済学史【2021年度以前入学者】	4単位
	3・4年次
助教 加藤真琴	
授業の概要・到達目標 この授業では、1870年代以降の経済学をおもな対象とする。1870年初頭に古典派経済学は解体され、スミス革命やケインズ革命とならび、経済学史上の3大革命の1つである限界革命がはじまった。日本では、限界革命以後の非マルクス系の経済学をほぼすべて「近代経済学」とよんでいる。 【到達目標】 ①授業で扱う経済学者の主張にかんするキーワードを自分の言葉で説明できるようになる。 ②過去の経済学者が克服しようとした課題と現代社会が抱える問題との接点を考えることができる。	
授業内容 第1回目 授業の進め方と成績評価（aのみ） 第2回目 限界革命：1870年代と経済学、経済学の専門化と経済学会 第3回目 限界革命：限界革命の3大学派と限界概念の先駆者 第4回目 限界革命：W. S. ジェヴォンズ① ジェヴォンズの生涯 第5回目 限界革命：W. S. ジェヴォンズ② 『経済学の理論』 第6回目 限界革命：W. S. ジェヴォンズ③ 『石炭問題』とアメリカの経済学者に与えた影響 第7回目 限界革命：カール・メンガー① メンガーの生涯 第8回目 限界革命：カール・メンガー② 『国民経済学原理』と歴史学派批判 第9回目 限界革命：カール・メンガー③ メンガーの価値論 第10回目 限界革命：レオン・ワルラス① ワルラスの生涯 第11回目 限界革命：レオン・ワルラス② 交換の理論 第12回目 限界革命：レオン・ワルラス③ 生産の一般均衡理論 第13回目 a：限界革命のまとめ b：中間試験① 第14回目 新古典派経済学：「新古典派経済学」とはなにか 第15回目 新古典派経済学：アルフレッド・マーシャル① マーシャルの生涯 第16回目 新古典派経済学：アルフレッド・マーシャル② 教科書としての『経済学原理』 第17回目 新古典派経済学：アルフレッド・マーシャル③ 「経済騎士道」と「生活基準」 第18回目 新古典派経済学：A. C. ピグー① ピグーの生涯 第19回目 新古典派経済学：A. C. ピグー② 『厚生経済学』とピグーの3命題 第20回目 新古典派経済学：A. C. ピグー③ ピグーの厚生経済学への批判 第21回目 a：新古典派経済学のまとめ b：中間試験② 第22回目 ケインズ革命：1930年代と経済学、第1次・第2次世界大戦の影響 第23回目 ケインズ革命：J. M. ケインズ① ケインズの生涯 第24回目 ケインズ革命：J. M. ケインズ② 『雇用・利子および貨幣の一般理論』 第25回目 ケインズ革命：J. M. ケインズ③ 第1次世界大戦と対独賠償問題 第26回目 ケインズ革命：J. M. ケインズ④ 景気循環にかんする諸学説 第27回目 アメリカ制度学派：制度学派と雇用問題 第28回目 全体のまとめ	
履修の注意点 なし	
準備学習の内容 予習：学生同士のディスカッション（30分間）、ニュースの視聴（30分間） 復習：キーワードを自分の言葉でまとめる（60分間）	
教科書 とくに定めない	
参考書 『経済学史—経済学の生誕から現代まで』早坂忠編著（ミネルヴァ書房）1989年 『経済学史への招待』柳沢哲哉（社会評論社）2017年 『経済学の歴史』根井雅弘（講談社学術文庫）2005年	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で行う	
成績評価の方法 平常点（30%）、期末試験（70%）※平常点はリアクションペーパーの記述内容に中間試験の成績を加味する	
その他 なし	

科目ナンバー：(PE) ECN221J	
近代経済学史	4 単位
	3・4 年次
准教授 奥 山 誠	
授業の概要・到達目標 近代社会の形成と発展にともない、その時代が抱える歴史的課題、克服すべき経済問題もたえず変化する。経済学はその生誕以来、それぞれの時代の課題に対して有効な処方箋を与えるべくつねに格闘を続けてきた。その過程で培われた経済理論のなかには、今日なお顧みるに値する卓抜な知見が数多く含まれている。本講義では、そうした経済学の遺産として特に19世紀末葉以降ヨーロッパを中心にして発展した「近代経済学」と呼ばれる潮流に注目し、その主要な経済理論について検討を行う。 近代経済学の理論的系譜について一通りの知識を得ること、またそれが現代のミクロ・マクロ両経済学の理論的基礎としていかに重要な貢献を果たしているのかを理解することを本講義の到達目標とする。	
授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：限界革命1 限界効用理論について 第3回：限界革命2 限界革命の3大学派について 第4回：W.S. ジェボンズ1 経済学方法論争への参戦 第5回：W.S. ジェボンズ2 富の学から交換の学へ 第6回：W.S. ジェボンズ3 『経済学の理論』と日本でのその受容 第7回：C. メンガー1 ジャーナリズムから経済学の世界へ 第8回：C. メンガー2 ジュモラーとの方法論争 第9回：C. メンガー3 主観的価値論について 第10回：L. ワルラス1 静学体系としての一般均衡理論 第11回：L. ワルラス2 ワルラスの社会ヴィジョン 第12回：L. ワルラス3 ワルラス経済学の継承とパレート 第13回：新古典派経済学1 「新古典派」とはなにか？ 第14回：新古典派経済学2 ケンブリッジ学派の系譜について 第15回：A. マーシャル1 19世紀末大不況と経済学への開眼 第16回：A. マーシャル2 動態的市場経済の把握 第17回：A. マーシャル3 自由貿易論 第18回：A. マーシャル4 「所有と経営の分離」と経済騎士道論 第19回：A.C. ピグー1 マーシャル経済学の継承 第20回：A.C. ピグー2 厚生学の3命題 第21回：A.C. ピグー3 失業理論と雇用政策 第22回：A.C. ピグー4 ケインズとの対立 第23回：ケインズ革命1 「新しい経済学」の誕生 第24回：ケインズ革命2 『一般理論』の世界的波及 第25回：J.M. ケインズ1 自由放任の終焉 第26回：J.M. ケインズ2 有効需要の理論 第27回：J.M. ケインズ3 流動性選好説 第28回：J.M. ケインズ4 階級観	
履修の注意点 経済学史、現代経済史、国際経済史、経済思想、マクロ経済学、ミクロ経済学を履修済みであるか、もしくは併せて受講することが望ましい。	
準備学習の内容 授業で扱ったテーマについて参考書の該当箇所を読むこと。	
教科書 特に定めない。	
参考書 『経済思想』長峰章編著（学文社）2015年 『テキストブック 近代経済学史〔改訂版〕』田中敏弘編著（有斐閣ブックス）1994年 『近代経済学の形成と展開』橋本昭一編著（昭和堂）1989年	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。	
成績評価の方法 平常点（30%）、期末試験（70%）	
その他 初回の授業には必ず出席すること。	

科目ナンバー：(PE) ECN281J	
国際経済史	2単位
	3・4年次
准教授 赤津正彦	
授業の概要・到達目標 産業革命を経て巨大な工業生産力を手にしたイギリスは、19世紀中葉には「世界の工場」となる。さらに、工業製品の世界への輸出および世界からの原料や食料の輸入に関わる貿易においても圧倒的地位を獲得したイギリスは、「世界の商社・海運業者」となり、またそこで得られた富は、同国を世界中に資金を供給する「世界の銀行」とした。イギリスは世界経済における覇権国となる。このイギリスの産業・貿易・金融上の優位、また同国が世界に供給する基軸通貨ポンド、そして同国が唱導する「自由貿易」によって世界経済が比較的安定していたとされる19世紀中葉から20世紀初頭は、後に「パクス・ブリタニカ」（イギリスによる平和）の時代と呼ばれることになる。 本講義では、世界経済におけるイギリスの覇権がいかにして打ち立てられたか、またイギリスの覇権が世界経済に及ぼした影響を及ぼしたか、そして19世紀末から始まる覇権国イギリスの経済的衰退が、世界経済とまた世界の安定に及ぼした影響を及ぼしたかを検討することを通じて、複雑化した現代の国際経済を見るための視座の獲得を目指す。	
授業内容 第一回 イントロダクション 第二回 イギリス産業革命(前半) 第三回 イギリス産業革命(後半) 第四回 「世界の工場」イギリス一輸出貿易産業国家イギリス(前半) 第五回 「世界の工場」イギリス一輸出貿易産業国家イギリス(後半) 第六回 「世界の銀行」イギリス一金本位制・ポンド決済体制・資本輸出(前半) 第七回 「世界の銀行」イギリス一金本位制・ポンド決済体制・資本輸出(後半) 第八回 イギリスと中心工業国・周辺工業国・周辺従属国(前半) 第九回 イギリスと中心工業国・周辺工業国・周辺従属国(後半) 第十回 19世紀末大不況と世界経済の再編成 第十一回 保護主義・帝国主義の台頭と第一次世界大戦(前半) 第十二回 保護主義・帝国主義の台頭と第一次世界大戦(後半) 第十三回 「パクス・ブリタニカ」の黄昏(前半) 第十四回 「パクス・ブリタニカ」の黄昏(後半)	
履修の注意点 上記の授業内容はおおよその計画であり、実際の進捗状況などにより変更もありうる。 授業計画の詳細および授業の進め方などについては初回授業時に説明する。	
準備学習の内容 下記の「参考書」に挙げられている予習・復習用参考書を入手し、授業の前後に読むことが望まれる。	
教科書 特になし。	
参考書 予習のための参考書 『西洋経済史』神武庸四郎・萩原伸次郎（有斐閣） 復習のための参考書 各回授業時に配布されるプリントに参考文献として示す。	
課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業内で口頭で行う。	
成績評価の方法 定期試験（60%）、レポート（10%）、授業への参加度（30%）、などにより総合的に評価する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ECN281J	
国際経済史	2単位
	3・4年次
講師 下斗米 秀之	
授業の概要・到達目標 グローバル資本主義経済を生きるわれわれにとって、経済大国として世界をリードするアメリカの動向を理解することは重要である。アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化や教育水準など、あらゆる面で国際社会において最大級の影響力を持ち続けている。GAFAM（グーグル、アップル、フェイスブック（現メタ）、アマゾン、マイクロソフト）に代表されるようにアメリカのIT企業は世界を席巻し、われわれの生活に深く浸透している。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など大きな問題を抱えた国でもある。かつて繁栄を築いた製造業や鉄鋼業の凋落は「ラストベルトの惨状が示している。深刻な米中対立やコロナ危機は、国際経済の勢力図を大きく変え、ますます不透明さを増している。 このように激変するグローバル経済の行方を展望するために、本講義ではアメリカが世界の指導国となった20世紀から現在までのアメリカ経済の歴史を、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて考察する。アメリカ経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代社会を生きるための洞察力と論理的思考力を養う。	
授業内容 第1回目 イントロダクション 第2回目 アメリカ経済を見る視点 第3回目 巨大企業の世紀のはじまり 第4回目 第一次世界大戦とアメリカ経済 第5回目 繁栄の1920年代の光と影 第6回目 大恐慌とニューディール 第7回目 第二次世界大戦と軍産複合体 第8回目 パクス・アメリカーナの時代 第9回目 米ソ冷戦と開発援助 第10回目 オールドエコノミーからニューエコノミーへ 第11回目 バブル崩壊と世界金融危機 第13回目 グローバル競争とGAFAM支配 第14回目 コロナ危機と覇権争いの行方	
履修の注意点 特に条件は設けないが、隣接科目の現代経済史、日本経済史、社会思想史、経済思想史などを履修することが望ましい。	
準備学習の内容 予習：教科書や参考書を読んで単元についての理解を深める。 復習：レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。	
教科書 大橋陽・中本悟編『現代アメリカ経済論—新しい独占のひろがり』その他、授業中に適宜文献や映像資料を紹介する。	
参考書 坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済Q&A100』中央経済社、2019年。 谷口明文、須藤功編『現代アメリカ経済史—「問題大国」の出現』有斐閣、2017年。 河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣アルマ、2020年。 萩原伸次郎、大橋陽、下斗米秀之訳『米国経済白書2023』蒼天社出版、2023年。	
課題に対するフィードバックの方法 学生からのコメントや質問は、翌週の授業内に紹介・回答する。	
成績評価の方法 期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求めることもある。 授業態度、提出課題（40%）期末試験（60%）	
その他 授業に関する質問は授業終了後に受け付ける。	

科目ナンバー：(PE) ECN281J	
現代経済史	2 単位
	3・4 年次
教授 須藤 功	
授業の概要・到達目標 現代資本主義の展開について、アメリカ経済を軸に考察する。比較史的に検討することを通じて、各国経済の固有性と共通性を理解することに重点がおかれる。講義は、世界大恐慌から今世紀初頭にいたるアメリカ経済の発展を具体的な考察対象とし、資本主義世界経済の基軸国家に成長したアメリカ経済の歴史的特質を探究する。各回の講義テーマとそのトピックは下記の通りである。	
授業内容 第1回 インTRODクシヨン：大恐慌と世界経済危機 第2回 大恐慌と世界経済危機 第3回 経済政策と政策形成プロセスの変容 第4回 環境エネルギー政策の成立と展開 第5回 農業大国の展開 第6回 通商政策の変遷 第7回 反トラスト政策の変遷 第8回 連邦準備制度のミッションと統治機構の変容 第9回 金融構造の変化とファンド資本主義 第10回 金融の肥大化と低所得層の金融アクセス 第11回 競争的経営者資本主義の盛衰 第12回 IT多国籍企業の史的展開 第13回 「労使関係」の成熟と衰退 第14回 アメリカ型福祉国家の形成と変容 試験	
履修の注意点 ・国際経済史、社会思想史、経済思想などの歴史科目を履修することが望ましい。	
準備学習の内容 ・Oh-of Meiji などを利用して配信、指示した文献・資料は必ず読むこと。 ・不明な点があれば授業で質問すること。 ・次回の授業に備えて、教科書、参考書、課題文献を読んでおくこと。	
教科書 特に指定しない	
参考書 (主要参考文献) ・谷口明丈・須藤功編『現代アメリカ経済史』(有斐閣、2017年) (その他の参考文献) ・金井雄一ほか編『世界経済の歴史〔第2版〕』(名古屋大学出版会、2020年) ・須藤功『戦後アメリカ通貨金融政策の形成』(名古屋大学出版会、2008年) ・服部信司『アメリカ農業・政策史1776-2010』(農林統計協会、2010年) ・J.S.オルソン『アメリカ経済経営史事典』(創風社、2008年) ・社会経済史学会編『社会経済史事典』(丸善出版、(2021年) ・川崎・河音・藤木編『現代アメリカ政治経済入門』(ミネルヴァ書房、2021年) ・坂出健ほか編『入門 アメリカ経済Q&A100』(中央経済社、2019年) ・安部悦生ほか『ケースブック アメリカ経営史〔新版〕』(有斐閣ブックス、2020年) ・Walton & Rockoff, <i>History of the American Economy</i> , 13th ed., Boston, Cengage Learning, 2018. ・Vittorio Valli, <i>The American Economy from Roosevelt to Trump</i> , Palgrave Macmillan, 2018.	
課題に対するフィードバックの方法 ・クラスウェブ等を活用する。	
成績評価の方法 ・定期試験を中心に評価するが(70%)、レポートなどの平常点も成績評価に反映される(30%)。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ECN281J	
現代経済史	2 単位
	3・4 年次
准教授 日向 祥子	
授業の概要・到達目標 [授業の概要] 戦後日本の経済・社会について、その変容過程を学ぶ。 [到達目標] 日本経済・社会の在り様の変容してきた過程について、基本的な知識を習得するとともに、ごく基本的な経済学の理解に基づいて史的因果関係を吟味する力を身につける。	
授業内容 01. 現代資本主義経済への視点 02. 戦争の爪痕 03. 敗戦 04. ドッジ・ライン 05. 【理解度の確認】① 06. 保守合同と55年体制 07. 新日本製鐵の成立 08. 【理解度の確認】② 09. ドル・ショックと石油危機 10. 財政再建と民営化 11. 【理解度の確認】③ 12. プラザ合意とバブル経済 13. 不良債権と金融危機 14. 【理解度の確認】④	
履修の注意点 ・講義資料は Oh-of Meiji システムを通じて配信するので、各自ダウンロード・印刷のうえ講義に臨むこと。 ・学期中に中間試験を実施する(4回を予定)。 ・期末試験は持ち込み不可。また、出題形式などの事前情報提供は行わない。	
準備学習の内容 講義資料には、各回末尾に「理解の確認」として論述形式の問いをつけるので、その問いに解答できるよう復習を行うとよい。 なお、受講前に「理解の確認」に目を通しておくと、講義を通して理解すべきポイントが予め把握でき、効率的と思われる。	
教科書 『(新版) 日本経済の事件簿』武田晴人(日本経済評論社)2009年	
参考書 とくになし	
課題に対するフィードバックの方法 中間試験および「理解の確認」については、講義中に解説を行う。	
成績評価の方法 中間試験(50%)、期末試験(50%)	
その他 その他	

社会経済思想史【2022年度以降入学者】
日本経済思想史【2021年度以前入学者】

4 単位

3・4 年次

教授 高橋 信勝

授業の概要・到達目標

本講座は、旧カリキュラムでは「日本経済思想史」という名称であり、数年間未開講であった。2022年度以降の入学者を対象とする新カリキュラムでは「社会経済思想史」と名称を改めて再出発する。旧カリキュラム履修者は、下記の「授業概要」を熟読したうえで受講するか否かを決めること。

私たちは、スミスとやらんで経済学の創設者として語られるケネーが「経済表」によって、一国全体を視野に入れた「財と貨幣の取引の連鎖」と「経済活動の相互依存関係」を描きだしたことを知っている。レオンチェフが彼の

また、「富とは権力である」というリカードウ派社会主義者の1人が残した言説は、ありきたりのものとして片付けることはできない。富の偏在を鋭く指摘した労働全収権論のように、今日の経済学の議論に照らすと違和感を覚えるテーマであっても、市場経済社会の問題性を鋭く捉えた議論には顧みるべきものがある。

本講座では、経済理論史の射程を広げ、経済学の歴史的理解に関心をもつ学生を対象に、経済学者たちの社会経済思想を講じる。経済学の歴史的理解を深めて、現代の市場経済社会の認識に役立つ視点を汲み取るためには'socio-economic ideas'に向き合うことを面倒がってはならない。生産活動のみならず、私たちの経済学の学びにおいても'roundabout production'の意義は大きいであろう。

授業内容

- 第1回： 授業の進め方と成績評価の仕方 (aのみ)
- 第2回： 国富の流通論的考察、コルベール主義、官房学
- 第3回： ロックの労働所有権論と資本蓄積の可能性
- 第4回： ベテイの政治算術と財政思想
- 第5回： カンティロン価格分析と経済循環論
- 第6回： ヒュームの貨幣論と貿易論
- 第7回： ケネーの自然法思想と経済政策論
- 第8回： ルソーの分業社会論と不平等へのまなざし
- 第9回： スミスの自然価格論と独占批判
- 第10回： スミスの資本の自然的投下論と歴史分析
- 第11回： リカードウの投下労働価値説とリカードウ派社会主義
- 第12回： ミルの土地所有論とアソシエーション論
- 第13回： マルクスの歴史観
- 第14回： マルクスの労働価値説と搾取の問題
- 第15回： マルクスの相対的過剰人口論
- 第16回： マルクスの再生産表式論
- 第17回： 中間テスト
- 第18回： ケンブリッジ学派の社会改良主義の伝統
- 第19回： ビグーの社会的限界純生産物概念
- 第20回： ケインズの古典派雇用理論批判
- 第21回： ケインズの有効需要の原理
- 第22回： ケインズの乗数理論と経済政策論の含意
- 第23回： ワルラスの一般均衡理論と経済社会像
- 第24回： シュンペーターの企業者論と資本主義没落論
- 第25回： ヴェーバーの資本主義論と官僚化社会へのまなざし
- 第26回： ハイエクの市場観
- 第27回： ガルブレイスの現代経済分析
- 第28回： 総括

履修の注意点

新カリキュラム対象者用の「社会経済思想史」（月曜日5時限・金曜日5時限）と同一授業である。

準備学習の内容

予習： とくに必要はない。
復習： 授業内容の詳細な板書は行わないので、授業のメモを含めてノートを整理し直すこと。また講義の「道筋」に当たる内容については、別途自分で要約を作成すること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は後の授業回で行う予定である。詳細は初回授業時に説明する。

成績評価の方法

中間テスト（30パーセント）と定期試験（70パーセント）によって評価する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

その他

科目ナンバー：(PE) ECN211J	
近代経済学	4 単位
	3・4 年次
教授 八 木 尚 志	
授業の概要・到達目標 <p>本講では、近代経済学の主要な理論を取り上げ、その理論体系を説明します。ミクロ経済学は市場経済のメカニズムを価格の働きに着目して説明していく分野です。マクロ経済学は、経済の全体のメカニズムを集計量を用いて明らかにしようとする分野です。本講の目的は、現代の理論経済学の代表的な理論構造に関する理解を深めることです。</p> <p>講義内容を2つに区分して講義を行う予定です。第1に、ミクロ経済学の主要な理論体系を部分均衡分析と一般均衡分析の2つの面、第2に、マクロ経済学の基礎的構造を古典派経済モデルとケインジアン的経済モデルの2つの体系、失業とインフレーションの理論、動学的総需要-動学的総供給モデル、消費関数、投資関数、景気循環理論、経済成長理論など時間を通じた経済分析・マクロ動学の基礎、の内容を講義する予定です。</p>	
授業内容 第1回 経済理論について、近代経済学の系譜 第2回 生産理論（生産可能性曲線） 第3回 生産理論 第4回 生産者行動理論 第5回 消費者行動理論の基礎（限界効用、無差別曲線、加重限界効用均等の法則、消費者均衡の条件） 第6回 消費の一般均衡分析 第7回 一般均衡分析と部分均衡 第8回 経済的厚生 第9回 経済的厚生 第10回 消費者行動理論のより進んだ内容（スルツキーとヒックスの所得効果と代替効果、通常的需求曲線と補償需要曲線） 第11回 消費者行動理論のより進んだ内容（マーシャルの消費者余剰、補償変分・等価変分・消費者余剰） 第12回 生産者行動の理論 第13回 生産関数の理論 第14回 生産関数の理論 第15回 不確実性と情報の経済分析 第16回 中間テスト(1回目) 第17回 古典派経済学 第18回 貨幣数量説 第19回 単純なケインズモデルと古典派経済学の対比 第20回 流動性選好理論、貨幣理論の発展 第21回 ケインジアンIS-LMモデル 第22回 労働市場の分析・総需要・総供給分析 第23回 失業とインフレーションの理論 第24回 消費関数の理論、投資関数の理論 第25回 経済成長の理論 第26回 経済成長の理論 第27回 マクロ分配理論 第28回 購買力平価、金利平価、マンデル=フレミング・モデル	
履修の注意点 ・出席をするようにしてください（4年生は特に注意してください）。	
準備学習の内容 教科書の次回の授業内容を指示します。指示に従って授業の準備をして下さい。 ミクロ分野のテキストは西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、 マクロ分野のテキストは西村・八木『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版 事前学習はテキストの対応する部分を読んでください。 事後学習は中間テスト2回と期末テストに合わせて復習をしてください。	
教科書 西村和雄著『ミクロ経済学入門』岩波書店 西村和雄・八木尚志著『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版	
参考書 伊達邦春編著『近代経済学』『ミクロ経済学』『マクロ経済学』八千代出版 西村・友田著『経済学ゼミナール：上級編』実務教育出版 その他のリーディングリストは講義時に説明します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点（授業において確認をする場合があります、20%程度）、及び中間テスト（目安として50%程度）、期末試験（目安として30%程度）。 期末試験終了後に平常点、中間テスト、期末試験の全体の成績状況のみで最終的なウェイトを決めます。 出席は重視しているので注意してください）なお出席票の不正提出を含む不正行為は、成績評価に影響します。	
その他 グラフや数値例を用いて近代経済学の基礎理論の体系とその発展についてわかりやすく講義するように心がけます。理論経済学は市場経済のメカニズムに対する経済学の見方を体系的に説明したもので、さまざまな政策の基礎となっていたり、他の学問分野にも影響を与えたりしています。ぜひ積極的に授業に取り組んでください。	

科目ナンバー：(PE) ECN231J	
経済統計学	4 単位
	3・4 年次
准教授 関 根 篤 史	
授業の概要・到達目標 【講義概要】 経済統計の作成方法及び取得方法、そして経済データを使った統計分析の手法について講義を行う。具体的には、さまざまな経済統計、統計学の基礎、単回帰分析、重回帰分析、自己相関、不均一分散、ルービンの因果モデル、操作変数法である。この講義では、これらの理論を基礎として、ExcelとRを用いた経済データの統計分析の手法について解説する。 【到達目標】 統計分析の基礎理論と経済データの統計分析の手法について理解を深めることを目標とする。この講義では、経済統計の作成方法及び取得方法、そして統計分析の基礎理論を学ぶだけでなく、ExcelとRを使ってどのように経済データ分析を行うのか、また出力された結果に対してどのように解釈するのかについて理解を深めることが期待される。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨン（経済統計学とは） 第2回目 ExcelとRの基礎 第3回目 『コア・テキスト経済統計』第2,3章 景気統計・SNA統計 第4回目 『コア・テキスト経済統計』第4章 物価統計 第5回目 『コア・テキスト経済統計』第7,8章 労働統計・世帯統計 第6回目 『コア・テキスト経済統計』第9,10章 企業活動統計・財政統計 第7回目 統計学の基礎 第8回目 統計学の基礎 第9回目 『Rによる計量経済学』第3章 単回帰分析 第10回目 『Rによる計量経済学』第3章 単回帰分析 第11回目 『Rによる計量経済学』第4章 仮説検定 第12回目 『Rによる計量経済学』第4章 仮説検定 第13回目 第12回までの総復習 第14回目 中間試験 第15回目 『Rによる計量経済学』第5章 自己相関 第16回目 『Rによる計量経済学』第5章 自己相関 第17回目 『Rによる計量経済学』第6章 不均一分散 第18回目 『Rによる計量経済学』第6章 不均一分散 第19回目 『Rによる計量経済学』第7章 重回帰分析 第20回目 『Rによる計量経済学』第7章 重回帰分析 第21回目 『Rによる計量経済学』第7章 重回帰分析 第22回目 『Rによる実証分析』第6章 相関関係と因果関係 第23回目 『Rによる実証分析』第6章 相関関係と因果関係 第24回目 『Rによる実証分析』第7章 外生変数と内生変数 第25回目 『Rによる実証分析』第7章 外生変数と内生変数 第26回目 『Rによる実証分析』第11章 操作変数法 第27回目 『Rによる実証分析』第11章 操作変数法 第28回目 第27回までの総復習	
履修の注意点 統計学の単位を取得していることが強く望まれる。ExcelとRの実習を行うので、出来る限りノートPCを持参することが望ましい。参考書については、購入の必要はない。第1回目の授業で参考書について説明を行う。	
準備学習の内容 事前に該当の章を読んで来ることが望ましい。また授業後には、実習で学習した内容をもう一度自分で復習すること。	
教科書 特に定めない。	
参考書 谷沢弘毅（2006）『コア・テキスト経済統計』新世社。 秋山裕（2018）『Rによる計量経済学』オーム社。 星野匡郎・田中久稔（2016）『Rによる実証分析-回帰分析から因果分析へ-』オーム社。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で問題演習を行い、受講者にはOh-ol Meijiのアンケート機能を使って解答を提出してもらおう予定である。そしてその問題演習の解説を次の授業で行う。	
成績評価の方法 期末試験(50%)、中間試験(50%)	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ECN211J	
経済変動論	4 単位
	3・4 年次
准教授 盛本圭一	
授業の概要・到達目標 概要： 景気循環・経済成長の基本的事項について、理論・実証の両面からバランス良く教授する。経済政策・人口動態・経済格差などと経済変動の関係についても述べる。また、世代間の経済問題に関する理論的枠組みとその応用について説明する。統計・数値計算ソフトRの使用法を指導し、経済統計の利用やプログラミングの実習をおこなう。 到達目標： マクロ経済統計の効果的な利用法を習得し、定量的な議論ができるようになる。現実に見られる経済変動をマクロ経済理論の立場から説明できるようになる。	
授業内容 第1回 マクロ経済動学の概観 第2回 景気の測り方 第3回 IS-LM分析 第4回 総需要・総供給分析 第5回 需要要因と供給要因による景気変動 第6回 安定化政策 第7回 景気循環に関する定形化された事実：Hodrick-Prescottフィルター 第8回 景気循環に関する諸論題 第9回 演習1（景気循環） 第10回 Harrod-Domarの成長理論 第11回 新古典派成長理論（1）：Solowモデルの背景 第12回 新古典派成長理論（2）：Solowモデルの分析 第13回 課題研究1：景気循環分析の実践 第14回 経済成長の収束 第15回 経済成長のエンジン ※モジュールbのみ実施 第16回 成長会計 第17回 人口動態と成長 第18回 不平等と成長、Growth vs. Volatility 第19回 演習2（経済成長） 第20回 動学的最適化の方法 第21回 課題研究2：成長回帰と成長会計の実践 第22回 一般均衡理論の考え方 第23回 世代重複経済 第24回 世代重複モデルの分析 第25回 年金制度の経済分析 第26回 資産バブル（1） 第27回 資産バブル（2）※モジュールbのみ実施 第28回 演習3（動学一般均衡理論）、質疑応答 ※多くの回で授業内で提出する課題があり、これが成績評価の50%程度を占めるので、欠席が多いと単位取得は難しい（特に就職活動をする4年生は十分注意すること）。 ※毎回の授業にモバイル型PCを持参する必要がある。 ※課題研究は、レポートの執筆および発表が求められる。	
履修の注意点 ・講義内容は高度であり負荷も強いので、効率よく楽に単位取得したい学生には適さない科目である。 ・ほとんど毎回、授業中にデータ処理や数値計算などの課題をこなす必要があるため、毎回の授業にモバイル型PCを持参しなければならない。 ・統計学の初歩、高等学校の数学IIIで扱う微分積分、多変数関数の微分、基本的な行列演算については既知であるとして講義する（1・2年次配当科目「数量経済分析」と「統計学」の内容を十分に修得していることは必須である）。 ・初年次のミクロ経済学・マクロ経済学の理解を前提とする。経済統計学・計量経済学も合わせて履修すると効果的である。	
準備学習の内容 事前に配布された教材に目を通し、概要を頭に入れてから毎回の授業に参加すること。また、授業後には理論やプログラム手法の復習を十分おこなう必要がある。	
教科書 教科書は指定せず、Oh-ol Meijiで講義資料を配布する。	
参考書 1. 二神孝一・堀敬一『マクロ経済学』（第2版、2017、有斐閣） 2. 二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』（2012、日本評論社） （上記の2点は、重要度の順に並べてあるので、購入する場合は参考にすること。特に1は講義内容の理解にあたって全体的に有益であり、2は講義後半に扱う分野の理論について丁寧に解説している。）	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-olMeijiのコメント機能を利用した対応および課題内容に関する授業内講評の実施	
成績評価の方法 授業内に実施する課題（50%）、3回の課題研究（50%）を総合して評価する。	
その他 理由の如何によらず欠席者に対する授業内演習および付属課題の事後的な実施・受け取りはおこなわないので、注意すること。	

科目ナンバー：(PE) ECN241J	
経済政策原理【2021年度以前入学者】	4 単位
	3・4 年次
講師 齋藤 雅己	
授業の概要・到達目標 (授業の概要) 本講義は、経済理論を現実の経済問題へと実践的に応用して、経済運動のメカニズムが円滑に、効率的に、拡大的に機能するように維持・管理していく「 経済政策形成の原理 」を明らかにすることを目的としている。 現在、世界経済がますますグローバル化していく中で、我々は国境を超えた様々な問題に直面し、解決を迫られている。さらに、企業活動は既に国境を越えて展開されており、もはや企業の利益と国家の繁栄、および国民の幸福は一致しなくなってきている。これらの問題に答えていくためには、如何にして現実経済の動きを認識・把握し、克服すべき政策課題を明らかにして経済政策の形成と実践を図っていけばよいのだろうか。本講義では、日々起こりくる経済問題を取りあげながら、この課題に取り組んでいきたい。 (到達目標) 本講義においては、受講生が、学習した知識や経済理論(モデル)を十分に理解したうえで、それらを現実の経済問題の分析へ適用し、政策的に応用できるようになることを目標としている。	
授業内容 本講義は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定である。 第1回：イントロダクション～経済政策の原理～ 第2回：経済政策の形成とその基本概念 第3回：経済政策形成の指導原理～経済原理と政治原理～ 第4回：政策指導原理の転換メカニズム(1)～経済原理に内在する矛盾～ 第5回：政策指導原理の転換メカニズム(2)～政治原理に内在する矛盾～ 第6回：経済政策の目標と政策体系およびその理論構造～経済分析理論と政策理論～ 第7回：経済運動メカニズムの分析と経済政策 第8回：経済政策の目標変数としての所得水準の決定～二部門経済モデル～ 第9回：三部門・四部門経済モデルにおける所得水準の決定～経済モデルの拡張と修正～ 第10回：経済活動の変化と経済政策～自律的拡大成長のメカニズムとGlobal Economyにおける経済発展～ 第11回：戦略的政策変数としての消費支出の分析(1)～消費支出の決定要因～ 第12回：戦略的政策変数としての消費支出の分析(2)～消費理論とその政策論的インプリケーション～ 第13回：戦略的政策変数としての投資支出の分析(1)～投資水準の決定～ 第14回：戦略的政策変数としての投資支出の分析(2)～投資水準の変化とその政策論的応用～ 第15回：中間試験 第16回：生産物市場の分析(1)～IS曲線の導出と均衡調整メカニズム～ 第17回：生産物市場の分析(2)～IS曲線のシフトと政策論的応用～ 第18回：貨幣市場の分析(1)～LM曲線の導出と均衡調整メカニズム～ 第19回：貨幣市場の分析(2)～LM曲線のシフトと政策論的応用～ 第20回：生産物市場・貨幣市場・労働市場の同時均衡～財政・金融政策とその効果～ 第21回：経済成長理論Ⅰ～ドーマー・モデル～ 第22回：経済成長理論Ⅱ～ハロッド・モデル～ 第23回：ハロッド・モデルの政策論的応用～経済崩壊の分析と政策対応～ 第24回：経済成長理論Ⅲ～新古典派成長モデル(ソロー・モデル)～ 第25回：技術進歩と経済成長の分析～持続的長期成長政策の基礎～ 第26回：経済成長理論の展開～内生的成長理論とその政策論的意味内容～ 第27回：経済成長の内部構造の分析～G-Formula～ 第28回：講義のまとめ&復習 ※第1回の授業において、より詳細なシラバスを配布し、講義の進め方や受講時の基本的ルール、出席・試験・成績評価などの 重要事項 について説明いたします。 <u>この科目の単位取得を考えている学生は、必ず出席するようにして下さい。</u>	
履修の注意点 (基本科目) マクロ経済学、数量経済分析 (関連科目) 財政学、財政政策、金融論、金融政策、労働経済学、社会保障論、経済変動論、現代日本経済論、経済統計学、現代経済政策、国際経済学、国際経済政策、開発経済学、国際金融論 ※毎回必ず出席するとともに授業の予習・復習をきちんと行えば、本科目の単位取得自体は難しくない。	
準備学習の内容 Oh-ol Meiji クラスウェブで提示される次回授業範囲について、事前に参考書を読んで内容を把握するように努めてください。また、授業で十分に理解できなかった箇所については、レジュメとノート、および参考書・Webサイト等を用いて調べなおしてください。なお、欠席して授業を受けられなかった場合や授業内容を復習したい場合などの補完的措置として、過去の講義動画のアーカイブを公開予定。 本講義は、現実の世界経済において生じている様々な問題と関連させながら進めていくため、日常的に関心を持って経済情報の収集・整理を行ってください。少なくとも、毎日、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」に目を通し、重要な出来事や政策課題について批判的に検討し、自らの考えをまとめておくことを強くお勧めします。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】、(東洋経済新報社、2019年) 『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】、(東洋経済新報社、2020年) ※その他、必要とする参考文献等は、講義においてその都度提示します。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、前回授業で出された重要な質問に回答するほか、オンライン (Zoom) による週1回のオフィスアワーを設けて学生からの質問に対応することを検討中です。	
成績評価の方法 中間試験 (50%) と期末試験 (50%) の合計に 授業への参加度 (特別加点による上乘せ、最大15%) を加えて、100点満点で評価する。なお、授業への参加度は、[1] 授業開始前の「現実経済の問題 (WN?)」の提出、[2] 授業終了後の教室での「出席確認票」の提出+出席コメント (講義の質問/感想) の送信、という2項目を特別加点として評価する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN241J	
経済政策原理【2022年度以降入学者】	2単位
	3・4年次
講師 齋藤雅己	
授業の概要・到達目標 (授業の概要) 本講義は、経済理論を現実の経済問題へと実践的に応用して、経済運動のメカニズムが円滑に、効率的に、拡大的に機能するように維持・管理していく「 経済政策形成の原理 」を明らかにすることを目的としている。 現在、世界経済がますますグローバル化していく中で、我々は国境を超えた様々な問題に直面し、解決を迫られている。さらに、企業活動は既に国境を越えて展開されており、もはや企業の利益と国家の繁栄、および国民の幸福は一致しなくなってきている。これらの問題に答えていくためには、如何にして現実経済の動きを認識・把握し、克服すべき政策課題を明らかにして経済政策の形成と実践を図っていけばよいのだろうか。本講義では、日々起こりくる経済問題ととりあげながら、この課題に取り組んでいきたい。 (到達目標) 本講義においては、受講生が、学習した知識や経済理論(モデル)を十分に理解したうえで、それらを現実の経済問題の分析へ適用し、政策的に活用できるようになることを目標としている。	
授業内容 本講義は、以下の内容と順序にしたがって進めていく予定である。 第1回：イントロダクション～経済政策の原理～ 第2回：経済政策の形成とその基本概念 第3回：経済政策形成の指導原理～経済原理と政治原理～ 第4回：政策指導原理の転換メカニズム(1)～経済原理に内在する矛盾～ 第5回：政策指導原理の転換メカニズム(2)～政治原理に内在する矛盾～ 第6回：経済政策の目標と政策体系およびその理論構造～経済分析理論と政策理論～ 第7回：経済成長理論Ⅰ～ドーマー・モデル～ 第8回：経済成長理論Ⅱ～ハロッド・モデル～ 第9回：ハロッド・モデルの政策論的応用～経済崩壊の分析と政策対応～ 第10回：経済成長理論Ⅲ～新古典派成長モデル(ソロー・モデル)～ 第11回：技術進歩と経済成長の分析～持続的長期成長政策の基礎～ 第12回：経済成長理論の展開～内生的成長理論とその政策論的意味内容～ 第13回：経済成長の内部構造の分析～G-Formula～ 第14回：講義のまとめ&復習 ※ 第1回の授業 において、より詳細なシラバスを配布し、講義の進め方や受講時の基本的ルール、出席・試験・成績評価などの 重要事項 について説明いたします。 この科目の単位取得を考えている学生は、必ず出席するようにして下さい。	
履修の注意点 (基本科目) マクロ経済学、数量経済分析 (関連科目) 財政学、財政政策、金融論、金融政策、労働経済学、社会保障論、経済変動論、現代日本経済論、経済統計学、現代経済政策、国際経済学、国際経済政策、開発経済学、国際金融論 ※毎回必ず出席するとともに授業の予習・復習をきちんと行えば、本科目の単位取得自体は難しいくない。	
準備学習の内容 Oh-ol Meijiクラスウェブで提示される次回授業範囲について、事前に参考書を読んで内容を把握するように努めてください。また、授業で十分に理解できなかった箇所については、レジュメとノート、および参考書・Webサイト等を用いて調べなおしてください。なお、欠席して授業を受けられなかった場合や授業内容を復習したい場合などの補完的措置として、過去の講義動画のアーカイブを公開予定。 本講義は、現実の世界経済において生じている様々な問題と関連させながら進めていくため、日常的に関心を持って経済情報の収集・整理を行ってください。少なくとも、毎日、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」に目を通し、重要な出来事や政策課題について批判的に検討し、自らの考えをまとめておくことを強くお勧めします。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】、(東洋経済新報社、2019年) 『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』、D・アセモグル/D・レイブソン/J・リスト【著】、(東洋経済新報社、2020年) ※その他、必要とする参考文献等は、講義においてその都度提示します。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、前回授業で出された重要な質問に回答するほか、オンライン(Zoom)による週1回のオフィスアワーを設けて学生からの質問に対応することを検討中です。	
成績評価の方法 期末試験(100%)の点数に授業への参加度(特別加点による上乗せ、最大15%)を加えて100点満点で評価する。 なお、授業への参加度は、[1]授業開始前の「現実経済の問題(WN?)」の提出、[2]授業終了後の教室での「出席確認票」の提出+出席コメント(講義の質問/感想)の送信、という2項目を特別加点として評価する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN241J	
数理経済学	4 単位
	3・4 年次
講師 井上朋紀	
授業の概要・到達目標 位相数学、凸解析と多変数関数の微分の知識を補いつつ、ミクロ経済学で学習した消費者理論をより厳密に扱う。具体的に扱うトピックは、(a) 需要ベクトルの存在と一意性、(b) 需要関数の連続性、(c) 競争均衡の存在、(d) 需要ベクトルの計算などである。経済学でよく使われる数学を正確に使えるようにし、証明の書き方を覚えることで、中級から上級のミクロ経済学のテキストを独力で読めるようになるのが目標である。	
授業内容 第1回：完全競争市場での消費者行動、不等式制約付き最大化問題と需要ベクトル 第2回：ユークリッド空間の位相1：内積、ノルム 第3回：ユークリッド空間の位相2：ノルムの性質、関数・写像の定義、線形写像 第4回：ユークリッド空間の位相3：線形写像の行列表現、開集合の定義 第5回：ユークリッド空間の位相4：開集合の性質、閉集合の定義と性質 第6回：ユークリッド空間の位相5：閉包の定義、点列 第7回：ユークリッド空間の位相6：触点・閉集合の点列による特徴づけ 第8回：ユークリッド空間の位相7：実数の連続性1 第9回：ユークリッド空間の位相8：実数の連続性2 第10回：ユークリッド空間の位相9：コンパクト集合の定義、コンパクト集合の点列による特徴づけ 第11回：ユークリッド空間の位相10：連続関数の定義 第12回：ユークリッド空間の位相11：連続関数の点列による特徴づけ 第13回：ユークリッド空間の位相12：連続関数の逆像による特徴づけ 第14回：ユークリッド空間の位相13：連続関数によるコンパクト集合の像 第15回：ユークリッド空間の位相14：関数の連続性とグラフ 第16回：消費者理論1：効用最大化問題の解（需要ベクトル）の存在 第17回：凸解析：凸集合の定義、凹関数・準凹関数の定義と性質 第18回：消費者理論2：需要ベクトルの一意性、需要関数の連続性 第19回：完全競争的な交換経済におけるワルラス均衡の存在定理 第20回：Brouwerの不動点定理とワルラス均衡の存在 第21回：微分1：微分の定義、微分の一意性、ヤコビ行列 第22回：微分2：合成関数の微分 第23回：微分3：和・積・商の微分、偏微分の定義、1変数関数の微分についての諸定理（ロルの定理、平均値の定理） 第24回：微分4：高階の偏微分、偏微分の順序 第25回：微分5：合成関数のヤコビ行列、連続可微分な関数 第26回：微分6：等式・不等式制約付きの最大化問題の解とKKT条件 第27回：微分7：等式・不等式制約付きの最大化問題を解く 第28回：消費者理論3：需要ベクトルをラグランジュの定理を用いて求める	
履修の注意点 定義は正確に覚え、微分の計算を正しく行えるようにするだけでなく、できる限り定理の証明も覚えること。特に、位相数学については、定義や使い方に慣れるまでに時間がかかるが、根気よく勉強を続けること。授業中に定義を覚えているかの小テストや計算の小テストを実施する。じっくり考えてもらいたい証明問題について、宿題を出す場合がある。	
準備学習の内容 1変数関数の微分については、計算がきることを前提として授業を進める。内容が積み重ねであり、週2コマあるので、よく復習して分からないことを溜めないこと。	
教科書 (1) 『経済数学講義』丸山徹（慶應通信）1984年。 (1) 『経済数学』丸山徹（知泉書館）2002年。 (2) 『多変数解析学：古典理論への現代的アプローチ』スビヴァック（著）、齋藤正彦（訳）（東京図書）1972年。 (3) 『Convexity and Optimization in R^n 』Berkovitz, Leonard D. (John Wiley & Sons) 2002年。 (1')は(1)の内容を含んでいる。 ユークリッド空間の位相については(1)（または(1')）と(2)を、多変数関数の微分については(2)を、等式・不等式制約付き最大化問題については(3)を用いる。どの教科書も1冊の内容を全て使うわけでない。また、板書の内容で意味が通るようにする。教科書を購入する場合は、これらのことをよく考慮すること。	
参考書 『集合と位相への入門：ユークリッド空間の位相』鈴木晋一（サイエンス社）2003年。 前半の授業のユークリッド空間の位相について、教科書のスタイルが合わない場合に利用してください。論理記号や実数の連続性についても書いてある。	
課題に対するフィードバックの方法 小テストと宿題については、講義で解説する。	
成績評価の方法 小テスト（10～20%）、宿題（0～10%）、定期試験（70～90%）によって評価する。	
その他 履修者の様子を見て、授業のペースを遅くし、講義内容を変更する可能性がある。 授業前後にオフィスアワーを実施する予定である。 2024年度に英語で開講されている科目と授業内容は同じである。 2025年度は日本語での講義のみ、2026年度は英語での講義のみ、2027年度は日本語での講義のみというぐあいに、2025年度からは日本語での講義と英語での講義を交互に開講していく予定である。	

科目ナンバー：(PE) ECN241E	
数理経済学	4 単位
	3・4 年次
講師 井上朋紀	
授業の概要・到達目標 Purpose of the Course: The primary objective of this course is to equip students with essential mathematical tools necessary for understanding medium to advanced economic theory. The course begins by introducing topology of a Euclidian space, convex analysis, and the differentiation of multivariable functions. Subsequently, key topics in consumer theory are explored, including: <ol style="list-style-type: none"> The existence and uniqueness of a demand vector. Continuity of the demand function. The existence of a competitive equilibrium. Calculations of a demand vector when the utility function is specified. Teaching Methodology: The course employs a traditional lecture style. The instructor will present definitions, theorems, proofs, and examples on the blackboard using chalk. Due to the time constraints, not all exercises can be solved during the lecture. Hence, students are encouraged to tackle the assigned problems independently after the class. Course Goals: By the end of the course, students should be proficient in using mathematics rigorously for economic analysis. Additionally, they will gain the ability to construct and understand mathematical proofs.	
授業内容 Class 1: Consumer behavior in a competitive market: Maximization problem with inequality constraints, Demand vectors Class 2-14: Topology Class 2: Inner product, Norm Class 3: Properties of the inner product, Functions, Linear functions Class 4: Matrix representation of a linear function, Open sets Class 5: Properties of open sets, Definition and properties of closed sets Class 6: Cluster point, Closure of sets, Sequences Class 7: Characterizations of cluster points and closed sets by sequences Class 8: Completeness of the real numbers, Least upper bound property, Maximum and minimum of a nonempty compact set of the real numbers, Convergence theorem of bounded monotone real sequences Class 9: Characterization of a nonempty compact set by sequences Class 10: Continuous functions, Continuity of the norm and the addition Class 11: Continuity of the inner product, Characterization of continuous functions by sequences Class 12: Characterization of continuous functions by the inverse image Class 13: Image of compact sets under continuous functions Class 14: Graph of continuous functions Class 15-19: Consumer Theory and Equilibrium Theory Class 15: Existence of a solution (demand vector) for the utility maximization problem Class 16: Convex analysis, Convex sets, Concave functions, Quasiconcave functions Class 17: Uniqueness of the demand vector, Continuity of the demand function Class 18: Existence theorem of a Walrasian equilibrium in a perfectly competitive exchange economy Class 19: Brouwer's fixed-point theorem and the existence of a Walrasian equilibrium Class 20-28: Differentiation Class 20: Definition of differentiation, Uniqueness of the derivative, Jacobian matrix Class 21: Derivative of a composite function Class 22: Derivatives of addition, multiplication and division, Partial derivatives, Some theorems of functions with one variable: Rolle's theorem, Mean value theorem Class 23: Higher order partial derivatives, Equality of mixed partial derivatives Class 24: Jacobian matrix of a composite function, Continuously differentiable functions Class 25: Maximization problems with equalities or inequalities, KKT conditions Class 26: How to solve a maximization problem with equalities or inequalities Class 27: Proof of KKT conditions Class 28: Calculation of demand vectors	
履修の注意点 Students are expected to memorize definitions accurately, calculate derivatives precisely, and, moreover, commit proofs to memory to the best of their ability. It is essential to devote time to become familiar with topological concepts and persevere through the learning process with patience. To assess students' understanding and memorization of definitions, occasional quizzes will be administered during lectures. Additionally, homework assignments involving exercises in mathematical proofs will be provided several times. These tasks are designed to reinforce comprehension and retention of key concepts.	
準備学習の内容 A prerequisite for this course is proficiency in calculating the derivative of functions with one variable, including the derivative of composite functions. As each lecture builds upon the content of previous sessions, it is imperative for students to engage in regular review after every class. It is essential not to let any misunderstandings accumulate, but rather to address and clarify concepts promptly. This proactive approach ensures a solid foundation for subsequent topics.	
教科書 (1) Spivak, M. 1965. Calculus on Manifolds: A Modern Approach to Classical Theorems of Advanced Calculus. Addison-Wesley. (2) Berkovitz, L. D. 2002. Convexity and Optimization in \mathbb{R}^n . John Wiley and Sons. Textbook (1) will be utilized for the differentiation of multivariable functions, while (2) will be employed for the study of optimization theory with equality and inequality constraints. It's important to note that the entire content of each textbook will not be covered. The lectures are designed to be self-contained, and the material presented on the blackboard will be sufficient for students to comprehend each session fully.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 The techniques for solving quizzes will be elucidated during the lectures.	
成績評価の方法 Grades will be determined based on the term examinations(70%-90%) quizzes during lectures(10%-20%) and homework assignments(0%-10%).	
その他 * The pace of the lecture will be adjusted according to the students' progress. * Students are encouraged to ask any questions during the lunch break following each Wednesday's lecture. * The content of this course is nearly identical to the one offered in Japanese during the fall semester. This year, both English and Japanese versions of the course are available. * The English version of the course will be offered every two years, specifically in 2024, 2026, 2028, and so forth. In alternate years, such as 2025, 2027, 2029, and so on, the course will be conducted exclusively in Japanese.	

科目ナンバー：(PE) POL321J	
自治体経営論	4単位
	3・4年次
教授 牛 山 久仁彦	
授業の概要・到達目標 地方分権が日本における重要な政治課題として登場して以来、そのあり方や方向性についての議論が重ねられてきたが、2000年4月のいわゆる「分権一括法」はそうした改革を具体的にスタートさせる意味をもつ。戦後、日本国憲法のもとで構想された地方自治制度であるが、55年目にして大きな改革が行われ、地域における政治・行政は大きく変わろうとしている。この講義では、こうした改革がもたらされた歴史的背景や、制度の変化について概観し、自治体経営の観点からの改革がなぜ、どのように求められているか、また、その意義について検討する。	
授業内容 前半は、地方自治についての基本的な視点や制度の状況について講義を行い、後半に入って個別の行政課題および地方自治の政治システムについての検討を進める。また、市民・住民による政治参加の問題がクローズアップされ、地方分権で重要性が増している地域政治システムについて検討を進め、首長・議会の問題や、情報公開・住民投票など関連する項目について講義を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1 「自治」ということ 2 地方自治の歴史と展開<1> 3 地方自治の歴史と展開<2> 4 地方政府論と政府関係<1> 5 地方政府論と政府関係<2> 6 地方政府の種類と機能<1> 7 地方政府の種類と機能<2> 8 機関委任事務体制と集権体制 9 地方財政の仕組みと地方体制<1> 10 地方財政の仕組みと地方体制<2> 11 地方分権改革の潮流とその意義<1> 12 地方分権改革の潮流とその意義<2> 13 「分権一括法」の到達点と課題<1> 14 「分権一括法」の到達点と課題<2> 15 自治体経営の視点と地域住民<1> 16 自治体経営の視点と地域住民<2> 17 地方自治と地域福祉<1> 18 地方自治と地域福祉<2> 19 地方自治とまちづくり<1> 20 地方自治とまちづくり<2> 21 地域政治研究の意義と視点<1> 22 地域政治研究の意義と視点<2> 23 首長の役割と機能 24 地方議会の役割と課題 25 自治体選挙の現状と問題点 26 広域行政と市町村合併<1> 27 広域行政と市町村合併<2> 28 住民投票制度の課題と展望 	
履修の注意点 地方自治をめぐる諸問題については、行政学、政治学をはじめ、社会学や財政学など広範な分野についての理解が不可欠である。本講座では、行政学的な議論を中心にしながら、行政法学など法律学的な思考も重視し、自治体行政の重要課題である財政問題を理解することも必要となる。	
準備学習の内容 地方自治をめぐる諸問題については、行政学、政治学をはじめ、社会学や財政学など広範な分野についての理解が不可欠である。本講座では、行政学的な議論を中心にしながら、行政法学など法律学的な思考も重視し、自治体行政の重要課題である財政問題を理解することも必要となる。	
教科書 開講時に指示する。	
参考書 牛山久仁彦他著『現代地方自治の課題』学陽書房 阿部 斉・新藤宗幸著『概説日本の地方自治』東京大学出版会	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 基本的には、試験による評価とするが、平常点・レポートなど日常的な学生諸君の努力にこたえることができるような工夫をしたい。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL311J	
国家論	2単位
	3・4年次
教授 西川伸一	
授業の概要・到達目標 (1) 概要：とりわけ現代国家をめぐる政治学の諸潮流の議論を概括的に講じていく。その際、できるだけ具体的な事例を踏まえて説明することを心がける。 (2) 到達目標：為政者に「操作」されない、国家や権力に対する「醒めた」認識を身につける。	
授業内容 第1回 オリエンテーション;「国家」とは何か(1) 第2回 「国家」と何か(2) 第3回 「国家」と何か(3) 第4回 社会主義国家とは何だったのか(1) 第5回 社会主義国家とは何だったのか(2) 第6回 社会主義国家とは何だったのか(3) 第7回 anti-statism としての多元主義(1) 第8回 anti-statism としての多元主義(2) 第9回 anti-statism としての多元主義(3) 第10回 新多元主義の国家論(1) 第11回 新多元主義の国家論(2) 第12回 ニューライトの国家論(1) 第13回 ニューライトの国家論(2) 第14回 まとめ：春学期定期試験についての説明	
履修の注意点 パワーポイントを用いた授業を行います。ただし、重要事項は板書して確認します。	
準備学習の内容 次回の授業で配布する授業資料を事前にクラスウェブに掲載するので、目を通しておいてください。	
教科書 使用しません。	
参考書 西川伸一(2023)『ある軍法務官の生涯』風媒社。 同(2023)『「保守」政治がなぜ続くのかプラス映画評』ロゴス。 同(2018)『政衰記 2011-2018』五月書房新社。 同(2018)『覚せい剤取締法の政治学』ロゴス。 同(2015)『城山三郎『官僚たちの夏』の政治学』ロゴス。 同(2013)『これでわかった! 内閣法制局』五月書房。 同(2010)『オーウェル『動物農場』の政治学』ロゴス。	
課題に対するフィードバックの方法 小レポート課題はクラスウェブで提出することとし、それへのコメントを必ず返します。	
成績評価の方法 授業への参画度(40%)、小レポート(10%)、国立ハンセン病資料館見学レポート(10%)、および春学期試験(40%)。くわしくは第1回授業時に説明するので、必ず出席してください。	
その他 (1) 時間厳守で行います。 (2) 私語など授業の妨げになる行為はしないでください。	

科目ナンバー：(PE) POL311J	
現代国家分析	2単位
	3・4年次
教授 西川伸一	
授業の概要・到達目標 (1) 概要：裁判は国家に固有の作用である。しかし、現代国家の分析対象として、裁判所はほとんど注目されてこなかった。そこでこの授業では、日本の裁判所に焦点を当てて、裁判所行政とりわけ裁判官の幹部人事に接近することにする。あわせて、最高裁の成り立ちや最高裁裁判官国民審査の意義と現状についても講じていく。 (2) 到達目標：国民審査でおぞなりの白票を投じない程度の知識を、現代日本の裁判所について身につける。	
授業内容 第1回 オリエンテーション;なぜ最高裁裁判官は15人なのか(1) 第2回 なぜ最高裁裁判官は15人なのか(2) 第3回 なぜ最高裁裁判官は15人なのか(3) 第4回 最高裁裁判官にはだれがなるのか(1) 第5回 最高裁裁判官にはだれがなるのか(2) 第6回 最高裁事務総局とは何か(1) 第7回 最高裁事務総局とは何か(2) 第8回 最高裁事務総局とは何か(3) 第9回 高裁長官にはだれがなるのか(1) 第10回 高裁長官にはだれがなるのか(2) 第11回 地家裁所長ポストの「個性」 第12回 最高裁裁判官国民審査はムダなのか(1) 第13回 最高裁裁判官国民審査はムダなのか(2) 第14回 裁判員制度と司法制度改革・秋学期定期試験についての説明	
履修の注意点 パワーポイントを用いた授業を行います。ただし、重要事項は板書して確認します。	
準備学習の内容 次回の授業で配布する授業資料を事前にクラスウェブに掲載するので、目を通しておいてください。	
教科書 使用しません。	
参考書 西川伸一(2020)『増補改訂版 裁判官幹部人事の研究』五月書房新社。 同(2012)『最高裁裁判官国民審査の実証的研究』五月書房。 同(2005)『日本司法の逆説』五月書房。 デイヴィッド・S・ロー、西川伸一訳(2013)『日本の最高裁を解剖する』現代人文社。	
課題に対するフィードバックの方法 小レポート課題はクラスウェブで提出してください。必ずコメントを返します。	
成績評価の方法 授業への参画度(40%)、小レポート(10%)、裁判傍聴レポート(10%)、秋学期試験(40%)。くわしくは第1回授業時に説明するので、必ず出席してください。	
その他 (1) 時間厳守で行います。 (2) 私語など授業の妨げになる行為はしないでください。	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
国際政治学	4単位
	3・4年次
教授 伊 藤 剛	
授業の概要・到達目標 国際政治学の基本概念・歴史・理論を学ぶことで、国際社会が直面している課題としての「地球的問題群」について理解すること。また「国際政治の中の日本」という視点から、日本の外交・安全保障政策について学習することで、地球的問題群解決のために、日本が何をできるか、について考察すること。	
授業内容 第1回目 主権国家の誕生 第2回目 第一次世界大戦と第二次世界大戦 第3回目 冷戦の時代 第4回目 理論①：リアリズムとリベラリズム 第5回目 理論②：コンストラクティビズム 第6回目 国際安全保障論：戦後日本の安全保障 第7回目 国際政治経済論 第8回目 文明の衝突論と民主的平和論 第9回目 対外政策決定過程と外交交渉 第10回目 国際連合の使命と課題 第11回目 国連PKOと日本の国際平和協力 第12回目 ヨーロッパとアジアにおける地域統合 第13回目 グローバルガバナンスと脱国家主体 第14回目 核兵器のない世界へ 第15回目 国際政治の中の日本 第16回目 二つの世界大戦と日本外交 第17回目 占領期における日本外交 第18回目 独立国としての日本外交 第19回目 経済大国としての日本外交 第20回目 ベトナム戦争、沖縄返還、非核三原則 第21回目 ニクソンショックとオイルショック 第22回目 福田ドクトリンと環太平洋連帯構想 第23回目 日米貿易摩擦とロン＝ヤス時代 第24回目 冷戦後の日本外交と湾岸戦争 第25回目 日本外交と人間の安全保障 第26回目 対テロ戦争と日本外交 第27回目 戦争と平和の日豪関係 第28回目 変わりゆく国際社会と日本の外交・安全保障	
履修の注意点 本年度は秋学期に集中して行う。	
準備学習の内容 復習を行うこと。講義では国際政治に関する映画作品を紹介するので、関心がある作品を視聴すること。	
教科書 指定なし。	
参考書 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ』有斐閣、2015年。 五百旗頭真(編)『戦後日本外交史』有斐閣、2014年。 三上貴教(編)『映画で学ぶ国際関係I・II』法律文化社、2005年、2013年。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 レポート2回(各50%)。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
都市政策【2018年度以降入学者】	2単位
都市空間政策【2017年度以前入学者】	3・4年次
教授 野澤千絵	
授業の概要・到達目標 「授業の概要」 都市政策は、成長期の都市化社会から都市成熟型社会に移行し、既存の都市の再生・再編成が都市政策の中心課題となっている。特に、世界の人口10万人以上の都市の4分の1が人口減少都市(Shrinking Cities)と言われる中で、前例のないスピードで人口減少が深刻化する日本は世界的に注目されている。本講義では、世界・日本の都市政策の歴史や理論・手法、法制度と共に、新たな思潮や国・自治体等による取り組み事例を学ぶ。 「到達目標」 1) 都市政策に関する考え方・仕組み・手法に関する幅広い視野と専門知識を獲得する。 2) 都市政策について国内外の大きな方向性を読み取り、暮らしや経済・ビジネス等のあり方と関連づけながら問題構造を論じることができる。	
授業内容 第1回目 イントロダクション 第2回目 世界と日本の都市政策史 第3回目 都市政策とマスタープラン 第4回目 土地利用コントロールの枠組み 第5回目 土地利用規制のツール(開発許可・建基法・まちづくり条例等) 第6回目 演習 第7回目 都市開発事業の仕組み 第8回目 我が国の都市再生戦略 第9回目 現代都市政策の潮流 第10回目 地方都市のアーバンリニューアル 第11回目 コンパクトシティ論の台頭 第12回目 コンパクトシティ政策の実際 第13回目 世界の人口減少都市の都市政策 第14回目 振り返り・補足	
履修の注意点 様々な都市に興味を持ち、ホームページ等による情報収集だけでなく、や実際に街歩きを行うことが望ましい。	
準備学習の内容 講義資料や講義中に指摘した重要箇所について復習を行うこと。	
教科書 特に定めない。講義資料が教科書となる。	
参考書 特に定めない。	
課題に対するフィードバックの方法 出席コメントやレポート課題について、授業内で優秀なコメント等の紹介・総括や、クラスウェブを通じて総括を行う	
成績評価の方法 2回目以降の授業の出欠登録の際に求めるコメント(45%)とレポート課題(55%)で評価する。 なお、出欠登録の際に求めるコメント(45%)は、コメントの内容が授業内での論点に基づいた指摘や自らの考えを論理的に提示したものに対して評価が高い。レポート課題の評価については、授業内で詳細に説明する。	
その他 将来、公務員、不動産・建設・金融業界、ジャーナリストに興味のある学生には履修を勧める。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
都市行政【2018年度以降入学者】	2単位
都市行政政策【2017年度以前入学者】	3・4年次
教授 野澤千絵	
授業の概要・到達目標 「授業の概要」 都市行政は、経済社会状況の変化や人々の新たなニーズに的確、かつ迅速に対応するだけでなく、様々な分野が輻輳した現代的な行政課題に対し、総合的・長期的に見て持続可能な都市経営を推進するという重要な役割も担っている。本講義では、都市行政に関わる様々な分野の現代的課題を中心に、その実態や法制度、新たな取り組みなど横断的に都市行政が抱える問題の構造を学ぶ。 「到達目標」 1) 都市行政に関する考え方・仕組み・手法に関する幅広い視野と専門知識を獲得する。 2) 都市行政について時代の大きな方向性を読み取り、暮らしや経済・ビジネス等のあり方と関連づけながら問題構造を論じることができる。	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 都市行政の基礎的枠組み 第3回 広域連携・広域調整と圏域マネジメント 第4回 条例によるまちづくり 第5回 公共施設の再編・再生に向けた公民連携手法 第6回 PRE・公共空間の利活用 第7回 エリアマネジメントの実践 第8回 地方創生とスマートシティ政策 第9回 自治体による災害対策 第10回 SDGsと低炭素都市づくり 第11回 都市行政と医療・福祉 第12回 住宅政策と空き家問題 第13回 リノベーションまちづくり 第14回 振り返り・補足	
履修の注意点 地方自治、行政学、公共政策などの関連分野について併せて学ぶことが望ましい。	
準備学習の内容 次回予定テーマについてインターネット等で検索し、予習しておくこと。また、講義資料や講義中に指摘した重要箇所について復習を行うこと。	
教科書 特に定めない。講義用の資料が教科書となる。	
参考書 特に定めない。	
課題に対するフィードバックの方法 出席コメントやレポート課題について、授業内で優秀なコメント等の紹介・総括や、クラスウェブを通じて総括を行う	
成績評価の方法 2回目以降の授業の出欠登録の際に求めるコメント(45%)とレポート課題(55%)で評価する。 なお、出欠登録の際に求めるコメント(45%)は、コメントの内容が授業内での論点に基づいた指摘や自らの考えを論理的に提示したものに対して評価が高い。レポート課題の評価については、授業内で詳細に説明する。	
その他 特に、将来、公務員、不動産・建設・金融業界、ジャーナリストに興味のある学生には履修を勧める。	

科目ナンバー：(PE) POL311J	
政治過程論	4 単位
	3・4 年次
講師 加藤 言人	
授業の概要・到達目標 政治過程論とは、政治が行われる様々なプロセスを理解し、論理的に説明しようとする学問である。法律や制度などの記述を超えて、政治がなぜ、どのように動いているのかについて、理論を立てて科学的な検証を行うことが、その目的となる。本講義では、政治過程論について、次の4つのタスクを達成することを目指す。(1) 政治過程論が扱う問いの射程を理解する。(2) 政治過程論において用いられる方法論のエッセンスを習得する。(3) 特に合理的選択理論(ゲーム理論/フォーマルモデル)の文脈において、政治過程論の研究がどう構築・発展しているかを理解する。(4) 政治過程をロジカルに捉え、またそのロジックを批判的に検討する力を身に着ける。	
授業内容 第1回目 政治過程論とは何か：イントロダクション 第2回目 政治を科学する(1) 政治を「科学」するとは何か 第3回目 政治を科学する(2) 問いと理論 第4回目 政治を科学する(3) 測定と因果メカニズム 第5回目 政治を科学する(4) 論理と反証可能性 第6回目 新制度論とそのアプローチ 第7回目 合理的選択理論とフォーマルモデル 第8回目 政治過程と合理的選択理論(1) 利得最大化と投票過程 第9回目 政治過程と合理的選択理論(2) 投票のパラドックスと選挙制度 第10回目 選挙における政治家と有権者(1) 選挙競争と政策位置 第11回目 選挙における政治家と有権者(2) 汚職と業績評価 第12回目 政党の意思決定と連立(多数派)形成 第13回目 選挙における政治家と有権者(3) 情報の非対称性と政治家の質 第14回目 利益団体政治(1) 選挙献金と候補者資質 第15回目 利益団体政治(2) ロビー活動と政策の質 第16回目 政策実行過程における政治家と官僚 第17回目 民主主義 vs. 非民主主義(1) 政治体制と政治的生き残りのメカニズム 第18回目 民主主義 vs. 非民主主義(2) メディア統制/報道の自由 第19回目 民主化過程のモデル(1) 閾値モデルとボトムアップ型民主化 第20回目 民主化過程のモデル(2) トップダウン型民主化 第21回目 戦争と平和(1) 外交交渉と戦争 第22回目 戦争と平和(2) 国内政治体制と平和 第23回目 民主的アカウンタビリティ(1) 記述的代表と実質的代表 第24回目 民主的アカウンタビリティ(2) 動的的代表 第25回目 民主的アカウンタビリティ(3) 有権者の情報・知識量 第26回目 民主的アカウンタビリティ(4) 有権者の(非)合理性 第27回目 民主的アカウンタビリティ(5) 動機づけられた推論(Motivated Reasoning) 第28回目 総括：政治過程を論理的に解読する	
履修の注意点 政治過程論の分野は、実証分析およびゲーム理論・フォーマルモデルを用いて研究が行われているが、本講義では特に後者に注目して議論する(前者も必要に応じて扱う)。よって、ゲーム理論・フォーマルモデルを用いた研究手法に関して、関心・学習意欲を持っていること(事前知識があるとなお良いが、要件としては求めない)。また、理論的な前提に対して、論理的かつ批判的な思考ができること。 講義の詳細については、変更する可能性もあるので、第1回講義のイントロダクションに出席すること。成績評価方法の詳細についても同じく第1回講義で説明する。	
準備学習の内容 講義内で課されたリーディングを読み、また紹介されている理論モデルについて自分で取り組んでみる。内容をただ記憶するのではなく、疑問点・改善点について自分で考えてみる。リーディングについては予習に使っても良いし、復習に使っても良い。	
教科書 浅古泰史(著)、2018、『ゲーム理論で考える政治学—フォーマルモデル入門』、有斐閣 その他、適宜リーディングを配布・共有する。	
参考書 伊藤光利・田中愛治・真淵勝(著)、2000、『政治過程論』、有斐閣 久米郁男(著)、2013、『原因を推論する—政治分析方法論のすゝめ』、有斐閣 Gehlbach, Scott. 2022. Formal Models of Domestic Politics (2nd Edition). New York, NY: Cambridge University Press. Kellstedt, Paul M. and Guy D. Whitten (2013) The Fundamentals of Political Science Research, New York, NY: Cambridge University Press, 2nd edition,	
課題に対するフィードバックの方法 課題・試験のフィードバックについては、ウェブシステムを用いて行う予定である。詳細については第1回講義で説明する。	
成績評価の方法 期末試験もしくはレポート(詳細は登録者数に応じて決定)60%、講義内ディスカッションへの参加30%、その他授業への参加度(出席、プレゼンテーション、オフィスアワーの利用など)10%	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) POL311E	
政治過程論	4 単位
	3・4 年次
講師 加藤 言人	
授業の概要・到達目標 <p>The study of "political process" seeks to understand and logically explain the various processes by which politics takes place. Its purpose is beyond the description of laws and institutions to theorize and scientifically examine why and how politics works. In this course, we aim to accomplish the following four tasks: (1) To understand the scope of questions that the study of political process deals with; (2) To acquire the essence of methodologies used in the study of political process; (3) To understand the historical development of the study of political process, especially in the context of rational choice theory (game theory/formal models); and (4) To acquire the skill to come up with logical explanation of a certain political processes and to critically examine their logic.</p>	
授業内容 Lecture 01: What is the Study of "Political Process"? Introduction Lecture 02: Scientific Study of Politics (1) Making the Study of Politics "Science" Lecture 03: Scientific Study of Politics (2) Research Question and Theory Building Lecture 04: Scientific Study of Politics (3) Measurements and Causal Mechanism Lecture 05: Scientific Study of Politics (4) Logic and Falsifiability Lecture 06: Approaches of New Institutionalism Lecture 07: Rational Choice Theory and Formal Models Lecture 08: Political Process and Rational Choice Theory (1) Utility Maximization and the Process of Voting Lecture 09: Political Process and Rational Choice Theory (2) The Paradox of Voting and Electoral Process Lecture 10: Politicians and Voters in Elections (1) Electoral Competition and Policy Positions Lecture 11: Politicians and Voters in Elections (2) Corruption and Retrospective Evaluation Lecture 12: Decision-making of Political Parties and Coalition Formation Lecture 13: Politicians and Voters in Elections (3) Information Asymmetry and the Assessment of Politicians Lecture 14: Special Interest Politics (1) Election Contributions and the Quality of Politicians Lecture 15: Special Interest Politics (2) Lobbying and the Quality of Policies Lecture 16: Politicians and Bureaucracy in Policy Implementation Process Lecture 17: Democracies vs. Autocracies (1) Political Regime and the Mechanism of Political Survival Lecture 18: Democracies vs. Autocracies (2) Media Censorship and Media Freedom Lecture 19: Models of Democratization Process (1) Tipping Models and Bottom-Up Democratization Lecture 20: Models of Democratization Process (2) Top-Down Democratization Lecture 21: War and Peace (1) Diplomacy and War Lecture 22: War and Peace (2) Domestic Politics and Peace Lecture 23: Democratic Accountability (1) Descriptive Representation Lecture 24: Democratic Accountability (2) Dynamic Representation Lecture 25: Democratic Accountability (3) Voter Information Lecture 26: Democratic Accountability (4) Voter Rationality Lecture 27: Democratic Accountability (5) Motivated Reasoning Lecture 28: Conclusion: Decoding Political Process with Logic	
履修の注意点 <p>Two prominent methodologies in the field of political process studies are empirical analysis and game theory/formal models. In this lecture, I pay particular attention to the latter (the former will also be discussed as necessary). Therefore, students should have some interest and willingness to learn about research methods using game theory and formal models (prior knowledge is preferred, but not required). Students should also be prepared to think logically and critically about theoretical assumptions.</p> <p>Students should attend the introduction to the first lecture, as the details of the lecture are subject to change. Details of the grading method will also be explained in the first lecture.</p>	
準備学習の内容 <p>Review the models and theories introduced in the lecture. Do not just memorize the content. Try to think on your own about the potential problems and improvements for those models. While the models introduced in the lecture may not match completely with the readings, you may use the readings for preparation or review.</p>	
教科書 Gehlbach, Scott. 2022. Formal Models of Domestic Politics (2nd Edition). New York, NY: Cambridge University Press. <p>Other readings will be distributed as necessary.</p>	
参考書 伊藤光利・田中愛治・真淵勝 (著)、2000、『政治過程論』、有斐閣 久米郁男 (著)、2013、『原因を推論する - 政治分析方法論のすゝめ』、有斐閣 浅古泰史 (著)、2018、『ゲーム理論で考える政治学—フォーマルモデル入門』、有斐閣 Kellstedt, Paul M. and Guy D. Whitten (2013) The Fundamentals of Political Science Research, New York, NY: Cambridge University Press, 2nd edition,	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback on assignments and examinations will be provided online. Details will be explained in the first lecture.	
成績評価の方法 Final exam/report (determined based on the class size) 60%, class participation (comment sheets, in-class discussions, presentations, office hours, etc.) 40%.	
その他 Not in particular.	

科目ナンバー：(PE) POL311J	
政治体制論	2 単位
	3・4 年次
教授 外 池 力	
授業の概要・到達目標 私の教育目標は、以下の三つを身につけることです。 1 知的誠実さ 2 健全な批判精神 3 許す勇気 本講義の目的は、1・2年生で学んだ政治学、政治史、政治理論の基本を、「デモクラシー」、「人権」、「文化」という軸を中心に発展させることにある。まずデモクラシーの理論を紹介しながら、デモクラシーへの批判や反発は歴史に上にあることを紹介し、デモクラシー批判のバリエーションを位置づけることにより、容易なデモクラシー批判に陥らぬようにし、さらなるデモクラシーが可能かどうかを考察する。また一方で、人権に対する批判についてもデモクラシーと関連づけながら同じように考察し、それらの概念のもつ有効性を検討する。その中で、デモクラシーと人権の関係についても考察する。 比較政治体制論という視座を取ることにより、世界の政治のマクロレベルでの比較が可能となり、エスノセントリズム(自民族中心主義)やナショナリズム文化相対主義に陥らない柔軟で責任ある思考を身につけることができる。デモクラシーや人権は人類が共有できる普遍的な制度なのか、それとも文化的・歴史的に相対的なものか、またそれらを支える価値観はどうかを、様々な国や地域での様々な人権侵害などの実例を挙げながら考え、普遍主義との相対主義の複雑な関係も考察する。 なお、「人権タイム」として、毎回授業の最初に、アムネスティ・インターナショナルやその他の人権擁護機関の資料などから日本や世界各地での進行形の人権弾圧の最新の資料を、随時紹介するので、FREEDOM HOUSE、ヒューマン・ライツ・ウォッチ、外務省、法務省その他多様な情報源を自分で使いながら、自分の論理と理論を常に事実から検証していく態度を取れるようにする。数回のレポートで資料を使って自分の意見を論理的にまとめる練習をし、試験で検証する。	
授業内容 講義は次のような順序で行われる予定である。 なお、授業の最初の10～20分は、毎回、「人権タイム」として、世界や日本の人権に関する最新のトピックを紹介する人権教育を行う。 (1) 問題意識の設定、資料の収集と研究方法、図書館や図書館検索の使い方の簡単なおさらいと神保町古本街の回り方(安く本を手に入れる方法や古本街の歴史や穴場)などを教える。 (2) デモクラシーの基礎知識(1) デモクラシー批判の構造、デモクラシーは理論的に不可能か? (3) デモクラシーの基礎知識(2) デモクラシー批判の構造、デモクラシーは望ましくないか? (4) デモクラシーと人権 デモクラシーと人権の対立と補完性を論じる。 (5) 功利と権利、人権批判 「みんなのため」をどこまで許すか?多数は正しいのか?人権批判について (6) 政治体制の考え方 政治体制とは何か、また「民主制、権威主義体制、全体主義体制」という類型学について考える。 (7) 欧米型民主主義への批判 「歴史の終わり」と「文明の衝突」について考える。 (8) 文化という「野蠻」と普遍という「理知的」(1) アジア型デモクラシーなどを事例に、文化・人権・文化とデモクラシーについて考える。 (9) 文化という「野蠻」と普遍という「理知的」(2) 「文化による」人権侵害の実例を挙げながら、文化と人権、文化とデモクラシーについて考える。 (10) 文化相対主義と普遍主義(1) (11) 文化 vs 「人権」なのか? HC を通じて考える。 (12) 文化相対主義と普遍主義(2) 多文化主義とデモクラシーについて考える。 (13) 文化相対主義と歴史主義 欧米 VS 非欧米、普遍主義の「相対化」という視座で歴史、社会について考える。 (14) まとめ、総括 普遍的なデモクラシーや人権の構築は可能か、人類共通の価値の構築の重要性と問題点を考え、その問題点の克服を模索する。	
履修の注意点 自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、図書館と神田本の街を使いこなせるようになること。 そのために、中央図書館の1Fの参考図書コーナーと地下2Fから入る「閉架書庫」などを利用してデモクラシー・人権関連の資料を手に入れてみる。また神保町どこの古本屋で地図を手に入れてみる。 *毎回プリントを授業の進行よりも少し早めに配布するので、予習、復習に利用すること。	
準備学習の内容 各授業でプリントを配布するが、次の週の内容まで配布することが多いので、熟読しておくこと。またプリントの量が多いので、すべてを授業中に読めないで、未読の部分についても、熟読しておくこと。	
教科書 特になし	
参考書 尚井清輝「人権と国家」、フクヤマ「歴史の終わり」三笠書房、サンゲータ「恥と名誉」解放出版社、トドロフ「歴史のモラ」法政大研究会、シュレジンガー「アメリカの分裂」岩波書店、論議表現編訳「アメリカの差別問題PC(政治的正義)論議をふまえて」明石書店、尚井清輝「人権と国家」岩波書店、ウォータースタイン「社会科学をひらく」藤原書店、神保宮白「アメリカン・ナショナリズム」春秋社、クリンバハ「アメリカ建国とイロコイ民主制」みすず書房、ドガン「比較政治社会学の最新文」声書房、日弁連「ビジネスと人権」、など アムネスティ・インターナショナルやヒューマンライツウォッチ、フリーダムハウスのデータは適時配布する。 http://www.amnesty.org/ (アムネスティ・インターナショナルHP) http://www.freedomhouse.org/ (フリーダムハウスHP) http://www.hrw.org (ヒューマンライツウォッチHP) http://hm.or.jp/ (ヒューマンライツ・ナウHP) https://www.v-dem.net/ Varieties of Democracy 研究所 (ヨーテポリア大学) http://www.indexcensorship.org/ Index on Censorship (報道の自由) http://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html (法務省人権擁護局HP) http://www.unic.or.jp/activities/humanrights/ (国連人権権威HP) http://www.ohchr.org/EN/HRBodies/Pages/HumanRightsBodies.aspx (国連人権機関HP) 特に「普遍的・定期的レビュー」 http://www.ohchr.org/EN/HRBodies/UPR/Pages/UPRMain.aspx http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html (外務省の人権部分) 「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library/upr.html 「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分(日弁連) http://www.jinken.or.jp/jinken-info (HP:人権教育啓発推進センターHP) https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/archives/法政大学大原社会問題研究所、社会問題・社会運動関連サイト(日本国内) 国会図書館電子図書館 http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html#deshi 国会図書館デジタルコレクション http://dl.ndl.go.jp/ CiNii 大学図書館の本を探す http://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja 「本の街」神田神保町オフィシャルサイト http://jimboinfo	
課題に対するフィードバックの方法 優秀なレポートについては、授業中に取り入れて批評する。	
成績評価の方法 試験(70%)および3回の(30%)の3回のレポート(必修)によって評価する。	
その他 レポート等でコピーペストは厳禁、自分で考え自分の言葉で書くこと。 レポート提出は3回とも期日を守る。	

科目ナンバー：(PE) POL311J	
政治体制変動論	2 単位
	3・4 年次
教授 外 池 力	
授業の概要・到達目標 私の教育目標は、以下の三つを身につけることです。 1 知的誠実さ 2 健全な批判精神 3 許す勇気 本講義の目的は、1・2年生で学んだ政治学や政治史の基本を、「民主化」、「革命」、「寛容」、「人権」という軸を中心に発展させることにある。ここでは、政治体制の移行もしくは変動という視座を取ることにより、世界の政治の動向をマクロレベルで比較することが可能となる。 民主化について、「移行期の正義」というテーマにおいて独裁体制の犯罪への加担者を民主化後いかに処遇するかという点に注目をし、「移行期問題」などを中心に考える。この問題には「民族紛争」や「戦争犯罪」をどう考えるかということに通ずる問題でもある。たとえばハンチントンには、民主化において過去の政治的犯罪について「裁くべからず、許すべからず、忘れるべからず」という論述があるが、果たしてこのような論述は妥当なものであろうか。 民主主義の民主化、南アフリカのアパルトヘイト廃止、日本などの戦後処理、死刑問題などの事例を題材にしなが、このような裁きと許しや寛容の問題を歴史的、理論的に検討していく。そのなかで、デモクラシーや人権という概念の重要性や問題点を再検討する。 毎回、「人権タイム」として、アムネスティ・インターナショナルのニュースレター、FREEDOM HOUSE、ヒューマンライツウォッチなどから日本や世界各地での進行形の人権弾圧の資料を紹介するので、自分の持つ倫理と理論を常に事実から検証していく態度を取ることが求められる。特に、講義を進めるなかで12月10日の国際人権デーに向けてノーベル平和賞をはじめとする、多くの人権関連の賞やそれに関するニュースが増えるので、そのようなホットで論争的な題材に対する感受性を養い、自らの論理と倫理を深めることが到達目標である。 なお授業中に、某年度の「人権カレンダー」をアプレゼントする。	
授業内容 講義は次のような順序で行われる予定である。 なお、授業の最初の10～20分は、毎回、世界や日本の人権に関する最新のトピックを紹介する人権教育を行う。 (1) 世界の民主化と自由化 民主化の現状を、FREEDOM HOUSE やアムネスティなどの指標・資料を使って検討する (2) 民主化の理論と民主主義の条件 民主化の理論と民主主義の条件を基本として民主化の理論を検討し、民主主義の条件を考える (3) 体制の移行 民主化を政治体制の移行という観点から考える。 (4) 移行期問題について 民主化の移行期問題について考える。特に、旧体制の犯罪の扱いについて考えることで、正義と裁きの問題を検討する。 (5) 移行期の正義(1) 日本などの戦後処理の事例を通じて、戦後の責任の追及のあり方を考え、戦後の思想を再検討する。 (6) 移行期の正義(2) 移行期の「真実と和解委員会」のプロセスを検討し、裁きと許しの問題を考える。 (7) 移行期の正義(3) 円卓会議や協定の理論と非暴力思想を、東欧革命など具体的事例を通じて考える。 (8) 民主化と寛容(1) デモクラシーを定着させるために必要な寛容について歴史的な視点で考える。特に寛容の父と言われるカステリオについて学ぶ。 (9) 民主化と寛容(2) デモクラシーを定着させるために必要な寛容について政治思想的な視点で考える。 (10) 民主化と寛容(3) 「他者」をどう位置づけるか、という視点から寛容の問題を考察する。 (11) 民主化と寛容(4) 死刑問題について考えることで、裁きと許しの問題を進化させる。 (12) 世界の人権賞 世界や日本の人権賞とノーベル平和賞について、平和と人権という観点から考える。 (13) 民主化と寛容(5) 独裁者に対する犠牲者の心の傷にどう対処するかを考える。集団のトラウマという問題を論じることで、体制と個人の関係を考察する。 (14) まとめ、総括 政治体制を考えるにあたって人権という視点の重要性を考え、またデモクラシーの価値を再確認する。	
履修の注意点 自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、図書館と神田本の街を使いこなせるようになること。 毎回プリントを授業の進行よりも少し早めに配布するので、予習・復習をすること。	
準備学習の内容 各授業でプリントを幾つか配布するが、次の週の内容まで配布することが多いので、熟読しておくこと。またプリントの量が多いので、すべてを授業中に読めないで、未読の部分についても、熟読しておくこと。	
教科書 特になし	
参考書 ダール「ポリアーキー」三書房、ハンチントン「第三の波」三書房、ミフク「民主主義の天使」同文館、山本浩「真実と和解」NHK出版、ポレイン「国家の版図が割られるとき」第三書館、ローゼンバーグ「進歩を望む国々」新編社、カマン「寛容思想の系譜」平凡社、亀井勝孝「死刑廃止論」法政社、ハーマン「心的外傷と回復」みすず書房、ハイナウ「かたえぬ現実」平凡社、ミノウ「復讐と救済のあいだ」信山社、ローレル「人権について」みすず書房、 国会図書館電子図書館 http://www.amnesty.org/ (アムネスティ・インターナショナルHP) http://www.freedomhouse.org/ (フリーダムハウスHP) http://www.hrw.org (ヒューマンライツウォッチHP) https://www.v-dem.net/ Varieties of Democracy 研究所 (ヨーテポリア大学) http://www.indexcensorship.org/ Index on Censorship (報道の自由) http://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html (法務省人権擁護局HP) http://www.unic.or.jp/activities/humanrights/ (国連人権権威HP) http://www.ohchr.org/EN/HRBodies/Pages/HumanRightsBodies.aspx (国連人権機関HP) 特に「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken_r/upr_gai.html https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library/upr.html 「普遍的・定期的レビュー」の日本関連部分(日弁連) http://www.jinken.or.jp/jinken-info (HP:人権教育啓発推進センターHP) https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/archives/法政大学大原社会問題研究所、社会問題・社会運動関連サイト(日本国内) 国会図書館電子図書館 http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html#deshi 国会図書館デジタルコレクション http://dl.ndl.go.jp/ CiNii 大学図書館の本を探す http://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja 「本の街」神田神保町オフィシャルサイト http://jimboinfo	
課題に対するフィードバックの方法 優秀なレポートについては、授業中に取り入れて評価する。	
成績評価の方法 試験(70%)と3回のレポート(必修)(30%)で評価する	
その他 レポート等でコピーペストは厳禁、3回ともレポートの期日は守ること 授業中に本授業製「人権カレンダー2023」を配布する	

科目ナンバー：(PE) POL311J	
比較政治論	4単位
	3・4年次
講師 ベナサリオ・ベルルッキ、アントニオ	
授業の概要・到達目標 比較政治学は、複数の国・地域に起きている様々な政治現象を主要な研究対象とし、それらを比較的に考察する学問分野である。本科目では比較政治学の主要な理論と分析方法を紹介し、現代比較政治学における様々な課題への理解を深めることを目指している。具体的には、「民主主義」、「アカウンタビリティ」、「主権」など、政治学の重要な概念の定義とその測定について学び、そして「社会はどのようにして非民主主義から民主主義体制に移行するか」、「首相と大統領の権限はどちらが強いか」、「ポピュリズムとは何か」といった問いに取り組む。様々な政治現象について、比較政治学者が着目した概念、理論、仮説、枠組みを批判的に検討し、授業で学んだことを受講者が自分自身の関心のあるテーマに応用し、新たな知見・洞察を生み出す能力を身につけることが期待されている。本講義では、単なる知識の蓄積にとどまらず、比較政治学の様々なアプローチを深く理解し、具体的な政治的問題を主体的に考えることが求められる。そのために、授業内でワークショップやグループ活動の時間を設けている。受講者はこれらのグループアクティビティを通じて意見を交換し、異なる視点から様々な政治現象への理解を深めることが期待されている。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨン・オリエンテエシヨン：本講義の構成・進め方 第2回目 比較政治学とはどんな学問か：比較政治学では何を学ぶか、比較政治学の学問的な位置づけ 第3回目 比較政治学的手法：統計分析、数理モデル、事例研究、科学的方法（因果関係・仮説の検証、理論の一般化、内・外的妥当性の問題） 第4回目 政治分析の実践：研究テーマ、リサーチクエスチョン、理論、概念/測定、仮説の提示、分析 第5回目 国家建設 ①：なぜ国家が誕生したのか、社会的契約論 第6回目 国家建設 ②：国家の誕生をゲーム理論で考える 第7回目 民主主義 ①：民主主義の定義、民主化理論 第8回目 民主主義 ②：民主主義の測定・質、民主主義の後退 第9回目 民主的体制の種類：首相と大統領はどちらが強いか、議院内閣制と大統領制 第10回目 民主主義の多様性：「多数決型」・「コンセンサス型」民主主義、拒否権プレイヤー 第11回目 ゲームのルール ①：選挙制度理論 第12回目 ゲームのルール ②：データで選挙制度の影響を読み解く 第13回目 政党と政党システム ①：政党システムの成立と変容、社会的亀裂 第14回目 政党と政党システム ②：政党システムの類型 第15回目 選挙 ①：投票行動理論 第16回目 選挙 ②：空間モデル 第17回目 政治的対立の変容：「静かなる革命」、ポスト・マテリアリズム 第18回目 新たな対立軸：調査データで価値観を分析する 第19回目 福祉国家 第20回目 連立政権成立の過程 第21回目 権威主義体制 ①：類型・特徴 第22回目 権威主義体制 ②：権威主義体制の持続性 第23回目 社会運動 第24回目 ティッピングポイント論 第25回目 アイデンティティ政治：民族集団、ナショナリズム 第26回目 ポピュリズム研究 第27回目 まとめ 第28回目 試験	
履修の注意点	
準備学習の内容 授業前に課されたリーディング課題・チャプターを熟読し、その内容を批判的な観点から考察すること。また、現代社会の問題に関心・好奇心をもって受講することが望まれる。	
教科書 教科書：久保慶一、末近浩太、高橋百合子。2016. 『比較政治学の考え方』、有斐閣。	
参考書 必要に応じて授業中に追加のリーディングを提供します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点（15%）、グループ活動（35%）、期末試験（50%）	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL311E	
比較政治論	4単位
	3・4年次
講師 ベナサリオ・ベルルッキ、アントニオ	
授業の概要・到達目標 Comparative politics involves studying various political phenomena occurring in multiple countries and regions. This course introduces the major theories and analytical methods of comparative politics, aiming to enhance students' understanding of various problems and challenges faced by contemporary societies. The course examines the definition and measurement of key concepts of political science such as 'democracy,' 'accountability,' and 'sovereignty.' It addresses questions such as 'How do societies transition from autocracy to democracy?' 'Which is more powerful, a prime minister or a president?' and 'What is populism?' The course critically examines <u>concepts, theories, hypotheses, and frameworks</u> developed by leading comparativists. A key objective is the development of critical thinking: as students acquire <u>foundational knowledge</u> in comparative politics, they will refine their ability to dissect complex matters, while also acquiring the theoretical and methodological insights necessary to conduct research on topics of their personal interest. By the end of this course, students will gain fundamental skills to analyze politics through evidence-based approaches, and the ability to engage in critical and innovative assessments and interpretations. Workshops and group activities will be regularly held as an integral part of the course. Through these activities, students are expected to exchange opinions and improve their understanding of various political phenomena.	
授業内容 第1回目 Introduction/Orientation：Organization of the course/logistics 第2回目 What is Comparative Politics? Comparative Politics as a subfield of political science 第3回目 Comparative methods：Empirical methods, formal models, case studies, the scientific method (causality, hypothesis testing, internal and external validity) 第4回目 Elements of political analysis：research topics, research questions, conceptualization and measurement, hypotheses, analysis 第5回目 The State ①：How did states come about? Social contract theory 第6回目 The State ②：Understanding the origin of the state using game theory 第7回目 Democracy ①：Definition(s) of democracy, theories of democratization 第8回目 Democracy ②：Measurements of democracy and democratic quality, democratic backsliding 第9回目 Varieties of Democracy ①：Which is more powerful, a prime minister or a president? Parliamentary vs presidential institutions 第10回目 Varieties of Democracy ②：Majoritarian vs Consensus Democracy, veto players 第11回目 The rules of the game ①：Electoral institutions 第12回目 The rules of the game ②：Understanding the impact of electoral reforms 第13回目 Parties and party systems ①：Origins of party systems, social cleavages 第14回目 Parties and party systems ②：Party system typologies 第15回目 Elections ①：Theories of voting behavior 第16回目 Elections ②：Spatial models 第17回目 Dimensions of competition ①：The Silent Revolution and the rise of post-materialism 第18回目 Dimensions of competition ②：Analyzing value preferences using survey data 第19回目 The Welfare State 第20回目 Coalition Formation Theory 第21回目 Authoritarian Regimes ①：Classification and key characteristics of autocratic regimes 第22回目 Authoritarian Regimes ②：Regime survival 第23回目 Social Movements 第24回目 Tipping Models 第25回目 Identity Politics：Ethnic groups, nationalism 第26回目 Populism 第27回目 Summary 第28回目 Final exam	
履修の注意点	
準備学習の内容 Students are required to thoroughly read the assigned readings with a critical eye before each session. Additionally, active engagement in the topics discussed during the course is highly encouraged.	
教科書 We do not follow a specific textbook. The course adopts a first-hand (primary source) approach; academic readings shall be made available to students in advance.	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Student's class performance (15%) , Group activities (35%) , Final exam (50%)	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL331E	
比較政治論（東アジア）	4 単位
	3・4 年次
教授 堀 金 由 美	
授業の概要・到達目標 <p>Comparative politics is a sub-discipline of political science where <i>comparison</i> is used as a tool/method to understand politics. Comparison as a method is useful not only for generalization/theorization, but also for deeper understanding of some phenomena. In this course, accordingly, we will look at the politics of East Asian countries with this useful tool of comparison. Not a few countries in this region, including Japan, have achieved miraculous economic development once praised by the World Bank as <i>the East Asian Miracle</i>, making this region as the center and growth engine of the world economy. We will investigate the trajectories of such <i>miracle</i> countries with the key words: democracy/authoritarianism and development, and try to compare these cases with a focus on the role of the state. Depending on the interest and intention of the participants, the result could be either one single model of the East Asian political economy or some different models such as the Korean model, the Taiwanese model and the Singaporean model. Whatever the final result, the participants will be expected to acquire general knowledge about the politics and development in this region or even in the world, and the experience of comparing cases against some theoretical framework, which should be applicable in other situations in the future.</p> <p>Beside these, some important issues such as economic integration, nuclear issues and power rivalry will be dealt with in order to deepen the understanding of the region.</p>	
授業内容 (1) Introduction 1. What is East Asia? Why do we study about it? 2. Diversity and some features of East Asia 3. Methodology: What is comparative politics? 4. Political economy and comparative historical analysis (CHA) (2) Theories 5. Historical background (1) Industrial revolution and colonization 6. Historical background (2) The cold war 7. Theories of development (1) Modernization theory and stage theory 8. Theories of development (2) Dependency theory 9. Origins of the developmental state model (1) Johnson's MITI (1) 10. Origins of the developmental state model (1) Johnson's MITI (2) 11. Application of Johnson's model to other countries in East Asia 12. Development of the developmental state theories (1) Haggard's political economy 13. Development of the developmental state theories (2) Evans and Kohli 14. Theoretical development on the role of the state in social sciences 15. Theory of democracy: Dahl's <i>Polyarchy</i> 16. Theory of democratization: Huntington's <i>The Third Wave</i> 17. Summing up: the developmental state in East Asia (3) Historical experiences 18. Politics on the Korean peninsula and the <i>history</i> issue with Japan 19. The <i>division</i> and the North's nuclear issue 20. The political economy of the developmental state (1) South Korea (1) 21. The political economy of the developmental state (1) South Korea (2) 22. Review of the theory and the historical case (Korea) 23. The political economy of the developmental state (2) Taiwan (1) 24. The political economy of the developmental state (2) Taiwan (2) 25. The political economy of the developmental state (3) Southeast Asia (1) 26. The political economy of the developmental state (3) Southeast Asia (2) 27. Summing up (1) Politics and development in East Asian non-miracle countries 28. Summing up (2) Relevance and applicability of the model in the contemporary Global South countries	
履修の注意点 <p>Economic policy is always one of the hottest issues in politics everywhere regardless of the level of development. Understanding of the political meanings of economic policy requires the understanding of its economic meaning or the expected result. Accordingly, while this course's title is comparative politics, some basic knowledge in economics will help. Students are encouraged to gain some very basic knowledge about economics, macro economics and trade/industrial policy, in particular. In addition, some knowledge about the history in the world as well as in this region will also be very helpful.</p>	
準備学習の内容 <p>Reference books/papers will be introduced in the class. The participants will be strongly recommended to read them, or at least some of them, and write short comments/essays on them to be submitted through Oh-o/Meiji. More details will be explained in the first class. Powerpoint slides for each class will be uploaded to Oh-o/Meiji. The students need to download them in advance before coming to the class.</p>	
教科書 n.a.	
参考書 The World Bank (1993), <i>The East Asian Miracle: Economic Growth and Public Policy</i> , New York: Oxford University Press. Commission on Growth and Development (2008). <i>The Growth Report: Strategies for Sustained Growth and Inclusive Development</i> . Washington, D.C.: The World Bank.	
課題に対するフィードバックの方法 Feedback to students' comments/questions will be given during the class.	
成績評価の方法 Attendance and contribution to the class 50%, Mid-term paper 20%, End-of-the-term paper 30%	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
計量政治学	2 単位
	3・4 年次
教授 井田正道	
授業の概要・到達目標 現代社会、現代政治を理解するためには、データの分析は不可欠である。この授業では、現代の政治と社会を理解するために、まず、統計調査の歴史、世論調査の技法、そしてデータの見方について講義する。デモクラシーにおいては国民に主権があり、それゆえ、世論の研究は必要不可欠である。そこで、次に、日本における有権者政治の展開について個々の事例を取り上げて考える。受講者は、この授業から、政治の数量アプローチの基礎的理解とその意義について考える力を身につけてほしい。	
授業内容 第1回目 a. イントロダクション 第2回目 政治学の科学化と数量化 第3回目 世論・意識調査の技法 第4回目 統計解析の手法（1） 第5回目 統計解析の手法（2） 第6回目 集計データを用いた計量分析（1） 第7回目 集計データを用いた計量分析（2） 第8回目 集計データを用いた計量分析（3） 第9回目 集計データを用いた計量分析（4） 第10回目 個票データを用いた計量分析（1） 第11回目 個票データを用いた計量分析（2） 第12回目 個票データを用いた計量分析（3） 第13回目 個票データを用いた計量分析（4） 第14回目 まとめ	
履修の注意点 政治現象を学問的に見ることと、ジャーナリスティックに見ることの違いを理解すること。	
準備学習の内容 しっかりと復習をすること。	
教科書 特になし	
参考書 井田正道『政治・社会意識の現在』北樹出版 井田正道『日本政治の展開』北樹出版 酒井隆『アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 定期試験（100%）	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
政治行動論	2 単位
	3・4 年次
教授 井田正道	
授業の概要・到達目標 この授業では、主として、現代日本人の政治意識、とりわけ、世論の変化に焦点を当て、その変化が、選挙過程・政治リーダーの選出過程に、そして政策決定過程にどのような影響を及ぼしたかについて考える。議会制デモクラシーのもとでは、世論や有権者の投票行動の重要性の高さはいままでもなく、現代政治学では、それらの研究は政策決定過程の分析と同様に重視されてきた。ここでは、これまでに蓄積されてきた知見を整理し、今後の展望にも言及する。また、この分野でもっとも研究蓄積の多いアメリカ政治についても言及する。2024年米大統領選挙が11月に実施されることから、同選挙に関する基礎知識や情勢についても逐次講義する。受講者は、この授業から、政治行動の基礎的理解とその意義について考える力を身につけてほしい。	
授業内容 第1回目 a. イントロダクション 第2回目 大衆社会論 第3回目 政治行動論の発達 第4回目 投票行動研究の発達（1） 第5回目 投票行動研究の発達（2） 第6回目 選挙制度 第7回目 アメリカ人の投票行動（1） 第8回目 アメリカ人の投票行動（2） 第9回目 投票参加に関する理論 第10回目 2024年米大統領選の分析 第11回目 政治と文化 第12回目 18歳選挙権導入の影響 第13回目 若者の政治意識 第14回目 まとめ	
履修の注意点 政治現象を学問的に見ることと、ジャーナリスティックに見ることの違いを理解すること。	
準備学習の内容 復習をしっかりとすること。	
教科書 『日本政治の展開』 井田正道 北樹出版 2018年 『アメリカ分裂-数字から読み解く大統領選-』 井田正道 明治大学出版会 2017年	
参考書 『名著で学ぶ政治学』加藤秀治郎編 一藝社 2024年 『政治・社会意識の現在』 井田正道 北樹出版 2008年	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 レポート（30%） 定期試験（70%）	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
国際関係史	4 単位
	3・4 年次
教授 川 嶋 周 一	
授業の概要・到達目標 <p>現在の国際社会はいかなるアクターによって成り立ち、いかなるダイナミズムに基づいて行動することで成り立っていくのか。そしてその成り立ちはいかなる構造を作り出していくのか。現在を知り、未来を占うためには、歴史に根差した知識と「ものの見方」は不可欠である。国際関係史とは、このようなグローバルな視点の下から、「いま」の「世界（＝国際社会）」がどのような過去から成り立っていったのかを検討していく学問である。国際関係の歴史を学問的知見によって切り取ったとき、かつて高校や受験で習った「世界史」とは異なる、暗記に留まらない歴史認識と世界認識を持つことが可能となるだろう。そのような認識を涵養することが、本講義の目的である。</p> <p>ただし、現在の国際社会が成立する契機となる17世紀のヨーロッパから21世紀のグローバルな国際社会の展開までを講義するには数年分の講義を必要とするので、一年間で講義できる内容のごく一部である。本年度は、2022年2年に発生したロシアによるウクライナ侵攻（ウクライナ戦争）の衝撃に鑑み、本講義のメインは冷戦期とし、その後冷戦後の国際秩序の成立と展開について多くの時間を取りたい。</p> <p>また、本講義では数年前より、手探りながらも講義科目におけるグループ・ディスカッションを実施している。講義は「教員がひたすらしゃべる」だけではない。講義内容を踏まえ、履修者は論点について考え、事前にリサーチし、そして見知らぬ履修者とディスカッションする、そのような講義を本講義では行う。</p>	
授業内容 第1回 インTRODクシヨン 第2回 「国際関係史」とはいかなる学問か？ 第3回 「ヨーロッパ的」近代国際体系の成立と拡大：ウエストファリアから19世紀まで 第4回 20世紀国際社会の登場（1）：戦間期国際秩序の成立 第5回 20世紀国際社会の登場（2）：戦間期国際秩序の失敗 第6回 奈落の底へ：第二次世界大戦の勃発 第7回 地の底からの眺め：第二次世界大戦中における戦後ビジョン 第8回 戦後秩序の構築に向けて 第9回 戦後秩序のセトルメント：冷戦世界の登場と確立 第10回 戦後秩序のセトルメント：グローバルな冷戦とそのフィードバック 第11回 冷戦秩序の中の非冷戦的展開 第12回 グループ・ディスカッション（その1） 第13回 冷戦的対立の諸相（1）：核をめぐる国際関係 第14回 冷戦的対立の諸相（2）：音楽・文化・芸術における冷戦的対立 第15回 冷戦構造と戦後秩序の変容（1）：1970年代における構造転換 第16回 冷戦構造と戦後秩序の変容（2）：1980年代と現代世界への脱皮 第17回 「シャボウツキー同志、ベルリンの壁はどうなるのですか？」：冷戦終焉の物語（1） 第18回 「シャボウツキー同志、ベルリンの壁はどうなるのですか？」：冷戦終焉の物語（2） 第19回 ドイツ再統一の国際政治史 第20回 冷戦終焉とポスト冷戦世界秩序の生成：ヨーロッパ安全保障秩序再編をめぐる 第21回 冷戦後1990年代国際政治の展開：旧ユーゴ内戦、国連平和維持活動の活性化、テロ 第22回 冷戦後1990年代国際政治の展開：アメリカの「帝国化」とEU再編 第23回 倒壊する巨塔：中東をめぐる国際関係史（1） 第24回 倒壊する巨塔：中東をめぐる国際関係史（2） 第25回 コソヴォ紛争以降のヨーロッパの対露政策の展開（1） 第26回 コソヴォ紛争以降のヨーロッパの対露政策の展開（2） 第27回 フラットな世界とバックラッシュ：グローバリゼーションとポピュリズムを歴史的に考える 第28回 まとめと総括およびグループ・ディスカッション（その2）	
履修の注意点 <p>上記授業内容は変更があり得るので、講義を履修する予定の学生は、必ず第1回のガイダンスに出席されたい。ガイダンスにて、詳しい講義予定、参考文献リスト、成績評価法を説明する。</p> <p>本講義の内容は、一見すると高校までの「世界史」の内容に似ているが、世界史履修者であるかどうかはあまり関係がない。重要なのは、20世紀の歴史については、ある程度知っておいた方が得である。その点で、映像教材であるが、DVD『映像の世紀』を全巻視聴しておくことを、強く薦める。また、この講義は基本的に政治学の枠内で展開されるので、さまざまな政治学関連科目をよく勉強してほしい。</p>	
準備学習の内容 DVD『映像の世紀』を全巻視聴しておくこと。参考書を入手し、内容について把握しておくこと。	
教科書 開講時に指示する。	
参考書 詳しい参考書リストを第1回のガイダンスで配布する予定だが、とりあえず以下が主要な参考書である（出版年順）。 石井修『国際政治史としての20世紀』（有信堂高文社、2000年）；佐々木雄太『国際政治史：世界戦争の時代から21世紀へ』（名古屋大学出版会、2011年）；ロバート・マクマン『冷戦史』（勁草書房、2018年）；小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史：主権国家体系の歩み』（有斐閣、2018年）；森聡・福田円（編著）『入門講義 戦後国際政治史』（慶応義塾大学出版会、2022年）	
課題に対するフィードバックの方法 課題のメ切的翌週の講義冒頭に、フィードバックを行う。 履修者の個別的なフィードバックを希望する方については、個別に相談されたい。	
成績評価の方法 定期試験（50%）およびレポート（50%）。ただし、出席へのインセンティブとして、平常点を設ける。平常点については、毎回質問票・感想票を配布し、記入のあったもののみ、点数としてカウントする。詳細はガイダンスで説明する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
アジア政治論	2 単位
	3・4 年次
兼任講師 平 川 幸 子	
授業の概要・到達目標 「台湾海峡の平和と安定」は、日本の外交安全保障政策はもちろん、米中関係やインド太平洋地域の国際政治を理解する上でのキーワードである。このテーマに対し、毎回の授業で、1) 近代からの歴史的背景の知識習得、2) 変動する台湾社会への専門的理解、3) 中国・米国・日本との関係、及び国際社会における台湾に関する考察、などを行う。到達目標は、歴史的、理論的な学問的理解に加えて、時事的な内容も多く取り入れて最新情勢を分析できる観察眼を養うことである。講義では映像教材なども多用し理解を深めていく。また、履修者の主体的な発表討論、相互フィードバックの機会をできる限り取り入れる。	
授業内容 第1回目：イントロダクション（台湾を国際関係学の視点から研究する意義）、 第2回目：オランダ支配から清朝統治まで 第3回目：日清戦争と日本の台湾統治 第4回目：第二次世界大戦時の台湾 第5回目：中国内戦（国民党と共産党） 第6回目：国民党の敗北と台湾への退却 第7回目：冷戦下での「二つの中国」問題 第8回目：1970-1990年代の台湾 第9回目：李登輝時代の台湾 第10回目：陳水扁時代の台湾 第11回目：馬英九時代の台湾 第12回目：蔡英文時代の台湾 第13回目：グローバル社会と台湾 第14回目：総括と討論	
履修の注意点 授業は、講義と討論を組み合わせた形で行う。討論は講義の進行状況に合わせながら複数回行う。学生間の意見交換、相互フィードバックなども行うので、主体的参加が強く求められることに留意すること。	
準備学習の内容 毎回の授業で指定された文献を事前に読んで上で参加すること。討論に際しては準備課題を事前に示すので必ず提出した上で授業に出席すること。毎回の授業の最後にはリアクションペーパーを書いて復習や気づきの点、更なる質問を明確化し、次回授業につなげていく。	
教科書 『台湾の歴史』若林正文（講談社学術文庫）2023年	
参考書 『台湾を知るための72章』赤松美和子、若松大祐編著（明石書店）2022年	
課題に対するフィードバックの方法 課題は討論準備という形式を取り、授業内でフィードバックを行う。リアクション・ペーパーに書かれた内容も授業内で紹介し、必要により追加的な討論を行う。	
成績評価の方法 授業貢献度（討論への参加、準備課題やリアクションペーパー）40% 期末レポート 60%	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
アジア政治論	2 単位
	3・4 年次
特任教授 アベイシンヘ ムディヤンセラゲ ニロス チャミンダ	
授業の概要・到達目標 This course aims to provide students with a comprehensive understanding of the political systems, processes and dynamics and the critical political issues that remain central to Asian countries. It explores the diverse political landscapes of various sub-regions and countries in the Asian region, examining historical contexts, contemporary developments and the interplay of domestic, regional and global factors. Moreover, the course investigates ideologies, power and relationships across the Asian region as many speculate that it will become the centre of power in the upcoming century. Thus, it aims to equip students with a critical awareness about state-building, social uprisings and new political ideologies that continue to take precedence in the Asian region. This course module in Asian politics also offers an in-depth exploration of the political dynamics, theories and emerging issues in the Asian countries. It aims to equip students with advanced analytical skills and a comprehensive understanding of the complexities of Asian Politics. Achievement goals/ Intended learning outcomes After successfully completing this course module, students will be able to: <ul style="list-style-type: none"> • Examine the significance of Asia in the global political landscape • Explain the political, economic, and historical background, government and the politics in the Asian countries. • Understand the dynamics of the ideologies, power and relationships across the Asian region. • Analyze the growing political and economic competition and power rivalry between major powers and regional powers in relation to Asia. 	
授業内容 1st week: Introduction to Asian Politics 2nd week: Political Systems in Asia 3rd week: State-Building and Nation-Building Processes in Asia 4th week: Democratization and Political Transitions 5th week: Identity Politics and Ethnic Conflicts 6th week: Political Economy of Asia 7th week: Social Movements and Civil Society 8th week: Security Dynamics in Asia 9th week: Regionalism and growing alliances in Asia 10th week: Gender and Politics in Asia 11th week: Religion and Politics in Asia 12th week: Human Rights and Transitional Justice 13th week: Security Challenges in Asia 14th Week: Emerging Powers and the growing balance of power in Asia	
履修の注意点 Preference will be given to the students who have a background in Regional Studies, Sociology, Political Science, Economics, History, International Relations, International Politics, Comparative Governance, or any other related Social Science subjects during the selection process. However, we also strongly encourage applicants who may not have studied these specific subjects but possess a keen interest in Asian politics to apply.	
準備学習の内容 Reading materials will be uploaded to the Oh-ol Meiji system before the sessions. Students are supposed to refer to and review the materials the professor assigns before each session.	
教科書 N/A	
参考書 Croissant, Aurel and Lorenz Philip. (2018). Comparative Politics of Southeast Asia: An Introduction to Government and Politics and Political Regime. Switzerland: Springer Frank, Andre G. (1998). Reorient: Global Economy in the Asian Age. Berkeley: University of California Press. Funston, John (Ed) (2001). Government and Politics in South East Asia. Singapore: Institute of South East Asian Studies	
課題に対するフィードバックの方法 The deadline for the submission of assignments is the last day of the class. After the submission, each assignment will be thoroughly screened, and detailed feedback will be provided, addressing specific criteria or guidelines for a comprehensive evaluation. Constructive criticisms will be given with a growth mindset, aimed at students' improvement without any judgments. Individual sessions will be arranged for each student to discuss the evaluative comments separately.	
成績評価の方法 Class Participation 20%, In-class test 20%, Take-home Assignment 20%, End-of-the-term-exam 40%	
その他 Students have the opportunity to meet the professor in person every Wednesday and Friday from 10:00 am to 7:00 pm. Additionally, they can reach out to the professor via email at cabeyingsinghe@kln.ac.lk for any inquiries or to schedule appointments.	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
アメリカ政治論	2 単位
	3・4 年次
兼任講師 石川 敬史	
授業の概要・到達目標 [授業の概要] 近年は、「分断するアメリカ」というテーマが日本においても世界においても論じられることが多い。しかし本授業では、アメリカの始まりから現代までの政治史を通史的に外観し、逆説的ながらその今日まで続く、政治制度の安定性に着目した検討を行う。 [到達目標] 受講者が「アメリカの見方」を理解し、今日のアメリカ政治を理解する上での基本的な視座を獲得できるようになるのが到達目標である。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨン ・授業全体の概要、授業の進め方および単位認定の方針を解説する。 第2回目 植民時代 ・アメリカ政治の基本単位であるのは州であるが、その元型としてのイギリス領13植民地の形成、発展、自立化の経緯を考察する。 第3回目 アメリカ革命—反イギリス独立抗争 ・イギリス領13植民地がイギリス本国と対立し、分離・独立を目指さざるを得なくなった経緯を概説する。 第4回目 アメリカ革命—合衆国の建国 ・アメリカ合衆国憲法の制定史を概説し、13植民地が13個の共和国ではなく、一つの連邦制国家になった歴史的経緯を検討する。 第5回目 初期共和政体 ・アメリカ合衆国が建国して間もない時期の初期の政治課題を概観し、アメリカ合衆国の孤立主義の沿革を辿る。 第6回目 デモクラシーの台頭と政党の制度化 ・アメリカで政党が政治システムとして受け入れられたのは意外なほど遅い。この授業では、アメリカにおける政党政治の揺籃期を検討する。 第7回目 膨張するアメリカ ・アメリカは、1850年代にはほぼ現在の版図になっている。その国家としての膨張を外交とアフリカ人奴隷制度の観点から読み解く。 第8回目 南北戦争と再建期 ・南北戦争の構造とその帰結を最新研究をもとに検討する。 第9回目 「金びか時代」のアメリカ ・南北戦争後のアメリカを概観し、それが今日のアメリカに直接つながる社会状況であったことを概説する。 第10回目 革新主義の時代 ・「金びか時代」を踏まえて革新主義の時代という19世紀から20世紀初頭に展開された改革の時代を解説する。アメリカが国際政治の舞台に登場する前史でもあり、アメリカの外交思想がこの時代に形成される。 第11回目 アメリカにとっての第一次世界大戦と第二次世界大戦 ・二つの世界大戦によってアメリカは超大国への道を歩む。その経緯を解説する。 第12回目 冷戦と保守主義の台頭 ・冷戦期のアメリカの内政と外交を最新の研究を踏まえて概説する。 第13回目 2001年9月11日以降のアメリカ ・混乱のアメリカ現代史を考察する上での視座を提供する。 第14回目 a 試験 b 講義全体のふりかえりと正答解説	
履修の注意点 履修に当たって予備知識は必要ない。ただし、不明なことがあれば教員に積極的に質問してください。	
準備学習の内容 復習に重点をおいた学修を心がけてください。具体的には、授業時に配布したレジュメの該当箇所をふりかえり次回の授業に臨んでください。	
教科書 講義のたびにレジュメ・資料を配布します。 教科書は特に定めません。	
参考書 久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会）	
課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に2度の小レポートの課題を示すのでそれを提出してください。課題採点后、Oho-Maijiで解説・講評を公開します。授業最終日の試験採点后にも同様に解説・講評を公開します。個別の質問は、Oho-Maijiおよび授業の前後に随時受け付けます。	
成績評価の方法 小レポート1回につき15%（2回で30%） 第14回目の試験70%	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
ラテンアメリカ政治論	2 単位
	3・4 年次
兼任講師 舩方 周一郎	
授業の概要・到達目標 激動のラテンアメリカで、いま、何が、なぜ、どのように、起きているのか。ラテンアメリカは、国際政治学では周辺の地域に位置づけられてきた。しかし同時に、この地域は長らく、経済発展・民主化・紛争・社会運動など、普遍的な政治現象を理解するための実験場であった。ラテンアメリカが直面してきた課題は、現在のアジア・アフリカ・中東諸国が直面する課題でもある。 本講義では、世界の中でのラテンアメリカ政治に焦点を当てながら、ラテンアメリカの歴史的背景と政治体制の基本構造を理解することで、現代に通じる複雑な政治社会構造と同地域が世界に放つ多様性を解明することを目指す。	
授業内容 第1回目 ラテンアメリカ政治の全体像 第2回目 独立前のラテンアメリカ 第3回目 独立直後の国家形成 第4回目 ポピュリズムの時代へ 第5回目 ポピュリズムの政治 第6回目 軍による政治支配 第7回目 軍事政権の多様性（1） 第8回目 軍事政権の多様性（2） 第9回目 映像資料 第10回目 民政移管の実現 南米 第11回目 民政移管の実現 中米 第12回目 新自由主義改革 第13回目 左傾化 第14回目 21世紀のラテンアメリカ政治	
履修の注意点 講義はパワーポイントと映像資料等を使用して行われる。パワーポイントの内容と補足資料は、各自がプリントアウトして授業に持参すること。また、講義終了時に、毎回リアクションペーパーへの記入と提出を求める。	
準備学習の内容 講義は、ラテンアメリカ政治の初学者を対象とするが、政治学の基礎的な知識を備えていることが望ましい。また毎回、教科書にはあらかじめ目を通しておくこと。	
教科書 舩方周一郎・宮地隆廣『世界の中のラテンアメリカ政治』東京外国語大学出版会。初回の講義で毎回の授業内容と関連した基礎的な文献や資料を紹介する。	
参考書 初回の講義で、参考文献リストを配布する。特に、畑恵子・浦部浩之編『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』新評論を推薦する。	
課題に対するフィードバックの方法 Oh! Meijiを活用して希望者には課題にコメントをつけてフォードバックする。	
成績評価の方法 リアクションペーパー（20%）、レポート（30%）、期末試験（50%）	
その他 日ごろから、国内外の新聞記事（特に政治欄・国際欄と個人的に関心のある話題）を読む習慣をつけましょう。	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
アフリカ政治論	2 単位
	3・4 年次
兼任講師 佐藤 光	
授業の概要・到達目標 日本においてアフリカは遠い地域であるが、近年、外交的のみならず、ビジネスの点からも重要な地域となっている。およそ12億人が暮らすアフリカは、著しい経済成長によって光り輝いている一方、紛争や貧困など多くの問題も残されている。 本授業では、サハラ以南アフリカ地域における政治現象を理解するため、まず歴史的な背景を概観し、その後民主化や貧困、国際社会との関係などの問題について適宜事例を紹介しながら検討する。最終的には、「アフリカの抱える政治状況や問題がどのような特徴を持つのか」、「問題を解決するために何が必要であるのか」などについて、自ら考察する能力を身につけることを目標とする。	
授業内容 第1回目 a:イントロダクション、b:アフリカの歴史(1):アフリカ分割と植民地支配 第2回目 アフリカの歴史(2):独立と国家建設 第3回目 アフリカの歴史(3):権威主義体制 第4回目 アフリカの歴史(4):経済危機と構造調整 第5回目 アフリカの民主化(1):民主化の条件・類型・特徴 第6回目 アフリカの民主化(2):民主主義の持続・後退 第7回目 アフリカの民主化(3):選挙、抗議、暴力 第8回目 アフリカと紛争(1):民族と国家 第9回目 アフリカと紛争(2):平和構築 第10回目 アフリカと貧困(1):貧困の現状・背景 第11回目 アフリカと貧困(2):貧困対策 第12回目 アフリカと国際社会(1):難民と人間の安全保障 第13回目 アフリカと国際社会(2):開発援助 第14回目 a:アフリカと国際社会(3):アフリカと日本、b:授業全体のまとめ	
履修の注意点 授業内容は、履修する学生の政治学や国際関係論、アフリカ政治などに関する知識や理解度を踏まえ調整する。この授業を通じて、アフリカの抱える課題への理解を深めるためにも、積極的に考える姿勢をもって履修してもらいたい。	
準備学習の内容 授業前までに資料を配布するので、資料に目を通すこと。また併せて、関連する図書等の該当箇所を読むこと。	
教科書 特に定めない。授業ごとに資料を配布する。	
参考書 特に定めない。テーマが多岐にわたるため、参考文献については授業ごとに随時提示する。	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーの内容(質問等)については、翌授業の際に説明する。	
成績評価の方法 リアクションペーパーの提出・内容(20%)、中間レポート(30%)、定期試験(ただし、履修者数などの状況によっては期末レポートに変更する可能性がある)(50%)により総合的に評価する。	
その他 授業の配布資料は、事前に Oh-ol Meiji に上げる予定である。必要な場合は、各自が印刷して授業に出席すること。	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
ロシア政治論	2 単位
	3・4 年次
教授 外池 力	
授業の概要・到達目標 教育目標は、以下の三つを身につけることである。 1 知的誠実さ 2 健全な批判精神 3 許す勇氣 ソ連は既に歴史となり、ロシア史のなかの一つの時代を指し示すにすぎないと言われるようになった。しかし、現在のロシアの政治を考えるだけでなく、現代世界の政治経済、歴史、思想を考えていくうえで、社会主義、革命、計画経済、スターリン主義、収容所、全体主義、そしてそれらに対する反義と懸念への努力と挫折などのテーマを考察することは重要である。「誤った倫理は、搾取工場や強制収容所や死の行進へ向かうための、欠かせない一歩なのだ。」(サイモン・ブラックバーン)という言葉が示すように、より良き社会の構築を目指した人々が手にした政治体制が、あまりに「野蛮」なものだったというプロセスについては、まさに思考の糧といえる題材である。また日本において、ソ連をモデルにした革命が挫折した歴史についても、「蟹工船」などプロレタリア文学、転向、党派間の闘争、などのテーマを通して、なぜ、「戦争」と「人権抑圧」を閉ざることができなかったのかについても検討する。また同時に、現代のロシアの政治についても、その制度や政治文化、また人権問題などを通じて、考察を進める。 また中国のスターリン主義ともいえる毛沢東主義についても、その特性を検討し、現代に通じる20世紀の革命の政治史についても考える。 具体的な到達目標としては、冷戦崩壊後、直接的には理解がしにくくなった革命、社会主義、ソ連などへの理想化とその挫折について、20世紀の政治史、思想史を踏み解くだけでなく、現在の政治、社会を考えるためにも有効な視座を得ることにある。また、教回読レポートと試験などを通じて、自分の独自の意見を表現できるようにする。	
授業内容 講義は次のような順序で行われる予定である。 (1) 問題意識の設定、資料の収集と研究方法 (2) 図書や図書検索の使い方の簡単なおさらいと神保町古本街の歴史と巡り方(安く本を手に入れる方法)などを教える。 (3) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (4) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (5) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (6) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (7) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (8) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (9) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (10) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (11) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (12) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (13) ソ連の崩壊と現代ロシア政治 (14) ソ連の崩壊と現代ロシア政治	
履修の注意点 自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、図書と神田本の街を使いこなせるようになること 授業中に、プリントを授業の進行よりも少し早めに配布するので、予習・復習に利用すること。また神保町古本街に行って、古書店MAPを手に入れリンゴインで本をとくか買ってみたいこと。	
準備学習の内容 各授業プリントを幾つか配布するが、次の選の内容まで配布することが多いので、熟読しておくこと。またプリントの量が多いので、すべてを授業中に読めないで、未読の部分についても、熟読しておくこと。	
教科書 なし。	
参考書 ソルジェニーツィン『収容所群島』1-6巻、新潮文庫、 トドロフ『極限に直面して』法大出版会、 ボック『スターリン主義とはなにか』大月書店、 キル『スターリン主義』岩波書店、 ゲッティ『大粛清への道』連極秘資料集 大月書店、 マンデリスターム『流刑の詩人マンデリスターム』新潮社、 松本健一編『詳解現代論争事典』流動出版、 アブルーム『クラウ』白水社、 富田武『シベリア抑留』白水社、『収容所群島』の実像』中央公論新社 吉本隆明『マチュウ書試論』転向論 講談社文芸文庫、 ブラウニング『普通の人々』筑摩書房、 ファイジス『嘘と密告』白水社、 ネイマーク『スターリンのジェノサイド』みすず書房 トラウゼルス『全体主義』専ら社 張博樹『新全体主義の思想史』白水社 国会図書館電子図書館 http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html CiNii 大学図書館の本を探す http://ci.nii.ac.jp/books/?i=ja 『本の街』神田神保町オフィシャルサイト http://jimhouinfo.jp ソ連時代のテロルの犠牲者のデータベース http://lists.memo.ru/index.htm シベリア抑留者犠牲者データベース http://yokuryu.world.cocacn.jp/meibo2.html	
課題に対するフィードバックの方法 優秀なレポートについては、授業内で紹介する予定である	
成績評価の方法 年3回のレポート(必修)(30%)と試験(70%)で評価する	
その他 レポート等でコピーペーストは厳禁、レポートの提出期限は3回とも守ること	

科目ナンバー：(PE) POL331J	
東欧政治論	2 単位
	3・4 年次
教授 外 池 力	
授業の概要・到達目標 私の教育目標は、以下の三つを身につけることです。 <ol style="list-style-type: none"> 1 知的誠実さ 2 健全な批判精神 3 許す勇氣 東欧地域の政治に関して、これらの地域の各国の特色を踏まえながら、人権やナショナリズムなどを軸にして考える。ウクライナ侵攻にみられるようなロシアの大国主義を、周辺諸国との政治と関連づけながら論じていく。また特に EU 加盟やエネルギー問題など現在ロシアと東欧諸国の関係で重要になっている諸点を考察する。またこの地域の人権問題に絡めて、社会運動についても紹介する。 またソ連崩壊後多発した民族紛争について、これらの地域の民族の多様性を踏まえながら、各国のナショナリズムや民族紛争なども含め幾つかのケースを取り上げながら、様々なナショナリズムに関する理論を検討する。その際に、ナショナリズムの理論や思想についての考察を読み解く作業も行う。 社会主義とナショナリズムについても、インターナショナリズムと関連性に焦点をあてて考察する。この地域の様々な民族紛争や反ユダヤ主義の問題をボグロムやホロコーストの実態や原因を探ることによって考察する。また現在、この地域で強まっている極右勢力についても考察する。 ナショナリズムは、どの国も自国の特殊性、優位性を主張するが、比較すれば、その本質的構造は同様であり、ナショナリズムの過度の強調は問題があることを気づくことと同時に、他国や過去の民族紛争や民族差別の経験の反省が、現在の自分たちにも生かすことができるということを学び、被害者意識が攻撃性を生むことや「わかりやすい説明」の危険などの普遍的テーマについても考察する。	
授業内容 講義は次のような順序で行われる予定である。 <ol style="list-style-type: none"> (1) はじめに:本授業の進め方、評価方法、概要など (2) 東欧の政治・歴史と文化 (3) 東欧の政治:CIS 諸国も含めその政治問題の概観 (4) ロシア・東欧のナショナリズム、民族問題 (5) ナショナリズム、民族問題についての理論や思想 (6) 「幻想の共同体」、「共同幻想論」などの検討 (7) 日本のナショナリズムについて (8) 社会主義とナショナリズム:インターナショナリズムについて (9) ロシア・東欧の反ユダヤ主義について (ボグロムの歴史と構造) (10) ロシア・東欧の反ユダヤ主義について (ホロコーストの考察) (11) 日本における反ユダヤ主義 (12) ソ連における反ユダヤ主義 (内戦のボグロムから出国問題まで) (13) 被害者意識と攻撃性 (14) まとめ・総括 	
履修の注意点 自らが問題意識を持ち研究を進めていくことが重要であるから、関心のあるテーマを定め、図書館と神田本の街を使いこなせるようになること また課題のレポート等では、自分の考えと文献の引用箇所をはっきり区別すること。	
準備学習の内容 プリントが事前に授業の進行より早めに配るので、予習・復習に利用すること。	
教科書 なし	
参考書 ジマー『ナショナリズム』岩波書店、 アンダーソン『想像の共同体』リブレポート、 吉本隆明『共同幻想論』角川ソフィア文庫、 吉本隆明『日本のナショナリズム』同編『ナショナリズム』筑摩書房、 デーヴィス『ナショナリズムと社会主義』岩波書店、 ボロンスキ『小独裁者たち』法大出版会、 アニコフ『ロシア、中・東欧ユダヤ民族史』彩流社 アレイヘム『屋根の上のバイオリン弾き』早川書房、 ヴィーゼル『沈黙のユダヤ人』白水社、 ギゼルマン『葛藤の一世紀』サイマル出版会、 グロス『アウシュヴィッツ後の反ユダヤ主義』白水社、 スナイダー『アラッドランド』(上)(下)筑摩書房 スナイダー『アラックアース』(上)(下)慶応大学出版会 野村真理『ガリツィアのユダヤ人』人文書院 国会図書館電子図書館 http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html#denshi 国会図書館デジタルコレクション http://dl.ndl.go.jp/ 「本の街」神田神保町オフィシャルサイト http://jimbou.info ホロコーストの犠牲者データベース https://yvng.yadvashem.org/	
課題に対するフィードバックの方法 優秀なレポートについては、授業中に取り上げる。	
成績評価の方法 年3回のレポート(必修)(30%)と試験(70%)で評価する。	
その他 レポート等でコピーペーストは厳禁、3回のレポートの提出期限を守ること	

科目ナンバー：(PE) SOC311J	
現代社会学 A 【2022年度以降入学者】 現代社会学 【2021年度以前入学者※A・Bセット】	2 単位
	3・4 年次
教授 石 川 雅 信	
授業の概要・到達目標 本講義では複雑に変化し、多様化する現代社会の諸相を社会学の視点から分析する。社会学の研究対象は極めて広く、社会現象のほとんどすべてが研究対象になる可能性があるといつて過言ではないが、ここでは下記の「授業内容」に示した項目について、具体的な事例をとりあげながら考察する。到達目標は現実起こる社会現象を社会学的な概念、理論を介して解釈する方法を習得し、社会学の研究手法、思考方法の特質を理解することにある。	
授業内容 第1回 社会学とは—コント、実証主義、社会進化論、文明の三段階説、社会有機体説 第2回 社会・集団・関係—ゲマインシャフト、コミュニティ、第一次集団、大衆、群衆、公衆 第3回 社会学の確立—デュルケム、ヴェーバー、社会学主義、社会的事実、理解社会学、社会的行為 第4回 社会学理論の展開—パーソンズ、機能主義、AGIL図式、マートン、順機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能 第5回 社会調査法の進展—定量分析、定性分析、マリノフスキー、参与観察法、『サンダカン八番娼館』、調査倫理 第6回 社会制度としての家族・婚姻—家族機能、嫡出の原理、世帯、家庭、親族、家族史 第7回 家族・婚姻の多様性—単婚家族、複婚家族、夫方居住、妻方居住、新居住、同類婚、上昇婚、同性婚 第8回 人格発達と家族—社会化、「野生児」、発達課題、新潟児童監禁事件、ジーニー、フロイト、エリクソン、アイデンティティ 第9回 家族の変化—家族機能の縮小、外部化、事実婚、パラサイトシングル、家族難民 第10回 婚姻の変化—晩婚・非婚化、少子化、ライフスタイルの多様化、ロマンティックラブ、恋愛結婚至上主義、「婚活」、夫婦別姓 第11回 危険な場所としての家族—親密性、「家庭内暴力」、児童虐待、ドメスティックバイオレンス、高齢者虐待、加害者の治療 第12回 フェミニズムの登場—第2期フェミニズム、女性学、『第二の性』、『女性の神話』 第13回 ジェンダー研究の成立—性の多様性、LGBT、SOGI、性の二重基準、貧困の女性化、ジェンダーフリー 第14回 復習と重要事項の確認	
履修の注意点 この講義を履修するにあたって、事前に「社会学」「文化人類学」「心理学」などの社会学系科目を履修していることが望ましいが、初学者にも理解しやすいよう授業をすすめる予定である。	
準備学習の内容 シラバスの内容に従って、授業の前に教科書、参考書などの関連箇所を精読し、疑問点、問題点をまとめておく。1時限あたり100分程度の時間をかけて予習復習をすること。	
教科書 特に指定せず。授業の進行に従って、必要な参考文献、資料を紹介する。	
参考書 伊藤公雄他編『はじめて出会う社会学—社会学はカルチャー・ステディ』(有斐閣) 上野千鶴子著『おひとりさまの老後』(法研) 野々山久也編『論点ハンドブック家族社会学』(世界思想社) 宮島喬編『現代社会学』(改訂版) 宮島 喬編 (有斐閣) 山田昌弘『希望格差社会』(筑摩書房)	
課題に対するフィードバックの方法 オーマイジシステム、レポート機能のコメント欄を使って行なう。	
成績評価の方法 学期末におこなう筆記試験、またはレポートの成績80パーセント、授業中におこなう小レポートの成績20パーセントで評価する。	
その他 現代社会学に対して、疑問や問題意識をもった学生の履修を期待する。	

科目ナンバー：(PE) SOC311J	
現代社会学B【2022年度以降入学者】	2単位
現代社会学【2021年度以前入学者※A・Bセット】	3・4年次
教授 石川 雅信	
授業の概要・到達目標 本講義では複雑に変化し、多様化する現代社会の諸相を社会学の視点から分析する。社会学の研究対象は極めて広く、社会現象のほとんどすべてが研究対象になる可能性があるという過言ではないが、ここでは下記の「授業内容」に示した項目について、具体的な事例をとりあげながら考察する。到達目標は現実にかかる社会現象を社会的な概念、理論を介して解釈する方法を習得し、社会学の研究手法、思考方法の特質を理解することにある。	
授業内容 第1回 学校社会—メリトクラシー、脱学校社会、イリイチ、フリースクール、「平凡教育」、「非凡教育」 第2回 職業生活と「会社」—日本型雇用慣行の変化、企業コミットメント、過労死、学卒一括採用、リストラ、働き方改革 第3回 格差の拡大—非正規雇用、派遣社員、フリーター、ニート、ワーキングプア、格差の再生産、「希望格差社会」 第4回 格差の理論—ブルデュー、文化資本、ハビトゥス、ピケティ、『格差と再分配』 第5回 都市と地方の二極化—過疎、過密、人口減少、「限界集落」、「消滅可能性都市」、「田園回帰」、ワーケーション 第6回 高齢者研究の開始—活動理論、離脱理論、エイジズム、ノーマリゼーション 第7回 高齢者とケア—在宅ケア、介護保険制度、老人ホーム、老人福祉施設、社会的ネットワークの再構築、老年文化、回想法 第8回 高齢者と経済—国民年金、第3号被保険者、厚生年金、共済年金、企業年金、個人年金 第9回 高齢者と逸脱—高齢者犯罪、振り込めサギ、婚活サギ、「後妻業」、交通事故 第10回 ターミナルケア—ホスピス、緩和ケア、死の直視、死の変化、尊厳死、安楽死、共同墓、自然葬儀 第11回 新たな社会現象a—ユビキタス社会、インフォデミック、デジタルディバイド、ヴァーチャルコミュニティ、テクノストレス 第12回 新たな社会現象b—グローバルゼーション、ニューエコノミー、移民、難民、国際結婚 第13回 SDGsと現代社会—17の目標、貧困、飢餓、健康、教育、性的平等、環境保全 第14回 復習と重要事項の確認	
履修の注意点 この講義を履修するにあたって、事前に「社会学」「文化人類学」「心理学」などの社会学系科目を履修していることが望ましいが、初学者にも理解しやすいよう授業をすすめる予定である。	
準備学習の内容 シラバスの内容に従って、授業の前に教科書、参考書などの関連箇所を精読し、疑問点、問題点をまとめておく。1時間あたり100分程度の時間をかけて予習復習をすること。	
教科書 特に指定せず。授業の進行に従って、必要な参考文献、資料を紹介する。	
参考書 伊藤公雄他編 『はじめて出会う社会学—社会学はカルチャー・スタディ』（有斐閣） 上野千鶴子著 『おひとりさまの老後』（法研） 野々山久也編 『論点ハンドブック家族社会学』（世界思想社） 宮島喬編 『現代社会学』（改訂版）宮島 喬編（有斐閣） 山田昌弘 『希望格差社会』（筑摩書房）	
課題に対するフィードバックの方法 オーマイジシステム、レポート機能のコメント欄を使って行なう。	
成績評価の方法 学期末におこなう筆記試験、またはレポートの成績80パーセント、授業中におこなう小レポートの成績20パーセントで評価する。	
その他 現代社会に対して、疑問や問題意識をもった学生の履修を期待する。	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
現代社会心理学A【2022年度以降入学者】	2単位
現代社会心理学【2021年度以前入学者※A・Bセット】	3・4年次
講師 樋口 収	
授業の概要・到達目標 社会心理学は人の社会性を支える心の働きについて明らかにする学問である。本講義ではとくに基礎的なメカニズムに焦点をあて概説する。 本講義の到達目標は（1）社会心理学の専門用語を理解すること、（2）社会心理学の研究データを理解できるようになること、（3）その用語を用いて人の社会性について説明できるようになること、である。	
授業内容 第1回 インTRODククション 第2回 長期記憶 第3回 短期記憶 第4回 注意 第5回 感情 第6回 感情予測 第7回 態度 第8回 自尊心 第9回 自己制御① 第10回 自己制御② 第11回 社会心理学実験の体験 第12回 自己中心性 第13回 身体性認知 第14回 まとめ	
履修の注意点 講義中の私語は厳禁である。また初回の講義に課外学習などについても説明をするので「必ず」参加すること。どうしても出席できない場合には「事前」に樋口まで「理由を含めて」連絡をすること（email: ohgc29[at]meiji.ac.jp: [at]は@にする）。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて変更することもある。	
準備学習の内容 各回の最後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読すること。	
教科書 使用しない。	
参考書 『社会心理学』池田謙一他（著）（有斐閣）2010年 『進化と感情から解き明かす社会心理学』北村英哉・大坪庸介（著）（有斐閣）2012年	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meiji システムを通じておこなう。	
成績評価の方法 授業への参加度（20%）、期末試験（80%）	
その他 この講義の資料はWeb上にあげるのので、各自が印刷して講義に参加すること（具体的な場所については、初回のガイダンスで説明する）。 また、この講義では講義内あるいは講義外で社会心理学の実験を実施する予定である。参加は任意であるが、必ず良い経験になるので、興味をもって参加して欲しい。	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
現代社会心理学B【2022年度以降入学者】	2単位
現代社会心理学【2021年度以前入学者※A・Bセット】	3・4年次
講師 樋口 収	
授業の概要・到達目標 社会心理学は人の社会性を支える心理的基盤について明らかにする学問である。本講義では他者の存在によって、個人の思考や感情がどのように影響されるかについて概説する。 本講義の到達目標は（1）社会心理学の専門用語を理解すること、（2）社会心理学の研究データを理解できるようになること、（3）その用語を用いて人の社会性について説明できるようになること、である。	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 選択におけるバイアス① 第3回 選択におけるバイアス② 第4回 社会的影響① 第5回 社会的影響② 第6回 社会的影響③ 第7回 偏見① 第8回 偏見② 第9回 社会心理学実験の体験 第10回 心の進化 第11回 感情② 第12回 偏見③ 第13回 偏見④ 第14回 まとめ	
履修の注意点 講義中の私語は厳禁である。また初回の講義に課外学習などについても説明をするので「必ず」参加すること。どうしても出席できない場合には「事前」に樋口まで「理由を含めて」連絡をすること（email: ohgc29[at]meiji.ac.jp: [at]は@にする）。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて変更することもある。	
準備学習の内容 各回の最後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読すること。	
教科書 使用しない。	
参考書 『社会心理学』池田謙一他（著）（有斐閣）2010年 『進化と感情から解き明かす社会心理学』北村英哉・大坪庸介（著）（有斐閣）2012年	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meiji システムを通じておこなう。	
成績評価の方法 授業への参加度（20%）、期末試験（80%）	
その他 この講義の資料はWeb上にあげるのので、各自が印刷して講義に参加すること（具体的な場所については、初回のガイダンスで説明する）。 また、この講義では講義内あるいは講義外で社会心理学の実験を実施する予定である。参加は任意であるが、必ず良い経験になるので、興味をもって参加して欲しい。	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
産業心理学	2単位
	3・4年次
准教授 荒木 淳子	
授業の概要・到達目標 産業心理学は、産業や組織における人びとの行動や心理過程を明らかにしようとする学問領域であり、私たちのこれからの仕事や働き方を考える上で参考になる知見を多く提供しています。最近では、産業・組織心理学とも言われ、組織行動や人的資源管理などの学問領域とも密接に関わっています。 授業では、具体的な企業事例や事象を取り上げながらこれまでの産業心理学の諸理論や考え方を紹介し、私たちのこれからの仕事や働き方、産業組織のあり方について考えます。 到達目標は、（1）産業心理学の諸概念を理解し自分の言葉で説明できること、（2）それらを用いて組織が直面する課題について考察し、改善策を考えられるようになること、（3）自らの働き方やキャリアについて考え、展望を持てるようになることです。	
授業内容 第1回目 aのみ：イントロダクション 第2回目 モチベーション（1）内容理論 第3回目 モチベーション（2）過程理論 第4回目 リーダーシップ（1）特性、行動 第5回目 リーダーシップ（2）相互作用 第6回目 キャリア形成（1）キャリア形成 第7回目 キャリア形成（2）職場での学習 第8回目 組織と個人（1）心理的契約 第9回目 組織と個人（2）コミットメント 第10回目 人的資源管理（1）採用・雇用管理 第11回目 人的資源管理（2）人事評価・処遇 第12回目 働きがいと働きやすさ 第13回目 職場の多様性 第14回目 新しい時代の組織と働き方を考える	
履修の注意点 私語は固く禁じます。授業への積極的な参加を期待します。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて前後することもあります。毎回授業後に小テストとリアクションペーパーを提出して頂きます。小テスト・リアクションペーパーはOh-ol Meijiを通じて期日までに提出して下さい。	
準備学習の内容 授業後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読してください。	
教科書 使用しない	
参考書 『産業・組織心理学を学ぶ』金井篤子ほか（北大路書房）2019年 『産業・組織心理学エッセンシャルズ第4版』外島裕監修・田中堅一郎編（ナカニシヤ出版）2019年	
課題に対するフィードバックの方法 小テストは毎回正解を伝えて自己採点できるようにする。 リアクションペーパーは優れたものを授業で紹介しクラスで共有する。	
成績評価の方法 授業への参加度（10%）小テスト（40%）期末試験（50%）	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
消費心理学	2単位
	3・4年次
准教授 荒木 淳子	
授業の概要・到達目標 消費心理学では、消費者が購買に至るまでの過程や行動を明らかにしようとする消費者行動論、消費者の購買に影響を与える心理的要因を明らかにしようとする消費者心理学、また、企業のマーケティング戦略など幅広い学問領域を扱います。 授業では、具体的な企業事例や事象を取り上げながら、私たちの消費生活や今後の消費社会のあり方について考えます。 到達目標は、(1) 消費者行動や購買意思決定過程などの諸概念を理解し自分の言葉で説明できること、(2) それらを用いて企業や社会が直面する課題について考察し、改善策を考えられるようになること、(3) 賢い消費者として持続可能な社会の実現を考えられるようになることです。	
授業内容 第1回目 aのみ：イントロダクション 第2回目 消費者行動とマーケティング 第3回目 消費者の購買意思決定過程 第4回目 消費者への説得過程 第5回目 日常生活と消費者心理 第6回目 ブランドと消費者心理 第7回目 消費者行動の規定要因(1) 個人差要因 第8回目 消費者行動の規定要因(2) 状況要因 第9回目 消費者行動の規定要因(3) 社会的影響 第10回目 消費者の関与 カスタマーエンゲイジメント 第11回目 マーケティング調査の方法(1) 量的調査の手法 第12回目 マーケティング調査の方法(2) 質的調査の手法 第13回目 消費社会と消費者心理(1) 消費者問題と消費者保護 第14回目 消費社会と消費者心理(2) これからの消費を考える	
履修の注意点 私語は固く禁じます。授業への積極的な参加を期待します。なお、授業の順番は、受講生の理解度に応じて前後することもあります。毎回授業後に小テストとリアクションペーパーを提出して頂きます。小テスト・リアクションペーパーはOh-of Meijiを通じて期日までに提出して下さい。	
準備学習の内容 授業後に参考文献を複数提示するので、興味のあるものを精読してください。	
教科書 使用しない	
参考書 『消費者行動論－マーケティングとブランド構築への応用』青木幸弘ほか(有斐閣)2012年 『消費者心理学』山田一成・池内裕美(勁草書房)2018年	
課題に対するフィードバックの方法 小テストは毎回正解を伝えて自己採点できるようにする。 リアクションペーパーは優れたものを授業で紹介しクラスで共有する。	
成績評価の方法 授業への参加度(10%) 小テスト(40%) 期末試験(50%)	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) SOC351J	
社会調査法	2単位
	3・4年次
講師 碓 陽子	
授業の概要・到達目標 本授業では、社会調査のうち、人類学や社会学の調査で主に行う「質的調査」を扱う。「質的」であるとは、調査結果を数量データに落とし込むのではなく、文章で表現できる意味内容として理解することである。「質的調査」の中でも、特に、現場で調査対象と関係を取り結びながらデータを集めるアプローチとしてのフィールドワークの手法に焦点を当てる。フィールドワークの技法には、フィールドワーク調査から論文や報告書などの形でのアウトプットまでの「型」がある。その技法とは、例えば、実際にデータを取る(写真を撮る、聞き取りをする、参与観察をする、フィールドノートをつけるなど)、問いを立てる、研究計画を立てる、質的データを分析する、論文を書くなど、調査についての考え方や基本的な技術を身につけることである。「型」を習得するためには実際にフィールドワークに行ってみるしかないのだが、本授業では、フィールドワークに出て困らないようにある程度の技法を学んでおいてほしい。	
学生にとっては、フィールドワーク調査や、調査をもとに論文を書くことなどは、なかなかイメージがしづらいようだ。だから、授業ではいくつかの質的調査をもとにして書かれた民族誌や報告書などの紹介もまじえながら、フィールドワークとは何なのかを理解することから始める。また、決められたテーマについて、個人で写真観察したり、フィールドノートをつける練習なども行う。この授業を通して、フィールドワークの技術だけでなく、現場から見える世界、そして、人間の生きている現実をいかに描き、他者を理解するとはいかなることか、ということまで考えて欲しい。	
※グループワークを何回かする予定ですが、前年度の授業までのようにグループでフィールドワークをしてもらうことは求めない予定です。	
授業内容 第1回 質的調査とは何か：量的調査との違いから 第2回 いろいろな質的調査の紹介 第3回 写真観察の説明 第4回 写真でフィールドワーク(グループワーク) 第5回 写真でフィールドワーク(報告) 第6回 写真でフィールドワーク(報告) 第7回 聞き取り調査とは 第8回 いろいろな質的調査の紹介/研究計画書の書き方(中間課題) 第9回 いろいろな質的調査の紹介/参与観察とは 第10回 参与観察(個人で参与観察) 第11回 報告 第12回 報告 第13回 質的なデータを分析する 第14回 調査の倫理と責任、講義のまとめ(期末課題)	
※授業計画は予定ですので、変更することもあります。	
履修の注意点 ・この授業を履修するにあたって、1・2年次に「社会学」や「文化人類学」などの科目を履修していることが望ましい。 ・授業で実際にデータを取ってくることや(写真を撮る、フィールドノートをつける、インタビューをする)、授業中に報告するなど、学生自身が行う作業があります。また、事前に課題が出た場合は取り組むこと。	
準備学習の内容 ・個人で実際にデータを取ってくることを課題に出す回がある ・次回の授業のための課題文献が出た場合は、事前に資料を読んでおくこと。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 小田博志(2010)『エスノグラフィー入門：〈現場〉を質的研究する』春秋社、市野澤潤平・碓陽子・東賢太郎編著(2021)『観光人類学のフィールドワーク：ツーリズム現場の質的調査入門』ミネルヴァ書房など。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 中間課題：30%、期末課題：40%、平常点：30%で評価をつけます。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) SOC351J	
フィールドワーク論	2単位
	3・4年次
講師 碓 陽 子	
授業の概要・到達目標 本授業は、近年、人類学などを中心として展開されているケアの議論について整理し、理解することを目的としている。ケアというと、介護や看護、または、家事労働に関わると考えられがちで、しかも、それらは愛情や思いやりに結びつけられて理解されてきた。しかし、本授業では、それだけに関わる議論ではなく、より広くケアとは何かについて考える。本授業では、私たちは誰でも人やものに依存しながら生きていく「弱き」存在であることを認識することからスタートする。そしてまた、ケアを、例えば、ご飯を作る、掃除・洗濯をするなどの行為に始まり、困っている相手に配慮する、必要な人に介入する、助ける、状況を判断し何かを選択するなど、私たちが生きている限り不可欠な実践として理解する。つまり、ケアは、日常生活をより善いものにしていくための「他者」とともにある実践と言えるかもしれない。とはいえ、リベラルな社会においては、自律した個人が、自分の責任のもとで自由に「選択」することが良いことだとされている。そして、他者とともにあるケアの実践は、しばしば自由な「選択」と対立することが多いのだ。こうしたことを踏まえ、授業では、人類学や社会学、政治学を中心としたケアや管理／統治の議論を紹介し、またさまざまな事例を取りあげる。そして、それらをケアという視点から捉えていきたい。ケアについて考えることは、私たちがこれからどう生きていくのがよいのかの一つの指針になるだろう。(キーワード：文化人類学、ケア、フェミニズム)	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 ケアとは何か?：フェミニズムとケア労働 第3回 ケアとは何か?：ケアの倫理 第3回 ケアとは何か?：ギリガン以降のケア論 第4回 管理と統治：フーコー 第5回 管理と統治：フーコー 第6回 選択のロジック：アネモリー・モルのケア論 第7回 ケアのロジック：アネモリー・モルのケア論 第8回 デヴィッド・グレーバーの議論におけるケア 第9回 デヴィッド・グレーバーの議論におけるケア 第10回 人類学におけるケア論の現在 第11回 他者へのケア／管理：一夫多妻制、ポリアモリー 第12回 他者へのケア／管理：一夫多妻制、ポリアモリー 第13回 環境、非人間へのケア 第14回 まとめ ※授業計画は予定なので変更する可能性もあります。	
履修の注意点 この講義を履修するにあたって、1、2年次に「文化人類学」などの科目を履修していることが望ましい。	
準備学習の内容 課題文献を読んでくること。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 松嶋健 (2019)「ケアと共同性：個人主義を超えて」『文化人類学の思考法』松村圭一郎他編、世界思想社。 アネモリー・モル (2020)『ケアのロジック—選択は患者のためになるか』田口陽子・浜田明範訳、水声社。 デヴィッド・グレーバー (2017)『官僚制のユートピア：テクノロジー、構造的愚かさ、リベラリズムの鉄則』酒井隆史訳、以文社。 デヴィッド・グレーバー (2020)『ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事の理論』酒井隆史他訳、岩波書店。 他にも授業中にお伝えします。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点 (30%)、期末試験 (70%)。 平常点は、毎授業後のリアクションペーパーをもとに付けます。	
その他 特になし。 〈KD〉	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
比較社会学	4 単位
	3・4 年次
教授 加藤 彰彦	
授業の概要・到達目標 《汝自身の社会を知れ——比較社会学的観点から日本社会論を展開する》 政治学・経済学が法、行政、議会、市場、産業、財政などの明文化された制度を主な研究対象とするのに対して、社会学はそれらを土台として支えている様々な社会集団 (population, sub-populations) の特性を、家族と共同体、世代とジェンダー、社会階層とエスニシティ、宗教と価値観・世界観など、慣習・文化に基づく社会構造に注目しながら、観察・記述・分析する。 比較社会学は、各時代・各地域の様々な社会構造——社会集団の構成原理および再生産の原理——を、歴史的比較 (時代と世代) と地理的比較 (地域と異文化) により、明らかにする学問である。 本講義では、以上のような意味での日本の社会・文化の特徴と個性を、国内の歴史的比較と地域間比較 (→第Ⅰ部)、グローバルな諸世界との異文化間比較と国際比較 (→第Ⅱ部) を通じて明らかにしながら、等身大の日本像・世界像を提示していく。 幕末から1世紀半続いた人口増加の時代は終わりを遂げ、これから本格的な人口減少時代がはじまる。現代日本社会が抱える問題のほとんどは、成長の時代から縮小の時代への転換ともなっていて生じているといっても過言ではない (→第Ⅲ部)。21世紀日本の諸課題について、幻想に囚われることなく考え抜くための知的基盤と、はっきりとした時代の見晴らしを獲得することが目標である。	
授業内容 【第Ⅰ部 日本人とは何者か——日本社会の変化・連続性・地域性】 第1回 第1章 日本人と日本文化の起源と歴史 第2回 第2章 徳川日本の家族・人口・社会・国家 第3回 第3章 社会と文化の基層構造 (1) 家族と共同体 第4回 第3章 社会と文化の基層構造 (2) 東北日本 第5回 第3章 社会と文化の基層構造 (3) 西南日本 第6回 第3章 社会と文化の基層構造 (4) 中央日本 第7回 第4章 宗教・死生観・世界観 (1) この世とあの世/生と死の循環構造 第8回 第4章 宗教・死生観・世界観 (2) 稲作文化と循環再生の世界観 第9回 第5章 近代化と社会変動 (1) 明治維新と国民国家の構築 第10回 第5章 近代化と社会変動 (2) 高度成長と〈家族・企業・国家〉の戦後体制 第11回 第5章 近代化と社会変動 (3) バブル経済・平成不況・社会の劣化 第12回 第6章 少子化・人口減少のメカニズム 第13回 第7章 家族・人口・社会の再生産 第14回 中間考察 【第Ⅱ部 世界の諸文明の社会構造を知ることを通じて、日本人の社会文化的個性を理解する】 第15回 第8章 中華世界 なぜ統合と分裂の歴史をくり返してきたのか 第16回 第9章 インド世界 民族的にすこぶる多様で、かつ諸王国分立時代が長かったにもかかわらず、なぜひとつの世界としての統合を維持できたのか 第17回 第10章 イスラーム世界 (1) なぜかくも徹底的な唯一神教なのか 第18回 第10章 イスラーム世界 (2) イスラームの共生の諸原理 第19回 第11章 近代以前のヨーロッパ世界 (1) なぜキリスト教を受け入れたのか 第20回 第11章 近代以前のヨーロッパ世界 (2) 多数中心的構造と世界統合の困難性 第21回 第12章 世界の近代化 (1) 征服の時代/世界の囲い込み 第22回 第12章 世界の近代化 (2) 近代世界システムの拡大と国民国家体制の成立 第23回 第13章 近代化の帰結 (1) 植民地主義・市場主義・環境破壊 第24回 第13章 近代化の帰結 (2) 資源・エネルギー、そして知識の囲い込み 【第Ⅲ部 結論：将来展望・将来構想】 第25回 第14章 グローバル化の限界/世界の有限性 第26回 第15章 ローカル化の可能性Ⅰ (1) 地産地消する分散型社会・分権型国家 第27回 第15章 ローカル化の可能性Ⅰ (2) 無子化・超高齢化・若者人口急減の日本 第28回 第16章 ローカル化の可能性Ⅱ 持続可能な家族・世代・共同体を取り戻す	
履修の注意点 講義は、図版、歴史地図、統計地図、ドキュメンタリー映像などの視覚資料を活用しながら、パワーポイントを使って進める。細かい知識を得るというよりも、大きな構図を理解するように心がけてほしい。 受講者からリアクションペーパーにより質問・意見を聴取して返答・コメントするとともに、補足説明を行う。	
準備学習の内容 予習の必要はなく、復習を推奨する。講義内容は多岐にわたるが、明確なストーリーのもとに構成されているので、講義を聴きながら、配付資料 (プリントアウトすることを推奨) にメモを取り、後にこれを見ながら頭の整理を行うと効果的である。また、疑問点や興味を惹いた論点を文献やWebで調べ、解釈を加えて、ストーリーの展開を試みると、自力で考える力を養うことができる。なお、オンデマンドの講義ビデオも提供する。	
教科書 教科書は使用せず、毎回パワーポイントのハンドアウトを配布する。	
参考書 加藤彰彦・戸石七生・林研三編著 『家と共同性』 (比較家族史学会監修・家族研究の最前線①) 日本経済評論社 2016年 平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編 『出会いと結婚』 (比較家族史学会監修・家族研究の最前線②) 日本経済評論社 2017年 Akihiko Kato, The Japanese Family System: Change, Continuity, and Regionality in the Long Twentieth Century, Springer, 2021. その他多数におよぶので、授業を進めるなかで、各章ごとに文献を紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 期末レポートを基本とし、質疑カードにより加点して評価する。授業の進め方および成績評価の詳細は、初回にオリエンテーションを行って説明する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
民俗学 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
民俗学 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
兼任講師 執行 一 利	
授業の概要・到達目標 私たち日本人の文化や社会の成り立ちを改めて考えてみる機会を持ちたい。普段私たちが「当たり前」と思っていることにも、何らかの意味があり、そしてその背景も探ってみる必要があるのではないだろうか。 日本の民俗文化や社会を理解する手がかりを学ぶことを目標とする。	
授業内容 第1回目：aのみ、イントロダクション 第2回目：民俗学のはじまり、柳田国男論 第3回目：境界の時間と場所 第4回目：ケガレと両義性 第5回目：オニ、マレビト、異人 第6回目：時間の民俗1 第7回目：時間の民俗2 第8回目：「非常民」の文化 第9回目：日本の神話、殺された女神 第10回目：シャーマニズム、呪術 第11回目：日本人はどこから来たか、民族学的見地 第12回目：日本の地域性1 第13回目：日本の地域性2 第14回目：まとめ	
履修の注意点 日本の文化や社会に関心を持つこと。	
準備学習の内容 授業時に指示する参考書をよく読むこと。	
教科書 教科書は用いない。	
参考書 『はじめて学ぶ民俗学』市川秀之他著（ミネルヴァ書房）、ほか授業時に多数紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度およびレポート（30%）、期末試験（70%）	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
民俗学 B 【2022年度以降入学者】	2 単位
日本民俗社会論 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
兼任講師 執行 一 利	
授業の概要・到達目標 日本の民俗社会の特質について学ぶ。婚姻、家族・親族、村落構造に焦点を当てて、日本の社会構造を探っていききたい。その際、文化人類学的手法も取り入れながら作業を行っていく予定。 日本の社会構造を理解する手がかりを学ぶことを目標とする。	
授業内容 第1回目：aのみ、イントロダクション 第2回目：家族論 第3回目：核家族普遍説について 第4回目：日本の家族1、統計から見る家族 第5回目：日本の家族2、親子関係を強調する家族 第6回目：日本の家族3：夫婦関係を強調する家族 第7回目：村落構造1、村落構造の地域性 第8回目：村落構造2、村落形態 第9回目：村落構造3、同族型村落と年齢階梯制村落 第10回目：村落構造4、近畿地方と関東地方の村落 第11回目：日本の婚姻1 第12回目：日本の婚姻2 第13回目：日本の婚姻3 第14回目：まとめ	
履修の注意点 日本の文化や社会に関心を持つこと。	
準備学習の内容 授業時に指示する参考書をよく読むこと。	
教科書 教科書は用いない。	
参考書 『日本人の生活構造序説』蒲生正男著（ペリカン社）ほか	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度およびレポート（30%）、期末試験（70%）	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
社会人類学 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
民族学 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
准教授 (文) 山 田 亨	
授業の概要・到達目標 本科目では民族学的な視点からグローバル化を議論することで、日本を含めた世界的な言語文化の変容と相関関係と学びながら、文化外交の基礎力と応用力を身につけることを目標とする。	
授業内容 1. グローバリゼーションとは 2. グローバリゼーションの社会科学的アプローチ 3. 文化の脱文脈化 4. 文化の抽象化 5. 加速化 6. 時空の圧縮 7. 画一化 8. モダニティ 9. アイデンティティ・ポリティクス 10. 相互依存 11. 文化の翻訳 12. 越境 13. ツーリズム 14. まとめ・ディスカッション	
履修の注意点 特になし。	
準備学習の内容 Oh-of Meijiに掲載されている課題を毎週授業前までに予習しておくこと。	
教科書 Eriksen, Thomas Hylland (2014) Globalization : The Key Concepts. Bloomsbury. *また、別途Oh-of Meiji上で随時提供する。	
参考書 Oh-of Meiji上で随時提供する。	
課題に対するフィードバックの方法 レポートについては、Oh-of Meijiおよび授業中で開設を提供する。また、Oh-of Meijiの出欠アンケートのコメント機能も活用してください。	
成績評価の方法 授業への参加度 (20%)、ディスカッション (30%)、レポート (50%) から総合的に評価する。	
その他 講義言語は基本的に日本語ですが、教材を中心に英語を織り交ぜます。しかし、本授業では言語運用能力は自信がなくても大丈夫。授業・課題への取り組みの積極性を重んじます。	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
社会人類学 B 【2022年度以降入学者】	2 単位
社会人類学 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
准教授 (文) 山 田 亨	
授業の概要・到達目標 本授業では、人類学との隣接分野とのつながりを理解しながら、グローバル社会化を議論することで、各文化・社会の変容と相関関係と学びながら、批判的思考力を身につけることを目標とする。	
授業内容 1. 人類学とは 2. 人類学的アプローチ 3. 文化の融合1：議論と理論 4. ハイブリッド・クレオール化 5. 文化の融合2：演習 6. リスクと危機概念1：環境的側面 7. リスクと危機概念2：社会文化的側面 8. アイデンティティ 9. アイデンティティとディアスポラ 10. ナショナリズム 11. グローバリズム 12. ナショナリズムと抽象化 13. 反グローバリゼーション 14. まとめ・ディスカッション	
履修の注意点 特になし。	
準備学習の内容 Oh-of Meijiに掲載されている課題を毎週授業前までに予習しておくこと。	
教科書 Eriksen, Thomas Hylland (2014) Globalization : The Key Concepts. Bloomsbury. *また、別途Oh-of Meiji上で随時提供する。	
参考書 Oh-of Meiji上で随時提供する。	
課題に対するフィードバックの方法 レポートについては、Oh-of Meijiおよび授業中で開設を提供する。また、Oh-of Meijiの出欠アンケートのコメント機能も活用してください。	
成績評価の方法 授業への参加度 (20%)、ディスカッション (30%)、レポート (50%) から総合的に評価する。	
その他 講義言語は基本的に日本語ですが、教材を中心に英語を織り交ぜます。しかし、本授業では言語運用能力は自信がなくても大丈夫。授業・課題への取り組みの積極性を重んじます。	

科目ナンバー：(PE) LAW391J	
国際法 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
国際法 【2021年度以前入学者※A・Bセット】	3・4 年次
兼任講師 立 松 美也子	
授業の概要・到達目標 国際法は、主として国家間の関係を規律するルールであるが、国際社会の分権性という特徴のため、必ずしも法の執行や遵守は国内法ほど行われないことがある。ウクライナへのロシアの侵攻やパレスチナ情勢をみれば、国際法を学ぶことに意味が見いだせないかもしれない。しかし、長らく、国際社会、特に国家間関係では共通言語としての国際法が意識して利用されてきた。このことを考えれば、国際法の知見は紛争解決の一端を担うことを間違いない。本講義では、国際法の総論部分を取り扱う。 国際法主体の国家、国際法の存在形態、条約法が中心分野となる。 国際法を体系的に学習し、国際社会において果たす機能を理解することを目的とする。 最終的に学習した国際法理論を用いて、国際的な事象を自らの言葉で解説し、議論できることが到達目標である。	
授業内容 第1回目 インTRODクダクシヨ ン 条約集の使い方 第2回目 国際社会と国際法 第3回目 国家の成立要件と国家変動（国家承継） 第4回目 国家の国際法上の権利義務 第5回目 国家の管轄権 第6回目 国家免除 第7回目 外交関係の国際法 第8回目 領事関係の国際法 第9回目 国際法の存在形態 その1 条約 第10回目 同 その2 慣習国際法 第11回目 同 その3 その他の国際法の法源 第12回目 条約法 締結手続 第13回目 同 留保・条約の効力 解釈・条約の終了 第14回目 総括	
履修の注意点 岩澤雄司『国際条約集 2024年版』（有斐閣）を講義の際に使用する。 他の出版年のものや他の出版社の条約集でも問題はないが、自分で使える様にしてほしい。講師は有斐閣の条約集で条文について指示する。	
準備学習の内容 事前に教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容についてのイメージを持つ。また、日頃から新聞の国際面に興味を持ってほしい。（新聞に限らず、ニュースでも良い。）	
教科書 岩澤雄司『国際条約集 2024年版』（有斐閣） 中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良著 『アルマ国際法 第4版』（有斐閣） 第5版が出版予定である。	
参考書 体系書 岩澤雄司 著 『国際法 第2版』 東大出版会 2023年 浅田正彦 編 『国際法』 東信堂 第5版 2019年 柳原正治 他 『ブラクティス国際法講義』 信山社 4版 2022年 判例集 小寺彰ほか 編 別冊ジュリスト 204号 『国際法判例百選』有斐閣 2版 2011年 杉原高嶺・酒井啓巨 編 『国際法基本判例50』三省堂、2版 2014年 松井芳郎 編 『判例国際法』東信堂 2版 2006年 辞典 国際法学会編 『国際関係法辞典』三省堂 2版 2005年 国際法関連サイト 国際法学会 https://jsil.jp/ 国際連合 https://www.un.org/en （英語 他、国連公用語もあり） 国際司法裁判所 https://www.icj-cij.org/en （英語 他、国連公用語もあり）	
課題に対するフィードバックの方法 小テストについては、実施した翌週に開設を講義の冒頭で実施する。 質問などについては、小テストに記載する方法、リアクションペーパーへの記載を求め、翌週に対応する。	
成績評価の方法 履修人数によるが、出席クイズ（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。（対面講義の場合） オンデマンド型または試験をオンラインで実施する場合には別途検討する。	
その他 その他 講義を単に聴く、見るだけではなく、自らノートを取り、条約集を確認するなど能動的な参加をお願いします。	

科目ナンバー：(PE) LAW391J	
国際法 B 【2022年度以降入学者】	2 単位
国際法 【2021年度以前入学者※A・Bセット】	3・4 年次
兼任講師 立 松 美也子	
授業の概要・到達目標 国際法は、主として国家間の関係を規律するルールであるが、国際社会の分権性という特徴のため、必ずしも法の執行や遵守は国内法ほど行われないことがある。ウクライナへのロシアの侵攻やパレスチナ情勢をみれば、国際法を学ぶことに意味が見いだせないかもしれない。しかし、長らく、国際社会、特に国家間関係では共通言語としての国際法が意識して利用されてきた。このことを考えれば、国際法の知見は紛争解決の一端を担うことを間違いない。本講義では、国際法の各論部分を取り扱う。 国際法を体系的に学習し、国際社会において果たす機能を理解することを目的とする。 最終的に学習した国際法理論を用いて、国際的な事象を自らの言葉で解説し、議論できることが到達目標である。	
授業内容 第1回目 インTRODクダクシヨ ン 条約集の使い方 第2回目 国際法上の責任 第3回目 陸の国際法 極地 第4回目 海の国際法 その1 第5回目 海の国際法 その2 第6回目 空と宇宙の国際法 第7回目 人と国際法 第8回目 国際刑事法 第9回目 国際環境法 第10回目 紛争の平和的解決 その1 第11回目 同 その2 第12回目 武力行使と国際法 第13回目 武力紛争法 第14回目 学期末試験	
履修の注意点 岩澤雄司『国際条約集 2024年版』（有斐閣）を講義の際に使用する。 他の出版年のものや他の出版社の条約集でも問題はないが、自分で使える様にしてほしい。講師は有斐閣の条約集で条文について指示する。	
準備学習の内容 事前に教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容についてのイメージを持つ。また、日頃から新聞の国際面に興味を持ってほしい。（新聞に限らず、ニュースでも良い。）	
教科書 岩澤雄司『国際条約集 2024年版』（有斐閣） 中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良著 『アルマ国際法 第4版』（有斐閣） 第5版が出版予定である。	
参考書 体系書 岩澤雄司 著 『国際法 第2版』 東大出版会 2023年 浅田正彦 編 『国際法』 東信堂 第5版 2019年 柳原正治 他 『ブラクティス国際法講義』 信山社 4版 2022年 判例集 小寺彰ほか 編 別冊ジュリスト 204号 『国際法判例百選』有斐閣 2版 2011年 杉原高嶺・酒井啓巨 編 『国際法基本判例50』三省堂、2版 2014年 松井芳郎 編 『判例国際法』東信堂 2版 2006年 辞典 国際法学会編 『国際関係法辞典』三省堂 2版 2005年 国際法関連サイト 国際法学会 https://jsil.jp/ 国際連合 https://www.un.org/en （英語 他、国連公用語もあり） 国際司法裁判所 https://www.icj-cij.org/en （英語 他、国連公用語もあり）	
課題に対するフィードバックの方法 小テストについては、実施した翌週に開設を講義の冒頭で実施する。 質問などについては、小テストに記載する方法、リアクションペーパーへの記載を求め、翌週に対応する。	
成績評価の方法 履修人数によるが、出席クイズ（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。（対面講義の場合） オンデマンド型または試験をオンラインで実施する場合には別途検討する。	
その他 その他 講義を単に聴く、見るだけではなく、自らノートを取り、条約集を確認するなど能動的な参加をお願いします。	

科目ナンバー：(PE) LAW391J	
行政法	4 単位
	3・4 年次
教授（法） 下 川 環	
授業の概要・到達目標 高度情報化社会の急速な発展、地球的規模での環境問題の深刻化、少子高齢社会の到来、格差社会の進行、高度な生命科学の発達、エネルギーの原発依存など、次々と生起する複雑かつ深刻な現代的課題に対し、行政機関は、広範な専門技術的裁量権を行使して迅速に対応する必要性に迫られている。行政法の核心は、「国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）であるという憲法原理を基本として、このような問題を抱える現代社会における行政の役割の重大性の認識の下に、行政機関による裁量権の適正な行使を確保し、民主的かつ公正・透明で国民に対して責任のとれる行政を実現するためには行政の過程をどのように統制すべきか、その統制の法理論を探究することにあると考える。 かかる観点に立って、本講義は、第1部では「憲法理念と行政・行政法」のテーマの下に、権力分立制と行政権、憲法理念の転換と現代行政の特質、行政裁判法制度の歴史と公法・私法、行政事件と民事事件について、第2部では「民主的責任行政の法的過程と透明性・アカウンタビリティ」のテーマの下に、情報公開・公文書管理、行政立法、行政計画、行政手続（行政処分手続、行政不服審査手続）について、具体的な事例と関連づけながらその基本的な仕組みを理解したうえで、その争点に関する（最高裁判例を中心とする）判例及び学説の検討を通じて、行政法の基礎理論及び行政法上の問題を解決する能力の修得を到達目標とする。	
授業内容 第01回 a：イントロダクション b：「憲法は減び、行政法は存続する」？ 【第1部】 憲法理念と行政法 第02回：憲法理念と行政 第03回：憲法理念と行政法—行政国家と行政法（1） 第04回：憲法理念と行政法—行政国家と行政法（2） 第05回：憲法理念と行政法—司法国家と行政法（1） 第06回：憲法理念と行政法—司法国家と行政法（2） 第07回：憲法理念と行政法—司法国家と行政法（3） 第08回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（1） 第09回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（2） 第10回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（3） 第11回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（4） 第12回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（5） 【第2部】 民主的責任行政の法的過程 第13回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（1） 第14回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（2） 第15回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（1） 第16回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（2） 第17回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（3） 第18回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（4） 第19回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と計画策定：行政計画 第20回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政行為と行政処分 第21回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政処分手続（1） 第22回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政処分手続（2） 第23回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政処分手続（3） 第24回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政処分手続（4） 第25回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政不服審査手続（1） 第26回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政不服審査手続（2） 第27回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政不服審査手続（3） 第28回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と手続：行政不服審査手続（4） *講義の内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 開講前にOh-olMeijiクラスウェブにおいて、スケジュール、講義の概要、履修上のマナー・ルールを公開しておきますので、必ず見ておいて下さい。また、事前にOh-olMeijiクラスウェブにおいて、プリント（講義ノート・資料）を公開しますので、プリント・アウトし、できる限り予習したうえで受講して下さい。	
準備学習の内容 事前にOh-olMeijiクラスウェブにおいて、講義の範囲と内容についてお知らせしておきますので、できる限り予習をしたうえで受講して下さい。また、記憶が新鮮なうちに、ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。	
教科書 一般的な教科書は特に指定しませんが、高橋滋編『Visual Materials（第2版）』（有斐閣、2020年）、判例集としては、斎藤誠・山本隆司編『行政判例百選I・II（第8版）』（有斐閣、2022年）を使用します。	
参考書 特に定めません。	
課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に、全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。	
成績評価の方法 （1）定期試験100点満点（正誤式30問60点、記述式2問40点）で評価します。定期試験では、「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します。 （2）記述式については、10点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には、たとえ得点が60点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので、注意して下さい。	
その他 公務員、行政書士、法科大学院進学などを志望する方は、行政法を必ず修得しておく必要がありますので、是非履修していただきたい。	

科目ナンバー：(PE) ECN311J	
国際経済学	4 単位
	3・4 年次
講師 宮崎 イキサン	
授業の概要・到達目標 <p>今日の世界経済は国境や国の概念から離れ、これまでに無い程に各国の経済が相互に関連し合い成り立っている。国境を越えた財、サービス、人の移動は当たり前になってきており、その潮流を表す「グローバル化」という単語を耳にしない日は無い。しかし、国境そのものの存在は決して無くなったわけではなく、またグローバル化についても、人々や国家間の利害対立が鮮明化している。このような国家間の経済的な繋がりがやその影響をどう理解するか、経済のグローバル化をどのように捉えるべきか。国際経済学はこのような疑問に対して方法論を提供するものである。</p> <p>【講義の目的】 本講義は国際経済学の入門講義であり、その目的は以下の3点を通じて国際金融（国際マクロ経済）と国際貿易に関する基礎を学ぶことである。1 点目は国際金融（国際マクロ経済）と国際貿易を理解する上での基礎的な知識を身に付け、国際経済学における共通言語を学ぶこと。2 点目は国際金融（国際マクロ経済）と国際貿易に関する初歩的な理論やモデルを理解し、そこから得られる示唆を学び取ること。3 点目は理論からの示唆が現実のデータと整合的であるかどうかを踏まえつつ、それらがどのような政策につながるかを理解することである。</p> <p>【講義の到達目標】 本講義は講義中に触れた知識や学術的知見を基に、学生が日項目にする国際経済に関連する問題について、自ら（国際）経済学的な視点から分析できるようになることを目標としている。講義内容と実世界の問題に結び付きを見出し、講義中に学んだ学術的知見やデータに基づいた議論や分析を通じて、現実社会の問題に対する本質的な理解を促すことが理想である。</p>	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨン（講義ガイダンス） 第2回目 そもそもグローバルはどう捉えるべきなのか？ - 国際経済学におけるグローバル化の概念 第3回目 一国の経済状況を把握するにはどうすれば良いのか？ - 国民経済計算から見る一国経済 第4回目 一国の対外取引を把握するにはどうすれば良いのか？ - 国際収支表から見る対外経済 第5回目 為替レートは一つだけじゃない？ - 外国為替の基礎 第6回目 為替レートはどのように決まるのか？（1） - 購買力平価と金利平価 第7回目 為替レートはどのように決まるのか？（2） - マネタリー・モデル 第8回目 為替レートはどのように決まるのか？（3） - ポートフォリオ・バランス・モデル 第9回目 一国の経済政策は、為替レートにどのような影響を与えるのか？ - マンデル・フレミングモデル 第10回目 経済政策の効果は、為替制度によって変わるのか？ - マクロ経済政策の効果 第11回目 通貨危機はなぜ発生するのか？ - 通貨危機の発生メカニズム 第12回目 これまでに発生した主な通貨危機は、どのように発生・波及したのか？ - 通貨危機の波及メカニズム 第13回目 前半のまとめと中間テストについて 第14回目 aモジュール：中間試験、bモジュール：試験の正答解説 第15回目 そもそも何故国家間で貿易が行われるのか？ - 比較優位の基礎と国際貿易 第16回目 何故ある国は車を輸出し、ある国は服飾品を輸出するのか？ - 貿易の利益と比較優位の決定 第17回目 何故同じ車であるトヨタを輸出し、メルセデスを輸入するのか？ - 産業内貿易と製品差別化 第18回目 関税引き上げが大きく騒がれたが、そもそも関税の何が悪いのか？ - 関税、輸入割当と保護貿易 第19回目 関税や割当以外に、政府はどのような貿易制限手段を持っているのか？ - 貿易政策の発展 第20回目 自由貿易が良いのなら、何故貿易自由化を訴える政党が選挙に勝つとは限らないのか？ - 政治活動と貿易政策 第21回目 WTOは役に立っているのか？ - GATT、WTOの歴史と制度 第22回目 港で積み下ろしされるコンテナだけが貿易ではない？ - サービス貿易とICT 第23回目 CPTPP、RECP等々、何故貿易協定が増えてきているのか？ - 地域間貿易協定 第24回目 海外直接投資は、ただ海外の株や債券を買うのと何が違うのか？ - 海外直接投資とM&A 第25回目 外国人労働者は、何故自国以外に労働の機会を求めると？ - 労働力の国際移動 第26回目 貿易理論は現実をどこまで捉えられるようになってきたのか？ - 貿易理論の新たな展開 第27回目 何故国家同士は経済的な繋がりがから利益を得るにも関わらず、依然として紛争が起きるのか？ - 貿易、紛争と経済成長 第28回目 後半のまとめおよび期末テストについて	
履修の注意点 授業はスライド資料を中心に進め、必要に応じて板書をすることもある。授業に用いられるスライドおよび関連資料は事前にOh-of Meijiクラスウェブにアップロードする予定である。	
準備学習の内容 授業内容をより良く理解するため、授業前に資料や参考書などに目を通し、授業後には復習を行うことが望ましい。 必須科目：ミクロ経済学、マクロ経済学 関連科目：国際経済政策、国際金融論、開発経済学、経済政策原論、産業組織論、金融論、金融政策、現代経済政策	
教科書 教科書は特に指定しない、適宜参考書を読むことを勧める。	
参考書 伊東恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』（新世社） 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』（日本経済新聞社） 石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ』（有斐閣） 田中鮎夢『新々貿易理論とは何か 企業の異質性と21世紀の国際経済』 ヘルプマン、E『グローバル貿易の針路をよむ』（文真堂） Krugman, P., M. Obstfeld and M. Melitz, <i>International Economics: Theory and Policy</i> , 10th edition, Pearson Education Limited（和訳あり） Caves, R., J. Frankel and R. Jones, <i>World Trade and Payments: An Introduction</i> , 10th edition, Pearson Education Limited（最新版未訳）	
課題に対するフィードバックの方法 講義において課題が出された場合、課題の提出・評価・フィードバックはOh-of meijiシステム上で行う。 具体的には課題をOh-of meijiクラスウェブの「レポート」欄に公開し、提出もこちらで受け付ける。さらに、Oh-of meijiクラスウェブの「レポート」欄にはコメントやフィードバック機能が付いているので、課題に対するコメントやフィードバックもその機能を利用して行う。 さらなる理解や研究のために必要であれば、オフィスアワーでの対面でのコメントやフィードバックを実施することもある。	
成績評価の方法 中間テスト（50%）および期末テスト（50%）の結果を基に、明治大学の評価・評点基準に沿って成績評価を行う。	
その他 1. 学生には学ぶ権利があり、教員には教える権利がある。これを邪魔する権利は誰にも無い。 2. 授業中はマナーを守り、私語など、その他授業中に不要あるいは授業の妨げになると思われる行為は慎むこと。場合によっては減点あるいは退室・その後受講を認めないなどの措置を取ることがある。 3. 出席なくして授業内容、国際経済学に関する理解と単位認定は不可能に近い。 4. 授業中にノートパソコンあるいはタブレット端末を利用した授業ノートの作成を認めるが、ノート作成以外の用途には使用しないこと。スマートフォンは授業に必要なものではないため、緊急時以外は使用を控えること。 5. 講義内容（講義資料、課題および試験など）をSNSを含むインターネット上に投稿・アップロード・シェアすること禁ずる。	

科目ナンバー：(PE) ECN341J	
現代日本経済論【2022年度以降入学者】	2単位
	3・4年次
教授 飯田 泰之	
授業の概要・到達目標 本講義では、基礎的な経済理論を用いて日本経済を巡る諸論点についてデータによる解説を行う。テーマが多岐にわたるため、適宜参考文献等を参照し、積極的に講義に参加することを期待している。	
授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 経済データの読み方 第3回 国民経済計算の基礎—GDPとは何か 第4回 金融政策の基礎理論 第5回 現代の金融政策 第6回 財政政策の基礎 第7回 日本財政の現状分析 第8回 社会保障制度I：年金 第9回 社会保障制度II：医療・介護・生活保障 第10回 国際経済論の基礎 第11回 国際金融と日本経済 第12回 その他発展的論点I 第13回 その他発展的論点II 第14回 まとめ	
履修の注意点 ミクロ経済学・マクロ経済学を履修していない場合には、講義開始前に『経済学講義』（飯田泰之・ちくま新書）を読んでおいてほしい。	
準備学習の内容 講義中に言及した参考文献には積極的に目を通して欲しい。	
教科書 適宜指示する。	
参考書 適宜指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 レポート提出と評価・コメント。	
成績評価の方法 レポート・期末テストによる。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN341J	
現代日本経済論【2021年度以前入学者】	4単位
	3・4年次
兼任講師 藤原 徹	
授業の概要・到達目標 本講義は、日本経済の現状や抱える諸問題について把握し、その対策を経済学的に考える力を涵養することを目的とする。 統計データを基に日本経済の現状を把握すること、ミクロ経済学・マクロ経済学の分析手法を経済問題に応用する方法を習得することが本講義の到達目標である。	
授業内容 以下を予定している。講義の進捗状況によって、若干の変更はあり得る。また、学修効果を考えて、順序の入れ替えもあり得る。 第1回目 インTRODクダクシヨウ 第2回目 日本経済の全体像を把握する 第3回目 市場メカニズムとミクロの政策 第4回目 マクロの政策分析の基礎(1) IS-LM分析 第5回目 マクロの政策分析の基礎(2) AD-AS分析 第6回目 戦後日本の経済成長 第7回目 景気循環 第8回目 雇用の変動と日本型雇用慣行 第9回目 格差問題 第10回目 産業構造の変化と日本型企业経営 第11回目 物価変動とデフレ問題 第12回目 貿易と国際収支 第13回目 為替レートの変動と日本経済 第14回目 グローバル化のなかの日本経済 第15回目 財政問題 第16回目 金融政策 第17回目 社会保障 第18回目 人口構造の変化と日本経済 第19回目 経済活動の都市への集中の要因 第20回目 日本経済と地域の振興 第21回目 地域間補助の経済学 第22回目 自動車交通と環境問題 第23回目 環境問題と税制 第24回目 政策評価 第25回目 余剰分析と政策評価 第26回目 政策評価の事例 第27回目 空き地空き家問題 第28回目 まとめ	
履修の注意点 必要なミクロ経済学・マクロ経済学については講義中に復習する予定であるが、それでも不足すると感じる場合には、基本的なミクロ経済学・マクロ経済学のテキストを自習されたい。	
準備学習の内容 (予習) 教科書、講義資料の次回講義内容に相当する部分を一読すること。 (復習) 教科書、講義ノート等を精読し、演習を行った際には再度復習すること。また、適宜参考文献や統計資料にあたり、理解を深めること。	
教科書 小峰隆夫、村田啓子 最新 日本経済入門 第6版 日本評論社	
参考書 講義資料にて適宜提示する。	
課題に対するフィードバックの方法 講義時間内に行う演習については次回講義で解説する。	
成績評価の方法 講義時間内の演習(20%)、期末試験(80%)	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN341J	
産業組織論	4 単位
	3・4 年次
教授 浅井 澄子	
授業の概要・到達目標 産業組織論はミクロ経済学を応用して、独占あるいは寡占企業の行動を分析するとともに、市場における弊害を除去するための政策の指針を提供する学問である。換言すれば、産業組織論は応用ミクロ経済学に位置するのみならず、独占禁止法の運用や競争政策の根拠を理論面及び実証面で提示し、理論と現実をつなぐ役割を担っている。ミクロ経済学を使って、現実に行っている問題の分析能力を身につけることが本授業の目標である。 授業では、市場構造や企業行動に関する基本部分を学習するとともに、公益事業論、競争政策と独占禁止法の適用というミクロ経済学の現実への適用についても言及する。また、近年、研究が進んでいるネットワーク産業の一つである情報産業を随時、例として取り上げ、経済理論が企業戦略や政策にどのように適用されているのかについても説明していきたい。	
授業内容 第1回 産業組織論の概要と系譜 第2回 企業の理論 第3回 ミクロ経済学の復習：完全競争市場 第4回 ミクロ経済学の復習：独占市場 第5回 市場構造（1）：市場の画定 市場集中度 第6回 市場構造（2）：合併 第7回 市場構造（3）：参入障壁 第8回 市場構造（4）：製品差別化 第9回 市場成果：余剰 効率性 生産性 利潤率 第10回 寡占市場（1）：クールノー・モデル 第11回 寡占市場（2）：シュタッケルベルク・モデル 第12回 寡占市場（3）：ベルトラン・モデル 第13回 寡占市場（4）：製品差別化の競争 第14回 ゲーム理論 第15回 共謀 第16回 参入阻止行動 第17回 垂直的取引制限 第18回 略奪的価格設定 第19回 非価格競争と広告 第20回 価格戦略 第21回 価格差別化 第22回 技術革新 第23回 標準化と知的財産 第24回 情報の経済学 第25回 公的規制（1）：自然独占と伝統的規制 第26回 公的規制（2）：インセンティブ規制 第27回 ネットワーク産業の競争政策 第28回 独占禁止法の概要と全体のまとめ	
履修の注意点 ミクロ経済学の手法を使って現実の問題を考えていくので、ミクロ経済学を履修していることを前提とする。講義は基本的に板書で行うが、授業後に参考資料をOh-ol Meijiにアップロードするので、復習用に使用してほしい。出欠は取らないが、欠席者は次回の講義までに講義内容を自習しておくこと。また、日頃から新聞を読み、実際の経済事象にも関心を持ってほしい。	
準備学習の内容 アップロードする資料には授業では扱わない練習問題も含まれているので、授業後に復習として各自、解いておくこと。	
教科書 教科書は指定しない。	
参考書 参考書は1回目の講義の際に、それぞれの特徴を含め紹介する。自分に合った参考書を選択し、講義内容の箇所を読み込んでおくこと。 基本的な参考書として以下が挙げられる。 泉田成美・柳川隆（2008）『プラクティカル 産業組織論』、有斐閣アルマ 井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治（2010）『入門・産業組織』、有斐閣 小田切宏之（2019）『産業組織論』有斐閣 植草益・井手秀樹・竹中康治・堀江明子・菅久修一（2004）『現代産業組織論』、NTT出版 新庄浩二編（2003）『産業組織論（新版）』、有斐閣ブックス 長岡貞男・平尾由紀子（2013）『産業組織の経済学 第2版』、日本評論社 春名章二（2004）『産業組織論』、中央経済社 また、中級レベルの参考書は、以下のとおりである。 小田切宏之（2001）『新しい産業組織論』、有斐閣 柳川隆・川濱昇編（2006）『競争の戦略と政策』、有斐閣 植草益編（1995）『日本の産業組織』、有斐閣 花園誠（2018）『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣 ルイシュ・カブラル『企業の経済学 産業組織論入門』日本評論社	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業中に15分くらいの小テストを2回程度行う。期末に行う筆記試験で80%、小テストの全体で20%として評価する。いかなる理由でも、小テスト欠席者に対する再試験はない。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN361J	
金融論	2単位
	3・4年次
教授 小早川 周 司	
授業の概要・到達目標 (目的・狙い) 金融（ファイナンス）の基礎的な内容を解説するとともに、金融機関や金融市場の役割、さらには金融と情報技術の融合（フィンテック）といった最近の金融システム・制度を取り巻く新たな動きについて講義します。受講者は、社会人生活に欠かせない金融サービスや多様な金融機関の役割、さらにはフィンテックに欠かせないブロックチェーン技術について理解を深めることを通じて、長い目で見た金融に関する知識を身につけることを狙いとします。 (授業概要) 家計の貯蓄と資産運用、企業の投資と資産調達、金融の基本的仕組み、金融機関と金融市場の役割、金融システムとプルーデンス政策、さらにはブロックチェーンとその要素技術等について解説します。	
授業内容 第1回目 インTRODakション：金融と金融取引 第2回目 資金循環統計からみた金融 第3回目 金融機関の役割 第4回目 銀行の機能：貨幣、信用創造 第5回目 銀行の機能：決済の仕組み 第6回目 銀行の機能：貸借対照表、損益計算書 第7回目 金融システムの安定性とプルーデンス政策 第8回目 家計の金融資産選択 第9回目 金融と情報技術の融合（フィンテック）：概論 第10回目 ブロックチェーン（分散型台帳）技術とは何か 第11回目 ハッシュ関数とハッシュ値：基本原理と応用 第12回目 共通鍵暗号と公開鍵暗号（RSA暗号）方式 第13回目 貨幣の将来像：暗号資産、ステーブルコイン、中央銀行デジタル通貨 第14回目 ラップアップ：多様化する金融サービス	
履修の注意点 上記の授業計画は、半期間に取り扱う内容をおおまかに配分したものです。実際には、各回の進捗度合いに応じて改訂されます。なお、講義の内容はできるだけ平易な内容とし、ミクロ・マクロ経済学が未修得でも理解できるようにします。	
準備学習の内容 各回の講義で使うレジュメをみながら予習・復習してください。	
教科書 特に定めません。	
参考書 参考文献は、各回の授業において紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法 課題等へのフィードバックについては、総合的な評価をクラスウェブを通じて全体に対して行うほか、必要に応じて個別のレポートに対するコメントを1対1で行います。	
成績評価の方法 期末試験（80%）、授業貢献度（20%、授業中の課題への貢献度等を含む）を総合的に勘案し、評価します。	
その他 特にありません。	

科目ナンバー：(PE) ECN361J	
金融政策	2単位
	3・4年次
教授 小早川 周 司	
授業の概要・到達目標 (目的・狙い) 前半では、春学期の授業を踏まえて金融に関する知識を深めるための外部講師を招いての授業を実施します。後半では、日本銀行の金融政策をテーマとして、その目標と政策手段を具体的に解説するとともに、金融政策の効果がさまざまな金融機関・市場を通じて、企業の投資や家計の消費など実体経済面にどのように波及していくかについて解説します。 (授業概要) 大学生のための人生とお金の知恵に関する授業を実施したのち、金融政策を中心テーマとし、日本銀行の目的と機能、金融政策の独立性と説明責任、金融政策の目標と手段等について、順次解説します。また、バブル発生以降の日本銀行の金融政策運営を振り返ります。	
授業内容 第1回目 INTRODUCTION：金融教育と金融政策 第2回目 人生のデザインと金融（1） 第3回目 人生のデザインと金融（2） 第4回目 お金に関する知恵：収入と支出（1） 第5回目 お金に関する知恵：収入と支出（2） 第6回目 不確実性への備え 第7回目 金融政策の目的：物価の安定とは？ 第8回目 金融政策の独立性・説明責任 第9回目 金融政策の手段 第10回目 金融政策の運営と決定会合の実務 第11回目 金融政策の波及経路 第12回目 日本銀行の金融政策：金融システム危機の発生と金融政策 第13回目 日本銀行の金融政策：量的金融緩和以降の金融政策 第14回目 ラップアップ：金融と金融政策	
履修の注意点 上記の授業計画は、半期間に取り扱う内容をおおまかに配分したものです。実際には、各回の進捗度合いに応じて改訂されます。なお、講義の内容はできるだけ平易な内容とし、ミクロ・マクロ経済学の基礎的な内容を修得済みであることを前提として、講義を進めます。	
準備学習の内容 各回の講義で使うレジュメをみながら予習・復習してください。講義では、日本経済新聞等の記事を参照することがありますので、新聞には目を通すようにしてください。また、非伝統的な金融政策に関する論文や、日本銀行幹部の講演などの文献を紹介することもあります。期末試験に際しては、これらの参考文献をしっかりと読んでおいてください。	
教科書 特に定めません。	
参考書 参考文献は、各回の授業において紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法 課題等へのフィードバックについては、総合的な評価をクラスウェブを通じて全体に対して行うほか、必要に応じて個別のレポートに対するコメントを1対1で行います。	
成績評価の方法 期末試験（80%）、授業貢献度（20%、授業中の課題への貢献度等を含む）を総合的に勘案し、評価します。	
その他 特にありません。	

科目ナンバー：(PE) ECN361J	
国際金融論	4単位
	3・4年次
教授 勝 悦子	
授業の概要・到達目標 わが国および国際的な金融・通貨問題について、現実起きた事象を分析し、その理解を深めると同時に理論的枠組みを理解することを目的とする。学生一人一人が国際金融問題について課題設定し、それを分析し、論文作成ができるレベルを到達目標とする。	
授業内容 「国際金融論」と一口にいっても幅広い。それは、1)「金融論」を開放経済に拡張した領域、2)「マクロ経済」を開放経済に拡張した領域、3)貿易論など「国際経済学」の一部を構成する領域、といった異なる側面を持つ。本講義は、そのうち「金融論」および「マクロ経済学」を開放経済に拡張した領域と解釈したアプローチで行う。こうした観点からは、国際金融論は世界の経済情勢、政治情勢を常に把握する必要のある、極めて現実的かつチャレンジングな分野であると言える。 講義の前半では、国際収支のマクロ経済学的意味合い、為替レートとマクロ経済、マンデル＝フレミング・モデル、為替レートの決定理論などの理論的フレームワークを概説する。また、国際通貨システムの歴史や制度的枠組みについても検討する。 講義の後半では、前期の基本的な講義をベースとして、<1>金融のグローバル化と BIS 規制、<2> EU の通貨統合、<3> 国際的マネー・フローの変化と通貨危機、<4> 中国人民元を含む新興諸国通貨制度、<5> 世界金融危機と国際金融システムの安定性、<6> 欧州のソブリン危機などについて講義を行う。 第1回 インTRODクシヨN国際金融論とは何か 第2回 国民所得と経常収支GNPとGDP 経常収支と貯蓄・投資 第3回 経常収支と対外資産、経常収支の4つの側面 第4回 国際収支表の作り方 第5回 3極の国際収支の動向、グローバルインバランスについて 第6回 外国為替市場と為替レート、外国為替市場の仕組み 第7回 外国為替介入と金融政策 第8回 先渡し相場とカバー付き金利平価 第9回 為替制度と金融政策金本位制のメカニズム 第10回 リスクヘッジのための為替市場、スワップ、オプション 第11回 為替レートの決定理論（長期的理論）購買力平価（PPP） 第12回 為替レートの決定理論（短期的理論）アセットアプローチ 第13回 為替レートとマクロ経済弾力性アプローチ、Jカーブ効果 第14回 マンデル＝フレミング理論 第15回 為替制度の歴史（1）第一次世界大戦以前の通貨システム 第16回 わが国の通貨制度の歴史 第17回 ブレトンウッズ体制と変動相場制、政策協調のあり方 第18回 欧州統合について（1）：歴史的経緯と深化 第19回 欧州統合について（2）：通貨制度、EMUと東西ドイツ統合 第20回 欧州統合について（3）ユーロシステムの金融政策 第21回 金融のグローバル化（1）：プロセスと効用 第22回 金融のグローバル化（2）：BIS規制 第23回 ブルデンス政策：金融規制の国際標準 第24回 通貨危機（1）：理論、および通貨の交換性と資本取引規制 第25回 通貨危機（2）：アジア諸国の通貨制度と金融政策 第26回 通貨制度と金融政策：中国元、エマージング諸国の金融経済問題 第27回 サブプライムローン危機：プロセスと原因 第28回 欧州のソブリン危機、国際金融システムの安定性、IMFの役割	
履修の注意点 金融経済論、国際経済学、日本経済論、国際経済政策を履修することが望ましい。 また、応用的な講座として、「ビジネスと市場リスク」を、金融先物取引業協会の冠講座として、春学期に「応用総合講座（コーディネーター：勝悦子）」で提供しているので、興味がある方はあわせて受講されたい。	
準備学習の内容 指定した教科書の該当する章を必ず読んでおくこと。 復習として、該当する章の問題をしておくこと。	
教科書 勝悦子（2011）『新しい国際金融』有斐閣	
参考書 バリー・アイケングリーン『国際金融アーキテクチャーポスト通貨危機の金融システム改革』（監訳：勝悦子）東洋経済新報社 高木信二『入門国際金融第2版』日本評論社 その他資料を配付する。	
課題に対するフィードバックの方法 各回の課題については、その次の授業でフィードバックする。	
成績評価の方法 レポート作成 50% 期末試験 50% 授業時間中に作成提出した課題のポイントを上乘せする。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
経済地理学	4 単位
	3・4 年次
教授 廣 松 悟	
授業の概要・到達目標 経済地理学の体系的理解を目指したこの講義では、その理論・実証の両面に通底する広範な分野の紹介を行うことになる。まずは、我々の日々の生活諸条件を物質的に構成している都市空間に対する様々なアプローチの方から若干詳しく検討し始めることとし、通常考えられているよりも遥かに多く状況依存的な産物である我々の日常的都市生活活動とその物的および社会経済的基盤に対する客観的分析の能力と、空間を明示的に分析枠組みの中に取り込んだ経済ダイナミクスの理解の双方に努める。	
授業内容 1. イントロダクション 2. 経済地理学の課題・方法・視角（1） 経済学的方法と地理学的視角 3. 経済地理学の課題・方法・視角（2） 地域・ローカリティ研究の射程とその意義 4. 都市システムと経済の空間的連関（1） 方法としての都市 5. 都市システムと経済の空間的連関（2） 中心地論（クリスターラーモデル、等）とその射程 6. 都市システムと経済の空間的連関（3） 中核機能とその立地変動 7. 都市システムと経済の空間的連関（4） 世界都市システム論と世界都市の空間構造 8. 都市システムと経済の空間的連関（5） 世界都市システム論と世界都市の歴史的動態 9. 都市農村関係（1） 都市からみた農業と農村 10. 都市農村関係（2） チューネンモデルとその現代的意味 11. 都市農村関係（3） アーバンフリンジについて 12. 農業空間とその固有の論理（1） グローバル農業の展開とその限界 13. 農業空間とその固有の論理（2） モンスーンアジア・水田稲作農業とその特殊性 14. レポート課題の提示とその説明 15. 製造業の構成とその空間的ダイナミズム（1） 工業空間のグローバル変動とその要因 16. 製造業の構成とその空間的ダイナミズム（2） ウェーバーモデルと集積の論理 17. 製造業の構成とその空間的ダイナミズム（3） 現代企業の立地決定論 18. 製造業の構成とその空間的ダイナミズム（4） プロダクト・サイクルと工業集積空間の形成 19. 製造業の構成とその空間的ダイナミズム（5） グローバリズムとローカリゼーション 20. 製造業の構成とその空間的ダイナミズム（6） US自動車製造業の歴史とその立地変動 21. 経済のサービス化とその空間的含意（1） 国際的労働力移動とその地域的諸背景 22. 経済のサービス化とその空間的含意（2） 「世界都市」再論 23. 経済のサービス化とその空間的含意（3） 商業集積の論理と現代都市商業空間の変容 24. 経済地理学と地域政策（1） 地域格差諸論<1> 25. 経済地理学と地域政策（2） 地域格差諸論<2> 26. 経済地理学と地域政策（3） 経済成長と地域格差形成・まとめ 27. 経済地理学と地域政策（4） 戦後日本の経済成長と地域格差形成 28. 経済成長と地域の自立的発展 「移住主導型」地域経済モデルとその含意ほか	
履修の注意点 学科・コースを問わず、生活の場としての「地域」や「都市」に関する様々なトピックについて、できるだけ具体的な関心を抱いていることを最大の条件とした。	
準備学習の内容 講義内容の正確な理解と運用を図るため、講義終了時に関連する問題を提示し次週開始時に解答およびその補足を適宜行う、ので、そのための積極的な対応が求められる。	
教科書 教科書については特に定めず、適宜参考文献表やプリント類を配布する。	
参考書 参考資料及び文献は、講義開始時を含めその都度指示し、数回にわたって詳細リストを配布する。	
課題に対するフィードバックの方法 適宜数回にわたり、このオーメジ上で進行箇所までの質疑応答を実施する。	
成績評価の方法 レポート、学期末筆記試験を行い、それらの総合評価とする。なお、各課題の「重み付け」については、初回ガイダンスで詳しく言及するので、単位取得希望者は必ず出席のこと。この回の説明は後には繰り返さない。	
その他 関連科目である「地域開発論」及び「地域振興論」（隔年開講各2単位）とのセット履修が望ましい。	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
地域振興論	2単位
	3・4年次
兼任講師 梶田 真	
授業の概要・到達目標 近年の地域振興の議論では、ボトムアップによる地域主導の取り組みの重要性が強調されるようになってきました。しかし、地域振興の戦略は、過去の失敗の経験を踏まえ、少しずつ修正されながら現在に至っています。かつて「成功」と評価された事例が、持続可能性を持っておらず、中長期的に破綻してしまったケースも少なくありません。 本講義では、主としてミクロな視点から地域振興について考えていきたいとします。具体的には戦後、日本で行われてきた様々な地域振興の政策・取り組みを中長期的な視点から検証していく作業を積み重ねて行くことで、地域の文脈を踏まえた地域振興を図っていく上で重要な視角と柔軟な発想の獲得を目標としています。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨN 第2回目 地域的不均等発展について:戦後日本における地域間格差 第3回目 全国総合開発計画と拠点開発 第4回目 新産業都市・大分の40年（1） 第5回目 新産業都市・大分の40年（2） 第6回目 戦後における農林業政策の展開 第7回目 NPC 運動・一村一品運動・悠木の里づくり（1） 第8回目 NPC 運動・一村一品運動・悠木の里づくり（2） 第9回目 序列化・系列化されていく地方都市 第10回目 地方都市における中心商店街の苦悩とその取り組み（1） 第11回目 地方都市における中心商店街の苦悩とその取り組み（2） 第12回目 「むらおこし」事業と自治体主導型開発 第13回目 自治体主導型開発の「優等生」から財政再建団体へ:夕張市の歩みを振り返る 第14回目 外来型開発と公害問題:水俣市が「もやい直し」に至るまでの歩み （一部、内容を入れ替える可能性があります）	
履修の注意点 特別な事前準備は不要ですが、できるだけ多くの統計や地図、写真などの資料を提示しながら話を進めていきますので、現場を想像しながら、当事者になったつもりで地域振興・地域開発の問題を考えてみて下さい。	
準備学習の内容 特に予習の必要はありません。授業後、取り上げたトピックスに関する文献や資料を読み進めていくことで理解が深まると思います。	
教科書 特に指定しません。できるだけパワーポイントのハンドアウトを配布するようにしたいと思います。	
参考書 必要があれば授業中に指示します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 原則として期末レポートで評価します。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN351J	
地方財政論	4 単位
	3・4 年次
教授 星 野 泉	
授業の概要・到達目標 <p>地方財政を論じる場合の「地方」とは、農村部、あるいはいわゆる田舎のことを意味するわけではない。駿河台のある東京中心部の千代田区を含む東京特別区や東京都、あるいはその他の都市部自治体をも含んだ概念であり（現在はその部分が圧倒的に大きい）、公共部門たる地方自治体を意味し、地方財政とはその財政活動のこととなる。</p> <p>地方自治体は、予算、税制、財政調整、補助金、公債などで国との財政関係を強くもつ一方、公共サービスの供給及び地方税の課税主体として住民との財政関係をもつ。また、総体としての地方財政状況が、日本全国にある個別自治体の財政状況と同じでもない。市といっても、人口400万人近い横浜市から人口2,000人台の歌志内市まで様々。財政問題は全く異なる。本講義では、こうした二面性をおもに制度、歴史、国際比較の観点からみていく。</p> <p>また、財政の国際化が進み、国際公共財や、財政や税制の国際調整が課題となるにつれ、地方財政の分野は大きく広がりつつある。EU の観点から見れば、EU に属するヨーロッパの一国は一地方であり、各地域にEUからの交付金もある。世界あるいは国連中心主義から見れば、日本財政も地方財政の一部となる。したがって、国の財政も地方財政の範疇といえる。これまでおもに国との関係で地方財政や地方分権論を語ってきたものがより複雑化してきたのである。分権論は、国からばかりでなく、国を超えた主体からの分権も議論しなくてはならない。</p> <p>本年度は、国税を含めた税制を中心に日本の地方分権の現状、感染症や災害等の危機対応、そしてイギリスやスウェーデンとの国際比較に時間を割く予定である。また、少子高齢化との関わりなど、その時々々の課題についても盛り込んでいく予定であり、授業予定は前後することもある。起きている事象に対して、問題意識をもちたい、その方法を知りたい、という学生の受講を希望する。</p>	
授業内容 第1回 bのみ 講義の概要 第2回 地方財政今そこにある危機、地方自治と地方財政 第3回 経済、財政、地方財政の国政比較 第4回 公共部門と民間部門 第5回 スウェーデンの地方財政 第6回 イギリスの地方財政 第7回 国民経済と地方財政 第8回 日本の地方財政概要 第9回 日本の地方財源 第10回 所得税と個人住民税 第11回 法人税と地方法人2税（事業税・法人住民税） 第12回 消費税と地方消費税 第13回 固定資産税 第14回 自主課税権、法定外税、環境税 第15回 地方交付税と地域格差 第16回 公共事業、教育、福祉と国庫支出金 第17回 地方債 第18回 経費の分類 第19回 少子高齢化と地方財政 1 第20回 少子高齢化と地方財政 2 第21回 地方分権改革の動向 第22回 住んでいる自治体の財政分析をしてみよう 第23回 都道府県財政 第24回 大都市財政（政令指定都市と東京特別区） 第25回 都市財政 第26回 小規模町村財政 第27回 地方財政の今日的課題 第28回 bのみ 講義の整理	
履修の注意点 関連科目として財政学、財政政策。	
準備学習の内容 テキスト、参考文献を読んで参加すること。	
教科書 兼村・星野・稲田『自治体財政を読み解く』（イマジン出版）2022年発行	
参考書 拙著『財政のかたちは国のかたち』（朝陽会） 拙著『スウェーデン高い税金と豊かな生活』（イマジン出版）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度30%、小試験30%、レポートおよび定期試験の成績40%による。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
中小企業論	4 単位
	3・4 年次
教授 森 下 正	
授業の概要・到達目標 <p>ベンチャー・中小企業による産業の苗床機能の発揮が、先進諸国のみならず、発展途上国でも期待されている。なぜなら、今日のトヨタやパナソニックも、創業当初は小さな町工場からスタートし、絶え間ない技術革新と製品開発によって、国際的な企業を築いたからである。また、経済の国際化、サービス化、高度情報化と人口の高齢化など、企業を取り巻く経済環境は変化し続けている。そこで、企業活動を軸とした現実世界を十分に観察し、経済の本質と企業経営の実態を解明する。</p> <p>(授業の目的) 本講義では、ベンチャー・中小企業の理論と実態の論述を行う。まず、現実のベンチャー・中小企業の実態と問題を解明するために必要な理論的分析視点とベンチャー・中小企業を取り巻く経営課題を解決するための手法を学ぶ。また、経済発展、経済環境変化、産業構造転換と中小企業経営との関係を産業別に理論と実証の側面から詳述する。さらに、ベンチャー・中小企業集積地の実態や企業経営を行うために必要なマネジメントの手法（カイゼン活動、マーケティング、ロジスティクスなど）、企業経営者に必要な能力と資質および技術的な方法などについて、講義を進める。特に、産業集積地の産業風土、中小企業等協同組合を中心とした連携・組織化活動、産学官の連携活動及び中小企業金融の実態を解明する。また、ベンチャー・中小企業の経営者像、創業・新事業創造に至るプロセスなどを学ぶことによって、中小企業経営を遂行する上で必要な視点を学ぶ。</p> <p>(到達目標) 地域産業、中小企業の経営革新等に資する政策立案能力、実際に企業経営を行うにあたっての基本的なマネジメントの考え方と手法を身につける。具体的には、以下の5つの点についての習得を目指す。 1) 現実のベンチャー・中小企業の実態と問題を解明するために必要な理論的視点 2) 現実のベンチャー・中小企業が抱える問題を解決するための手法 3) ベンチャー・中小企業の産業集積地の実態 4) 企業経営を行うために必要なマネジメントの手法 5) 企業経営者に必要な能力と資質および技術的な方法</p>	
授業内容 <p>第1回から第14回までは、ベンチャー企業を含む中小企業の理論的分析視点とベンチャー・中小企業の経営実態と課題を明らかにし、かつその解決策について学習し、第15回以降、実際の企業経営に役立つベンチャー・中小企業の経営戦略について学んでいく。</p> <p>第1回：イントロダクション（中小企業論の視座） 第2回：革新的な中小企業の経営特質と課題 第3回：中小企業問題と中小企業政策 第4回：中小企業組合等連携組織の理論と新実践 第5回：中小企業の連携・組織化政策の新展開 第6回：グローバル時代における中小企業経営 第7回：中小製造業の経営特質と史的展開 第8回：中小製造業と産業クラスター 第9回：中小製造業のものづくり方向上への挑戦 第10回：中小物流業の経営特質と史的展開 第11回：中小物流業のロジスティクス新展開 第12回：中小流通業の経営特質と史的展開 第13回：中小流通業と大手流通チェーンの行方 第14回：中小サービス業の生産性向上と高付加価値化 第15回：規制改革と中小企業の生き残り戦略 第16回：中小企業による環境経営 第17回：中小企業金融の実態と課題 第18回：AI/IoT・DX化に伴う中小企業経営 第19回：少子高齢社会における中小企業の人材育成 第20回：地方創生と中小企業経営 第21回：企業家精神と産業風土 第22回：ベンチャー・中小企業の新規創業 第23回：ベンチャー・中小企業による新事業創造 第24回：ベンチャー・中小企業のマーケティング戦略 第25回：ベンチャー・中小企業のブランド戦略 第26回：ベンチャー・中小企業のロジスティクス戦略 第27回：ベンチャー・中小企業のSDGs 第28回：ベンチャー・中小企業の経営再構築</p>	
履修の注意点 <p>産業、地域経済、経済政策、財政政策などに関する科目、「産業組織論」「地域産業論」「地方財政論」「財政学」「地域政策論Ⅶ」「地域政策論Ⅷ」「労働経済学」「経済政策」「人口学」「産業心理学」を履修することで、講義の理解を深めることの手助けとなる。</p>	
準備学習の内容 <p>予習として、事前にOh-ol Meiji Systemを通じて配布される講義用資料をダウンロードし、プリントアウトをして授業時に持参するようにしておくこと。また、授業内容に合わせて、講義用資料や教科書を事前に熟読して授業に臨むこと。また、復習として、配布されたレジュメおよび授業中にメモしたノートを利用して、当該授業を振り返り、当該授業時及び当該授業後に行う確認テストで回答できるようにしておくこと。</p>	
教科書 <p>授業の予習、復習用として、次の2冊を教科書として使用する。 『多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論』安藤信雄著、2021年 『空洞化する都市型製造業集積の未来～革新的中小企業経営に学ぶ～』森下 正著、同友館、2008年</p>	
参考書 <p>授業の理解を深めるため、次の3冊を参考書として使用する。 『新協同組織革命』百瀬恵夫著、東洋経済新報社、2003年 『15マネジメント基本全集 ベンチャービジネス（ベンチャーリング）；ベンチャービジネスとマネジメント』今村哲・森下正編著、学文社、2006年 『中小企業白書 2024年版』中小企業庁編、2024年</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>アンケート機能の（総合）コメントを通じて、履修者全員に課題に対するポイントを解説する。</p>	
成績評価の方法 <p>成績は、授業中及び授業終了後に実施する課題アンケート（50点）、期末レポート（25点）、期末試験（25点）の合計（100点）によって、総合的に評価する。 なお、課題アンケートの一部は授業時間内に実施する。また、中小企業の経営実態を理解するための映像を視聴した感想文の作成を行う。課題アンケートはすべてOh-ol Meijiのアンケート機能を通じて、提出する方法をとる（指定提出期間外での提出は不可）。</p>	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
地域産業論	4 単位
	3・4 年次
教授 奥 山 雅 之	
授業の概要・到達目標 産業あるいは個々の企業は、地勢や地域の資源、人材、他の企業や大学などの存在、自治体の政策などによって大きな影響を受ける。一方、地域産業は雇用や税金、地域住民に必要な製品やサービスの提供など、地域の持続的発展に大きな役割を担っている。さらには、グローバル化の進展のなかで、世界的な地域間競争が活発化し、地域産業の果たす役割はむしろ高まっているといえよう。 この講義では、地域の持続的発展の担い手である地域産業を実証的に捉えるとともに、グローバル化の中でも個性的な製品・サービスの創造や地域課題の解決を図ろうとする地域産業のあり方や、地域産業と地域づくりの関係について考察する。 この講義は、「基礎編」と「実践編」に分かれており、両者を交互に講義していく。「基礎編」では、地域産業に関わる基礎的な理論を学習する。「実践編」では、地域産業の実態を様々な統計を紹介しながら概観するとともに、地域の事例、政策の事例を多く取り上げながら、「地域産業における課題は何か」「その解決策は？」などについて考えていく。 到達目標は、地域と産業についての関係性を理解し、地域における産業の役割を深く認識するとともに、各地の産業の実態や課題を把握し、解決に向けた構想力を身につけることである。	
授業内容 第1回 (基礎編)：なぜ地域産業論を学ぶのか—地域産業論はセミ・マクロのリアルな経済学— 第2回 (実践編)：集団間・地域間競争と繊維・アパレル産業 第3回 (基礎編)：農業立地と土地利用—輸送費と地代が土地利用を決める— 第4回 (実践編)：アパレル業の競争力低下とOEM・ODM事業 第5回 (基礎編)：工業立地と輸送費—工場の立地はどのように決まるのか (1) — 第6回 (実践編)：アパレル業の販売チャンネルの変遷 第7回 (基礎編)：工業立地と労働費—工場の立地はどのように決まるのか (2) — 第8回 (実践編)：新たな競争局面としてのSDGsへの対応 第9回 (基礎編)：工業立地と集積—工場の立地はどのように決まるのか (3) — 第10回 (実践編)：衣料品生産における地域間競争の構図—国内外をめぐる縫製業の量と質に基づく分業と競争— 第11回 (基礎編)：柔軟な専門化と取引費用—複数の企業が集まることの強み— 第12回 (実践編)：日系縫製業者にみる海外生産の変化と集団間・地域間競争—中国生産の変化とASEANへの進出— 第13回 (基礎編)：産業クラスターと地域の競争優位—地域内の企業間競争は促進すべきか— 第14回 (実践編)：生産の海外化にともなう集団間競争と自社工場のジレンマ—海外の縫製・加工工程をめぐる集団間競争と地域間競争— 第15回 (基礎編)：イノベーションと地域産業—イノベーションを生み出す地域とは— 第16回 (実践編)：海外分工場の革新の困難性とその克服—地域間分業を行う縫製・加工業に内在する地域間競争— 第17回 (基礎編)：複合型集積と都市—都市の原理と課題— 第18回 (実践編)：中小テキスタイル業の海外市場開拓にみる地域間競争—企業家活動、マーケティング、生産・開発の変化— 第19回 (基礎編)：近接性とイノベーション—「近い」にはさまざまな意味がある— 第20回 (実践編)：遠州別荘・コーデロイ産地の競争力再生—下請産地から企画提案型産地への転換— 第21回 (基礎編)：オフィスの立地—オフィスはどこに立地するのか— 第22回 (実践編)：山形横編ニット産地の競争力再生—企画・デザイン、製品流通機能の包摂— 第23回 (基礎編)：商業集積の理論—消費者の買物構造と地域商業の課題— 第24回 (実践編)：郡内織物産地の競争力の再生—資源、制度・組織、企業家活動による高付加価値化— 第25回 (基礎編)：クリエイティブ産業集積の理論—クリエイティブ・クラスはどこに住むのか— 第26回 (実践編)：第三の地域産業問題：郊外問題、多摩地域 第27回 (基礎編)：地域産業政策の変遷と地域産業—国土の均衡ある発展を超えて— 第28回 (実践編)：大都市圏型産業集積の課題、東京都大田区	
履修の注意点 産業に対する問題意識や提言力を身につけるため、日頃より新聞の経済・産業関連記事に接することが望まれる。 関連科目には「中小企業論」「地域政策論」「協同組合学」「経済地理学」などがある。あわせて履修することが望ましい。 また、応用的な講座として、地域産業の次世代承継を検討する「応用総合講座E・V (コーディネーター：奥山雅之)」もあわせて受講されたい。 (C GYOAKI)	
準備学習の内容 事前に、本シラバスの授業内容の欄に示した用語を辞典等で調べておくこと。復習として、配布するレジюмеに示す「課題」を実施すること。	
教科書 『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』奥山雅之ほか編著 (文真堂) 2022年	
参考書 『Basis地域産業論—産業の立地と集積—』奥山雅之 (清明書院) 2021年	
課題に対するフィードバックの方法 課題のうち解説が必要なものについては、課題が提出された次の回の講義で解説する。	
成績評価の方法 講義内レポート (30%)、期末試験 (70%)	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
人口学	4 単位
	3・4 年次
准教授 鎌 田 健 司	
授業の概要・到達目標 人口学は、その名の通り「人口」を研究対象とする学際科学である。人口学の研究分野は、人口の規模・構造・変化や人口変動要因である死亡・出生・人口移動を研究対象とする「形式人口学」と経済・社会・政治との関係や生物学的側面や歴史的側面などを研究する「実体人口学」（応用人口学・人口研究）に分けられる。 本講義では、「形式人口学」における人口統計や人口学の基礎概念・分析手法の習得を基本に起きながら、少子高齢化・人口減少が進行する日本の人口動向を中心に、国際比較や社会経済的環境との関係、個人のライフコース選択など「実体人口学」についても取り上げ、人口を学術的に理解することを目指す。	
授業内容 第1回目 インTRODクダクシヨウ：少子高齢化・人口減少社会 第2回目 人口学の基礎概念と分析法（1）人口統計の種類、人口の種類、人口ピラミッド 【課題1】 第3回目 人口学の基礎概念と分析法（2）人口学的方程式、人口増加率、人口学的率の考え方 第4回目 人口学の基礎概念と分析法（3）年齢別率、期間・コホート観察、レキシス図 第5回目 人口学の基礎概念と分析法（4）粗率（普通率）・人口増加率の要因分解 第6回目 世界の人口からみた日本：人口指標の国際比較・人口開発問題 第7回目 人口転換理論（1）古典的人口転換理論・第二の人口転換 【課題2】 第8回目 人口転換理論（2）日本の人口転換 第9回目 死亡分析（1）生命表・平均寿命・健康寿命 【課題3】 第10回目 死亡分析（2）標準化指標・生命表分析・イベントヒストリー分析 第11回目 出生分析（1）生物・行動学的近接要因・自然出生力 第12回目 出生分析（2）出生力指標・出生率の要因分解・少子化 【課題4】 第13回目 出生分析（3）結婚構造の変化・未婚化・晩婚化・非婚化 第14回目 出生分析（4）結婚・家族に関する意識の変化 【課題5】 第15回目 出生分析（5）就業行動と女性のライフコース 第16回目 人口移動分析（1）国内人口移動・東京一極集中と地方創生 第17回目 人口移動分析（2）地域人口分布の変化・地域人口増加率の要因分解 第18回目 人口移動分析（3）国際人口移動・外国人労働者と社会統合政策 第19回目 人口モデルとその応用（1）安定人口モデル 第20回目 人口モデルとその応用（2）人口モメンタム・多地域人口モデル 第21回目 将来人口推計・将来世帯数の推計（1）社人研の将来人口推計 【課題6】 第22回目 将来人口推計・将来世帯数の推計（2）国連の将来人口推計 第23回目 将来人口推計・将来世帯数の推計（3）世帯数の将来推計 第24回目 経済社会への影響と政策対応（1）社会保障制度・マクロ経済への影響 第25回目 経済社会への影響と政策対応（2）少子化対策・高齢対策 第26回目 空間人口学（1）小地域人口統計・GISの利活用 第27回目 空間人口学（2）空間統計学を用いた人口分析事例 第28回目 (a) 内容の確認・(b) 講義のまとめ	
履修の注意点 講義では、毎回の内容に関する「問い」への回答を以て授業への参加度を評価し、具体的な分析手法に関する課題の提出を以て実践的側面を評価し、最終的にレポート提出を以て自分で考える力を評価する。 講義資料は紙芝居のように基本的に図表のみで構成されていることから、毎回講義に出席し、内容についてメモを取り、わからないところは質問するなど積極性が求められる。	
準備学習の内容 毎回の講義では、内容に関する「問い」を設定し、出席票に記載して提出するという形で授業への参加度を評価する。 講義資料は前週にはクラス・ウェブに掲載するため、内容の確認と予習を行うことが望ましい。	
教科書 とくに指定しない。適宜紹介する書籍や学術論文を補助教材とする。	
参考書 『人口学への招待』河野綱果（中公新書）2007年 『現代人口学』阿藤誠（日本評論社）2000年 『人口減少と少子化対策』高橋重郷・大淵寛編著（原書房）2015年 『地域社会の将来人口 地域人口推計の基礎から応用まで』西岡八郎・江崎雄治・小池司朗・山内昌和（東京大学出版会）2021年など	
課題に対するフィードバックの方法 6回の課題を予定している。 (a) データを入手し、エクセル等で作成するもの (b) 意見を収集するもの (a) については習得することが望ましいため、内容を確認した上で、クラス・ウェブを通じたフィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への参加度（30%）、課題の提出（30%・全6回）、期末レポート（40%）	
その他 PCを持参しての資料の確認ならびにメモの作成、課題への取組を推奨する。	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
労働経済学	4単位
	3・4年次
教授 原 ひろみ	
授業の概要・到達目標 この授業では、日本の労働市場の現状とその背後にあるメカニズムを理解することを目指す。 少子高齢化、デジタル化の進展など経済社会環境が変化するなかで、日本の労働市場は様々な課題に直面している。講義では、このような労働市場の現状を官庁統計データやアンケート調査の集計・分析結果、ヒアリング調査による具体的な事例を紹介しながら解説するとともに、労働市場の仕組みや事象が発生するメカニズムを経済学の理論的フレームワークを用いて説明する。 授業の到達目標は以下2点である。 1. 日本の労働市場の現状を理解する。 2. 労働市場の仕組みや今起こっていることを経済理論を使って説明できる。	
授業内容 第1回 インTRODクシヨN 第2回 労働経済学を学ぶための基礎概念 第3回 労働供給：基礎 第4回 労働供給：発展 第5回 労働需要：基礎 第6回 労働需要：発展 第7回 雇用と賃金の決まり方 第8回 データでみる日本の労働市場 第9回 雇用調整 第10回 雇用調整と労働法 第11回 中間総括 第12回 若者の雇用 第13回 高齢者の雇用：基礎 第14回 高齢者の雇用：発展 第15回 賃金格差：基礎 第16回 賃金格差：発展 第17回 日本的雇用システムとその変化 第18回 年功賃金システム：基礎 第19回 年功賃金システム：発展 第20回 成果主義：基礎 第21回 成果主義：発展 第22回 昇進システム 第23回 長期雇用システムとその変化 第24回 失業：基礎 第25回 失業：発展 第26回 労働市場における男女差：基礎 第27回 労働市場における男女差：発展 第28回 総括	
履修の注意点 労働経済学は経済学の応用分野であるため、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な知識があることが望ましい。	
準備学習の内容 毎回の授業後に、授業ノートや配布資料の復習を行うこと。	
教科書 『労働経済学入門（新版）』、太田聰一・橘木俊詔（有斐閣）。	
参考書 『日本の人事を科学する』、大湾秀雄（日本経済新聞社）。 『労働経済学入門』、大竹文雄（日経文庫）。	
課題に対するフィードバックの方法 中間総括および総括の際に、授業内で全体講評を行うことで、フィードバックをする。	
成績評価の方法 授業への参加度10%、中間試験30%、期末試験60%	
その他 授業中は私語をしないこと。	

科目ナンバー：(PE) ECN351J	
社会保障論	4 単位
	3・4 年次
教授 加藤久和	
授業の概要・到達目標 (授業の概要) 社会保障制度の役割や内容にとどまらず、広く社会保障を支える枠組みとしての財政や租税制度、年金・医療・介護などの社会保険に関する経済学的な分析、所得分配と公平性、少子化問題の分析、さらには社会保障制度改革のあり方などについても学ぶ。 (授業の到達目標・テーマ) 社会保障制度は、病気やケガ、高齢、失業、貧困などさまざまなリスクに直面した際に必要となる社会的な仕組みであり、我々の生活に欠かせないものである。最近では、公的年金制度や医療・介護保険制度の見直しなどが政策課題となっているが、これらは社会保障制度の柱である。また、格差や所得再分配などに関しても、社会保障制度の枠組みの中で考えていくべき政策課題である。 社会保障制度を考える際には、幅広い視点が必要になる。授業では経済学的視点からのアプローチが中心となるが、財政との関連性、雇用や労働市場などとの関係、少子高齢化など人口問題からの見方、国際比較の視点などが欠かせない。以上の多様な視点から、社会保障の仕組み・現状・課題を総合的に理解することが授業の到達目標となる。	
授業内容 1. 社会保障論イントロダクション-講義計画と講義の目的 2. 社会保障制度とその理念・歴史・現状 (1) 3. 社会保障制度とその理念・歴史・現状 (2) 4. 近年の人口動向：少子高齢化と人口減少 <社会保障制度の概要> 5. わが国の社会保障制度 (1)：医療保険 6. わが国の社会保障制度 (2)：年金保険 7. わが国の社会保障制度 (3)：介護保険 8. わが国の社会保障制度 (4)：労働保険 9. わが国の社会保障制度 (5)：生活保護 <公共政策とその課題> 10. 財政の現状と財政構造改革の必要性 11. 少子化問題とその対策 / 少子化の経済分析 12. 医療提供体制とその課題 13. 財政構造改革と社会保障 14. 地方創生と東京一極集中 15. 外国人労働者とその受入れについて <諸外国の社会保障制度> 16. 諸外国の社会保障制度 (1) 17. 諸外国の社会保障制度 (2) 18. 統計から見た社会保障の国際比較 <社会保障制度の経済分析> 19. 厚生経済学と保険の考え方 20. 情報の非対称性と社会保障 21. 分配と再分配の経済分析 22. 医療と医療保険の経済分析：医療経済学入門 23. 年金の経済学：公的年金の必要性 24. 年金の経済学：年金財政の分析 <貧困と格差の経済分析> 25. 日本と世界の貧困問題 26. わが国の格差問題 27. 貧困と格差の経済分析 <講義のまとめ> 28. 講義のまとめ	
履修の注意点 この講義では履修人数に関わらず、可能な限り講義内でディスカッションを行う。また、経済学全般の基礎的知識や財政等に関する社会的動きへの関心は、この講義では必須となる。新聞等に日常的に接していることは重要である。	
準備学習の内容 授業ではディスカッション等も行うので、事前に講義のレジュメ等を読むことや講義に際して推奨する参考文献を読んでおくこと。	
教科書 テキストは特に定めない。講義に即したレジュメや必読文献等を Oh-ol Meiji System クラスウェブに掲載する。	
参考書 以下は参考書であり、適宜参照してほしい。 梶野美智子、田中耕太郎 (2023) 『はじめての社会保障 (第20版)』有斐閣。 (社会保障制度の入門書であり、2024年版が刊行される予定) 小塩隆士 (2013) 『社会保障の経済学 第4版』日本評論社。 (社会保障を経済学の視点から学ぶためには最適の書) 駒村康平、山田篤裕他 (2015) 『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣。 (社会保障制度を含め、社会政策全般 (労働市場など) に関するすぐれたテキスト。やや高度な内容も多い。) 加藤久和 (2011) 『世代間格差』(ちくま新書) 筑摩書房。 加藤久和 (2014) 『社会政策を問う - 国際比較からのアプローチ』明治大学出版会 (この講義のために購入する必要はありません。図書館などで参照してください。)	
課題に対するフィードバックの方法 課題等を課した場合、その解答等について講義などを通じて示す。	
成績評価の方法 定期試験 (70%)、中間レポート等 (30%) によって成績を決定する。	
その他 授業では、できるかぎり教壇からの一方通行にならないようにしたい。そのためにも受講する学生諸君の積極的な議論への参加を期待している。	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
協同組合学	4 単位
	3・4 年次
教授 大 高 研 道	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。19世紀前半に英国において誕生した協同組合の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。近年では、国連による国際協同組合年宣言（2012年）、ユネスコ無形文化遺産登録（2016年）など、その存在意義と果たす役割への期待は高まっている。また、2020年のコロナ禍において42年ぶりの協同組合関連法である「労働者協同組合法」が成立し、2022年10月に施行された。本講義では、社会的な事業体としての協同組合の歴史・現状・課題の考察を通して、新たな社会経済システム構築に果たす協同組合の役割と可能性について共に考えたい。 《到達目標》 商業的世界が日常生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合は、商品・サービスを媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活当事者」としての視点に立った事業・運動に取り組んできた。本講義では、地域社会を基盤とした協同組合の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「閉じられた関係性」のなかに生きる現代人の生活（暮らし）や労働のあり方を含めた自らの生き方そのものについて、一定程度のビジョンを提示できるようにすることを目指している。	
授業内容 本講義は「協同組合とは何か（基礎編）」（第1回～10回）、「協同組合実践論」（第11回～18回）、「現代社会経済システムと非営利・協同論」（第19～28回）の三部構成からなる。 第1回目 協同組合とは何か 第2回目 現代協同組合論の射程 第3回目 協同組合の歴史と思想（1） 第4回目 協同組合の歴史と思想（2） 第5回目 協同組合の国際的展開（1） 第6回目 協同組合の国際的展開（2） 第7回目 世界の協同組合の新潮流（1） 第8回目 世界の協同組合の新潮流（2） 第9回目 わが国の協同組合の歴史（1） 第10回目 わが国の協同組合の歴史（2） 第11回目 生産者協同組合の実践（1） 第12回目 生産者協同組合の実践（2） 第13回目 利用者協同組合の実践（1） 第14回目 利用者協同組合の実践（2） 第15回目 労働者協同組合の実践（1） 第16回目 労働者協同組合の実践（2） 第17回目 協同労働と協同組合（1） 第18回目 協同労働と協同組合（2） 第19回目 経済のグローバル化と非営利・協同経済 第20回目 福祉国家再編下における非営利・協同組織 第21回目 NPOの歴史と制度 第22回目 NPOから社会的企業へ 第23回目 社会的排除問題と社会的企業（1） 第24回目 社会的排除問題と社会的企業（2） 第25回目 変容するコミュニティと社会的企業（1） 第26回目 変容するコミュニティと社会的企業（2） 第27回目 社会的経済・連帯経済論と協同組合 第28回目 まとめ	
履修の注意点 ・本講義ではグループ討論・報告を実施する。討論への参加姿勢も成績評価に含まれる。 ・講義資料は事前にクラスウェブにアップしておくので、各自印刷しておくこと。	
準備学習の内容 《予習》 ・毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。 《復習》 ・毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと・さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、3部構成の各部の終わりに質疑応答・意見交換の時間を設ける。	
教科書 特になし。	
参考書 ・中川雄一郎(2018)『協同組合のコモン・センス』日本経済評論社 ・中川雄一郎・杉本貴志編著/全労済協会監修(2012)『協同組合を学ぶ』日本経済評論社 ・藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著(2013)『闘う社会的企業』勁草書房	
課題に対するフィードバックの方法 毎回の講義冒頭に、前週講義に対する質問・疑問点等について解説および意見交換を行う。	
成績評価の方法 試験80%、平常点20%（毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって加点されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる）。	
その他 対話型の講義を重視する。グループ討議や質問・発言などを通して積極的に参加してほしい。	

科目ナンバー：(PE) ECN341J	
現代経済政策	4 単位
	3・4 年次
兼任講師 神 余 崇 子	
授業の概要・到達目標 <p>本講義では、現代日本社会が抱える諸問題をテーマとして、歴史、現在の制度、理論的枠組みを理解し、望ましい政策について「議論」することによって「経済政策」の理解を試みるものである。経済政策の評価は、人、地域、所属団体、階級など様々な環境要因によって異なる分配基準、規範をベースにした評価と、その目的に経済政策手段が適合しているかという客観的評価の両者を必要とする。これまでの経済学の潮流を整理した上で、経済史と理論を活用して諸制度のあり方について議論する。よってディスカッション、グループワーク、発表なども可能な限りで予定している。</p> <p>経済史、経済理論、および経済政策について学ぶことによって、経済学的思考でもって経済政策に関する適切な評価ができるようになる。また、自身の価値判断についても熟考する機会を持ち、社会の構成員として冷静かつ適切な判断ができるようになる。</p>	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨN 経済学および経済政策を学ぶ意義（経済学的思考方法） 第2回目 経済史、経済理論、経済政策の関係性と分配基準について 第3回目 経済学小史 第4回目 経済学的に望ましい社会とは 第5回目 社会保障をめぐる諸問題（歴史と制度） 第6回目 所得格差是正に関する議論（理論と現状） 第7回目 社会保障と公共部門（情報の非対称性と所得再分配） 第8回目 日本の年金制度の概要と問題点 第9回目 日本の将来と社会保障制度のあり方（社会保障のあり方など ディスカッションと課題1） 第10回目 社会保障政策のまとめ 第11回目 財政政策（論争の歴史と理論） 第12回目 財政政策（日本の現制度と予算構造） 第13回目 財政赤字と公債発行の議論（諸外国の例も含めて） 第14回目 効率と公平を考える（日本の再配分の問題点など ディスカッションと課題2） 第15回目 金融政策（論争の歴史と理論） 第16回目 金融政策（日本銀行の役割） 第17回目 貨幣とは何か、インフレとは何か 第18回目 物価と金融政策の議論（ライティング課題3） 第19回目 労働政策（歴史と制度） 第20回目 労働政策（理論と現状、雇用形態、最低賃金制度や移民政策について） 第21回目 労働政策をめぐる日本の課題 第22回目 日本の将来と労働政策のあり方（ディスカッションと課題4） 第23回目 国際収支表から考える日本の政策（歴史と現状） 第24回目 為替と交易利得・損失について（為替をどう捉えるか） 第25回目 産業政策（歴史と制度） 第26回目 産業政策をめぐる諸問題（日本の課題と市場と政府の関係性について） 第27回目 望ましい政策への課題（行動経済学と公共政策） 第28回目 a まとめの課題5（もしくは発表） b 講義のまとめと課題の講評	
履修の注意点 関連科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済政策原理、国際経済学など講義の基礎となる科目であり、復習しておくことが望ましい	
準備学習の内容 各回の内容に関連する経済学の基礎的理論を参考書等で予習するとともに、新聞や雑誌などで関連項目についての知識と対立する議論などの知識を習得しておくこと。また教室内でディスカッションやグループワークを実施するので、事前の情報収集および課題の作成など事後学習が必要となる。ディスカッションやライティング作業にノートPCを使用することもある。（ない場合でも対応可能）	
教科書 特に指定しない	
参考書 神野真敏/安岡匡也 編著『日本の経済政策』中央経済社、2020年。 瀧澤弘和 他 『経済政策論』慶応義塾大学出版会、2016年。 小塩隆士 『効率と公平を問う』日本評論社、2012年	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に全体に対して課題などの講評を行う。	
成績評価の方法 授業前復習課題（授業開始時に前回の内容に関する確認問題を実施。ノート資料等閲覧可能） 各項目でのディスカッションおよび課題内容によって評価する（4～5回実施予定） 授業への貢献度（ディスカッション含む）50% 課題の提出 50%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
食料経済学	4 単位
	3・4 年次
准教授 藤本 稔彦	
授業の概要・到達目標 わたしたちは誰と、どこで、なにを食べているのか。その食べものはどこからきたものなのか。誰がどのようにつくったものなのか。食料経済学は、わたしたちが口にして食料の由来——生産・加工・製造・流通・販売・消費・廃棄・リサイクルのプロセスを、世界の食料問題とローカルな食の実践の双方を視野におさめつつ、経験的研究や統計データをもとに明らかにすることを課題としてきた。今日、食料の流通と消費のあり方は、グローバルな社会構造の変動を背景に激動しており、それに応じて国内外の食料生産の現場も大きな変動の渦中にある。社会的に公正で、循環性に優れた持続可能なフードシステムをいかにして構築できるか。暮らしを中心において、家族や地域など身近なところからローカルに構築する「食の安全保障 (Food Security)」について探究したい。	
授業内容 第1回目 食料経済学の射程 第2回目 いま、なぜ食べることが重要なのか？ 第3回目 「フードシステム」という考え方 第4回目 グローバリゼーションと食生活の変化、創り出される食の型 第5回目 「食」を問い直す、あなたは何を食べますか？ 第6回目 「食」を捉えるためのSkillを磨くレッスン 第7回目 「食」について探究するための対話のレッスン 第8回目 「食」についての探究の場をファシリテーションする 第9回目 「食」についてのフィールドワーク 第10回目 「直観」のセンスを磨く 第11回目 「経験」のセンスを磨く 第12回目 「問い」のセンスを磨く 第13回目 「対話」のセンスを磨く 第14回目 「共感」のセンスを磨く 第15回目 「修景」のセンスを磨く 第16回目 「復元」のセンスを磨く 第17回目 「循環」のセンスを磨く 第18回目 「自治」のセンスを磨く 第19回目 「自給」のセンスを磨く 第20回目 「起業」のセンスを磨く 第21回目 食と農のまちづくり入門 (1) 「未来会議 (ケア、美、農、情報)」の事例 第22回目 食と農のまちづくり入門 (2) 「コミュニティ・エネルギー」の事例 第23回目 食と農のまちづくり入門 (3) 「自然エネルギー社会企業」 第24回目 食と農のまちづくり入門 (4) 「スマート・テロワール、食と農の地域自給圏」の事例 第25回目 食と農のまちづくり入門 (5) 「食べたもので食べるものをつくる～食料ロスと資源循環のデザイン」の事例 第26回目 食と農のまちづくり入門 (6) 「最も美しい村づくり」の事例 第27回目 食と農のまちづくり入門 (7) 「交流まちづくり」の事例 第28回目 フードシステムの未来デザイン、「食」と「農」の公正で持続的な関係性とは？ ※講義内容は、受講生の関心や進捗に応じて変更することがある。	
履修の注意点 本講義では、受講生による報告やグループ対話を実施する。日頃の講義への参加姿勢も成績評価に含まれる。	
準備学習の内容 準備学習としてフィードバックシートを課す。フィードバックシートは各自の学習ペースをつくるものであり、成績評価にも利用される。フィードバックシートの取り組み方は初回講義で示す。	
教科書 『まちづくりの思考力』(藤本稔彦、2022年、実生社、ISBN 978-4-910686-02-8、実生社ホームページ https://mishosha.com/) その他、受講生の関心と講義の進捗に応じて指示する。	
参考書 『〈分断〉と憲法——法・政治・社会から考える』(新井誠・友次晋介・横大道聡編、2022年、弘文堂) 『国際ビジネス論を学ぶ』(小川雄平・猿渡剛編、2020年、中央経済社) 『農と食の新しい倫理』(秋津元輝・佐藤洋一郎・竹之内裕文編、2018年、昭和堂) 『コミュニティ・エネルギー』(室田武ほか、2013年、農文協) その他、授業中に指示する。	
課題に対するフィードバックの方法 講義中にフィードバックする。	
成績評価の方法 フィードバックシート 100点 (10点満点×10回提出)	
その他 対話型の講義を重視する。発言は講義への貢献であり、積極的に参加してほしい。フィードバックシートの取り組み方と評価、対話の場のデザインと参加方法については初回講義で講述する。	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
開発経済学	4 単位
	3・4 年次
教授 末 永 啓一郎	
授業の概要・到達目標 世界経済における貧富の格差は極めて大きい。いち早く経済発展を遂げた国もあれば、そうした国を模倣してキャッチアップに成功した国もある。その一方で、発展に取り残された国も数多く存在する。本講義では、経済発展やキャッチアップに成功した国々・失敗した国々を取り上げつつ、後発国が経済発展を遂げるための方策・戦略について議論する。到達目標は、世界における経済発展の歴史と現状、理論、計量を学ぶとともに、後発国が採るべき戦略について、自ら考察出来るようになることである。	
授業内容 第1回目 インTRODakション：開発経済学とは 第2回目 世界経済の歴史と現状：700万年間の経済成長 第3回目 技術進歩の起源：狩猟・採集・農業技術の進歩 第4回目 産業革命以前の技術進歩：綿・鉄・蒸気 第5回目 イギリスの産業革命 第6回目 日本の産業革命とキャッチアップ：製糸業 第7回目 日本の産業革命とキャッチアップ：綿産業 第8回目 開発とレント：レントとは何か？ 第9回目 開発とレント：レントの政治経済学 第10回目 保護貿易の経済効果：静学効果と動学効果 第11回目 輸入代替政策と輸出志向政策 第12回目 IT革命とキャッチアップ：iPhoneにみるGlobal Value Chain 第13回目 IT革命とキャッチアップ：コンピュータ産業の発展とキャッチアップ 第14回目 IT革命とキャッチアップ：アメリカの半導体産業の発展と日本のキャッチアップ 第15回目 IT革命とキャッチアップ：東アジア半導体産業のキャッチアップ 第16回目 経済成長理論：新古典派成長理論、内生的成長理論、シュンペーター理論 第17回目 キャッチアップ理論：資本蓄積型、技術模倣型、雁行形態論、分業とキャッチアップ 第18回目 開発経済の計量経済学 第19回目 経済成長の計量経済学 第20回目 中国経済の発展：二重経済論とルイスの転換点 第21回目 中国経済の問題点：不平等と汚職 第22回目 タイの経済発展：FDIと集積効果 第23回目 タイ経済の問題点：中所得国の罠とハリス＝トドロ・モデル 第24回目 フィリピン経済の発展：人口ボーナスとスカベンジャー 第25回目 ガーナの経済発展：貧困の罠とビッグ・プッシュ・モデル 第26回目 タンザニア：生活環境とNGO 第27回目 ルワンダとシエラレオネ：資源の呪いと内戦 第28回目 まとめ：経済発展、キャッチアップ、貧困 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 遅刻、居眠り、私語禁止	
準備学習の内容 予習・復習を心がけてください。	
教科書 デミルバス『レント・シーキングの政治経済学』八千代出版、2019年 中村文隆編『レントと政治経済学』八千代出版、2013年	
参考書 多数に上るため、講義の際に、指示する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業態度、講義レポート、期末試験による。	
その他 ミクロ経済学、マクロ経済学を未修得の場合は、講義前に指示するので、必要な項目を学習すること。Excelを用いたデータ分析・計量分析も行うため、Excelの操作をある程度、修得しておく方が望ましい（vlookup関数やピボットテーブル、回帰分析等）。	

科目ナンバー：(PE) ECN341J	
国際経済政策	4 単位
	3・4 年次
教授 藤 永 修 一	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 国際経済政策は経済政策の範疇の一つとして位置付けることができるが、今や一国の経済政策は他の諸国や世界経済に対して少なからず影響を及ぼす。また、グローバリゼーションは、世界経済や各国経済に対してプラス・マイナスの影響をもたらしている。そのため、近年、国内経済の諸問題を国際経済と関連付け、他国や国際機関へ責任を転嫁するという傾向が強くなっている。国際経済では自国の国益（時にはエゴ）が現れやすく、結局、国内経済と対外経済とのバランスを如何にとるかが今日の課題となる。この課題に対する処方箋を検討していくことが、本講義の目指すところである。 《到達目標》 この授業では理論的な分析だけでなく、歴史的動向を踏まえながら進めていく。現実の経済の動向に対して、多角的視点から物事を捉え、世間に流布している俗説に惑わされることのないような素養を身につけることを、この授業の目標とする。	
授業内容 第1回 a：イントロダクション b：国際経済政策とは何か 第2回 世界経済の現状 第3回 世界経済における日本の役割 第4回 世界経済の問題点と国際経済体制 第5回 GATT 第6回 WTO 第7回 金本位制 第8回 IMF（1）～1973年 第9回 IMF（2）1973年～ 第10回 国際収支 第11回 経常収支不均衡問題 第12回 金融危機:アジア通貨危機とリーマン・ショック 第13回 開放経済における財政政策と金融政策 第14回 貿易理論と貿易政策 第15回 比較優位の原理 第16回 関税の経済効果 第17回 輸入数量制限・生産補助金の経済効果 第18回 新しい貿易理論 第19回 戦略的貿易政策 第20回 自由貿易と保護貿易：まとめ 第21回 日米貿易摩擦（1）総論 第22回 日米貿易摩擦（2）1980年代 第23回 日米貿易摩擦（3）1990年代～ 第24回 アジア経済と日本 第25回 グローバリゼーションとは何か 第26回 グローバリゼーション:貿易と資本移動 第27回 グローバリゼーションの是非 第28回 まとめ	
履修の注意点 基礎科目：マクロ経済学、ミクロ経済学 関連科目：国際経済学、国際金融論、開発経済学、現代経済政策、産業組織論、経済政策原理	
準備学習の内容 授業時にプリントの配布で準備学習について説明する。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 『経済財政白書』内閣府、『通商白書』経済産業省 『世界経済の謎』竹森俊平、東洋経済新報社 その他は講義のなかで適宜指示し、また参考資料をプリントで配布する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 試験（70%）、授業への参加度（30%）で評価する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN351J	
財政政策	4 単位
	3・4 年次
准教授 倉 地 真太郎	
授業の概要・到達目標 [授業の概要] 本講義では、財政学のうち財政政策に焦点を当てて、理論と実際の両面から学習する。現在、日本は未曾有の政府債務を抱えており、将来の公共サービスの持続可能性に対して多くの人々が不安を抱えている。最近では政府が「異次元の少子化対策」を掲げて子育て支援政策の拡充を検討し、防衛費も過去最大の額を計上するなど財政支出は拡大し続けている。財政支出の拡大は日本だけに限らない。2020年初頭から猛威を奮った新型コロナウイルス感染症、2022年からはウクライナ危機の影響で多くの先進諸国でも財政支出の拡大が見られる。このような財政のあり方は持続可能なのだろうか。あるべき社会保障財政、地方財政、財政政策はどのようなものだろうか。なぜ日本では様々な財政問題が発生しているのか。どのようにすれば解決可能なのか。財政政策の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深める。 [到達目標] 本講義の目標は、日本と諸外国が直面する財政問題を学び、財政政策と公共サービスの意義と課題を理解すること、身近な社会問題を財政学的視点でとらえることである。	
授業内容 第1回目 aのみ：イントロダクション (危機の時代の財政政策) 第2回目 フィスカルポリシーとは何か 第3回目 フィスカルポリシーの理論と実際 第4回目 財政投融资 第5回目 財政金融 第6回目 公債管理政策 第7回目 財政赤字の持続可能性 第8回目 財政再建の国際比較 第9回目 福祉財政①税方式と社会保険方式 第10回目 福祉財政②普遍主義と選別主義 第11回目 福祉財政③年金財政 第12回目 福祉財政④社会手当 第13回目 福祉財政⑤生活保護財政 第14回目 福祉財政⑥医療財政 第15回目 福祉財政⑦介護財政 第16回目 福祉財政⑧教育財政 第17回目 福祉財政⑨保育財政 第18回目 福祉財政⑩マイノリティと財政 第19回目 地方財政の理論と実際①—地方税— 第20回目 地方財政の理論と実際②—地方財政計画— 第21回目 地方財政の理論と実際③—地方交付税— 第22回目 地方財政の理論と実際④—地方債— 第23回目 地方財政の理論と実際⑤—地方公営企業— 第24回目 地方財政の理論と実際⑥—地方財政制度改革— 第25回目 グローバル化と財政政策 第26回目 ポピュリズムと財政政策 第27回目 人口減少時代の財政政策 第28回目 まとめ	
履修の注意点 関連科目には「地方財政論」、「租税論」、「自治体経営論」があり、併せて履修することが望ましい。2年次の「財政学」を履修していることが望ましいが、未履修でも理解できる講義を目指す。	
準備学習の内容 日頃からニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある。履修登録の参考、事前予習などに活用することを勧める。	
教科書 指定しない。講義資料はすべてOh-o! Meijiのクラスウェブに掲載する。	
参考書 『財政学の扉をひらく』 高端正幸・佐藤滋（有斐閣）2020年、『財政学（第3版）』 神野直彦（有斐閣）2021年、『現代財政を学ぶ』 池上岳彦ら（有斐閣）2015年、『福祉財政』 高端正幸・伊集守直編（ミネルヴァ書房）2018年	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーについては次週の授業冒頭時にコメントの一部をピックアップし、フィードバックをする。また、レポートについてもレポート締め切り後の授業で全体に対して書き方や内容についてフィードバックを行う予定である。	
成績評価の方法 リアクションペーパー・平常点（20%）、レポート（20～25%）、定期試験（55～60%）の成績による。	
その他 オフィスアワーは2限後の昼休み中に実施する予定である。連絡先：mail@shintarokurachi.org	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
環境経済学	4単位
	3・4年次
教授 大森正之	
授業の概要・到達目標 I 経済学は自然および環境をどのように理解してきたのか？経済活動は公害や環境破壊といった事象にどのように関与してきたのか？そして現在、地域社会から地球規模に至る環境問題にたいして経済学、そして消費者・企業・政府さらに国際機関はどのような処方箋を準備しているのか？授業では環境経済学の形成史をたどりつつ、以上の諸論点を解明する。そして環境政策の様々な手法（法的な直接規制、経済財政的規制、情報的教育的誘導）がどのように構想され、その導入がどのように模索されたかを跡付ける。 II 1960年代の先進諸国における環境政策の模索とその後の導入を契機に、経済活動での環境利用における環境資源の節約、すなわち環境経済（Environmental Economy）の過程が始動する。80年代以降の廃棄物問題や地球規模の環境問題への関心を契機に、企業の自主的な環境管理活動から環境志向的な技術革新が生じ、台頭する環境志向の消費者群との連携からエコグッズが開発される。授業ではこうした環境ビジネスの展開に着目する。 授業の到達目標を企業および政府の現行の環境政策について、代案を準備できる能力の形成におきます。	
授業内容 第1回目 環境経済学の定義・方法・範囲 第2回目 古典派経済学における環境問題の不在 第3回目 環境経済学の源流Ⅰ：J.S ミルの自然理解と天恵物 第4回目 環境経済学の源流Ⅱ：J.S ミルにおける定常状態論と開発抑制志向 第5回目 環境経済学の源流Ⅲ：J.S ミルのコモンズ保存活動とナショナルトラスト 第6回目 環境経済学の源流Ⅳ：シジウィックとフォーセットによるミルの継承 第7回目 環境経済学の源流Ⅴ：ジェヴォンズによる「負の財」の発見 第8回目 環境経済学の端緒的形成Ⅰ：マーシャルの自由財と外部性論 第9回目 環境経済学の端緒的形成Ⅱ：マーシャルの都市住環境保全論と空気浄化税 第10回目 環境経済学の端緒的形成Ⅲ：マーシャルのゾーニング案と都市建築規制 第11回目 環境経済学の形成Ⅰ：ビグーの「負のサービス」と公私の限界生産物乖離論 第12回目 環境経済学の形成Ⅱ：ビグーの環境政策論（自主交渉、規制、税・補助金） 第13回目 制度学派の環境経済学：カップの社会的費用論と直接規制 第14回目 新制度学派の環境経済学Ⅰ：コースの社会的費用問題（コースの定理と排出権取引：規制か自主交渉か） 第15回目 市場経済の形成と環境問題（前近代～第二次世界大戦） 第16回目 市場の失敗と環境政策の模索・導入（戦後～1970年代） 第17回目 環境経済学の対応（厚生経済学の限界とマルクス学説の適用） 第18回目 環境経済学の課題（マルクス学説の限界とシュンペーターのリスク論） 第19回目 環境政策論Ⅰ：環境立法と直接規制 第20回目 環境政策論Ⅱ：直接規制と環境補助金および環境課徴金 第21回目 環境政策論Ⅲ：直接規制と PPP および環境産業の形成 第22回目 環境政策論Ⅳ：緑の消費者と緑の企業の連携（エコラベリング制度） 第23回目 環境ビジネス論Ⅰ：「公害防止は儲かる」仮説とエコナビテーション 第24回目 環境ビジネス論Ⅱ：環境ソフトビジネスの普及 第25回目 環境マネジメント論Ⅰ：環境管理と環境監査（EMAS と ISO14000） 第26回目 環境マネジメント論Ⅱ：環境管理・監査システム・環境報告書・環境会計 第27回目 企業の環境経済Ⅰ：環境経済学から環境節約学へ 第28回目 企業の環境経済Ⅱ：エコテクノストラクチャーの形成と環境戦略	
履修の注意点 履修の前提科目はないが、初級の経済学を学んでおいてほしい。 授業の資料は適宜、授業時間中に配布するが、原則として欠席者に後日配布しない。 準備学習は、事前に配布する資料を授業前に読み、論点を明確に理解しておくことに尽きます。	
準備学習の内容 各回の講義内容を配布資料で復習してほしい	
教科書 大森正之(2020)『持続可能な経済の探究』丸善出版	
参考書 大森 正之『ケンブリッジ環境経済思想の形成と展開』人間の科学新社〔金子 光男・尾崎 和彦編著『環境の思想と倫理』所収〕 ハーマン・デイリー著（新田 功、藏本 忍、大森 正之訳）『持続可能な発展の経済学』みすず書房 ペーテル・セーデルバウム著（大森正之、小祝慶紀、野田浩二訳）『持続可能性の経済学を学ぶ』人間の科学新社 K.W.カップ著（大森正之訳）『制度派経済学の基礎』人間の科学新社 環境経済政策学会編(2018)『環境経・済政策学事典』丸善出版	
課題に対するフィードバックの方法 可能な限りリアクションペーパーについて、翌週、翌々週にフィードバックする。	
成績評価の方法 学期末試験のみで評価	
その他 特に定めない	

科目ナンバー：(PE) ECN351J	
租税論【2022年度以降入学者】	2単位
	3・4年次
教授 小野島 真	
授業の概要・到達目標 本講義の目標は、われわれにとって身近な税制を学ぶことで、望ましい負担のあり方についての理解を深めることである。これまでの税制改革に関する議論について、国内外の事例を取り上げ、税制についての理解を深めてもらう。その上で、納税者でもある受講生の税に対する意識を向上してもらいたいと考えている。	
授業内容 誰しものが望んで税を負担したいとは考えていないが、税がなければさまざまな政府活動が立ち行かなくなることは明らかである。そして、税は政府の強制力を持って徴収されるものであり、我々の行動をも大きく変化させることになる。本講義では、税について、経済学、財政学、法学等の基礎知識を用いて考えてゆく。少子高齢化が深刻化する中、そして、経済のグローバル化が進展するなか、望ましい税制とは如何なるものなのか。これまで税制改革としてどのようなことが議論されてきたのか。海外の事例等も含めて今後の税制改革についての理解を深める。	
授業計画 第1回目 インTRODakション～租税とは～ 第2回目 租税原則の歴史の変遷 第3回目 消費課税—消費課税の制度— 第4回目 消費課税—消費課税の理論と消費税改革をめぐる議論— 第5回目 所得課税—所得税の制度— 第6回目 所得課税—所得税の理論と所得税改革をめぐる議論— 第7回目 法人課税—法人税の制度— 第8回目 法人課税—法人税の理論と法人税改革をめぐる議論— 第9回目 資産課税 第10回目 国際課税の諸問題 第11回目 税制の国際的調和化をめぐる議論 第12回目 環境税 第13回目 抜本的税制改革に向けて 第14回目 まとめ	
履修の注意点 授業はスライドを中心に進める。なお、授業計画については、理解度等を考慮して順番を変更することがありうる。	
準備学習の内容 日頃から税制に関するニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある。	
教科書 指定しない。随時、資料を配布する。	
参考書 『税大講本』国税庁(国税庁HPよりダウンロード可)、『グローバル財政論』兼村高文他著(税務経理協会)2012年、『財政学(改訂版)』神野直彦(有斐閣)2007年など。そのほか、授業中に参考書を指示する場合がある。	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーやその他の課題については、次回授業時に説明を加える。	
成績評価の方法 リアクションペーパー等(40%)、定期試験(60%)を予定している。受講者数により変更する場合があるが、その際には改めて指示する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN351J	
財政学	4 単位
	3・4 年次
教授 小野島 真	
授業の概要・到達目標 <p>本講義では、財政学の基本的な考えを、理論と実際の両面から学習する。現在、少子高齢化がますます進展している日本は、未曾有の政府債務を抱えており、将来の公共サービスの持続可能性に対して多くの人々が不安を抱えている。さらに、戦後日本が築いてきたさまざまな制度は、時代を経て多くの歪みが生じてきている。中間層の減少と格差の拡大、未知の感染症などを含めた緊急事態への対応、安全保障環境の変化、環境問題等を含めたグローバルな課題への対応など、財政面での課題も山積みとなっている。危機の時代において、あるべき財政の姿はどのようなものだろうか。なぜ、このような財政問題が発生しているのか。財政学の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深める。</p>	
授業内容 <p>本講義は、財政と市場の関係性、日本と諸外国が直面する財政問題を学び、財政、ひいては政府の意義と課題を理解することで、身近な社会問題を財政学的視点で考える。講義は概ね以下の授業計画で実施する。</p> <p>授業内容 第1回目 aのみ：イントロダクション (危機の時代の財政) 第2回目 財政の機能と役割 第3回目 租税原則 第4回目 租税理論の基礎 第5回目 租税制度の国際比較 第6回目 所得税 第7回目 法人税 第8回目 消費税 第9回目 グローバル化と税制 第10回目 財政赤字の歴史とその理論 第11回目 公債管理政策 第12回目 公債負担論 第13回目 公共財とその理論 第14回目 市場の失敗と政府の失敗 第15回目 財政投融资改革 第16回目 独立行政法人と公共サービス 第17回目 地方財政の理論と実際—地方税— 第18回目 地方財政の理論と実際—補助金制度 第19回目 地方財政の理論と実際—公営企業— 第20回目 環境政策 (環境税) 第21回目 環境政策の具体的展開 第22回目 福祉財政 (年金制度) 第23回目 福祉財政 (医療・介護制度) 第24回目 人口減少時代の財政問題 第25回目 財政問題の国際比較 (EU加盟国を中心として) 第26回目 財政問題の国際比較 (OECD加盟国を中心として) 第27回目 財政問題の国際比較 (近隣アジア諸国を中心として) 第28回目 まとめ</p>	
履修の注意点 <p>関連科目には「地方財政論」、「財政政策」、「自治体経営論」があり、併せて履修することが望ましい。なお、授業計画は理解度等により順番を変更する可能性がある。</p>	
準備学習の内容 <p>日頃からニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある</p>	
教科書 <p>指定しない。随時、資料を配布する。</p>	
参考書 <p>『現代財政論』星野泉・小野島真編著 (税務経理協会) 2007年、『財政学 (改訂版)』神野直彦 (有斐閣) 2007年、『グローバル財政論』兼村高文ら (税務経理協会) 2012年など。そのほか、授業中に参考文献を指示する。</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>リアクションペーパーやその他の課題については、次回授業時に説明を加える。</p>	
成績評価の方法 <p>リアクションペーパー等 (40%)、定期試験 (60%) を予定している。受講者数により変更する場合があるが、その際には改めて指示する。</p>	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN311J	
応用数量分析	2単位
	3・4年次
講師 中 島 満 大	
授業の概要・到達目標 この講義には「応用」という語が冠されている。しかしこの「応用」は、高度な統計的な手法を紹介することを指すのではない。本講義では、確率サンプリングに基づいて収集されたサーベイ・データを再分析していく。実際に研究に利用されているデータを分析するという意味で本講義では「応用」という言葉を用いている。 本講義では、まず演繹的なプロセスにおける仮説検証や因果関係の考え方について解説していく。次に統計解析ソフトSPSSに触れながら、基本的な統計的手法について講義する。最後に調査報告書を執筆し、二次分析のプロセスを一通り経験してもらう予定である。	
授業内容 (1) 二次分析とは何か？ (2) 演繹と仮説の検証 (3) 因果関係 (4) 測定と四つの尺度 (5) SPSSの基本 (6) 1変量の記述統計 (7) 2変量の記述統計 (8) カイ二乗検定 (9) 平均の差の検定 (10) 単回帰分析 (11) 重回帰分析 (12) ロジスティック回帰分析 (13) 調査報告書の作成 (1)：図表の作成 (14) 調査報告書の作成 (2)：報告書の執筆	
履修の注意点 本講義では、SPSSなどのソフトを使った実習を伴う。わからない点があったら、その都度、教員にサポートを求めてほしい。またそれによって履修者の進捗のスピードに差が出る場合があるが、その点にも寛容であってほしい。	
準備学習の内容 予習として、各回の講義では何を目的にしているのかを確認してから受講してほしい。また復習では、授業中に終わらなかった作業を次回の授業までに終わらせてきてほしい。	
教科書 適宜、レジュメを配布する。	
参考書 適宜、講義中に紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点 (30%) 毎回の授業における作業の達成やコメントカードによって平常点を算出する。 調査報告書 (70%) 二次分析を使って調査報告書を各自作成してもらう。その報告書を評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL321J	
地域行政学	4 単位
	3・4 年次
兼任講師 山 岸 絵美理	
授業の概要・到達目標 <p>2000年4月より施行された「地方分権一括法」により、日本の地方自治は大きな転換期を迎え、自治体は拡大した自己決定権に基づき、自ら「まちづくり」を行うことが求められるようになった。しかし、地方分権改革から20年経過した今、少子高齢化、頻発する災害をはじめ、自治体行政をめぐる状況は極めて厳しいともいえる。よって、そうした課題に対するこれからの地域のあり方は、都道府県や市町村といった地域行政のみならず、地域に住む住民が、自分たちの生活する地域を現在・未来の視点でどのように考えていくのが、今後の地域の在り方を左右するといえよう。</p> <p>本講義では、地方分権による「地域」の役割の高まりを意識し、こうした改革がもたらされた歴史的背景、制度の変化について学ぶ。そして、民主主義のもとでの地方自治の意義を検討し、日々変化する地域行政の今後のあり方について考えることで、地域の一員として地域の行政への関心を高めてもらうことをめざす。また、少子高齢化への対策、頻発する災害、ジェンダー政策など昨今の自治体行政をめぐる具体的な課題についても考えていきたい。その意味で、本講義は、公務員志望者のみを対象とするものではなく、地域に住む一人の住民として関心がある学生など、幅広い学生の参加を望む。</p>	
授業内容 第1回目 インTRODakション（地域とは何か） 第2回目 地域と行政 -区域と自治の視点- 第3回目 地方政府の種類と機能 〈1〉 第3回目 地方政府の種類と機能 〈2〉 第4回目 自治体議会の仕組みと課題 〈1〉 第5回目 自治体議会の仕組みと課題 〈2〉 第6回目 自治体の行政機構の仕組みと課題 〈1〉 第7回目 自治体の行政機構の仕組みと課題 〈2〉 第8回目 日本の地方自治の歴史 〈1〉 第9回目 日本の地方自治の歴史 〈2〉 第10回目 地方分権改革の流れとその意義 〈1〉 第11回目 地方分権改革の流れとその意義 〈2〉 第12回目 「平成の大合併」と市町村 〈1〉 第13回目 「平成の大合併」と市町村 〈2〉 第14回目 広域行政の仕組みと課題 〈1〉 第15回目 広域行政の仕組みと課題 〈2〉 第16回目 大都市行政の現況と課題 〈1〉 第17回目 大都市行政の現況と課題 〈2〉 第18回目 自治体の政策と政策過程 〈1〉 第19回目 自治体の政策と政策過程 〈2〉 第20回目 政策法務と条例 第21回目 自治体におけるジェンダー政策の意義と役割 〈1〉 第22回目 自治体におけるジェンダー政策の意義と役割 〈2〉 第23回目 防災政策と自治体 〈1〉 第24回目 防災政策と自治体 〈2〉 第25回目 自治体経営と協働 〈1〉 第26回目 自治体経営と協働 〈2〉 第27回目 現代の地域の課題と行政 第28回目 まとめ	
履修の注意点 地方自治についての理解が必要不可欠となるので、行政学、政治学への知識があることが望ましい。 毎日の新聞やニュースで取り上げられる自治体、自分が住む地域への関心を持ってほしい。	
準備学習の内容 復習については、講義で得た知識を使って、毎日の新聞やニュースで取り上げられる自治体や自分が住む地域を捉え直す事で、知識を身につけてほしい。	
教科書 開講時に指示する。	
参考書 適宜、参考になる文献・資料を提示する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 基本は学期末レポートで評価。 授業内で行うリサーチペーパー、授業への参加度によって、評価点を加算。	
その他 授業の妨げ、他の学生の迷惑になるような行為は厳禁です。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
行政情報論	2単位
	3・4年次
兼任講師 岩井義和	
授業の概要・到達目標 今日、行政には行政環境、特に市民社会とのリレーション・シップづくりの重要性が増してきている。それは、行政を取り囲む環境が急激に変化し、多様化したからである。そこで本講義において、学修者は行政と様々な環境主体とのリレーション・シップをつくるコミュニケーション活動としての行政と情報の関係を理解し、社会の課題解決に役立てるための行政情報を学修する。 学修者には、行政活動における、情報をキーワードに市民とのコミュニケーション実践（広聴・広報）を養成することを目的とし、情報マネジメントに基づく政策立案できる能力がつくことを目標とする。	
授業内容 第1回目：社会システムにおける行政と情報環境 第2回目：情報行動とコミュニケーション 第3回目：現代情報の性質 第4回目：行政情報に関する政策 第5回目：行政組織内における情報の役割（広聴・広報を中心に） 第6回目：行政組織外における情報の役割（広聴・広報を中心に） 第7回目：行政情報と地域活性化（広聴・広報を中心に） 第8回目：地域経営と情報（広聴・広報を中心に） 第9回目：広報・広聴マネジメント 第10回目：住民との合意形成 第11回目：市民の社会参加と行政情報 第12回目：広報戦略の組織的展開 第13回目：行政におけるコミュニケーション・マネジメント 第14回目：中枢管理機能としての行政情報・まとめ	
履修の注意点 特別な準備は必要ないが、行政学の基礎は復習しておくようにしてください。講義は、講義ノート・資料に沿って講義を行います。また、受講状況等を見ながら小テストや課題レポートを行うこともあるため、受講に当たっては必ずノートを持参するようにしてください。	
準備学習の内容 事前学習としては、自分が住んでいる自治体などのホームページや広報紙を見て理解し、事後学習としては、自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて理解を深めてください。	
教科書 特に使用しない。	
参考書 特に使用しない。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 期末試験80%、小テスト等10%、授業への参加度10%	
その他 連絡先：iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp 〈KD〉	

公共政策学

4 単位

3・4 年次

教授 (ガバ) 木村俊介

授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》

公共政策とは何だろうか。公共政策とは、「社会の問題を解決するための方向性と具体的手段」と考えられている。このような公共政策は、社会経済の変化に応じて刻々と変化してゆく。特に近年では、新型コロナウイルスのように未曾有の課題が発生し、国民生活自体とともに、公共政策における立案や実施プロセスが大きく変動してきている。

受講者諸君が将来社会に出て様々な職業に就く上で、公共部門（国、自治体、公的機関）の内部で働く機会や、公共部門をカウンターパートとして働く機会に遭遇することは少なくない。このため、このような公共政策の立案・実施のプロセスを理解しておくことは、様々な洞察を行う上で意義があることと考えられる。

講師は、元国家公務員（総務省）であり、国では総務省、内閣官房（安全・危機管理担当）等のほか、地方公共団体では広島県、岐阜県及び松山市（中核市）での勤務経験を有する実務家教員である。本講義では、行政学の政策基礎、公共政策について行政実務を反映した応用的な知識を身につけることを第一目標とする。その際、行政の実務の多くは、行政機関と国会、住民等の外部環境とのインターフェイスにおいて培われてきた多くのルールやノウハウが存在する。講師はそれらを踏まえた講義を行い、その上で、政策課題を解決する立案能力や、政策を巡る政府・自治体・民間のあり方について考える力をつけることを最終的な目標とする。

講師（私）がモットーとしているのは、「論議を呼んでいる政策こそが、実社会で機能している政策である。」という点である。履修者の皆さんと「論議の渦中にある公共政策」を取り上げ、意見交換も図りたいと考えている。

《授業の概要》

前半は、公共政策の意義や政策の企画立案、実施過程に関する基本的事項を扱い、後半は、公共政策の現代的展開を全体テーマとして、財政、環境、政策評価、犯罪対策、大都市問題、デジタル政策、社会保障、パンデミック対策と危機管理等の個別テーマの講義を行う（個別のテーマは変更する可能性もある。）。

授業内容

第1講 インTRODクシヨ、視座（公共政策と現代社会）	第15講 評価2（政策過程と政策評価）
第2講 政策1（公共政策学とは何か、政策の定義）	第16講 問題（政策デザインとは何か、問題の性質、問題状況の調査、問題構造と定式化）
第3講 政策2（3つの理念型、公共政策学の学問的構成）	第17講 手段（さまざまな手段、人々の行動を変えるサービスの提供、社会的解決の支援等）
第4講 歴史（公共政策の今日的位相）	第18講 文脈（コンテキストとは何か、政策手段にととのコンテキスト等）
第5講 市民1（市民と政府と政策の関係、三層化する政府と市民）	第19講 価値（価値デザインにおける価値の重要性、公共的な価値、諸価値の衝突と調整等）
第6講 市民2（政府政策の過程と市民、市民の意思は政府政策を制御するか）	第20講 公共政策の現代的展開1（財政）（※調整により以下のテーマは変更される場合もある。）
第7講 自治1（社会の共有基盤としての公共政策、自治の政策主体としての市民）	第21講 公共政策の現代的展開2（環境）
第8講 自治2（市民自治の政策基盤、自治・共和・公共）	第22講 公共政策の現代的展開3（政策評価）
第9講 形成（アジェンダ設定、政策立案、政策と政治の交錯）	第23講 公共政策の現代的展開4（犯罪対策）
第10講 決定1（決定アジェンダと政策の怒モデル、決定とは何か）	第24講 公共政策の現代的展開5（大都市問題）
第11講 決定2（合理的な決定とインクリメンタリズム、アリソン・モデル、政策決定と政治家）	第25講 公共政策の現代的展開6（デジタル政策）
第12講 実施1（政策実施の視点、実施研究の拡張）	第26講 公共政策の現代的展開7（社会保障）
第13講 実施2（行政改革と政策実施、トップダウンかボトムアップか）	第27講 公共政策の現代的展開8（危機管理）
第14講 評価1（政策評価の概念、日本の政策評価）	第28講 まとめ

履修の注意点

講義内容は公共政策学全般に及ぶほか、特定の政策分野については外部講師を招き、掘り下げた内容の講義実施を予定しており、内容は豊富である。半期集中科目であり、受講生は意欲的に学ぶ姿勢が必要である。

準備学習の内容

日常生活の中のあるゆる場所と場面に「公共政策」は介在している。日頃から、新聞、ニュース等において、行政活動に係る出来事に関心を持っておくこと。

教科書

【公共政策学】 石橋章一朗ほか、ミネルヴァ書房、2018年。
上記教科書に加え、講師が作成する副教材を使用する。副教材はウェブクラスにアップロードするので各自でダウンロードすること。

参考書

秋吉貴雄 【入門公共政策学】 岩波新書 2017年。
御厨貴 【公共政策】 放送大学大学院教材 2017年。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 【公共政策学の基礎】 有斐閣ブックス 2015年。
木村俊介（単著）『グローバル化時代の広域連携』（単著）第一法規、2017年。
【広域連携の仕組み（改訂版）』（単著）第一法規、2019年。
木村俊介（共著）（クリックして閲覧可能）
『フジテレビの展望』 都市センター、2014年。
<http://hdl.handle.net/10291/22564>
『ネーミングライツ』 『自治研究』 第一法規、2014年。
<https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/handle/10291/21137>
『人口減少時代における地域公共交通のあり方』 都市センター、2015年。
<https://www.toshior.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2015/05/report149.pdf>
『まちづくりと地域公共交通（上）（下）』 『都市とガバナンス』 都市センター、2016年。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21504/1/toshitogovernance_25_66.pdf
『ID地域自治論』 『地方自治』 地方自治制度研究会、2017年、2-49頁。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21135/1/chihougousei2_kimura.pdf
『広域連携時代における公共施設の運営』 『地方議事人』 中央文化社、2018年。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21141/1/facility2_kimura.pdf
『半代表制的性質を伴う地方議会』 『ガバナンス研究紀要No16』 2020年。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21010/1/gabanansu_16_1.pdf
『新型インフルエンザ等特措法と行政法への道しるべ』 明治大学、2020年。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21331/1/harenohi_kimura_1.pdf
『新型インフルエンザ等対策特別措置法と行政法への道しるべ（2）』 明治大学、2021年。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21656/1/shingatacorona_kimura_1.pdf
『自然災害による道路の造営物責任一飛脚川訴訟判決とその後』 『行政法研究』 信山社、2020年。
<https://www.meiji.ac.jp/mugs2/faculty/6t5h7p00000ph8bo-att/a1590251421750.pdf>
『水道広域化の展望—水道企業団の成果と課題』 『公営企業』 2020年。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/21138/1/chihouzaisei2_kimura.pdf
『指標からみる自治体の資産管理について』 『JFMA JOURNAL』 2021年。
https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/22085/1/jfma_2021_autumn_50.pdf

課題に対するフィードバックの方法

Oh MeijiのClass webにて全体講評をする

成績評価の方法

- 1 講義の出席・参加30%、ミニレポート30%、期末レポート40%
- 2 17回（6割に相当）以上の出席回数を最低限の単位取得の条件とする。

その他

将来、行政関係の仕事に就きたい人、行政と連携して仕事をしたい可能性も考えている人、社会人としての素養として行政の仕組みを勉強したい人等にとって、その一助となるよう講義内容を企画したいと考えている。そのような意味で、公共政策の面白さを是非知ってもらいたいと考えているところである。

講師の活動（下記のURLにアクセスし、PDFを閲覧可能。）

明治大学学術成果リポジトリ

https://meiji.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&pn=1&count=20&order=2&lang=japanese&all=%E6%9C%A8%E6%9D%91%E4%BF%8A%E4%B%BB&creator=%E6%9C%A8%E6%9D%91%E4%BF%8A%E4%B%BB&page_id=13&block_id=21

科目ナンバー：(PE) SOC341J	
社会福祉政策論	2 単位
	3・4 年次
教授 鍾 家 新	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 現代社会における貧困、疾病、老後の所得問題・介護問題、格差・不平等などの社会問題を解決する主な対策は社会福祉政策である。この授業の主なテーマはつぎのとおりである。(1)社会福祉の意味・関連概念・基本的な考え・機能、(2)貧困救済対策に関する日中比較、(3)社会福祉の政策主体・厚生省の成立と戦後の機構改革／戦後の社会福祉行政の主な課題、(4)国民健康保険の創設・普及と医療保険の改革、(5)労働者年金保険・厚生年金保険の創設・実施と年金保険の改革、(6)高齢期の生活と介護保険の制定。この授業は日本の社会福祉政策を中心に講義するが、比較対象として、中国の貧困救済対策・社会福祉政策・福祉格差も取り上げる。日中の社会福祉政策にかんする比較によって、東アジア型の福祉モデルの特質を探究する。 《授業の到達目標》 この授業ではつぎの諸問題を明らかにすることが到達目標である。(1)社会福祉政策の主な内容・創設された背景、直面している課題は何か。(2)産業化、社会主義、とくに戦争が社会福祉政策の形成・社会福祉行政の運営にどう影響してきたか。(2)核家族化・少子高齢化・グローバル化のなかで、社会福祉政策がどう改革されたか。本授業の受講によって、社会福祉政策にかんする体系的知識と多角的な視座を身につけこができる。社会福祉政策にたいする探究は今後の人生設計や生き方の選択に役立つ。	
授業内容 第1回：社会福祉の定義／関連概念 第2回：社会福祉の基本的な考え方／機能 第3回：貧困救済対策に関する日中比較(1)：恤救規則と救護法 第4回：貧困救済対策に関する日中比較(2)：生活保護制度 第5回：貧困救済対策に関する日中比較(3)：中国の「五保戸制度」 第6回：貧困救済対策に関する日中比較(4)：中国における都市部と農村部の福祉格差 第7回：社会福祉の政策主体の形成：厚生省の創設と戦前の社会福祉行政 第8回：社会福祉の政策主体の改革：戦後の厚生省の機構改革と社会福祉行政 第9回：農村救済・戦争遂行と国民健康保険の創設・普及 第10回：経済成長・少子高齢化における医療保険の改革 第11回：戦争遂行と労働者年金保険・厚生年金保険の創設・実施 第12回：経済成長・少子高齢化における年金保険の改革 第13回：高齢期の生活と介護保険の制定・実態／外国人介護労働者の現状 第14回：東アジア型の福祉モデルの特質 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 なし	
準備学習の内容 配布した資料を授業の当日までには読むこと。授業後、復習すること。	
教科書 なし	
参考書 『日本型福祉国家の形成と「十五年戦争」』鍾家新(ミネルヴァ書房)1998年。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 ①平常点と②期末の筆記試験によって評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC341J	
コミュニティ福祉論	2 単位
	3・4 年次
兼任講師 手塚 崇子	
授業の概要・到達目標 現代社会におけるコミュニティの変化、地域における高齢者・介護者、障害者、子どもに対する支援に関する制度を概観し、地域福祉についての理解を深めることである。また、国や地方自治体、専門職の役割や社会福祉事業を担う事業者やボランティア等による多様なコミュニティを理解し、多様な福祉の実態を理解することである。 到達目標は、(1)地域住民の生活を支えるための国や地方自治体の仕組みや地域の課題を理解し、(2)地域住民、コミュニティ、社会福祉の対象者を理解した上でまちづくりについて考察することである。	
授業内容 第1回 コミュニティとはー地域福祉をめぐる課題 第2回 地域福祉とその変容 第3回 地域福祉の理念 第4回 イギリスの地域福祉の歴史と社会福祉協議会 第5回 日本の地域福祉の変遷 第6回 高齢者に関する支援 第7回 介護保険と地域包括支援センター 第8回 福祉用具貸与・購入、住宅改修 第9回 社会的養護とはー社会的養護の子どもの背景や環境を考えるー 第10回 里親制度と内密出産 第11回 里親制度の事例を通しての支援について 第12回 障害児の支援について 第13回 障害者の就労と地域支援 第14回 授業まとめー地域福祉とコミュニティ ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 地域福祉をめぐる諸制度を理解し、地域の課題を理解することを重視している。授業の資料を復習し、自分が住んでいる地域の現状と課題について考えてほしい。	
準備学習の内容 毎回、次回の授業のテーマを伝えるので、事前に厚生労働省や子ども家庭庁が発表している報告書等を読んでおくこと。	
教科書 教科書 特に定めない。随時資料を配布する。	
参考書 ・加山弾・熊田博喜・中島修・山本美香(2020)『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣 ・川上富雄(2017)『地域アセスメントー地域ニーズ把握の技法と実際』学文社 ・社会福祉養成講座編集委員会編(2015)『地域福祉の理論と方法(第3版)』中法法規出版 ・東京大学高齢社会総合研究機構編(2020)『地域包括ケアのまちづくり』東京大学出版	
課題に対するフィードバックの方法 定期試験の回答については、終了後10日をめぐりに(再試等がない場合)、Ohmeiji内で公表する。	
成績評価の方法 授業への参加度・平常点(30%)、期末試験(70%)で成績を評価する。授業への2/3以上の出席が前提となる。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ARS391J	
異文化ビジネス論概論	2単位
	3・4年次
教授 海野素央	
授業の概要・到達目標 <p>今日、グローバル化の下において、海外進出やM & A（企業の合併・買収）が頻繁に行われる中で、それに伴う異文化的な諸問題が発生している。例えば、中国進出日本企業の中には、中国人従業員の品質、作業標準書、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）等に対する思考様式が、日本人管理職のそれと相違するために生じる様々な問題に直面している企業が多い。日本人管理職と中国人管理職とのチームワークの醸成や信頼関係の構築に悩んでいる日本企業もある。同様の現象は、インド進出日本企業においても観察することができ、現地インド人従業員のモチベーションにマイナスの影響を与えている。</p> <p>そこで、本講義では、海外進出がもたらす異文化ビジネス環境において、従業員のモチベーションを高め、コラボレーションを実現させる知識やスキルを学生諸君に習得させることを目標に、実践的な講義を行う。</p>	
授業内容 <p>異文化ビジネスの基礎理論と実践を交えた構成とする。</p> <p>理論面では、R・ハウス、J・チョホカー、G・ウィーバー、K・トーマス等の理論を取り上げる。実践面では、事例研究、シミュレーション、DVD等を取り入れながら、異文化コラボレーション力を向上させていきたいと考えている。</p> <p>本講義では、以下の内容を考えている。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 インド進出日系企業における異文化マネジメントと人材育成 第3回 インド進出日系企業におけるインド人管理職の意識とモチベーションの高め方 第4回 事例研究（インド） 第5回 中国進出日系企業における異文化マネジメントと人材育成 第6回 中国進出日系企業における中国人従業員のモチベーション向上と維持の仕方 第7回 事例研究（中国） 第8回 タイ進出日系企業における異文化マネジメントと人材育成 第9回 事例研究（タイ） 第10回 事例研究（アメリカ） 第11回 異文化交渉I 第12回 異文化交渉II 第13回 異文化交渉III 第14回 講義全体のふりかえり</p> <p>講師による一方的な講義を避け、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。</p>	
履修の注意点 <p>「異文化理解とコミュニケーション」並びに「異文化摩擦とコミュニケーション」を履修していることが望ましい。</p>	
準備学習の内容 <p>次回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。授業で扱った理論並びに概念を復習しておくこと。</p>	
教科書 <p>特に定めない</p>	
参考書 <p>海野素央（2008）『アジア地域と日系企業－インド・中国進出を考える企業への提言』（同友館） 海野素央（2005）『合併企業のモチベーション管理－組織文化の蔭をどう打破するか』（中央経済社） 海野素央（2002）『異文化ビジネスハンドブッカー事例と対処法』（学文社）</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>事例の発表に関して、講師が口頭でフィードバックを行う。</p>	
成績評価の方法 <p>「期末試験」「授業への貢献度」</p>	
その他 <p>特になし。</p>	

科目ナンバー：(PE) ARS391J	
実践異文化ビジネス論	2単位
	3・4年次
教授 海野素央	
授業の概要・到達目標 <p>今日、日本企業は、地球規模の競争にさらされ、それに生き残り、発展していかなければならないという共通の課題を抱えている。しかし、企業の多くは、異文化ビジネス環境でリーダーシップを発揮し、効果的に業務を遂行できる人材の不足に悩んでいる。</p> <p>本講義では、異文化ビジネス環境において、成功を取めることができるような異文化ビジネス人材の育成を目的としている。それは、異文化的なものの見方並びに考え方を備えた人材であり、文化的背景の異なる相手の価値観と自分乃至自社の価値観を調整できるKSAA（Knowledge、Skill、Ability、Attitude:知識・スキル・能力・態度）を備えた人材でもある。その意味で極めて実践的な内容となる。</p> <p>また、本講義では、グローバル化の下における望ましいリーダー像である異文化協働型リーダーの育成にも関心が注がれている。</p> <p>異文化のみならず、同文化においても、もの見方、考え方、価値観の異なる人と協働し、リーダーシップを発揮する際に、本講義で得られたKSAAは必ずその力を発揮されるであろう。</p>	
授業内容 <p>実践の前に、基礎理論を講義する。理論面では、I・ベンズ、R・シュワルツ、R・ハーグローブ、G・レンウィック等の理論を基礎に、海野が展開してきた異文化ファシリテーター、異文化コーチ、異文化メンターに関する論を講義する。一方、実践面では、事例、シミュレーション（疑似体験）、DVD等を取り入れながら、異文化ビジネス人材の育成にコミットしていきたい。</p> <p>尚、本講義では、異文化ファシリテーター、異文化コーチ、異文化メンターとしての信念や価値観も考究する。</p> <p>本講義では、以下のような内容を講ずる予定である。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 ファシリテーションとは 第3回 異文化ファシリテーターの役割 第4回 異文化ファシリテーション（シミュレーションI） 第5回 異文化ファシリテーション（シミュレーションII） 第6回 異文化ファシリテーション（シミュレーションIII） 第7回 異文化ファシリテーション（シミュレーションIV） 第8回 コーチングとは 第9回 異文化コーチングと異文化メンタリング 第10回 事例研究I & II 第11回 事例研究III 第12回 企業価値の浸透と促進 異文化チームとコンフリクト 第13回 合併企業における異文化コラボレーターの仕事 第14回 授業全体のふりかえり</p> <p>また、講師による一方的な講義を避け、講師と受講者との双方向的コミュニケーションを図りたい。</p>	
履修の注意点 <p>「異文化理解とコミュニケーション」並びに「異文化摩擦とコミュニケーション」を履修していることが望ましい。</p>	
準備学習の内容 <p>次回の授業内容に関して参考書等で調べておくこと。授業で扱った理論並びに概念を復習しておくこと。</p>	
教科書 <p>特に定めない</p>	
参考書 <p>海野素央（2004）『異文化コラボレーターの仕事－合併はなぜうまくいかないのか』（中央経済社） 海野素央（2005）『合併企業のモチベーション管理－組織文化の蔭をどう打破するか』（中央経済社）</p>	
課題に対するフィードバックの方法 <p>ファシリテーションに関して、講師が口頭でフィードバックを行う。</p>	
成績評価の方法 <p>「期末試験」「授業への貢献度」</p>	
その他 <p>特になし。</p>	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論B【2022年度以降入学者】	2単位
地域政策論II【2021年度以前入学者】	3・4年次
兼任講師 手塚 崇子	
授業の概要・到達目標 授業の概要は、「地域と子ども」に関する制度・施策の概要を学び、子どもと保護者をめぐる現状と課題を理解し、国や地方自治体の役割を知ることである。 到達目標は、(1)現代社会の子育てをめぐる支援政策についての基本的な制度政策の仕組みを理解し、(2)子どもや保護者を巡る様々な課題について、事例や映像を通して理解し、(3)自治体の役割や機能、保育士等の専門職との連携について課題を考察できるようにすることである。	
授業内容 第1回 インTRODクシヨナー子育て支援とはー 第2回 妊娠、母子手帳、母子保健 第3回 子育て支援と保護者支援 第4回 子ども基本法と市町村と保育所の役割 第5回 就学前教育・保育(1) 幼保一元化の施行時期・幼保一体化の特区時期 第6回 就学前教育・保育(2) 幼保一体化から認定こども園へ 第7回 社会的養護とは(1) 乳児院と児童養護施設について 第8回 社会的養護とは(2) 子どもの環境や背景を考える 第8回 こうのとりのゆりかご、内密出産を考える 第9回 子どもを支える里親を支える里親制度 第10回 児童相談所の役割について 第12回 児童虐待・子どもの貧困・ヤングケアラーについて 第13回 障害児(発達障害)についてー障害児の療育についてー 第14回 子どもに関わる支援のまとめ ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 この授業では、子どもに関わる施策を概観しながら、子どもと保護者をめぐる現状と課題を理解することを重視している。授業の資料を復習し、子どもと保護者をめぐる地域の現状と課題について考えてほしい。	
準備学習の内容 毎回、次の授業のテーマを伝えるので、事前に指定した厚生労働省や子ども家庭庁が発表している報告書等を読んでおくこと。	
教科書 教科書 特に定めない。随時資料を配布する。	
参考書 ・柏女霊峰(2015)『子ども・子育て支援制度を読み解く』新読書社 ・手塚崇子(2014)『幼保一体化施設の運営と行財財政ー就学前教育・保育の一元化をめぐるー』専修大学出版局 ・山野良一・湯澤直美編『子どもの貧困⑤支える・つながるー地域・自治体・国の役割と社会保障』明石書店	
課題に対するフィードバックの方法 期末試験については、試験終了後(再試験終了後)、10日を目標にOh! meiji内で公表する。	
成績評価の方法 授業への参加度・平常点(30%)、期末試験(70%)で成績を評価する。授業への2/3以上の出席が前提となる。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論C【2022年度以降入学者】	2単位
地域政策論III【2021年度以前入学者】	3・4年次
兼任講師 安倍 宰	
授業の概要・到達目標 本講義では、「地域文化」と「政治」の関わりに関し、文化人類学の方角から考察を進めてゆく。一般に政治学では国家組織、行政体系の存在を前提とした「統治学」が展開している。しかし、文化人類学では、1940年代以降、政治人類学が展開してきており、60年代～70年代はそのピークとも言える時期を迎えた。ここでは必ずしも、国家行政を前提としない論争がなされており、そうした視点で形成された“政治”認識で政策を捉え直してみたい。	
授業内容 第1回 「地域」と「政策」 第2回 政治人類学とは 第3回 政策と文化 第4回 政策と民族アイデンティティ 第5回 マレーシア政治と“メイサーティーン” 第6回 マレーシア政治と“メイサーティーン”(2) 第7回 マレーシア政治と“メイサーティーン”(3) 第8回 政策と文化の共生・すり合わせ 第9回 政策と文化の共生・すり合わせ(2) 第10回 政策と文化の共生・すり合わせ(3) 第11回 政策による表象表現の変化 第12回 政策による表象表現の変化(2) 第13回 政策による表象表現の変化(3) 第14回 まとめと復習	
履修の注意点 「政治」認識を、積極的に読み替えようという目的で授業を組み立てるつもりなので、皆さんもそのつもりで参加してください。	
準備学習の内容 「政治」認識を、積極的に読み替えようという目的で授業を組み立てるつもりなので、皆さんもそのつもりで参加してください。	
教科書 教科書に相当するものは無い。「政治学」「地方自治」「文化人類学」の入門書を読んでおくことが望ましい。	
参考書 『アフリカの伝統的政治体系』、フォーテス他編、大森他訳、みすず書房 『政治人類学』、バランディエ、中川訳、合同出版その他は授業中に示す	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 原則として期末試験で評価する。受講人数により、レポートでの代替もありうる。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論D【2022年度以降入学者】	2単位
地域政策論IV【2021年度以前入学者】	3・4年次
兼任講師 廣瀬和彦	
授業の概要・到達目標 住民代表機関として最も身近であるはずの地方議会が学生にとって最も遠い存在ではないだろうか。地方議会と日常生活で関わりを持たなくても特に問題とならないと考えがちであるが、自分たちの生活に非常に密接に関連性がある地方議会がどんな権限を持ちどんな役割を期待されているかを理解し、関心をもってもらいたい。さらに公務員にとって必須の地方自治体をわかりやすく理論と実務の両面から理解することができる。	
授業内容 第1回目 イントロダクション・地方議会とは 第2回目 地方自治制度における議会の地位（憲法93条等） 第3回目 議員定数の現状と算定手法 第4回目 議員報酬の現状と算定手法 第5回目 政務活動費の現状と問題点 第6回目 本会議・委員会・協議等の場 第7回目 議会の議決権限①（条例・予算・決算） 第8回目 議会の議決権限②（その他） 第9回目 議員の発言権と法的責任 第10回目 議会の会議の種類と招集 第11回目 議会における審議手法 第12回目 請願・陳情 第13回目 長と議会の関係 第14回目 議会改革	
履修の注意点 地方議会におけるニュースや自宅に配布される議会だより等の情報をできるだけ把握するようにすること。	
準備学習の内容 地方自治論・行政法を中心とした講義となるので基本書を読んで受講するとより理解が深まる。	
教科書 Q&A地方議会議員ハンドブック（ぎょうせい）	
参考書 なし	
課題に対するフィードバックの方法 oh-meijiを通じた方法	
成績評価の方法 授業への貢献度、授業への参加度、期末試験	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論E【2022年度以降入学者】	2単位
地域政策論V【2021年度以前入学者】	3・4年次
特任教授 小西淳文	
授業の概要・到達目標 ①副題を「SDGsと地域社会」とし、SDGが提起する各課題を確認し、JICAが開発途上で実施した関連プロジェクトを題材にその手法（各地域の現状把握と分析、計画策定、事業実施、評価）を学ぶ。 ②同様の課題を抱える国内地域社会の現状を確認し、上記手法その他によりその解決策を提案できることが目標。	
授業内容 第1回 この講義の概要と目的を確認した上で、SDGsが策定された経緯とSDGsの17目標、167ターゲットについて学ぶ。また、「JICAの課題別指針」作成の背景を確認する。 第2回 SDGs1「貧困撲滅」について、国際社会において「貧困削減」が開発目標の主要課題になった経緯を確認する。また、「JICA課題別指針（貧困削減）」を学ぶ。 第3回 SDGs1「貧困撲滅」について、貧困削減のミクロ対策事例として、「ミャンマー中央乾燥地域貧困削減対策」から学ぶ。また、マクロ対策事例として、「ミャンマー国貧困削減地方開発事業（フェーズ2）」から学ぶ。 第4回 SDGs1「貧困撲滅」について、内閣府が公表した「令和3年 子供の生活状況調査の分析報告書」を確認し、その原因と解決策について考察する。 第5回 SDGs2「飢餓をゼロに」、特に「持続可能な農業を促進する」について、従来技術を駆使した「セネガル川流域灌漑稲作生産性向上プロジェクト」と、最先端科学によるイノベーションを実現した「スーダン 魔法の雑草ストライガの克服と乾燥地農業開発」から学ぶ。 第6回 SDGs5「ジェンダー平等」について、「国際社会の取り組み」とジェンダー格差が極めて大きい南スーダンのジェンダー格差の現状を確認し、「JICA課題別指針（ジェンダーと開発）」を学ぶ。 第7回 SDGs5「ジェンダー平等」について、「カンボジア政府のジェンダー平等政策」と「JICAの支援策とその成果」について確認する。特に、「女性の経済的エンパワーメントのためのジェンダー主流化プロジェクト（2017～2018）」に焦点を当てる。 第8回 SDGs5「ジェンダー平等」について、令和2年に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」、「令和4年版 男女共同参画白書」の男女間賃金格差、その他資料を題材に「日本社会のジェンダーギャップ」の原因と解決策について考察する。また、OECDが発表しているSIGIから世界各国、各地域が抱えるジェンダー課題を確認する。 第9回 SDGs13「気候変動対策」について、「気候変動枠組条約」(昨年開催されたCOP26の概要を含む)と「IPCCの第6次評価レポート」を学び、今後取り組むべきことを考察する。また、「海面上昇により沈みこわれている太平洋の島国ツバル」、「アークタン」ヒマラヤ氷河の減退と氷河湖の形成の現状を確認する。 第10回 SDGs9「強靱（レジリエント）なインフラ構築」について、「モルディブ共和国 マレ首都圏気象災害情報収集・確認調査（2022年）」、「JICA課題別指針（運輸交通）」、「ベトナム国における運輸交通分野の戦略」について学ぶ。 第11回 SDGs7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」について、「地熱発電」の概要と「地熱発電開発マスタープラン調査（2012年）」他から学ぶ。 第12回 SDGs11「持続可能な都市及び人間居住の実現」について、従来技術を駆使した「セネガル国ダカール首都圏開発マスタープラン策定調査（2016年）」手法と低炭素社会の実現をターゲットにイノベーション手法を開発した「アジア低炭素社会シナリオの開発（2016年）」手法を学ぶ。 第13回 SDGs12「持続可能な生産消費形態の確保」、特に「廃棄物管理」について、国際社会のこれまでの取り組みや関連条約、今日の世界が直面する課題について確認し、対応策を検討する。 第14回 SDGs14「海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」、SDGs15「生物多様性の損失を阻止する」について、国際社会のこれまでの取り組みや関連条約、今日の世界が直面する課題について確認し、対応策を検討する。また、「チュニジア共和国半乾燥地生物資源の機能解析と有効利用（2016）」、「フィリピン 沿岸生態系保全（2016）」、「ガボン 生態系保全とエコツーリズム（2016）」から学ぶ。 なお、時事問題との関連が深い項目については、そのタイミングで取り上げることにする。講義の順序が入れ替わることがあります。2023年度は、「気候変動枠組条約」の第27回締約国会議（11月）が開催されたタイミングで、関連講座を取り上げました。また、時流に応じて取り上げるSDGやトピックとなる参考事例については、変更することもある場合がございます。	
履修の注意点 各回とも授業の骨子を示す「事前配信資料」を授業の前週末までにクラスウェブに掲載するので、あらかじめ必ず目を通してください。 授業では改めて本資料をクラスウェブに掲載し、事前配信資料の内容を詳しく説明します。	
準備学習の内容 予習は、クラスウェブに授業の前週末までに配信する「事前配信資料」をあらかじめ必ず目を通してください。 復習は、授業資料をよく理解するとともに、授業で言及する資料を熟読するほか、「国際協力機構ホームページ→研究者の方→JICA図書館ポータルサイト→JICA報告書・図書・雑誌」にアクセスし、各課題の理解を深めるように努めてください。関連情報が多々あります。	
教科書 特にありません。	
参考書 特にありません。 授業資料をよく理解するとともに、授業で言及する資料を熟読するほか、「国際協力機構ホームページ→研究者の方→JICA図書館ポータルサイト→JICA報告書・図書・雑誌」にアクセスし、各課題の理解を深めるように努めてください。関連情報が多々あります。	
課題に対するフィードバックの方法 各回とも受講後に小レポート（A4 1～2ページ程度）の提出をお願いします。提出されたレポートに対しては、コメントを返します。 この小レポートを評価対象としているので必ず提出するようにしてください。 提出期限は、各回とも授業の6日後の午前8時30分までなので、厳守してください。	
成績評価の方法 1 授業後に提出された小レポート（A4 1～2枚程度）の評価（各回5満点 計70満点） 2 提出された期末レポート（A4 3枚以上）の評価（30満点） 「各自関心のある地域社会の課題の現状とその解決に向けた提言」がテーマ。	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論 F 【2022年度以降入学者】	2 単位
地域政策論 VI 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
兼任講師 山 岸 絵美理	
授業の概要・到達目標 本講座では、政治学や地方自治論についての基本的な知識を土台として、市民・住民の自治体への参加の意義と役割を中心に理解を深めていきます。民主主義の考え方から、日本の地方自治における住民参加の意義や歴史からはじめ、住民参加の仕組みその意義について考えていきます。また、主権者として、市民・住民として、現代の日本社会や地域における状況や仕組みをより深く考察し、住民参加の仕組みについて、具体的な自治体の取り組み事例を交え、実践的に理解を深めていきます。また、COVID-19感染拡大時における自治体と住民参加制度の影響なども考え、デジタルと参加についても考えていきたいと思えます。本講座の履修を通じて、地域の一員として市民・住民として、地域社会の現状と課題を理解し、活動できる力を養うことを身につけてください。	
授業内容 第1回 イントロダクション、政治参加とは何か ・政治参加の前提についての概念整理 第2回 政府の役割と政治参加 ・政府の機能と市民・住民の政治参加の意義 第3回 民主主義とは何か ・民主主義の歴史と理論 第4回 民主主義と参加（1） ・民主的な参加の諸制度（選挙と議会） 第5回 民主主義と参加（2） ・直接参加の諸制度（住民投票等） 第6回 政治参加の実践（1） ・日本における高度成長期の住民参加 第7回 政治参加の実践（2） ・自治体行政の統制と政策提案 第8回 コミュニティ形成と政治参加（1） ・自治会、町内会の役割と課題 第9回 コミュニティ形成と政治参加（2） ・コミュニティ政策の展開と自治体 第10回 市民・住民参加の事例（1） 第11回 市民・住民参加の事例（2） 第12回 政治参加の新しい展開と課題 ・市民参加型の政策形成（市民ワークショップ、市民討議会等） 第13回 政治参加の課題と展望 ・市民住民の政治参加が抱える問題点と合意形成の課題 第14回 全体のまとめと論点整理	
履修の注意点 政治や地方自治についての理解が必要不可欠となるので、行政学、政治学、地方自治論等への知識、何よりも地域への関心があることが望ましい。	
準備学習の内容 講義に関連する情報や資料を、新聞やインターネットなどのツールを利用して、収集する。	
教科書 開講時に指示する。	
参考書 講義時に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 講義への貢献度（50%）、授業内に実施するリアクションペーパー（30%）、討論への参加（20%）。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論 G 【2022年度以降入学者】	2 単位
地域政策論 VII 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
兼任講師 北 嶋 守	
授業の概要・到達目標 本授業では、国内外の産業振興策について、産業集積論、産業クラスター論の視点から検討します。「クラスター」という言葉は、今回の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大（パンデミック）に伴い知られるようになった言葉ですが、本来は「集団感染」という意味ではなく、異なるアクター間の協働と競争関係の状態を意味しています。新型コロナの場合は、「ウイルス」が「クラスター」によって感染拡大する現象が発生しましたが、本来、産業クラスター概念での「クラスター」では、「新しい情報や知識の伝播」という意味になります。そこで、本授業では、この産業クラスター概念を中心に、国内外の産業クラスターの事例紹介を通じて、地域産業政策の方法や課題を提示します。学生諸君には、将来、自分がどこで、どんな職業に就くか、その時、地域産業と自分の関わりはどのようなものになるのかといった未来像を想像しながら授業に臨んで貰えればと思います。そして、自分の未来像を描出するヒントを掴んで貰うことが本授業の目標となります。	
授業内容 第1回 イントロダクション：社会科学の方法論、概念の重要性について 第2回 産業集積論から産業クラスター論に至る系譜について 第3回 国内編（1）半導体クラスター 第4回 国内編（2）航空機クラスター 第5回 国内編（3）医療機器クラスター 第6回 国内編（4）ワインクラスター 第7回 国内編（5）知財戦略クラスター 第8回 国内編（6）新交通システムクラスター 第9回 海外編（1）シリコンクラスター（米国・シリコンバレー） 第10回 海外編（2）ハイテククラスター（フィンランド・オウル） 第11回 海外編（3）航空機クラスター（カナダ・モントリオール） 第12回 再生可能エネルギークラスター（1）岡山県真庭市 第13回 再生可能エネルギークラスター（2）長野県飯田市 第14回 最終回：授業のまとめ	
履修の注意点 出席の確認を毎回は行います。積極的に授業に参加して下さい。	
準備学習の内容 毎回、オンラインで講義資料、参考文献を掲示しますので、予習・復習に役立てて下さい。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 北嶋守『ヘルスケア産業クラスター形成の日本の特質』（同友館、2020） 他、参考文献は、毎回、オンライン資料で紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法 講義内容に関する質問は、毎回、講義の最後に質問の時間を設けます。	
成績評価の方法 出席は平常点の参考にします。 期末レポート（80%）と上記の平常点（20%）の合計点で評価します。	
その他 私は30年近く政府系シンクタンクに勤務しています。現在は研究所のマネジメントも担当している産業研究者です。これまで国内外で多くの調査研究をしてきました。その経験に基づく情報や知識を皆さんに伝えたいと思います。また、私の役割は、この授業を通じて学生諸君に「思考の変化」を与えることです。皆さんに少しでも良い刺激や変化を与えられたら幸いです。健康管理を徹底し、一緒に頑張りましょう。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論H【2022年度以降入学者】	2単位
地域政策論Ⅷ【2021年度以前入学者】	3・4年次
兼任講師 北 嶋 守	
授業の概要・到達目標 この授業では、国内各地の産業振興策について、当該地域の産業の変遷と近年の具体的な取り組みの事例に基づいて紹介します。また、地域産業のイノベーションの仕組みについて、産業集積や地域振興策の観点からも検討する予定です。現在、日本国内の地方地域は、産業構造の変化や経済・産業のグローバル化、少子高齢化といった複数の問題に直面しています。さらに、今後は、脱炭素社会やデジタル社会への対応も重要になります。そこで、この授業では、特に高齢者が増加している地方地域が如何にして若者にとって魅力ある地域づくりを行うことができるのかといった問題に焦点を当てながら、地域産業振興について考える機会を提供したいと思います。受講する学生諸君には、自分の地元の現状と照らし合わせながら、人口減少の中で活力ある地域づくりは如何にして可能か、そのためにはどのような地域産業振興策が必要とされるのかといった問いについて、自分自身の将来の問題として捉え、自分自身で考えて貰うことを期待しています。	
授業内容 第1回 イントロダクション：地域振興政策の経緯と最近の傾向 第2回 産業集積の類型と代表的産業集積地の概要 第3回 新潟県燕三条地域 第4回 福井県鯖江地域 第5回 長野県諏訪岡谷地域 第6回 岩手県北上川流域 第7回 東京都大田区 第8回 福岡県久留米市 第9回 福島県郡山市 第10回 北海道札幌市ほか 第11回 再生可能エネルギーと地域振興（福岡県みやま市） 第12回 再生可能エネルギーと地域振興（秋田県湯沢市） 第13回 再生可能エネルギーと地域振興（兵庫県神戸市） 第14回 最終回 授業のまとめ	
履修の注意点 毎回、出席をとります。 積極的に授業に参加して下さい。	
準備学習の内容 毎回、オンラインで講義資料・参考文献を掲示しますので、予習・復習に活用して下さい。 また、各地域のHPなどから最新の産業振興策の情報を収集して下さい。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 山崎朗編著『地域産業のイノベーションシステム』（学芸出版社、2020）。 他、参考文献は、毎回、オンラインで掲示する講義資料の中で紹介します。 なお、2024年度中に北嶋編著の「脱炭素社会の地域イノベーションとエコシステム」（仮称）が刊行される予定ですので、本授業に間に合えば参考文献として紹介する予定です。	
課題に対するフィードバックの方法 講義内容については、毎回、講義の最後に質疑応答の時間を設けます。	
成績評価の方法 出席状況を平常点の参考にします。 期末レポート（80%）、授業参加度（20%）の合計で評価します。	
その他 私は30年近く政府系シンクタンクに勤務し、現在は研究所のマネジメントも担当する産業研究者です。これまで国内外で多くの調査研究をしてきました。授業では、その経験に基づく情報や知識を伝えたいと思います。また、私の役割は、この授業を通じて学生諸君に「思考の変化」を与えることです。皆さんに少しでも良い刺激や変化を与えられるよう努めます。 健康管理を徹底し、一緒に頑張りましょう。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域政策論J【2022年度以降入学者】	2単位
地域政策論X【2021年度以前入学者】	3・4年次
兼任講師 松 井 直 之	
授業の概要・到達目標 ・地方分権改革が進展していくなかで、地方公共団体（地方自治体）には、それぞれの地域の課題を解決し、政策を実現するために、条例を制定して執行するなど実践的な法務活動を行うことが求められています。日本国憲法における「地方自治」を出発点とし、地方分権改革とその問題点を明らかにしていきます。そのうえで、地方行政において生じる具体的な事例を取り上げ、そこに関わる様々な利益を踏まえて検討することで、「地方自治」に関する基礎的な知識、考え方を身につけていきます。 ・地方自治と条例に関する基礎的な知識や考え方を身につけ、自分の意見を組み立てることができるようになることを目標とします。	
授業内容 第1回 日本国憲法における「地方自治」 第2回 地方分権改革 第3回 地方分権改革：道州制 第4回 地方分権改革：市町村合併 第5回 地方財政 第6回 地方財政：ふるさと納税 第7回 条例制定権 第8回 地方行政：一票の格差 第9回 地方行政：観光振興 第10回 地方行政：文化財保護 第11回 地方行政：生活保護 第12回 地方行政：外国人住民 第13回 地方行政：障害をもった住民 第14回 地方行政：防災対策	
履修の注意点 ・配布資料の一読を前提に、重要な点を軸に通常の講義形式により行います。	
準備学習の内容 ・復習を中心に行うようにしてください。 ・1回目から通常の講義をするので、指定された講義資料（『Oh-of Meiji』に掲載します）を事前に読み、分からないところを明らかにしておいてください。 ・受講後、指定された講義資料を読み直し、参考書を参照して、事前に分からなかった点が理解できるようになったかを確認してください。	
教科書 ・『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）、『コンパクト六法』（岩波書店）などの六法を持参してきてください。	
参考書 ・『大学生のための憲法』〔第2版〕 君塚正臣、大江一平、松井直之編著（法律文化社）2024年 ・『高校から大学への憲法』〔第2版〕君塚正臣編著（法律文化社）2017年	
課題に対するフィードバックの方法 ・授業時に説明します。	
成績評価の方法 ・①期末試験と②授業への参加度（課題・質疑応答）を合わせて成績評価を行います。	
その他 ・講義の際に質問に答えてもらうことがありますので、国内政治などに関心を持って積極的に参加してください。	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
地域情報論	2単位
	3・4年次
兼任講師 浅岡隆裕	
授業の概要・到達目標 「地域情報化」と呼ばれる社会変動の深化によって、地域に流通し、当該地域の住民が受信する情報の量と質が大きく変容してきました。 本講義では、地域情報の産出と流通、消費をめぐる、これまでの経緯と現状について詳しく説明していきます。とりわけ「地域メディア」や「インターネットによる地域情報の受発信」といったトピックの説明に多く時間をかける予定です。 自分たちが生活をしているローカルな場に生起している地域情報について興味を持ち、その産出・流通メカニズムについて主体的に考察できるだけの知識習得を目指します。	
授業内容 第1回目 地域情報とは何か。それを学ぶ意義 第2回目 地域メディアの意義と機能 第3回目 情報通信産業としての地域メディア 第4回目 地域メディアの多様化と積層化 第5回目 政策としての地域情報化 第6回目 まちおこしと地域情報化 第7回目 地域でのコミュニケーション変容 第8回目 ローカルなネット・コミュニティ 第9回目 メディア活動という“社会運動” 第10回目 地域から情報発信のケーススタディ 第11回目 地域住民の情報ニーズと行動 第12回目 特定地域での地域情報の事例研究 第13回目 変わる「地域」概念 第14回目 コミュニケーションのデザインへ	
履修の注意点 出席は重視します。 毎回リアクションコメントとして提出頂き、平常点として評価します。	
準備学習の内容 授業内で関連する参考書や関連書籍・資料を紹介するので、事前に目を通して、講義内容の理解を深めてください。復習として授業で見聞した概念、事例について、レジュメや配布物などを読み返し、身近で当てはまる事例がないのかなどを考え、実際に調べてみることを推奨します。	
教科書 特に指定しません。	
参考書 『インターネット普及期以降の地域情報化とコミュニケーション変容』浅岡隆裕(KADOKAWA)2016年 その他、適宜、関連文献を紹介していきます。	
課題に対するフィードバックの方法 毎回リアクションコメントやレポート課題については、次の授業内やクラスウェブなどで適宜、言及します。	
成績評価の方法 複数回の小レポート20%、期末の最終レポート60%、平常点(授業での積極参加・提出課題)20%とします。	
その他 受講者が居住ないしは出身の地域社会やそこに存在する地域メディアに興味を持ってもらいたと思います。	

科目ナンバー：(PE) LAW361J	
民法(債権)	2単位
	3・4年次
兼任講師 續孝史	
授業の概要・到達目標 民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法(親族法・相続法)によって構成されているが、本授業では債権法を学習する。教育的効果をあげるため、基礎講義と応用講義に分けて授業を行う。基礎講義は、民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。応用講義では、最高裁判例を主たる題材とする重要論点についての解説を行う。 本授業では、公務員試験(国家・地方上級)、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。	
授業内容 第1回目 基礎(1)債権の意義、債権法の学び方、モデルケースの理解 第2回目 基礎(2)売買契約①(債務不履行、解除、危険負担) 第3回目 基礎(3)売買契約②(契約不適合責任、受領遅滞、種類債権) 第4回目 基礎(4)賃貸借契約 第5回目 基礎(5)契約の成立、同時履行の抗弁権、債権の消滅 第6回目 基礎(6)債権者代位権、詐害行為取消権 第7回目 基礎(7)債権譲渡 第8回目 基礎(8)多数当事者の債権関係 第9回目 基礎(9)その他の契約、法定債権① 第10回目 基礎(10)法定債権② 第11回目 応用(1)債権総論の重要論点 第12回目 応用(2)契約法の重要論点 第13回目 応用(3)不当利得の重要論点、不法行為の重要論点① 第14回目 応用(4)不法行為の重要論点②	
履修の注意点 受講に際しては、必ず、指定教科書と六法を持参すること。	
準備学習の内容 教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。応用講義については、事例問題ないしCASEを授業前にアップロードするので授業前に読んでおくこと。	
教科書 潮見佳男『民法(全)』(有斐閣)	
参考書 1)『六法』:どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣 判例六法』(有斐閣)のほうが良い。 (2)山本敬三監修『有斐閣ストゥディア 民法4 債権総論』、『同民法5 契約』、『同6 事務管理・不当利得・不法行為』(有斐閣) (3)『民法判例百選II 債権[第9版]』(有斐閣)	
課題に対するフィードバックの方法 期末試験の解説については、Oh-O! Meijiを通じて配信するので確認すること。	
成績評価の方法 期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果(100%)で評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAW361J	
民法（家族法）	2単位
	3・4年次
兼任講師 續 孝 史	
授業の概要・到達目標 民法は、民法総則、物権法、債権法、家族法（親族法・相続法）によって構成されているが、本授業では家族法を学習する。教育的効果をあげるため、基礎講義と応用講義に分けて授業を行う。基礎講義は、民法の条文とそれが想定するケースの理解・定着を目的とする。応用講義では、最高裁判例を主たる題材とする重要論点についての解説を行う。 本授業では、公務員試験（国家・地方上級）、各種国家試験の合格レベルに達するための基礎知識の習得と法的思考力を養うことを到達目標とする。	
授業内容 第1回目 基礎(1)親族の意義・範囲、婚姻① 第2回目 基礎(2)婚姻② 第3回目 基礎(3)離婚 第4回目 基礎(4)親子 第5回目 基礎(5)後見・保佐・補助、扶養 第6回目 基礎(6)相続人と相続分 第7回目 基礎(7)相続の対象、相続の承認・放棄 第8回目 基礎(8)遺産共有と遺産分割 第9回目 基礎(9)遺言 第10回目 基礎(10)遺留分 第11回目 応用(1)親族法の重要論点 第12回目 応用(2)遺産分割の重要論点 第13回目 応用(3)遺言・遺留分の重要論点① 第14回目 応用(4)遺言・遺留分の重要論点②、相続回復請求権	
履修の注意点 受講に際しては、必ず、指定教科書と六法を持参すること。	
準備学習の内容 教科書中、授業の進行予定に該当する箇所をよく読んでおくこと。応用講義については、事例問題ないしCASEを授業前にアップロードするので授業前に読んでおくこと。	
教科書 潮見佳男『民法（全）』（有斐閣）	
参考書 1)『六法』：どのようなものでもよい。小型のもので可。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）。公務員試験・国家試験合格を目標とする者には、『有斐閣 判例六法』（有斐閣）のほうが良い。 (2)山本敬三監修『有斐閣ストゥディア 民法7 家族』（有斐閣） (3)『民法判例百選Ⅲ 親族・相続[第3版]』（有斐閣）	
課題に対するフィードバックの方法 期末試験の解説については、Oh-O! Meijiを通じて配信するので確認すること。	
成績評価の方法 期末試験は、授業に出席していなければ解答できない内容であるので、期末試験の結果（100%）で評価する。	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAW391J	
経済法	4 単位
	3・4 年次
兼任講師 山田 弘	
授業の概要・到達目標 経済法に分類される法律の中でもその根幹をなす独占禁止法に焦点を当て、必ずしも法学になじみのない履修者がいることを前提としつつ、独占禁止法の歴史及び主要な規制、公正取引委員会の体制や執行手続等について、実務に即した説明を行います。必要に応じて海外における規制の概要や国際協力の状況についても触れる予定です。 独占禁止法及び独占禁止政策がビジネス及び日本の経済社会に果たしている役割について理解することが、この授業の目的となります。	
授業内容 第1回目 インTRODakション「独占禁止法を学ぶことの意義」 第2回目 1-1「独占禁止法総論（独占禁止法の歴史）」 第3回目 1-2「独占禁止法総論（独占禁止法の理念と目的）」 第4回目 1-3「独占禁止法総論（独占禁止法の用語）」 第5回目 1-4「独占禁止法総論（独占禁止法の規制対象）」 第6回目 1-5「独占禁止法総論（公正取引委員会の組織と権限）」 第7回目 2-1「独占禁止法の実体規定（不当な取引制限の解説）」 第8回目 2-2「独占禁止法の実体規定（不当な取引制限・事例研究その1）」 第9回目 2-3「独占禁止法の実体規定（不当な取引制限・事例研究その2）」 第10回目 3-1「独占禁止法の実体規定（私的独占の解説）」 第11回目 3-2「独占禁止法の実体規定（私的独占・事例研究その1）」 第12回目 3-3「独占禁止法の実体規定（私的独占・事例研究その2）」 第13回目 4-1「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法の解説その1）」 第14回目 4-2「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法の解説その2）」 第15回目 4-3「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法の解説その3）」 第16回目 4-4「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法・事例研究その1）」 第17回目 4-5「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法・事例研究その2）」 第18回目 4-6「独占禁止法の実体規定（不公正な取引方法・事例研究その3）」 第19回目 5-1「独占禁止法の実体規定（企業結合規制の解説）」 第20回目 5-2「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・分析手法その1）」 第21回目 5-3「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・分析手法その2）」 第22回目 5-4「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・事例研究その1）」 第23回目 5-5「独占禁止法の実体規定（企業結合規制・事例研究その2）」 第24回目 6-1「独占禁止法の手続規定（執行・手続その1）」 第25回目 6-2「独占禁止法の手続規定（執行・手続その2）」 第26回目 6-3「独占禁止法の手続規定（執行・手続その3）」 第27回目 7-1「独占禁止法特論（政府規制と適用除外）」 第28回目 7-2「独占禁止法特論（国際的側面）」	
履修の注意点 必ずしも法学に関する知識は必要ありませんが、少なくとも条文の読み方程度は知っておいてください。	
準備学習の内容 予習：教科書（事例研究については参考書として挙げた「判例・審決百選」）又は他の参考書・解説書の該当箇所を読んでおいてください。 復習：授業後に、教科書を再度読んでください。事例研究については、授業後、実際の命令書等に当たって内容を確認しておいてください。	
教科書 川濱昇ほか「ベーシック経済法 -- 独占禁止法入門 第5版」（有斐閣・2020年）	
参考書 法制執務・法令用語研究会「条文の読み方 第2版」（有斐閣・2021年） 金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選 第2版（別冊Jurist）」（有斐閣・2017年）	
課題に対するフィードバックの方法 今のところ課題の提出を求めることは予定していません。仮に課題を課すことがあったとしても、個別にフィードバックするようなことはせず、授業内で総括的な講評を行うにとどめる予定です。	
成績評価の方法 定期試験（80%）、授業への貢献度（20%）	
その他 特にありません。	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
地域創造総合講座	4単位
	3・4年次
教授 奥山雅之	
授業の概要・到達目標 「地域」は今日、多様で深刻な問題を抱えている。そうした中で、地域の健全化・活性化をはかるには、住民、企業、自治体の3つセクターが、地域社会、産業、行政の分野を基礎として、互いに協働することが不可欠である。また3つセクターが統合される場である「地域」同士が手を取りあい、グローバルな視点から行動することも不可欠である。本講座では、政治経済学部設置されている各科目を学んだ後、地域の発展という視点から、それらを総合化・体系化することを目的としている。それは各人が将来において、直接・間接に、地域社会（企業も含む）で実践活動に従事することを前提としている。具体的には、公務員、議員、企業家、NPO職員をはじめとして、さらには一市民としてである。 講師は、地域あるいはそれに関連する現場でご活躍されている方々で、その経験をもとにご講義願うとともに、ワークショップ形式も取り入れ、学生参加型の講座となる。	
授業内容 日程（秋学期、火曜、5・6時限の2時限連続） テーマ（予定） I 地域からの発信 1. 島の内発的発展と観光戦略 2. 地域の報道現場からみた自治体とまちづくり 3. 地域と世界を結ぶ II 地域医療・看護 1. 地域における医療：医療に携わる人材、地域医療の動向、病院・診療所経営の実態などについて 2. 地域における看護：看護サービスの内容、看護に携わる人材の育成・確保 III 地域環境・景観 1. 伝統的建造物と景観 2. 農村の環境と景観 3. 都市の景観と環境 * 出講予定講師についての詳細は、決定次第Oh-ol Meijiクラスウェブに掲載。	
履修の注意点 全学科の学生が履修可能であるが、まち・地域・コミュニティの活性化に関心があり、現状の問題点を正しく把握し、それらを克服する手段を実践的、総合的に学ぶ意欲を強く持つことが望まれる。	
準備学習の内容 次回の講義担当者のプロフィール、著書、業績などを確認しておくことが望ましい。	
教科書 特になし。ただし、各講師より各講義時において紹介される場合がある。	
参考書 なし。	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol/Meijiシステム等を活用し、講義動画や評価に関する問合せに応じて実施する。	
成績評価の方法 毎回の授業参加による貢献度。実習がある場合は、それへの参加も出席回数としてカウントする。定期試験は実施しない。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア文化論A【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア文化論I【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 嶋田直哉	
授業の概要・到達目標 文学理論を学ぶ。物語の内容（ストーリー）はもちろんのこと、物語の構造に注目することで新たな読解の方法を身につける。感覚的に物語を読むのではなく、分析的に物語が読めるようになることを到達目標とする。 以下の作品を読む予定である。 志賀直哉「小僧の神様」 国木田独步「鎌倉夫人」 横光利一「蠅」 芥川龍之介「藪の中」	
授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 日本近代文学史概論 第3回 日本近代文学研究とは 第4回 昔話の形態学（その1） 第5回 昔話の形態学（その2） 第6回 記号論入門 第7回 記号論の実践 第8回 作者（その1） 第9回 作者（その2） 第10回 視点（その1） 第11回 視点（その2） 第12回 描写 第13回 語り（その1） 第14回 語り（その2） ※講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 事前に指定された作品を読み、各自感想を持って授業に臨むこと。いかなる理由があろうとも私語は絶対にしてはならない。私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。 ★学習意欲が全くない者は履修してはならない。	
準備学習の内容 事前に指定された作品（短編小説の予定）をしっかりと読んでおくこと。	
教科書 使用しない。 授業で使用する資料については、事前にOh-olMeijiにアップロードする。各自のデバイスで閲覧できるようにすること。	
参考書 河野龍也他編著『大学生のための文学トレーニング近代編』（三省堂、2012） 正田雅昭『文学理論入門』（ひつじ書房、2021） ほかに 詳細は授業内で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度（50%） 期末レポート（50%）	
その他 第1回において授業内容、成績評価について説明する。 履修変更期間中の欠席は一切配慮しない。 就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。 出席確認時に不正を行った者は厳しく対処する。	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア文化論B【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア文化論II【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 本間次彦	
授業の概要・到達目標 近世の中国社会を主に分析の対象としながら、いわゆる「中国的」なものとは何であるかについて、多角的に考察していきたい。 （1）他の地域に対して自らを「中国」と位置づける意識はどのように形成されてきたか、また、「中国人」とはどのような人たちのことか。（2）日本や朝鮮と比較した場合に、中国の近世社会とそのエリート像にはどのような特徴があったか。（3）日本と比較した場合に、中国の伝統社会が生み出した歴史観とその近代の変容にはどのような特徴があったか。これらの点について順次とりあげていく。 同時代の日本や朝鮮、さらには、現代の中国との対比を通じて、近世の中国社会がどのような意味で現代に連続し、また、断絶しているか明確化することが、この授業の目標となる。	
授業内容 第1回：イントロダクション—中国とは何か 第2回：中華とナショナリズム 第3回：中国社会の特質 第4回：中国の「家」 第5回：中国・日本・朝鮮の近世社会 第6回：読書人（中国）と両班（朝鮮） 第7回：儒者と武士 第8回：朱子学と武士道 第9回：日本の朱子学 第10回：中国の伝統的歴史観 第11回：日本近世の歴史観 第12回：「文明開化」と「中華」 第13回：中国近代と社会進化論 第14回：東アジアの近世と近代	
履修の注意点 現在の東アジア社会の成り立ちに強い関心をもつ皆さんに受講してもらえれば幸いです。	
準備学習の内容 授業で配布された資料を読みかえすなどして、前回までの授業内容を十分理解した上で、毎回の授業に出席すること。	
教科書 特定の教科書は用いない。	
参考書 特定の参考書は用いない。	
課題に対するフィードバックの方法 次回の授業で講評を行う。	
成績評価の方法 複数回のレポート提出により総合的に評価する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア文化論C【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア文化論Ⅲ【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 羽根次郎	
授業の概要・到達目標 本講義は中国の革命史について、1920年代の第一次国共合作（そして破綻）から、1966年文化大革命勃発前までを論じたい。中国革命がロシア・ボリシェヴィズムの強い影響下に進められたのは、中国共産党についてはいうまでもないこととして、実は中国国民党についても同様である。さらには、世界各地の植民地や半植民地の民族解放運動の歴史を語るうえで、レーニン主義の影響を語らないのは事実の隠蔽に等しい。 さて、昨今、中国の存在感が増すなかで、「自由vs共産」「民主vs独裁」の類のあまりに単純化された空想的世界認識——つまり冷戦型の世界認識——が、先進資本主義圏では立場の左右を問わず幅を利かせつつある。ただ、植民地／半植民地を経験した後進地域（発展途上国）における民族革命や民族解放の歴史は、そんな世界認識に沿って単純化できる代物ではない。 したがって、本講義は、大学に入るまで（そして入った今でも）ほとんど教わる機会を持たぬままの、後進地域のかかる世界史の現実について、中国革命とレーニン主義との関連において議論を進めることになる。	
授業内容 初講：イントロダクション／問題提起 第2講：孫文の新三民主義について 第3講：北京政府、広東政府、武漢政府、南京政府——「中華民国」を考える 第4講：中国共産党とコミンテルン 第5講：復習と整理 第6講：抗日民族統一戦線と「中華民国」 第7講：二つの政治協商会議——中華人民共和国成立の背景 第8講：復習と整理 第9講：新民主主義——国民経済回復と全方位外交 第10講：朝鮮内戦——「向ソ一辺倒」の問題 第11講：復習と整理 第12講：第一次五か年計画と「社会主義改造の基本完成」 第13講：大躍進——急進的社会主义化の挫折 第14講：授業内容全体の確認 ＊講義内容は進捗や理解程度その他必要に応じて変更することがある。	
履修の注意点 ・他学部からの履修者を歓迎する。	
準備学習の内容 ・ノートを手にとれる習慣を身につけてほしい。	
教科書 ・必要に応じて指示する。	
参考書 ・適宜指示する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点20%、試験（またはレポート）80%	
その他 ・授業中にパソコンやスマートフォンなどの電子機器を使用することを認めない。	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア文化論D【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア文化論Ⅳ【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 山岸智子	
授業の概要・到達目標 西アジアは主として政治的な出来事—それもないが危険きわまりない—のニュース映像とヘッドラインで印象づけられている。私たちは国家や政治的アクターの動きを追いかけるだけで精いっぱい、そこに生活する人々の生活や気持ちのありようまで思いをはせる機会は少ない。この授業では、西アジアの人々の文化や日常生活、そして過酷な社会の現実を描いた渾身の映画、ドキュメンタリーなどを観ることで、一般市民の住む場所としての西アジアをイメージする力を養うことを目標とする。また、西アジア出身の移民に関する映像作品もとりあげて、グローバル化のなかに西アジアを位置づけるための一助としたい。 各回では、映画の背景についての説明を付し、履修生からのコメントや質問・感想も紹介して、さらなる気づきを促す	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 『荒野に希望の灯をともし ～医師・中村哲 現地活動による35年の軌跡』 第3回 カーレド・ホッセイニ原作『君のためなら千回でも』～アフガニスタン生まれの青年の半生 第4回 モーガン・スパーロック監督作品『ピン・ラディンを探せ』前半～アメリカ人TVプロデューサーが中東に突撃取材 第5回 ゴバーディー監督作品『ベルシア猫を誰も知らない』～西洋音楽が禁じられたイランでバンド活動をしようとする若者たち 第6回 サトラビー原作&制作『ベルセボリス』～イラン生まれの少女の留学と本国での経験をユーモアたっぷりに描く 第7回 B.Z.ゴールドバーグほか製作『プロミス』～イスラエルとパレスチナの子供たちの出～会いの場を作ろうとして… 第8回 イマード・ブルナート&ガイ・ダビディ監督作品『壊された5つのカメラ パレスチナ・ピリンの叫び』～パレスチナの村人のカメラを通してみるオリーブ畑接収 第9回 ジャッキー・リーム・サローム監督作品『自由と壁とヒップホップ』～ラップの仲間が集まりたいパレスチナの若者たち 第10回 ガリー・キーン&アンドリュウ・マコーネル監督『ガザ素顔の日常』～封鎖されたガザ地区の内情を描く 第11回 リベル・ドスキー監督作品『ラジオ・コバニ』～ISから解放されたコバニでラジオ局を創設し町の復興をレポートする女子大生 第12回 ワアド・アルカディ『娘は戦場で生まれた』～シリア内戦を現場から描いたドキュメンタリー 第13回 ヤムセン・サムデレリ監督作品『おじいちゃんの里帰り』～ドイツに移住したトルコ人家族の物語 第14回 全体のまとめ	
履修の注意点 世界史の基礎知識があることがのぞましい できれば春学期の「日本・アジア地域論Ⅳ」とセットにして履修するとより深い理解がえられる	
準備学習の内容 毎回リアクションペーパーを提出してもらい、さらに映像・動画の背景について復習を促す	
教科書 特になし	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーへのコメントや応答を授業で行う	
成績評価の方法 毎回のリアクションペーパーの内容50%、期末レポート50%	
その他 西アジアの情勢の変化や履修生の希望に応じて、内容を変更する場合があります	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア地域論A【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア地域論I【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 嶋田直哉	
授業の概要・到達目標 演劇を観ることとはどういうことなのか。その疑問をパフォーマンス理論にまでさかのぼって考えてみる。そののち映像を使い具体的な作品の鑑賞を行う。 様々な舞台作品に触れることで演劇の理論、具体的な作品の演出方法、現代を代表する劇作家の代表作について知ることを到達目標とする。	
授業内容 第1回 イントロダクション—演劇的とはどういうことか 第2回 日本の伝統芸能（1）—能の世界 第3回 日本の伝統芸能（2）—歌舞伎の世界 第4回 ミュージカル入門 第5回 「ジーザス・クライスト＝スーパースター」の世界 第6回 「エピータ」と「キャッツ」の世界 第7回 「オペラ座の怪人」の世界 第8回 「レ・ミゼラブル」の世界 第9回 宝塚歌劇団入門 第10回 「ベルサイユのばら」の世界 第11回 「エリザベート」の世界 第12回 劇団四季入門 第13回 井上ひさしの劇世界 第14回 総まとめ ※講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 映像を使った授業になるので各自積極的な姿勢で臨むこと。 実際の舞台鑑賞を課題にする予定。 いかなる理由があろうとも私語は絶対にしてはならない。 私語、途中退室をする者に対しては厳しく対処する。 ★学習意欲が全くない者は履修してはならない。	
準備学習の内容 積極的に劇場へ足を運び、舞台作品を鑑賞すること。	
教科書 使用しない。 授業で使用する資料については、事前にOh-o!Meijiにアップロードする。各自のデバイスで閲覧できるようにすること。	
参考書 授業内で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度（50%） 期末レポート（50%）	
その他 最初の授業に出席すること。履修変更期間中の欠席は一切配慮しない。 第1回の授業時に授業内容、成績評価について説明する。 就職活動等の理由による欠席は一切配慮しない。 ★出席確認時に不正を行った者は厳しく対処する。	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア地域論B【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア地域論II【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 本間次彦	
授業の概要・到達目標 明治時代以降の日本人は、中国をどのように見てきたのか。そもそも、日本人の中国を見るまなざしは、この150年ほどの間にどのように変化してきたのか。また、そのような変化の中で、日本との関係において、中国にはどのような新たな位置づけが与えられていったのか。これらの問題を、この授業では考察していく。その際に、同時代の中国における日本観も随時参照することで、当時の日中関係の状況を多面的に検討することも目指す。 福沢諭吉から近年に至るまでの代表的な論者の中国観について順次とりあげていくが、日本人の中国観が時代とともにどのように推移して現在に至っているのか、この点を明確化することがこの授業の目標となる。	
授業内容 第1回：イントロダクション—福沢諭吉「脱亜論」とアジア主義 第2回：中江兆民・樽井藤吉 第3回：内村鑑三・陸奥宗光 第4回：岡倉天心 第5回：宮崎滔天・北一輝 第6回：吉野作造 第7回：内藤湖南 第8回：「北京学生の日本国民に告ぐるの書」 第9回：石橋湛山 第10回：三木清 第11回：尾崎秀美 第12回：竹内好 第13回：溝口雄三1—方法としての中国 第14回：溝口雄三2—中国の衝撃	
履修の注意点 現在の日中関係の歴史的背景に強い知的関心をもっている皆さんに受講してもらえれば幸いです。	
準備学習の内容 授業で配布された資料を読みかえすなどして、前回までの授業内容を十分理解した上で、毎回の授業に出席すること。	
教科書 特定の教科書は用いない。	
参考書 特定の参考書は用いない。	
課題に対するフィードバックの方法 次回の授業で講評を行う。	
成績評価の方法 複数回のレポート提出により総合的に評価する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア地域論C【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア地域論Ⅲ【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 丸川 哲史	
授業の概要・到達目標 今季の授業テーマは、「戦後映画における「敗者」、「引揚者」、「死者」の影」です。 戦後の日本が大規模な戦争をせずに来た要因として、徹底的に敗北し、海外植民地を失い、また夥しい血(日本人も日本人以外も)を流したことで、帝国主義的欲望を断念するようになったこと、このことは明らかだと思われまます。 もちろん、そういったところから戦後憲法の9条の持つ意味を説明をすることも可能でしょう。しかしまた、日本は戦後に、米国を中心とした冷戦勢力の内部に止まったことで、米国の世界戦力に位置づけられた機能をもっぱら持たされてしまった、有態に申せば外国の軍隊が駐留する中での「平和」を享受してきた、という皮肉な言い回しも成り立つものです。 本講義では、そういった戦後日本特有の「われわれ」の磁場(とその基盤となる見えがなくなったアジアの姿)を映像とテキストから探ることを目標にして、授業を進めていくことにします。	
授業内容 1、イントロ 2、成瀬巳喜男『浮雲』(1955年)と林芙美子『浮雲』(1951年) 3、林芙美子と女優高峰秀子 4、植民地者の快樂、引揚者の苦悩 5、内田吐夢と三国連太郎 6、引揚の隠喩としての内田吐夢『飢餓海峡』(1965年) 7、中間のまとめ(小レポートを活用して) 8、後半のイントロ 9、小津安二郎『麦秋』(1951年)が持つ戦争の影 10、火野葦平『麦と兵隊』(1938年)における中国戦線のイメージ 11、小津安二郎『東京暮色』(1957年)における戦後の混乱 12、戦山本薩夫『荷車の歌』(1959年)が持つ戦争と民衆 13、戦争と女性主体 14、総括(レポートの執筆)	
履修の注意点	
準備学習の内容 クラスウェブに提示した教材に必ず目を通して参加すること。	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 小レポート+レポート	
成績評価の方法 小レポート+レポート	
その他	

科目ナンバー：(PE) ARS311J	
日本・アジア地域論D【2022年度以降入学者】	2単位
日本・アジア地域論Ⅳ【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 山岸 智子	
授業の概要・到達目標 この授業は、西アジアの近代をふりかえり、現況を解説することを主眼とする。毎回、一つの国か地域をとりあげて、その近代史をひもときながら、現在当面している問題の由来や来歴を明らかにする、という手法をとる。 西アジア情勢は、世界情勢の縮図となっていることが多いので、この授業は、単にユーラシアの西のはずれについての知識の断片を示すだけのものではなく、グローバルに働きかけるさまざまな力がどのように組み合わせ、作用し、紛争や不安定な政治状況などをもたらしているのかについて考察する機会を提供する。 履修者には、「テロ? 戦争? こわ〜い」といった漠然として恐ろし気な印象論をこえて、具体的な人々の活動する場としての西アジアのイメージを自分なりに持つことのできる能力を身に着けることが期待される。	
授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 人種論と西アジア 第3回 宗教とエスニシティ 第4回 歴史的シリアとエルサレム 第5回 パレスティナとイスラエル(1)問題の淵源 第6回 パレスティナとイスラエル(2)オスロ合意後の諸問題 第7回 シリア 「アラブの春」から内戦へ 第8回 イラク サッダム・フセインからIS支配下へ 第9回 クルド人問題 第10回 イラン・ナショナリズムとイスラーム革命 第11回 ワッハブ主義とサウジアラビア 第12回 湾岸産油国の興隆 第13回 アフガニスタンの混乱 第14回 全体のまとめ	
履修の注意点 世界史の基礎知識があることがのぞましい	
準備学習の内容 補助シートをOh-ol Meijiにアップロードされている場合には、それをもって授業に臨むことがもとめられる また、授業で使ったスライドや配布物なども事後アップロードして、各自で復習できるようにする	
教科書 特になし	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 アンケート結果やリアクションペーパーの内容を、授業でとりあげる	
成績評価の方法 予習や授業への積極的な参加50%、期末試験(ないしは期末レポート)50% 授業への参加については、アンケートやリアクションペーパーを参考に評価する	
その他 西アジア情勢の変化や履修生の希望に応じて内容を変えることがある	

科目ナンバー：(PE) ARS321J	
ヨーロッパ文化論B【2022年度以降入学者】	2単位
ヨーロッパ文化論II【2021年度以前入学者】	3・4年次
講師 永川 聡	
授業の概要・到達目標 本講義では、「健康と病気」、「公衆衛生と人権」、「医学と薬害」といった現代を生きる我々の誰もが関心を持たざるを得ない問題群を鮮やかに逆照射してくれる過去の事象を取り上げる。題材は近現代のドイツと日本の歴史から採用する。 コロナ時代に我々現代人は、「病気」が「不安」を呼び、「不安」が「差別」を生み、「差別」がまた「病気」のレッテル貼りを加速させてしまうという負のスパイラルに陥ってしまった。この悪循環を断ち切るためには、日独の「公衆衛生」に関わる負の歴史を再び見つめ直すことがその一助となるかも知れない。 ドキュメンタリーなどの映像資料も用いて授業を進める。過去の歴史が単なる昔の話ではなく、現在の世相はおろか、現代を生きる我々自身の振舞いにも繋がっていることを認識してもらうことが目標である。	
授業内容 第一回 イントロダクション 第二回 現代ドイツの「健康」事情(1) 第三回 現代ドイツの「健康」事情(2) 第四回 現代日本の「健康」事情(1) 第五回 現代日本の「健康」事情(2) 第六回 戦前～戦中のドイツ(1) 第七回 戦前～戦中のドイツ(2) 第八回 戦前～戦中の日本(1) 第九回 戦前～戦中の日本(2) 第十回 戦後のドイツ(1) 第十一回 戦後のドイツ(2) 第十二回 戦後の日本(1) 第十三回 戦後の日本(2) 第十四回 まとめ ＊上記の授業計画はおおよその流れを示したものである。各回の進捗状況や必要に応じて、話す内容が変更になったり順序が入れ替わることもある。タイムリーな時事テーマがあれば適宜取り入れて紹介する。	
履修の注意点 授業回数の3分の2以上の出席が単位取得の条件である。なお、初回の授業には必ず出席すること(出欠席回数の1回分として数えます)。グロテスクな映像を観たくない人には受講をお勧めしない。	
準備学習の内容 現代への強い関心。授業中にノートを取るよう心がけること。	
教科書 特に指定しない。	
参考書 適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーの講評を次週の授業回冒頭で行う。	
成績評価の方法 学期末試験の成績80%、平常点(リアクションペーパー)20%	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ARS321J	
ヨーロッパ文化論D【2022年度以降入学者】	2単位
ヨーロッパ文化論IV【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 飯屋 浩子	
授業の概要・到達目標 美術館を訪れて絵画鑑賞をするとき、西洋画家の作品の多くにはギリシャ神話やキリスト教にまつわるモチーフが描かれています。しかし、モチーフが何なのかを知らなければ表面的な美しさしか感じることができませんし、日本文化との比較をすることもできません。これは絵画のみならず、ほかの芸術作品全般にもいえることです。とりわけ古典神話が現代でも再創造されているのは、普遍的なアーキタイプとして成り立っているからです。多くの場合、父権的な眼差しから創造されてきたそれらの作品を観察することで、いかに女性や弱者が客体として存在してきたのか、いかに私たちはそれを「美」として当たり前のように認識していたのかを知るとともに、脱構築できるような眼力や力をつけることができるでしょう。さらには、歴史に登場する画家のほとんどが男性である背景を知ること、当たり前だと考えられてきた知識がいかに歪められて部分的でしかないことに気付かされるでしょう。 この授業では、前半はヨーロッパの芸術・知の源泉であるギリシア神話とそれをモチーフにして創られた様々な芸術作品(絵画・彫刻・文学・演劇・映画など)との関連性を、後半ではキリスト教の様々なエピソードと芸術作品(絵画・彫刻・文学・演劇・映画など)や祝祭との関連性を探求します。そしてモチーフは時代と共にどのように変化してきたのかを考察しながら、時代による心性の変化も見ることができるようでしょう。様々なモチーフと取り合わせる対象となるのはスペイン人によって創出された芸術作品ですが、必要な場合はスペイン以外のヨーロッパ人の作品も扱っていく予定です。 授業はワークショップ形式、そしてグループ作業を進めていきます。代表的な芸術作品が想を得た神話や原典を分析することができ、知見を深めていくと同時に創造力を培い、国内や海外の芸術作品に触れるのに相応しい眼をもつ人間に共に成長することをめざします。	
授業内容 第1回：ヨーロッパの基層文化について 第2回：ギリシャ神話と芸術作品1：スペインとヘラクレス伝説、神話とは何か？ 第3回：ギリシャ神話と芸術作品2：全能神ゼウスの父権性 第4回：ギリシャ神話と芸術作品3：恋する神たち 第5回：ギリシャ神話と芸術作品4：愛と死 第6回：ギリシャ神話と芸術作品5：権力に挑む者たち 第7回：ギリシャ神話と芸術作品6：知と傲慢 第8回：ホメロスの叙事詩と芸術作品：神々と英雄たち 第9回：ヴェルギリウスの叙事詩と芸術作品：神々と英雄たち 第10回：ギリシャ悲劇と芸術作品1：オイディプス伝説 第11回：ギリシャ悲劇と芸術作品2：オレストイア 第12回：新約聖書と芸術作品 第13回：キリスト教とスペインにおける暦と祝祭(1) 第14回：キリスト教とスペインにおける暦と祝祭(2)	
履修の注意点 毎回新しいグループを組んだ上、共同作業を行います。グループ内で作業したことを全体でシェアする時もあります。	
準備学習の内容 授業で扱った題材がどのような文化事象でどのように援用されているのかを積極的に探求すること。	
教科書 特に定めない	
参考書 特に定めない	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiから行う。	
成績評価の方法 平常点・授業への貢献度(50%)、期末試験(50%)	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ARS321J	
ヨーロッパ地域論A【2022年度以降入学者】	2単位
ヨーロッパ地域論I【2021年度以前入学者】	3・4年次
講師 永江 敦	
授業の概要・到達目標 映画作品を利用しながら、イギリス文学を「楽しむ」ことを目的とする。 ある文化圏の文化を理解する手がかりとして、一番適しているのはその地域の文学を覗いてみるに限る。 文学には、その地域の人間の行為が一挙手一投足まで描写されているからである。 とは言っても、短期間で外国の文学を読むのは大変な作業ではある。 そこで、本講義では、映画化されているイギリスの文学作品を中心に扱っていきたい。 もちろん、原作を読むのが一番だが、とっかかりとして映画を使ってイギリス文学の世界に参入するという事。 それにしても、授業時間帯に映画全編を観ることは不可能なので、あらかじめ、大学のビデオライブラリーやネットレンタルなどで作品を観ておくこと。 授業では、原作の原語の一部を読むこともある。 具体的には、講義時に示すことになろう。	
授業内容 1. 講義概要 2. チャップリン『モダンタイムス』 3. チャップリン『モダンタイムス』 4. グレアム・グリーン『第三の男』（早川文庫）（キャロル・リード監督） 5. グレアム・グリーン『第三の男』（早川文庫）（キャロル・リード監督） 6. E.M. フォスター『インドへの道』（ちくま文庫）（デイヴィッド・リーン監督） 7. E.M. フォスター『インドへの道』（ちくま文庫）（デイヴィッド・リーン監督） 8. トーマス・ハーディ『ダーバヴィル家のテス』（岩波文庫）（デイヴィッド・リーン監督） 9. トーマス・ハーディ『ダーバヴィル家のテス』（岩波文庫）（デイヴィッド・リーン監督） 10. 『戦場にかける橋』（デイヴィッド・リーン監督） 11. 『戦場にかける橋』（デイヴィッド・リーン監督） 13. 映画『アラビアのロレンス』（デイヴィッド・リーン監督） 14. 映画『アラビアのロレンス』（デイヴィッド・リーン監督）/まとめ	
履修の注意点 一つの作品が終わったら、レポートを課するので、必ず提出すること。 試験はなし。	
準備学習の内容 講義内で映画作品を見るが、度々静止して、詳しい解説をするつもりだが、時間が限られているので、あらかじめ、作品等を見てくることを課することあり。 できるだけ、無料で見られる方法を提示するが、各自ネットレンタルを利用して見ておくこと。	
教科書 オーメ이지で資料などを示す。	
参考書 オーメ이지で資料などを示す。 参考文献：『黒澤明が選んだ100本の映画』（文春新書）	
課題に対するフィードバックの方法 オーメ이지機能を利用して行う。	
成績評価の方法 3～4本のレポートを課する。	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) ARS321E	
ヨーロッパ地域論D【2022年度以降入学者】	2単位
ヨーロッパ地域論IV【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 佐原 徹 哉	
授業の概要・到達目標 本講義では「イスラム過激派」の思想を説明する。伝統的なイスラムは多様なものであるが、19世紀後半の反植民地運動を契機に「イスラム復興」思想が登場した。その中からサラフ主義が登場し、正しいイスラムの信仰はイスラム国家でしか実践できないと主張した。これに基づいてイスラム国家樹立を目指す運動が現代の「イスラム過激派」の母体である。講義ではイスラムの基本概念、イスラム教団の成立から近代までの歴史、サラフ主義の出現とムスリム同胞団とクトブ主義までの思想的系譜を説明する。	
授業内容 1回 オリエンテーション 2回 イスラムの基本概念：コーランとスンナ 3回 預言者ムハンマドと初期イスラムの歴史 4回 スンナ派とシーア派 5回 ハディースの編纂とスンナ派四大法学派 6回 イスラム神秘主義（スーフイズム） 7回 イスラム諸国の植民地化とイスラム復興：ジャマルディン・アフガーニーの思想 8回 ムハンマド・アブドゥラシード・リダーの思想 9回 ナクシュバンディ教団と反植民地主義運動 10回 ムスリム同胞団とハサン・バンナーの思想 11回 イスラムと社会主義 12回 サイド・クトブの思想 13回 クトブ主義と現代 14回 総括	
履修の注意点 特になし	
準備学習の内容 授業で指示する	
教科書 なし	
参考書 授業で指示する	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 定期試験の結果で判断する	
その他	

科目ナンバー：(PE) ARS331J	
アメリカ文化論C【2022年度以降入学者】	2単位
アメリカ文化論Ⅲ【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 廣 部 泉	
授業の概要・到達目標 1890年代から今日までの日米関係を、人種という観点から講義します。コロナ禍に入って、アメリカではアジア人をターゲットにした暴力事件が多発しています。アジア人ヘイトと呼ばれる現象がそれです。これはコロナ禍に限ったものでしょうか。実はそうではありません。19世紀後半からの100年以上の歴史に根差したものです。そのような視点から、この授業では日米関係を見ていきます。19世紀後半のカリフォルニアでは既に人種的理由から中国人が大量虐殺されています。また、サンフランシスコで伝染病が発生すると、証拠がないままチャイナタウンが発生源とされ、隔離されました。第二次世界大戦中は、日系人が日系人であるという理由だけで、強制収容されました。同じ敵国のドイツ系に対してそのような大規模な強制隔離はなされませんでした。戦後、優れた輸入車に押されてアメリカの自動車産業が落ち目になると、日本車が攻撃の対象とされました。ドイツ車も多く輸入されていましたが、そのような攻撃の対象にはされませんでした。この授業では、日米関係がいかに人種によって支配されてきたのかを、「黄禍論」というキーワードから読み解いていきます。	
授業内容 1890年代から現代まで時系列的に講義します。折に触れて理解を助けるための映像資料を視聴していただきます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション アジアンヘイトと日米関係 2. 日清日露の大戦争と黄禍論の登場 3. 日露戦争から第一次世界大戦 4. アジア系移民排斥問題 5. 人種差別撤廃案否決とワシントン会議 6. 排日移民法とアジア主義 7. 満州事変から真珠湾まで 8. 太平洋戦争は人種戦争か？ 9. 中国の共産化と冷戦 10. 日本の経済大国化とバブル経済（その1） 11. 日本の経済大国化とバブル経済（その2） 12. 中国脅威論とジャパンバッシング 13. トランプ政権の衝撃とアジアンヘイト 14. 今後の日米関係 コロナウイルスの蔓延とアジア人 	
履修の注意点 授業で使用したパワーポイントの配布はしませんが、評価はレポートにて行いますので、細かいノートなどをとる必要はありません。	
準備学習の内容 教科書の該当部分をざっと見ておくと理解がしやすいです。	
教科書 廣部泉『黄禍論 百年の系譜』（講談社選書メチエ、2020年）	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加（20%）期末レポート（80%）	
その他	

科目ナンバー：(PE) ARS331J	
アメリカ文化論D【2022年度以降入学者】	2単位
アメリカ文化論Ⅳ【2021年度以前入学者】	3・4年次
教授 石 山 徳 子	
授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 アメリカ合衆国連邦捜査局(FBI)のデータによると、2021年に同国で報告された憎悪犯罪（ヘイトクライム）は、7262件にも上る。そのうちの64.8%を占めるのが、人種・民族・出自に関する偏見と憎悪に基づく犯罪である。その背景と実態を探るためには、構造的な人種差別、広がり続ける格差というような社会問題を見つめる必要がある。2016年に大統領に就任し、2020年の選挙戦では接戦の末に敗北したものの7000万票も獲得したドナルド・トランプ氏は、異なる人種や文化の間に広がる亀裂と憎悪を増殖させるような言動を繰り返した。バイデン現政権下においても、問題解決には至っていない。 この授業では、憎悪をキーワードにアメリカ合衆国の社会と文化について学ぶ。同国は、先住民族にたいする侵略と虐殺、アフリカから強制的に連行され、奴隷化された黒人による労働力の搾取を基盤に発展してきた。したがって、国家の成立の根本に、制度的、構造的な暴力が内在し、そこには人種差別のイデオロギーが深く浸透していた。これは、階級、ジェンダー、セクシュアリティによる差別思想とも相関関係にあり、アメリカの文化と風景の素地を形成している。また、コロナ禍において、アジア系住民に対するハラスメントも急増している。さらには2022年の夏、最高裁が憲法上の権利として人工妊娠中絶を認めた判例を覆し、大きな話題を呼んだ。こうした事象は、リベラル派と保守派、民主党と共和党、といった二項対立の構図の中で捉えられがちだが、アメリカ社会とはもっと複雑で、わかりにくい。 「対立」、さらには「分断」という言葉が飛び交う、アメリカ社会の政治・文化・社会地理について、「憎悪」をキーワードにさまざまな事象を参照しながら考えてみたい。	
〈到達目標〉 「憎悪」をキーワードにアメリカ合衆国の社会を観察する作業を通して、多様な民族や文化の共生の困難と可能性について考える。	
授業内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) アメリカ社会における憎悪犯罪 2) アメリカ例外主義の言説とアメリカン・ドリーム 3) セトラー・コロニアリズムの歴史と先住民族にたいする憎悪 4) 奴隷制度の歴史と黒人にたいする憎悪 5) 白人至上主義、ホワイト・ナショナルイズム 6) ブラック・ライヴズ・マター運動とは何を意味するのか 7) 移民にたいする憎悪 8) コロナ禍と憎悪 9) ジェンダー・セクシュアリティに関する憎悪（1） 10) ジェンダー・セクシュアリティに関する憎悪（2） 11) 都市空間に展開する憎悪 12) 憎悪と戦争（1） 13) 憎悪と戦争（2） 14) まとめ 	
履修の注意点 遅刻は他の学生の迷惑になるので、時間厳守で集まり講義に集中すること。授業準備に必要な課題文献等については、適宜指示する。	
準備学習の内容 教科書は指定しないが、参考書を適宜読みながら予習、復習してほしい。	
教科書 特になし	
参考書 石山徳子著『「犠牲区域」のアメリカ 核開発と先住民族』岩波書店（2020） 大治朋子著『勝てないアメリカ——「対テロ戦争」の日常』岩波新書（2012） 萩野美穂著『女のからだ — フェミニズム以後』（2014） 兼子歩・貴志嘉之編著『「ヘイト」の時代のアメリカ史：人種・民族・国籍を考える』彩流社（2017） 兼子歩・貴志嘉之編著『「ヘイト」に抗するアメリカ史：マジョリティを問い直す』彩流社（2022） 鎌田達著『ネイティブ・アメリカン』岩波新書（2009） アーロン・グランツ、反戦イラク帰還兵の会 著、TUP 訳『冬の兵士—イラク・アフガン帰還米兵が語る戦場の真実』岩波書店（2011） 白井洋子著『ベトナム戦争のアメリカ — もう一つのアメリカ史』刀水書房（2006） ジョン・ダワー著『容赦なき戦争』平凡社ライブラリー（2001） アンジェラ・デイヴィス著、上杉 忍訳『監獄ビジネス—グローバリズムと産獄複合体』岩波書店（2008） 廣部泉著『黄禍論 百年の系譜』講談社選書メチエ（2020） 油井大三郎著『好戦の共和国アメリカ—戦争の記憶をたどる』岩波新書（2008） 渡辺靖著『白人ナショナリズム アメリカを揺るがす「文化的反動」』中公新書（2020）	
課題に対するフィードバックの方法 時折書いてもらうアクションペーパーについて、授業時にコメントをおこなう。	
成績評価の方法 期末試験 100%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ARS331J	
アメリカ地域論 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
アメリカ地域論 I 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
准教授 兼 子 歩	
授業の概要・到達目標 今日、公式には奴隷制を合法とする国家は1つも存在しないが、現実には世界で2000万人以上の人びとが何らかの不自由労働に従事させられていると言われる。私たちは自由人である、ということになっているが、それはいかなる意味において自由なのだろうか。就活はする自由もしない自由もある。私たちには就職先を決める自由がある、仕事に不服であればやめる自由がある、と言われればどんな気分になるだろうか。 働くことと「自由」の意味を、改めて考えてみることは意味のないことではないだろう。この問題には、哲学や社会思想、政治学や社会学などさまざまなアプローチがありうるが、この授業ではアメリカの歴史を通じて考えてみたい。そこで、17世紀のイギリス植民地の時代から南北戦争終結の1865年までアメリカに存在していた奴隷制の歴史を振り返ることを通じて、働くことと「自由」の意味を多角的に理解する視点を獲得することを目指したい。 この授業で扱う直接の対象は17世紀から19世紀の後半までであるが、常に現代のアメリカ、日本、そして世界を考えるためのヒントになることを意識した授業にするつもりである。	
授業内容 以下は各回の予定である。 1 イントロダクション 2 奴隷貿易のはじまりと資本主義 3 アメリカの奴隷制と(人種)の創出 4 人間を所有する人びと：奴隷主たちの世界 5 持てる者と持たざる者：プランターとヨーマン 6 奴隷たちの世界① 労働 7 奴隷たちの世界② 家族 8 奴隷たちの世界③ 文化 9 北部と奴隷制①：奴隷制廃止運動のはじまり 10 北部と奴隷制②：北部人が「白人」になるとき 11 連邦体制の危機と南北対決への道 12 再統一と解放の戦争：南北戦争と歴史を動かす奴隷たち 13 再建期の改革政治：新たな革命の始まり 14 未完の革命：再建政治の終焉	
履修の注意点 毎回、授業の後でOh-ol Meiji上に小テストがアップロードされるので、授業の内容に基づいて期日までに回答すること。また、この小テストには授業内容に関する質問・コメントを書き込める欄があるので、質問やコメントのある人は自由に記入してもらいたい。 なお、この小テストを受けるには、授業に出席していることが前提となっている。そのため、小テストにおいて授業への出席を確認するための措置が組み込まれるので、注意すること。	
準備学習の内容 主な復習は、授業後のOh-ol Meijiでの小テスト入力である。また、質問やコメントをまとめたものを配布するので、読んでおくこと。	
教科書 この授業では、必要な資料は配布されるか、Oh-ol Meijiでアップロードされるので、購入する必要はない。	
参考書 授業中に適宜紹介するが、全体に関する入門書としては、以下のものを推奨する。 ・上杉忍『アメリカ黒人の歴史：奴隷貿易からオバマ大統領まで』中公新書、2013年 ・布留川正博『奴隷船の世界史』岩波新書、2019年 ・植村邦彦『隠された奴隷制』集英社新書、2019年	
課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答と、質問・コメントへの返答をまとめたものを、次の回の授業で配布する。	
成績評価の方法 小テストの回答によって採点する(100%)。また、質問・コメントのうち、授業内容への理解を広げる・深めることに貢献しているものについては若干加点するが、この加点がなくても満点を取ることは可能である。単位の取得は、100点満点中60点以上。Sは受講者のうち上位10%を限度として与えられる。	
その他 この授業では、就活、インターンシップ、および体育会の練習や競技会への出場などに対する特別な措置は講じないので注意すること。 ただし、体育会の大会のうち大学ないし学部から正式に派遣される場合、および教育実習・博物館実習については、公欠に準じた扱いをするので、証明する書類のコピーを提出すること。また、インフルエンザや新型コロナウイルスなど感染症による出席停止の場合は、診断書のコピーを提出することで停止期間に該当する回を公欠扱いとする。 以上に該当しない特殊事情の場合は、個別に判断するので、遠慮なく担当教員に相談すること。	

科目ナンバー：(PE) ARS331J	
アメリカ地域論 D 【2022年度以降入学者】	2 単位
アメリカ地域論 IV 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
教授 石 山 徳 子	
授業の概要・到達目標 〈授業概要〉 本授業では、アメリカ合衆国の広大で多彩な地理空間を観る作業を通じて、同国の社会に内在する差別、格差、暴力、そして共生に向けた動きについて考える。政治経済・社会的な営みと地理空間の変化は、深い相関関係にある。たとえば、地理的な分層は、アメリカ社会に根強い人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティによる差別や格差を構造的に再生産してきた。そのいっぽうで、政治経済的な不平等の是正を目指し、異文化の共生が可能な空間を模索する動きも活発である。 本授業ではいくつかのテーマをもとに、深南部の森林、西部の砂漠地帯、あるいはグローバル経済の中心地である現代都市といった多彩な地理空間を読む。論文や書籍、授業担当者が各地を歩き撮影した写真資料や映画など、さまざまなメディアを使いながら、アメリカという複雑、かつダイナミックな大国の諸相を紹介したい。 具体的には、人種隔離政策のもとにさまざまな権利を剥奪され続けた黒人、真珠湾攻撃を機に強制収容所に送られた12万人近くの日系人、世界初の国立公園の設置により土地を奪われた先住民、核実験や核廃棄物処分最前線に置かれた先住民など、特に社会的に弱い立場に置かれた人びとによる地理的な経験に焦点を当てる。 〈到達目標〉 アメリカ社会にたいする理解を深め、また、地理空間を知的的好奇心と批判精神を持って観察する視点を学ぶ。	
授業内容 1) イントロダクション地理空間を読む 西部開拓とマニフェスト・デスティニー 〈人種隔離の地理空間〉 2) アメリカ深南部における人種隔離政策の歴史 3) 人種統合を目指す闘い 〈日系人強制収容所の地理空間〉 4) 第二次世界大戦と日系人強制収容所 5) 日系人強制収容所の地理空間 6) 日系人強制収容所史跡 〈国立公園の地理空間〉 7) 国立公園の歴史 8) 国立公園と先住民 〈核開発の地理空間〉 9) 冷戦と核開発 ネバダ実験場 10) 原子力発電 11) 放射性廃棄物処分をめぐる問題 〈現代都市の地理空間〉 12) 要塞化する都市 13) 災害と都市 14) まとめ	
履修の注意点 遅刻は他の学生の迷惑になるので、時間厳守で集まり講義に集中すること。授業準備に必要な課題文献等については、適宜指示する。	
準備学習の内容 教科書は指定しないが、参考書を適宜読みながら予習、復習してほしい。	
教科書 特になし	
参考書 浅野敏久、中島弘二編著『自然の社会地理』海青社(2013) 石山徳子著『「犠牲区域」のアメリカ 核開発と先住民』岩波書店(2020) 上杉忍著『アメリカ黒人の歴史 奴隷貿易からオバマ大統領まで』中公新書(2013) 兼子歩・貴堂嘉之編著『「ヘイト」の時代のアメリカ史：人種・民族・国籍を考える』彩流社(2017) 鎌田遼著『ドキュメント アメリカ先住民』大月書店(2011) 川島正樹著『アメリカ市民権運動の歴史 連鎖する地域闘争と合衆国社会』名古屋大学出版会(2008) 杉浦芳夫編著『地域環境の地理学』朝倉書店(2012) 田中研之輔著『ルポ 不法移民 アメリカ国境を超えた男たち』岩波新書(2017) レベッカ・ソルニット著 高月園子訳『災害ユートピア ―なぜそのとき特別な共同体が立ち上がるのか』亜紀書房(2010) マイク・デイヴィス著 村山敏勝・日比野啓訳『要塞都市 LA』増補新版 青土社(2008) ニール・スミス著 原口剛訳『ジェントリフィケーションと報復都市 新たな都市のフロンティア』ミネルヴァ書房(2014) 矢作弘『都市危機のアメリカ 凋落と再生の現場を歩く』岩波書店、2020年 矢ヶ崎典隆・森島清・横山智編著『サステナビリティ 地球と人類の課題』朝倉書店(2018)	
課題に対するフィードバックの方法 時折書いてもらうアクションペーパーについて、授業時にコメントをおこなう。	
成績評価の方法 期末試験 100パーセント	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ARS361J	
連環地域文化論 A 【2022年度以降入学者】	2 単位
連環地域文化論 I 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
教授 柴 崎 文 一	
授業の概要・到達目標 「映像で追う世界の環境問題～環境政策のこれからを探る～」 ドイツは1970年代から環境先進国として、低炭素社会の実現に向け突き進んでいます。これに対してアメリカは、オバマ政権で「グリーンニューディール」政策を掲げたかと思えば、トランプ政権では一転して、従来の大量エネルギー消費の国家戦略へと舵を取り直してしまいました。また日本でも、東日本大震災の直後には、福島第1原子力発電所の事故による教訓から、原子力発電から撤退する機運が盛り上がりましたが、それから時が経つごとに、経済性と二酸化炭素排出削減の観点から、原子力利用への動向が高まっています。この授業では、こうした各国の環境政策の動向を、多くの映像資料を通して検証しながら、日本と世界のこれからあるべき環境政策の方向性を探って行きたいと考えています。	
授業内容 第1回 今、地球で何が起きているのか。 第2回 北極海の資源開発 第3回 南極の水が融ける 第4回 シェール革命の衝撃 第5回 消えたグリーンニューディールとグリーンリカバリー 第6回 スマートグリッド～再生可能エネルギーの現在と近未来～ 第7回 エネルギーの自立～ドイツとオーストリア～ 第8回 ドイツ再生可能エネルギー法の革新性 第9回 ドイツ環境政策の光と影 第10回 「化石賞」～日本のエネルギー政策～ 第11回 核廃棄物～技術が解決すると言い続けて60年～ 第12回 誰が保障するのか?～10万年の安全性～ 第13回 原子力バックエンド～原子力は安くない～ 第14回 環境先進都市ポートランドの魅力と限界 (講義内容は授業の進行状況等により変更することがあります。)	
履修の注意点 この授業は第1回から実質的な講義を始めますので、初回から欠席しないように心がけてください。	
準備学習の内容 授業はパワーポイントを使用して行われます。パワーポイントの内容は、適宜、クラスウェブの資料コーナーに置かれますので、各自がプリントアウトし、授業に持参するようにしてください。授業では、各自がプリントアウトしたスライドに解説内容を書き込みし、授業後には復習として、各回で提示された諸問題に関し、各自でよく考察するようにしてください。また、次回の講義に向けて、予め読んでおくことを指定する資料もあるので、そのような場合には必ず準備をしてください。	
教科書 指定はありません。	
参考書 授業中に適宜紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 毎回授業中に、Googleフォームを利用したリアクションペーパーの提出が課されます。リアクションペーパーの提出状況が40%の評価となり、さらに学期末に課されるレポートが60%の評価となつて、最終的な成績評価を算出します。ただし、出席率が2/3以下の場合は、レポートが提出されても成績は「不可F」とします。また、リアクションペーパー及び期末レポートの提出に1度でも不正が認められた場合には、当該科目の成績を「不可F」とします。	
その他 【欠席届について】 病気、事故などにより授業を欠席した場合は、「欠席届」をPDFファイルで作成し、学期末の指定期間内に一括して提出してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。 【在宅受講特別配慮によるオンライン受講について】 在宅受講特別配慮者の受講状態は教室から確認できないため、該当者には、毎回当日中に授業の概要をまとめた小レポート（700字以上800字以内）を提出してもらいます。小レポートの評価は、対面授業出席者のリアクションペーパーと同様です。なお、レポートに剽窃等の不正が認められた場合は、当該科目の評価を「不可F」とします。	

科目ナンバー：(PE) ARS361J	
連環地域文化論 B 【2022年度以降入学者】	2 単位
連環地域文化論 II 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
教授 佐 原 徹 哉	
授業の概要・到達目標 本講義では新ジハード主義の思想的特質と、その影響を受けた世界各地の運動を概観する。新ジハード主義とは近代の「イスラム復興」を背景に登場したサラフ主義を母体とし、イスラム国家樹立のための暴力の行使を最も重要な信仰上の義務と考える思想と運動である。代表的な組織にはアルカイダ、「イスラム国」、アルシャバブ、ボコハラムなどであるが、東南アジアや中央アジアの組織も含めて、その世界的展開を説明する。	
授業内容 1回 オリエンテーション 2回 クトブ主義の出現 3回 新ジハード主義の登場：ファラグとアッザームの思想 4回 アフガン戦争とタリバーン 5回 ボスニア内戦とバルカン・ネットワーク 6回 チェチェン紛争と旧ソ連のジハード主義組織 7回 911事件とアルカイダのイスラム国家構想 8回 第二次アフガン戦争とタリバーンの復活 9回 第二次イラク侵略とイラクのアルカイダ 10回 タクフィール主義 11回 シリア内戦と「イスラム国」 12回 ISの海外属州：東南アジアのジハード主義組織 13回 ボコハラムと西アフリカのジハード主義組織 14回 総括	
履修の注意点 春学期のヨーロッパ地域論Ⅳをあらかじめ履修していることが望ましい。	
準備学習の内容 特になし	
教科書 なし	
参考書 授業で指示する	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 定期試験の成績で判断する	
その他	

科目ナンバー：(PE) ARS361J	
連環地域文化論C【2022年度以降入学者】	2単位
連環地域文化論Ⅲ【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 稲葉 肇	
授業の概要・到達目標 今日の統計(学)は、個人的な意思決定から政策判断、そして自然界の理解に至るまで、われわれが行うあらゆる認識に正当化を与える役目を担っている。統計的な根拠づけは、現代の諸科学において一種の特権的な地位を有しているとさえ言える。だがもちろん、統計という手法は古代から変わらず存在し続けてきたのではなく、歴史的に徐々に形成されたものであり、また大きく変化してきたものでもある。統計の歴史を追跡することは、われわれの統計に関する理解を豊かにしてくれるだろう。 受講生には、当時のテキストに触れてもらいながら、統計という考え方がどのように形成されたか、それが生物学や物理学とどのように関わり、自然観を変えてきたのかを検討することを通じて、科学的概念や科学理論の歴史的形形成にかかわるさまざまな観点到に習熟することが期待される。また、科学史研究にかかわるさまざまなツールも紹介する。	
授業内容 第1回 インTRODクシヨン 第2回 科学史研究の動向(1) 第3回 科学史研究の動向(2) 第4回 政治算術 第5回 「統計」の語誌 第6回 観測誤差 第7回 ケトレの社会物理学構想 第8回 統計的社会法則 第9回 物理学と統計(1) 第10回 物理学と統計(2) 第11回 進化論と統計 第12回 医学と統計 第13回 コンピュータと統計 第14回 まとめ	
履修の注意点 必要な数学・物理学の知識は講義中に説明する。講義の性格上、数式を使用することは避けられないが、具体的に計算することは求めない。数式が何を表しているかを概念的に把握することに精力を注いでほしい。また、講義中に外国語史料(主に英語)を提示することがある。	
準備学習の内容 授業で配布する資料をよく読んでおくこと。	
教科書 使用しない。	
参考書 『統計の歴史』レイ(原書房)2020年 『偶然を飼いならす：統計学と第二次科学革命』ハッキング(木鐸社)1999年	
課題に対するフィードバックの方法 期末レポートに対する講評を行う。	
成績評価の方法 期末レポート(100%)による。	
その他 授業中に私語をはじめとする妨害行為が認められた場合には、当該の学生の成績を減点することがある。また、受講生の様子により、講義の内容を一部変更する可能性がある。	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
連環地域文化論D【2022年度以降入学者】	2単位
連環地域文化論Ⅳ【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 佐久間 寛	
授業の概要・到達目標 【授業概要】 本講義では、アフリカをはじめとした世界各地の「文化」に着目して、人間にとり「経済」とは何かを考える。わたしたちが知る、あらゆる財とサービスが「市場」で売買される経済は、西欧近代に成立した特殊な制度にすぎない。世界の大小様々な社会の過去と現在に目をこらすと、人類には驚くほど多様な経済があり、たとえば市場ばかりでなく「贈与」を中心とした経済が重要であった事実が浮かび上がってくる。 【到達目標】 わたしが調査した西アフリカを含む各地の事例の考察を通じて、多元的な経済のあり方への理解を深めつつ、市場一辺倒の経済観を問い直す視座の獲得を目指す。	
授業内容 第1回目 文化から学ぶ経済 第2回目 「生」を「生」む 第3回目 「農」という「業」(1) 第4回目 「農」という「業」(2) 第5回目 「漁」という「業」(1) 第6回目 「漁」という「業」(2) 第7回目 「呪」という「術」 第8回目 「貿」は「易」いか(1) 第9回目 「貿」は「易」いか(2) 第10回目 「贈」り「与」える(1) 第11回目 「贈」り「与」える(2) 第12回目 「統」べて「治」める 第13回目 「開」き「発」する(1) 第14回目 「開」き「発」する(2)	
履修の注意点 毎回の授業ごとに、800~2000字程度のリアクションペーパーを提出することが必須の課題となる。また単なる感想ではなく、授業の内容をふまえて独自の思考を記すことが求められる。履修の可否の判断にあたってはくれぐれも注意すること。	
準備学習の内容 授業ごとに文献や映像作品を紹介するので可能な範囲で目を通すこと。	
教科書 特に定めない。講義ごとに資料を配付する。また映像作品を積極的に用いる。	
参考書 特に定めない。適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度および授業ごとのリアクションペーパー(70%)、学期末レポート(30%)	
その他 受講者の疑問や要望を極力尊重し、必要な場合には授業内容を柔軟に見直す。	

科目ナンバー：(PE) HES391J	
身体文化論	2 単位
	3・4 年次
教授 高峰 修	
授業の概要・到達目標 この講義では和泉キャンパス開講の「ジェンダー論/教養基礎講座Ⅰ」では取り上げられなかった“身体”とジェンダー、セクシュアリティとの関係について焦点を当てます。ジェンダーはひとまず「文化的・社会的・心理的な有り様」と説明されますが、みなさん自身の身体の在り方にも関わっています。身体は生物学的・本質的な存在としてありますが、ジェンダーやセクシュアリティとの関わりから文化社会的・構築的な存在でもあります。この講義では、現代の私たちの身体が単に生物的・物質的な存在であるだけでなく、文化や社会の中でどのように構築されているのかについてジェンダーやセクシュアリティとの関わりから検討し、さらには特に女性の身体に着目しながらそれに関わる政治性・経済性について理解することを目標とします。	
授業内容 第1講 ジェンダーと科学 第2講 「まなぞす」～身体的性差観 第3講 「痩せる」～ダイエットと摂食障害 第4講 「越境する」～スポーツにおける身体 第5講 「鍛える」～体力論 第6講 「産まない」～人工妊娠中絶 第7講 デイバートの方法論 第8講 デイバートの実際 第9講 「思考する」～脳の性差論 第10講 第1回デイバート～代理母出産 第11講 第2回デイバート～着床前診断 第12講 「産む/産まない権利」～リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 第13講 「科学と産業」～フェムテック 第14講 まとめ ※受講者数によって内容やスケジュールが変わることがあります	
履修の注意点 a) スライドとレジュメ 講義は原則として、スライドによるプレゼンテーションによって進めます。講義前にスライドのファイルをOh-ol Meijiのクラスウェブ内（資料）にアップしますので、必要に応じて各自で印刷してください。 b) リアクションペーパー 原則として毎回、受講内容に対するコメントを書いてもらいます。この内容をもって出席とします。ときどき、遅刻のチェックします。 c) デイバート 取り上げる話題としては、善悪のつけがたい意見の分かれるものが多くなります。そこで講義内で2回ほどデイバートを行い、受講生の皆さんも議論に加わってもらいたいと思います。デイバート終了後にグループ内で相互評価をし、この相互評価とデイバートの優劣を成績評価の対象とします。	
準備学習の内容 デイバートの準備は講義時間外にグループで、また各自で行うことになります。	
教科書 使用しません。	
参考書 使用しません。	
課題に対するフィードバックの方法 次回講義の冒頭にて行います。	
成績評価の方法 原則として毎回出席をとり授業へのコメントを書いてもらいます。授業実施回数の3分の2以上の出席を期末レポート提出の条件とします。デイバートなどのグループワークも取り入れ、そこでの取り組みについても評価の対象とします。期末にはレポート課題を出します。 成績評価については、次の4点から総合的に評価します。 1) 授業内容の理解度（リアクションペーパーの評価） 40% 2) デイバートへの出席 10% 3) グループワークへの取り組み（相互評価） 10% 4) 期末レポート課題 40%	
その他 「授業の概要」で述べたとおり、この講義では私たちの身体と私たちが生活する文化や社会との関わりに目を向けます。したがって、どうやったら筋肉をつけたりダイエットすることができるかといった内容については触れませんが、注意してください。また講義内容はやや抽象的になりますが、そうした話題にもあきらめずに、積極的に考えていこう期待します。半期に2回ほどデイバートを行います。	

科目ナンバー：(PE) ART391J	
表象文化論	2 単位
	3・4 年次
講師 永江 敦	
授業の概要・到達目標 20世紀半ばの第二次大戦後に形成された日本の「家族」を、複数の優れた映画作品を通じて考えることとする。 家族は、人間関係の「揺籃」にして「原型」である。 その中で人間は基本的生き方を学んでいくわけだが、家族はそのメンバーたちが協力して築いていこうとしなければいつだって簡単に崩壊する。 もちろん、家族が崩壊するのは、内的な要因だけではない。 天災や疫病や戦争や経済不況なども、家族を脅かすことがある。 今期は特に、「戦争」という要因についても、度々、言及することになろう。 当時の風習や世相も細かく観察しながら、家族や時代の変遷変化を追いかけていく。 事前に必ず、作品を見ておくこと。	
授業内容 1. 映画を通して家族を考えるということ。 2. 『めし』（成瀬巳喜男・1951年・東宝・97分） 3. 『東京物語』（小津安二郎・1953・松竹・136分） 4. 『東京物語』（小津安二郎・1953・松竹・136分） 5. 『東京暮色』（小津安二郎・1957年・松竹・140分） 6. 『東京暮色』（小津安二郎・1957年・松竹・140分） 7. 『生きる』（黒澤明・1952年・東宝・143分） 8. 『生きる』（黒澤明・1952年・東宝・143分） 9. 『生きものの記録』（黒澤明・1955年・東宝・103分） 10. 『秋日和』（小津安二郎・1960年・松竹・128分） 11. 『秋刀魚の味』（小津安二郎・1962年・松竹・113分） 12. 『男はつらいよ』（山田洋次・1969年・松竹・91分） 13. 『家族』（山田洋次・1970年・松竹・106分） 14. 『驟雨』（成瀬巳喜男・1956年・東宝・91分）	
履修の注意点 特になし	
準備学習の内容 何回か、レポート（感想）を提出のこと。参考にすべき映画作品や書籍は、必ず、観て読んでくること。 できるだけ、無料で見られる方法を提示するが、各自ネットレンタルを利用して見ること。	
教科書 オーマイジで資料等を示す。	
参考書 オーマイジで資料等を示す。	
課題に対するフィードバックの方法 オーマイジを利用する。	
成績評価の方法 試験はしない。 レポートを数本課する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
政治学特殊講義C【2022年度以降入学者】	2単位
政治学特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	3・4年次
兼任講師 李 永シュ	
授業の概要・到達目標 This class focuses on the history from the first point of contact between Europe and Asia to the present, and deepens understanding of international relations and politics by looking at various political events. However, the content of the lessons is not limited to historical events, but covers a wide range of theory, humanity, food, and art. The content and difficulty level of the class is at the beginner level of international relations theory, and no basic knowledge is required. It is also possible to adjust the content based on student feedback during each class survey. "Attainment target" Understanding the basic contents of European and Asian history and international relations theory, and being able to analyze them.	
授業内容 Lesson 1 Introduction Lesson 2 Is political science a science? Lesson 3 International Relations Theory Lesson 4 Land Silk Road Lesson 5 Maritime Silk Road Lesson 6 World War I Lesson 7 World War II Lesson 8 Cold War until the 1970s Lesson 9 Cold War up to the 1980s Lesson 10 The End of the Cold War Lesson 11 Asia and Europe in the 1990s Lesson 12 Asia and Europe in the 2000s Lesson 13 Asia and Europe in the 2010s Lesson 14 Summary	
履修の注意点	
準備学習の内容 N/A	
教科書	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Students will be evaluated based on their contribution to class (70%) and report (30%). A score of 60% or higher will allow you to earn credits. Details will be explained in the first class.	
その他 If you have any concerns or questions about classes, please feel free to contact us.	

科目ナンバー：(PE) POL391E	
政治学特殊講義C【2022年度以降入学者】	2単位
政治学特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	3・4年次
特任講師 津 田 太 郎	
授業の概要・到達目標 This course is an introduction to the history of US-Japan relations. We will study the evolution of US-Japan relations from the 19th century until the present, examining many different complex issues between the two powers in the Pacific region. This historical overview will help us make sense of the current condition and future prospects of the US-Japan alliance. The goals of this course include: (1) gain an understanding for the structure and dynamics of US-Japan relations over time (2) see how US-Japan relations have affected East Asian and global politics more broadly (3) enhance advanced skills in reading, writing, and discussion in the English language.	
授業内容 第1回目 Introduction 第2回目 Early Bilateral Relations 第3回目 Two Pacific Powers 第4回目 Japanese Immigration to the USA 第5回目 The Road to War 第6回目 The Asia-Pacific War 第7回目 The US Occupation 第8回目 The Early Cold War and Anpo 第9回目 The Vietnam War and Okinawa 第10回目 Economic Cooperation and Rivalry 第11回目 The Aftermath of the Cold War 第12回目 Recent Developments and Issues 第13回目 Paper Presentations 第14回目 Conclusion	
履修の注意点 This course will be conducted in English. An interest in Japanese, American, an East Asian history and politics is strongly recommended.	
準備学習の内容 Students must do the assigned readings before each lecture and come to class prepared to participate actively in discussion and other activities.	
教科書 Iokibe Makoto and Tosh Minohara, eds. <u>The history of US-Japan relations</u> (Singapore: Palgrave Macmillan, 2017)	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 The instructor will provide individual feedback for assignments. Additional guidance is also available by email or in office hours.	
成績評価の方法 Class Participation 40%, Response Papers 30%, Paper Presentation and Manuscript 30%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL391E	
政治学特殊講義D【2022年度以降入学者】	2単位
政治学特殊講義IV【2021年度以前入学者】	3・4年次
特任講師 津田太郎	
授業の概要・到達目標 This course is an introduction to the history of relations between Japan and China (primarily Mainland China). We will study the evolution of Sino-Japanese relations from premodern times until the present, examining many different complex issues between the two Asian powers. This historical overview will help us make sense of the current condition and future prospects of Japan-China ties. The goals of this course include: (1) gain an understanding for the structure and dynamics of Sino-Japanese relations over time (2) see how China-Japan relations have affected East Asian and global politics more broadly (3) develop advanced skills in reading, writing, and discussion in the English language.	
授業内容 第1回目 Introduction 第2回目 The premodern era 第3回目 Facing Western imperialism 第4回目 Conflict in the late 19th century 第5回目 The early 20th century 第6回目 World War II in Asia 第7回目 Manchuria and Taiwan 第8回目 Aftermath of war 第9回目 The 1950s and 1960s 第10回目 Normalization of relations 第11回目 The post-Cold War era 第12回目 Sino-Japanese relations today 第13回目 Paper presentations 第14回目 Conclusion	
履修の注意点 This course will be conducted in English. An interest in Japanese, Chinese, and East Asian history and politics is strongly recommended.	
準備学習の内容 Students must do the assigned readings before each lecture and come to class prepared to participate actively in discussion and other activities.	
教科書 Vogel, Ezra F. <u>China and Japan: facing history</u> (Cambridge: Belknap Press, 2019)	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 The instructor will provide individual feedback for assignments. Additional guidance is also available by email or in office hours.	
成績評価の方法 Class Participation 40%, Response Papers 30%, Paper Presentation and Manuscript 30%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) POL391J	
政治学特殊講義D【2022年度以降入学者】	2単位
政治学特殊講義IV【2021年度以前入学者】	3・4年次
兼任講師 小川天	
授業の概要・到達目標 本科目は、独裁に関する政治理論の幾つかを参照し、現代政治との関連も意識しながら、それらの整理と検討を進めていくものである。その際、特に、政治における部分の問題、すなわち、それが制度や行為に関わるものなのか、あるいは精神や思考に関わるものなのか、といった問題に注意する。 自由民主主義体制を原則としている現代日本において、独裁という言葉は時として「悪い政治」のイメージを喚起するような具体的なだが曖昧な表現として使用されてしまう。本科目では、独裁を抽象的な政治理論の視点から理解することで、「悪い政治」のイメージの内容を把握し、くわえて、独裁のイメージから対照させることで、「良い政治」および政治一般のイメージも相対化して把握することを目的とする。	
授業内容 第1回目 イン트로ダクション(独裁とは) 第2回目 古典古代の独裁概念とその変化(1)——暴政と専制 第3回目 古典古代の独裁概念とその変化(2)——独裁官から独裁制へ 第4回目 絶対主義と主権論 第5回目 フランス革命と独裁 第6回目 社会主義革命と独裁 第7回目 民主的な政治と非民主的な政治との関係(1)——君主制 第8回目 民主的な政治と非民主的な政治との関係(2)——権威主義 第9回目 独裁と社会(1)——多数の暴政 第10回目 独裁と社会(2)——穏やかな専制と社会的専制 第11回目 超国家主義 第12回目 全体主義(1)——政治体制 第13回目 全体主義(2)——思考様式 第14回目 まとめ	
履修の注意点 なし。	
準備学習の内容 講義毎に取り扱う対象を事前に提示するので、基礎的な知識を得ておくことが望ましい。	
教科書 なし。	
参考書 なし。	
課題に対するフィードバックの方法 講義の終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の講義の冒頭で質問等に回答する。	
成績評価の方法 リアクションペーパーを含む授業への参加(30%)、期末レポート(70%) ※対面形式での試験は行わない。	
その他 なし	

科目ナンバー：(PE) POL491E	
政治学特殊講義 E 【2022年度以降入学者】	2 単位
政治学特殊講義 V 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
特任講師 ブルチャー ミヒャエル	
授業の概要・到達目標 Translation and Conceptual Change in the Early Meiji Period <p>This course will take a closer look at how key terms of modern Japanese political thought, such as the Japanese word for "society," were formed and took root in Meiji Japan. It will begin with a survey of existing literature on this question, which seeks to understand such terms as "translation words" for a corresponding "Western concept." This course will complicate this understanding through a second look at the English texts that early Meiji thinkers were looking at.</p> <p>We will thus pursue two objectives at once. On the one hand, students will gain a better understanding of how key concepts in the political lexicon of modern Japanese were formed. Why would the English term "society" have been translated by a Sino-Japanese character compound (<i>shakai</i> 社会) that is composed of the characters for a "shrine" and a "meeting" or "assembly," and an inversion of the character compound <i>kaisha</i> 会社 used to translate "corporation"? But by thinking through the problems faced by Japanese translators schooled in Confucian thought, students will also gain a better understanding of how key terms such as "society" function in modern English.</p> <p>In considering the process of translation of concepts such as "society," "corporation," and "rights" into Japanese, this course will also consult relevant observations on the meaning of these terms by twentieth-century authors ranging from Emile Durkheim to Michael Oakeshott, John R. Searle and Jurgen Habermas.</p>	
授業内容 1. Introduction: "Translating the West"? 2. The debate on Japanese "translation culture" 3. Yanabu Akira on <i>shakai</i> 社会 as a "translation word" 4. Nakamura Masanao's translations of "society" in John Stuart Mill's <i>On Liberty</i> 5. Saito Tsuyoshi on the (pre)history of the term <i>shakai</i> 社会 6. The logic of <i>shakai</i> 社会 and the advent of "Sociology" 7. Fukuzawa Yukichi's explanation of Wayland's "civil society." as a <i>kaisha</i> 会社 8. "Corporation" and "society": Kume Kunitake on the "political culture of Europe": 9. Fukuzawa Yukichi and the discourse on "civilization" 10. "Nation" and "civilization" in Fukuzawa Yukichi and Francois Guizot 11. The debate over "natural rights" 12. The meaning of <i>kenri</i> 権利 13. Nakae Chomin's translation of Rousseau's "On the Social Contract". 14. Summing Up	
履修の注意点 This course will be conducted in English. While it will centrally involve discussion of Sino-Japanese character compounds, it does not presuppose proficiency in Japanese.	
準備学習の内容 Weekly readings of 20-30 pages in English prior to each class. The weekly lectures will summarize, explain, and offer interpretations of these texts, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.	
教科書 None.	
参考書 John Howland, <i>Translating the West: Language and Political Reason in Nineteenth-Century</i> , University of Hawai'i Press, 2001. Indra Levy, ed. <i>Translation in Modern Japan</i> , Routledge 2011. Joshua A. Fogel, ed. tr. <i>The Emergence of the Modern Sino-Japanese Lexicon</i> , Brill 2015.	
課題に対するフィードバックの方法 Correct answers on quizzes/tests will be made available to students afterwards. The instructor will also provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are additionally encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc).	
成績評価の方法 Attendance and Participation: 10% Occasional Quizzes: 60% Essay: 30%	
その他 Students have the opportunity to meet the professor in person every Wednesday and Friday from 10:00 am to 7:00 pm. Additionally, they can reach out to the professor via email at cabeysinghe@kln.ac.lk for any inquiries or to schedule appointments.	

科目ナンバー：(PE) POL491E	
政治学特殊講義 E 【2022年度以降入学者】	2 単位
政治学特殊講義 V 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
特任教授 アベイシンヘ ムディヤンセラゲ ニロス チャミンダ	
授業の概要・到達目標 The course, South Asian politics aims to provide students with a comprehensive understanding of the political systems, political processes, political and government changes, political actors and their behaviours as well as of the critical political issues pertaining to countries in the South Asian region. This course explores constitutional, government and political developments in pre and post-colonial eras. Moreover, it examines how colonial policies have impacted local political and government systems and the political modernization of the region, as well as the response of the public to those policies. Moreover, the course explores the post-independent era's political-economic policies, power competitions and relationships. It is expected to equip students with advanced analytical knowledge and approaches to understand the complexities of South Asian politics comprehensively. Achievement goals/ Intended learning outcomes <p>At the completion of this course, students will be able to,</p> <ul style="list-style-type: none"> • Identify the common characteristics of South Asian politics. • Interpret the historical background and factors that caused the political and government transformation that is taking place in the region. • Understand the government and political developments, and the issues and obstacles for the nation-building process and democratic governance in the region. • Apply a functional and comparative approach to South Asian politics to identify prospects for enhancing political and economic development and regional cooperation. 	
授業内容 1st week: Introduction to South Asian Politics 2nd week: Historical and colonial legacies shaping South Asian politics 3rd week: Nation-building Process and National Movements in South Asia 4th week: Rise of Ethno nationalism and Partition in South Asia 5th week: Democratization and party politics in South Asia 6th week: Border issues in South Asia 7th week: Ethnic conflicts and terrorism in South Asia 8th week: Religious extremism in South Asia 9th week: Regional corporatism in South Asia 10th week: Gender and Politics in South Asia 11th week: Decentralized Governance in South Asia 12th week: Power dynamics and great power politics in the region 13th Week: Involvement of extra regional Powers in South Asia 14th week: Issues and challenges for democratic governance in South Asia	
履修の注意点 Preference will be given to the students who have a background in Regional Studies, Sociology, Political Science, Economics, History, International Relations, International Politics, Comparative Governance, or any other related Social Science subjects during the selection process. However, we also strongly encourage applicants who may not have studied these specific areas but possess a keen interest in South Asian politics to apply.	
準備学習の内容 Reading materials will be uploaded to the Oh-oi Meiji system before the sessions. Students are supposed to refer to and review the materials the professor assigns before each session.	
教科書 N/A	
参考書 Paul R. Brass, ed. (2010). <i>Routledge Handbook of South Asian Politics: India, Pakistan, Bangladesh, Sri Lanka and Nepal</i> . London: Routledge Mohan V. (2021). <i>Changing Political Dynamics in South Asia: The Belt and Road Initiative and Its Effects on Indian Regional Hegemony</i> , Journal of Indo-Pacific Affairs, Air University Press Croissant, Aurel and Lorenz Philip. (2018). <i>Comparative Politics of Southeast Asia: An Introduction to Government and Politics and Political Regime</i> . Switzerland: Springer	
課題に対するフィードバックの方法 The deadline for the submission of assignments is the last day of the class. After the submission, each assignment will be thoroughly screened, and detailed feedback will be provided, addressing specific criteria or guidelines for a comprehensive evaluation. Constructive criticisms will be given with a growth mindset, aimed at students' improvement without any judgments. Individual sessions will be arranged for each student to discuss the evaluative comments separately.	
成績評価の方法 Class Participation 20%, In-class test 20%, Take-home Assignment 20%, End-of-the-term-exam 40%	
その他 Students have the opportunity to meet the professor in person every Wednesday and Friday from 10:00 am to 7:00 pm. Additionally, they can reach out to the professor via email at cabeysinghe@kln.ac.lk for any inquiries or to schedule appointments.	

科目ナンバー：(PE) POL491E	
政治学特殊講義 F 【2022年度以降入学者】	2 単位
政治学特殊講義 VI 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
特任講師 ブルチャー ミヒャエル	
授業の概要・到達目標 Encounters between Europe and East Asia in the History of Political Thought This course will consider the role of mutual imaginations and encounters between Europe and East Asia in the history of political thought. In 1697, the philosopher Gottfried Wilhelm Leibniz could remark: "I consider it a singular plan of the fates that human cultivation and refinement should today be concentrated, as it were, in the two extremes of our continent, in Europa and China (as they call it), which adorns the Orient as Europe does the opposite edge of the earth." Prior to the nineteenth century and the age of Imperialism, when China began to be portrayed in mostly negative terms, such ideas were widespread. This class will emphasize the constitutive role of cultural and intellectual exchange between Europe and East Asia in the early modern and modern histories of both regions. The impact that knowledge of China had on the rise of "Rationalism" on the European Continent is frequently overlooked. Likewise, the processes of lexical translation, and conceptual change occasioned by cross-cultural encounters, are easily confused. In studying a variety of historical encounters between Europe and East Asia, students will consider different ways in which knowledge of and ideas about East Asia and Europe have been transmitted, assimilated, utilized, and produced. The class schedule below (which remains subject to further revision) arranges topics backwards in time, starting with nineteenth-century imaginations and moving to eighteenth- and seventeenth-century encounters then. Special emphasis will be placed on the reception of "Confucianism" in the development of Continental European, and imaginations of "Christianity" in the development of Japanese modern political thought.	
授業内容 1. Introduction: The Iwakura Mission on "The Political Culture of Europe" 2. "Liberty" vs. "despotism": "China" in Montesquieu and John Stuart Mill 3. The Victorian translation of "Confucianism" and the Confucian translation of Victorianism 4. The Impact of Nitobe Inazo's <i>Bushido: The Soul of Japan</i> 5. Hegel on "China" and Maruyama Masao on "Confucianism" 6. "Civilization" and/or "enlightenment": The debate over Fukuzawa Yukichi 7. "Confucianism" in the "European Enlightenment": Christian Wolff and Physiocracy in Eighteenth-Century France 8. Engelbert Kaempfer's account of Tokugawa Japan 9. Dutch Studies and western things in Tokugawa Japan 10. The "Chinese taste" in eighteenth-century England 11. Leibniz and Confucianism 12. Jesuits and "Confucians" in Ming and Qing China 13. The "Great Encounter" of China and the West 14. Images of "Christianity" in the making of modern Japan	
履修の注意点 This course will be conducted in English.	
準備学習の内容 Weekly readings of 20-30 pages in English prior to each class. The weekly lectures will summarize, explain, and offer interpretations of these texts, but proceed on the assumption that students have completed a first reading of them already.	
教科書	
参考書 None.	
課題に対するフィードバックの方法 Correct answers on quizzes/tests will be made available to students afterwards. The instructor will also provide detailed comments on essay/report submissions to students who wish to discuss them further, beyond more general remarks initially received. Students are additionally encouraged to ask questions related to contents of the class, or their understanding of the latter, throughout the semester (before/in/after class, or via email etc).	
成績評価の方法 Attendance and Participation: 10% Occasional Quizzes: 60% Essay: 30%	
その他	

科目ナンバー：(PE) SOC391J	
マスコミュニケーション特殊講義 C 【2022年度以降入学者】	2 単位
マスコミュニケーション特殊講義 III 【2021年度以前入学者】	3・4 年次
特任教授 杉田 弘毅	
授業の概要・到達目標 授業の概要：テーマは「国際政治とメディア」。21世紀に入って国際政治で顕著になった地政学について、政治、軍事、経済面からその功罪を検証し、メディアが国際政治に与えてきた影響を歴史的に分析し、望ましいメディアの役割を考える。 到達目標：国際情勢を左右する米国、中国、ロシア、欧州の地政学・地経学動向を理解し国際政治・経済の基礎を学ぶ。また地政学パワーに対して人権、自由など普遍的な規範を掲げてきたメディアの苦悩や果たすべき役割を検討する。	
授業内容 第1回目 国際政治とメディアの関係を理解する 第2回目 国際経済とメディアの関係を理解する 第3回目 地政学とは何か—メディアの視点から 第4回目 地経学とは何か—メディアの視点から 第5回目 米国のメディア 第6回目 中国のメディア 第7回目 ロシアのメディア 第8回目 理解度の確認 第9回目 中東のメディア 第10回目 フェイクニュースとメディア 第11回目 報道の自由とは何か 第12回目 国際政治と新興メディア 第13回目 メディアの国際連携 第14回目 総括a：まとめ b：最終レポート * 国際ニュースの展開で内容の変更があります	
履修の注意点 教科書や参考書を精読する 日々の大きな国際ニュースを知っておく	
準備学習の内容 予習よりも復習に力を入れ、授業で興味を持ったトピックについては、さまざまな文献・資料などで深く調べる	
教科書 杉田弘毅『国際報道を問いなおす』（ちくま新書）	
参考書 木下和寛『メディアは戦争にどうかかわってきたか』（朝日新聞社）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 レポート内容50%、理解度の確認20%、授業への貢献度30%	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) SOC391E	
マスコミュニケーション特殊講義D【2022年度以降入学者】	2単位
マスコミュニケーション特殊講義IV【2021年度以前入学者】	3・4年次
特任教授 杉田弘毅	
授業の概要・到達目標 Title: Understanding Japanese Media The course will give the participants an overview of Japanese media organizations and challenges in the Internet-AI age. Students will learn history of Japan's newspapers and TV broadcasters, and their influence in shaping public opinion. The participants will also be briefed on the Japan's out-going news service for the purpose of having foreign nations understand Japan objectively. Finally, we will discuss about Japanese media reporting on wars in Ukraine and Gaza strip. The course objectives are: 1 To get a comprehensive understanding of Japan's mass media 2 To acquire the knowledge of media reporting of wars in Ukraine and Gaza strip 3 To learn about role of major media organizations in Internet-AI age	
授業内容 Lecture1 Introduction Lecture2 Overall views of Japan's media organizations Lecture3 History of Japan's media, newspapers and TV broadcasters Lecture4 Ukraine War and Japanese media (1) Lecture5 Ukraine War and Japanese media (2) Lecture6 Ukraine War and Japanese media (3) Lecture7 Ukraine War and Japanese media (4) Lecture8 Gaza War and Japanese media (1) Lecture9 Gaza War and Japanese media (2) Lecture10 Gaza War and Japanese media (3) Lecture11 The roles and challenges of the mass media in the Internet age Lecture12 Traditional media and Artificial Intelligence Lecture13 Discussion about the future of media Lecture14 Final report	
履修の注意点 Classes will be conducted in English; both reports will be written in English.	
準備学習の内容 Before class: Check for current news for 60 mins. Occasionally we will discuss about major news stories. After class: Review important information provided and learned in class	
教科書 None	
参考書 Professor may recommend on-line materials at classes	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 Class contribution=30% Midterm report=30% Final report=40%	
その他 なし	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
経済学特殊講義C【2022年度以降入学者】	2単位
経済学特殊講義Ⅲ【2022年度以前入学者】	3・4年次
助教 加藤真琴	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、まず歴史的な観点からアメリカ経済を概観し、つぎにアメリカ経済を映す鏡としてヴェブレンとガルブレイスという2人の経済学者を紹介する。アメリカ経済は、日本に暮らすわれわれの生活に多大な影響をあたえているため、それを学ぶ意義は大きい。 【到達目標】 ①地理的条件、環境、人口構成等のアメリカにみられる特殊性を知る。 ②2025年問題を間近に控えたいま、日本経済の苦境を乗り越えるためのスキルとして授業で得た知識を活用する。	
授業内容 第1回目 授業の進め方と成績評価 第2回目 全米経済研究所(NBER)と景気循環 第3回目 アメリカを見る視点 第4回目 戦後の好況とアメリカの「ルール」 第5回目 大不況とニューディール 第6回目 第2次世界大戦と供給サイドの変化 第7回目 ゆたかな社会の確立へ 第8回目 「ニューフロンティア」とその後 第9回目 規制「撤廃」とアメリカ経済 第10回目 繁栄が続いた90年代 第11回目 21世紀のアメリカ 第12回目 アメリカの経済学者紹介①ヴェブレン 第13回目 アメリカの経済学者紹介②ガルブレイス 第14回目 全体のまとめ	
履修の注意点 なし	
準備学習の内容 予習：学生同士のディスカッション(30分間)、ニュースの視聴(30分間) 復習：キーワードを自分の言葉でまとめる(60分間)	
教科書 とくに定めない	
参考書 『アメリカ経済の歩み』榊原胖夫・加藤一誠(文眞堂)2011年 『植民地から建国へ—19世紀初頭まで』和田光弘(岩波新書)2019年 『南北戦争の時代—19世紀』貴堂嘉之(岩波新書)2019年 『20世紀アメリカの夢—世紀転換期から1970年代』中野耕太郎(岩波新書)2019年 『グローバル時代のアメリカ—冷戦時代から21世紀』古矢旬(岩波新書)2020年	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で行う	
成績評価の方法 平常点(30%)、期末レポート(70%)	
その他 なし	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
経済学特殊講義D【2022年度以降入学者】	2単位
経済学特殊講義IV【2022年度以前入学者】	3・4年次
教授 大 森 正 之	
授業の概要・到達目標 ・授業のタイトル 制度派経済学と環境経済論 ・授業の概要 アメリカで19世紀末前後からヴェブレンやコモンスらにより形成された制度派経済学は、戦後、K.W.カップらにより独自の環境経済学へと発展した。それは現代ではスウェーデンのP.セーデルバウム、アメリカのD.プロムリーにより継承され、発展した。我が国では都留重人および彼の研究グループに継承された。この講義では、以上の理論的な発展過程を跡づけ、現代における制度派経済学の到達点とその環境経済学バージョンの特徴を考察する。	
授業内容 1. 授業の概要と成績評価についての概説 2. 前制度学派の経済学（ミル、マーシャル、ピグー） 3. 制度派経済学の形成（ヴェブレンの消費と企業の理論） 4. 制度派環境経済論（ヴェブレンのとミュルダールのCCC理論） 5. カップの制度派環境経済論1（批判理論と社会的費用論） 6. カップの制度派環境経済論2（カップのCCC理論） 7. カップの制度派環境経済論3（社会的最低限と環境基準） 8. セーデルバウムの制度派環境経済論1（政治経済人と政治経済組織） 9. セーデルバウムの制度派環境経済論2（ポジション分析） 10. プロムリーの制度派所有権論1（コースの定理批判） 11. プロムリーの制度派所有権論2（漁業経済学批判） 12. 我が国の制度派環境経済学1（都留重人と環境負荷緩和財） 13. 我が国の制度派環境経済学2（宮本憲一と宇沢弘文） 14. 授業のまとめ現代制度学派の到達点（J.ホジソンの仕事）	
履修の注意点 ・履修上の注意 春学期に環境経済学を履修しておくことで理解が促進されますが、必ずしも前提科目ではありません。 ・準備学習の内容 授業で取り上げる経済学者のプロファイルや主要業績をウェブサイトやブログで調べておくことで授業が分かりやすくなります。	
準備学習の内容 ・準備学習の内容 授業で取り上げる経済学者のプロファイルや主要業績をウェブサイトやブログで調べておくことで授業が分かりやすくなります。	
教科書 K.W.カップ（2014）『制度派経済学の基礎』人間の科学新社 大森正之（2020）『持続可能な経済の探究』丸善出版	
参考書 ペーテル セーデルバウム著（2010）『持続可能性の経済学を学ぶ：経済学に多元主義を求めて』人間の科学新社	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で行う	
成績評価の方法 授業への参加度と期末レポートにより評価します。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) ECN391J	
経済学特殊講義D【2022年度以降入学者】	2単位
経済学特殊講義IV【2022年度以前入学者】	3・4年次
助教 加 藤 真 琴	
授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、『入門アメリカ経済Q&A』坂出健・秋元英一・加藤一誠（中央経済社）2019年を参考にして、2009年以降のアメリカ経済にかんする重大トピックについて議論する。いずれも日本経済の動向を考えるうえで重要なトピックである。 【到達目標】 ①授業で扱うテーマについて自分の考えをまとめ、述べることができる。 ②2025年問題を間近に控えたいま、日本経済の苦境を乗り越えるためのスキルとして授業で得た知識を活用する。	
授業内容 第1回目 授業の進め方と成績評価 第2回目 サプライズ問題／リーマン・ショック 第3回目 世界金融危機 第4回目 銃乱射事件 第5回目 トランプ・ウォール／ラストベルト 第6回目 シリコンバレー／イノベーション 第7回目 IT産業／バイオ医薬品産業 第8回目 自動運転・EVへの対応 第9回目 インフレ目標政策／量的緩和 第10回目 長期停滞／政策金利水準ルール 第11回目 出口問題 第12回目 オバマケア改革／年金 第13回目 自由貿易協定／米中貿易摩擦 第14回目 全体のまとめ	
履修の注意点 なし	
準備学習の内容 予習：学生同士のディスカッション（30分間）、ニュースの視聴（30分間） 復習：授業で扱ったテーマについて自分の考えを整理する（60分間）	
教科書 とくに定めない	
参考書 『入門アメリカ経済Q&A』坂出健・秋元英一・加藤一誠（中央経済社）2019年 『植民地から建国へ—19世紀初頭まで』和田光弘（岩波新書）2019年 『南北戦争の時代—19世紀』貴堂嘉之（岩波新書）2019年 『20世紀アメリカの夢—世紀転換期から1970年代』中野耕太郎（岩波新書）2019年 『グローバル時代のアメリカ—冷戦時代から21世紀』古矢旬（岩波新書）2020年	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で行う	
成績評価の方法 平常点（30%）、期末レポート（70%）	
その他 なし	

科目ナンバー：(PE) ECN491J	
経済学特殊講義E【2022年度以降入学者】	2単位
経済学特殊講義V【2023年度以前入学者】	3・4年次
特任教授 金子隆一	
授業の概要・到達目標 経済社会現象の基底には常に人口変動の働きがあり、とりわけ今日の日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢を基調とした社会へと歴史的な転換を経験しつつある。したがって、現代の経済社会を理解し、その将来を見通すためには、人口・経済社会の連動を正しく理解する必要がある。ただし、人口変動とは人々のライフコース変化の帰結であり、日本社会が直面している歴史的転換とは、実は私たち自身の生き方の転換に他ならない。 本講義では、現代日本の人口・経済社会動向を概観した後、人口学（ライフコース統計学）の基礎事項を習得し、次いで我々の「生」を根本から変え、近代化の起点とも考えられる長寿化を中心に、人口・経済社会システムの動態についての理解を深める。	
授業内容 第1回 イントロダクション…人口学：人生の計量科学 第2回 人口減少・超高齢化の実相(1)…世界の中の日本人 第3回 人口減少・超高齢化の実相(2)…人口減少・高齢化の実相 第4回 人口減少・超高齢化の実相(3)…地域変動、出生死亡パラドックス 第5回 人口減少・超高齢化の実相(4)…人口オーナス、シルバー民主主義 第6回 人口減少・超高齢化の実相(5)…ライフコース変動、処方箋 第7回 人口統計の基礎概念…人口分析、人口静態と人口動態 第8回 人口変動メカニズムⅠ…人学的方程式、人口再生産 第9回 人口変動メカニズムⅡ…行動要因と構造要因、多死社会到来 第10回 生存と死亡の定量化…ライフコースのモデル、生命表 第11回 生存と死亡の歴史…寿命の進化・疫学転換理論 第12回 長寿化の要因…生物学・経済社会的要因 第13回 長寿化の帰結…長寿化と経済リスク 第14回 長寿化と社会…長寿リスクと経済	
履修の注意点 統計や数式など定量的題材を用いるが、人口・経済社会の本質的理解が主眼であり、必ずしも予備知識等は必要としない。必須の技術的事項については授業で詳細に説明する。	
準備学習の内容 人口動向や経済社会の事象について問題意識をもって講義に臨むこと。講義における問題提起などに対しては真剣に考察すること。	
教科書 指定しない。配付する資料を主な教材とし、適宜参考図書を紹介する。	
参考書 『新時代からの挑戦状—未知の少親多死社会をどう生きるか』金子隆一・村木厚子・宮本太郎、厚生労働統計協会（2018,ISBN-10：4875117736） 『日本の人口動向とこれからの社会』森田朗（監修）東京大学出版会（2017,ISBN-10:4130511394）、 『人口学への招待』河野稠果（著）中公新書（2007,ISBN-10:4121019105）、 その他適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 出席（50%）、期末レポート（50%）	
その他 「経済学特殊講義F・VI」と重複する内容あり。	

科目ナンバー：(PE) ECN491J	
経済学特殊講義F【2022年度以降入学者】	2単位
経済学特殊講義VI【2024年度以前入学者】	3・4年次
特任教授 金子隆一	
授業の概要・到達目標 経済社会現象の基底には常に人口変動の働きがあり、とりわけ今日の日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢を基調とした社会へと歴史的な転換を経験しつつある。したがって、現代の経済社会を理解し、その将来を見通すためには、人口・経済社会の連動を正しく理解する必要がある。ただし、人口変動とは人々のライフコース変化の帰結であり、日本社会が直面している歴史的転換とは、実は私たち自身の生き方の転換に他ならない。 本講義では、現代日本の人口・経済社会動向を概観し、人口学（ライフコース統計学）の基礎事項を習得した後、日本が先行し、やがて世界を席卷する人口減少・高齢化の「震源」少子化について学ぶことを通して、人口・経済社会システムの動態について理解を深める。	
授業内容 第1回 イントロダクション…人口学：人生の計量科学 第2回 人口減少・超高齢化の実相(1)…世界の中の日本人 第3回 人口減少・超高齢化の実相(2)…人口減少・高齢化の実相 第4回 人口減少・超高齢化の実相(3)…地域変動、出生・死亡パラドックス 第5回 人口減少・超高齢化の実相(4)…人口オーナス、シルバー民主主義 第6回 人口減少・超高齢化の実相(5)…ライフコース変動、処方箋 第7回 人口統計の基礎概念…人口分析、人口静態と人口動態 第8回 人口変動メカニズムⅠ…人学的方程式、人口再生産 第9回 人口変動メカニズムⅡ…行動要因と構造要因、多死社会到来 第10回 生存と死亡の定量化…合計特殊出生率、人口置換水準 第11回 生存と死亡の歴史…人類進化と出生、近代化と出生転換 第12回 少子化の要因…生物学・経済社会的要因 第13回 少子化の帰結…人口変動のもたらす冬、経済社会転換 第14回 少子化と文明…脱近代化、人類社会の行方	
履修の注意点 統計や数式など定量的題材を用いるが、人口・経済社会の本質的理解が主眼であり、必ずしも予備知識等は必要としない。必須の技術的事項については授業で詳細に説明する。	
準備学習の内容 人口動向や経済社会の事象について問題意識をもって講義に臨むこと。講義における問題提起などに対しては真剣に考察すること。	
教科書 指定しない。配付する資料を主な教材とし、適宜参考図書を紹介する。	
参考書 『新時代からの挑戦状—未知の少親多死社会をどう生きるか』金子隆一・村木厚子・宮本太郎、厚生労働統計協会（2018,ISBN-10：4875117736） 『日本の人口動向とこれからの社会』森田朗（監修）東京大学出版会（2017,ISBN-10:4130511394）、 『人口学への招待』河野稠果（著）中公新書（2007,ISBN-10:4121019105）、 その他適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 出席（50%）、期末レポート（50%）	
その他 「経済学特殊講義E・V」と重複する内容あり。	

科目ナンバー：(PE) ECN491E	
経済政策特殊講義E【2022年度以降入学者】	2単位
経済政策特殊講義V【2021年度以前入学者】	3・4年次
特任教授 小西淳文	
授業の概要・到達目標 Subtitled "Trends in Development Economics and the Evolution of Aid Strategies," this session will review the theories that have dominated each era and the successes and failures of aid projects based on them, and identify the scope and limitations of each theory. Based on the understanding of such historical background and facts, the course aims to enable students to think about how development and aid should be carried out in a globalized world, a post-colonial world, and a world that may be divided by warfare.	
授業内容 Week 1 : Overview of the lecture Establishment of International Assistance System (1945-1960's) American strategy in the early postwar period Establishment of Japan's aid strategy Week 2 : International Trade and Economic Situation (1960s) GATT Movements of Asian & African Countries 1st UN Development Decade (1961-70) Week 3 : 1st UNCTAD (1964) & Prebisch Report GATT Kennedy Round, 2nd UNCTAD (1968) , "Pearson Report", "Tinbergen Report" Week 4 : 2nd UN Development Decade (1971-80) 3rd UNCTAD (1972) , 4th UNCTAD (1976) New International Economic Order (1977) Week 5 : 3rd UN Development Decade (1981-90) "Blunt Committee Report", North-South Summit (1981) Week 6 : Learning from history (summary) Dependency theory (neo-Marxism), "world capital accumulation theory" Week 7 : UN Conference on the Human Environment (1972) -UN Earth Summit (1992) Week 8 : UN Earth Summit Follow (Environment-related Convention), MDGs (2000) SDGs (2015) Week 9 : "Structural Adjustment Plan" "Reformism" "Human Development Report" "Human Security" "JICA Issue-Specific Guidelines" Week 10 : "World Development Report 2011"- "Conflict, Security and Development" "JICA Issue-Specific Guidelines" (Peace-building) Week 11 : "World Development Report 1997"- "The State in a Changing World" & "World Development Report 2017"- "Governance and Law" Week 12 : "World Development Report 2023"- "Migrants, Refugees and Societies" Week 13 : "World Development Report 2012"- "Gender Equality and Development" "JICA Issue-Specific Guidelines" (Gender and Development) Week 14 : "World Development Report 2020"- "Trading for Development in the Age of Global Value Chains"	
履修の注意点 Please be sure to read through the pre-tutorial material that will be posted on the class web site by the end of the week prior to each class session. In class, the main class material will be posted on the class web site and the content of the pre-distributed material will be explained in detail.	
準備学習の内容 In addition to the materials delivered in class, you are encouraged to deepen your understanding from the Diplomatic Blue Book, the World Development Bank's World Development Report, UNDP's Human Development Report, applicable materials accessible from the JICA website, and the Brandt Commission Report.	
教科書 None in particular	
参考書 In addition to the materials delivered in class, you are encouraged to deepen your understanding from the Diplomatic Blue Book, the World Development Bank's World Development Report, UNDP's Human Development Report, applicable materials accessible from the JICA website, and the Brandt Commission Report.	
課題に対するフィードバックの方法 Please submit a small report (about 1-2 A4 pages) after each class. This small report is the subject of evaluation, so please be sure to submit it. I will also return comments on the submitted reports. The deadline for submission is 8:30 a.m. on the sixth day after each class, so please be strict about it.	
成績評価の方法 1 Evaluation of short reports (1-2 A4 pages) submitted after each class (5% full marks for each session, 70% full marks in total) 2 Evaluation of the final report (3 or more A4 pages) (30% full marks) The theme is "What kind of development and aid should be provided in a globalized world, a post-colonial world, a world that may be divided by warfare?"	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN491E	
経済政策特殊講義F【2022年度以降入学者】	2単位
経済政策特殊講義VI【2021年度以前入学者】	3・4年次
特任教授 小西淳文	
授業の概要・到達目標 Subtitle: "Sustainable Development 'Harmony between Growth and Environment'" An understanding of the environmental initiatives of Japan and the international community, and the ability to seek ways to promote growth while addressing environmental challenges Topics will also include the results of projects implemented by JICA and the science and innovation technologies used in them.	
授業内容 Week 1 : Sustainable Development "Harmony between Growth and Environment" ・ Topic : "Sinking Island? Tuvalu" Week 2 : History of Japanese Environmental Issues and Bilateral Cooperation ・ Topic : "Haze in Indonesia" Week 3 : UN Conference on the Human Environment (1972) ・ Topic : "Acid rain measures in Thailand" Week 4 : Establishment of International Cooperation System and Japanese assistance ・ Topic : "Thai Establishment Environmental Training & Research Center", "China The Sino-Japan Friendship Center for Environmental Protection" Week 5 : United Nations Conference on the Global Environment (1992) and International Treaty ・ Topic : "Bhutan Himalayan Glacial Lake Outburst Flood" Week 6 : Air Pollution ・ Topic : "Middle and South America Protection of the Ozone Layer" Week 7 : Ocean Pollution & Waste Management ・ Topic : "Philippines Coastal Ecosystem Conservation", "Bhutan Waste Management" Week 8 : Forest Conservation ・ Topic : "Brazil Carbon assessment of Amazon Forest Areas" Week 9 : Convention on Biological Diversity (1992) ・ Topic : "Gabon Forest Ecosystem Conservation and Scientific Ecotourism" Week 10 : Framework Convention on Climate Change (1992) ・ Topic : "Thai Overflow of Chao Phraya River" Week 11 : MDGs (2000) , Infectious Diseases Control ・ Topic : "Neglected Tropical Diseases" Week 12 : United Nations Convention to Combat Desertification , Johannesburg Summit (2002) ・ Topic : " South region of Africa Continent Climate Change and Dipole mode Phenomenon", "Weather forecasts for eastern and southern Africa" Week 13 : UN Conference on Sustainable Development (Rio+20) (2012) , Bosai (Disaster Prevention) ・ Topic : "Philippines Volcano", "Chili "Earthquake and Tsunami" Week 14 : SDGs (2016) ・ Topic : "Senegal Dakar metropolitan area development", "Asia Low Carbon Society"	
履修の注意点 Please be sure to read through the pre-tutorial material that will be posted on the class web site by the end of the week prior to each class session. In class, the main class material will be posted on the class web site and the content of the pre-distributed material will be explained in detail.	
準備学習の内容 To profonde your comprehension by accessing to JICA library Portal Site (JICA Report). https://libopac.jica.go.jp/ To profonde your comprehension by accessing to Japan Science and Technology Agency (JST) homepage → "SATREPS International Science and Technology Cooperation Program for Global Issues" https://www.jst.go.jp/global/	
教科書 None in particular	
参考書 To profonde your comprehension by accessing to JICA library Portal Site (JICA Report). https://libopac.jica.go.jp/ To profonde your comprehension by accessing to Japan Science and Technology Agency (JST) homepage → "SATREPS International Science and Technology Cooperation Program for Global Issues" https://www.jst.go.jp/global/	
課題に対するフィードバックの方法 Please submit a small report (about 1 A4 sheet) after each class. This small report is the subject of evaluation, so please be sure to submit it. I will also return comments on the submitted reports The deadline for submission is 8:30 a.m. on the sixth day after each class, so please adhere strictly to the deadline.	
成績評価の方法 1 Evaluation of short reports (1-2 A4 pages) submitted after the class (5% full marks for each session, 70% full marks in total) 2 Evaluation of the final report (3 or more A4 pages) (30% full marks) The theme is "Environmental issues of interest to each student and suggestions for measures to address them."	
その他	

科目ナンバー：(PE) ARS491J	
国際文化特殊講義C【2022年度以降入学者】	2単位
国際文化特殊講義Ⅲ【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 佐久間 寛	
授業の概要・到達目標 【授業概要】 本講義ではアフリカについて学ぶ。講義の主な素材となるのは、担当者がニジェール共和国の一村で実施した、文化人類学的なフィールドワークにもとづく情報である。こうしたミクロな情報を、21世紀転換期の世界情勢と連関させて論じることにより、自分たちとは一見無縁にも感じられるアフリカを同時代の同一地平で考え抜く視座を養う。 【到達目標】 アフリカは、わたしたちが暮らす地域から遠く離れている。そこではわたしたちの「当たり前」がかならずしも通用しない。本講義では、たんにアフリカに関する知識を深めるだけでなく、自らと遠く隔たっている（ように思われる）地域を理解することにより、自らの「当たり前」を再考する柔軟な思考力の養成を目指す。	
授業内容 第1回目 フィールドワークで学ぶアフリカ 第2回目 フィールドを「起こす」(1) 第3回目 フィールドを「起こす」(2) 第4回目 フィールドで「書く」(1) 第5回目 フィールドで「書く」(2) 第6回目 フィールドで「撮る」 第7回目 フィールドが「起こる」 第8回目 フィールドで「測る／数える」 第9回目 フィールドを「見いだす」(1) 第10回目 フィールドを「見いだす」(2) 第11回目 フィールドを「読む」(1) 第12回目 フィールドを「読む」(2) 第13回目 フィールドを「読む」(2) 第14回目 フィールドを「省みる」	
履修の注意点 毎回の授業ごとに、800～2000字程度のリアクションペーパーを提出することが必須の課題となる。また単なる感想ではなく、授業の内容をふまえて独自の思考を記すことが求められる。履修の可否の判断にあたってはくれぐれも注意すること。	
準備学習の内容 講義全体につながりがあるので配付資料には繰り返し目を通しておくこと。	
教科書 特に定めない。講義ごとに資料を配付する。	
参考書 特に定めない。適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業への参加度および授業ごとのリアクションペーパー(70%)、学期末レポート(30%)	
その他 受講者の疑問や要望を極力尊重し、必要な場合には授業内容を柔軟に見直す。	

科目ナンバー：(PE) ARS491E	
国際文化特殊講義E【2022年度以降入学者】	2単位
国際文化特殊講義V【2021年度以前入学者】	3・4年次
准教授 ネルソン、リンジー	
授業の概要・到達目標 Haunted Japan: Scary Stories in Contemporary Japanese Media What role do scary stories play in contemporary Japan, and in Japanese media in particular? How are real-world and media spaces "haunted" by different kinds of ghosts and historical trauma? How has "horror media" evolved since the J-horror "boom" period of the late 1990s and early 2000s? This course examines films, TV programs, YouTube videos, horror attractions, visual art, and theory on the concept of "haunting" in Japan. Topics covered include the depiction of Aokigahara (the "suicide forest") in contemporary media, Japanese horror YouTube channels, and the idea of "home" in ghost stories and Japanese horror films. Class activities will include discussions of films and readings, viewings of short videos, lectures, group presentations, and small group discussions. Instead of a final exam, each student will choose a final project based on certain guidelines. Students will also need to read a small amount of material and respond to it online before each class. This class is taught entirely in English.	
授業内容 Schedule (may change based on class size and university calendar details) 1 Introduction to course 2 J-horror and its predecessors 3 Movie: 仄暗い水のそこから 4 Aokigahara, Orientalism, and Japanese horror abroad 5 Found footage horror, presentations 6 Fake Documentary Q (YouTube) 7 Quiz 8 Zozozo (YouTube) 9 Haunted houses and the idea of "home" 10 Movie: 残穢：住んではいけない部屋 11 Movie: クリーピー 12 Movie: バイロケーション 13 Discussion of final movie (student choice) 14 Final project presentations, conclusions and final thoughts	
履修の注意点 Please note that the class is taught entirely in English. All of the movies we watch will be in Japanese, but some videos will be in English without Japanese subtitles. Readings will be in English. Students should be comfortable listening to lectures and having conversations about academic subjects in English, although "perfect" fluency is not required.	
準備学習の内容 Students must attend the first class. Note: attendance is important! Four or more absences will result in a failing grade. Please come to class on time. However, please DON'T come to class if you are sick! Your health and the health of your classmates are more important than grades. If you need to be absent many times because of illness, please contact me. We can decide on a solution together.	
教科書 特に使用しない。Oh-ol Meijiからダウンロードする。 No textbook. Reading materials will be distributed in class or downloaded via the Oh-ol Meiji system.	
参考書 Please see the weekly schedule.	
課題に対するフィードバックの方法 I will mark your quizzes, final project, and presentations. I will also give written feedback on your quizzes, final project, and (sometimes) on weekly responses to readings, videos, and films.	
成績評価の方法 Participation in class activities and discussions: 30% Quiz: 10% Presentation: 10% Weekly responses: 30% Final project: 20%	
その他 If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com.	

科目ナンバー：(PE) ARS491E	
国際文化特殊講義 F【2022年度以降入学者】	2 単位
国際文化特殊講義 VI【2021年度以前入学者】	3・4 年次
講師 ヨーク ジェームズ	
授業の概要・到達目標 Course Objective: This course delves into the captivating world of video games, exploring their evolution from primitive beginnings to their dominant position in modern culture. Through play, analysis, and discussion, we'll build game literacy, refine academic English skills, and critically analyze the social, cultural, and economic impact of games. * To improve students' game literacy. To be able to play, understand, and discuss various aspects of different game genres. * Improve academic English skills through close reading and discussion of critical texts related to the history of gaming * To understand the social, cultural, and economic impact of games in modern society.	
授業内容 Week 1: Pixels Take Flight: From Pong to Pathfinders (Introduction to Videogame History) Week 2: Arcade Adrenaline: Golden Age of Pixelated Heroes Week 3: Homeward Bound: Consoles and PCs Ignite the Home Front Week 4: Crash Course: Navigating the Video Game Revolution Week 5: Midterm Presentation: Your Story in the Sandbox Week 6: Dimensional Doors: Embracing the 3D Revolution Week 7: Global Connections: Online Gaming and MMOs Week 8: Pocket Powerhouses: Mobile Games Redefine Play Week 9: Exploring the Grey Areas: Ethical Dilemmas and Societal Impacts Week 10: Midterm Presentation 2: The current state of games Week 11: Competitive Arenas: The Business and Culture of eSports Week 12: Gamification Unchained: How Game Mechanics Shape the Real World Week 13: Learning Through Play: Unleashing the Educational Power of Games Week 14: Grand Finale: It's your turn. What do games mean to you?	
履修の注意点 The class will be conducted in English.	
準備学習の内容 None. However, it may be helpful to review a few of the articles or videos from the references list.	
教科書 None. Materials will be provided via Oh-oi Meiji.	
参考書 Texts * Ludic Century Manifesto (Zimmerman) https://kotaku.com/manifesto-the-21st-century-will-be-defined-by-games-1275355204 * Video Game History https://www.history.com/topics/inventions/history-of-video-games * Another "video games history" page https://www.gamedesigning.org/gaming/history/ Videos: * Indie Game: The Movie (2012) - IMDb https://www.imdb.com/title/tt1942884/ * The King of Kong: A Fistful of Quarters (2007) - IMDb https://www.imdb.com/title/tt0923752/ * High Score (Netflix) https://www.netflix.com/jp/title/81019087 * Penny Arcade Extra Credits: https://youtube.com/playlist?list=PLgN0L7R93M85hbF8Nh6jROV0Exejy5xtf&si=ywrwhpL0nnWRM-k47	
課題に対するフィードバックの方法 In class discussions	
成績評価の方法 * Presentation quality * Attendance and participation	
その他	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読 I	2 単位
	3・4 年次
兼任講師 土肥有理	
授業の概要・到達目標 Facts about Germanyを基礎文献とし、ドイツの社会や文化について学びます。また、ドイツ政治教育センターなどのウェブ記事をサブ教材として使用します。そのことによって異文化理解にも努めます。	
授業内容 第1回目：オリエンテーション／訳読 第2回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第3回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第4回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第5回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第6回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第7回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第8回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第9回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第10回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第11回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第12回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第13回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第14回目：テキスト訳読と内容に関する議論／まとめ	
履修の注意点 予習範囲は事前に指示します。電子辞書を含む辞書があると望ましいです。	
準備学習の内容 わからない単語は事前に調べるなどしておいてください。	
教科書 Facts about Germany他 ※コピーして事前配布します。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法 講義の際、訳文を検討し、議論する。	
成績評価の方法 授業への取り組みの積極性（訳文の検討を含む）50%、授業への参加度50%	
その他 私語や授業中のスマートフォンの使用は控えること。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ	2単位
	3・4年次
兼任講師 土肥有理	
授業の概要・到達目標 Facts about Germanyを基礎文献とし、ドイツの社会や文化について学びます。また、ドイツ政治教育センターなどのウェブ記事をサブ教材として使用します。そのことによって異文化理解にも努めます。	
授業内容 第1回目：オリエンテーション／訳読 第2回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第3回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第4回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第5回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第6回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第7回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第8回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第9回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第10回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第11回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第12回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第13回目：テキスト訳読と内容に関する議論 第14回目：テキスト訳読と内容に関する議論／まとめ	
履修の注意点 予習範囲は事前に指示します。電子辞書を含む辞書があると望ましいです。	
準備学習の内容 わからない単語は事前に調べるなどしておいてください。	
教科書 Facts about Germany他 ※コピーして事前配布します。	
参考書 特に指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法 講義の際、訳文を検討し、議論する。	
成績評価の方法 授業への取り組みの積極性（訳文の検討を含む）50%、授業への参加度50%	
その他 私語や授業中のスマートフォンの使用は控えること。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ	2単位
	3・4年次
兼任講師 三森ちかし	
授業の概要・到達目標 この授業では、Europe Union（以下 EU）について書かれた英語文献の講読によって英文読解力の向上を目指すとともに、EUについての基本的知識を高めることを目的とします。	
授業内容 主として、輪読形式で講義を進めていきます。毎回担当者を決め、指定した範囲の翻訳を発表してもらいます。文献の内容を正確に理解し、きちんとした日本語に訳することを重視しますので、量よりも質の高い翻訳を求めます。 第1回：イントロダクション 第2回：lesson 1 第3回：lesson 2 第4回：lesson 3 第5回：lesson 4 第6回：lesson 5 第7回：lesson 6 第8回：lesson 7 第9回：lesson 8 第10回：lesson 9 第11回：lesson 10 第12回：lesson 11 第13回：lesson 12 第14回：lesson 13	
履修の注意点 EU およびヨーロッパに関するニュースを常に注意を払うようにしてください。	
準備学習の内容 割り当てられた担当箇所を翻訳してきてください。口頭で述べるのではなく、事前に日本語として理解しやすい文にしてきて下さい。	
教科書 <i>A Short History of Brexit, Kevin O'Rourke, A Pelican Book</i> を使う予定です。購入は不要です。	
参考書 『新EU論』植田隆子ほか（信山社） 『ヨーロッパ統合の政治史』金丸輝男ほか（有斐閣） 『EUの政治』田中俊郎（岩波書店） 『EU—欧州統合の現在— 第4版』鷺江義勝ほか（創元社） 『EUの知識』（藤井良弘、日経文庫）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 平常点および発表内容で評価します。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ	2単位
	3・4年次
兼任講師 三 森 ちかし	
授業の概要・到達目標 この授業では、Europe Union（以下 EU）について書かれた英語文献の講読によって英文読解力の向上を目指すとともに、EU についての基本的知識を高めることを目的とします。	
授業内容 主として、輪読形式で講義を進めていきます。毎回担当者を決め、指定した範囲の翻訳を発表してもらいます。文献の内容を正確に理解し、きちんとした日本語に訳することを重視しますので、量よりも質の高い翻訳を求めます。 第1回：イントロダクション 第2回：lesson 1 第3回：lesson 2 第4回：lesson 3 第5回：lesson 4 第6回：lesson 5 第7回：lesson 6 第8回：lesson 7 第9回：lesson 8 第10回：lesson 9 第11回：lesson 10 第12回：lesson 11 第13回：lesson 12 第14回：lesson 13	
履修の注意点 EU およびヨーロッパに関するニュースを常に注意を払うようにしてください。	
準備学習の内容 割り当てられた担当箇所を翻訳してきてください。口頭で述べるのではなく、事前に日本語として理解しやすい文にしてきて下さい。	
教科書 <i>A Short History of Brexit, Kevin O'Rourke, A Pelican Book</i> を使う予定です。購入は不要です。	
参考書 『新EU論』植田隆子ほか（信山社） 『ヨーロッパ統合の政治史』金丸輝男ほか（有斐閣） 『EU の政治』田中俊郎（岩波書店） 『EU—欧州統合の現在— 第4版』鷺江義勝ほか（創元社） 『EUの知識』（藤井良弘、日経文庫）	
課題に対するフィードバックの方法 随時授業で個別に案内する。	
成績評価の方法 平常点および発表内容で評価します。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ	2単位
	3・4年次
助教 鎌 江 一 平	
授業の概要・到達目標 「授業概要」 この授業では、昨今の国際情勢に触れつつ一定の視座を提供する英語文献を精読する。授業の目的は、その精読を通じて専門知識・知見を深め、英語力全般を強化することである。 学習テーマは、国際関係の基礎的内容に始まり、アメリカ、中国、日本を含むインド太平洋地域の国際政治・外交・安全保障を中心に取り扱う。 英語学習においては、リーディング、リスニング、スピーキング力を強化する上での勉強方法も含めて授業で触れる。 「到達目標」 この授業では、上記の目的に沿って以下4つの目標を設定している。 <ol style="list-style-type: none"> ① 英語の情報を効率的に収集できるようになる ② 自分の意思を英語で流暢に伝えられるようになる ③ 国際関係・外交・安全保障の知識を増やす ④ 国際関係・外交・安全保障への見方を深める 	
授業内容 第1回目 イン트로ダクション 第2回目 原典理解と分析（1） 第3回目 英語学習と演習（1） 第4回目 原典理解と分析（2） 第5回目 原典理解と分析（3） 第6回目 原典理解と分析（4） 第7回目 英語学習と演習（2） 第8回目 原典理解と分析（5） 第9回目 原典理解と分析（6） 第10回目 原典理解と分析（7） 第11回目 英語学習と演習（3） 第12回目 原典理解と分析（8） 第13回目 原典理解と分析（9） 第14回目 原典理解と分析（10）	
履修の注意点 毎回、A4用紙2～3ページ程度の英文を読んで予習することが課題となる。	
準備学習の内容 授業で具体的な予習・練習事項を指導する。	
教科書 第1回目イントロダクションで指定する。	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 随時授業で個別に案内する。	
成績評価の方法 授業への貢献度（70%）、レポート（30%）で評価する。60%以上の得点は単位の取得を認める。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ	2 単位
	3・4 年次
助教 鎌 江 一 平	
授業の概要・到達目標 「授業概要」 この授業では、昨今の国際情勢に触れつつ一定の視座を提供する英語文献を精読する。授業の目的は、その精読を通じて専門知識・知見を深め、英語力全般を強化することである。 学習テーマは、国際関係の基礎的内容に始まり、アメリカ、中国、日本を含むインド太平洋地域の国際政治・外交・安全保障を中心に取り扱う。 英語学習においては、リーディング、リスニング、スピーキング力を強化する上での勉強方法も含めて授業で触れる。 「到達目標」 この授業では、上記の目的に沿って以下4つの目標を設定している。 ① 英語の情報を効率的に収集できるようになる ② 自分の意思を英語で流暢に伝えられるようになる ③ 国際関係・外交・安全保障の知識を増やす ④ 国際関係・外交・安全保障への見方を深める	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨN 第2回目 原典理解と分析(1) 第3回目 英語学習と演習(1) 第4回目 原典理解と分析(2) 第5回目 原典理解と分析(3) 第6回目 原典理解と分析(4) 第7回目 英語学習と演習(2) 第8回目 原典理解と分析(5) 第9回目 原典理解と分析(6) 第10回目 原典理解と分析(7) 第11回目 英語学習と演習(3) 第12回目 原典理解と分析(8) 第13回目 原典理解と分析(9) 第14回目 原典理解と分析(10)	
履修の注意点 毎回、A4用紙2～3ページ程度の英文を読んで予習することが課題となる。	
準備学習の内容 授業で具体的な予習・練習事項を指導する。	
教科書 第1回目INTRODUCTIONで指定する。	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 随時授業で個別に案内する。	
成績評価の方法 授業への貢献度(70%)、レポート(30%)で評価する。60%以上の得点は単位の取得を認める。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ	2 単位
	3・4 年次
准教授 関 根 篤 史	
授業の概要・到達目標 【講義概要】 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事を輪読する。受講者は、事前に割り振られたページを英単語や英文法に注意して日本語訳する。また担当者以外の受講者にも日本語訳をしてもらうことがある。 【到達目標】 英文を日本語訳出来るようになるだけでなく、最近の世界経済がどうなっているのかについて理解することを目指す。	
授業内容 第1回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第2回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第3回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第4回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第5回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第6回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第7回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第8回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第9回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第10回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第11回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第12回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第13回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第14回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読	
履修の注意点 初回の授業時に担当の割り振りを行う。授業には電子辞書を持参すること。	
準備学習の内容 事前に該当の箇所を読み、単語や英文法だけでなく、内容も確認して来ること。	
教科書 特になし。	
参考書 特になし。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で適宜解説を行う。	
成績評価の方法 毎回の報告(80%)、授業への貢献度(20%)	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ	2単位
	3・4年次
准教授 関根篤史	
授業の概要・到達目標 【講義概要】 原典講読I及びIIIに引き続き、BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事を輪読する。受講者は、事前に割り振られたページを英単語や英文法に注意して日本語訳する。また担当者以外の受講者にも日本語訳をしてもらうことがある。 【到達目標】 英文を日本語訳出来るようになるだけでなく、最近の世界経済がどうなっているのかについて理解することを目指す。	
授業内容 第1回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第2回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第3回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第4回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第5回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第6回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第7回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第8回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第9回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第10回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第11回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第12回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第13回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読 第14回目 BrookingsやFederal Reserve Bank of Chicagoなどの記事の輪読	
履修の注意点 初回の授業時に担当の割り振りを行う。授業には電子辞書を持参すること。	
準備学習の内容 事前に該当の箇所を読み、単語や英文法だけでなく、内容も確認して来ること。	
教科書 特になし。	
参考書 特になし。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内で適宜解説を行う。	
成績評価の方法 毎回の報告 (80%)、授業への貢献度 (20%)	
その他 特になし。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ	2単位
	3・4年次
准教授 鎌田健司	
授業の概要・到達目標 地域別将来人口推計に関するガイドブックである Smith, Tayman and Swanson, <i>A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections</i> , Springer, 2013を講読する。文献の講読を通じて英文の読解力を向上させるとともに、日本の地域人口の現状や将来について議論し、理解を深めることを目標とする。	
授業内容 第1回目 イントロダクション 第2回目 基本的な用語 第3回目 人口分析の基礎 (1) 第4回目 人口分析の基礎 (2) 第5回目 死亡 (1) 第6回目 死亡 (2) 第7回目 出生 (1) 第8回目 出生 (2) 第9回目 人口移動 (1) 第10回目 人口移動 (2) 第11回目 人口移動 (3) 第12回目 コーホート要因法 (1) 第13回目 コーホート要因法 (2) 第14回目 a:まとめ、b:内容の確認 ※履修人数により、授業の進度は異なるため、上記の内容は目安である。	
履修の注意点 初回授業に担当決めを行うので欠席しないこと。 授業は担当する範囲の英文を訳し、その内容や日本の人口統計を用いた現状の把握やそれに対するプレゼンテーションを行う形式で実施する。	
準備学習の内容 毎週決められた範囲の英文の予習と関連する人口統計の確認を行うこと。	
教科書 Smith, Tayman and Swanson, <i>A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections</i> , Springer, 2013 適宜必要な箇所のコピーを配布するので購入は不要。	
参考書 『現代人口辞典』人口学研究会編 (原書房), 2010年 『地域人口分析の基礎』濱英彦・山口喜一編著 (古今書院), 1997年 『地域社会の将来人口 地域人口推計の基礎から応用まで』西岡八郎・江崎雄治・小池司朗・山内昌和 (東京大学出版会), 2020年など	
課題に対するフィードバックの方法 担当となった範囲に関する英文の内容については、授業内でフィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への参加度 (30%)、英文の翻訳 (40%)、内容の確認 (30%)	
その他 PCを持参しての資料の確認等を推奨する。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ	2単位
	3・4年次
准教授 鎌田健司	
授業の概要・到達目標 地域別将来人口推計に関するガイドブックである Smith, Tayman and Swanson, <i>A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections</i> , Springer, 2013を講読する。文献の講読を通じて英文の読解力を向上させるとともに、日本の地域人口の現状や将来について議論し、理解を深めることを目標とする。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨン 第2回目 様々な推計法(1) 第3回目 様々な推計法(2) 第4回目 様々な推計法(3) 第5回目 様々な推計法(4) 第6回目 人口以外の推計(1) 第7回目 人口以外の推計(2) 第8回目 推計の評価(1) 第9回目 推計の評価(2) 第10回目 推計の正確性とバイアス(1) 第11回目 推計の正確性とバイアス(2) 第12回目 推計の正確性とバイアス(3) 第13回目 小地域推計 第14回目 a:まとめ、b:内容の確認 ※履修人数により授業の進度は異なるため、以上の内容は目安である。	
履修の注意点 初回授業に担当決めを行うので欠席しないこと。 授業は担当する範囲の英文を訳し、その内容や日本の人口統計を用いた現状の把握やそれに対するプレゼンテーションと関連する議論により実施する。	
準備学習の内容 毎週決められた範囲の英文の予習と関連する人口統計の確認を行うこと。	
教科書 Smith, Tayman and Swanson, <i>A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections</i> , Springer, 2013 適宜必要な箇所のコピーを配布するので購入は不要。 授業の進度により、上記のテキストが終了した場合は、Lutz, <i>Advanced Introduction to Demography</i> , Edward Elgar Pub, 2021 を取り上げる。	
参考書 『現代人口辞典』人口学研究会編, 2010年 『地域人口分析の基礎』濱英彦・山口喜一編著, 1997年 など	
課題に対するフィードバックの方法 担当となった範囲に関する英文の内容については、授業内でフィードバックを行う。	
成績評価の方法 授業への参加度(30%)、英文の翻訳(40%)、内容の確認(30%)	
その他 PCを持参しての資料の確認等を推奨する。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ	2単位
	3・4年次
兼任講師 アディネガラ、イヴォンヌ	
授業の概要・到達目標 この授業では環境経済学・エコロジー経済学の観点に基づいて行い、環境経済学・エコロジー経済学の概念や理論に関連する英語テキスト(著書・論文の一部、雑誌、新聞記事など)を講読する。その際、本講義では人為的排出物による環境への負荷の減少から環境保護までの環境政策を英語で学ぶ。 本講義では授業全体を通して、受講者の関心と能力に適切なテキストを選択する。そして、講読やテキスト内容に関する議論を通じて英語読解力を向上することだけでなく、環境経済学・エコロジー経済学がもつ有用性を理解することを到達目標とする。	
授業内容 第1回目 INTRODUCTION (授業の形態・授業内容・講読テキストについて) 第2回目 講読と解説(1) A brief history of the environment in economics 第3回目 講読と解説(2) The environmental as capital 第4回目 講読と解説(3) An inquiry into nature and causes of the wealth of nations 第5回目 講読と解説(4) The Essay on the principal of population 第6回目 講読と解説(5) The economics of exhaustible resources (Harold Hotelling) 第7回目 講読と解説(6) The economics of overexploitation 第8回目 講読と解説(7) Economic growth and quality of the environment: EKC hypothesis 第9回目 講読と解説(8) Basic theories of environmental problem: the Japanese case (Kenichi Miyamoto) 第10回目 講読と解説(9) Political economy of the environment: The case of Japan (Shigeto Tsuru) 第11回目 講読と解説(10) Environmental control through environmental policy: legal regulation and economic constraints 第12回目 講読と解説(11) The rights of nature: A history of environmental ethics 第13回目 講読と解説(12) Should trees have standing? and other essay on law, morals and the environment 第14回目 a.授業全体のまとめ、b.レポート提出	
履修の注意点 1. 必ず辞書(電子辞書可)を持参すること。 2. 初回授業に授業の進め方を伝えるので欠席しないこと。 3. 授業は担当する範囲の内容を英語で要約(箇条書きなど)して発表し、発表内容を議論する。	
準備学習の内容 事前にテキストを必ず読み、内容を理解した上で授業に出席すること。また、テキストの内容について不明な点があれば授業で質問すること。	
教科書 各回の授業に次回分のテキストのコピーを配布、あるいはOh-olMeijiで事前に公開する。	
参考書 Jose Julio Ferraz de Campos Jr (2023) <i>Introduction to Environmental Economics, Ecological Economics and Economic Valuation</i> , San Paulo	
課題に対するフィードバックの方法 授業時間中およびOh-olMeijiシステム等を利用して実施する	
成績評価の方法 要約の内容ならびに授業での発表(60%)、レポート(40%)で評価する。	
その他 初回到授業の進め方を説明するので、履修を考えている人は必ず出席すること。授業の進展によっては、授業の予定の一部を変更する可能性がある。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ	2単位
	3・4年次
兼任講師 アディネガラ、イヴォンヌ	
授業の概要・到達目標 この授業では環境経済学・エコロジー経済学の観点に基づいて行い、環境経済学・エコロジー経済学の概念や理論に関連する英語テキスト（著書・論文の一部、雑誌、新聞記事など）を講読する。その際、本講義では人為的排出物による環境への負荷の減少から環境保護までの環境政策を英語で学ぶ。 本講義では授業全体を通して、受講者の関心と能力に適切なテキストを選択する。そして、講読やテキスト内容に関する議論を通じて英語読解力を向上することだけでなく、環境経済学・エコロジー経済学がもつ有用性を理解することを到達目標とする。	
授業内容 第1回目 インTRODクシヨ （授業の形態・授業内容・講読テキストについて） 第2回目 講読と解説（1）What is ecological economics 第3回目 講読と解説（2）The early history of modern ecological economics（Inge Ropken） 第4回目 講読と解説（3）Historical roots and motivations: the economics of the coming space ship earth（Kenneth E.Boulding） 第5回目 講読と解説（4）Historical roots and motivations: energy, environment and society（Juan Martinez-Alier） 第6回目 講読と解説（5）Material and energy flow in ecological and economic system: the entropy law and the economic problem（Nicholas Georgescu-Roegen） 第7回目 講読と解説（6）On economics as a life science（Herman E. Daly） 第8回目 講読と解説（7）Economic pathways to ecological sustainability（Partha Dasgupta） 第9回目 講読と解説（8）The limits to growth 第10回目 講読と解説（9）The history of sustainable development principle 第11回目 講読と解説（10）Sustainable development in a post-Brundtland world 第12回目 講読と解説（11）Towards an ecological economics of sustainability（Charles Perrings） 第13回目 講読と解説（12）Conceptual framework and language for sustainability politics（Peter Söderbaum） 第14回目 a:授業全体のまとめ、b.レポート提出	
履修の注意点 1. 必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。 2. 初回授業に授業の進め方を伝えるので欠席しないこと。 3. 授業は担当する範囲の内容を英語で要約（箇条書きなど）して発表し、発表内容を議論する。	
準備学習の内容 事前にテキストを必ず読み、内容を理解した上で授業に出席すること。また、テキストの内容について不明な点があれば授業で質問すること。	
教科書 各回の授業に次回分のテキストのコピーを配布、あるいはOh-olMeijiで事前に公開する。	
参考書 Jose Julio Ferraz de Campos Jr (2023) <i>Introduction to Environmental Economics, Ecological Economics and Economic Valuation</i> , San Paulo	
課題に対するフィードバックの方法 授業時間中およびOh-olMeijiシステム等を利用して実施する。	
成績評価の方法 要約の内容ならびに授業での発表（60%）、レポート（40%）で評価する。	
その他 初回に授業の進め方を説明するので、履修を考えている人は必ず出席すること。授業の進展によっては、授業の予定の一部を変更する場合がある。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ（日本古典語）	2単位
	3・4年次
教授 植田 麦	
授業の概要・到達目標 この授業では、中古（平安時代）から近世（江戸時代）にかけて書かれた原典資料を読解する。演習形式で授業を進める。 到達目標として以下を設定する。 ・いわゆる「くずし字」を読むことができる。 ・古典文法についての知識を身につけ、古典文を適切に読解できる。	
授業内容 第1回 INTRODUCTION 第2回 テキストに基づく演習 第3回 テキストに基づく演習 第4回 テキストに基づく演習 第5回 テキストに基づく演習 第6回 テキストに基づく演習 第7回 テキストに基づく演習 第8回 テキストに基づく演習 第9回 テキストに基づく演習 第10回 テキストに基づく演習 第11回 テキストに基づく演習 第12回 テキストに基づく演習 第13回 テキストに基づく演習 第14回 試験と解説	
履修の注意点 ・就職活動に関しての欠席を公欠として扱うことはない。 ・演習形式で行うので、事前・事後学習は欠かさないこと。自習を行わないものに対する配慮は一切行わない。 ・大半の学生が初めて学ぶ内容であるが、日本古典文法および日本古典文学世界の常識について理解しているものとして授業を進める。 ・生半可な態度で授業を受けると、毎回出席していても不合格になる場合がある。 ・以上を熟慮の上、履修登録を行うこと。	
準備学習の内容 ・予習：毎回の授業終了時に指示する。 ・復習：課題を出す場合がある。課題を提出しない場合は、単位の認定にかかわる大きなペナルティを科す。	
教科書 ・『仮名手引』、神戸平安文学会編、(和泉書院) ・演習テキストは授業内で配布する。	
参考書 ・『くずし字解読辞典（普及版）』、児玉幸多、(東京堂出版)	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 ・期末試験100% ・任意でない課題を課すことがある。当該課題を未提出の場合、大きなペナルティを科す。 ・なお、「出席点」なるものは存しないが、遅刻・欠席により減点をを行う。よって、一定回数以上の遅刻・欠席をした場合は、単位認定の対象とならない。	
その他 ・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。 ・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ（日本古典語）	2単位
	3・4年次
教授 植田 麦	
授業の概要・到達目標 この授業では、近代初期までの写本・版本を主たる対象として、「くずし字」の資料を読解する。演習形式で授業を進める。 到達目標として以下を設定する。 ・いわゆる「くずし字」を読むことができる。 ・古典文法についての知識を身につけ、古典文を適切に読解できる。	
授業内容 第1回 インTRODクシヨ 第2回 テキストに基づく演習 第3回 テキストに基づく演習 第4回 テキストに基づく演習 第5回 テキストに基づく演習 第6回 テキストに基づく演習 第7回 テキストに基づく演習 第8回 テキストに基づく演習 第9回 テキストに基づく演習 第10回 テキストに基づく演習 第11回 テキストに基づく演習 第12回 テキストに基づく演習 第13回 テキストに基づく演習 第14回 試験と解説	
履修の注意点 ・就職活動に関する欠席を公欠として扱うことはない。 ・演習形式で行うので、事前・事後学習は欠かさないこと。自習を行わないものに対する配慮は一切行わない。 ・日本古典文法および日本古典文学世界の常識について理解しているものとして授業を進める。 ・本授業は、春学期開講の「原典講読Ⅰ」の授業内容を前提として進める。そのため、第1回からくずし字のテキストの読解を行う。履修する場合は、必ず以下に示す教科書を持参すること。 ・生半可な態度で授業を受けると、毎回出席していても不合格になる場合がある。 ・以上を熟慮の上、履修登録を行うこと。	
準備学習の内容 ・予習：毎回の授業終了時に指示する。 ・復習：課題を出す場合がある。課題を提出しない場合は、単位の認定にかかわる大きなペナルティを科す。	
教科書 ・『仮名手引』（神戸平安文学会編 和泉書院） ・演習テキストは授業内で配布する。	
参考書 ・『くずし字解読辞典（普及版）』（児玉幸多 東京堂出版）	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 ・期末試験100% ・任意でない課題を課すことがある。当該課題を未提出の場合、大きなペナルティを科す。 ・なお、「出席点」なるものは存しないが、遅刻・欠席により減点を行う。よって、一定回数以上の遅刻・欠席をした場合は、単位認定の対象とならない。	
その他 ・第1回の授業時において、期間内の授業について説明する。履修を考えている者はかならず出席すること。出席しない場合の不利益については、一切考慮しない。 ・履修者数および授業の進展に伴い、授業予定の一部を変更する場合がある。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ（ドイツ語）	2単位
	3・4年次
准教授 奥山 誠	
授業の概要・到達目標 経済学わけても経済思想および経済学説に関連するドイツ語文献を精読する。その際、本講義では、近年再評価の著しいドイツ歴史学派の経済思想に焦点を合わせ、制度・慣習に着目する現代経済学の刷新にとってその経済思想がいかに重要な役割を果たしているのかを解説していく。 基本的な経済学のドイツ語文献を精読することを通じてドイツ語読解力を向上すること、ドイツ語圏の経済思想・経済学説にかなする知識を高め、その経済思想がもつ有用性を理解することを到達目標とする。	
授業内容 第1回目：イントロダクシヨ 第2回目：「歴史学派」の定義 第3回目：「歴史学派」生成の時代背景1 ドイツ資本主義形成期 第4回目：「歴史学派」生成の時代背景2 ドイツ資本主義確立期 第5回目：開拓者としてのF. リストの経済思想1 古典派への懐疑 第6回目：開拓者としてのF. リストの経済思想2 「国民経済学」の経済思想 第7回目：「歴史学派」の生成 — 「旧歴史学派」の経済思想 第8回目：W. ロッシャーの歴史的方法 第9回目：B. ヒルデブラントの経済発展段階論 第10回目：K. クニースの歴史的科学としての政治経済学 第11回目：「歴史学派」の確立 — 「新歴史学派」の経済思想 第12回目：G. シュモラーの歴史研究と配分的正義の概念 第13回目：G. シュモラーの重商主義論と方法論争 第14回目a：試験 b：正答解説	
履修の注意点 必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。	
準備学習の内容 文献は必ず読んだうえで授業に出席すること。また文法、構文、内容について不明な点があれば授業で質問すること。	
教科書 初回授業時に文献のコピーを配布する。	
参考書 特に定めない。	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。	
成績評価の方法 授業への貢献度60%、レポートの成績40%で評価する。	
その他 初回の授業には必ず出席すること。特段の事情がない限り、秋学期の原典講読も履修すること。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ（ドイツ語）	2単位
	3・4年次
准教授 奥 山 誠	
授業の概要・到達目標 経済学わけても経済思想および経済学説に関連するドイツ語文献を精読する。その際、本講義では、近年再評価の著しいドイツ歴史学派の経済思想に焦点を合わせ、制度・慣習に着目する現代経済学の刷新にとってその経済思想がいかに重要な役割を果たしているのかを解説していく。 基本的な経済学のドイツ語文献を精読することを通じてドイツ語読解力を向上すること、ドイツ語圏の経済思想・経済学説にかなする知識を高め、その経済思想がもつ有用性を理解することを到達目標とする。	
授業内容 第1回目：イントロダクション 第2回目：「歴史学派」の発展 — 「最新歴史学派」の経済思想 第3回目：W. ゾンバルトにおける「資本主義」概念の提起 第4回目：W. ゾンバルトの企業家観と信用理論 第5回目：W. ゾンバルトの資本主義起源論 第6回目：M. ヴェーバーの「理念型」とシュモラー批判 第7回目：M. ヴェーバーにおける「資本主義の精神」 第8回目：J. A. シュンペーターの資本主義発展の理論 第9回目：A. シュビートホフの景気循環論 第10回目：「最新歴史学派」の資本主義終焉論1 ゾンバルトの場合 第11回目：「最新歴史学派」の資本主義終焉論2 シュンペーターの場合 第12回目：歴史学派の波及1 アメリカの場合 第13回目：歴史学派の波及2 イギリスの場合 第14回目a：試験 b：正答解説	
履修の注意点 必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。	
準備学習の内容 文献は必ず読んだうえで授業に出席すること。また文法、構文、内容について不明な点があれば授業で質問すること。	
教科書 初回授業時に文献のコピーを配布する。	
参考書 特に定めない。	
課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。	
成績評価の方法 授業への貢献度60%、レポートの成績40%で評価する。	
その他 初回の授業には必ず出席すること。特段の事情がない限り、秋学期の原典講読も履修すること。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ（フランス語）	2単位
	3・4年次
講師 杉 本 隆 司	
授業の概要・到達目標 この授業では、フランスのリセの修了試験（バカロレア）用の教科書を使って、スミス、マルサス、リカード、マルクス、デュルケーム、ケインズ、シュンペーターといった巨匠たちの古典テキストの抜粋をフランス語で読みながら、人口問題、貧困、経済成長、分業、階級、貿易、雇用、貯蓄・投資、合理化、民主主義、不平等、恐慌などをテーマに西欧社会科学の基本的な考え方を学ぶ。	
授業内容 1. ガイダンス 2. (1) Démographie, pauvreté et développement selon Malthus et Marx (p.14-) 3. <i>La suite</i> 4. (2) La division du travail, ses fonctions, ses formes : Smith, Marx et Durkheim (p.22-) 5. <i>La suite</i> 6. (3) Salaire et emploi chez les (néo) classiques et chez Keynes (p.32-) 7. <i>La suite</i> 8. (4) Epargne et investissement chez les (néo) classiques et chez Keynes (p.39-) 9. <i>La suite</i> 10. (5) La dynamique économique selon Schumpeter (p.45-) 11. <i>La suite</i> 12. (6) Le rôle des échanges internationaux chez Ricardo (p.53-) 13. <i>La suite</i> 14. a)試験、b)解説	
履修の注意点 1. 初回のガイダンスに出席すること。 2. 辞書（電子辞書可）・文法書を持参すること。 3. 初級文法の知識があることが望ましいが、フランス語を一から学びたいという意欲があれば歓迎。無断欠席お断り。	
準備学習の内容 毎回持ち回りで指定の箇所を訳してくること。	
教科書 <i>Sciences Economiques et Sociales Term ES</i> , NATHAN, 1995	
参考書 野原・沖・高見（共著）『経済学史』日本評論社、2019 竹沢尚一郎『社会とは何か』中公新書、2010	
課題に対するフィードバックの方法 少人数の場合、授業で直接行うか、Oh-olMeijiの教員コメント欄を利用する。	
成績評価の方法 授業への貢献度70%、試験30%で総合的に評価する。	
その他 この授業は秋学期の仏語原典講読と連動しているので合わせて受講するのが望ましい。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ（フランス語）	2単位
	3・4年次
講師 杉本隆司	
授業の概要・到達目標 春学期に続き、フランスのリセの修了試験（バカロレア）用の教科書を使って、J・Bセー、マルクス、トクヴィル、ウェーバー、デュルケーム、シュンペーター、ブルデューなど巨匠たちのテキストの抜粋をフランス語で読みながら、人口問題、貧困、経済成長、分業、階級、貿易、雇用、貯蓄・投資、合理化、民主主義、不平等、恐慌などをテーマに西欧社会科学の基本的な考え方を学ぶ。	
授業内容 1. ガイダンス 2. (7) Les démarches sociologiques de Durkheim et Weber (p.60-) 3. <i>La suite</i> 4. (8) L'analyse des classes sociales chez Marx (p.68-) 5. <i>La suite</i> 6. (9) Le processus de rationalisation des activités sociales chez Weber (p.76-) 7. <i>La suite</i> 8. (10) Le développement de la démocratie selon Tocqueville (p.84-) 9. <i>La suite</i> 10. (11) Les approches théoriques contemporaines de l'inégalité des chances (p.91-) 11. <i>La suite</i> 12. (12) Aux origines des crises (p.99-) 13. <i>La suite</i> 14. a) 試験、b) 解説	
履修の注意点 1. 初回のガイダンスに出席すること。 2. 辞書（電子辞書可）・文法書を持参すること。 3. 初級文法の知識があることが望ましいが、フランス語を一から学びたいという意欲があれば歓迎。無断欠席お断り。	
準備学習の内容 毎回持ち回りで指定の箇所を訳してくること。	
教科書 特に変更しない。講読テキストはOh-ol Meijiにより配布する。	
参考書 <i>Sciences Economiques et Sociales Term ES</i> , NATHAN, 1995	
課題に対するフィードバックの方法 少人数の場合、授業で直接行か、Oh-ol Meijiの教員コメント欄を利用する。	
成績評価の方法 授業への貢献度70%、試験30%で総合的に評価する。	
その他 この授業は、各回読み切りなので春学期・仏語原典講読の受講を必須としないが、春学期と連動しているので合わせて受講するのが望ましい。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ（社会学）	2単位
	3・4年次
兼任講師 岡庭義行	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本講は、社会学における理論と方法、及び事例研究に関する原典（英語）の講読を通して、社会学的思考を身につけることを目的としている。 《到達目標》 社会学理論を原典により理解し、フィールド事例を自己の言葉で解釈することができる。	
授業内容 第1回 インTRODクッション 第2回 講読と解説（1）Symbolization 第3回 講読と解説（2）Power of Ritual 第4回 講読と解説（3）Theory of Taboo 第5回 講読と解説（4）Purity and Danger 第6回 講読と解説（5）Supernatural being 第7回 講読と解説（6）Dualism 第8回 講読と解説（7）Ambivalence & Blessing 第9回 講読と解説（8）Trickster in Mythology 第10回 講読と解説（9）Invention of Tradition 第11回 講読と解説（10）Capitalism 第12回 講読と解説（11）Post-Colonialism 第13回 講読と解説（12）Cultural Imperialism 第14回 まとめと総括	
履修の注意点 関連する講義を併行して履修することが望ましい。講義資料はOh-ol Meijiで配布する。	
準備学習の内容 事前に配布された講読テキストを通読し、事後にテキスト内容の要約整理を行うこと（各30分）。	
教科書 特に変更しない。講読テキストはOh-ol Meijiにより配布する。	
参考書 “The Power of Ritual.” Bruce Kapferer (ed.), University of Adelaide (1979). ※その他、演習中に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 提出課題については、適宜、Oh-ol Meijiにより、関連資料を付して全体講評を行います。	
成績評価の方法 発表の内容（30%）、授業への貢献度（40%）授業への参加状況（30%）	
その他 履修生の関心や進捗状況、履修生数によりテーマを調整することがある。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ（社会学）	2単位
	3・4年次
兼任講師 岡庭義行	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本講は、さまざまな社会学的事例に関する原典（英語）の講読を通して、共時的な社会学事象の分析と解釈を試みることを目的としている。 《到達目標》 社会学事象を原典により理解し、社会学理論や方法論を用いて解釈することができる。	
授業内容 第1回 インTRODクダクシヨン 第2回 講読と解説（1）Gender Equal 第3回 講読と解説（2）Social Diversity 第4回 講読と解説（3）Vulnerability 第5回 講読と解説（4）Social Capital & QOL 第6回 講読と解説（5）Social Polarization 第7回 講読と解説（6）Suicide and Anomie 第8回 講読と解説（7）Empowerment 第9回 講読と解説（8）SDGs & COP 第10回 講読と解説（9）GHG & IPCC 第11回 講読と解説（10）Ecological Footprint 第12回 講読と解説（11）Ethnicity 第13回 講読と解説（12）Diaspora & Rhizome 第14回 まとめと総括	
履修の注意点 関連する講義を併行して履修することが望ましい。講義資料はOh-ol Meijiで配布する。	
準備学習の内容 事前に配布された講読テキストを通読し、事後にテキスト内容の要約整理を行うこと（各30分）。	
教科書 特に使用しない。講読テキストはOh-ol Meijiにより配布する。	
参考書 “The Anthropology of Experience.” Turner & Bruner (eds) . University Illinois Press(1986). ※その他、演習中に適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 提出課題については、適宜、Oh-ol Meijiにより、関連資料を付して全体講評を行います。	
成績評価の方法 発表の内容（30%）、授業への貢献度（40%）授業への参加状況（30%）	
その他 履修生の関心や進捗状況、履修生数によりテーマを調整することがある。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅰ（特定 スポーツ）	2単位
	3・4年次
兼任講師 竹内桂	
授業の概要・到達目標 日本政治に関わる英語文献、記事を読解する。 受講生による英文の読解が中心となる。 英語の専門用語や表現に慣れるとともに、知識の習得を目指す。	
授業内容 第1回 テキスト講読 第2回 テキスト講読 第3回 テキスト講読 第4回 テキスト講読 第5回 テキスト講読 第6回 テキスト講読 第7回 テキスト講読 第8回 テキスト講読 第9回 テキスト講読 第10回 テキスト講読 第11回 テキスト講読 第12回 テキスト講読 第13回 テキスト講読 第14回 a) 試験 b) 全体まとめ	
履修の注意点 辞書（電子辞書、可）を用意する。 授業は定時から始める。 第1回目の授業の際に、履修にあたっての注意事項について説明する。	
準備学習の内容 事前に教材に読み込む（予習）。 講義の内容をしっかりと反復する（復習）。	
教科書 テキストは第一回目の講義の際に、受講生と相談の上、決定する。 教材はOh-ol MeijiでPDFデータをアップする。	
参考書 特になし。必要に応じて提示する。	
課題に対するフィードバックの方法 次の講義の冒頭で行う。	
成績評価の方法 講義への参加度（訳、発言など） 60% 期末試験、またはレポート 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
原典講読Ⅱ（特定 スポーツ）	2単位
	3・4年次
兼任講師 竹内 桂	
授業の概要・到達目標 日本政治に関わる英語文献、記事を読解する。 受講生による英文の読解が中心となる。 英語の専門用語や表現に慣れるとともに、知識の習得を目指す。	
授業内容 第1回 テキスト講読 第2回 テキスト講読 第3回 テキスト講読 第4回 テキスト講読 第5回 テキスト講読 第6回 テキスト講読 第7回 テキスト講読 第8回 テキスト講読 第9回 テキスト講読 第10回 テキスト講読 第11回 テキスト講読 第12回 テキスト講読 第13回 テキスト講読 第14回 a) 試験 b) 全体まとめ	
履修の注意点 辞書（電子辞書、可）を用意する。 授業は定時から始める。 第1回目の授業の際に、履修にあたっての注意事項について説明する。	
準備学習の内容 事前に教材に読み込む（予習）。 講義の内容をしっかりと反復する（復習）。	
教科書 テキストは第一回目の講義の際に、受講生と相談の上、決定する。 教材はOh-o! MeijiでPDFデータをアップする。	
参考書 特になし。必要に応じて提示する。	
課題に対するフィードバックの方法 次の講義の冒頭で行う。	
成績評価の方法 講義への参加度（訳、発言など） 60% 期末試験、またはレポート 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
応用総合講座A【2022年度以降入学者】 応用総合講座I【2021年度以前入学者】	2単位
	1～4年次
講師 碓 陽子	
授業の概要・到達目標 本授業は、ジェンダー／セクシュアリティの視点から、現代社会の問題や事象を理解することを目的とする。ジェンダー／セクシュアリティというと、女性やセクシュアル・マイノリティだけの問題だと捉えられがちだが、決してそうではない。性・性差に無関係に生きている人などいない。男らしくあること、女らしくあること、誰を好きになり、誰と性的関係を結ぶかなどは、私たちの思考や行為を形作っている。そして、私たちの多くは、こうしたジェンダー規範、性別二元論、異性愛主義などとしてあらわれる性や性差を、ほとんど疑うことなく、当たり前で「自然」なことだと思っている。 近年、これまで当たり前だと思われてきた性・性差についての考え方は、フェミニズムやトランスジェンダーをめぐる運動実践、またアカデミアの研究などによって、新しい展開を迎えている。本授業は、学内外の研究者によるオムニバス形式の講義を通じて、多岐にわたる新しい展開について最新の議論を学べるよう計画している。各講義の内容を見ればわかるように、テーマはジェンダー表象、労働、軍隊、男性性、トランスジェンダー、科学、性愛実践、ケアなど広範囲にわたっている。受講生は、講義を聞き、ディスカッション授業による対話を通して自ら考えることで、自分たちの性・性差についての知識や認識を相対化して欲しい。 (コーディネーター：碓陽子・重田園江・前田更子・水戸部由枝)	
授業内容 授業内容（全14回） 4月12日 碓陽子（明治大学政治経済学部） 「イントロダクション：本講義の説明」 4月19日 藤本由香里（明治大学国際日本学部教授：漫画文化論・ジェンダー論） 「問い直される「家族」」 4月26日 榎本珠良（明治学院大学国際学部：国際関係論） 「軍備管理・軍縮とジェンダー：ホワイト・フェミニズムとDecolonization運動」 5月10日 原ひろみ（明治大学政治経済学部：労働経済学） 「仕事のなかの男女間格差：なぜ女性の賃金は低いのか」 5月17日 杉田俊介（批評家） 「弱者男性は存在するか？：男性性とフェミニズムの間で」 5月24日 濱野ちひろ（ノンフィクションライター：文化人類学） 「ズーというセクシュアリティから他者との対等性を考える」 5月31日 重田園江（明治大学政治経済学部） 「ディスカッション」 〈中間レポート提出〉 6月7日 横山百合子（国立歴史民族博物館：日本近世史・ジェンダー史） 「競争と序列：近世近代の性売買にみる人の管理」 6月14日 宮田りりい（関西大学人権問題研究室：教育社会学） 「トランスジェンダーと社会問題」 6月21日 兼子歩（明治大学政治経済学部：アメリカ社会史・ジェンダー研究） 「有害な男性性」から考えるマスキュリティ 6月28日 藤垣裕子（東京大学大学院総合文化研究科：科学技術社会論） 「科学技術とジェンダー：何故D&Iがイノベーションの推進に役立つのか」 7月5日 岡野八代（同志社大学：政治思想） 「ケアの倫理と民主主義」 7月12日 深海菊絵（独立行政法人日本学術振興会特別研究員：文化人類学） 「ポリアモリーの現在性」 7月19日 前田更子（明治大学政治経済学部） 「ディスカッション」 〈学期末レポート提出〉	
履修の注意点 ・レジュメ等の資料がある場合は、Oh-o! Meijiの「授業内容・資料」にて公開します。 ・いくつかの講義は、zoomによるリアルタイム配信になります。その場合は教室から講義を聞きます。	
準備学習の内容 新聞雑誌記事や文献等を読んで、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題に関心を持つようにしてください。	
教科書 教科書は特に指定しません。	
参考書 授業で適宜紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 中間レポート（40%）と学期末レポート（40%）、授業貢献度（20%）で成績評価をします。	
その他 ・各回の講義テーマは、場合により変更になることがあります。 ・授業に関する質問・意見・相談等はyokoikari@meiji.ac.jp宛にお願いします。その際、必ず「氏名・組・番号」をメールに記入してください。	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
応用総合講座B【2022年度以降入学者】	2単位
応用総合講座II【2021年度以前入学者】	1～4年次
教授 牛山久仁彦	
授業の概要・到達目標 地方分権の時代にあつて、自治体の自己決定システムとしての首長や議会の役割が重要になっている。本講座では、こうした現状をふまえ、地域における政治・経済のキーパーソンとして活躍している自治体のトップを招き、現実の自治体行政の動きと地域の自己決定システムである地域政治の実態を学ぶ。	
授業内容 ゲスト講師が担し、行財政改革や条例制定など各自治体の特徴的な取り組みや地域政治の現状について講義を行う。 毎回、自治体首長にゲスト講師としてお越しいたします。 (秋学期・火曜・3時限) 授業内容、担当講師は決定次第、Oh-olMeijiクラスウェブで公開します。 (参考：2023年度ゲスト講師) 吉川市長、戸田市長、東村山市長、国分寺市長、香取市長、前大和市長、文京区長、元大和市長、大田区長、境町長	
履修の注意点 地方自治、地域政治の基本的な知識を習得しておくことが望ましい。	
準備学習の内容 地方自治、地域政治の基本的な知識を習得しておくことが望ましい。	
教科書 教科書は用いない。	
参考書 参考文献については、各担当者が適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法	
成績評価の方法 授業参加・小レポートなど、平常点と最終回に行う時間内レポートにより評価する。	
その他 特になし	

科目ナンバー：(PE) IND311J	
応用総合講座D【2022年度以降入学者】	2単位
応用総合講座IV【2021年度以前入学者】	1～4年次
教授 勝悦子	
授業の概要・到達目標 本講座では、「ビジネスと市場リスク」をテーマとして、業界の専門家を招き、企業人として役に立つ金融市場に関する基本的な知識を身につけると共に、ビジネスにおける様々な価格変動によるリスク(市場リスク)の分析把握と管理の基本的な知識や実践を通じて、金融リテラシーの強化とその知識を実践的に活用する力(金融ケイパビリティ)の向上を目指すことを目的としています。 冠講座の主体である先物取引協会様のご協力で、QUICK端末を実際に皆さんに動かしてもらいます。日々のマーケットの動きを実際に体感することができます。	
授業内容 政治経済学部では3・4年次に共通応用科目として「応用総合講座」を設け、その年度の基本テーマをもとに特色ある講義を行っています。本年度は、「ビジネスと市場リスク」をテーマとして、金利と通貨のデリバティブ取引の自主規制団体である金融先物取引業協会から専門家をお呼びしてリスク管理の基本的な講義をビジネスの観点から行います。 金融市場・商品市場には、外国為替相場、株式相場、商品相場(原油価格、金属価格等)など、ビジネスに影響を与える不確定要素が多数存在しています。ビジネス実務では、それら業務に予想外の損失を生じさせ、財務に影響を与える要因を「リスク」と呼び、金融市場、商品市場における価格変動によるリスクを「市場リスク」と捉え、専任の担当者を配置し、管理をすることが一般的です。 本講義は、学生の就職先であるメーカー、商社、運輸、金融などビジネスの世界において重要な業務である価格変動に対する企業のリスク管理に関しての基礎的な知識から、基本的な実践的対応までを学びます。また、講義では、企業が実際に行っている実践的な対応の基礎(外国為替相場の価格変動リスクを低減する手法(ヘッジ)の実例)について、実際にQUICK端末を使ってシミュレーションゲームを行うなど貴重な機会を提供します。 授業内容(全14回) 第1回 ガイダンス なぜ、ビジネスで成功するために、市場リスクを管理する必要があるのか 勝悦子, 山崎哲夫, 北村剛志 第2回 市場リスクの定義 山崎哲夫, 北村剛志 第3回 価格変動のメカニズム(なぜ価格は変動するのか～価格発見機能など) 山崎哲夫, 北村剛志 第4回 企業ビジネスにおける市場価格変動の影響 山崎哲夫, 北村剛志 第5回 個人における市場価格変動の影響 山崎哲夫, 北村剛志 第6回 金融機関業務における市場価格変動の影響 山崎哲夫, 北村剛志 第7回 ヘッジとスベキュレーション 山崎哲夫, 北村剛志 第8回 金融商品取引・コモディティ商品取引と市場 山崎哲夫, 北村剛志 第9回 市場リスクマネジメントとは 山崎哲夫, 北村剛志 第10回 市場リスクマネジメント(1)疑似体験 通貨オプション・為替先物予約の概要 山崎哲夫, 北村剛志 第11回 市場リスクマネジメント(2)シミュレーションゲーム, 結果レビュー 山崎哲夫, 北村剛志 第12回 市場リスクマネジメント(3)シミュレーションゲーム, 結果レビュー 山崎哲夫, 北村剛志 第13回 投資教育と金融リテラシーに関しての考察 山崎哲夫, 北村剛志 第14回 講義まとめ 勝悦子, 山崎哲夫, 北村剛志	
履修の注意点 履修教室は、メディア教室となります。一人一台PCが利用できます。	
準備学習の内容 随時授業内で示します。	
教科書 随時紹介します。	
参考書	
課題に対するフィードバックの方法 課題の後で解説を行います。	
成績評価の方法 出席および、期末の定着度テストで評価します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) IND411J	
応用総合講座E【2022年度以降入学者】	2単位
応用総合講座V【2021年度以前入学者】	1～4年次
教授 奥山雅之	
授業の概要・到達目標 休業業・解散した企業のうち、直前期の業績データが判明している企業についての集計によると、2019年において約61%の企業で当期純利益が黒字である（中小企業庁）。また、企業の後継者不在率は約6割となっている（帝国データバンク調査）。他方、農業においても、販売農家戸数は133万戸、そのうち後継者がいるのは65万戸と、半分に満たない状況となっている（2015年農林業センサス）。一定程度の業績を上げながら、あるいは社会的にも意義ある事業を実施しながら、休業業・解散に至る事業者の貴重な経営資源を散逸させないためには、意欲ある次世代の経営者や第三者などに事業を引き継ぐ取組が重要であり、これは個別事業者の経営問題を越えて、社会問題となっている。 本講座は、こうした背景のもと、将来の後継者となる者だけでなく、地域のリーダーとして活躍したい者、地方自治体の職員、税理士やコンサルタント、地域金融機関あるいは地域社会に密接する企業に勤務したいと考えている学生を対象に、地域社会の有形資産、地域雇用、権能、理念、自然環境、文化、規範、ブランド、紐帯などを次の世代に引き継ぐ「社会的事業承継」を主導する「地域リーダー」としての基礎的な知識を習得を目的とする。 なお、この講座はメディア授業（オンライン併用）として開講されるが、他キャンパス履修学生のための配慮であり、駿河台キャンパスの学生は原則対面で履修する。	
授業内容 第1回：イントロダクション：なぜ今、「あとつぎ」なのか？（奥山雅之） 第2回：企業の承継問題と地域の産業発展（政治経済学部専任教授 森下正） 第3回：「あとつぎ」までの道のり（一般社団法人次世代経営協会理事長 高橋秀仁） 第4回：「あとつぎ」から「経営者」になるために（一般社団法人次世代経営協会理事長 高橋秀仁） 第5回：先代や先輩とどうつきあうか（外部講師 調整中） 第6回：伝統産業の承継（SPEACE代表 八木温子） 第7回：地域のコミュニティへの参画（政治経済学部専任准教授 藤本稔彦） 第8回：農林水産業の承継問題（農業、食品産業技術総合研究機構 澤野久美） 第9回：事業承継の実際：農林水産業を引き継ぐ（株式会社みやじ豚 宮治勇輔） 第10回：事業承継の実際：第三者の事業を引き継ぐ（企業経営者 調整中） 第11回：事業承継・地域発展プラン作成の要点（奥山雅之） 第12回：事業承継・地域発展プラン作成演習（奥山雅之） 第13回：事業承継・地域発展プランの発表（外部講師、奥山雅之） 第14回：事業承継・地域発展プランの発表（外部講師、奥山雅之） 一部の講師は現在調整中。詳細は決定次第、Oh-olMeijiクラスウェブに掲載する。	
履修の注意点 事業承継問題は、中小企業や農業者の経営課題だけでなく、政策や地域経済などの政治経済的課題、税制などの法的問題、ファミリービジネスの所有やビジネス文化などの社会的問題などの複合的、学際的領域であり、多面的なアプローチが必要である。このため、日頃より、地域産業や事業承継に関する新聞記事などに興味を持って触れておく必要がある。 また、外部から講師を招聘する講座ですので、講師への礼を失することがないように、能動的に学ぼうとする姿勢をもって、講義に真剣に向き合うことが求められる。	
準備学習の内容 ほぼ毎回、講義終了時に講師から出される課題レポートを提出期限を守ってOh-olMeijiクラスウェブにアップすることが求められる。	
教科書 とくに指定しない。	
参考書 とくに指定しない。	
課題に対するフィードバックの方法 レポートが提出された場合には、必要に応じて次回講義において総括的なコメントによってフィードバックする。	
成績評価の方法 この講座の成績評価は、 (1) 授業への参加・貢献度（平常点に加えて、クラスに向けての発言など、能動的な参加態度を授業への貢献として加点する） (2) 毎回のレポート提出状況（毎回、講師から出される課題レポートを提出期限を守ってOh-olMeijiシステムにアップすること） (3) 最終レポート（事業承継プラン）の内容 以上の(1)(2)(3)によって総合的に評価する。 定期試験は実施しない。	
その他 この講座はメディア授業（オンライン併用）として開講されるため、駿河台キャンパス以外の学生はキャンパスを移動せず受講可能となっている。	

科目ナンバー：(PE) IND411J	
応用総合講座F【2022年度以降入学者】	2単位
応用総合講座VI【2022年度以降入学者】	1～4年次
准教授 藤本 稔彦	
授業の概要・到達目標 政治経済学部では3・4年次に共通応用科目として「応用総合講座」を設け、その年度の基本テーマをもとに特色ある講義を行っています。本年度は、「エコシステム産業」をテーマとして、行動変容と社会イノベーションを実行するチェンジメーカー（社会起業家）をお呼びして講義を構成します。 これからの価値競争の時代には、感動や自然、関係性といったこれまで貨幣や市場で評価されてこなかった、非貨幣・非市場経済の創出が重要となります。こうした価値創出には、豊かな思考性と豊かな心の動きが鍵となり、その源泉として、「関係性の豊かさ（自然や生態、環境との関係性も）」をいかに創出するかという問いがあります。本講義では、エコシステム産業＝「心をつくる産業（マインドストーリー）」とし、豊かな関係性から様々な価値を生み出す「マインドストリア」の育成を目指します。友達や家族、恋人とも分かち合いたくなる、そんな講義になるとうれしいです。 後期開講の「応用総合講座VII」との履修が望ましいです。他学部履修も可能ですので、ぜひ履修ください。	
授業内容 4月12日 ガイダンス 藤本稔彦（政治経済学部准教授） 4月19日 ～エコシステム社会の設計、複雑な生態系のなかの中心のない世界へ 熊野英介（アミタHD（株）会長） 4月26日 ～地球1個で暮らすために、わたしたちは今どこにいる？ 石田秀輝（地球村研究室代表） 5月10日 ～ワクワクする10年後の未来、あなたはどんな暮らしをしている？ 石田秀輝（地球村研究室代表） 5月17日 ～生活体験から育む自然観、命の根っこが輝く、森のようちえん① 岡本麻友子（森のようちえんウイズ・ナチュラ代表） 5月24日 ②ワークショップ：藤本稔彦（政治経済学部准教授） 5月31日 ③対話：岡本麻友子（森のようちえんウイズ・ナチュラ代表） 6月7日 ～明治大学黒川農場で土をいじり、農の取り組みを知る① 甲斐貴光（明大黒川農場特任准教授） 6月14日 ②ワークショップ：Kao花王株式会社 & 川崎市（担当者調整中） 6月21日 ③フィールドワーク：甲斐貴光（明大黒川農場特任准教授） 6月28日 ～暮らしをつくる自然産業とは？西栗倉村の森と生きる事業づくり① 牧大介（西栗倉森の学校・エーゼロ代表） 7月5日 ②ワークショップ：藤本稔彦（政治経済学部准教授） 7月12日 ③対話：牧大介（西栗倉森の学校・エーゼロ代表） 7月19日 まとめ 藤本稔彦（政治経済学部准教授） ＊講義内容は、進捗や受講生の関心、外部講師の急な都合等により変更になる場合があります。	
履修の注意点 質問できる学生を育てます。対話やワークショップを中心に講義を構成します。出席は前提、発言で貢献してください。暮らし方や生き方、働き方、ライフデザインの仕方を学びましょう。 なお、講師都合や講義の進行、受講生の履修状況等により各回の授業内容は変更の可能性あります。	
準備学習の内容 事前に指示する予習と講義時のフィードバックに留意してください。	
教科書 特になし。各回の講師についての予習資料をOh-olMeijiにて配布予定です。	
参考書 特になし。必要に応じて講義中に指示します。	
課題に対するフィードバックの方法 講義中にフィードバックします。	
成績評価の方法 対話への参加と講義への貢献 60点 最終課題 40点 ＊講義の進行と課題、評価の方法は初回ガイダンスで詳細に伝えます。必ず出席してください。	
その他	

科目ナンバー：(PE) IND411J	
応用総合講座G【2022年度以降入学者】	2単位
応用総合講座VII【2022年度以降入学者】	1～4年次
准教授 藤本 穰彦	
授業の概要・到達目標 政治経済学部では3・4年次に共通応用科目として「応用総合講座」を設け、その年度の基本テーマをもとに特色ある講義を行っています。本年度は、「エコシステム産業」をテーマとして、行動変容と社会イノベーションを実行するチェンジメーカー（社会起業家）をお呼びして講義を構成します。これからの価値競争の時代には、感動や自然、関係性といったこれまで貨幣や市場で評価されてこなかった、非貨幣・非市場経済の創出が重要となります。こうした価値創出には、豊かな思考性と豊かな心の動きが鍵となり、その源泉として、「関係性の豊かさ（自然や生態、環境との関係性も）」をいかに創出するかという問いがあります。本講義では、エコシステム産業＝「心をつくる産業（マインドストリー）」とし、豊かな関係性から様々な価値を生み出す「マインドストリア」の育成を目指します。友達や家族、恋人とも分かち合いたくなる、そんな講義になるとうれしいです。後期開講の「応用総合講座VII」との履修が望ましいです。他学部履修も可能ですので、ぜひ履修ください。	
授業内容 9月20日 ガイダンス 藤本穰彦（政治経済学部准教授） 9月27日 ～エコシステムから新産業を発想する？ 熊野英介（アマタHD（株）会長） 10月4日 ～社会的共通資本から考える未来、川は、森は、地域は、いのちは誰のものか？ 占部まり（医師・宇沢国際学館代表） 10月18日 ～間抜けの研究、脳を科学する？ 石田秀輝（地球村研究室代表） 10月25日 ～森・里・海・いのちめぐるまち、南三陸町の復興物語① 太齋彰浩（サステナビリティセンター代表理事） 11月8日 ②ワークショップ：藤本穰彦（政治経済学部准教授） 11月15日 ③対話：太齋彰浩（サステナビリティセンター代表理事） 11月22日 ～心が動きだすまちづくり、喫茶ランドリー？ 田中元子（ランドレベル） 11月29日 ～つくる・直して使う、パーでDIY？ 小島幸代（リンネパー代表） 12月6日 ～ファッションのアップサイクル、もう着れないかも、そこをなんとか！ 岩崎仁志（ヒューマン・フォーラム代表） 12月13日 ～森林ノ牧場、牛と人の森がつくるエコシステム産業① 山川将弘（森林ノ牧場代表） 12月20日 ②末次貴英（アマタHD（株）社長） 1月10日 ③対話：山川将弘（森林ノ牧場代表） & 末次貴英（アマタHD（株）社長） 1月17日 まとめ 藤本穰彦（政治経済学部准教授） * 講義内容は、進捗や受講生の関心、外部講師の急な都合等により変更になる場合があります。	
履修の注意点 質問できる学生を育てます。対話やワークショップを中心に講義を構成します。出席は前提、発言で貢献してください。暮らし方や生き方、働き方、ライフデザインの仕方を学びましょう。なお、講師都合や講義の進行、受講生の履修状況等により各回の授業内容は変更の可能性があります。	
準備学習の内容 事前に指示する予習と講義時のフィードバックに留意してください。	
教科書 特になし。各回の講師についての予習資料をOh-ofMeijiにて配布予定です。	
参考書 特になし。必要に応じて講義中に指示します。	
課題に対するフィードバックの方法 講義中にフィードバックします。	
成績評価の方法 対話への参加と講義への貢献 60点 最終課題 40点 * 講義の進行と課題、評価の方法は初回ガイダンスで詳細に伝えます。必ず出席してください。	
その他	

科目ナンバー：(PE) IND416E	
応用総合講座H【2022年度以降入学者】	2単位
応用総合講座VIII【2022年度以降入学者】	1～4年次
教授 武田 巧	
授業の概要・到達目標 This is the first omnibus course in which seven faculty members of Department of Economics in School of Political Science and Economics will approach the Japanese economy from their respective fields of expertise and provide lectures in English. The course aims to deepen students' knowledge of the current Japanese economy through multifaceted approaches to economic policy, public finance, population issues, monetary issues, trade, and the acceptance of foreign workers. The course is designed for international students, students planning to study abroad, and students interested in learning about the Japanese economy in English. Students will also be expected to submit six short reports in English, so students with a sufficient command of English are encouraged to enroll in this course.	
授業内容 The classes will proceed as follows: <1st Class: September 26th> TAKEDA, Takumi on Orientation <2nd Class: October 3rd> SAITO, Masami on Post-Bubble Economic Policies in Japan (1) <3rd Class: October 10th> SAITO, Masami on Post-Bubble Economic Policies in Japan (2) <4th Class: October 17th> KURACHI, Shintaro on Public Finances in Japan (1) <5th Class: October 24th> KURACHI, Shintaro on Public Finances in Japan (2) <6th Class: November 7th> KATO, Hisakazu on Population Issues in Japan (1) <7th Class: November 14th> KATO, Hisakazu on Population Issues in Japan (2) <8th Class: November 21st> KOBAYAKAWA, Shuji on Money and Financial system in Japan (1) <9th Class: November 28th> KOBAYAKAWA, Shuji on Money and Financial system in Japan (2) <10th Class: December 5th> MIYAZAKI, Eksan on Trade Issues in Japan (1) <11th Class: December 12th> MIYAZAKI, Eksan on Trade Issues in Japan (2) <12th Class: December 19th> SHIMOTOMAI, Hideyuki on History and Current Situation of Foreign Labor Acceptance in Japan (1) <13th Class: January 9th> SHIMOTOMAI, Hideyuki on History and Current Situation of Foreign Labor Acceptance in Japan (2) <14th Class: January 16th> TAKEDA, Takumi on Summary	
履修の注意点 This course is taught in English. Therefore, students with a sufficient level of English are encouraged to take this course. And this course is based on face-to-face instruction, but please note that a limited number of classes may be delivered via on-demand video. In such cases, advance notice will be given through the Oh-of Meiji system.	
準備学習の内容 Follow the instructions of each instructor.	
教科書 Not specified.	
参考書 Not specified.	
課題に対するフィードバックの方法 The assignment is to write a short report (up to 2 pages, A4 size) in English on the content of each instructor's two lectures after the 3rd, 5th, 7th, 9th, 11th, and 13th lectures. Each instructor will evaluate and, if necessary, comment on the submitted reports using the Oh-of Meiji system.	
成績評価の方法 Grades are assigned based on the evaluation of six short reports (100%).	
その他	

科目ナンバー：(PE) INS315J	
社会実習	2単位
	1～4年次
教授 大 森 正 之	
授業の概要・到達目標 学部が認定する機関で、ボランティア制度を利用し、在学中にボランティア体験を行う。公共部門、民間部門、NPO など、ボランティア活動に参加することによって、視野を広げてもらいたい。	
授業内容 公共部門、民間部門、NPO など、ボランティア活動に一定期間参加すること。	
履修の注意点 ガイダンスに出席し、「社会実習（ボランティア活動）単位認定制度の概要」について説明を受ける事。	
準備学習の内容 特になし	
教科書 特になし	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 ボランティア受入機関からの認定書類及び活動報告書に基づくフィードバックを行う。	
成績評価の方法 所定の手続きにより単位を認定する。成績は、合格・不合格のどちらかである。 【認定条件】 活動時間合計80時間以上で認定する。 ①ボランティア受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること。 ②ボランティア活動報告書を提出すること。	
その他 社会実習の2単位は、履修登録時に「卒業に必要な単位数」に含めることはできない。したがって、履修制限単位数には含めずに「卒業単位外」として履修することができる。 なお、1～3年次に修得した単位を「卒業に必要な単位数」に含めることを希望する場合は、単位を修得した次年度の履修登録期間に所定の届出用紙にて申請すれば、「その他の応用科目」として単位認定される。（この場合、新規履修単位として扱わない。）	

科目ナンバー：(PE) ARS191J	
日本事情 A 【2017年度以降入学者】	2 単位
日本事情 I A 【2016年度以前入学者】	1・2年次
講師 永 川 聡	
授業の概要・到達目標 <p>この授業は、留学生およびこれから留学を希望している学生（こちらは政治経済学部に限る）を対象としています。日本の歴史や文化から政治や経済にいたるまで、日本に関するさまざまなテーマについて、政治経済学部ならではの多彩な講師陣によって展開されます。留学生にとっては、日本に関する多様な知識を得る機会となるとともに、海外留学を希望する一般の学生にとっても、留学先で日本を紹介するために有用な知識の獲得につながることでしょう。</p>	
授業内容 第1回 イントロダクション（永川 聡） 第2回 高校国語教科書の「定番」・「小説の神様」志賀直哉『城の崎にて』を読む（富澤成實） 第3回 日本の伝統遊戯を学ぶ（後藤光将） 第4回 日本の社会運動と毛沢東思想（羽根次郎） 第5回 日本語の丁寧表現に対する社会言語学的な視点（ジョージ、ジョニー E） 第6回 世界における日本の世論と投票行動（加藤言人） 第7回 日本の政治制度—衆院総選挙のしくみを中心に—（西川伸一） 第8回 天皇と政治（相原耕作） 第9回 日本の家族と仕事の現状（石川雅信） 第10回 日本の財政（倉地真太郎） 第11回 日本の農村（藤本穰彦） 第12回 日本の人口と家族（中島満大） 第13回 日本の老舗と地域産業（奥山雅之） 第14回 日本の中小企業の経営特質（森下 正）	
履修の注意点 <p>定員は100名で、上記のように留学生と留学を希望する学生のための授業なので、次のような履修条件が設定されています。留学生は、春学期に履修登録を行う場合、優先的に登録されます。一般の学生は秋学期の抽選期間にエントリーを行うことができます。ただし「留学を希望する学生」を対象としているため、一般の学生は、短期留学派遣最低基準のTOEICスコア550点以上を取得している必要があります。なお、留学生でも、秋学期に登録を行う場合には、一般の学生と同様の期間と条件になりますので注意してください。</p>	
準備学習の内容 <p>予めOh-ol Meijiを通じて予習課題が指定された場合は、必ず予習を行ってください。また回によっては意見の発表や、グループワークが課される場合もあるので、そのような場合には積極的に参加するように心がけてください。復習課題が課される場合も同様に、丹念に復習を行い、提出課題がある場合には必ず期限内に提出するようにしてください。</p>	
教科書 特になし。	
参考書 授業中に適宜紹介の予定。	
課題に対するフィードバックの方法 課題等の講評をOh-ol Meiji等で行う。	
成績評価の方法 <p>各授業後に課題が課せられます。授業中にリアクションペーパーを記入し授業終了時に提出する場合や指定期限までにOh-ol Meijiシステム等で提出する場合があります。各回のリアクションペーパーが担当教員によって採点され、最終的に集計された結果が期末評価となります。</p>	
その他 特になし。	

科目ナンバー：COENV191J	
日本事情B〔留学生対象〕	2単位
	1・2年次
教授 森 永 由 紀	
授業の概要・到達目標 本授業では留学生を対象に、日本事情を自然環境や公害問題の面から講義する。 あわせて受講生は、自国の自然や環境問題について日本と比較しながら紹介する。 到達目標は、日本の自然を理解すると共に日本の自然の楽しみ方を知り、かつ自然災害から身を守る方法を学ぶ。また、日本の公害経験を学び、自国でそれらを役立てる方法を模索する。	
授業内容 第1回 1. はじめに 1) なぜ日本の自然や公害経験を学ぶのか 第2回 2) 受講生による自国の自然の紹介 第3回 2. 日本の自然の恵みと脅威 1) 地震 第4回 2) 火山噴火 第5回 3) 水害・雪害 第6回 4) 「3.11」 地震・津波 第7回 5) 原発事故 第8回 3. 防災対策 1) ハザードマップ 第9回 2) 「釜石の奇跡」 第10回 4. 日本の公害 1) アスベスト 第11回 2) 足尾鉍毒事件 第12回 3) 水俣病 第13回 5. 日本の自然と文化（和食と日本の自然など） 第14回 6. まとめ	
履修の注意点 留学生が対象である。 授業内容はあくまでも予定であり、進捗状況などによって変更になることがある。	
準備学習の内容 適宜課題を出すので、必ず期日までに用意する。	
教科書 なし	
参考書 適宜紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji上での個別のフィードバックはしないが、幾つかの回答に対するコメントなどを講義で紹介する。	
成績評価の方法 毎回の出欠および授業への参加度（30%）、課題やレポート（70%）	
その他 講義が1～2回、対面ではなくオンデマンドになる可能性がある。その場合は事前にアナウンスをする。	

科目ナンバー：BAIND111J	
日本事情C〔留学生対象〕	2単位
	1・2年次
教授 菊地端夫	
授業の概要・到達目標 本講義は、明治大学で学ぶ留学生（交換留学生を含む）と、これから留学を検討している学生（こちらは経営学部に限る）を対象と、日本の社会の仕組みや経済、企業の経営やマーケティング、働き方の特徴など、日本に関する多様なテーマについて、留学生とこれから留学を検討している学生（主に日本人学生を想定しているが、他大学での交換留学を希望する留学生も当然歓迎する）の間での議論とグループ学習を通じて、日本に関する多様な知識を得るとともに、そういった日本の特徴を国際比較の観点から把握する視野を養うことを目的としている。	
授業内容 第1回：イントロダクション：日本社会の“常識”と“非常識”の間 第2回：当世若者事情の国際比較 第3回：コミュニケーションのハイ・ロー・コンテキスト 第4回：グループ学習① 第5回：グループ学習② 第6回：グループ学習③ 第7回：グループ学習④発表 第8回：日本社会と伝統文化、ポップカルチャー、クールジャパン？ 第9回：日本の経済と「市場」としての日本の特徴 第10回：「日本的経営」の現在と日本で「働く」ということ 第11回：グループ学習⑤ 第12回：グループ学習⑥ 第13回：グループ学習⑦発表 第14回：まとめ講義	
履修の注意点 本講義を履修できるのは留学生（交換留学生を含む）と、これから留学を検討している学生（主に日本人学生を想定しているが、他大学での交換留学を希望する留学生も当然歓迎する。ただしこちらは経営学部に限る）です。「留学を検討している」とは、漠然とこの先に留学を考えている程度で構いませんが、日本に関してよりバランスある理解に興味がある学生の履修をお勧めします。講義は学生同士のグループ学習が中心となるので、履修者数を最大30名程度で想定しています。	
準備学習の内容 毎回、異なるテーマをとりあげるので、受講生は事前にそのテーマについて参考文献等を用いて下調べをしておく必要がある。また、グループ学習は授業時間外にも必要に応じて実施してもらう。	
教科書 使用しない。	
参考書 以下をはじめ、講義内で紹介をする。 ジェームス・アベグレン、山岡洋一訳（2004）『日本の経営 新訳版』日本経済新聞出版 ドナルド・キーン（2018）『日本人の質問』朝日文庫 清水義範（1995）『シシとニンジャ』講談社文庫 谷崎潤一郎（1995）『陰翳礼讃』中公文庫 ロナルド・ドーア（2006）『誰のための会社にするか』岩波新書 中根千枝（1967）『タテ社会の人間関係』講談社現代新書 マーク・ピーターセン（1988）『日本人の英語』岩波新書 本田由紀（2021）『「日本」ってどんな国？——国際比較データで社会が見えてくる』ちくまプリマー新書 エリン・メイヤー、樋口武志訳（2015）『異文化理解力 — 相手と自分の真意がわかる』英治出版 山本七平（2018）『「空気」の研究』文春文庫	
課題に対するフィードバックの方法 提出レポートは全体講評を行う。	
成績評価の方法 定期試験は実施しない。本講義の特性上、グループでの討議や発表の準備などが多くなるため、毎回の授業での参加度（60%）、レポート（40%）で評価を実施する。	
その他	

科目ナンバー：PEIND11

共通総合講座Ⅰ・Ⅱ

2単位

1～4年次

授業の概要・到達目標

本学では、学部の枠を超え、学術的で魅力ある講座を「全学共通総合講座」として、以下の通り各キャンパスで開講している。

授業内容

駿河台キャンパス

【春学期開講】

人権って何？築くちから、気づくところ 金 4
 アート・オブ・物流 金 4
 環境と政治・経済・社会Ⅰ 木 5
 アジア国際秩序の軍事再編と武器移転の連鎖 火 2
 ローカル・スタンダードをデザインする（環境人文学Ⅰ） 水 4

駿河台キャンパス

【秋学期開講】

グローバル化と人権 金 4
 東京土地家屋調査士会寄付講座「土地と建物の登記に関する講座」 火 4
 明治大学の歴史Ⅱ 金 4
 労働講座企画委員会寄付講座「職場のリアルから働き方を考える講座」 木 4
 環境と政治・経済・社会Ⅱ 木 5
 大学博物館の現場を実見する 月 2
 登戸研究所から考える戦争と平和 木 2
 インティマシーをデザインする（環境人文学Ⅱ） 水 4
 日本企業・産業のレジリエンスとイノベーション 木 3
 広告と言葉の役割 ～変わりゆく社会でのコミュニケーションを考える～ 金 2

和泉キャンパス

【春学期開講】

明治大学の歴史Ⅰ※メディア授業科目 金 4
 シェイクスピアの現代的魅力 金 5

和泉キャンパス

【秋学期開講】

コントラクトブリッジで学ぶ数理学入門 火 3

生田キャンパス

【春学期開講】

登戸研究所から考える戦争と平和 木 2
 明治大学の歴史Ⅰ※メディア授業科目 金 4

生田キャンパス

【秋学期開講】

先端医療概論 水 5

中野キャンパス

【春学期開講】

明治大学の歴史Ⅰ※メディア授業科目 金 4
 コントラクトブリッジで学ぶ数理学入門 火 3
 ダイバーシティ&インクルージョンと日本社会 火 3

中野キャンパス

【秋学期開講】

なし -

その他

【春学期開講】

中国の民間企業に生きる「日本の生産方式」～原田式マネジメントの形成と伝承～※メディア授業科目 水 5
 データサイエンスAI概論※メディア授業科目 月 オンデマンド

その他

【秋学期開講】

ASEAN諸国の政治と経済 ―タイとベトナムを中心に―※メディア授業科目 月 オンデマンド
 データサイエンスAI概論※メディア授業科目 月 オンデマンド

履修の注意点

各講座の授業内容、テキスト、成績評価の方法等は、「2024年度全学共通総合講座シラバス」ホームページに掲載しています。受講する場合は、必ず確認してください。

政治経済学部生は、履修制限単位数等が定められているので、シラバスⅠ「履修の手引き」を参照すること。

準備学習の内容

「2024年度全学共通総合講座シラバス」を参照のこと。

教科書

「2024年度全学共通総合講座シラバス」を参照のこと。

参考書

「2024年度全学共通総合講座シラバス」を参照のこと。

課題に対するフィードバックの方法

「2024年度全学共通総合講座シラバス」を参照のこと。

成績評価の方法

「2024年度全学共通総合講座シラバス」を参照のこと。

その他

「2024年度全学共通総合講座シラバス」を参照のこと。

科目ナンバー：(PE) INS315J	
地域研究インターンシップ	2単位
	3年次
教授 奥山雅之	
授業の概要・到達目標 自治体あるいは外郭団体、議員事務所などでの職場体験を通じて、地域行政あるいは政策立案・実施、住民協働を体験し、それまで蓄積した知識を活きた知識とすることを目的とする。公務員、議員など、将来の職業選択に向け、自治体等での実習を通して実務経験を得ることを目的とし、授業、実習を通じ、公共部門、民間部門を問わず、地域社会で働くとはどういうことかについて学ぶ。 本プログラムは、自治体あるいは外郭団体、議員事務所などでの職場体験（インターンシップ）を核としながら、事前の説明、マナー講座など、事後のグループワーク、発表会などで構成され、これらのプロセスを全て経ることで、実効性のある実務経験となるよう工夫されている。到達目標は、国内外の各地域における現状と課題を分析し、その課題の解決や地域の発展・創生・活性化を担い支える能力を獲得することとする。	
授業内容 第1回 第2回 インTRODクダクション、インターンシップの重要性について 第3回 マナー講座（1） 第4回 マナー講座（2） 第5回 マナー講座（3） 第7回 マナー講座（4） 第8回～第12回 インターンシップ（1）～（5） 第13回 第14回 インターンシップ報告会、振り返り、まとめ	
履修の注意点 履修登録後、教員との面談（5月末を予定）を行い、各履修者の志望や実習先の受入状況を確認する。 ・春学期期間中にマナー講座等、所定の事前研修を受講する。 ・夏休み期間を中心に1～2週間程度（5日間以上必要）、政治経済学部（地域行政学科）と提携した役所、議員事務所、企業等において受入団体の用意した研修、あるいは当該団体における実務を経験する。実習先によっては春学期期間中に事前の講習や課題の提出等を求められる場合もある。 ・研修実施後、事後レポートを作成し、秋学期には報告会を行う。	
準備学習の内容 日頃より地方行政、政策に関するニュースに間を通すとともに、インターンシップ先が決定した際には、必ず当該自治体等の情報を頻繁に取得し、理解しておくこと。また日誌を通じて、インターンシップ中の振り返りを毎回実施し、業務改善につなげること。	
教科書 特になし	
参考書 特になし	
課題に対するフィードバックの方法 事前学習だけでなく、インターンシップ中の日誌および最終報告の際に個別にフィードバックを実施する。	
成績評価の方法 事前学習、事後学習への貢献度、日誌（レポート）、最終報告書などを総合的に勘案して評価する。	
その他 2年次に「地域研究総合講座」の単位を取得していることが、このプログラムを履修する条件となる。	

トップスクールセミナー

科目ナンバー：(PE) POL491E	
Top School Seminar (Politics) D 【2022年度以降入学者】	2単位
政治学特殊講義Ⅳ 【2021年度以前入学者】	1～4年次
客員教授 モーク ピーター	
授業の概要・到達目標 決定次第公開	
授業内容 決定次第公開	
履修の注意点 決定次第公開	
準備学習の内容 決定次第公開	
教科書 決定次第公開	
参考書 決定次第公開	
課題に対するフィードバックの方法 決定次第公開	
成績評価の方法 決定次第公開	
その他 決定次第公開	

科目ナンバー：(PE) POL491E	
Top School Seminar (Politics) E 【2022年度以降入学者】	2単位
政治学特殊講義Ⅴ 【2021年度以前入学者】	1～4年次
客員教授 ツァイ チュン ミン	
授業の概要・到達目標 Title: Contents: This course provides a broad survey of some of the major debates in comparative political economy today. We begin by reading some of the classic works from four disciplines: History, Sociology, Economics, and Political Science. We then proceed with the literature on the political economy of developed countries, newly industrialized economies, developing countries, and the post-Communist economies. The class concludes with the discussion on the post-globalization era, emerging state capitalism, and China's rise. This course aims to achieve two goals: 1) identifying the key aspects of each work (i.e., main puzzle, major arguments, methodology, empirical evidence, etc.); 2) relating the different works to each other.	
授業内容 Lecture 1: course introduction Lecture 2: Classic Liberalism Lecture 3: Marxism Lecture 4: Industrial Revolution Lecture 5: Great Depression Lecture 6: Keynesianism Lecture 7: Neoliberalism Lecture 8: Neoinstitutional economics Lecture 9: Developmental State Model Lecture 10: Late Development Lecture 11: Development Predicaments Lecture 12: Varieties of Capitalism Lecture 13: State Capitalism Lecture 14: Chinese Political Economy	
履修の注意点 Students of all levels of English are welcome. Classes will be conducted in English; Papers will be in English.	
準備学習の内容 Please complete assigned readings before each class.	
教科書 Naazneen H. Barma and Steven K. Vogel, eds., The Political Economy Reader: Market as Institutions, 2nd edition, (New York: Routledge, 2022).	
参考書 Please bring the textbook to each class.	
課題に対するフィードバックの方法 The instructor will participate in class discussions, as well as mark and provide written feedback on student reflection journals, reaction papers, and presentations.	
成績評価の方法 i. Class attendance/participation = 50% ii. Final Paper = 50%	
その他	

科目ナンバー：(PE) POL491E	
Top School Seminar (Politics) F 【2022年度以降入学者】	2単位
政治学特殊講義Ⅵ 【2021年度以前入学者】	1～4年次
客員教授 ワルトン デヴィット ジョセフ	
授業の概要・到達目標 Title: Australia and Japan – ‘A special relationship?’ Contents: The term ‘special relationship’ is often used in polite diplomatic speak when describing relations between two countries. This course will critically examine the post-war relationship between Australia and Japan. Is it a special relationship? We will explore the role of key individuals (agency) and examine the impact of economic and security ties at the bilateral and regional level. There will also be an opportunity to consider the historical and cultural elements of the relationship and to critically examine the concept of a ‘special relationship’. The course will involve lectures and fascinating case study material in our workshops. The course objectives are to: 1. Provide an overview of the Australia-Japan relationship. 2. Identify factors (both domestic and international) that have shaped Australia's post-war and contemporary relationship with Japan. 3. Examine the Australia-Japan relationship in a bilateral and regional context.	
授業内容 Lecture 1: The contemporary relationship: an overview Lecture 2: Case study material Lecture 3: Key individuals: making a difference. Lecture 4: Case study material Lecture 5: Historical issues: ‘the facts don't lie.’ Lecture 6: Case study material Lecture 7: The economic agenda: the ‘driver’ of close ties Lecture 8: Case study material Lecture 9: Security ties: new horizons Lecture 10: Case study material Lecture 11: Regional diplomacy: ‘It is not all about China.’ Lecture 12: Case study material Lecture 13: Re-imagining the relationship: What's next? Lecture 14: Case study material	
履修の注意点 Students of all levels of English are welcome. Classes will be conducted in English; both exams will be in English.	
準備学習の内容 Please complete assigned readings before each class.	
教科書 There is a course reader	
参考書 Please bring the course reader and an English dictionary to each class	
課題に対するフィードバックの方法 The instructor will participate in class discussions, as well as mark and provide written feedback on student assessment items.	
成績評価の方法 Class attendance/participation = 20% Mid semester exam = 30% End of semester exam = 50%	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN211E	
Top School Seminar (Economics) A 【2022年度以降入学者】	2単位
経済学特殊講義Ⅰ 【2021年度以前入学者】	1～4年次
客員教授 リー、ウェン チェ	
授業の概要・到達目標 Title: Modern Issues of Industrial Development: The Case of China This course offers a comprehensive overview of the modern Chinese economy, covering economic philosophy shifts, macroeconomic trends, rural and urban development, international trade, and current challenges. Through formal lectures, discussions, and student-chosen topics, it addresses both theoretical and empirical aspects, aiming to equip students with a solid Chinese economics background and inspire further research. The course objectives are: (1) heightened awareness of the modern Chinese economy; (2) a better understanding of the impact of the Chinese economy on its present.	
授業内容 Lecture 1: Chinese economy before 1949 and socialist era 1949-1978 Lecture 2: Market transition since 1978 and the urban-rural divide Lecture 3: ‘Growth and structural change’ and ‘population growth and one-child policy’ Lecture 4: ‘Labor and human capital’ and ‘incomes, inequality, and poverty’ Lecture 5: Chinese consumption pattern and ‘macroeconomic trends and cycles’ Lecture 6: Rebalancing China's economic growth Lecture 7: International trade and foreign investment Lecture 8: Impacts of US-China trade war Lecture 9: Belt and Road Initiative Lecture 10: Made in China 2025, China Standards 2035, and 14th Five-Year Plan Lecture 11: Impacts of COVID-19 Lecture 12: The Rise of State-Connected Private Owners in China Lecture 13: China's Model of Growth Lecture 14: Chip Wars	
履修の注意点 Students who can both read and speak English are welcome. Classes will be conducted in English.	
準備学習の内容 Before every lecture, reading assignments will be announced.	
教科書 The leading textbook for this course is Naughton Barry (2007). Besides, there will be some other class notes distributed in class.	
参考書 “The Chinese Economy: Transition and Growth.” M.I.T. Press. (Electronic resources are available at the library.) Kroeber, Arthur R. (2016). “China's Economy: What Everyone Needs to Know,” 1st edition. Oxford University Press. Lardy, Nicholas (2012). “Sustaining China's Economic Growth after the Global Financial Crisis.” P.I.I.E. Press. We will also discuss articles from the Economist and Financial Times and some contemporary books on the Chinese economy.	
課題に対するフィードバックの方法 The instructor will give detailed feedback in class regarding students' midterm reports and final reports. In-class discussions are encouraged.	
成績評価の方法 i. In-lecture discussions on current issues in China = 30% ii. Final project proposal (presentation and discussion) = 30% iii. Final project (term paper) = 40%	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN491E	
Top School Seminar (Economics) C 【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅲ 【2021年度以前入学者】	2単位 1～4年次
客員教授 ロシヨン、ルイーフィリップ	
授業の概要・到達目標 Title: INTRODUCTION TO POST-KEYNESIAN ECONOMIC THEORY AND POLICY Contents: This course seeks to introduce students to core ideas in post-Keynesian and heterodox economics, both in terms of theory and policy. The class is divided into two components: the first part will look at core ideas and authors in post-Keynesian economics; while the second half will consider policies regarding monetary policy, inflation and growth.	
授業内容 Lecture 1: <i>Competing Macroeconomic Visions</i> Lecture 2: <i>Kalecki, Keynes and the post-Keynesians</i> Lecture 3: <i>The Main Ideas of Post-Keynesian Economics</i> Lecture 4: <i>The Theory of Effective Demand</i> Lecture 5: <i>The Monetary Theory of Production and the Monetary Circuit</i> Lecture 6: <i>The Theory of Endogenous Money and Bank Lending</i> Lecture 7: <i>Mid-Term examination</i> Lecture 8: <i>Deconstructing mainstream monetary theory and policy</i> Lecture 9: <i>Monetary Policy and Income Distribution</i> Lecture 10: <i>Price Setting and Inflation</i> Lecture 11: <i>Inflation</i> Lecture 12: <i>Post-Keynesian Economics and Ecological Theory</i> Lecture 13: <i>Central Banking, Monetary Policy and Ecological Economics</i> Lecture 14: Final Examination	
履修の注意点 Students of all levels of English are welcome. Classes will be conducted in English; both exams will be in English	
準備学習の内容 Please complete assigned readings before each class. A list of weekly readings will be made available.	
教科書 There is no textbook. There are assigned readings.	
参考書 Please bring the course reader and an English dictionary to each class	
課題に対するフィードバックの方法 I will provide feedback on your exams.	
成績評価の方法 There are two examinations, each worth 50% of the final grade	
その他	

科目ナンバー：(PE) ECN491E	
Top School Seminar (Economics) E 【2022年度以降入学者】 経済学特殊講義Ⅴ 【2021年度以前入学者】	2単位 1～4年次
客員教授 プンヤ、スピチャ	
授業の概要・到達目標 Title: Politics of Development in the Mekong Subregion Contents: In this course, we will explore how the socio-economic development in the Mekong subregion has been shaped by the external forces in colonial, Cold War, and post-Cold War periods. Moreover, we will analyze development issues in the subregion and their impacts to local people and environment. We will take both lecture-based and activity-based learnings to deepen our understanding in the politics of development in the subregion. The course objectives are: 1. To understand socio-economic and political developments of Mekong subregion from pre-colonial to post-Cold War periods. 2. To analyze development issues on the Mekong subregion and impacts of the development.	
授業内容 Lecture 1: The Mekong subregion studies in political science Lecture 2: Development theory and Sustainable Development Goals Lecture 3: Geo-body of the Mekong subregion Lecture 4: The Mekong subregion in the colonial period Lecture 5: The Mekong subregion in the Cold War - post-Cold War periods Lecture 6: China's influence in the Mekong subregion Lecture 7: United States and Japan in the Mekong subregion Lecture 8: International organizations and financial institutions in the Mekong subregion Lecture 9: Infrastructure development in the Mekong subregion Lecture 10: Special Economic Zones in the Mekong subregion Lecture 11: Hydropower dams in the Mekong subregion Lecture 12: Transboundary civil society in the Mekong subregion Lecture 13: Environmental issues and a political conflict on a natural management Lecture 14: Sustainable development in the Mekong subregion	
履修の注意点 Students of all levels of English are welcome. Classes will be conducted in English; presentations and final papers will be in English.	
準備学習の内容 Please complete assigned readings before each class.	
教科書 There is a course reader.	
参考書 Please bring the course reader and an English dictionary to each class.	
課題に対するフィードバックの方法 The instructor will provide a feedback on students' papers and presentations.	
成績評価の方法 i. Class participation = 25% ii Presentations = 25% iii Final paper = 50%	
その他	

教職課程共通科目

科目ナンバー：(PE) HIS111J	
日本史概論	2単位
	1年次
伊勢弘志	
授業の概要・到達目標 《概要》 現在の日本社会の前提になっている近現代の国際環境・社会環境を講義する。私たちの社会が世界の潮流と密接であることを理解するために、歴史学と国際政治学の両分野の視点から、近代～現代とはどのような時代であったのかを学習する。現在の日本における社会問題・教育問題を自ら分析できるように日本近現代史を学習する。	
《到達目標》 1.近現代とはどのような時代であるのかを知り、その理解の上に現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。 2.現在の教育問題・歴史認識問題などについて多面的な分析ができる。 3.「道具としての知識」を実社会や教育の現場で活用するために、「考える力」を訓練する。その上で、「なぜ勉強をするのか？」について自身の応えをもてる。 4.2022年度より全国の高校で開始された「歴史総合」の課題と意義・留意点を理解できる。	
授業内容 第1回：なぜ歴史を学ぶのか？ - 黒船来航から考える 第2回：近代を迎える日本とアジア - 岩倉使節団は何を見たのか？ 第3回：日清戦争とアジア情勢 - 日清戦争が世界に与えた影響とは何か？ 第4回：世界史の中の日露戦争 - 日本が変えた世界史とは何か？ 第5回：第一次世界大戦と国際連盟 - 「総力戦」から世界は何を学んだか？ 第6回：「ワシントン体制」とは何か？ - 「戦争違法化」の世界 第7回：満州事変と連盟脱退 世界秩序への挑戦 第8回：日本はなぜ侵略国になったのか？ 第9回：なぜ原爆は2発落とされたのか？ - 敗戦と聖断 第10回：東京裁判は何を裁いたか？ - 日本社会の戦争観 第11回：「戦後帝国主義」の登場 - 「55年体制」と「日米安保」とは何か？ 第12回：「近代化論」とは何か？ - 歴史小説で勉強してはダメなのか？ 第13回：新自由主義の世界 - 自己責任論とは何か？ 第14回：日本の社会と教育	
履修の注意点 知識（内容知）を獲得するだけでなく、知るための調べ方・自身の関心や疑問を自ら解決するための知識（方法知）を獲得し、さらに「考える力」を訓練できるよう留意すること。	
準備学習の内容 ① 教科書は必ず用意すること。 ② 毎時の講義内容について、次の講義までに教科書を読んで理解を深めておくこと。 ③ なぜ勉強をするのか？必死に考えること。	
教科書 伊勢弘志『明日のための近代史・世界史と日本史が織りなす史実』（増補新版）（芙蓉書房出版、2023年）。 ＊「増補新版」を用意して下さい。誤って旧版を購入しないこと。買い直さねばならなくなります。	
参考書 伊勢弘志『明日のための現代史』（上・下巻）（芙蓉書房出版、2021～2022年）。	
課題に対するフィードバックの方法 授業時間の前後に教室で対応する。	
成績評価の方法 レポート100%（およびプラスアルファとしてのリアクションペーパーによる平常点）	
その他 初回の授業時に成績評定や単位認定についての詳細を説明します。必ずその内容を把握の上で履修すること。 本講義では日本の近代～現代を学習します。本講義の履修者で、他の時代を学習したい学生には以下の書籍をお薦めします。 「世界史リブレット」シリーズ（山川出版社）。 「大学の日本史」シリーズ・古代～近代（山川出版社）。 妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修正訂（中央大学出版部、2021年）。 津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）。 「市民のための世界史」大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014年）。 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）。 「世界歴史大系 中国史」1～5（山川出版社、1997年～2003年）。 「中国の歴史」全12巻（講談社学術文庫）。 岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、2015年）。 中西竜也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。 岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019年）。 「日本近世史を見通す」全七巻（山川出版社）。 「シリーズ近世史」全5冊（岩波新書）。 「近世史講義」高埜利彦編（ちくま新書）。	

科目ナンバー：(PE) HIS111J	
日本史概論	2単位
	1年次
長沼秀明	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 教職課程「教科に関する科目」（「共通講座」）として、日本史を教えるために必要な基礎的知識を実践的に学びます。 《授業の到達目標およびテーマ》 高等学校で「日本史A」の授業を担当することを想定し、ある学校の授業例を参考にしつつ、日本の歴史に関する基礎的な知識を学びます。「歴史総合」「日本史探究」および中学「社会」の授業を担当する際にも大いに役立つ内容です。	
授業内容 第1回 ガイダンス、「日本史A」の目標および内容 第2回 動揺する江戸幕府―内憂外患への対応― 第3回 開国 第4回 明治維新 第5回 自由民権運動、大日本帝国憲法（その1） 第6回 自由民権運動、大日本帝国憲法（その2） 第7回 条約改正、日清戦争（その1） 第8回 条約改正、日清戦争（その2） 第9回 日露戦争 第10回 第一次世界大戦 第11回 大正・昭和初期の経済と対外関係 第12回 昭和恐慌から二・二六事件へ、戦争の時代 第13回 敗戦と占領・戦後改革、講和から高度経済成長時代へ 第14回 a. まとめ b. 試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 1) 教職課程認定科目であることを十分に認識してください。 2) いわゆる出席点はありません。 3) 授業時間は最大限に使います。	
準備学習の内容 毎回、事前に指示した課題に真剣に取り組み、積極的に参加してください。	
教科書 つぎの二冊が教科書です。二冊ともに毎回の授業で使用します。 (1) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』 (2) 『日本史A―現代からの歴史―』（高等学校地理歴史科用文部科学省検定済教科書 2―東書―日A308）（東京書籍、2017年）（本体価格610円） ＊ 詳細は初回の授業で指示します。	
参考書 毎回の授業のなかで紹介します。	
課題に対するフィードバックの方法 授業内に授業の一環として伝えます。	
成績評価の方法 定期試験の得点および毎回の授業で提出してもらう「解答票」を総合的に判定し、厳正に行ないます。具体的な割合は、試験の得点55%、毎回の授業の成果45%を原則とします。	
その他 「Oh-o! Meijiシステム」の積極的な活用をはかります。	

科目ナンバー：(PE) HIS111J	
日本史概論	2単位
	1年次
綱 川 歩 美	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 日本近世の人々の思想や行動を伴う生活の様子を題材に通史的な理解を得ることをねらいとします。毎回異なるトピック（政治支配・流通経済・産業・外交・学芸・宗教・ジェンダーなど）を取りあげ、時期やその変容に留意しながら講述します。取り上げる具体的な項目が持つ歴史的な意味を、背景となる政治や社会制度と関連させながら考えます。	
《到達目標》 日本近世の歴史的特質を理解するとともに、政治や社会制度と人々の生活実態を重ね合わせてみることで、多彩かつ具体的な近世史像を結べるようになることを目標とします。	
授業内容 第1回 オリエンテーション-歴史学を学ぶこと 第2回 戦国から近世へ 第3回 近世国家の成立 第4回 開発と発展 第5回 近世社会の成熟①-書物出版と社会 第6回 近世社会の成熟②-世間と「家」 第7回 人々と衣類①-木綿普及と近世 第8回 人々と衣類②-養蚕と文化 第9回 人々と食①-「豊かな」食生活 第10回 人々と食②-食べられない現実 第11回 都市の発達と身分制 第12回 近世の女性の学びとジェンダー意識 第13回 外交と海防 第14回 全体のまとめ	
履修の注意点 授業内での資料読解やそれを踏まえたリアクションペーパーの作成を求められます。一方的に聴くのではなく積極的な姿勢でのぞむことを期待します。	
準備学習の内容 復習中心となる。毎回配布するレジメをしっかりと読み返し、必要であればノート等にまとめ、知識の定着につとめるようにしてください。	
教科書 特に指定しない。毎回レジメを配布し、それにしたがって授業を進めます。	
参考書 『大学の日本史』3（近世）、山川出版社、2016年。 荻部直、片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年。 『日本近世しと見通す』1 吉川弘文館、2023年。そのほか、適宜、授業中に提示します。	
課題に対するフィードバックの方法 授業へのコメントは次回授業で紹介し解説を補足します。また授業前後の時間に質問にも応じます。	
成績評価の方法 リアクションペーパー（40%）と記述式の期末試験（60%）を実施します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) HIS121J	
東洋史概論	2単位
	1年次
鈴 木 直 美	
授業の概要・到達目標 《授業内容》 7世紀から20世紀までの中国史の流れを概観し、東アジア・北アジア・をはじめとする世界史のかかわりから中国の政治・経済・社会の動向をとらえる。	
《到達目標》 1. 中学・高校での授業を行うに十分な知識と教養を習得する。 2. 中国社会のあり方を歴史的背景から理解する。 3. 歴史学の思考方法を身につけ、様々な歴史的事象について多角的な視点から考察できる。	
授業内容 各回の授業内容は以下の通り。 1. ガイダンス / 「中国」とは何か 2. 農耕社会と遊牧社会 3. 隋唐王朝と国際関係 4. 唐宋変革とは何か 5. モンゴル帝国とユーラシア 6. 明朝と大航海時代 / 小テスト 7. 清朝の平和 8. 清朝と近代世界 9. 中国ナショナリズムと辛亥革命 10. 第一次世界大戦と中国社会 11. 抗日戦争から中華人民共和国へ 12. 社会主義体制の構築 13. 現代中国の諸問題 14. 試験と解説 授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。	
履修の注意点 高校時代の世界史の内容を復習しておくこと。 世界史を履修していない、もしくは現代史など学習していない範囲がある場合は下記書籍を読んでおくのが望ましい。 「世界の歴史」編集委員会『もういちど読む山川世界史』（山川出版社、2009年）	
準備学習の内容 クラスウェブから資料を配布するので、内容を予習・復習すること。	
教科書 クラスウェブから資料（PDF）を配布する。	
参考書 岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年）	
課題に対するフィードバックの方法 必要時に応じてクラスウェブのコメント機能を使用する。	
成績評価の方法 1. 小テスト（30%）・期末試験（70%）による。 (1) 第6回授業で選択式の小テストを行う。 (2) 期末試験は記述式で行う。単語の羅列や意味の不明な文章は解答とみなさず、単位を認定しない。 2. 出席回数が7割未満の場合、単位を認定しない。	
その他 1. クラスウェブの出欠確認機能と小テスト機能を使用するので、スマートフォン・パソコンなどを持参のこと。 2. 授業で使用する資料は事前にクラスウェブからPDFで配付する。感染防止のため授業時に紙媒体での配布をしないので、 授業前に自分でダウンロードや印刷 をしておくこと。 3. 本授業を補完する書籍は以下の通り。 (1) 世界史全体にかかわる書籍 妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修正（中央大学出版部、2021年） 『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014年） 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年） 世界史リブレットシリーズ（山川出版社）※歴史学の様々なテーマについてわかりやすく解説している。 (2) 中国史についての概説書 津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）。 中西竜也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。 岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019年）。 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）。 『中国の歴史』全12巻（講談社学術文庫）。 (3) 日本史にかかわる書籍 『大学の日本史』シリーズ（山川出版） 『日本近世史を見通す』（全7巻／山川） 高埜利彦編『近世史講義』（ちくま新書） 『シリーズ近世史』（全5冊／岩波新書）	

科目ナンバー：(PE) HIS121J	
東洋史概論	2単位
	1年次
石野 智 大	
授業の概要・到達目標	
<p>本授業では、時間的・空間的な広がりをもつ中国の政治と社会について、周辺地域との関係も視野に入れながら概観する。また、それらを通して、受講生各自が中国史に関する基本的な知識を習得することを目的とする。</p> <p>長きにわたる中国の歴史を理解するには、その大きな流れを捉えることが重要な意味を持つ。そのため、教職課程科目である本授業でも、その部分に力点をおいて講義を進める。とくに本授業では、人びとの生活環境の違い、文明の多元性、領域統治の方法、人的結合のあり方、統一王朝の形成・崩壊過程、諸民族の躍動と自立化、大規模な環境変化の影響、対内・対外政策の連動性、宗教・文化と政治とのかわりなどに注目しながら、中国文明の誕生から清末までの前近代中国の歴史的推移を追っていく。</p>	
授業内容	
<p>第1回：中国文明の誕生 第2回：初期王朝の形成 第3回：春秋戦国時代の政治と文化 第4回：秦漢統一帝国の成立と崩壊（1） 秦～前漢前半 第5回：秦漢統一帝国の成立と崩壊（2） 前漢後半～後漢 第6回：魏晉南北朝時代の政治と諸民族の動向 第7回：隋唐王朝の形成と変容（1） 隋 第8回：隋唐王朝の形成と変容（2） 唐 第9回：五代・北宋の展開 第10回：南宋時代の政治と文化 第11回：モンゴル帝国と元朝の中国支配 第12回：明代の国内政治と対外政策 第13回：清代の政治的展開と皇帝制度の終焉 第14回：期末試験</p>	
履修の注意点	
<p>高校で「世界史」（とくに前近代部分）を履修しなかった方も歓迎します。 授業では中国史の大きな流れを理解するように心がけてください。</p>	
準備学習の内容	
<p>履修前の事前学習としては、高校世界史教科書の中国史関連部分を一読しておくといと思います。 授業開始後は、授業外学習として下記の「参考書」を積極的に読まれることを希望します。また、授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させることが大切です。</p>	
教科書	
指定しません。授業時に適宜プリントを配布します。	
参考書	
<p>津田資久・井ノ口哲也編『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年） 岸本美緒著『中国の歴史』（筑摩書房、2015年）</p> <p>より専門的な理解を深めるには、以下の概説書をおすすめします。 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年） 『中国の歴史』全12巻（講談社、2004年～2005年、講談社学術文庫版あり）</p>	
課題に対するフィードバックの方法	
必要に応じて、授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。	
成績評価の方法	
平常点（授業への取り組み、リアクションペーパーなど）30%、期末試験70%	
その他	
個別の質問・相談は随時対応いたしますので、授業後をお願いします。	

科目ナンバー：(PE) HIS131J	
西洋史概論	2単位
	1年次
小野寺 利 行	
授業の概要・到達目標	
<p>ヨーロッパの中世から近代までの歴史を概観する。ヨーロッパの歴史を、国家の仕組みや政治に関与する人々の変化に焦点を当てて学んでいくことを目的とする。現代では国民のほぼ全員が政治に参加しているが、過去の歴史を見ると常にそうであったわけではない。そこで、ヨーロッパでは歴史的にどのような人々が政治に関わっていたのか、そして、どのようにして国民のほとんどが政治に関わるようになったのかをみていくことにする。それを通して、ヨーロッパという地域や現代の国家のありかたを歴史的な視点で考える手がかりをつかむことを目指したい。</p>	
授業内容	
<p>以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 中世の社会と国家 3. 中世のキリスト教会 4. 中世の農村 5. 中世の都市 6. 中世から近世へ 7. 近世の国家（1）国家と身分 8. 近世の国家（2）国家と地域 9. 近世の国家（3）国家と団体 10. 近代のイギリス 11. 近代のフランス 12. 近代のアメリカ 13. 近代のドイツ 14. (a) まとめ / (b) テスト 	
履修の注意点	
<p>高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。</p>	
準備学習の内容	
<p>予習では、参考文献に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、授業で配付した資料や参考文献を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。</p>	
教科書	
特定の教科書は使用せず、資料をOh-ol Meijiで配付する。	
参考書	
<p>授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。</p> <p>・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）</p>	
課題に対するフィードバックの方法	
課題に対するフィードバックは後日授業中に行なう。	
成績評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験（70%） ・課題（30%） 	
その他	

科目ナンバー：(PE) HIS131J	
西洋史概論	2単位
	1年次
小野寺 利 行	
授業の概要・到達目標 ヨーロッパの中世から近代までの歴史を概観する。ヨーロッパの歴史を、国家の仕組みや政治に関与する人々の変化に焦点を当てて学んでいくことを目的とする。現代では国民のほぼ全員が政治に参加しているが、過去の歴史を見ると常にそうであったわけではない。そこで、ヨーロッパでは歴史的にどのような人々が政治に関わっていたのか、そして、どのようにして国民のほとんどが政治に関わるようになったのかをみていくことにする。それを通して、ヨーロッパという地域や現代の国家のありかたを歴史的な視点で考える手がかりをつかむことを目指したい。	
授業内容 以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。	
1. イントロダクション 2. 中世の社会と国家 3. 中世のフランス 4. 中世のドイツ 5. 中世のイングランド 6. 近世の社会と国家 7. 近世のフランス 8. 近世のイギリス 9. 近世のドイツ 10. 近代のイギリス 11. 近代のフランス 12. 近代のアメリカ 13. 近代のドイツ 14. (a) まとめ／(b)テスト	
履修の注意点 高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。	
準備学習の内容 予習では、参考文献に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、授業で配付した資料や参考文献を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。	
教科書 特定の教科書は使用せず、資料をOh-ol Meijiで配付する。	
参考書 授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。 ・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）	
課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは後日授業中に行なう。	
成績評価の方法 ・学期末試験（70%） ・課題（30%）	
その他	

科目ナンバー：(PE) HIS131J	
西洋史概論	2単位
	1年次
渡 辺 知	
授業の概要・到達目標 15世紀のポルトガル、スペインのヨーロッパ外への進出に始まる世界の一体化の過程を世界システム論の観点から概観し、ヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響について考えてみたいと思います。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。	
授業内容 以下の通り授業を進める予定ですが、進行具合によって若干の変更を加えることもあります。	
第1回 世界の一体化 この講義のテーマについて説明します。 第2回 大航海時代以前のヨーロッパ 1 11～13世紀のヨーロッパの経済、社会について説明します。 第3回 大航海時代以前のヨーロッパ 2 14世紀以降ヨーロッパで危機的状況が深まっていく過程を説明します。 第4回 ポルトガルとアジア ポルトガルがアフリカ、アジアに進出していく過程とその影響について説明します。 第5回 スペインとアメリカ 1 スペインのアメリカ進出の過程とアメリカに与えた影響について説明します。 第6回 スペインとアメリカ 2 スペインのアメリカ進出がスペインと世界の一体化に与えた影響について説明します。 第7回 17世紀のヨーロッパ 「17世紀の危機」論争を紹介しつつ、西ヨーロッパ諸国の台頭を説明します。 第8回 第一次イギリス帝国の形成 イギリスがオランダ、フランスと対立しながらその帝国を形成する過程を説明します。 第9回 イギリス商業革命 イギリスの帝国形成がイギリスの経済、社会に与えた影響について説明します。 第10回 西インド諸島と砂糖 イギリスの植民地支配が西インド諸島に与えた影響について説明します。 第11回 アフリカと大西洋奴隷貿易 イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国による大西洋奴隷貿易の展開とその影響について説明します。 第12回 フランス革命と環大西洋革命 1 フランス革命の展開について説明します。 第13回 フランス革命と環大西洋革命 2 フランス革命をその時期大西洋の両岸で起きた出来事と関連付けながらその意義を説明します。 第14回 a まとめ b 試験	
履修の注意点 西洋の歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史になじみがなかった方の受講も歓迎します。	
準備学習の内容 授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。	
教科書 特に定めません。	
参考書 参考文献として以下の文献を紹介しておきます。授業で随時、紹介してきます。 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）	
課題に対するフィードバックの方法 授業でコメントします。	
成績評価の方法 授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いて頂き、これを平常点とします。学期末には試験を行い、成績はこれらの総合評価とします（学期末試験80%、平常点20%）。	
その他 オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。	

科目ナンバー： PEGEO111J	
人文地理学概論	2単位
	1年次
谷川尚哉	
授業の概要・到達目標 教職課程におかれている「人文地理学概論」であることをふまえて、人文地理学の基礎・基本を述べるとともに、地理教育論にも適宜ふれていきたい。 高等学校で「地理AまたはB」を選択しなかった人にとっては、中学校の「社会科地理的分野」以来の地理となろうが、地理あるいは人文地理学の楽しさ、面白さを理解してもらえればありがたい。 ただし、半期の講義であるため、文字どおり「概論」とならざるをえない面がある。毎回の講義は、あくまでも「窓を開ける」ことであり、その窓から何を見るかは受講生に委ねられている。	
授業内容 (1) 人文地理学とはどういう学問か。地理学の構成から考える (a)。 (2) 人文地理学とはどういう学問か。地理学の構成から考える (b)。 (3) 人文地理学とはどういう学問か。地理学の手法から考える (c)。 (4) 人文地理学とはどういう学問か。地理学の手法から考える (d)。 (5) 地理学とはどういう学問か。地理学史から考える (a)。海の向こうに何がある？ 山の向こうに何がある？ (6) 地理学とはどういう学問か。地理学史から考える (b)。地球の形は、どんな形？ (7) 地理学とはどういう学問か。地理学史から考える (c)。大航海時代は地理的発見の時代 (8) 社会科・地理教育を考える (a)。「地理総合」と「歴史総合」。 (9) 社会科・地理教育を考える (b)。「世界国尽」 (10) 社会科・地理教育を考える (c)。「どころんでも社会科」 (11) 景観の変貌から地域の再編成を考える (a)。高度1000フィートから見た日本 (12) 景観の変貌から地域の再編成を考える (b)。山が地図から消えた？ 地形図を読む (13) 景観の変貌から地域の再編成を考える (c)。島が島でなくなった？ (14) 景観の変貌から地域の再編成を考える (d)。瀬戸内海の島の変貌	
履修の注意点 1. 受講生は、教室内でのマナーを守る事。 2. 毎回、「感想」を書いてもらう。 3. 第1回目から本論に入るのので、そのつもりで受講するように。	
準備学習の内容 1. 復習が最重要である。 2. 毎回の講義で何を学んだのかを確実に理解すること。 3. ノートの整理が肝要である。 4. 事前に配布した資料等は、必ず熟読して講義に臨むこと。	
教科書 使用しない。映像資料やプリントを教科書代わりに使用する。	
参考書 随時、紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meijiを使用。	
成績評価の方法 1. 原則として、出席は絶対条件。講義の3分の1を休んだ者には単位は与えられない。 2. 学期末の試験で100%評価する。レポート提出で代替することはできない。	
その他	

科目ナンバー：(PE) GEO121J	
自然地理学概論	2単位
	1年次
若松伸彦	
授業の概要・到達目標 自然地理学はその地域の気候、地形、水文、植生等の自然環境を総合的に捉える学問分野である。地理というと、社会科の一科目であり、事象の暗記科目と思われがちである。しかし自然地理学は、実際には私たちの身のまわりにある自然環境がどのようなものかを理解し、その仕組みや因果関係を学ぶことが非常に大切である。本講義は、自然環境に関する基礎的な知識を身に付け、総合的に自然環境を捉える能力を身に付けることが目標である。このような能力を身に付けることで、自然災害や地球環境問題に対しての正しい対処が可能にもなる。	
授業内容 第1回 a: 自然地理学の見方・考え方 (ガイダンス) b: 自然地理学の基本 第2回: 惑星としての地球 第3回: 大地形と火山 第4回: 岩石と日本列島のでき方 第5回: 世界と日本の大地形 第6回: 平野の地形 第7回: 山地の地形 第8回: 河川の地形 第9回: 海岸の地形 第10回: 地球のエネルギー収支と大気大循環 第11回: 世界の気候と植生 第12回: 日本の気候と植生 第13回: 様々な環境問題 第14回 a: 講義のまとめ b: 試験	
履修の注意点 積極的な授業の参加を望む。授業内容はいわゆる理系の地学の領域を含むが、文系学生でも理解できる内容である。 自然地理の基本的な知識から最新の環境問題まで、講義では幅広く扱う。	
準備学習の内容 事前にwebシステムによってプリントを配布するので、必ず印刷をして持参すること。 プリントは図表及び板書を補助するためのプリントであり、復習や授業後の整理を行うことが望ましい。	
教科書 『新詳高等地図』(帝国書院) 2019年 高校時代に地図帳を購入している者は代用しても良い。 他に教科書は定めないが、参考書があると授業の理解が進む。	
参考書 『みわたす・つなげる自然地理学』 小野映介・吉田圭一郎 編 (古今書院) 2021年 『自然地理学概論』 高橋日出男・小泉武栄編著 (朝倉書店) 2008年 『上高地の自然誌』 上高地自然史研究会編 (東海大学出版会) 2016年	
課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける	
成績評価の方法 講義態度10%、期末試験90%で評価する。	
その他	

科目ナンバー： PEGEO131J	
地誌学概論	2単位
	1年次
内藤 芳 宏	
授業の概要・到達目標 教職課程におかれている「地誌学概論」であることを考慮し、中学・高等学校の教員に求められる地誌学の基礎・基本から専門領域に加えて、既存の概念から応用する授業事例も触れていきたい。地理は知らない土地の知らない人たちが自然に対する好奇心から成り立っている。とくに地誌学は特定地域における自然と人文の諸事象とその関係を考察し、地域的な特徴を究明すること、すなわち地域を知ることが目的とされる。地誌学の楽しみを得ることで、将来のあなたの教え子たちに還元するための糸口になることを目指したい。なお2022年度より高等学校で必修化される「地理総合」では地誌を扱わないが地図学習は入るため、それを意識した内容とした。また続く科目の「地理探究」で地誌的内容を扱うことを意識したい。	
授業内容 第1回：オリエンテーション 地誌学を学ぶということ 第2回：地誌学の基礎①学校教育の地誌とは 第3回：地誌学の基礎②日本を扱う（都市近郊） 第4回：地誌学の基礎③日本を扱う（農山村部） 第5回：地誌学の展開①専門性を活かした地誌 地形図の活用（段彩図） 第6回：地誌学の展開②専門性を活かした地誌 地形図の活用（谷と尾根） 第7回：地誌学の展開③専門性を活かした地誌 地形図の活用（土地利用図） 第8回：地誌学の展開④専門性を活かした地誌 統計地図の活用 第9回：地誌学の展開⑤専門性を活かした地誌 フィールドワーク・校外学習 第10回：地誌の授業実践①旅をつくる 第11回：地誌の授業実践②ヒマラヤ山脈の暮らし 第12回：地誌の授業実践③アルプス山脈の暮らし 第13回：地誌の授業実践④小さな国の環境大国 第14回：学期末試験 ※第5回～第7回は地形図を利用するため、原則として対面授業時に行うことを前提とした授業構成を組んでいる。したがって新型コロナウイルス感染症の状況によって、順番を入れ替わる場合がことを予め承知しておかれない。	
履修の注意点 授業にきちんと出席し、学ぶ姿勢を示すこと。また毎回授業に関する「感想」の提出を求める。対面授業が出来ない場合は、Oh-olMeijiによるオンデマンド型（配信型）になる。その際は下記の成績に関する指示に従うこと。対面授業時のマナーは誠実であること。受講者は教員を目指すからには、揺るぎない自らに負けない真剣な姿勢を求めたい。	
準備学習の内容 復習を大切にすること。とくに地誌は地理的位置関係および付随する情報が講義で扱われる。今日の授業で何を学んだのか、確実に理解すること。そのためにはノートの整理が肝要である。	
教科書 教科書はとくに指定しない。映像資料やプリントを教科書代わりに使用する。ただし地理は地名や位置をその都度確認するためにも、高校時代に地理の授業で使用した地図帳を用意しておくこと（高校時代に地理の授業を受けていない者は同等のものを用意しておくこと）。また5回目の講義から国土地理院発行の地形図（国土地理院発行1/25000地形図「赤穂」を各自で購入）を用いた作業も行う。作業の際は12色の色鉛筆（小中高時代に買ったもので十分）を一揃い用意すること。 ※コロナ禍であるが地形図は予め各自で購入しておくこと。授業内容の部分で説明しているように、コロナ禍で授業の順番を変えざるを得ない場合も想定して、第3回の授業までに用意することが望ましい。なお各自で国土地理院サイトから最寄りの国土地理院発行地形図の販売書店を探し、時間的ゆとりをもって購入しておくこと。すぐに入手できるとは限らない。買い求めた地形図は折らずに、筒状にして輪ゴムなどで留めて持参するように。	
参考書 地理・地誌に関わる入門書として以下を紹介する。 大野新・竹内裕一編『世界をつなぐ地理総合の授業』 地理教育研究会編『知るほど面白くなる日本地理』日本実業出版社 地理教育研究会編『授業のための世界地理・第5版』古今書院 今尾忠介『地図帳深読み』帝国書院 矢ヶ崎典隆ほか『地誌学概論（第2版）』朝倉書店	
課題に対するフィードバックの方法 授業内に指示する簡単な課題（例えば、自身の出身地を中高生の地理の授業で扱う場合のキーワード等）をその後の授業で紹介し、受講している学生諸君同士の参考にするべくフィードバックする。また地形図作業は終了後提出したものを評価し返却する。	
成績評価の方法 毎回出席をとる。3分の1を休んだ者には単位は与えられない。成績評価は学期末試験60%、平常点（提出物および授業への貢献度）40%等を総合的に判断する。 ※コロナ禍におけるオンライン授業の場合、Oh-olMeijiのクラスウェア上のアンケート機能を使って、毎回の課題を答えることで出席扱いとし、またその内容を平常点とする。	
その他	

科目ナンバー： (PE) LAW111J	
法律学概論	2単位
	1年次
石居 圭	
授業の概要・到達目標 本講義ではまず、憲法・民法・刑法を中心として、法の基本的な事項を知ってもらいます。しかし、法律学は「条文の丸暗記でよい」というような単純なものではありません。法律の文言は多くの事案に対応できるような、意味に幅をもたせる形で表現されています。それゆえ、実際の事案では、異なる利害関係や価値観をもった者たちが条文の「解釈」をめぐる争うこととなります。そこで、実際の判例をみながら、法律の運用のされ方やその解釈も学びます。 法律学を学ぶ意義は、多様な考え方や価値観が対立する社会において、どのように秩序を与えるかを考えられるようになるという点にあり、本講義もそれを到達目標に掲げます。 具体的には、 ・公平なものの考え方（特定の者だけを優遇したり、不当な差別をすることなく、一定の基準に従って公平にものごとを処理する能力） ・論理的思考力（自分の考えを整理し、納得のいく根拠をもって、わかりやすく自身の見解を主張する能力） ・多面的な利益への視点（事件当事者だけでなく、将来の被害者や社会への影響など、様々な利益を考慮した上で自身の見解を形成する能力） といったものを得ることを到達目標とします。	
授業内容 第1回：法とは何か、法の学び方 第2回：法の仕組み 第3回：憲法の基本原理 第4回：国の統治機構 第5回：平等権 第6回：精神的自由と経済的自由 第7回：人身の自由 第8回：社会権 第9回：裁判の仕組み 第10回：財産と法 第11回：経済取引と法 第12回：家族と法 第13回：犯罪と法（1）——犯罪の「成立」について（不作為犯・未遂犯・共犯を含む） 第14回：犯罪と法（2）——犯罪の「不成立」について（違法性阻却事由、責任阻却事由）	
履修の注意点 毎回レジュメを配布します。授業には毎回出席し、教科書とレジュメを必ず持参してください。質問は授業中でも授業後でも受け付けます。	
準備学習の内容 法学の学習は、ある程度暗記の形で用語をインプットする必要があります。そこで予習においては、教科書を読みつつ、参考書や六法を用いて、専門用語の意味内容を条文と学説を参照しながら確認しましょう。 そして復習の際には、講義で示された設例を通して、得た知識を文章で表現する練習をしましょう。とくに条文や制度、概念の内容・目的・異同については、入念に復習し、定期試験の論述問題に備えましょう。	
教科書 大谷實編著『エッセンシャル法学 [第7版]』（成文堂、2019年）	
参考書 本講義では多くの法領域を取り扱うため、ここで一括して参考文献を示すことはできませんが、各回の広義の前に配布されるレジュメの中で、予習の際に有用な参考文献を示します。 なお、法学学習において有用なものとしては、 横田明美『カフェパウゼで法学を——対話で見つける〈学び方〉』（弘文堂、2018年） 田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート 第2版』（有斐閣、2019年） 弥永真生『法律学習マニュアル 第4版』（有斐閣、2016年） 等があります。	
課題に対するフィードバックの方法 中間課題の結果について、ご希望の方のみフィードバックします。授業内だけでなく、授業外でもメールなどで随時受け付けます。	
成績評価の方法 期末試験50%、中間課題50%	
その他	

科目ナンバー：(PE) LAW111J	
法律学概論	2単位
	1年次
市川直子	
授業の概要・到達目標 《授業の到達目標及びテーマ》 日本で現在効力をもっている法律はかるく1,000を超えますが、それらは一定の秩序にしたがって体系化されています。 この授業では、日本のそうした法体系を検証するとともに、日本の国内法体系と国際法との関係についても理解することを目指します。 《授業の概要》 この授業では、各種法律の基本部分を説明しながら、それと国家の最高法である憲法との関係を確認していきます。ついで、国際関係を維持するための条約や国際慣習法に言及します。	
授業内容 第1回：法とは 第2回：憲法と市民法（1）自然人 第3回：憲法と市民法（2）法人 第4回：憲法と市民法（3）法律行為 第5回：憲法と市民法（4）契約自由の原則 第6回：憲法と賠償法（1）契約不履行の賠償責任 第7回：憲法と賠償法（2）不法行為の賠償責任 第8回：憲法と賠償法（3）国家行為の賠償責任 第9回：憲法と社会法（1）個別的労働関係法 第10回：憲法と社会法（2）集团的労働関係法 第11回：憲法と刑事法（1）刑法総論 第12回：憲法と刑事法（2）刑事訴訟法 第13回：憲法と国際法（1）国際機構論 第14回：憲法と国際法（2）／試験 ＊講義内容・順序は必要に応じて変更することがあります。	
履修の注意点 各種法律を日本国憲法と関連づけて説明していきますので、この授業を受ける前に、「日本国憲法」を受講済みであることが望ましいです。	
準備学習の内容 事前に、教科書の該当箇所または配布プリントを読み、次回の授業内容に関する専門用語について辞典等で調べておいて下さい。また、復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むようにして下さい。	
教科書 龜山守夫・市川直子『新現代社会と法』和広出版	
参考書 六法全書	
課題に対するフィードバックの方法 課題についてのフィードバックは、授業時もしくはOh-o!Meijiを通じて行います。	
成績評価の方法 レポート（30％）および期末試験（70％）によります。	
その他 明治大学の各種施設、特に博物館（刑事部門）、平和教育登戸研究所資料館などを訪ねてみて下さい。	

科目ナンバー：(PE) LAW111J	
法律学概論	2単位
	1年次
尾棹司	
授業の概要・到達目標 本講義では、主に法律学の初学者を対象に、法律学の基本的な事項について講義を行います。本講義が法律学の初学者を対象としていることから、無理なく法律学の議論に入れるように、まずは「法とは何か」、「法の仕組み」そして「法学学習の方法」といった法学のトピックから講義をスタートします。その後、憲法、刑法、民法といった、実定法と呼ばれる具体的な法律においてどのような問題が扱われるのか、それぞれの法律の特徴を前提に具体的な事例を検討する形で講義を進め、理解を深めていきます。 我々が生活する現代社会は、様々な利益を有する様々な人々によって作られる共同体であるため、ときにそれぞれの人の利益が対立し、(法的な)紛争が生じます。本講義では、この法的紛争を具体的な事例として検討対象とすることで、そこで対立している利益とは何か、その対立を解消するためにどのような方法があり得るかを整理し、説得的な解決方法を提示することが求められます。 したがって、①法律学の基本的な知識の習得に加え、②具体的な事例を与えられた際、習得した知識に基づいて事例を分析し、解決策を論理的に導けるようになること(論理的思考力)、そして、③その解決策を説得的な形で他者に説明できるようになること(法的コミュニケーション能力)を、本講義の到達目標として掲げます。	
授業内容 第1回 イントロダクション、法とは何か 第2回 国家と法(1)―日本国憲法の基本原理― 第3回 国家と法(2)―基本的人権について― 第4回 国家と法(3)―幸福追求権について― 第5回 国家と法(4)―精神的自由と経済的自由― 第6回 国家と法(5)―国の統治機構― 第7回 犯罪と法(1)―刑法の基本原理― 第8回 犯罪と法(2)―犯罪とは何か― 第9回 犯罪と法(3)―犯罪認定論の役割― 第10回 犯罪と法(4)―犯罪の成立を妨げる特殊な事情― 第11回 財産関係と法(1)―民法・財産法の内容と基本原則― 第12回 財産関係と法(2)―物権と債権、契約の意義― 第13回 家族生活と法(1)―民法・家族法の内容、婚姻と離婚― 第14回 家族生活と法(2)―親子と相続―	
履修の注意点 【講義の進め方】 教員が各回のレジュメを用意し、講義を行います。レジュメは各回の講義前にWeb上にアップする予定です。参加者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加して下さい。(予め印刷して準備する、PCやタブレットにダウンロードするなど、いずれでも構いません。) 各回の講義で取り扱う内容は上記の通りですが、あくまでも予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合があります。変更する場合は、教員が事前にアナウンスします。 講義内容に関する質問は、基本的に講義前又は講義後の時間で対応します。 【注意事項】 参加者が集中して学習できるように、講義中の私語は慎んで下さい。また、水分補給は認めますが、食事は禁止します。	
準備学習の内容 【予習の方法】 各回の講義に参加する前に、教科書の該当箇所を目を通した上で、理解が難しかった箇所についてマーカー等でチェックをして下さい。講義の際は、チェックした箇所について教員の解説を聞いた上で、改めて当該箇所の理解ができたか、確認ができるように準備しておきましょう。 【復習の方法】 講義で使用したレジュメを参照しながら講義内容の復習を行って下さい。とくに、講義内で取り扱った事例については、①その事例の争点とは何か、②その争点を解決するための考え方はどのようなものがあったかを整理するなどして、よく確認できるようにして下さい。 その後、③「その事例について、自分はどのように解決すべきであるか」という課題を設定し、自分の主張とその根拠をまとめておくようにして下さい。	
教科書 『エッセンシャル法学 [第7版]』大谷實編著(成文堂、2019年)	
参考書 以下の2冊は、法学の初学者に向けたものとして参考になります。 『プレップ法学を学ぶ前に [第2版]』道垣内弘人(弘文堂、2017年) 『法を学ぶパートナー [第4版]』武藤真明他(成文堂、2020年) なお、各回の講義内容に関係し、参加者の理解の助けになると思われる参考文献等については、各回のレジュメに記載する形で明示します。	
課題に対するフィードバックの方法 講義内で課題等があった場合には、リアクションペーパーを使用して回答してもらいます。その後、全体の講評を講義時間内に行います。 また、講義内容に関する質問については、基本的に、講義開始前、終了後の時間を利用して受け付けます。その他の方法については、講義内でアナウンスします。	
成績評価の方法 期末試験(80%)と授業への貢献度(20%)で評価します。	
その他	

科目ナンバー：(PE) PHL121J	
倫理学概論	2単位
	1年次
宇田川 尚 人	
授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業では、主に基礎倫理学の立場から、 1) まず「道徳」と「倫理」との違いを明らかにした上で「悪」と「ナルシズム」との関係を考察する。 2) そこから、人と人が社会の中で生きてゆく際の重要な基本概念（例えば、共感可能性・他者の自由の尊重・責任等）が「何故、今、旧来の形ではもはや機能しなくなりつつあるのか？」という問題を提起し、 3) 「登校拒否」「引きこもり」等に見られる傷つきやすい現代の若者のナルシスト的側面と、「いじめ」「ストーカー」から「ナチスのホロコースト」「ユニラテラリズム」に至る「同型性に基づかない他者」への過激な「排除の論理」を分析し、それらに共通する「時代の病巣的特性」を明らかにする。 4) その上で、「悪へと開かれていながらも」善を選び取る人間の良心とその尊厳とは何か？ という問いと、他者への真の責任とは何か？ という問いに、(カント、レヴィナス等の倫理思想を参照しつつ) 答えてゆこうと考えている。 《到達目標》 この授業で学習した倫理的視点に基づき、今日の社会で起こっている様々な問題のいずれに対しても、自分なりの見解を持てるようになること。また授業での思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を倫理的に分析し考察する能力を身につけること。	
授業内容 1) 問題提起 --- 〈道徳〉はあるが〈倫理〉のない日本？ 倫理的〈対話〉の12原則 2) 「やさしさ」vs 真のやさしさ？ 3) 社会に蔓延する「思いやり」という名の「思考停止」システムについて 4) 「いじめ」と排除の論理 5) 自分は関係ない・中立だと思っている「傍観者」に潜む「悪」について 6) 情報化社会が突きつける諸問題 7) 同型性に基づく他者理解とその限界---あるいは「同調圧力」と「承認欲求」 8) 「いいね」（評価）を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく人々 9) ネットの中で、SNSで、増殖する「バーチャルな私」と欲望によって「侵食される自己」 10) 新たな教育論の現場から 11) 理解像の外に位置する「他者そのもの」と私の「内部性=心」 12) ネット社会におけるCritical thinkingの崩壊とCritical emotion 13) 同情とSympathyとMitleid(共苦)の差異 14) SNS時代における新しい「倫理」の役割と教育 --- または生成AIと倫理 ---	
履修の注意点 毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるため、その旨注意すること。 その他の注意点は初回に述べる。	
準備学習の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、 3) 配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。	
教科書 プリントを必要に応じて、配布またはWeb (Oh-of Meiji) 上にUPする。	
参考書 PHP新書 中島義道「対話のない社会」 勁草書房 中島義道「悪への自由—カント倫理学の深層文法」 勁草書房 佐藤義之「レヴィナスの倫理」等 その他の参考文献は授業の中で紹介する。	
課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。	
成績評価の方法 毎回の質疑応答（またはMS Formsでの課題）(40%)と学期末のレポート（60%）で成績を評価する。 また最低三分の二以上の出席と課題の提出を学期末レポート提出の 最低条件 とする。 （但し、駿河台校舎での授業は少人数を前提としている為、学生との話し合いによって平常点のみで評価する可能性が高い） 詳細は初回の授業で報告する。	
その他 特になし	

科目名索引（講義内容・授業計画）

注) I・II…などのローマ数字は一部を除いて省略しています。

	頁		
【あ】		協同組合学	287
アジア政治論	260	教養基礎講座	26
アフリカ政治論	262	近代経済学	241
アメリカ政治論	261	近代経済学史	236～237
アメリカ地域論	317	近代・現代の技術	44
アメリカ文化論	316	金融政策	277
【い】		金融論	277
異文化ビジネス論概論	301	【け】	
異文化摩擦とコミュニケーション	34	経済学史	209, 235
異文化理解とコミュニケーション	34	経済学総合講座経済研究総合講座	222
【う】		経済学特殊講義	325～327, 353～354
運動学演習	120～179	経済原論	210
【え】		経済史	204～206
ACE	49～102	経済思想	215
ACE Academic Training	109～112	経済政策	207
ACE Content-based Study	49～58	経済政策原理	244～245
ACE Exam Skills	93～102	経済政策特殊講義	182～183, 328
ACE General Communication Skills	59～92	経済地理学	279
ACE Presentation Skills	103～108	経済統計学	242
英語	113	経済変動論	243
エネルギーと環境	45	経済法	308
【お】		計量政治学	258
応用数量分析	296	健康・運動科学	118～119
応用総合講座	341～344	言語と文化	25
応用論理学概論	4	現代経済史	239
【か】		現代経済事情	209
外国文学	25	現代経済政策	288
解析学	40～42	現代国家分析	249
開発経済学	290	現代思想	228
科学技術と現代社会	44	現代社会学	263, 264
科学史	42～43	現代社会心理学	264, 265
環境科学概論	45～46	現代心理学	31
環境経済学	293	現代政治理論	228
環境と社会	46	現代日本経済論	274～275
【き】		原典講読	330～341
技術史	43, 44	憲法	186～188
技術の歩み	43	【こ】	
基礎数学	36	公共政策学	299
基礎論理学	3	国語表現	7～18
行政学基礎	193	国際関係史	259
行政情報論	298	国際金融論	278
行政法	272	国際経済学	273
行政理論基礎	193	国際経済史	238
共通総合講座	349	国際経済政策	291
		国際コミュニケーション論	231

国際政治学	250	政治過程論	252~253
国際地域研究基礎論	35~36	政治行動論	258
国際文化特殊講義	47~48, 329~330	政治思想史	224
国際法	271	政治・社会研究総合講座	221
古代・中世・近代の技術	43	政治体制変動論	254
国家論	249	政治体制論	254
コミュニティ福祉論	300	政治理論基礎	190
【さ】		政治理論史	224
財政政策	292	生物の成り立ちと生命現象	46
財政学	208, 295	生命科学概論	46~47
産業心理学	265	生命とバイオテクノロジー	47
産業組織論	276	西洋史概論	358~359
【し】		西洋政治史	227
ジェンダー論	26	線形代数学	37~40
自然地理学概論	360	【そ】	
自治体経営論	248	租税論	294
実践異文化ビジネス論	301	【ち】	
ジャーナリズム論	195	地域行政学	297
社会科学方法論	220	地域研究インターンシップ	350
社会学	194	地域研究総合講座	223
社会経済史	234	地域研究論	217
社会経済思想史	240	地域産業論	283
社会思想史	214	地域情報論	306
社会実習	345	地域振興論	280
社会人類学	270	地域政策論	302~305
社会調査法	266	地域創造総合講座	309
社会の中の科学	43	地域分析法	218
社会福祉政策論	300	地誌学概論	361
社会保障論	286	地方財政論	281
就業力育成総合講座	184	地方自治法	217
生涯スポーツ演習	180~181	中国語	116
消費心理学	266	中小企業論	282
食料経済学	289	地理学	28
人口学	284	【て】	
身体文化論	320	哲学概論	1
人文地理学概論	360	哲学史	2
心理学概論	32	【と】	
【す】		ドイツ語	114
数学概論	37	東欧政治論	263
数理経済学	246~247	統計学	211
数量経済分析	212	東洋史概論	357~358
スペイン語	117	都市行政	251
【せ】		都市行政政策	251
政治学基礎	189	都市空間政策	251
政治学原論	191~192	都市政策	251
政治学説史	224	【つ】	
政治学・社会学総合講座	221	Top School Seminar	352~353
政治学特殊講義	321~324, 352~353	Top School Seminar (Economics)	353~354
政治学説分析	224		

【に】

日本・アジア地域論	312～313
日本・アジア文化論	310～311
日本経済史	213
日本経済思想史	240
日本史概論	356～357
日本事情	346～348
日本政治史	225～226
日本政治思想史	229
日本政治文化論	230
日本文学	19～24
日本民俗社会論	269

【ひ】

比較社会学	268
比較政治論	255～257
表象文化論	320

【ふ】

フィールドワーク論	267
物質と宇宙	45
物質の成り立ち	44
物理学概論	44
物理学概論	45
物理の世界	44
フランス語	115
文化人類学	29～30
文化論概論	33

【ほ】

法学	27
法律学概論	361～362
簿記論	219

【ま】

マクロ経済学	196～199
マスコミュニケーション特殊講義	182, 324～325
マスメディア論	232

【み】

ミクロ経済学	200～203
民俗学	269
民族学	270
民法	216, 306～307

【め】

メディアコミュニケーション論	195
メディアと世論	233
メディアリテラシー論	231

【よ】

ヨーロッパ地域論	315
ヨーロッパ文化論	314

【ら】

ラテンアメリカ政治論	261
------------	-----

【り】

留学基礎講座	185
留学準備講座	185
倫理学概論	363

【れ】

歴史学	5～6
歴史における科学	42
連環地域文化論	318～319

【ろ】

労働経済学	285
ロシア政治論	262
論理学概論	4